

# Pour quoi pas au Niger

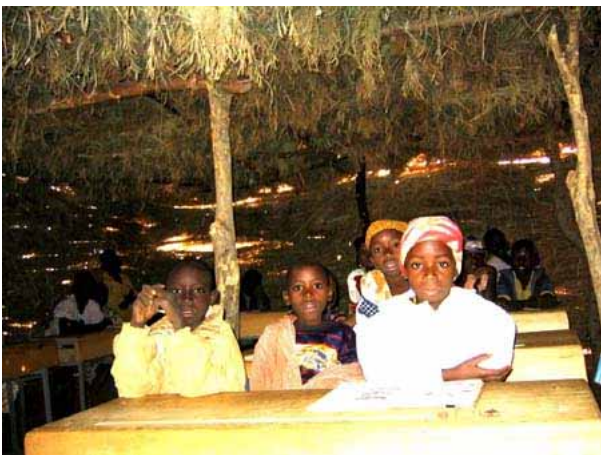
ブルコワ パ オウ ニジェール

～ニジェールに出来ない事は何もない！～

Vol.1 2004年6月号

## みんなの学校プロジェクト、ニジェールより

西アフリカサハラ砂漠の南に位置するニジェールは、国民の60%が一日1ドル以下で生活している世界で最も貧しい国のひとつです。現在初等教育就学率は41.7%（基礎教育・識字省年間統計2002-3年）、すべての子どもたちに教育をという目標を達成すべく、基礎教育・識字省は「教育開発10カ年計画（PDDE 2003-2012）」を策定し、2003年5月には世銀のファースト・トラック・イニシアチブ対象国となりました。「就学機会の拡大」「教育の質向上」「教育行政官の能力強化」を柱とするこの計画に基づき、現在教育関係者をはじめ国内外のパートナーが一丸となり動き始めています。



教室が足りない場合、保護者の協力で建てられる茅葺教室で勉強する子ども達。

## 学校さえあれば、子どもは学校に来る？

就学率向上を阻害している要因は多岐にわたりますが、絶対的な教室数・学校数の不足が大きな一因とされています。しかし、学校や教室が足りていれさえすれば、子ども達は学校に来るのでしょうか？

### ニジェールの場合、答えはノーのようです。

人々は、植民地時代にフランスによってもたらされた公教育に対し、よいイメージを持っていませんでした。中等教育への進学率13%、農業従事者が国民の80%を占めるといふ現状にもかかわらず、学校は1960年の独立後も特に中学校へ進学しない大多数の児童にとって、有効な教育を提供してくれる場とはなりません。

学校は誰のもの？

地域の人々はこう答えます。「地域に在るけれども、私たちのものではない。国のものだ。」と。

学校は地域から隔離されてしまい、間には見えないけれど厚い壁があるようです。

## 地域に在る学校から、地域みんなの学校へ

本プロジェクトの略称は、

Ecole Pour Tous (エコル・プー・トウス)

フランス語で**みんなの学校**という意味です。

プロジェクトの目的は、10カ年計画の中で将来的にすべての学校に設置が義務付けられている学校運営委員会（学校側と住民側の合同委員会）を核に、この見えない壁を取りのぞくことです。

国は学校運営委員会に教育資材の分配や契約教員の雇用等ある程度の権限を持たせ、学校にかかる様々な活動を実施していく過程で親の教育や学校への関心を高め、学校と地域社会との良好な関係を構築することを期待しています。

プロジェクトでは、学校によって解決すべき課題、その優先順位は様々であると考え、各学校で学校運営委員会が中心になって行う一連の活動（問題分析から、学校計画の策定、実施、モニタリング・評価等）を支援しています。また、プロジェクト終了後こそが大切であるという考えから、同委員会を将来的にサポートする役割を持つ地方教育行政官の能力強化にも力を入れています。



保護者会の選挙に集まった住民たち。

## ニジェールの人でさえ、あきらめていたこと

ニジェールの成人識字率は約20%。成人のほとんどが学校になじみがなく教育を受けた経験がないこともあって、学校や教育にあまり関心を持っていません。そんな親たちに学校や教育の大切さをわかってもらうのは大変なことだ、とこれまで多くの人があきらめていました。

プロジェクトが1月に開始し、約5ヶ月。

実は、すでにプロジェクトサイトの多くの学校で変化が見られ、以下のような報告がされています。

これまで学校のために会議を開いても10数名だった参加者が、250名になった。計画実現に向けて分担金を呼びかけたところ計画以上の額が集まった。母親達が女子就学促進チームを結成し、一軒一軒啓発巡回している。

子ども達の安全を守るために学校の塀を完成させた学校、校庭に木陰を作るべく植林をした学校、ゴミ捨て場と化していた学校周辺を大掃除した学校・・・どれも地域住民の協力のもと行われたようです。

地域の人々を動かしたものは何でしょう？

次号ではその秘密に迫ります。

## 編集後記

雨季に入りました。 渴ききった大地は雨をあっという間に吸い込み、翌日にはぐんと背が伸びた緑が美しいです。マンゴがおいしい季節でもあります。待望のニュースレター発行、HPも近日公開予定です。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

発行元：ニジェールみんなの学校プロジェクト

E-mail: Ichida.Yoko@jica.go.jp

# Pour quoi pas au Niger

ブルコワ パ オウ ニジェール

～ニジェールに出来ない事は何もない！～

Vol. 2 2004 年 7 月号

## みんなの学校プロジェクト、ロゴです



「みんなの学校」と題した絵画コンクールに集まった子ども達の作品から着想を得、このロゴは作成されました。プロジェクトの頭文字 Ecole Pour Tous をデザインしたものです。

子どもたちの理想の学校には、井戸や水飲み場などの水場があり、木や学校菜園など緑があふれていました。EとPは、それぞれ水の青と植物の緑。マルチカラーで彩られたTの文字はアフリカの女性の色とりどりの衣装、地域の人々をあらわしています。Tの形は、両手のひらで下から支えているようにも見えませんか？「地域みんなの手で、学校を支えていこう」というプロジェクトの願いが込められています。よく見ると、Tの縦棒の色はニジェールの国旗。地域住民をサポートするのは国の役目である事、またこのプロジェクトが国の教育政策の一環として国とがっちり組んで実施されている事を表しています。

## 地域の人々を動かしたものは？

プロジェクトが開始してから約半年経った今、研修を実施した 171 校中ほとんどの学校で、地域住民の協力のもと、学校計画に基づく活動が実施されています。地域の人々を動かしたものは何でしょう？

それは、地域の人々の中で起こった**学校に対する意識の変化**であるといえるでしょう。学校への固定観念が崩れたのです。地域の人々はこれまで、学校は自分たちのものではないと思っていました。学校は国が持ってきたものであり、学校に関するすべてのことは国が面倒を見てくれると考えていました。

しかし一連の活動を通して、教育や学校の大切さを再確認すると共に、学校は自分たちの子どもたちのものであること、すなわち自分たちの責任下にあることに気づき始めました。そうであるならば、これ以上

国に任せきりで待つばかりなのはやめよう、自分たち自らの手で何か出できることから始めよう、という考えに至ったのです。

## 鍵は、学校運営委員会

どうして短期間で意識の変化が起こり得たのか？

その鍵は**学校運営委員会**（学校側と住民側の合同委員会）という新しい組織にありました。

国は、教育資材の分配や契約教員の雇用等ある程度の**権限を委譲**することを主な目的とし、すべての学校への設置を決定しました。これまで、学校にかかるすべての事が学校側（ほとんどが中央の教育行政）によって決定され実施されていたため、住民にとっては不透明で、それが学校への不信感を助長する原因となっていました。学校運営委員会が決定権を持てば、住民の代表を通して自分たちの意見やニーズを反映させる事が可能になります。

しかしこれまで、学校運営委員会設置にともなう関係者の能力、意識改善のための研修はほとんど行われてきませんでした。権限委譲には、受けて側の受容能力が必要です。そこで、プロジェクトではまず、多くの保護者の意見を反映した効率的な組織を作るため、2回の研修を行いました。



選挙のシュミレーション  
(第1回目研修)



寸劇（女子が学校に行けるよう頑固な村長を説得する話）を熱心に見る参加者  
(第2回目研修)



**「自分たち自身で学校のために何かしたい」と思い、  
「自分たちにも何かできるのではみか」と感じた。**

最初の研修は、タウア県内実験校全 171 校の校長先生を対象に、学校運営委員会の基盤となる保護者会役員の**民主的な選出の重要性**について行われました。多くの学校に保護者会が存在しますが、ほとんどの場合が名ばかりで、機能していませんでした。会長は、代々村の権力者がやっている。地域住民の代表であるはずの役員は、みんなの意見を反映していない。読み書きのできない人が書記や会計の役職に付いている。こういった例は少なくありません。

この研修後、多くの学校で選挙が行われ、民主的な保護者会が誕生しました。この選挙はその過程で、それまで「自分とは関係ない」と考えていた保護者会の意味と役員の役割や、地域住民みんなの意見を反映してくれる人を選ぶことの重要性について学んでもらうことができました。

次の研修は、各学校から選出された学校運営委員会役員を対象に、主に**学校計画の立案**について行われました。学校計画とは、住民総会での合意のもと、学校における問題点を優先度や解決策の実施可能性によって整理し、選んだ活動からなる年間計画です。

この研修や学校計画の実施も、問題を自分たちで考え、実施する過程で、より学校を身近なものにすることができたと思われま



学校のトイレ、半分完成。



各教室に飲料水用の  
水がめ設置

### 無償資金協力ソフトコンポーネントとの連携

プロジェクトが比較的早い時期から活動を開始できたのは、プロジェクトと同じくタウア県に先行して介入していた無償資金協力の小学校建設ソフトコンポーネント（以下、ソフトコン）との連携によるところが大きいのです。

ソフトコンは、西アフリカでは近年小学校建設に付随して行われています。本来の目的は、建設されたものを維持管理できるようソフト面での支援をすることです。ここニジェールでは、維持管理のノウハウを教える以前の段階、住民が「学校は自分たちのものである」という意識を持つことが重要であるとの考えから、ソフトコンの目的が決まりました。本プロジェクトの目的と、方向性が同じでした。

ニジェールでは、すでに教育分野での青年海外協力隊の実績があること、ソフトコンを含めた小学校建設も計画されていたことから、本プロジェクト立案の段階から他スキームとの連携（プログラムアプローチ）を意識していました。検討の結果、プロジェクトサイトを無償資金協力と重ねることに決定。ソフトコンポーネントの成果を活かすことにより、プロジェクトでさらに汎用性の高いモデルに発展させることが可能になると考えました。また反対に、協力期間が最長 1 年と限定されているソフトコンが去った後のフォローも可能になります。

現時点での連携による利点

- ・ 研修モジュール・マニュアルは完成度の高いものが作成されていたため、ベースとして使用することが可能であった。
- ・ 民主的な選出の重要性、活動例等、ソフトコンの経験から学ぶ事が多くあった。
- ・ ソフトコンサイト（プロジェクトサイトの一部）には、すでにソフトコンの活動を通して能力強化されたカウンターパートや教員がおり、特に研修等の場面でキーパーソンとなっている。

プロジェクトでは、3 月末より青年海外協力隊シニア隊員をメンバーに迎えました。過去及び現教育分野協力隊員の経験をプロジェクトにフィードバックする事、また現隊員をサポートすること等、今後の活躍が期待されます。

### 編集後記

雨が降った翌日は、大人も子どもも、みんな畑に出かけます。学校も、もぬけの殻です。雨季なのに、今年雨がなかなか降りません。ここ、タウアではもう 1 ヶ月以上。そこで特別に、雨乞いのための合同お祈りの招集がかかりました。平日・勤務時間内にもかかわらず、みんなモスケ（イスラム教寺院）に向かいました。・・・すると、その日の夜雨が。この一件で、イスラム教人口が増えたとか増えないとかの噂はともあれ、アフリカの奥の深さを再認識したのでした。

発行元：ニジェールみんなの学校プロジェクト

E-mail: [Ichida.Yoko@jica.go.jp](mailto:Ichida.Yoko@jica.go.jp)

[Onoue.Kimikazu@jica.go.jp](mailto:Onoue.Kimikazu@jica.go.jp)





Projet "Ecole Pour Tous"

ニジェール住民参加型学校運営改善計画("みんなの学校"プロジェクト)

# “みんなの学校”だより

## 今月号のハイライト:

**特集:「ブルキナファソに行ってきました!」**

~ブルキナファソ研修報告~

**開発援助世界の常識への挑戦**

**COGESの全国展開について**

## ブルキナファソに行ってきました!

住民参加型学校運営に関する知識の習得とCOGES担当官の運営指導能力の向上を目的として、9月4日から13日の10日間、ニジェールの西隣の国ブルキナファソに行ってきました。参加者は、本プロジェクトのカウンターパートであるタウア県の各視学官事務所のCOGES(学校運営委員会)担当者8名、基礎教育省COGES推進局と計画局から各1名、プロジェクトコンサルタント2名、そして日本人関係者3名(専門家2名、シニア隊員1名)、計16名の大移動でした。研修内容は、ブルキナ基礎教育省との意見交換、住民参加型学校運営プロジェクトの視察、そして団内研修から構成されました。



研修参加メンバー一同

## ちょこっと用語解説

COGES(学校運営委員会)学校運営への住民参加を促進するために創設された委員会で住民の代表と教員とで構成される。

### APP(生産実習活動)

児童一人一人が自分たちを取り巻く地域社会を理解し、卒業後の生活に役立てられる技術・知識を身につけることを目的とした教科。

## なぜ、ブルキナファソへ?

ブルキナファソでは、“コミュニティースクール”と呼ばれる、公立ではないノンフォーマルの各種学校が存在します。そこでは、ユニセフをはじめ様々な援助団体の協力の下、住民参加型による学校運営の試みが長年、行われています。今回の視察ではノンフォーマル小学校、孤児のための職業訓練学校、幼稚園、そして二ヶ国語教育(まず小学校1,2年目でその地域の現地語を学び、3年目以降に公用語であるフランス語を学ぶ)やAPP教育に取り組むNGOの活動現場などを訪問して、地元の関係者や住民と意見交換を行い、彼らの学校運営に対する取り組みについて学びました。

## “みんなの学校”づくりのために大切なことは?

ニジェールで本プロジェクトが強化の対象としているCOGESは公立小学校の学校運営委員会ですが、視察先のノンフォーマルコミュニティースクールでは長年、地元住民によって学校運営がなされており、住民参加型学校運営という点ではニジェールのCOGESと同様のコンセプトであり、学ぶべきものがたくさんありました。例えば、学校運営に関する透明性の確保、教員や講師など地域に根付いた人材の活用、保護者会などの地域のグループによる生産収益活動、コミュニティーリーダーの学校教育に対する理解と行動力、住民に対する継続的な啓発活動、などなど。学校に対する地元住民の信頼を獲得し、学校運営、学校活動に住民を巻き込む、“みんなの学校”にするための様々な努力がなされていることが研修参加者の印象に残ったようでした。

## APP(生産実習活動)の取り組み

APPについても、視察先のコミュニティースクールでは、住民によってAPPの活動内容が決められており、地域のニーズや特色に合った活動が行われていました。孤児のための教育・訓練センターでは、女性グループと一緒に石鹸作りをしたり、長期休暇を利用して男子児童対象のバイク整備研修をしたり、学校終了後に活かせる内容を選択していま



### 二ヶ国語教育の効果

公立小学校では多くの児童たちがフランス語の授業に戸惑い、ついていけないのに対して、1,2年目をまず現地語で始め、3年目からフランス語授業に切り替えることで学習効率上がる。



保護者や学校運営関係者との意見交換のようす



夏休みの間に行われる教員研修では先生たちが自ら三角定規などの教材作りに取り組んでいる。



基礎教育省での意見交換の場では担当者とは熱い議論をかわし、予定時間を数時間オーバー。



住民に対する啓発の寸劇では、マラブー(宗教指導者)も登場し、コーランの一節を引き合いに出しながら、学校教育の重要性を訴える。  
そのほか、住民になじみの薄いフランス語の単語を避け、できるだけ現地の言葉で説明することの大切さについて、メンバーからコメントが出ました。

#### つづき～ブルキナファソに行ってきました！～

した。住民の声を反映させた学校活動は、地域住民と学校の信頼関係を生み、より継続的・効果的な学校運営につながるということが確認できました。また、NGOの協力で行われていた教員研修は、理論と実習を組み合わせたプログラムになっていました。特に実習は、いくつかの活動の中から各地域・学校のニーズに合った活動を教員自身が選択できるように構成されていました。各実習に対しての手引書も工夫されており、参考にすべき点がたくさんありました。

#### 団内研修～シュミレーション

今回の研修では、参加者に住民参加型学校運営の実際の成功例を見てもらい、その刺激が消える前に、実際の学校運営指導演習をメンバー内で行うという方法をとりました。視察先の事例を見て、「よかったね、素晴らしいね」で終わり、後に何も起こらない研修にならないための工夫です。当初から土日の休みも設定しておらず、研修参加者たちは愚痴をこぼしつつも、視察で得た知識を、団内研修ですぐ応用するなど、日ごろない高いモチベーションで研修に取り組んでいました。団内研修では、「実際にすぐ使える」シミュレーション方式で行いました。この方式の利点は、参加者の研修への参加がより深まり、注意力も増すことです。シュミレーションのテーマは「COGESメンバーの民主的選挙」、「学校活動計画の策定」、「就学率向上のための啓発」で、実際に彼ら自身がニジェールに戻って学校教員や住民に対して実施する研修のテーマです。また、教員管理、財務管理の手法、APP計画作りなどについても議論が交わされました。このように視察と室内研修の組み合わせは、相乗効果を生み、大変効果的でした。

#### まとめ

ブルキナファソはニジェールと国状も歴史にも様々な共通点があり、その隣国でより身近な事例を目の当たりにして、自分たちにも出来るということが実感できたことは、参加者に大きなプラスとなりました。さらには、現在、自分たちが関わっているCOGESという地方分権化政策においては、あきらかにブルキナファソより先んじていることが明らかになり、自信も付けることもできました。研修内容と研修生のモチベーションの高さとシミュレーションの完成度から、この研修の最大の目的である「ブルキナファソで行われているすぐれた教育分野住民参加型プロジェクトから住民参加型学校運営手法を学び、COGES担当官の運営指導技術を向上させること」達成できたと思います。このようにニジェールで初めてCOGES担当官が、COGESに関する運営指導員として養成されているという事実は、今後ニジェール政府がCOGES政策を自ら推進していく上で大きな意味をもっています。また、この研修には中央省庁におけるニジェールのCOGES政策の責任者が参加しており、すべての研修において、この責任者の意見を取り入れることにより、本プロジェクトの内容がさらに、ニジェールのCOGES政策のパイロット役としての重要性を増すことになりました。

## 開発援助世界の「常識」への挑戦

開発援助関係の人たちと話をしていると、「近代的な選挙の導入は、伝統的な村落構造を破壊する」、「住民参加には時間がかかる」とか、よく耳にします。この「常識」からみると、本プロジェクトの実施計画は少し無理があるように思われるかもしれません。

本プロジェクトはニジェールのCOGES（学校運営委員会）政策を支援することを計画の大きな柱としています。そして、このCOGES政策では何千もの民主的で機能するCOGES事務局を選出する必要があります。さらにこの事務局を通して短時間で学校運営への住民参加を図らなければなりません。したがって、本プロジェクトでは、計画を始めるにあたって、開発援助世界の「常識」を疑ってかかることから始めました。確かにニジェールの農村のような非識字率が高く、伝統的な社会構造が出来上がっているところにいきなり、近代的な選挙を持ち込むことは、争いを巻き起こす危険があります。ではどうするのか、その争いを未然に防ぐ措置を取ればいいのではないかとプロジェクトスタッフは考えました。具体的には、選挙を準備する校長に、選挙を行う前の村長や村の権力者、すでにある保護者会役員への根回しの具体的なやり方を教える実際の場面を想定したシミュレーションを研修の中に組み込み、選挙がスムーズな形で行われるようにしました。結果は、選挙を予定していた171校すべてで、問題なく選挙が行われました。

その次の問題点は、短時間でどうやって学校運営への住民参加を図るかということです。本プロジェクトが導入した学校活動計画は、PCMを単純化したものです。果たして住民の教育レベルが高い国で住民参加に有効なPCMのロジックが、非識字率80%以上のニジェールの農村地域住民に理解されるのか、それは大きな挑戦でした。解決策としてプロジェクトで考えたのは、どうやってフランス語で説明された学校活動計画の意義やその策定過程を非識字者に説明するかということです。そこで、学校活動計画で使われる用語を厳密に現地語に置き換えるために、経験豊富な啓蒙員に多くの時間をかけてもらい、研修を現地語で行うシミュレーションをしてもらいました。この結果、現地語であいまいになりそうな部分や、現地語に翻訳が難しい言葉の説明がうまくできるようになりました。この研修には多くの非識字者が参加しましたが、研修後のアンケートでも研修内容は分かりやすいと好評でした。結果として研修を行った171校に対し、学校活動計画策定のための住民集会在数多く開かれ、井戸の建設、校舎の改修、植林など、学校の教育環境を改善するための活動計画が平均3~4立案、実施され、その実施予算は15万CFA以上（約3万円・・・現地契約教員の4か月分の給与に相当）に及びました。この成果は、ニジェールの基礎教育省にも認められ、本プロジェクトの方式で、他県でも研修が行われます。

ニジェールのCOGES政策では、今後、住民に学校運営の責任をより持たせるために、住民による教員や学校運営費の管理に関する権限を委譲します。これは、先進諸国や南米では成功した例もありますが、アフリカでは一般的に就学率、識字率が低く、実施が難しいといわれていた政策です。今後、プロジェクトでは、この政策のパイロット役として、「常識」に挑戦します。





## 全国的に動き出すCOGES

タウア県内の171校のCOGES指定校を対象にして2004年1月に始まった本プロジェクトはCOGESメンバーの民主的選挙、学校活動計画の策定・実施においてすでに予想を超えた成果をあげており、本プロジェクトの成り行きは常に中央の基礎教育省や他の援助ドナーから脚光を浴びています。本プロジェクトの成果を踏まえて、政府は隣県のマラディ県で同様のCOGESに対する研修をユニセフの協力の下で開始しました。これらの研修では本プロジェクトが作成した研修マニュアルが採用され、研修講師とし

て、本プロジェクトのパートナーである現地NGOのONENのスタッフが派遣されました。国が定めた計画では今後、COGES指定校を毎年1000校ずつ、2005年までに3000校まで増やすことになっています。それに伴い、政府は今後、他の県でも同様のCOGES支援を計画しており、各国のドナーの参入計画され始めています。これら、ニジェールにおけるCOGES政策の道先案内人として、本プロジェクトの果たす役割はますます重要になってきています。

## プロジェクト今後の動き

ニジェールの小学校では10月から新学期が始まります。それに合わせて、プロジェクトでも盛りだくさんの活動が予定されています。

プロジェクトではいよいよパイロット校20校に対する支援が始まり、これら20校についてはこれまでの民主的選挙研修、学校活動計画研修、APP計画研修に加えて、教員管理や財務管理の研修およびきめ細かなフォローアップなどCOGESによる学校運営を重点的に支援していきます。一方、これまで研修を実施した

COGES対象校171校及び、タウア県内で今年度新たに追加指定される約200校に対するフォローモブルキナ研修でパワーアップしたCOGES担当官を通じて行っていきます。9月28日、30日にはパイロット地区を含めた3つの地区でCOGES選挙研修を行いました（詳細は次号で報告します）。

また10月から5ヶ月間、啓発活動分野の短期専門家が着任し、様々な啓発ツールの開発を行う予定です。

## “みんなの学校”プロジェクト 10・11月の主な予定

10月1日: チーム1会議

10月12日: 短期専門家(IEC)着任

10月中旬・下旬: COGES選挙実施フォローアップ

10月21,22日: 本邦研修参加者帰国報告会、APPワークショップ

11月1日: チーム1会議

11月上旬: 学校活動計画作り研修及びフォローアップ

11月中旬: 教員管理マニュアル作成ワークショップ、パイロット校対象参加型ベースライン調査



## 編集後記

本プロジェクトが展開しているタウア県は、ニジェールの比較的北部にあるため、乾季は、岩や砂漠のモノトーンの世界が広がっています。それが、6月半ばから始まる雨季には、一雨ごとに緑が増え始め、本格的に雨が降る8月になると、緑一色の世界に変わります。草木がない茶褐色の世界が、生命力の溢れる

緑の世界に変わる季節は、すべての生命に力を与えます。7月まで様々な活動で少し疲れ気味だったプロジェクトスタッフも、この生命の季節に力を得て、10月から新たなスタートを切ります。その活動の様子は次号でご報告しますので、ご期待下さい。

プロジェクト通信  
“みんなの学校”だより  
発行日: 2004年10月1日

編集・発行:  
ニジェール  
住民参画型学校運営改善計画  
 (“みんなの学校”プロジェクト)  
Projet “Ecole Pour Tous”  
B.P.165 Tahoua, NIGER  
TEL/FAX: +227-610571  
E-mail: eptjica@intnet.ne



# みんなの学校だより vol.4



ニジェール住民参画型学校運営改善計画(“みんなの学校”プロジェクト)

今号のハイライト:

新しいCOGES誕生!  
APPワークショップ実施  
COGES設置状況  
プロジェクトスタッフ紹介

2004年11月30日発行

2004年10月~11月

Vol.4

活動報告

## 新しいCOGESが誕生しました!

(コジェス = 学校運営委員会)

プロジェクトでは、9月末に新しくCOGES校に指定された77の小学校の校長に対してCOGES事務局メンバー選出のための研修を行いました。研修後、研修を受けた校長が各学校に帰り、まず民主的な保護者会メンバー選出のための選挙を組織し、選挙を行い、14名の事務局員を選出しました。選出された委員は、3名をCOGES事務局への代表として選び、この3名の他に、母親会から1名、教師から1名と校長が加わり、6名によるCOGES事務局が誕生しました。

COGES事務局の特徴は、その過半数を保護者会と母親会から選ぶことにあります。これは、学校運営により多く保護者や母親の意見を取り入れるためです。しかし、法令では、民主的なCOGESの選出を規定していますが、その事務局の中核になる保護者会事務局の民主的な選出には触れていません。プロジェクトでは、この保護者会の選挙こそ重要であると考え、COGES事務局設置の前に、保護者会

選挙を行うことにしました。この考えには、他のドナーも、ニジェールの基礎教育省内部でも、農村部における非識字率の高さや、形式的に存在する村の権力者になる保護者会からの抵抗などを理由に否定的な意見もありました。しかし、今年前半に選挙を行った171校では、いくつかの例外を除いては、問題なく選挙が実施されました。



タウアコミュニのCOGES代表者ら。参加型ワークショップにも積極的に発言や議論が飛び交い、ラマダン中にも関わらず充実の2日間。

プロジェクトがこの選挙を様々な反対意見にも関わらず行った目的は、保護者会をその役職ごとの適正を明らかにした上で選出し、機能する保護者会、COGES事務局を生み出すことでした。この選挙が行われる前の保護者会は、その事務局長も村の有力者が選挙もなく選ばれている場合が多く、書記係は字が読めず、会計係も計算が出来いような例もあり、機能していませんでした。また保護者会、事務局が保護者からお金を集める場合でも、その用途があきらかにされず、運営が不透明な場合も多くあったようです。このような不正に対し、今回の保護者会選挙をきっかけとして、村の権力者からなる保護者会事務局が、保護者により共益費使途不明を糾弾され、選挙では、古い権力者の保護者会委員が敗れ、新しい委員が選出された学校がありました(P3に詳細)。ま

た、男性優位のニジェールでは起こりにくい女性保護者会会長が誕生した保護者会もありました。このように劇的なことが起こらなかった学校でも、選挙をきっかけとして、多くの保護者が、保護者会や学校の存在やその意義を再認識しはじめました。このことは、この選挙に引き続き、行われた学校活動計画への積極的な多くの保護者の参加という形で証明され、民主的で機能的なCOGES事務局を創設するというプロジェクトの目的は達成されました。プロジェクトが行ったこの保護者会選挙の意義が認められ、新しくCOGESの研修を行おうとしている他のドナーも、この選挙を取り入れるようになりました。ニジェールの基礎教育省もその導入を検討しています。(H)



日に日に力をつけていくCOGES担当官たち堂々たる研修ぶりで指導力を発揮





プロジェクトに欠かせない賑やかムードメーカー  
斉藤由紀子シニア隊員 APP担当

## ニジェール初！

# APPワークショップ開催

2004年10月21日～22日の2日間

にかけて、APPに関わるワークショップを開催しました。本プロジェクトは、住民の学校への参画を促す1つのツールとしてAPP(生産実習活動)教科の充実を挙げています。現在までにAPP活動計画研修、APP活動のモニタリング、巡回、ニジェール人関係者3名の本邦研修への派遣の活動を実施してきました。今回のワークショップは、これらの活動の中から浮かび上がってきたAPPの問題点・改善点を踏まえ、中央及び現場レベルにおけるAPP担当者、指導者、指導経験者に集まっていたいただき、それぞれの立場からニジェール国におけるAPP現状、問題点及びAPP

の可能性について意見を出して議論することで、今後のパイロット校(コンニ郡)での継続・実現可能なAPP活動の参考にすることを主な目的としました。

ワークショップは、第一日目にAPPの現状・体験談等をそれぞれ参加者に自由に話し合ってもらい、二日目にそれを基にテーマを設定し、二つのグループに分かれ今後のAPPの充実のために意見・提案をするという形式を取りました。参加者



### 炸裂するワークショップ

議題は「継続可能なAPP活動はどのような目的でどのように行われるべきか？」

の役職層が幅広いことが、当ワークショップにどのように影響するか不安でしたが、当日はそれぞれの立場から現状・体験談が豊富に出され、意見交換・情報交換の場としてとても有効でした。その中でも、APPを実際に行なった教員による経験談は、具体的なものが多く今後の活動の参考となる意見が数多く出されました。いくつかご紹介しましょう。

APPは、先生よりも児童生徒が主体となって、責任を児童に与えた上で行なうと効果的。  
他のプロジェクトの活動も参考になる面が多いので見学等を行ない、活動していくほうがよい。  
現在のAPP教科は内容が幅広く定義が不明確であるため、APP実施の有無は、教員の意欲・やる気に左右されている。  
保護者に対して、APP実施の意義について十分説明を行えば、協力を得られないことはない！  
APPの活動に対しても、通知表に反



ユニークなAPP活動を紹介  
児童と保護者と先生が協力し合って

## ピーナッツ収穫

コンニ郡 カウアラハッサン小学校

この小学校では、校長先生や地域住民が一体となってユニークなAPPが次々と展開しています。今年6月13日には夏休み前に学校祭を企画して、児童による催しものの発表をしたり、児童による運動会(足を袋に入れて走るゲームなど)が行われるほか、みんなでピーナッツの種まきをするなど大盛況でした。そして、10月20日には、6月に植えたピーナッツの収穫が行われました。この畑は保護者から学校のために提供されており、収穫は児童と保護者、そして地域住民の男も女も大勢集い分担作業をして、たったの数時間で大量のピーナッツを袋詰めにしたのでした。大人の肩ぐらいもある7～8袋のピーナッツは、今後学校のAPP授業で「出荷するための手順や出荷する時期を延ばして値が上がる頃に売する方法などを勉強する」とのこと。校長は「子どもたちが苦勞して育てたピーナッツの収穫金を教室の修復や、児童のノート代として還元できる」と。ピーナッツ栽培の次に今考えているのは、ホ口ホ口鳥の繁殖技術をAPPで児童と一緒にやることだそうだ。  
APPはアイデア次第！





映させないまでも、何らかの評価をすべきである。評価を行うことで、教員の達成感にもつながる。時間割の中で、APP教科の時間は30分間とされているが、実習を伴う場合は時間割内で時間の調整をした方が実用的。

また、参加者から当プロジェクトへの提案として、「地域住民の経験者を巻き込んだAPP活動の実施」「児童・教員・住民に対するAPP活動の啓発運動(展示会・討論会・写真展等)」「研修の実施」という大枠を決定する内容に留まりました。しかしながら、今後の活動への方向性が明確になったことは、大きな収穫でした。

今回のワークショップ開催は、いろいろな立場でAPPに関わる人々と一同に会し、同じテーマについての話し合いが出来たことが、今後の活動における意見統一を図る上でも、とても有意義だったと実感しています。これらの結果に基づき、現在、第一回目のAPP教員研修を計画中です。この研修では、APPの意義や効果を具体的に説明し、「APPを実際に実践してみよう! 試してみよう!」と先生方が自ら意欲を持ってもらえるような内容にしたいと考えています。12月中旬の実施に向け、試行錯誤中です。

乞うご期待!

## ちょこっと用語解説

**COGES (学校運営委員会)**  
学校運営への住民参加を促進するために創設された委員会です。住民の代表と教員とで構成されます。

**APP (生産実習活動)**  
児童一人一人が自分たちを取り巻く地域社会を理解し、卒業後の生活に役立てられる技術・知識を身につけることを目的とした教科。

## 学んだ事

### 「旧保護者会長」と「新保護者会会長 (= 新COGES代表)」の間で選挙無効の議論起こる



新COGES代表と旧保護者会長を交えてタウアコミュニケーション視学官事務所での話し合い。(向かって右から旧保護者会長(白ターバン)、新COGES代表、LC、COGES担当官)

10月28日、タウアコミュニケーションCOGES担当官が突然プロジェクトオフィスにやってきて、「大変なことになるかもしれない。すぐ視学官事務所にきてくれないか。」というのだ。問題はというと、タウア市内の小学校でCOGES代表が選挙で選出されたのだが、保護者会代表だった者が選挙結果を不服として、選挙は無効だったことをタウア県知事に直訴しに行ったのだ。蓋を開けてみると、旧保護者会長は県知事の政党员で、県知事が選挙の無効に同意したから自分がCOGES代表になるのが当然であるという主張なのであった。

一方、その小学校の校長は、公正な手順を踏んで64人の当学区の住民が投票し、そして新COGES代表が選出されたと主張した。また、「小学校の元保護者会代表といえども、彼には学校に通っている子供がいるわけではなく、十数年その学校の保護者会代表をしていた。この学校の保護者らは、旧保護者会長のこれまでの行いに対し不信感があると言っている。」というのだ。

ここで学ぶべきことが多くあった。実際このようなケースはこれから幾らかあるかもしれないが、それをどうやって乗り越え、問題解決のための議論と行動を起こすことを、我々プロジェクトスタッフだけでなく、COGES担当官や視学官が学んだということだ。

数時間に及ぶ議論ののち、再選挙を行うことを両者納得の上、学区の住民にアナウンスすることにした。すると、事の重大さを受け止

めた200名近くにも及ぶ大勢の住民が学校に集い、これまで議論されてこなかった保護者会長の役割、COGESの役割について皆で議論しはじめたのだ。中には「学校に政治を持ち込むべきでない」という意見が活発に飛び交い、住民が行う学校運営について住民自身が再認識する場となったのであった。COGES担当官も今回の事件を「難しかった」といい、また「結果的には、これでよかった。今まで無関心だった住民が、学校運営に対する関心を増した」とポジティブな意見を述べた。

その一週間後、前回の選挙投票者64名の倍以上の投票者数により、再度立候補者を募り、COGES代表者選出の選挙が行われた。結果、旧保護者会長は住民からの支持を得ることなく、新COGES代表(前選挙で選出された者)が正式に再選された。この一連の出来事は、COGES代表の民主的選出の意義を見出した教訓であった。

本案件パイロット校は20校なのに

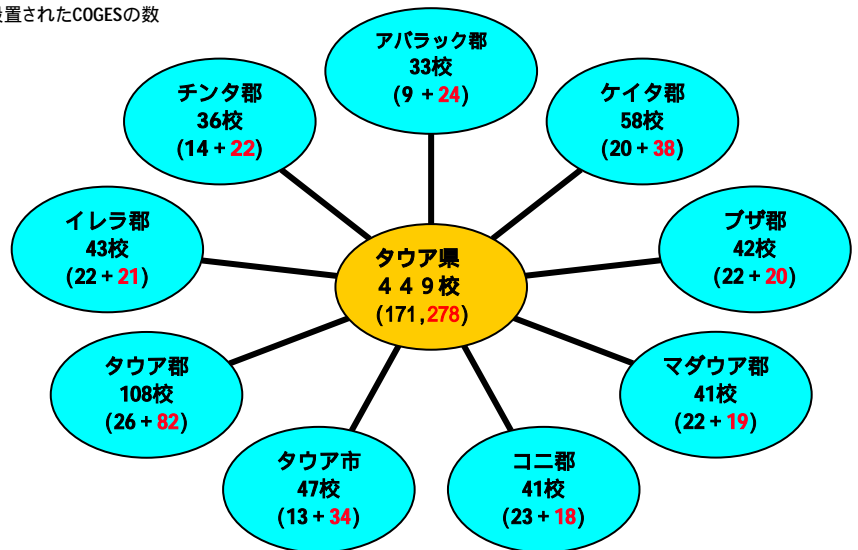
# プロジェクト対象校が300校以上ある理由

COGES政策のパイロットとしての「みんなの学校プロジェクト」



タウア県のGOGES校の設置状況(2004-2005)

赤字は2004年10月に追加設置されたCOGESの数



## 本プロジェクトが実施されているニ

ジェールを始め、近隣国であるブルキナ、マリなどには、他ドナーやNGOや行っている学校運営に関する住民参加促進を目的としたプロジェクトが多数あり、その中には大きな資機材の投入をしないで、住民の努力による校舎建設やその他学校環境の改善などで優れた具体的な成果を上げている例もあります。本プロジェクトでもその手法の一部を学んでいます。しかし、それらのプロジェクトの手法や成果は、他の地域や国家レベルへの応用が出来ない場合が多いようです。その理由は、それらのプロジェクトのほとんどは、コミュニティに対する直接的な資機材の投入が少ないとしても、多大なモニタリングの労力とリカレントコストを払って援助効果を上げているからです。具体的な例では、プロジェクトが雇用し、訓練したモニタリング専門の人材を複数、村に常駐させ、あるいは地方行政官をモニタリング使う場合でも、特別な移動手段と、正規の給与以外の多大な報酬を与え、モニタリングを充実し、このモニタリングにより住民のモチベーションを維持し、成果を上げているのです。このような方法は、人的、財的リソースの限られた国においては応用できず、普及モデルを提出することは出来ません。

## 「みんなの学校」プロ

ジェクトは、ニジェール政府から、パイロットプロジェクトの役割も期待されています。この観点から、プロジェクトは、今年度、前半のパイロット校を決定するために前年度のCOGES校

171校の支援を通し、限られた地方行政官のみでのCOGESモニタリング、管理の困難さを痛感し、本来予定されているパイロット20校のみでの経験では、将来的にニジェール全国に応用できるCOGESモニタリングシステムを提示できないと判断しました。そこで、タウア県のCOGES171校(今学期はさらに150校程度)に対するモニタリングを行う9名のCOGES担当官の支援を継続することとし、将来的にニジェール7000に及ぶすべての小学校に設置されるCOGESを、全国の45名のCOGES担当官とそれを統括する9名の県教育事務所COGES担当官のみでモニタリング、管理できるシステムの構築を目指すこととしました。さらに、本プロジェクトでは、現在の活動が普及モデルとなるよう、できるだけ、研修の内容を合理化し、研修日数を減らし、COGES担当官

を研修の講師として養成し、活動コストの削減を図っています。また少数の人数でCOGES情報管理ができるよう、情報管理プログラムを作成し、最近すべての視学官事務所に導入されたコンピューターを使い、情報管理システムの確立を行います。今後の本プロジェクトにおけるパイロット校とCOGES対象校の関係は、パイロット校実証された活動を、対象校で普及モデルになるよう改良し、実施していくということになります。具体的には、今後COGES(住民)に委譲される権利、例えば学校運営費や契約教員の雇用管理などについてのCOGESの能力強化やシステム作りなどを行い、その研修やシステムを普及モデルとして改良し、実際に他のCOGES対象校に普及していきます。(H)

## プロジェクトサイト タウア県のCOGES担当官9名 + 司令塔

タウアでは次々とCOGESが新設され、巡回監督業務も急ピッチ！  
プロジェクトをがっちりと支えてくれる我らのヒーロー達です。

### タウア郡



問題解決の名手、いつもダンディーなアワイスさん

### タウア市



日本研修帰りで益々軌道に乗って学校を巡るアリさん

### タウア県中央COGES司令塔



全タウア県COGESを総括するザカリアさん。自ら村を巡回し住民と真剣に向き合う真摯な姿勢が皆の厚い信頼を得ている。

### チンタ郡



広大な土地を颯爽と駆け巡るイブラヒムさん。只今トアレグ語(タマシェク)の特訓中。

### アバラック郡



ロールプレイをさせるとジョークもピカイチ、ラクダも使いこなすアティクヌさん。

### イレラ郡



高いところに手が届く我らのお助けマン、心優しいハルナさん

### コンニ郡



本プロジェクトサイトのCOGES担当官、芯が強くちょっとやさしくとじゃ転ばないサリフさん

### マダウア郡



泣く子も黙る我らのヒーロー、アリドッカさん

### プザ郡

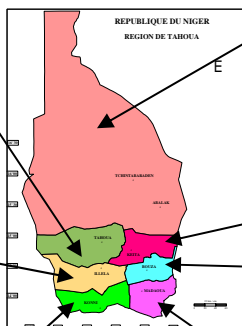


僻地のガタガタ道をものともせず駆け巡る頼もしいハミドゥさん

### ケイタ郡



COGESの研修を担当しはじめてからめっきり貫禄がでてきたモハメドさん。58もの学校を巡回！劇では婦人役が大得意。



## ただいま参加型ベースライン調査実施中！

プロジェクトのパイロット校21校に対する参加型ベースライン調査が11月中旬から開始されます。今回のベースライン調査は、各学校のCOGES事務局メンバーが主体となって実施する参加型の調査です。参加型で行う理由は、プロジェクト関係者が学校運営における現状を知ること以上に、COGES及びコミュニティーが学校

活動計画を策定するにあたって、まず彼ら自身が学校を取り巻く現状を把握しておく必要があるからです。11月4日にCOGES事務局メンバーを対象にした参加型調査の研修を行い、11月下旬にかけて、調査を実施します。調査の結果は、次号にて報告予定です。(O.K)

### 2005年に向けて一言！

#### 原専門家

「Power to the COGES! Power to the People! Future to the Children!!」

(COGESにパワーを！人々にパワーを！子供たちに未来を！！)

#### 尾上専門家

「いちクリック入魂！」「朝から晩までAPP！」「年末年始も啓発活動！」。。と、個性的な4人です。

#### 齋藤シニア隊員

#### 藤田短期専門家



## プロジェクト カレンダー

### 2004年10月～11月

10月1日: チーム1会議  
10月12日: 短期専門家(普及戦略)着任  
10月中旬・下旬: COGES選挙実施フォローアップ  
10月21,22日: 本邦研修参加者帰国報告会、  
APPワークショップ  
11月1日: チーム1会議  
11月上旬: 学校活動計画作り研修及びフォローアップ  
11月中旬: 教員管理マニュアル作成ワークショップ、  
パイロット校対象参加型ベースライン調査

### 2004年12月～2005年1月

12月7日: チーム1会議  
12月8日: バイク保守点検講習  
12月9日～: COGES代表選挙研修  
1月3日: チーム1会議  
1月4日～5日: 啓発活動研修  
1月14日: プロジェクト合同調整委員会  
1月24日: 住民による契約教員管理研修

### 新入り短期専門家のひとこと

**ま** た変えますか!? と突っ込みを入れられそうですが、今回から紙面をガランと変えてしまいました。本プロジェクトに参加してはや一ヶ月、普及戦略の短期専門家として2005年3月迄お世話になります藤田です。どうぞ宜しくお願いします。

何を普及するのかと申しますと、まず一つ目のタスクとして、プロジェクトサイトで現に着々と進行中のCOGES機能の充実化・継続化支援とそのフォローアップ政策の広報です。今後全国展開するCOGES新設にむけ、お手本となる本プロジェクトの支援体制や研修内容、成果の広報に努めます。そして第2のタスクとして、プロジェクトサイトのCOGES担当官がCOGES機能を活発化且つ継続化するための啓発活動の能力向上です。第3のタスクとして、COGES自身が地域住民と協力して、地域の学齢児童を持つ保護者に対して就学促進のための啓発活動を支援することです。現況は、COGESが設置されて間もない地域ばかりなので無理もないのですが、就学促進のための啓発活動をやったことがないとのことでした。「子供を学校へ連れて行こう」というメッセージだけでは人の行動の変容に影響を与えることは到底無理だし、これまでの失敗例を見れば一目瞭然。人の行動に変化をもたらす普及戦略とは一体どんなものか? 次号に戦略を紹介します! 乞うご期待。

(不休に普及の短期専門家の藤田)

## プロジェクト・ロゴマーク 小学生コンテスト 優勝者発表!!



次号には、この  
ロゴ・マークの  
作者のウセイナ  
さんにも登場し  
てもらいます!

この作品を書ってくれたのは、マダウア郡のアガデスタウア小学校5年生(CM1)のウセイナさんです。たくさんの応募の中から見事一位得票で選ばれました。コンセプトは「知識を表す目、そして地域住民みんなで支える学校」だそうです。



上記の作品をもとに  
このようなロゴが完  
成しました。



新ロゴです!

裏話・・・実は、教育省のCOGES担当官から「COGES政策のロゴマークの制作に協力してくれないか」との相談がありました。そこまで我々のプロジェクトができてしまっているのか、と思いつつも、だったらチャンス、広報担当としては、やらないわけがございません。我々プロジェクトのロゴとCOGESロゴに類似性を持たせようと思案中です。次号、ロゴマークの裏話の続きをお知らせします。

### みんなの学校プロジェクトホームページ

<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>

### みんなの学校プロジェクト

宛先: Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER

電話: +227 - 610 - 571

FAX: +227 - 610 - 571

地方都市のタウアは、首都ニアメチから600km 車で約7時間

## 編集後記

10月～11月もいろんな事がありました・・・

9月にブルキナファソ研修から帰ってきてからも休む暇もなく、COGES新設校の代表者選出ための選挙研修と選挙の実施、APPワークショップ開催、COGES学校計画研修を3郡で実施、契約教員管理ワークショップ、そして学校計画のフォローアップなどなど。COGES担当官たち

も毎日のように農村の学校を巡回し、ラマダン中にもかかわらず誰一人ダウンすることなく、プロジェクトの進捗状況も順調そのものです。・・・とはいえ、学校のストライキは依然と続き、いつになったら新学期が開始されるのかはアッラーの神のみぞ知る。11月16日のニジェル大統領選挙、ラマダン明けのお祭りなども重なり業

務予定の変更も余儀なくされましたが、それでもズンズン突き進む我ら「みんなの学校プロジェクト」。2005年も目前、来年も皆様のご支援よろしくお願ひいたします。

プロジェクトメンバー一同



## 巻頭言 プロジェクト開始後 一年経過!

**本**プロジェクトは、開始されてから、2005年1月1日でちょうど1年が経過しました。この間、プロジェクトが支援したCOGES(学校運営委員会)強化を対象とした研修が延べ65日間行われ、これらの研修にタウア県329校の校長及びCOGES委員1719名が参加しました。また、プロジェクトはCOGES支援体制の一環として、COGES連絡会議を12回、視学官会議を1回、COGES担当官能力改善研修を3回、ブルキナファソ参加型手法研修をCOGES関係者(COGES監督官、COGES担当官)に対して10日間実施しました。プロジェクトの成果としては、すべてのプロジェクト対象校において、COGES委員が民主的に選出されたこと、COGES学校活動計画が作成、実施され、多くのコミュニティーの資源が動員されたこと、COGES担当官のモニタリング能力、研修講師としての能力が改善されたこと、研修のために作成した研修マニュアルが、ニジェールの正式なCOGESマニュアルのベースとなっていることなどが挙げられます。この他、APPセミナーを開催し、今後のプロジェクトとしてのAPP活動の指針を明確化した他、住民参加型啓発活動研修も2004年度に導入されたCOGES選定校において行い、今後の新しい啓発活動の方向性を切り開きました。

この一年の活動を通し、ニジェールの農村コミュニティーは、学校活動計画の実施とその資源の動員で大きな力を見せ、行政側にニジェールの住民

にも学校運営に関して大きなイニシアチブと力があるということを感じかせました。これは、プロジェクトがなし得た一つの成果です。

また、COGES担当官は、多くのモニタリングや研修を通し、自分たちが本当にCOGESを支えているという自覚と自信を持ち始めました。これも、プロジェクトにとって一つの成果です。しかし、プロジェクトにとってもっとも大きな成果は、多くのCOGESの代表が、「学校のことは、自分たちに出来ることがわかった」と語り始めたことです。COGES

や保護者、地域住民が「自分にも達成できる」という自信を付け始めていることこそ、プロジェクトがなし得たもっとも大きな成果でした。

そして、自身をつけた住民が見せた力は、プロジェクトを実施する側に、非識字率が高い、政府が動かない、学校が始まらない、住民が貧しすぎるなど、プロジェクトの遅れを説明する時によく使われる理由が、実は、自らの努力と工夫が不足していることへの言い訳に過ぎないことを教えてくれました。ニジェールの住民に感謝したい気持ちです。



みんなの学校プロジェクトスタッフ一同、新年満面の笑み、「ラマダン、ストライキ、砂嵐、大統領選挙、どんな障害物もかかってこい!!」チームワーク抜群の私達には前進あるのみ!(撮影:藤田短専)



写真・・・学校活動計画で校庭に67本植林した他、校舎を2クラス増設したマダタ村の小学校。この他、2004年はタウア県のCOGES設置校全校において、一校あたり平均3つの活動を実現し、想像以上の住民のポテンシャルの高さを示した。

今後、本プロジェクトが目指すこと、それは、COGESがその与えられた役割を果たし、今後機能し、ニジェールの教育状況を改善する牽引力となるために、COGESに本当の力を与えることです。現在まで、プロジェクトが支援するCOGESが成し遂げたことは、多くの住民のイニシアチブを引き出し、学校運営への住民参加を促すきっかけを作ったことです。そのイニシアチブを継続させ、大きな力に変えていくためには、COGESの機能を制度的にも人的にも強化する必要があります。人的能力強化は、研修などの働きかけで可能ですが、制度的な強化は、行政の強い介入なしでは行えません。

今、行政は、COGESがその目標である自立的な学校運営を行うために、教材の補助金の管理、契約教員の管理、教科書の管理、教員の出欠の管理などの権限をCOGESに与える必要があります。この権限の委譲については、ニジェール政府自身が、発布した法令の中で、明確に規定していません。問題は、この権限の委譲に筋道もスケジュールも決定されていないことです。

なぜ、決定されないのか、それは、COGES政策を推進し、さまざまな要素を調整すべきCOGES推進室が機能していないからです。なぜ、機能していないのか、それは、COGES推進室に調整する実質的な権限がなく、様々な権限を持った組織が、COGES推進室の構想とは別々に動いているからです。具体的な例として、教材教具を買うためのCOGESへの補助金の例が挙げられます。教材教具の補助金は、COGES校の生徒数分、財務研修が終わったCOGESに対し、出来れば、学期初めに支出されるべきなのですが、実際には、補助金の総額は、生徒数や学校数とは関係なく決められ、支出される時期も財務省の都合により、延期されています。財務研修に関しては、世銀のプロジェクトから支出されますが、研修費用の請求から支出までの手続きが煩雑で、この手続きが数ヶ月かかる場合もあります。したがって、財務研修はいつまでたっても行われず、行われても、補助金はいつまでたっても支払われません。結果として支払われると告知され、銀行口座も開き、補助金を待ち続けている住民は、しだいにやる気をなくしていきます。



このような行政の問題に対し、プロジェクトが出来ることは何か。まず、COGES（住民）に力をつけ、それを行政側に示すことです。つまり、COGESが推進されないのは、住民側の問題ではなく、行政側の問題であることを明確に気づかせることです。第二に、行政側の問題点を明確にし、それを行政側だけでなく、住民や政府に影響力のあるドナーに示し、一丸となり、行政側を動かしていくことです。

今後もプロジェクトは、COGES（住民）の能力向上を支援し、その力に後押しされながら、活動を展開していきます。

## ベースライン調査結果 只今集計・分析中！ 次号にて紹介します。



2004年末にプロジェクトサイトの22のCOGES選定校にて実施されたベースライン調査の分析を只今行っています。

COGES委員が自らの村を対象にアンケート&インタビューをした「参加型ベースライン調査」に加え、全22校で丸一日費やして行われた住民総動員の就学地図や季節カレンダーの作成など、計10日間、炎天下の中みんな頑張り抜きました。右の写真はCOGES委員を中心として、就学地図を書いている風景です。「子供を就学させている家、そうでない家」を書き込むのですが、これをきっかけに、就学の問題のみならず、ニジェールの教育や学校の現状と問題を住民が口々に語り、多くの貴重な議論を生む事が出来ました。



## 「みんなの学校プロジェクトを見ずしてODAを語る無かれ！」

と言い残して帰られた業務監査団の来訪がありました。



プロジェクトサイト校にて就学促進の啓発演劇を鑑賞される監査団一行と笹館ニジュールJICA首席駐在員

2004年12月14日～15日、島田監事がタウア県の本プロジェクトのサイトを訪れました。分刻みのスケジュールの中、プロジェクト事務所にて監査業務、タウア県警察面談に加え、本プロジェクトのサイト小学校を実際に視察され、COGES委員らみずから活動成果の報告を受けました。コンニ郡のカオラアラハッサン小学校では、COGES委員らが住民と共に思案した生産実習活動教科（APP）の小規模牧畜やピーナッツ生産の成果を視されるほか、住民と児童が一緒に行う啓発演劇を鑑賞されました。ニジュールの村落住民のポテンシャルの高さからCOGES政策に対する多くの可能性を認められ、また、住民を中心とした持続可能な本プロジェクトの趣旨に大変共感された様子でした。最後に、「このプロジェクトはODA事業の見本だ！」とおっしゃってくれた事が印象的です。島田監事、私達はまだまだ頑張ります！

### プロジェクト・ロゴマーク 小学生コンテスト 優勝者のウセイナさん & 原チーフ



ウセイナさんの作品をもとにこのようなロゴが完成しました

みんなの学校プロジェクトロゴ



たくさんの応募の中から見事一位得票で選ばれました。コンセプトは「知識を表す目、そして地域住民みんなで支える学校」だそうです。本プロジェクトの原チーフアドバイザーより表彰式が行われました。（ウセイナさんの後ろにいらっしゃるのウセイナさんの小学校の校長先生、とても誇らしげ。）

## 追加ロゴ情報 「基礎教育省の政策ロゴまで作ってしまうのか!？」

実は、昨年末に、ニジュールの基礎教育省のCOGES監督官から「COGES政策のロゴマークの制作に協力してくれないか」との相談がありました。そこまで本プロジェクトがやっちゃっていいの、と思いつつもやらないわけがございません。本プロジェクトのロゴとCOGESロゴに類似性を持たせるため、そして何よりも、プロジェクトのロゴマークを作ってくれたウセイナさんの意思を国の政策にも反映させるため、左図のロゴを基礎教育省に推薦し、採用されるに至りました。



### <プロジェクトの広報戦略>

2003年から導入されたCOGES政策を全国に認知され、普及すれば普及するほど、我がプロジェクトの認知度も上がる、という相乗効果を目指した我がプロジェクトの広報戦略です。

# 学校活動計画の本当の役割



この写真をよくみてください。

上

の写真は、Touba Baggawa

(トゥバ・バガワ)という学校を訪れた時に写したものである。この学校は、ニジェール県タウア郡にあり、プロジェクト事務所があるタウア市から50 km程度離れたところにある。タウア県は、サハラ砂漠に近く、特にこの学校がある地域は、荒涼とした岩と砂の世界が続いている。この学校を訪れたのは、去年の6月で、強い風が吹き、砂嵐がひどい日であった。事務所を出てから1時間ほど走ったところで、単調な岩と砂の風景の中に突然、藁葺きの建物が現れた。それが、この学校であった。学校の中に入ると子供たちがバンコ(土を固めたもの)の椅子と机で勉強をしていた。

この村には、学校がなかった。村の住民は自分たちの子どもに教育を受けさせたかった。そこで、藁葺きで、校舎を作り、基礎教育省に請願し、教師を送ってもらった。しかし、教室には、椅子や机がない。ノートがない。基礎教育省には、それらを学校に供給する余裕がなかった。この時、本プロジェクトが行った学校活動計画の研修をこの学校のCOGES委員が受講した。

研修を受けたメンバーは、住民集会を開き、なにが学校にとって必要なかを議論し、教材と椅子と机を買うという計画を立てた。そしてお金を出し合い、ノートの代わりに生徒ひとりひとりに小さな

黒板を買った。しかし、椅子と机を買うお金がたりない。二人用の椅子と机は、一組2万5千CFA(日本円で約5千円)もする。とても20組も買えない。

そこで、知恵を出し合い、みんなで協力してバンコの椅子と机を作った。そして、学校が始まった。しかし、この学校を訪問した日のように風が強いと、藁葺きの教室は風や砂を防げず、目も開いていられない。そこで、また計画を作り、藁葺き教室の周りに風除けの囲いをした。しかし、せっかく作った学校も、今度は、教員(契約教員)が休みがちで、授業が行われない。そこで、住民は教員が休む原因を考えた。その結果、教員が学校を休む理由は、教員の給与の支払いが何ヶ月も遅れていて、教員が困窮していることが理由であることがわかった。解決策として、住民は食物などを持ち寄り、教員を援助することにした。この援助に応え、教員は、近隣校の教員が3ヶ月もストライキをしているのに、休むこともなく、学期末まで授業を行った。

Touba Baggawaでは、住民が自ら学校を作り、様々な困難を自分たちの力で乗り越えて、子どもたちに教育の機会を創り出した。これは、「みんなの学校プロジェクト」が昨年支援した

171校の学校活動計画の一つの事例であるが、171校すべてで学校活動計画がThouba Baggawaのように大きな成果を生んだわけではない。

それは、それぞれの村や学校に異なった背景がある上、住民の力で解決できる問題は限られているからである。しかし、多くの学校で、学校計画の立案、実施において、驚くようなイニシアチブが見られた。例えば、タウア県のブザ郡のTama小学校の例がある。この地域は、もともと土地が痩せていて、農作物が出来ず、ほとんどの成人男子が出稼ぎに行ってしまう。したがって、学校の保護者会は、ほとんど収入のない母親で構成されており、学校活動計画を作りたくともその財源が集まらない。そこで、母親たちが話し合い、出稼ぎに行っている父親たちに学校活動計画実施のための送金依頼の手紙を書いた。その結果、80CFA(約13万円)の資金が集まり、そのお金で、Tama校児童すべての教材を購入した。

学校活動計画は、学校の問題分析 解決策 優先順位 計画立案 実施 評価というすべての段階で住民参加を促すように作られている。しかし、昨年、プロジェクトが支援した学校で見られた住民参加やイニシアチブのすべてを学校活動計画が創り出した訳ではない。学校活動計画は、すでに潜在的に存在している住民の教育に対する需要やイニシアチブを引き出し、具体化し、実現する役目を果たしたにすぎない。

ニジェールの農村には、目に見えないが、太く、強い、教育に対する需要が地下水のように流れていて、学校活動計画は、この地下水をくみ上げる井戸の役目を果たす。この地下水が限りなく豊富なので、学校活動計画の可能性は無限に広がっている。





# 「住民による住民のための啓発活動」

地域住民による問題分析により立案され実証される住民参加の啓発活動は、その持続性と集中性から、マスメディア戦略以上に効果的である

## 就

学促進の効果的な啓発活動

とは、啓発キャンペーンなどによる働きかけのほかに、「内なる変革」つまり、「学校をよくしよう」という住民による主体的な取り組みと平行に行われなければならない。そのためには、それぞれのターゲットへの効果的なアプローチを明確にし、個々の現実問題に対しての解決策と戦略がCOGESを中心とした住民によって洗練されることが重要なのである。

従来の、中央からの巡回型啓発活動のような「外からの働き」だけでは人的・時間的にも制限があり、また、費用も加わり、啓発活動は持続しない。また、従来行われてきた外部者による啓発活動は、「外部からのメッセージ」でしかなく、真のターゲットに到達しなかった。しかし、住民によって洗練された解決策は、住民によって生み出された「啓発メッセージ」となり、さらに説得力を増して、コミュニティ内へ発信される。コミュニティ内部から発信されるメッセージであれば耳を傾ける地域住民も多い。外部者の声には影響を受けないが、隣人の言っていることには真実味をもって話を聞こうとするのは人間の自然な慣習であり、これは、コミュニケーションの元来の目的である「行動の変容」に最も影響を与える「クチコミ」のちからなのである。

ニジュールでは従来、全ての学校問題や低就学問題が「住民の意識が低いから」とか「啓発の働きかけが少ないから」とひとくくりに片付けられてきた節がある。しかし、就学促進の障壁となる問題は、学校教育に対する「親の間違った考え = 無知」によるものだけではなく、「就学登録が毎年なされていない」、

「校舎、先生の不足」や「現実の生活とかけ離れている教育内容」といった、学校側（行政側）の問題にかかる要因も多いことが、ベースライン調査で明らかになった。参加型問題分析手法で、初めて住民が声に出した「学校の現実」は、貧困の問題、女兒早婚などの文化風習の問題、水汲みなどの子供の労働、先生の不定着、イスラム教育のみ採用、と多岐に渡っていた。これらの現実の問題に対して「教育・識字の重要性」の訴えが主である従来の啓発活動では限界がある。そこで本プロジェクトは、住民が考えるそれぞれの現実問題に対してより一層説得力をもった住民による啓発活動を要すると考えたのである。

昨年から本プロジェクトが実施し始めた啓発技術の研修では、就学の障壁になるコミュニティの問題を自らで把握し、分析、解決策を各コミュニティのニーズに合わせて考えていく過程を重視し、従来の「学校教育の重要性のみの普及活動」の弱点を補う、「就学を促進するための住民参加の問題解決手法」を取り入れた。この手法は、解決策を自分達で生み出していくことによって農民の「メッセージ力 (= 説得力)」を向上させることを成功に導いた。これは、住民の就学促進啓発活動に対するオーナーシップを高め、今後直面するであろう学校に纏わるいかなる問題に対処できる力をつけたことになる。

また、啓発技術の研修では「人中心アプローチ (People Centered - Approach)」という絵の利用法を採用した。絵から読み取れる問題を予め設定せず、住民のリアリティを引き出す教材利用法である。文字の読み書きが出来ない住民達の発言が画然と増し、我々研修を実施する側が考えもしな



絵を利用した「人中心アプローチ」は、途上国で効果が認められ普及されつつある。発言できなかった弱者の声を引き出す効果がある手法である。

### 参加者自ら問題分析と解決策案の提示



かった住民のアイデアを引き出すこととなった。

「入学登録が全6歳児にいきわたらない」「校舎建物の不足」「学校教育内容の不透明」といった問題は、住民は「政府のせいだ」とこれまで言いつづけてきた。しかし啓発技術研修で仕掛けた「人中心アプローチ」によって、COGESメンバーたちは議論に議論を重ね、ついに「COGESの住民への働きかけによって、コミュニティ内で解決策を生む事ができる」という議論に持ち込んだ。この研修を通じてCOGESのメンバー達は、就学の障壁となる問題を認識、分析し、対処策を策定し、より効果的な啓発活動の戦略を練りはじめています。

本プロジェクトでは、啓発技術研修モジュールに加え、非識字者にも利用できる学校改善と就学促進のための啓発活動の研修マニュアルも作成した。

啓発活動に関する活動報告は、次号に続く…



# 本プロジェクトの合同調整委員会

## ニジェール基礎教育省大臣も出席されました



2005年1月14日

### ニジェール基礎教育省にて合同調整委員会

左後より…同省広報官、斉藤シニア隊員、ローカルコンサルタント、タウア県COGES監督官、同省COGES政策官長、タウア県教育局長、SG補佐官、ローカルコンサルタント、井手企画調査員、同省企画官、尾上専門家、左前より…JICA事務所秘書、SG(同省次官)、笹館所長、原専門家  
撮影…撮影時には滅多に微笑まないニジェール人を絶対笑顔に変えてみせる藤田短期専門家

2005年1月14日、この日は本プロジェクトにとってとても大切な行事である「合同調整委員会」が行われた。ニジェール国基礎教育省大臣ハマニ氏、笹館JICAニジェール首席駐在員、ハミス同省次官らに対し、本プロジェクトのチーフ原専門家から、「ニ」国の教育の現状、COGES政策の歴史、プロジェクトの概要、活動内容と成果等の報告が行われた。原専門家は、地域住民のイニシアティブを奨励し続け、住民に意思決定の力を与えることを促進する意義を強調し、2004年には171サイト校全てで実際に学校活動計画が実現した成果を発表した。住民達が誇らしげにCOGES政策がもたらした学校の変化を自ら語るビデオ上映(7分)の効果も加わり、列席された皆が本プロジェクトの邁進する進捗状況を再確認することが出来た。

閉会の辞で、同省大臣は「私は、あなた達がタウア県で行っているプロジェクトの素晴らしい活動とその成果を賞賛し、敬意を表します。この活動を一刻も早くニジェール国内の他県へ広めて欲しい。あなた方の活動が邁進するために基礎教育省大臣課からも全面的に協力したい。私はあなた方のプロジェクトの活動をニジェール国内の他の地域へ展開することを正式に要請します。どうかこの活動を継続させて下さい。(原文直訳)」と述べられた。

## プロジェクト カレンダー

### 2004年12月～2005年1月

- 12月7日: チーム1会議
- 12月8日: バイク保守点検講習
- 12月9日～: COGES代表選挙研修
- 1月3日～4日: チーム1会議  
啓発技法研修(対象COGES担当官)
- 1月6日～7日: 学校活動計画及び啓発技法研修  
(対象COGES委員) チンタ、アバラック
- 1月8日～9日: 学校活動計画及び啓発技法研修  
(対象COGES委員) ブザ、イレラ
- 1月10日: APPマニュアル作成アトリエ
- 1月11日: ドナー会議(契約教員問題)
- 1月14日: プロジェクト合同調整委員会
- 1月24～25日: 住民による契約教員管理研修(コンニ)
- 1月29～30日: APP教員研修(コンニ)

### 2005年2月～3月

- 2月1～14日: 学校プロジェクト要請開始
- 2月15日: 学校プロジェクト要請締め切り
- 2月5日: チーム1会議
- 2月6日～: 啓発活動コンテスト開始(トーナメント)
- 2月10日～: 学校活動計画フォローアップ開始
- 2月16～18日: 学校プロジェクト選考
- 2月19日: 啓発活動コンテスト決勝
- 3月1日: チーム1会議
- 3月2日～: 学校プロジェクト調査開始
- 3月5日: 藤田短期専門家帰国



本誌「みんなの学校だより」に関する皆様のご意見・ご感想を是非きかせてください!

お問い合わせ大歓迎! ご連絡先はこちらです

Rosedesaha@aol.com 或いは Onoue.Kimikazu@jica.go.jp

みんなの学校プロジェクトホームページ(改訂中)

<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>

みんなの学校プロジェクト

宛先: Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER

電話: +227 - 610 - 571

FAX: +227 - 610 - 571 地方都市のタウアは、首都ニアメチから600km 車で約7時間

## 編集後記

ニジェールは今、冬の季節。本当に寒いのです。

今ニジェールは冬。普段は余りの暑さで毛穴は全開でしたので、この肌には十台の気温は激寒なのです。それに加え「ハルマタン」という砂嵐シーズンに突入、現地スタッフは皆ターバン姿、我々日本人スタッフはセーター姿にマスク着用です。それにしても感心したのがタウア県のCOGES委員達。砂嵐がゴーゴー吹き荒れる中、学校活動計画の研修に集合時間前に

キチンと集合しているではありませんか。アフリカン・タイム(=1時間は遅れる)とは無縁の研修プログラムが次々と取り勤められております。

これでもか、これでもか、と突き進む本プロジェクトのスケジュールですが、スタッフ業務は深夜に及ぶ事もあります。コンニのプロジェクト事務所は常に合宿状態。濃いコーヒーを飲ん

でエンドレスの議論が続きます。

年末年始にかけて、カレンダーやパンフレットの広報ツールが完成、配布を開始しました。広報担当としてホッとするのは未だ早い、任期中のタスクはマダマダあるのです。

ああ、やるっきゃない。。。(F)



## 就学促進のための

# 住民主体の啓発キャンペーン

私たちは、あなたに伝えたいことがあります。  
女性だって、生きるために教育を受けることが必要なのです。  
女子の就学率が低いのは、女性が弱いからです。  
この世に、私達に、もう無知は必要ありません。  
私たちを学校へ連れて行くこと、  
それが、お母さん、お父さんに私たちが伝えたいことです。  
時がたち、学校へ行けなかった子どもたちが可哀相だと気付くのです。  
私たちはあなたたちの後ろで泣いています。  
お願いします、学校へ行かせて、と。  
ニジェールは私たちの国。私たちはニジェールの子ども。  
私たち子どもは立ち上がり、学校へ連れて行ってと叫んでいるのです。  
ねえ、先生も私たちの声に耳を傾けてください。  
ニジェールは私たちの国。そして私たちはニジェールの子ども。  
ねえ、お願い、私たちをあなたの手で、私たちに教育を与えてください。  
お願いします。私たちを学校に入れてください。



左の歌を歌ったサルナワ中央小学校の児童たち

これは、2月19日、サルナワ市にて、本プロジェクトのパイロット校のCOGESと住民・教員・児童が集い、住民が主体となった「COGES対抗演劇合唱コンテスト」の中で、サルナワ中央小学校の女子児童が現地語(ハウサ語)で歌ってくれた歌詞の日本語訳です。翻訳なので伝わらない部分もあるかもしれませんが、学校に行きたくとも行けない女子児童の切ない気持ちを表現しています。

この歌は、住民(児童)が、自分たちで自分たちの教育の問題を考え、その問題を村の人たちに伝えるために作った歌です。だからこそ、その村の「お父さん、お母さん」の心へも届く歌となりました。そして、その歌詞が稚拙でも、同じ状況に置かれている女子児童やその親がニジェールのどこの村にもたくさんいるという意味で、どこの村でも女子就学促進

のための啓発の歌となり、どんなプロが作った歌より女子児童就学促進の有効な武器となり得るでしょう。

この「COGES対抗演劇合唱コンテスト」は、11月末に実施した啓発技術研修の成果を見るという意味で企画したものです。ただ盛り上がるだけでなく、COGESと住民がいかに学校の現実問題と向き合った啓発メッセージを発するか、という期待もありました。コンテストは、予選トーナメントと決勝を別に行いました。予選トーナメントの演劇部門参加は10校、歌部門の参加は6校で、それぞれ3校ずつが決勝戦へ進みました。予選トーナメントで惜しくも敗退したチームの作品も、どれも素晴らしいものばかりでしたので、決勝戦の後で選考外作品として披露してもらいました。予選トーナメントで敗退したサルナワ中央小学校の児童演劇が予選後、さらに力をつけていて、アニメーション

で演じた劇が、優勝チームよりも審査員や観客に反響があったのには驚きました。コンテストは、争いごとを嫌うニジェール人気質には合わない部分もあるかと心配しましたが、自分達の活動の成果を披露し合える機会としての競争は、COGESの活性化へ大きく貢献すると実感したイベントでした。

(次ページへつづく)



児童によるコメディ演劇では、学校に娘を送ることを拒む家族の心と行動の移り変わりを表現しました



このコンテストでは、審査基準を設けて、その基準をトーナメント開始前に各COGESに伝えることにしました。審査基準は衣装や小道具などの準備を含めた演出、コメディを含め観客に対する魅了性、台詞とストーリーのなかの啓発メッセージの説得力、コミュニティが認識する学校の現実問題が分析されて解決策と共に提示されているか、などです。特に最後の基準は、COGES対象の啓発技術研修の内容がどれほど反映されているか計る基準でもありました。審査員となった視学官事務所の人達は、演劇が実演されている最中も黙々と劇中に提示されたテーマや問題、メッセージをメモしていました。

モザゲ小学校COGESと住民が披露した演劇の粗筋を紹介します。

村長が就学適齢期の子どもを学校へ連れて行くように、漁民、農民、遊牧民を含めた全ての住民に対して行った訴えに対して、農民の男と漁民の男だけはあらわに抵抗し続けた。農民の男の夫人も同様に、娘を学校へ行くのを嫌がった。漁民の男は、「魚を一匹でも多くとる技術を身につけることこそが尊重すべき自分達の伝統であり、学校へ行くよりも大切なことがある」といい続けた。ある日、村長がむらの農業協同組

合を設立するために人々を招集した。子どもを就学させることを嫌がった農民の男は、農協の代表にと名乗り出て、周囲も賛成した。ところが、農協代表になっても文字の読み書きも計算もできず、サインも書くことの出来ない自分を悔やむようになった。いつも村の学校の先生のところへ字を読んでもらうなど助けてもらっている自分が恥ずかしくなり、子どもを学校に行かせるべきだと考えるようになった。この考えを他に広げようと思い立ったこの男は、まず、漁民の男を説得に出かけ、議論を重ねて、漁民を納得させた。さらに、もっとも頑固に子どもの就学に反対する遊牧民のところへ出かけていき、苦勞しつつ、説得に成功した。



衣装や小道具も全て住民らで持ち寄り、本気で勝負に挑んだ住民たち

そのほかの演劇では、伝統祈祷師に騙された男が痛い目にあって悔やむコメディも

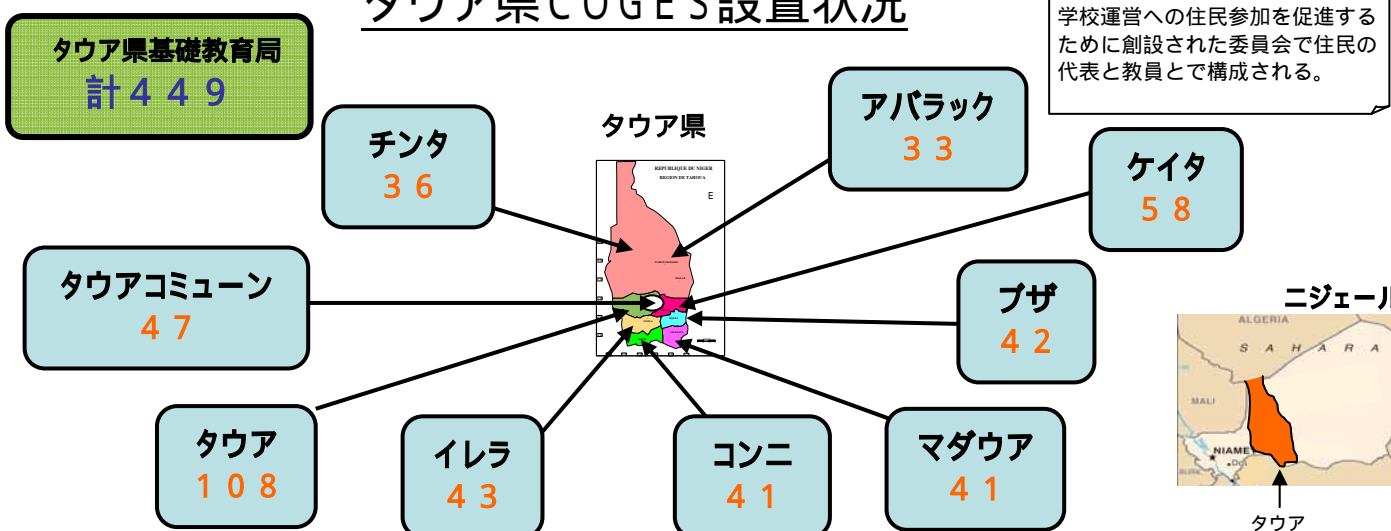
のや、学校の問題をいつも政府のせいにしてきた村で、住民同士で学校を改善しているCOGESの話など様々な内容がありましたが、どれも村長の声が影響力あるものであることが印象的でした。

児童たちが披露したコメディ劇も大うけで、伝統指導者(マラブー)役を演じた児童などは衣装も大人のものを着て演じ、顔に綿の髭を着けて登場。大衆の前で、女子児童も堂々と婦人役を演じていました。プロの喜劇役者に劣らない名演技でした。

基礎教育省のCOGES推進室室長、広報官、タウア県のCOGES担当官、コンニ視学官事務所長、教育主事、コンニ市長やサルナワ市長、他の教育関連ドナーなどの招待者の他、たくさんの村民が、このコンテストの観客となりました。コンテストでは、順位を付けましたが、本当の優勝者は、多くの観客の前で堂々と自作の演劇や合唱を披露したCOGES委員や住民、先生や児童たちなど、すべての参加者であったと思います。今後、このような啓発キャンペーンが、演劇コンテストに限らずどのようなものであっても、住民がイニシアチブをとり、主体的に生まれれば、その啓発活動は、どんな機関が行う政策広報よりも効果的なものとなると思います。

2005年3月現在

## タウア県COGES設置状況





## 我流用語解説

## 教育の地方分権化って何？

～ ニジェールの場合～

**最**近、このニュースレターも一般の読者が増えてきて、使われている用語がわかりにくいという意見も頂いています。そこで、少し任は重いですが、プロジェクトの責任者である筆者が、わかりにくい用語をきるだけわかりやすく説明することにしました。読者の中には専門家の方もいらっしゃると思いますので、間違いがあれば、ご指摘ください。

今回のテーマは、**教育の地方分権化**です。この言葉は、このニュースレターでもよく登場します。意味としては、文字通り、様々な権限を中央から地方(自治体、学校)に移すことです。ただ、地方分権化政策を意味する概念、あるいは、用語は、地方分散化、民営化、チャータースクール、自律学校、学校の自主運営などたくさんあります。これらをまとめて地方分権政策と呼ぶこともあります。やはり定義は少しずつ異なっています。

この定義の難しい教育分野の地方分権化ですが、「流行」していて、多くの開発途上国でも行われています。ある日、筆者は、UNESCOで、西アフリカの教育分野の地方分権化政策を専門に研究をしている人に、単刀直入な質問をしました。

**Q: 西アフリカにおいて教育分野の地方分権化は有効な政策ですか、そしてうまくいっているのですか。**

A: 調査を行った西アフリカ諸国(マリ、セネガル、ベナン、ギニア)の教育分野の地方分権化政策は、いろいろな困難にぶつかっています。その理由は、ひとつには、この政策が、政府の財政事情や、外国の圧力によって行われている政策で、地方自治体や住民の意見が反映されていないからです。また、政策の策定に当たって、政策実施者の実施能力や、その国の経済、社会、文化状況や考慮されず、策定されています。したがって、権限を中央から、地方あるいは学校に移す際に、関係者に政策自体が理解されていなかったり、実施する人の能力が足りなかったりすることが原因で、政策実施以前よりも、教科

書やノートが学校に届かなかつたり、お金が教育省の地方事務所に届かなかつたり、かえってひどい状態になっている場合もあります。

**Q: では、この政策はうまくいかないのですか。**

A: そうとも言えません。調査の過程で、不十分な情報や政策の実施にもかかわらず、政策実施により、親の子どもの教育を改善するための大きな貢献やイニシアチブをたくさんみることが出来ました。そして、地方の教育省の役人や親や住民は権限が移されることには肯定的な考え方をしています。

**Q: ではどうすればいいと思いますか**

A: 政府が地方や親や住民の意見やイニシアチブを取り入れた大幅な政策の改善をし、その改善を、行政制度や行政に関わる人の中に浸透させる努力をしなければなりません。だから改革のための政府の強い意思が必要です。

筆者もこの一年の活動を通し、この研究者とニジェールの教育分野の地方分権化政策について同様の感想を持っています。まず、なにより驚いたのは、ニジェール政府のこの政策に対するはっきりした定義や、予測がまったくなかったことです。プロジェクトが始まったとき、地方分権化政策が開始から1年も経っていましたが、政策の定義をドナーと基礎教育省が話しあっていました。具体的な施策についていろいろな人に聞いて回りましたが、説明できる人はひとりもいませんでした。そして、政策実施も進んではいませんでした。

しかし、この政策に希望がないかということ、そうは思っていません。UNESCOの研究者が言ったように、いやそれ以上に、この一年のプロジェクトの活動を通し、ニジェールの親の子どもに教育に対する貢献に出会い、住民の学校をよくするための驚くようなイニシアチブを見て、ニジェールの地方分権化政策にも未来はあると思いまし



学校運営委員会(COGES)の必要性や各村で抱える問題について意見交換をしているCOGES担当官と住民たち

た。もちろん、その未来は、政府が、住民や地方の声を取り入れた地方分権化政策を作りあげていくことが前提です。そしてそれは、ニジェール自身が解決しなければならないことです。しかし、プロジェクトは政府の強い施策を待っているべきなのでしょうか。それともなにかこの政策成功のためにお手伝いすべきなのでしょうか。

筆者は、プロジェクトが、住民が力を持ち、その声を政策に影響できるような、しかも、全国に普及できるようなモデルやその普及の道筋を作って、みんなに見せてあげることがニジェールにとって一番役立つことだと考えています。幸いにも、これまでのこのプロジェクトの活動は、ニジェールで最初にCOGES政策を実施したと評価され、住民からの大きな反響と貢献という成果を上げたためか、プロジェクトを取り巻く関係者だけではなく、政府関係者にも影響力を持ち始めました。政府関係者も、実際の成功例なしでは、政策の実施も改善も自信を持って行えないので、成功例を必要としています。だからこそ、これからも、プロジェクトは、ニジェールの地方分権化政策の成功のために、住民の声を政府に届けることができるようなモデルを作っていくと考えています。

最後になりましたが、この項のテーマであるニジェールの教育分野の地方分権化の定義については、残念ながら、まだ、明確な解答はないというのが、筆者の結論です。ただ、今後、その定義を、政府と住民が共に作り上げていくということだけを申し上げて、この項を終わりにしたいと思います。

チーフアドバイザー  
原 雅裕



# APP教員研修 実施！

本題のAPP教員研修に関して触れる前に、まずAPPの概要についてご説明したいと思います。

## APP（生産実習活動）とは？

生産実習活動(以下APP)は、1987年に新しく成立した教育に関する「新プログラム」の一環で、従来型の理論中心の教育から地域の実情を反映した生産活動を学校カリキュラムに組み込み、児童一人一人が自分たちを取り巻く地域社会を理解し、卒業後の生活に役立てられる技術・知識を身につけることを目的とした教科です。毎週各学年の時間割に1.5時間組み込まれているAPPは、主に5つの分野に分けられます。

1. 特色のある手工業の習得  
(裁縫・編み物・カゴ製品等)
2. 農業と飼育を融合させた活動及び養魚業(肥料作り等)
3. 家庭経済(家計)の理解  
(料理・かまど・衛生教育)
4. 社会文化的な活動及びスポーツ活動(伝統的な踊り・歌・劇)
5. 科学技術的な分野の手ほどき  
(修理技術・リサイクル等)

## APPの問題点は？

教師は、これら5つの分野から学校独自の活動を選択し行うことができるのですが、残念ながら現在までうまく機能しているとはいえません。INDRAP(国立教育研究所)APP担当が作成した報告書では、その原因として以下の4点をあげています。

APPの活動道具や経費(学校菜園の種代等)が確保できない。

教員に対するAPP指導研修不足により、教員にノウハウがない。

保護者・教員ともにAPPの重要性に対する理解が不足している。

APP教科の項目が児童の成績表に無い為、教員の評価につながらず教員のモチベーションが低い。



児童の発達段階に合わせた授業内容をグループ毎に分かれて検討している教員たち

## なぜAPP研修？

昨年10月21・22日の二日間にわたり、「APPワークショップ」を開催しました。APPの問題について様々なレベルの基礎教育省APP関係者が、それぞれの立場からAPP現状、問題点及び可能性について議論することで、継続・実現可能なAPP実施のための目標、戦略を提示することが目的でした。このワークショップの話し合いの中で、多くあげられていたのが、「APP教科を、教える側である教員が十分にAPPを理解していない」ということでした(詳細は、4号)。このワークショップで挙げられたアドバイスを参考に、「APP教科とは?」「APP教科の目標とは?」を話し合う教員研修を開催することにしました。

## APP研修

1月29、30日の二日間に渡り、プロジェクトのパイロット校22校のすべての教員(75名)に対し実施しました。この研修内容は、児童発達心理の基礎的な知識の習得、基礎教育省の指導要領に明記されているAPP目標及び学校が果たす役割の再確認、本来の目標に沿っ

たAPP授業を展開・計画する簡易指導案の作成法の習得です。

### 児童発達心理学

APP教科は、児童一人ひとりがある課題について考え、創造しながら、体験を通し仲間と協力しながら行う教科です。したがって、教員は学年毎に合った授業内容を組み立てることが必要です。そこで、児童の発達心理学を発達段階ごとにもう一度見直し、子どもの成長段階ごとの特徴を参加者とともに話し合いの場をもちました。

### 指導要領の見直し

指導要領に明記されているAPP目標は、漠然としていてわかりにくい為、8つの目標を一つずつ分析し、説明を加え目標の統一を図りました。また、APP教科内容・実施効果についても参加者一同意見の統一を図りました。

### APP授業の指導案づくり

APP活動は、地域の特色に合ったもの、住民のニーズに合ったものを選定することで、低コストで実施でき、継続して行える可能性があります。COGES



(学校運営委員会)が立案した活動計画の事例を参考にするなどして、地域性やニーズを考慮したAPP授業を展開する効果を説明した上で、授業を行う上での手引きとなる指導案作りの紹介を行いました。

今回の研修の目的は、児童発達心理学を見直しながら、APP教科との関連性に気づき、教員が各学校及び児童の発達段階に合ったAPP活動を計画する

技術を身につけることでした。参加者が約80人に上り、互いに意見交換する機会がもてるかどうか？予定されている内容がすべて終了できるかどうか？不安もありました。しかしながら、研修形態をグループディスカッションにしたり、グループ毎に課題を振り分けたことで、人数が多かったにもかかわらず、十分な話し合いや活発な議論ができ、参加者一人ひとりの意見がそれぞれの場面で生かされていま

した。参加者の感想の中で、「今まで、APP教科についてよく理解できていなかったが、今回の研修でわかりました。もう一度、学校環境を見直し、学校で継続可能なAPP活動を計画してみようと思います。」「毎月新しい活動を考えて実施しなければならないと思っていましたが、違うんですね。1年生から6年生までの継続的な活動をじっくり行っていくことが必要なのですね。」などの意見が出されたことは、この研修が、今までのAPP教科に対する誤った認識を修正し、先生方にとって実現可能な無理のないAPP実現への一歩につながったのではないかと感じています。

また研修では、コニ郡視学官事務所所長及び指導主事(3名)及びタウア市教員養成学校APP担当教員(2名)が、研修の進行をアシストして下さいました。彼らと協力してこの研修を実施したことで、今後も各学校の巡回指導を協力して行うことになりました。

各学校のAPP活動計画でどんなアイデアが生まれるかとても楽しみです。いよいよ、新たなAPP活動が始まります。現在、教員たちは、各学校の特性に合ったAPP活動を計画中です。



APP内容について意見交換をする教員たち(グループワーク)

## APP教員研修(2日間)プログラム

### < 第1日目 >

8:00 ~ 13:30

児童発達心理学

- (1)心理学とは？子どもとは？
- (2)環境と児童の知覚的発達
- (3)知覚の発達とは？
- (4)学校が児童に及ぼす影響

13:30 ~ 14:30

昼食及びお祈りの時間

14:30 ~ 17:30

APPの概要及び現状

- (1)ニジェールにおけるAPPの成り立ちと歴史
- (2)指導要綱のAPP目標の分析
- (3)APP内容の見直しとその重要性・有用性



### < 第2日目 >

8:00 ~ 10:30

APP内容の見直し

(グループに分かれてのワークショップ)

11:00 ~ 13:00

学校は誰のもの？

- (1)ニジェール教育方針10ヵ年計画について
- (2)教員・児童・地域の役割について

13:00 ~ 14:30

昼食及びお祈りの時間

14:30 ~ 17:30

- (1)COGES活動計画書とAPP活動計画の相関性
- (2)APP授業の進め方と指導案の作り方

## 青年海外協力隊員(小学校教諭)も参加しました!

ニジェールでは、現在まで約10名の青年海外協力隊員・小学校教諭がそれぞれの地域で活動を行って来ました。彼らの要請内容の1つにも、「APPの充実」が含まれているのですが、今までAPP教科について深く知る機会がもてないまま各々の活動をしていました。

現在プロジェクトで、APP充実を目的としたシニア隊員が派遣されています。それを期に、協力隊員とAPP活動の情報交換をしながら、活動を進められたらと考えています。

その初めての活動として、昨年の12月上旬に現在活動中の隊員(4名)と共に小学校分科会を開き、「APP教科の目的は何か？」をテーマに3日間にわたって、基礎教育省で出されている指導要領を基に話し合いました。そして、分科会メンバーの隊員も今回のAPP研修にカウンターパートと共に参加することが決定しました。(この分科会で話し合った内容の多くが、今回のAPP教員研修内容に生かされています。)

研修中は、協力隊員らのカウンターパートが積極的に意見を出し、他の参加者の意欲を掻き立ててくれ、また、休憩時間も講師の方々に質問を投げかけるなど高いモチベーションを示していました。

今後は、今回の研修内容をもとにそれぞれの任地で、実現・継続可能なAPP活動を試行予定です。定期的に小学校分科会を企画し、情報交換しながら先生方も子ども達も楽しめるAPP活動を協力隊員と共に目指したいと思えます。



カウンターパートとともに議論し合う青年海外協力隊員(棚田 原中 橋詰 中田)



# キーパーソン・インタビュー

## 第一回

プロジェクト開始一年経過した今

タウア県基礎教育識字局局長に聞きました。



プロジェクトを陰で支えてくれるとても頼りになるオスマン局長。

Q) プロジェクト開始から一年が経過しました。今までのプロジェクト活動に対する感想をお聞かせください。

私がこうして話す機会を与えてくれてありがとう。COGESを通して、学校で抱える本当の問題を浮き彫りにしてくれたと思います。そして、住民自身もその問題を目の当たりにし、解決しなければならないという危機感を持ち始めました。この一年で、地域住民と学校が問題解決に積極的に取り組み始めました。とても画期的なことだとうれしく思っています。

Q) 今後のプロジェクトの更なる飛躍のための提案があれば是非お願いします。

現在までのプロジェクトの活動は、主に各郡のCOGES担当官と共に情報交換を計り、連携して進めているようですが、各郡の視学官事務所長との間でも情報交換をする必要があると思います。COGESは、学校を取り巻く地域みんなの委員会です。学校を管轄している視学官事務所とのつながりも必要だと考えます。

Q) 本プロジェクトの合同行政委員会に出席頂きましたが、その感想をお聞かせください。

プロジェクトの活動に対し、教育大臣がとても賞賛・激励のお言葉をかけてくださいました。住民が住民の力で積極的に動き始めた事実に驚きの声を上げ、今までのプロジェクトの活動とそこに関わる私たちの努力を褒め称えて下さいました。私もプロジェクトに関わる一員として、とても誇りに思います。

Q) 基礎教育大臣のお言葉(本プロジェクトの活動全国展開を正式要請されたこと)をお聞きになってどう思われましたか？

大臣のおっしゃったお言葉をお借りしてそのまま、私もプロジェクトに対し、激励の言葉として伝えたいと思います。プロジェクトがタウア県で行ってきた活動は、他の地方でも実現可能であると確信しています。他の県の中でも、特に問題を抱えている地域(2・3県)を対象に活動を広げ、その問題解決の手助けをしてほしいと思います。今後の更なる活躍を期待しています。

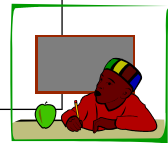
「COGESにパワーを！人々にパワーを！子どもたちに未来を！」

## プロジェクト カレンダー

### 2005年2月

- 1月24～25日：住民による契約教員管理研修 (コンニ)
- 1月29～30日：APP教員研修(コンニ)
- 2月1～14日：学校プロジェクト要請開始
- 2月15日：学校プロジェクト要請締め切り
- 2月5日：チーム1会議
- 2月11日～：啓発活動コンテスト開始(トーナメント)
- 2月10日～：学校活動計画フォローアップ開始
- 2月16～18日：学校プロジェクト選考
- 2月19日：啓発活動コンテスト決勝
- 2月22日～：APP研修フォローアップ開始
- 2月28日：第一回APP会議(コンニ)

次号の「みんなの学校だより」は、「ベースライン調査結果」「ラジオ放送」「我流用語説明」についてお届けします。



### 2005年3月

- 3月1日：COGES担当官連絡会議
- 3月2日～：学校プロジェクト調査開始
- 3月5日：藤田短期専門家帰国

本誌「みんなの学校だより」に関する皆様のご意見・ご感想を是非きかせてください！

お問い合わせ大歓迎！ご連絡先はこちらです [Rosedesaha@aol.com](mailto:Rosedesaha@aol.com) 或いは [Onoue.Kimikazu@jica.go.jp](mailto:Onoue.Kimikazu@jica.go.jp) プロジェクトの紹介パンフレット(PDFファイル)も電子メールでお送りすることができます。ご興味あるかたは上記までご一報下さいませ。

みんなの学校プロジェクトホームページ(改訂中)

<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>

みんなの学校プロジェクト

宛先：Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER

電話：+227 - 6 10 - 5 7 1

FAX：+227 - 6 10 - 5 7 1

地方都市のタウアは、首都ニアメ市から600km 車で約7時間

## プロジェクトスタッフからひとこと サロンパスは、ミントの香り??

2月下旬に入り、朝晩の冷え込みが和らぎ、埃もさほど気にならなくなりました。砂埃で町中が茶色かった日々が、うそのようです。現に、月光仮面のようにぐるぐるターバンを巻いて、バイクに乗っている人の数が減ってきました。

それにかわって、暑さが到来！日に日に温度が上がっているのを、肌で感じます。ニジェル人に、「今日は、暑いね～」と

声をかけると「暑さが始まったよ、よかった～寒い季節が過ぎて！」と答える人の多いこと。私たちにとっては、拷問とも言えるあのうだるような暑さをニジェル人が待ち望んでいるとは・・・。飲んででも飲んでものが渴き、滝のように流れる汗と共に200km～300km離れた村々を巡回する毎日が始まります。

先日、休暇から戻った専門家より頂いたサロンパスが現地スタッフの間で大流行！毎日のバイクでの巡回は、腰・肩に負担が来るようです。早速、ぺたりっ！「ミントの香りがいいにおい！」と、満足げな顔がなんとも言えずかわいらしい。

これからが、勝負！さあ～て、今日も一日頑張ろう！（S）



## 学校プロジェクト始まる

COGESのもうひとつの可能性

### 「学校プロジェクト」とは

みんなの学校プロジェクトでは、3月末までに7つの「学校プロジェクト」を開始します。「学校プロジェクト」は、すでに、多くの国で行われている教育改善の試みです。様々なコンセプトで行われている「学校プロジェクト」ですが、子どもの学習環境、教育の質の改善等を目的とした学校単位で学校が主体となって行われる事業で、学校側から申請された企画に、政府や援助機関が審査し、資金を提供するのが基本的な形です。

ニジェールに先行する例では、南米チリの「学校プロジェクト」があります。チリの場合、教育の質の改善のために設けられた学校向けの、世界銀行が拠出した基金を使った「学校プロジェクト」でした。内容は教員が学校の状況を分析し、学校のニーズに見合った

注) 本稿では、「学校プロジェクト」と「みんなの学校プロジェクト」という二つの単語が出てきます。紛らわしいですが、二つは異なるものです。JICAの技術協力プロジェクトとして実施している当プロジェクトを「みんなの学校プロジェクト」、今回、「みんなの学校プロジェクト」が支援する学校レベルでのプロジェクトを「学校プロジェクト」と表記しています。



学校プロジェクトで供与された穀物脱穀機

教育の質改善を目的とした案件の企画書を作成し、州の教育評議会に提出します。提出された案件は、評議会で検討され、予め決められた基準に達していれば、基金拠出が決定されます。アフリカでもセネガルなどで「学校プロジェクト」を行っている例があります。

ニジェールの場合「教育開発10ヵ年計画」の中でCOGESの一つの役割としてその導入が予定されていましたが、現在は、フランスの支援を受けたNGOが、支援を行っている例があるだけです。このNGOが支援する「学校プロジェクト」のコンセプトも、上記チリの例によく似ていて、「教育の質を改善」を目的とした学校単位の案件に資金を拠出しています。具体的な例では、供与された資金をAPP(生産実習活動)を行うための女子の洋服用ミシンや糸の購買や、講師の謝礼に当てている学校があります。その他の例では、文房具、教科書を購買している学校もありました。それぞれ、「教育の質の改善」に貢献する活動ではありませんが、「教育の質の一部の短期的な改善」である観は歪めません。つまり、行われる活動が、教育の質の総合的で長期的な改善に結びついていないように思われます。

みんなの学校プロジェクトでは、県教育事務所長やCOGES監督官、担当官と相談し、「学校プロジェクト」にこれらの事例とは少し違ったコンセプトを導入することにしました。

### 「みんなの学校プロジェクト」の場合

ニジェールの場合、教育開発がすべての面で遅れていて、学校に関わる問題を解決するためには、ひとつの解決策では足りません。例えば、学校の衛生保健の改善を考えてみましょう。ニジェールの学校では、



学校プロジェクトで供与された穀物の納品検査

衛生教育は行われておらず、トイレも、安全な飲料水もなく、学校の回りに医療機関がない場合がほとんどです。これらの学校の衛生保健の総合的な改善を目指す場合、トイレの建設とトイレの使い方を始めた児童、教員への衛生教育、清掃の奨励、ゴミ箱の設置、学校救急箱の設置、さらに安全な飲み水の供給も含まれた総合的な計画が長期間行われる必要があります。そこで、みんなの学校プロジェクトが支援する「学校プロジェクト」は、学校の問題において、住民がもっとも重要だと考える分野の総合的な改善を目的とすることにし、さらに、活動が持続的であるために、活動の運営資金を作り出す、なんらかの資金創出システムを付け加えることも条件としました。

### 学校活動計画と学校プロジェクト

「学校プロジェクト」の立案には、学校活動計画の方法論を応用されています。みんなの学校プロジェクトの対象校では、研修を受けたCOGES委員がすでに学校改善のための学校活動計画を立案し、実施しています。学校活動計画は、保護者、住民が自分たちの学校がもつ問題を挙げ、それに對

する解決策を考え、その中から自己資金で賄える活動を選び、実施するものです。実際に、問題分析、解決策の抽出の時点で、さまざまな解決策が挙げられます。上述した衛生保健の問題でも、解決策としてトイレの建設、掃除の奨励、安全な水の供給、学校救急箱設置など重要な解決策はすでに挙げられていました。しかし、「自己資金で賄える活動を選ぶ」ため、実際には、出来る活動に限られる場合がほとんどでした。それぞれ、効果はありますが、上述のNGOが実施している「学校プロジェクト」と同じように、活動が、問題の根本的な解決に結びつかないことが多いのです。そこで、みんなの学校プロジェクトが支援する「学校プロジェクト」では、学校活動計画を発展させ、学校の問題を分析して、住民がもっとも重要だと考える分野の総合的な解決を目指し、必要であれば、解決策となる複数の活動を同時に実施し、その活動の財源の一部は収入創出活動で創出し、活動の持続性を確保するように工夫しました。そして、みんなの学校プロジェクトは、各学校(各COGES)の自己資金の限界を超えた収入創出活動の原資となる資金提供を行います。

**学校プロジェクトの募集**

以上のようなコンセプトで、すでに、2度の学校活動計画実施の実績があり、問題分析

についても、すぐれた結果を残している一昨年、COGES校となった171校に対し、「学校プロジェクト」の募集を行いました。募集に当たっては、まず、「学校プロジェクト」のコンセプトや立案書の書き方説明したマニュアルを作成しました。そして、このマニュアルの内容をCOGES担当官に説明し、担当官がマニュアルを対象校に配布しながら、プロジェクト作成のための指導を行いました。その結果、受付締切日までに68の「学校プロジェクト」が集まりました。実際には、COGES担当官の勘違いで、締め切り間に合わなかった応募も多くあり、100程度の学校がプロジェクトを作成しましたこととなります。

**応募プロジェクトの選考過程**

選考は、県教育事務所長、COGES監督官、プロジェクトコンサルタント、チーフアドバイザーからなる選考委員会で行いました。選考の基準は、プロジェクトの妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性の5項目評価を採用しました。それぞれの項目を5点満点で採点し、審査員の得点を総合して、点数の高い順から20位を選び、さらに、収入創出活動の面を精査し、7校を選考しました。選考されたプロジェクトを内容から分類すると、学校の保健、衛生の改善3校、女子の就学改善1校、成績の改善1校、出席率改善1校、

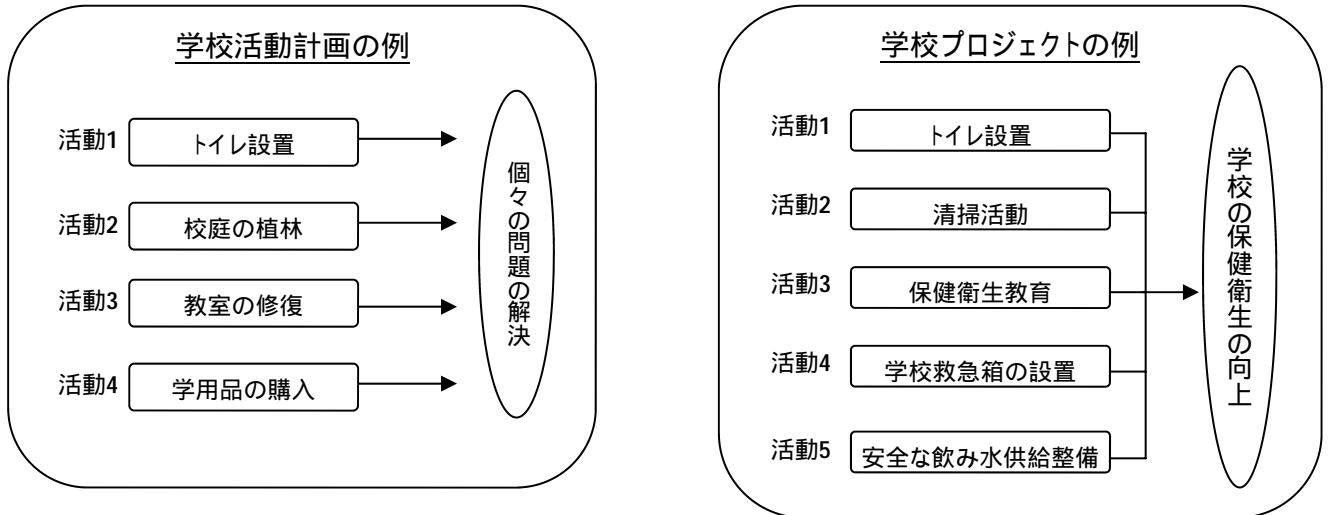
APP活動1校となりました。収入創出活動別に分けると、穀物脱穀機3校、穀物販売4校です。(今回選考された7つの学校プロジェクトの概要は最終ページに掲載しています。)

収入創出活動については、プロジェクト自立発展性の面から、特に重要なため、選考委員会委員自身が、現地調査を行い、その収入創出の可能性を確認しました。例えば、穀物販売は、まず、その学校のある村の人口を調べ、購買需要、商業ベースの店の数等も調べます。調査の結果、その穀物販売の需要が多く、商売として成り立つと判断された場合、さらに、穀物販売の運営管理システムをチェックします。そのすべての条件を満たした学校のみが選ばれました。

**COGES、もう一つの可能性**

これから、その選ばれた学校に穀物や、穀物脱穀機が納入され、プロジェクトが始まります。COGESが本当に機能するためには、国からの権限委譲が必要です。しかし、国の援助がなくても住民が学校の問題を根本的に解決できる可能性があるかもしれません。その、一つの答えが、この最初の7つの「学校プロジェクト」で出るかもしれません。その経過は、ニュースレターでも随時ご報告します。

**学校活動計画と学校プロジェクトの比較**



	学校活動計画	学校プロジェクト
問題解決のためのアプローチ	個別対処方式 対処療法(単発的、短期的)	プロジェクト方式 包括(総合)的、長期的
活動主体	COGES	COGES
活動資金・資源	住民の自己負担	住民の自己負担・収入創出活動で得られる資金
みんなの学校プロジェクトによる支援	COGES委員に対する研修	収入創出活動を行うための原資を援助
モニタリング	主にCOGES担当官による巡回指導	COGES担当官及びプロジェクトスタッフによる巡回指導





# COGESがしゃべる ラジオ番組

COGESがしゃべるラジオ番組とは、学校活動計画の進捗状況などをCOGES委員が議論する番組です。これは、COGES間(地域や小学校間)の情報交換と情報共有を目的とし、また、COGESによる内発的な啓発活動にも繋がることをも意図しています。1回30分の放送で4万セーファー(約8000円)のコストがかかりますが、これはプロジェクトが支払っています。しかし、普段ならいつも交通費や人件費を期待するニジェル人ですが、今回参加したCOGES委員は、何一つ報酬なしでも自主的に「ラジオで自分達の活動を発表したい」と進んで集まってくれました。

放送を始める前の週から、ラジオ局の協力により無料で何度も番組宣伝をしてもらいました。放送の時間帯は、夜の9時。これは、COGESが選んだ時間帯、村で一番聴かれる「BBCハウサ

ニュース」のすぐ後の時間帯です。以前、コミュニケーションソース調査をした際に、どうせ聴率調査をするなら、COGES委員に良い放送時間を選んでもらった方が、彼らが責任持ってクチコミ宣伝してくれるだろう、というプロジェクトの企画意図があったのです。

参加したのは、コンニ郡のプロジェクトパイロット校の3つのCOGESから2人ずつ。ディスクジョッキーはCOGES担当官のサリフさん。普段は研修のときなど一人で延々としゃべりまくるサリフさんなのに、今回は初の試みで緊張してしまったせいか、ラジオ局のプロのしゃべり手にヘルプを求めてばかり。なんとか番組の導入部分の「COGESとは何か」を説明して、COGES設置校の児童が歌う音楽をかけてスタートしました。

ここではその番組の一部をご紹介します。

## ・・・ON AIR・・・

質問1

COGES担当官：

「学校活動計画であなた達の実現した学校改善のための活動、そして、直面した問題などを教えてください。」



収録中のCOGES担当官(一番左)とCOGES委員ら

私はダン・マケリ小学校の校長でCOGES委員です。今年度の我々が計画した学校活動は3つあり、そのうち2つが既の実現しました。3つ目は実行中です。どれも重要な活動なのですが、まず始めの活動は、校舎の増設でした。藁葺き校舎というのは風嵐や雨でよく崩れてしまうのですが、今年は頑丈に補強しました。それから校舎の扉を修理しました。実は今まで扉がなかったため泥棒が入って教室の中のものがよく盗まれたりしていました。でも、これでもう盗まれなくて大丈夫です。そして3つ目の活動は、トイレの設置です。これは現在実行中で、進捗具合は5割といったところです。このほかにも、学校を改善するための計画したいことがまだまだあるのですが、保護者や住民からお金を集めることが大変なのです。



校長の言っていることに付け加えていいですか。えっと、私がダンマケリのCOGESの代表です。校長がしゃべった3つの活動のほかにも色々計画があります。あと2つの学校活動をしたいのです。まず学校に塀を作ることです。たくさん家畜が学校エリア内を横切ることが多く、以前からどうにかできないかと考えていたのです。ほかにもあります。井戸を作りたいと考えています。学校の横に井戸を作ると、児童が水を飲める。そして水があると畑だってできます。



収録本番前のミーティングでは、「自分の村の人達に今夜自分がラジオに出ることを宣伝してきた」と大張り切りのCOGES委員たち。収録中、しゃべりだしたら止まらないのが困った点です。

## 質問2

COGES 担当官

「COGESが設置され、そして、今説明してもらったような学校活動計画を実行して、その後、あなたたちの学校、そしてそれを取り巻く環境にどんな変化がありましたか？」

私はピングレ小学校の校長です。変化についてですね……。低就学の問題はコミュニティみんなが知っていました。けれど何もしないでいました。しかし、今までにない数の児童を登録することができたことが、COGESによる変化だと思います。

以前は、先生だけが就学促進の活動をしていたのです。学校に行かない児童の親を村長のところに集めて説得したり、親のもとへ訪問したりしていましたが、今はCOGESも動きます。そうしたら保護者が自ら子供を学校へつれてくるのです。COGESが啓発したお陰です。集金率も良くなりましたしね。



私はギダン・カジ小学校のCOGESの代表です。本当に大きな変化ですよ。今、179名の児童がいます。1年生は69名です。一クラスにしては多すぎる児童なのです。それでも親が続けて子供を学校に送り続けます。しかしCOGESが出来てから変化がありました。

そのほかの変化というのは、これまでは先生が入学登録を全て仕切っていたのが、今は親が児童を登録するために進んで学校に来るということです。児童が増えて学校に継続して通い続けることはよいことなのですが、ここでの問題は先生が足りないことです。変化については、まだあります。若者や親達が自分が学校に行かなかったことを悔やんでいるということです。そんな大人達が今、夜間の識字教室を進んで開いて参加するようになったのです。



## 質問3

COGES 担当官 :

「さて続けましょう。COEGSの皆さん、まだ言いたい事はありますか？」

はい。ギダン・カジ小学校の校長です。私が言いたい事は、保護者に対して啓発をすることの重要性です。年齢に達した子供に対して、男女の差なくみんな学校に入れること。世界をみても、わかるでしょう。発展している国というのはみんな教育が充実しています。教育がきちんとしている国が前進するのです。ニジェールではイスラムが多い。イスラムは教育を尊重しています。だからイスラム教である我々は教育をもっと重視するべきなのです。



自身満々に自分達が行った学校活動を発表する機会が、COGESには必要だったのだ、と思われた企画でした。COGES間の情報交換としてラジオが果たす役割は多大ですが、遠方のCOGESが互いに刺激しあい、「あ、あっちでもやってるな。私達も頑張らなきゃな。」といったモチベーション効果も今後期待できます。「自分の学校にいつまでたっても先生を配置してくれない」という政府に対する不満だって言ってもらってもいいと思います。ただ、このラジオ放送がただの不満発散や自慢大会にならないためにも、学校を改善するうえで直面した問題や自分達に不足していることなども今後もっと議論できる場にしていこうと思います。また、しゃべりだしたら止まらない

のが、今後のCOGESがしゃべるラジオ放送の改善すべき課題です。

放送日の次の日に、昨年にCOGESが設置された学校がある地域住民から、「自分たちのほかにも活躍しているCOGESがあったとは知らなかったよ」との声がありました。今回使った地域の民営ラジオ局は50km四方の到達距離でしたが、そのなかに点在するCOGES校は50校あまり。今後さらに増えるCOGES設置校が互いに励ましあい、刺激しあい、時には討論し、議論しあう、そんな身近な「COGESがしゃべるラジオ放送」を続けていければとプロジェクトは考えています。





## COGES (コジェス) って何？

またまた、用語解説で登場です。今回のテーマは、このニュースレターでもっとも多く登場するCOGESです。COGESは、フランス語のComité de Gestion des Établissements Scolaireの略で、このプロジェクトでは、学校運営委員会と訳しています。実は、このCOGESが、前回ご説明したニジェールの教育地方分権化の具体的施策なのです。では、COGESとはいったどのような組織で、どんな役割があり、このプロジェクトとどんな関係があるのでしょうか。

### COGESの役割

COGESは、2001年にニジェールが教育開発10ヵ年計画でその創出を定めた学校の行政組織で、保護者会代表3名、母親会代表1名、教師代表1名と校長の6名から構成されます。この組織の目的は、学校をどのように運営していくかを決め、実際に運営していくことです。そのために国はCOGESに、教科書の管理、文具の購買、教員の出欠管理、契約教員の管理、学校を建てる位置の決定、学校に関する問題の対処などの役割を与えました。その他に、学校の内部規定を定め、学校に行っていない子どもが学校へ行けるように親への啓発活動も行うこともその役割として与えました。

### COGESのモデル

COGESはとても画期的な政策に見えますが、実は、モデルがあります。それは、南米や中米で行われている試みで、主に世界銀行が資金援助をしています。例えば、エルサルバドルのACE(コミュニティ教育協会)の例があります。この組織は、教師と親から構成されていて、中央政府から直接受け取った予算で、教材や学校施設に限らず教員の採用、給料の支払いに及ぶまですべての管理をします。ACEが組織されると、その地域の銀行口座に教育省より直接学校管理予算が振り込まれます。その予算の範囲内で、ACEは学校運営を任されています。したがって、ACEによる教員の管理も真剣なものがあり、場合によっては、ACEによって解雇する場合もあり、教員は、欠席が少なく、教育熱心であり、児童の成績でも他の学校に比べ、いい結果が出ているそうです。

COGESは、このエルサルバドルのACEにとってもよく似ています。似ている理由は、世界銀行が、ニジェール政府に、その導入を強く推

薦したという経緯があるからです。世界銀行は、中米で成功した例をニジェールに導入したかったのです。結果として、反対もなく、その政策は実施されることになりました。しかし、その導入にあたり、中米とニジェールの経済、文化を初めとする様々な背景の違いがどの程度考慮されていたかどうかは疑問です。

このように外部のイニシアチブで導入されたCOGESなので、ニジェールの基礎教育省内部でも、その意味がよく理解されていなかったのは無理もないことです。基礎教育省のCOGESの責任者に会った時、エルサルバドルを始め他の国の例を知りませんでした。もし、COGESに先例があるなら、その教訓を知り、そこから出発すればいいと思うのですが、基礎教育省は、最初にいきなりCOGESを240校に「設置」しました。設置といっても、COGESに関する情報提供、財務管理の研修などをほとんど行わず、文房具購買の補助金をCOGESに支給しました。その結果、文房具がまったく購入されなかったり、会計処理がされていなかったり、経費の使用が不透明だったりするという問題が起きました。

その後、COGESは、2000まで「設置」校が増えましたが、ニジェールのCOGES政策が進展しているとは言えません。ニジェールがCOGESのために行ったのは、COGES担当官(地方行政官で、COGESのモニタリング等を行う役目)に対する財務研修と学校活動計画の研修だけです。COGES委員にはまったくくんの働きかけもしていません。これでは、COGESが機能する訳がありません。エルサルバドルで成果を出したといわれている教員の管理や、運営資金の管理などの権限委譲など、まだ遠い先のようなようです。

### COGESとプロジェクトの関係

このように国の政策としては、問題も多いCOGESですが、プロジェクトとはいったどのような関係があるのでしょうか。

ニジェールの人々のほとんどは、字が読めたり、計算が出来たりすることの重要性はわかっています。しかし、教育が重要だと感じていても、現在の学校の状態には満足していません。学校に子どもを送りたくとも、教室が不足し、教員がおらず、児童の募集も毎年に行われません。教員が居て、教室があっても、教員のストライキで、授業が行われません。授業の内容も現実の生活からはかけ離れたと

感じています。これらの学校の問題をいかに解決して、親が学校に子どもを送りたくなるためにはどうすればいいのか。その問いに対し、住民自身が学校を運営できるようにすればいいとプロジェクトでは、考えました。これが、プロジェクトの出発点です。実はこの出発点に、COGESの目標と重なる部分が沢山あったのです。それで、プロジェクトはこのCOGESの政策を支援することにしました。

### COGES政策のもう一つの役割

しかし、前号に説明したように、COGESは国の地方分権化の政策です。したがって、学校運営への住民参加を促進する以外にも目的があります。それは、例えば、国に義務教育を受けさせるだけの予算がなくなったから、住民にもその一部を負担させるという財政的な目的や、もう教員の国による一括管理が難しいから住民に管理させよという行政的な目的があります。このように、国や住民の様々な役割や目的が入り混じっているから、COGESはその重要性はわかっても理解しにくい、説明しにくい組織なのかもしれません。

### COGESの定義

説明が長くなりましたが、筆者は、COGESを、学校の様々な問題を解決し、学校が住民にとって必要な教育を行う「みんなの学校」にするための組織と定義します。

プロジェクトは、そんなCOGESになるように支援していきます。

プロジェクトチーフアドバイザー  
原 雅裕



## 今回選ばれた学校プロジェクトの概要

小学校名	Grado-sud	Charingue	Tabotaki	Tama	Modjia	Touba-Bagawa	Agueye
視学官事務所	Keita	Keita	Bouza	Bouza	Ilella	Tahoua departement	Tahoua departement
児童数(女子児童数)2005年	351(120)	128(52)	263(45)	444(144)	288(114)	89(34)	337(88)
村の人口	1533人	1546人	5300人	7312人	6000人	570人	900人
プロジェクト名	学校保健改善計画	女子の就学促進、学校保健	学校保健改善計画	APP(裁縫)	女子児童出席率改善計画	成績向上計画	女子の就学の促進
プロジェクト内容	清掃の促進、学校救急箱の設置と衛生教育	清掃の促進、学校救急箱の設置、衛生教育、女子の就学促進	学校救急箱の設置と清掃の奨励、衛生教育	洋裁の工房の運営とコミュニティーと学校の交流	母親に対する啓発、援助による女子児童の出席率の改善	契約教員援助、保護者への成績の通知、教科書、文房具の購買	母親会による啓発活動、穀物脱穀機導入による母親の労働の軽減
プロジェクト開始	2005年3月	2005年3月	2005年3月	2005年3月	2005年3月	2005年3月	2005年3月
プロジェクト実施者	COGES、教師	COGES、教師、母親会	COGES、教師	COGES、教師	COGES、教師	COGES、教師	COGES、教師、母親会
収入創出活動	穀物脱穀	穀物脱穀	穀物販売	穀物販売	穀物販売	穀物販売	穀物脱穀
EPT支援	穀物脱穀機。操作研修	穀物脱穀機。操作研修	穀物(ミレット、ソルゴ)	穀物(ミレット、ソルゴ、米他)	穀物(ミレット、ソルゴ)	穀物(ミレット)	穀物脱穀機。操作研修
支援額(FCFA)	940,000	940,000	695,000	1,592,500	1,116,250	565,000	940,000

## プロジェクト カレンダー

## 2005年3月～4月

3月2日:COGES担当者会議  
 3月2～3日:プロジェクト訪問  
 (セネガル地域支援事務所員)  
 3月3日～:学校プロジェクト調査開始  
 3月5日:藤田短期専門家帰国  
 3月10日 学校プロジェクト審査終了:  
 3月12日～学校プロジェクト供与機材配布開始  
 3月13日:COGES連合研修1回目  
 3月26日:COGES連合研修2回目

本誌「みんなの学校だより」に関する皆様のご意見・ご感想を是非きかせてください!

編集・発行  
**ニジェール住民参画型学校運営改善計画**  
**(みんなの学校プロジェクト)**

お問い合わせ・連絡先  
 Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER  
 電話/FAX: +227 - 610 - 571  
 E-mail: Rosedesaha@aol.com または Onoue.Kimikazu@jica.go.jp

## みんなの学校プロジェクトホームページ(改訂中)

<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>

## 編集後記 風の音を聞きながら

プロジェクトのあるタウアから首都のニアメは車で約7時間、途中、まったく人の住んでいない地域がある。ときどき、そんな場所に休憩のために車を止める。車から出たとたん、静寂の世界が広がっている。その静寂の世界に入ると、急に、われに帰る。普段は、プロジェクトは活動が忙しく、ニジェールの田舎に住んでいるのに、静かな生活と縁がないからかもしれない。われに帰ると、風の音が聞こえてくる。

風の音を聞いていてある人の言葉を思い出した。それは、モーリシャスという島国で就学率100%を短時間で達成したこと有名な元教育大臣のUNESCOでの講演の最後を締めくくった言葉だ。「いままで、いろいろと教育政策

の成功のために必要なこととお話してきましたが、私自身がかつても大事にしていることは、人の話を直接聞くことです。教員、校長、教育省の役人、親すべての人の話を他のひとを通さず聞いていました。小学校一年生にも、先生方に教室の外に出てもらい、彼らの話を直接聞きました。この聞いた話の中に、教育政策を成功に導く鍵がありました。」

このプロジェクトは、最終的に学校の環境改善を目指しているのに、プロジェクトスタッフが会って話しているのは、教員や親がほとんどである。児童が何を考えて、どのような授業を受けているか、恥ずかしい話、ほとんど知らない。灼熱の3月、学

校を巡回していても、本当に暑いだろうと想像しながら、授業を受けている児童が溢れている教室の前を通りすぎる。今度、時間を作って、教室と一緒に児童と授業を受けて、一日過ごすことにしよう。ふと、そう決心した。(H)





## COGES、全国全ての小学校に設置へ

2005年4月、ニジェールのCOGES政策に大きな変化がありました。どのような経緯で政策転換が決定され、今後のCOGES、そしてプロジェクトの行方にもどのような影響が及ぼされるのでしょうか？プロジェクトの対応策も含めて考察します。

### ニジェールのCOGES政策の転換

ニジェールのCOGES政策は、この4月に大きな転換がありました。その経緯は以下の通りです。世界銀行のミッションが3月末より4月にかけて「教育開発10ヵ年計画」を支援している世界銀行の「基礎教育開発支援プロジェクト」の進捗状況の評価を目的にニジェールに2週間滞在し、結果として、COGES政策の進捗の遅れが指摘されました。ニジェール側はその対応策の提出を求められ、早期のニジェール全小学校へのCOGES設置案を提案しました。内容は、

1. ニジェールの全小学校へのCOGESの設置
2. COGES委員に対する、教科書管理と財務管理についての能力改善
3. すべてCOGES担当官への移動手段の供与

というものです。

この案は、すべてのドナーとの共通認識を得て決定された、毎年1000校ずつCOGESを増やしていくというこれまでのニジェールのCOGESの推進案を破棄したものです。なぜ、ニジェールは、このような急激で少し乱暴な政策転換を行ったのでしょうか。実は、教育開発10ヵ年計画の中で、教科書の配布管理をCOGESが行うことが予定されており、その配布予定の教科書がすでにニジェールに到着しました。教科書の配布先としてのCOGESを早急に設置しなければならないという事情があり、解決策として、この案が採用されました。

政策の転換について、ニジェール側がドナーと協議をしなかったのですが、他ドナーの大きな反対もありませんでした。その理由は、教科書の配布の遅れは、教育の質の改

善に深刻な影響を与えているということ、いままでまったく進展がなかったCOGES政策が、多少問題であっても、進展することのメリットは大きいという認識があったためと思われる。

### みんなの学校プロジェクトの対応

これまでの、みんなの学校プロジェクトの活動方針は、ニジェールのCOGESが毎年1000ずつ増え、そのタウア県分のCOGESの設置を支援し、COGES委員の能力強化を通じた学校運営への住民参加を促進するという構図を前提として組み立てられていました。主な活動は、1) 民主的なCOGES委員選出支援、2) COGES委員に対する地方分権化政策に対応する能力改善、3) COGES担当官の能力強化と移動手段の供与によるCOGESモニタリングシステムの確立です。そして、これらの活動を通して、学校運営への住民参加を促し、学校単位で、校長や教師に加え、親や地域住民に、学校の予算、人事に関する意思決定の責任を任せることで、参加者が主体となりより効果的な学習環境を作り出し、地域に根ざした学校の実現を目指しています。これら、本プロジェクトが採用した学校運営への住民参加の方法論は、ニジェール政府から高く評価され、この方法論による援助を他の地域に拡大してほしいという教育大臣からの直接の要請も受けています。

しかし、今回のCOGESの政策転換は、本プロジェクトの経験から重要と思われる機能的なCOGES設置のためのプロセスをほとんど省略しています。例えば、COGES委員の民主的選出は行われません。これでは、新しいCOGESは、住民の声を反映した組織ではない可能性が高くなります。また、COGES委員の能力改善を行わず、住民参加を促す

仕組みも作らないため、COGESの機能性に疑問が多く残ります。つまり、新しく設置されたCOGESは、学校運営委員会という名前のみ組織で、本プロジェクトの対象校と比較すると機能しないCOGESと言わざるを得ません。この政策が実施された後、タウア県の場合、機能するCOGES(みんなの学校プロジェクトの対象校)と機能しないCOGESが同時に存在することになるのです。

この状況に対し、プロジェクトでは、新しいCOGES政策の実施に合わせて、タウア県のすべての小学校に対し、COGES委員の民主的な選出を援助することにしました。さらに、現在すすめているCOGESのグループ化(COGES連合の設置、我流用語解説参照)をタウア全県に対して行い、このCOGES連合の内部自主研修によって、機能しないCOGESのレベルの引き上げ、タウア県内のCOGES間の差をなくす努力を行います。これにより、タウアのすべての学校に民主的で機能的なCOGESが生まれ、住民の潜在的な能力を組織化すれば、COGESがタウア県教育レベルの全般の改善へ大きな貢献をなすことが可能になるはずで

今回のCOGES政策の転換も一見、プロジェクトにとってマイナスに見えますが、プロジェクトは、それをプラスに転換していきます。





## 児童主体の活動へ「APPクラブ」スタート！

APPは、学校カリキュラムの中の1つの教科ですが、現在のところニジェールでは、十分機能している学校は多くありません。そこで今年1月末、改めてAPPについて見直し、実現可能なAPP授業を実施することを目的に、コニ郡サルナワ地区25校の教員85名を対象に、児童心理学とAPPの目標等を含めたAPP研修を行いました。(ニーズレターVOL.6参照)

今年度は、教員のストライキがあり、4ヶ月遅れで学校がスタートしたにもかかわらず、研修を受けた学校では、積極的にAPPを導入し児童とともに学校環境改善や児童の未来のために独自の活動を展開しています。また、APP研修を受けていない地域のいくつかの学校でも、APPの必要性を理解し、校長を中心に試行錯誤しながら、APP活動を実践しています。

これらの学校を巡回する中で、特に活発にAPP活動が機能している学校に共通して見られる工夫がいくつかありました。それは、児童に責任を持たせていること。時間割を調整し、無理のない時間配分にアレンジしていること。地域の人たち(COGES)と活動内容を話し合い、互いに協力して活動を行っていることです。

そこで、APP活動に関わる児童、校長、地域住民の話し合いのもと、「APPクラブ」を開始することにしました。この「APPクラブ」の特徴は、何種類かのクラブから児童自身が好きなクラブを選び、児

童が主体となり、それぞれの活動を実施することです。教員は、彼らの自主性を尊重し、住民と協力してその活動を指導したり、サポートします。彼らに選択権を与えることで、活動意欲と責任感を培い、APPを継続的な活動とすることが最大の目的です。

「APPクラブ」に賛同し、実践しようとしている学校が次々に出てきた今、いよいよ新APPがスタートします！

### < APPクラブの効果とは？ >

児童自身が活動を選択できるため、活動に取り組む意欲・責任感の向上につながる。

従来型のクラス単位の活動から全学年で時間帯を決定し実施するため、校長・教員が協力して計画を立て実施しやすい。

学年混合型により児童から児童への縦割り指導が可能である。

集団行動を通して、集団の一員としての自覚を深め、連帯感・責任感を持って自主的に行動できるようになる。

クラブ長・副クラブ長を児童中心に選出し児童主体で活動を行うため、教員の負担を軽減できる。

COGESとの話し合いで活動を決定するため、活動によっては、人的及び資金的な協力が可能である。

## ・・・ ホットアップ APP！ ・・・

### 元祖「APPクラブ」小学校紹介

APPクラブのヒントをくれた学校です



ケタ郡タジェエ小学校 「伝統食器の蓋づくり」

### 今 実際に行われているAPP活動を 齋藤シニアがお伝えします！

私たちのタジャエ小学校は、1クラス36名(3年生)の小さな学校です。女子児童12名は、食器のふた作りを婦人会の女性に教えていただいています。週に4回、放課後に30分間です。習い始めた当初は、先生がいないと何もできない状態でしたが、基本を覚えた今では、小物入れや壁掛けなども作れるようになりました。上手に作れるようになったので、機会があったら市場でこれらを売って、学校建設の資金にしたいと考えています。男子児童24名は、ラクダのミルク用フィルター作りをCOGESの代表と一緒にしています。

僕たちの学校は、植林をしています。COGES活動計画で苗木を購入しました。全校児童がグループになり、各苗木を責任を持って育てています。COGESが今年学校の周りに塀を作ってくれたので、動物の被害もないし安心して苗木を育てられています。自分たちの苗木が一番早く大きくなってほしいので、毎日欠かさず水を与えています。6年生のグループの苗は、なんだか大きいように思います。グループの誰かが肥料を与えたようです。僕たちもヤギや羊の糞を集めて肥料を与えようと思っています。僕たちは4年生、でも6年生に負けないぞ！



イレロ郡タジャエセダンテ小学校 全校児童による「植林活動」





イレラ郡バダギシリ小学校「刺繍」(5・6年女子希望者対象)及び全クラスによる「教室補修作業」



土壁の教室は、雨季になると豪雨のために土台が削れてきます。それを保護するために石を集めてこのように積む作業がニジェルではとても大事なことです。以前は、保護者や用務員が行っていましたが、授業で詳しく説明し、児童自身で行うことで教室を大事にする心を育てようと考えました。(教員のコメント)



ケイタ郡ケルグレス小学校「ゴザ作り」3年生1クラスの小学校、女子児童7名対象、男子児童17名は、縄網作りをしています。

砂漠地帯にある学校です。この地域では、牧畜が盛んですが、我が校では新しい技術の習得のため学校菜園を試みています。この活動に半信半疑だった保護者ですが、児童が真剣に積極的に取り組んでいる様子を見て、今では協力的になりました。収穫した野菜は、半分を給食の材料に、残りは市場で売り、その売り上げで畑に動物の被害を防ぐ塀を作りました。(教員のコメント)



チンタ郡バガエトゥウ小学校「学校菜園」世界食料機構の援助で学校給食が導入されている。

## APPクラブ学校紹介

### ～ブザ郡 タマ小学校の場合～



調理クラブ



ミレット柵作りクラブ



合唱・文化クラブ

タマ小学校は、教員・児童・住民の意見を聞き可能な限り活動を取り入れました。出来るだけ時間割の中で活動が行えるよう、毎週金曜日の午後2時間をAPPの時間に設定しました。低学年は、創造性を育てよう全員「図工クラブ」とし、各クラスで絵を描いたり、切り絵をしたり、ねんど遊びをしています。クラブ活動は学年が混合なので、児童から児童への指導が自然に行われており、とても効率的だと感じています。このクラブを始めてから、子どもたちに責任感が出てきたように思います。そして、とても積極的になりました。今後の変化も楽しみに見守りたいと思います。(校長のコメント)



玉葱小屋屋根作りクラブ



サッカークラブ



図工クラブ

### ～コニ郡 ツアルナゴンマ小学校の場合～



合唱クラブ



ねんど細工クラブ

ツアルナゴンマ学校では、まず住民会議を開き、どんなクラブがこの学校に適しているか相談をすることから始めました。毎週火曜日と金曜日の放課後、約1時間半行っています。児童自身が自由に活動を選べるためか、APPの日は、児童の欠席数が減っています。先生その他、地域の人たちも講師として参加してくれ助かっています。学期末には、発表会を開く予定です。(校長のコメント)



レンガ造りクラブ



裁縫クラブ



スポーツクラブ

### ちょこっと用語解説

#### APPとは(生産実習活動)

児童1人1人が自分たちを取り巻く地域社会を理解し、卒業後の生活に役立てられる技術・知識を身につけることを目的とした教科

# COGES連合って何？

## ～その概要と未来～

この我流用語解説も3回目となりました。1回目と2回目は、それぞれ、COGESと教育の地方分権化についてお話してきました。今回はCOGES連合です。この用語も前回と前々回の用語解説と深く関わっています。COGES連合は、その名前が示すとおり、COGESをグループ化するものです。現在、みんなの学校プロジェクトは、このグループ化を支援しています。しかし、なぜ、COGESをグループ化する必要があるのでしょうか。なぜ、どこで、どのように、いつ…その解説が今回のテーマです。

### COGES連合の目的

COGES連合は、新しいニジェールの地方分権化政策によって生まれたもっとも小さい行政単位「コミュニティ」ごとに、COGESをグループ化するものです。このCOGESのグループ化は、ニジェール基礎教育省発布の法令により、公認された政策で、目的は様々散らばるCOGESをグループ化することによって、行政との交渉窓口とすることされています。

プロジェクトでは、この公式な目的の他に異なる期待をこめ、COGES連合結成を支援することにしました。

もともと、COGES政策は教育に関する重要な意思決定権を、国や州から学校レベルに委託することで教育実践を改善することを目指す地方分権化政策に基づく改革案です。学校単位で、校長や教師に加え、親や地域住民に、学校の予算、人事に関する意思決定の責任を任せることで、参加者が主体となりより効果的な学習環境を作り出すことを目指しています。この学校主導型経営が成功すれば、現行の公立教育の枠の中で、地域に根ざした学校の実現し、学校統治の民主化、資源の効率的活用、アカンタピリティーの向上、教師の権限拡大、地域の価値観の重視、教育プログラムの改善などの効果があると言われています(注)。

しかし、ここで問題なのは、権限が委譲される側の能力です。もし、能力が十分でなければ、学校主導型経営は機能しません。ニジェールの場合、現在はまだ権限の受け取り手であるCOGES委員の能力が十分改善されていない時点で、1ページの報告でも触れたように、COGESに権限を委託しようとしています。これでは、COGESやCOGESを取り巻く地方住民や教師がその委託された権限をうまく運用していきません。つまり、

今の状況では、COGESは機能しないこととなります。どのようにすれば、COGES委員の能力を改善し、機能するCOGESを作ることができるのでしょうか。

ニジェール政府は、すべての学校にいったんCOGESを設置することを決定したため、現在、6000の能力改善を行っていないCOGESが誕生しました。COGES委員の数は約36000人です。能力改善のための研修を行うには、研修しなければならぬ人数が多すぎ、研修費用も莫大なものとなります。仮に研修を行えたとしても、全国に56人しかいないCOGES担当官でどうやってモニタリングを行うのでしょうか。もっとも効率的で経済的な方法は、COGES連合内で、COGES委員の能力改善を自主研修、モニタリングで行うことです。

そこで、プロジェクトは、COGES連合を自主向上組織と位置づけ、COGESが自ら、研修やモニタリングが出来る能力を与えようとなりました。しかし、実際に組織されたCOGES連合は、プロジェクトの期待を越え、自らが、自らの教育の問題を解決するための目標を設定し、各COGESが生み出した住民の教育改善に対するイニシアチブを汲み上げ、それを改革の大きなうねりとする組織まで成長しようとしています。

### 今後のCOGES連合の活動

最初にCOGES連合となったブザコミュニティはCOGES連合の最初の活動として、女子の就学改善の目標を掲げました。これは、ブザ全体がニジェールでも就学率が低く、特に最も就学率の男女格差がある郡だからです。目標の達成は以下のプロセスを踏みます。まず、COGES連合全体として決めた「女子の就学改善」という目標を各COGESに示します。その目標達成のため各COGESは女子の就学の問題分析を行い、活動計画を設定し、実施します。たとえば、教室自体が足りないことが問題なら、仮説教室を設定し、トイレがないことが問題なら、トイレを建設します。親への啓発活動が必要なら、啓発活動を行います。さらに、各COGESの能力を超えた、教員の不足などの問題があれば、COGES連合が連合内の教員の必要数をあらかじめ取りまとめ、連合が基礎教育省との交渉窓口となり、教員の派遣を促します。

プロジェクトは、このブザCOGES連合のイニシアチブを支援し、教員養成などの県教



育委員会との橋渡しや、各COGESの啓発活動と同時期にラジオなどマルチメディアによる啓発活動を展開することを決めました。さらに、現在、COGES連合を結成中の7つのコミュニティについても、就学の問題をその活動目標とするCOGES連合が多ければ、プロジェクトは、この各COGES連合の活動を支援して、タウア県全体の女子就学キャンペーンとして展開していこうと考えています。

このキャンペーンは、ブザコミュニティCOGES連合の例で説明したような低就学の様々な原因に包括的な対策を行うことで、大きな効果が望めます。キャンペーンの目標指標は、前年度に比較し今年の小学校への入学人数の50%アップ、女子の就学者数の100%アップというような具体的な数字で示します。これはCOGES連合の活動の成果が、目に見える形で示すためです。成果を具体的に示すことは、国やドナーからの評価を期待するためだけではなく、COGES連合やその連合を支える住民の大きな自信となるのです。その自信がより大きな力を生みます。

もしこのキャンペーンが成功すれば、住民が主体となった世界でももっとも効果的な就学キャンペーンのひとつとなるでしょう。

### COGES連合の定義

最後になりましたが、COGES連合の定義は、そのままずばり、「住民参加型学校運営の未来を担う組織」と定義してこの項を終わりたいと思います。

プロジェクトチーフアドバイザー  
原 雅裕

(注)吉良直「学校主導の米国公教育改革:アカンタピリティーと公共性の視点から」(淑徳大学国際コミュニケーション学部学会機関誌Vol.5 No.1 2001年1月)



# なぜ、子どもたちは学校に行けないのか？

～参加型ベースライン調査の分析結果から～

昨年11月にコニ郡サルナワコミュニティのパイロット校21校を対象にして実施した「参加型ベースライン調査」の結果がまとまりましたので、本稿ではその一部をご紹介します。

今回の調査はパイロット地区における学校教育、学校運営にかかる現状を把握し、プロジェクトの成果を測るための基礎情報とするという目的に加え、COGES委員が実際に調査者となり、地域の現状、問題点を把握し、住民との間でそれらを共有することで、今後彼らが主体となって、コミュニティのニーズに基づいた学校活動計画を実施していくための一助とすることを目的として実施しました。本調査実施にあたってはCOGES委員に対する研修を行い、保護者や地域住民に対する質問票による聞き取り調査、更に住民集会を開催して学校就学地図や季節カレンダー、グループ討論など参加型形式の調査を実施しました。

## なぜ、子どもたちは学校へ行けない？

ニジェールの子供の小学校への就学率は50%(2003年)と、世界の国々の中でも最低レベルにあります。では、子どもたちの就学を阻む原因には、一体どのようなものがあるのでしょうか？パイロット地区の住民のうち、子どもを学校に行かせていない親320人に質問したところ、図1のような結果が出ました。

まず、「学校に行く価値、有用性を認めない」という回答は全体の15%でした。この回答には「学校は重要だと思わない」、「学校へ行き卒業しても職にありつけないから」、「子どもが不良になるから」といったものも含まれ、学校教育そのものに否定的あるいは疑問を持つ親の割合を示しています。

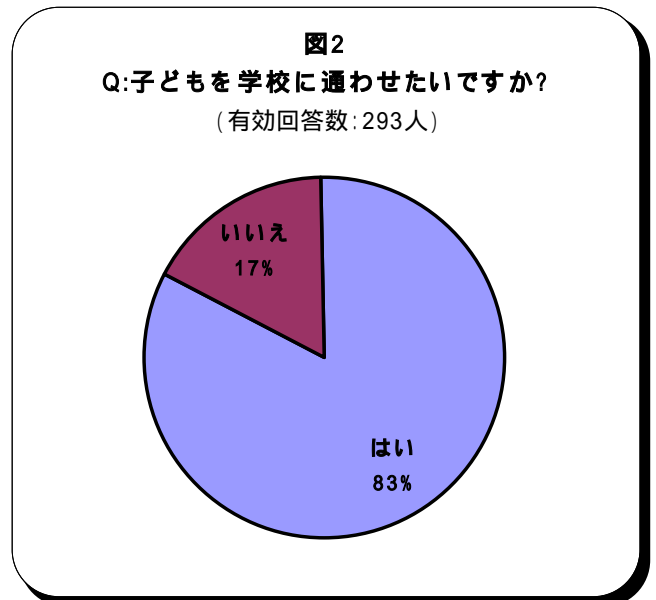
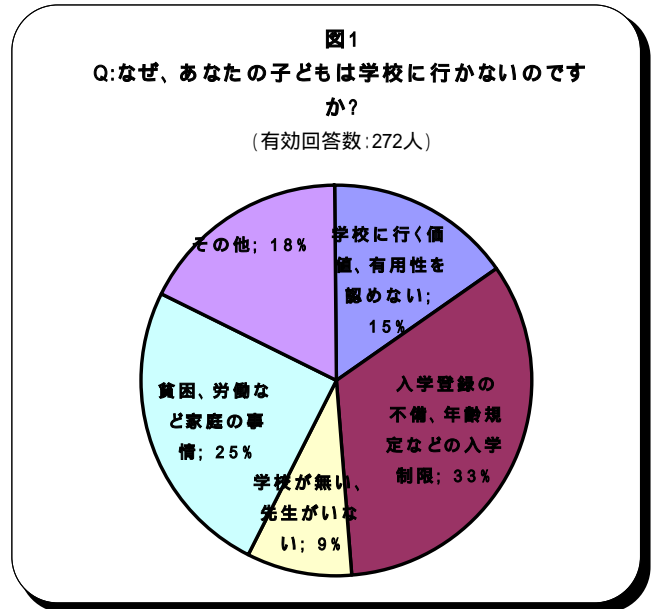
「入学登録の不備、年齢規定などの入学制限」を理由に挙げた親は全体の33%で、この回答には「入学登録が毎年行なわれていない」、「子どもの年齢が既に規定の年齢を超えていて入学できない」、「児童の収容能力が十分でなく入学が制限される」、といった回答が含まれています。

「学校が無い、先生がいない」ことを理由に挙げた親は全体の9%で、「学校が無い」という回答には、建物が無いということのほか、ストライキや、先生が赴任してもすぐに村を出て行き、授業が行なわれない、など教員の不在で学校が閉鎖され、授業が行なわれない、という意味も含まれています。上記の入学制限とあわせてこれらの回答は、学校の運営管理、行政の体制不備によって子どもの就学が阻害されていることを意味し、全体の回答に占める比率も合計して42%と他の理由に比して高い数値になっています。これら学校の運営管理体制の不備は、住民の学校や行政に対する不満、不信感を高める原因になっているといえます。

「貧困、労働など家庭の事情」を理由に挙げた親は25%で、「家事、水汲み、畑仕事などの労働への従事」のほか、「女子の早婚」、「海外への出稼ぎ」、などの理由が含まれます。

「その他」の理由を挙げる親は19%で、「コーラン学校に通っているから」、「子どもたちが望まないから」、「神がお望みでないから」、といった回答がありました。

次に、「自分の子どもを学校に行かせたいか」という質問に対し、図2のとおり242人(83%)が「はい」と回答しています。子どもを学校に行かせていない親の約8割が自分の子どもを学校に行かせたいと思っているのです。上記2つの質問に対する回答結果から言え



ることは、学校教育に対し否定的で子どもを学校に送りたがらない親がいる一方で、大半の親は子どもに学校教育を受けさせることの重要性を理解し、子どもに学校教育を受けさせたいと思っているということです。そして子どもに学校教育を受けさせたいにもかかわらず、貧困など家庭の事情、そしてとりわけ先に述べたように入学制限や学校閉鎖など学校の運営管理体制の不備によって止むを得ず子どもが学校に行けない状況にあるといえます。

(次ページへつづく)

## 学校への住民参加度、意識は？

みんなの学校プロジェクトは、学校運営への住民の参加を通じて、学校を取り巻く様々な問題を解決して、学校運営を改善していくことを目標としています。その意味で、地域住民の学校運営への参加度、参加に対する高い意識が成功への鍵となります。活動の主役となる地域住民のプロジェクト開始時における学校運営への参加に対する意識はどのようなものなのでしょうか？

「あなたは学校の問題を改善するために貢献できますか？」という問いに対して、保護者351人中、「喜んで貢献する」と答えた人は219人で全体の63%、「貢献する」、「要請があれば貢献する」を合わせると、322人で全体の92%でした(図3)。能動的であれ受動的であれ、学校の為に何かしら貢献したいと思っている保護者の割合は非常に多いことを示しています。

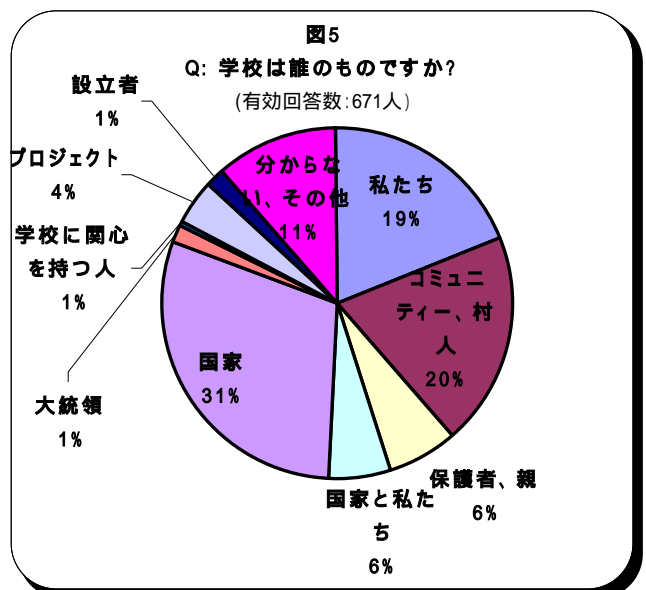
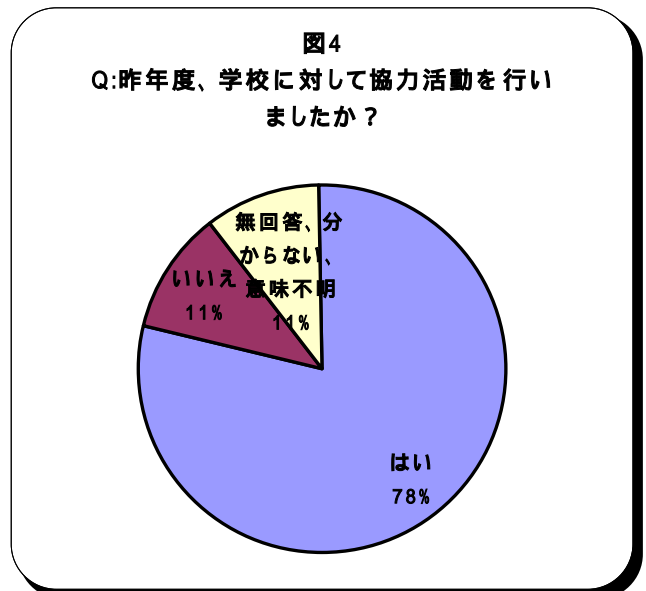
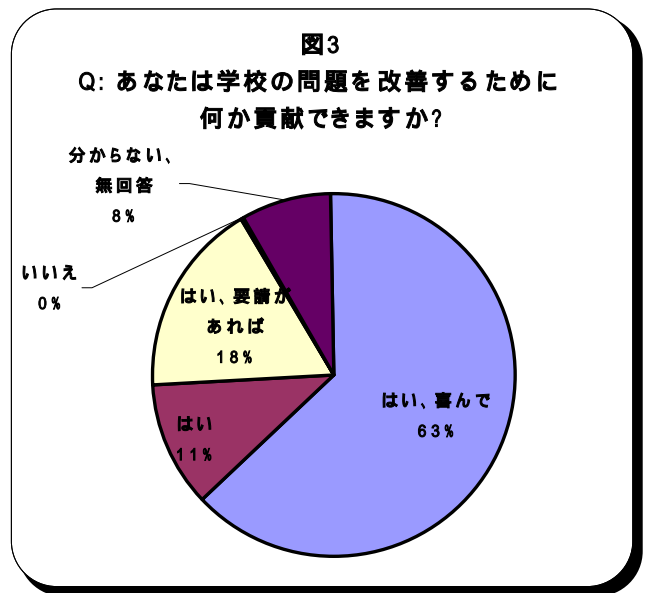
貢献したいと思う人が多くても実際の貢献度、参加度はどの程度なののでしょうか？「昨年度、学校に対して協力活動を行いましたか？」(図4)という問いに対しては、276人(78%)が「はい」と回答し、その内容として、わらび教室の設置や学用品の購入のための労働や資金の提供などが挙げられました。昨年度、保護者による学校への資金提供が行なわれたのはパイロット校中15校で、その15校の合計額は714,400Fcfで、一校あたり平均47,626Fcf(日本円で約1万円)でした。COGES以前にも学校活動への住民の参加があったことがわかります。これらの結果だけで住民の参加が多いのか少ないのかと判断することは難しいですが、昨年までの住民参加度がどの程度のものだったのかを住民による資金提供額で今年度の結果と比較すると、今年度は、全てのパイロット校の住民が提供した金額は合計で3,898,185Fcf、一校当たり平均162,424Fcfと、昨年度にそれに比べ約3.4倍でした。

最後に、地域住民の学校に対するオーナーシップ意識を見るために「学校は誰のものですか？」という質問をしました(図5)。回答者671人中「私たち」「コミュニティ」「保護者、親」「国家と私たち」を合わせて339人(51%)、「国家」「大統領」のものとした人は212人(32%)、その他合わせて120人(18%)でした。言い換えると、パイロット校において活動開始時点で「学校はみんなのもの」という意識を持っている人の割合、つまり「みんなの学校度」は51%でした。今後も引き続き住民の参加を通じて、コミュニティに根付いた学校づくりが進められ、「みんなの学校度」が100%に近づけるよう期待したいところです。

(次ページへつづく)



学校就学地図作成の様子(ギダンカディ小学校)  
COGES委員が中心となり住民とともに就学、未就学世帯をチェックしていく。地図作成を通じて子どもの就学だけでなく様々な村の情報も収集された。





## 調査の意義

今回の調査ではパイロット校のCOGES委員が調査者となって質問票に沿って地域住民に対し調査を行い、その上でさらに学校地図、季節カレンダー、社会組織図、グループ討論、などの参加型村落調査手法(PRA)を活用した調査を実施しました。子どもの非就学の原因など一つのテーマを様々な角度、手法によって捉えることで質問票による定量的データだけでは汲み取れない定性的データを収集すること、また、学校を取り巻くデータを収集するにあたっては広く地域住民の社会、生活、文化を捉え、その中での学校の位置づけや関係性を探ることで、本質的な問題把握を試みるのが目的でした。

例えば質問票のみでは把握できなかった情報として次のようなものがありました。小学校には通っていないくとも大半の子どもたちがコーラン学校(村でコーランを教えている寺子屋のようなもの)に通っていること。小学校とコーラン学校と両方かけもちで通っている子どもも少なからずいて、かけもちの子どもたちはそうでない子どもに比べて成績が優秀であるということ。村の中に水源がないところほど、子どもの就学率や住民の学校に対する意識が低いこと。不作の年の児童の出席率が悪いこと。農閑期になると成人男性の7,8割が近隣国へ出稼ぎに出ること、などなど。。また、村の中における就学・

非就学家庭の割合などが地図上でビジュアルに示されたことで、COGES委員や住民自身も初めてその実状が分かり、その場で就学促進に向けての議論に発展したところもありました。このように今回の調査は参加者すべての人にとって貴重な学びの機会となり、学校における様々な問題の意識化、共有化が促され、その後のCOGESによる啓発活動計画や学校活動計画策定の一助となりました。

みんなの学校プロジェクトでは、来年度の入学時期に合わせて8月、9月にタウア県内のCOGESによる女子の就学向上キャンペーンを実施する予定です。現在、キャンペーン戦略を策定中ですが、今回のベースライン調査の結果分析を踏まえ、効果的な戦略をCOGESとともに考えていきたいと思えます。



## プロジェクト カレンダー

### 2005年5月～6月

5月2日:COGES担当者会議

5月3日:COGES連合講師研修(対象COGES担当官)

5月10～21日:第1回目COGES連合研修(イレラ44校、コニ25校、マダウア22校、タウアC 29校、アバラック18校、チンタ21校)

5月31日:月例APP会議

6月1日:COGES担当者会議

6月2日:COGES連合モニタリング研修(COGES担当官対象)、学校プロジェクト会議

6月7～18日:第2回目COGES連合研修(イレラ44校、コニ25校、マダウア22校、タウアC 29校、アバラック18校、チンタ21校)

6月11日:パイロット校対象APP経験シェアリングセミナー

本誌「みんなの学校だより」に関する皆様のご意見・ご感想をお聞かせください!

～ 編集・発行 ～

### ニジェール住民参画型学校運営改善計画 (みんなの学校プロジェクト)

お問い合わせ・連絡先

Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER

電話/FAX: +227 - 610 - 571

E-mail: Rosedesaha@aol.com または Onoue.Kimikazu@jica.go.jp

みんなの学校プロジェクトホームページ(改訂中)

<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>

## 編集後記 キリク

4月、5月は、一年中ほとんど暑いニジェールのもっとも暑い時期です。だから、少し涼しくなる夜は、外で過ごす時間が増えて、そんな時は夜空を見上げながら時を過ごします。この時期は、砂嵐を運んでくるハルマタン(偏西風)が終わり、空気が澄んでいて、星がよく見えます。スターダストという表現がぴったりの光景です。ここに住む人たちも、昔から、たくさんの星たちを毎日眺めていたらしく、星にまつわる昔話を多く残しています。昔話といえば、最近「キリク」というアフリカの昔話から題材をとったアニメーション映画をみました。この映画は、生まれたての男の子が、村に災難をもたらし、大人の男もかなわな

い魔女に知恵と勇気で立ち向かい、最後に魔女を倒し、村に平和をもたらすというお話です。単純な話ですが、魔女が意地悪いのは、背中に抜けない棘がささっていて痛いからで、それが魔力の源泉だとか、たくさんの寓話的な部分があり、面白いお話でした。特に面白かったのは、主人公が子どもで、大人たちが出来ないことを、やり遂げるところです。アフリカでは、一般的に、大人の特に男社会で、女性と子どもの地位は低く、実際の生活では、子どもが主人公となることはほとんどありません。しかし、昔話は、実話ではなく、人々の夢を語ったものが多いから、「キリク」も、自分の夢や未来を子どもに託した大人の希

望を表現したものなのかもしれません。もしそうならばアフリカにも子どもたちが主体性を与える活動が盛んになる素地はあるはず。実は、ニジェールにも「キリク」に似たお話があります。だからここでも、きっと子どもたちも大人と一緒に自分たちの意見を言い、授業の中心となり、学校の運営まで参加する、そんな学校作りも可能なはず。こんな学校作がプロジェクトでもできたなら、その映画を見ながら思いました。

そして、そんな高い目標も、簡単に実現できる、そう思わせるほど、今夜は星が近くに見えました。(H)

## 「COGESは村のルネッサンス!!」

中間評価終わる、果たして、COGESは機能しているのか

「COGESは村のルネッサンス」

この言葉は、プロジェクト中間評価における裨益者調査で、調査団長である横関JICA国際協力専門員の「COGESが設置されて、変化がありましたか。」という問いに対するある中年の女性の回答でした。彼女はこう続けました。「COGESが来ることによって村が変わりました。学校に人々が集うようになりました。」横関団長がインタビューしたのは、ニジェールタウア州コニ県にあるカオアラサンという村の母親会のメンバーでした。彼女たちは学校に行ったことがなく、字も読めませんでした。今は識字教室に通っています。「字が読めるようになってなにかよくなったことはありませんか。」という団長の問いに、別の女性が「無知の闇が開け、世界が明るくなりました。」と答えました。あまりに深い答えに、団長もプロジェクトスタッフも一瞬唖然とし、次の瞬間とても感動していました。もしかすると、彼女たちの答えの中に、このプロジェクトの意義がすべて詰まっているのかもしれない。

プロジェクトの中間評価は、7月12日から22日の11日間に渡って行われました。日程は、大臣を始めとした教育省関係者への表敬訪問、COGES推進室長、COGES監督官、担当官へのインタビュー、裨益者インタビュー、調査結果分析、教育省との協議と合同調整委員会での調査結果発表とその結果に基づい



調査団員によるCOGES委員へのインタビュー  
(サルナワサントル小学校にて)

た今後のプロジェクトの方向性についてのミニッツの署名、ドナー会合における調査結果発表と続く、非常に中身の濃い調査でした。特にハイライトは3日間に渡って行われたモニタリング支援体制を支える地方行政官と裨益者インタビューでした。

COGES監督官やCOGES担当官は、COGESのモニタリングを支えていく人たちであり、最初こそ研修や会合を行ってその能力強化に努めましたが、現在は、COGESモニタリングのすべてを彼らだけで取り仕切っています。果たしてどのくらいのCOGESの意義やその役割に対して理解が深まったのか、COGES担当官がどのくらい自分の仕事に自覚を持っているのかプロジェクトとしても知りたいことでした。質問に対する答えは正確で、時には質問者の誤解を説明してあげているというほどの理解力を示しました。彼らの答えには、一年半の活動による自信からか、自分たちがCOGESを支えているという自覚が感じられました。

裨益者インタビューは、合計8つの小学校を訪問し、それぞれ、校長、COGESメンバー、保護者会、母親会メンバー、村民、生徒グループに分かれ行われました。このインタビューは、対象校が増え、COGESの活動のほとんどをCOGES担当官による巡回報告書、報告会、学校活動計画の結果などだけでしか知ることができなくなったプロジェクトスタッフにとって、COGESが本当に機能しているのか、その一部でも知りえる機会となりました。インタビューを聞きながら改めて感じたことは、上述した女性の言葉に象徴されるように、COGESは村や学校が住民の力で変わっていく起爆剤となりえるということでした。プロジェクトが行ったことは、主に、保護者会、COGES役員の民主的な選挙と住民参加型の学校活動計画作成、実施研修です。しかも、これらの導入のために行った研修は、前者が1校当たり校長に対して1日、後者が1校当たりCOGES役員3名に対して2日間です。あとは、地方行政官がモニタリングを行っているだけです。プロジェクトとしては最低限の



ミニッツ署名を終えて、関係者記念撮影  
(基礎教育・識字省にて)

投入しかしていません。この少ない投入に対して、多くの成果が上がっていることは、この中間評価でも確認されました。(次ページの中間評価概要を参照)

最近、この結果に対して、「どうして多くの成果が上がったのか?」、「本当にそうなのか?」という率直な質問を受けることが多くなりました。当然の疑問だと思われます。そんな場合、すべては住民の中にあっただとお答えしています。つまり、住民には民主的な選挙を受け入れるだけの素地や能力があり、学校活動計画を必要とする学校への希望や需要、そしてそれを実施する能力と意欲があったということです。地方行政官にも自覚や能力が初めからあったのです。間違いなく成果のすべてはニジェールの人々自身が上がっています。もし、このプロジェクトが、住民が達成した成果に少しでも役立つとしたら、それは、すべての活動を、住民や地方行政官には能力や意欲がすでにあるということをも前提とした戦略のもと実施したからでしょう。

最後に、この評価に協力してくれたニジェールの中央・地方行政官、COGES委員や住民、児童、保護者の方々、また、プロジェクトを出来るだけ客観的に評価するために、真摯にしかも精力的に強行日程をこなし、プロジェクトに人々の生の声を聞く機会を与えていただいた中間評価関係者に感謝します。



# 中間評価結果概要

今回の中間評価調査の結果、期待される成果及びプロジェクト目標は現時点で既に達成されたと判断され、残りの実施期間でさらに活動を拡大していくことが決まりました。本稿では中間評価調査団による現地報告書をもとに中間評価の結果概要をお伝えします。

## 期待される成果及びプロジェクト目標の達成状況

### 成果1.パイロット校の住民が学校に対してプロジェクト開始前より肯定的な考えを持つ

プロジェクト開始前には、多くの父母は学校が政府によってもたらされ、政府によって運営されるものとみなしており、従来の学校のあり方について不満をもっていたけれども、自ら学校の状況改善のために積極的に学校運営に関わることは稀でした。しかしながら、COGESが導入されたことで学校が住民のものであるというオーナーシップ意識に目覚め、積極的に活動に参加するようになりました。また、学校がより身近なものになったと感じる人も増えてきました。(次頁コラム記事参照)

### 成果2.パイロット校において地域住民による学校運営への参画が増大する

地域住民の意識の変化に伴い、具体的に学校運営に関わる人も増えました。例えば、パイロット校において、学校運営にかかる住民集会への参加者は以前に比べ約7倍に増えました。また、学校運営改善のために行なう諸活動の住民による資金調達額は以前の5.5倍に増えました。また、住民が学校改善のために提供するものはお金だけではなく、教室の設置や修復にかかる労働や資材の提供もありました。

### 成果3.パイロット校においてCOGESの運営モデルが確立する

機能するCOGESを設立するために、プロジェクトでは研修を行な

い、COGES委員を民主的に選出することを勧めています。すべての対象校においてこれら委員は住民集会を経て民主的に選出されました。また、COGESが中心となって学校活動計画を策定し、そのうち、90.4%の活動が実施され、学校に関する様々な改善がみられました。それらの活動は、インフラの整備、校内安全、保健衛生、環境整備、学習効率向上支援、就学向上のための啓発活動、APP、COGES機能強化、の分野で実施されました。

### 成果4.タウア州においてCOGESの支援体制モデルが確立する

各学校のCOGESをモニタリング支援するための行政システムとして、タウア州の9つの視学官事務所に配属するCOGES担当官9名及び、州レベルでCOGES担当官を統括する1名のCOGES監督官の能力が研修や毎月の月例会議を通じて強化されました。各COGES担当官はCOGES関連研修の講師としての能力を身につけているほか、各COGESを巡回しモニタリングし、それを月例会議の場で報告、意見交換を行なうことで、COGESの活動についての経験と知識が蓄積されています。また、州全体で9名のみでのCOGES担当官の業務を軽減するために、COGESをグループ化しCOGES連合を結成することで、支援体制が強化されています。

### プロジェクト目標.タウア州のCOGES対象校において、地域住民のニーズを反映した住民参画型学校運営が行われる

タウア州のプロジェクト対象校(329校)のうち、83%(273校)の学校が学校活動計画の中で計画された活動のうち、70%以上の活動について実施しており、プロジェクト目標の指標は達成されました。

## 評価五項目に沿った評価結果

評価項目	結果	コメント
妥当性	非常に高い	教育開発10ヵ年計画(PDDE2003~2012)における目標の一つとして、初等教育の就学率の向上がある。本プロジェクトは、住民参加による学校運営を通じて学校に対する不信感を改善することを実現した。また政府のCOGES実施方針は当プロジェクトが実践したアプローチ・方法に基づくものであり、本プロジェクトで作成した学校活動計画マニュアルはUNICEFが支援する他州での活動にも活用されている。こうしたことから、本プロジェクトは政府の基本政策と整合性があり、国のニーズに合致するものであるといえる。他方、日本側の妥当性としては、教育はニジェール国におけるJICAの優先セクターであり、またODA政策としてBasic Education for Growth Initiative (BEGIN)があり、住民参加の促進が含まれていることから、日本の政策とも整合性があるといえる。
有効性	大変良い	プロジェクト対象校(2005年3月31日時点:329校)において、プロジェクト目標は既に達成しており、またほとんどの成果も達成していることから有効性があったと判断される。特に促進要因としては、住民の学校運営に対する動機の高さと、教育へのニーズが高かったことがあげられる。
効率性	よい	活動は適切かつ効率的に行われている。本プロジェクトは、無償資金協力によって実施された「ニジェール国ドゥソウ県、タウア県小学校建設計画」のソフトコンポーネントCOSAGEでの経験を有効に取り入れている。また地方行政官によるモニタリングシステムを確立した。さらにNGOへの積極的な業務委託を行い研修の深化を図っている。こうしたことにより、様々な面において効率化が実現している。日本側、ニジェール側双方の投入の質、量、タイミングはいずれも適切であった。
インパクト	大きい	本プロジェクトはCOGES政策の推進と実施において、多大な影響を及ぼしている。活性化したCOGESの活動は、対象校における就学率上昇の大きな要因と考えられ、近々上位目標は達成されると考えられる。そして、本プロジェクトが用いたCOGES活性化のアプローチと手法は、政府のCOGES政策にも貢献している。政府が作成したCOGES研修マニュアルは本プロジェクトが開発したマニュアルに基づいている。以上により多大なインパクトがあったといえる。
自立発展性	高い	COGESを通じてコミュニティーと学校との間の信頼関係が築き上げられ、住民からの積極的な資金、労力、物品面での学校への貢献も実現している。COGES監督官、担当官のキャパシティディベロップメント(CD)も行われ、モニタリング体制も構築されている。以上により自立発展性はあるとすることができる。そして、NGOの積極的な活用はNGOのキャパシティディベロップメントとなり、プロジェクト終了後もプロジェクト成果の他州への普及・発展に貢献すると期待される。ただし、政府のCOGES政策の一貫性と、COGESへの適切な予算配賦が必要であり、また、さらなるプロジェクトの支援もCOGESの活性化には必要といえる。

## プロジェクトの効果発現に貢献した要因

開始後1年半という短期間でプロジェクトがこれらの成果を達成することが出来た要因として、次のことが考えられます。

**(1) 汎用性と費用対効果の追及した参加型アプローチ** 住民の教育に対する高いニーズと学校運営への住民の参加意識は非常に高く、本プロジェクトで導入した汎用性と費用対効果にすぐれた学校運営住民参加アプローチが、これらの住民のニーズと意識をうまく引き出し、具体的な活動へと結びつけることに成功しました。

### (2) 先行プロジェクトの活用

本プロジェクトに先立って実施された無償のソフトコンポーネントCOSAGEが事実上現在のCOGESモデルのパイロットプロジェクトとしての役割を果たしており、本プロジェクトはその経験を十分に活用することが出来ました。

**(3) 地方行政官への効果的なキャパシティ開発とモニタリング体制の構築** 地方の教育行政官であるCOGES担当官が研修の講師として養成され、研修は参加者の理解を促進するため、極力簡略化し、現地の言葉で分かりやすい内容になるように工夫しました。研修後のモニタリングについてはCOGES担当官が担い、月例会議の場でその報告、意

見交換がなされ、彼らの能力強化が図られています。このように地方教育行政官を中心に据えたCOGESの支援体制が構築されました。

## 今後の課題及び活動方針

### (1) 行政、ドナーへの働きかけ

COGESに関する政府のこれまでの政策は首尾一貫しているとはいえ、どのようにして機能するCOGESを全国の小学校に普及し、どのような体制で維持、モニタリングしていくのかといった具体的なビジョンを未だ提示できていません。また、ドナーの意向に影響を受けやすく、長期的なビジョンなしに目先の利害のみを追求した安易な政策決定が目につきます。今後は、政府が確固とした方針を策定し、それに基づいた磐石な政策を遂行するために、各国のドナーとの協調もはかり、政府に働きかけていく必要があります。

### (2) COGESの自立化

天候の不順などにより貧困の状況が現在より悪化した場合、住民参加を基にした学校運営が困難を生じる可能性はあります。プロジェクトの対象校では、これまでCOGESの活動資金はすべて住民自身による拠出金のみで行なっていますが、多くの地域で住民の大多数が絶対的貧困レベルに属しており、これら住民の負担は必ずしも容易なものではありません。COGESによる収入創出活動、あるいは政府からの補助金など、住民参加をますます活

発にしていくためには資金調達手段及びその能力の向上が継続性の観点からも必要になってくると思われます。

### (3) COGES連合の設立によるモニタリング体制の確立

本年4月のCOGES政策の変更(全国すべての小学校に対するCOGESの一斉設置)に伴い、プロジェクトは今後、タウア州内の他ドナーの介入地域を除くすべての小学校を対象校とすることになりました。これに伴い、プロジェクト目標をはじめ、PDMが改訂されることになりました。タウア州のほとんどの小学校が対象校となったことで、モニタリング体制も含めた州レベルでのCOGES普及モデルを強化、確立することが次なる目標となります。課題は増加したCOGESのモニタリング体制ですが、タウア州で9名しかいないCOGES担当官が1300を超える全ての小学校を直接モニタリングすることは不可能です。そこで、プロジェクトが今年度から導入を進めている「COGES連合(行政の最小単位であるコミュニティ毎に20～30のCOGESがグループ化した組織)」がモニタリング体制を補完する役割を担うことが期待されています。今後のCOGESの活動が継続する上での鍵を握っているのがまさにCOGES連合であると言えるでしょう。今後のプロジェクト活動はこのCOGES連合の結成とその機能強化に重点を置いていきます。

## 「裨益者の声」

今回の中間評価現地調査では計8校のCOGES委員、保護者、児童へのインタビューが行なわれました。その中で出てきた学校やCOGESの活動に対する住民、児童の声を紹介します。

Q:COGESが出来て何が変わりましたか?

「保護者会だけのときは共益費が集まらず、自分たちで出来る活動は限られていた。COGESが出来てからは共益費が集まるようになった。その理由はCOGESの運営に透明性があるから。またCOGESを通じて学校で何が起きているのが住民が理解するようになったから。」(COGES委員、ビルビス小学校)

「以前は親が学校にほとんど来なかったが、今は頻繁に授業や会合に参加するために学校に来るようになった。」(児童、カオラ・アルハッサン小学校)

「COGESによって学校の囲いが作られたり、トイレが作られたりして、清潔になった。」(児童、ナダラ小学校)

Q:学校のことをどう思っていますか?

「以前は学校のことを良く知らなかったし、反感、不信感を持っていました。学校は悪いことを子どもたちに教え、害になるものだと思っていました。COGESの啓発活動によって、今は学校のことをもっと理解するようになり、子どもへの教育のために学校が必要なものであると考えるようになりました。」(児童の母親、ナダラ小学校)

「教育を受けてこそ国を発展させることが出来る。もし、自分が学校に行くことが出来たら自分の人生はもっと良いものになっていただろう。」(児童の母親、ナダラ小学校)

Q:読み書きが出来ると何が変わりますか?

「どんな職業であれ、読み書きが出来るとより良い仕事、生活が出来ようになる。無知でいるとだまされたり、いろんなところで損をする。」(児童の母親、カオラアルハッサン小学校)

「COGESなどの委員会の活動を容易にしてくれる。私は会計を担当しているが、読み書きが得意でないので、学校に通う子どもに教えてもらうこともある。また、外国に出稼ぎに出て行った家族からの手紙が理解できるようになることは嬉しいこと。お金がいくら送金されているかもしっかり分かるからね。」(児童の母親、ピングレ小学校)



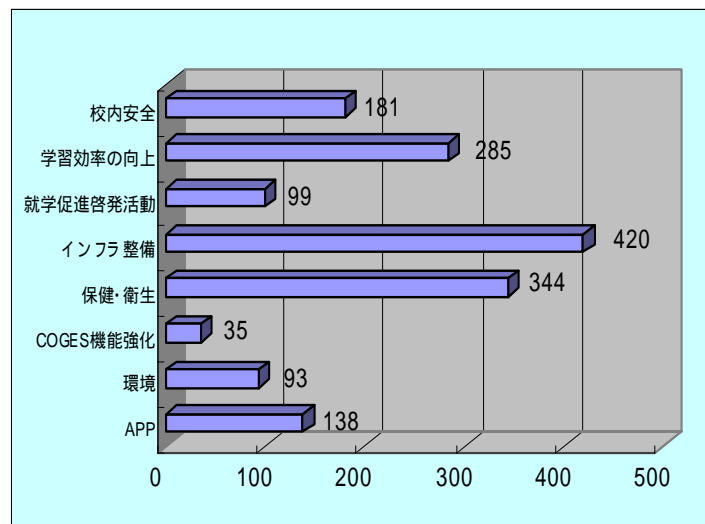


# 数字で見る、これまでの活動と成果

COGES学校活動計画実績

	03-04年度 (対象校171校)	04-05年度 (対象校329校中325校)
学校活動計画総数/ 1校あたり平均計画数	617活動/ 3.61活動	1,765活動/ 5.43活動
実施総数/ 1校あたり平均実施数	575活動 3.36活動	1,595活動/ 4.91活動
実施率	93.19%	90.37%
学校活動計画予算総額/ 1校あたり予算総額/ 1児童あたり予算総額	26,414,028Fcfa/ 196,126Fcfa/ -	98,919,811Fcfa/ 304,369Fcfa/ 1466Fcfa
実施総額/ 1校あたり実施総額/ 1児童あたり実施総額	77,862,435Fcfa/ 154,468Fcfa/ -	77,862,435Fcfa/ 239,577Fcfa/ 1,154Fcfa
資金投入率	76.67%	78.71%

04-05年度学校活動計画カテゴリ別活動



研修実施実績

	2003年度	2004年度	2005年度 (2005年6 月末現在)	合計
<b>COGES選挙研修</b>				
対象学校数	171校	158校	976校	1305校
参加者数	171名	158名	976名	1305名
1参加者あたり研修費用	7000Fcfa	7000Fcfa	2000Fcfa	
<b>COGES学校活動計画研修</b>				
対象学校数	171校	158校		329校
参加者数	513名	474名		987名
1参加者あたり研修費用	7000Fcfa	7000Fcfa		
<b>COGES財務研修</b>				
対象校数		171校		171校
参加者数		342校		342名
1参加者あたり研修費用		7000Fcfa		
<b>COGES連合研修</b>				
コミュニオン数/対象校		1/26校	6/159校	7/185校
参加者数		78名	433名	511名
1参加者あたり研修費用		4000Fcfa	4000Fcfa	
<b>APP研修</b>				
対象校数		25校		25校
参加者		85名		85名

住民による分担金拠出(パイロット校24校のデータ)

	COGES以前 (03-04年度)	COGES以後 (04-05年度)	増加倍率
住民による分担金を 徴収した学校数	15校	24校	1.6倍
1校あたり平均拠出 金額	29,767Fcfa	3,898,185Fcfa	5.5倍

住民総会開催数及び参加者数(パイロット校24校のデータ)

	COGES以前 (03-04年度)	COGES以後 (04-05年度)	増加倍率
1校あたり平均住民 総会回数	0.4回	3.3回	8.25倍
住民総会参加者数	850人 (推定)	6874人	8.1倍

COGES担当官巡回記録(2005年11月~6月)

	全COGES担当官 (9名)	COGES担当官 一人あたり平均
巡回学校数	1505校	167校
月平均巡回学校数	188校	21校
巡回日数	765日	85日
月平均巡回日数	96日	11日
バイク走行距離	77,155km	8,573km
月平均バイク走行距離	9,644km	1,072km
ガソリン代	1,997,863Fcfa	221,985km
月平均ガソリン代	249,733Fcfa	27,748km

入学登録者数(プロジェクト対象校中325校のデータ)

	03-04年度	04-05年度	増加率
入学登録者数	61,108人	67,453人	9.41%
男子	38,931人	42,501人	8.4%
女子	22,177人	24,952人	11.1%

## プロジェクト活動紹介イベント

## 「みんなの学校デー」

私は、みんなに訴えたい。  
 お父さん、お母さんに言いたい。  
 あなたたちは、学校は男の子の行く所だと言った。  
 あなたたちは、私を学校に行かせなかった。  
 なぜ、私をこんなに早く結婚させたの。  
 あなたたちは、私から勉強する機会を奪った。  
 私も国のために、社会のために働きたかったのに。  
 今、私は無知の世界にいる。  
 でも、私の妹たちを、学校に入れてあげて。  
 彼女たちに勉強させる機会を与えて。  
 先生たちは、この国の教育のために。  
 看護師さんは、病気で苦しんでいる人たちのために。  
 法律家は、平等な権利のために。  
 知識人は、この国の発展のために。  
 大人たちは、子どもたちの未来のために。  
 教育を受けることは、  
 すべての問題の解決の出発点なのだから..

この詩が静かなメロディーの音楽とともに10歳の女の子によって詠われると、静まりかえった会場からは、すすり泣きの声が聞こえてきました。この日多くの人の心を打ったこの詩は、トゥドゥニにというタウア州の田舎の村にある女の子が、学期末に行われる「学校祭」で演じたもので、女子就学促進のために、COGESが企画し、教員と児童と一緒に作りました。すばらしい詩なので、「みんなの学校デー」で、多くの人々の前で披露してもらうことにしました。

「みんなの学校デー」は、タウア州で行われている住民の力によって行なわれているCOGESの活動や、APPで児童たちによって行われているすばらしい活動を、全国の人々に知ってもらうために企画しました。

7月21日(木)ニアメで行われた「みんなの学校デー」には、人口社会活動大臣、基礎教育識字省関係者(教育大臣秘書、基礎教育総局長、COGES推進室長など)、教育関係NGO、外国ドナー関係者などが招待され、隊員を含むJICA関係者を合わせ、約100名が集まりました。児童たちの発表のほか、JICA教育分野協力隊員活動紹介、プロジェクト活動紹介ビデオ、パネル・写真の展示と盛りだくさんの内容で、約4時間に渡るこれらの紹介は、あっという間に過ぎてゆきました。

JICAニジェール駐在員事務所笹館所長によるJICA教育分野協力(協力隊員の活動など)の紹介の後、原プロジェクトリーダーが会場をアツと驚かせた現地語(ハウサ語)を交えての挨拶、続けて各COGESのダイナミックな活動の様子、プロジェクトの活動と成果をまとめたビデオの上映が行われました。ビデオの内容は、民主的な選挙によってもたらされた住民の意識の変化や行動がインタビューを通して紹介され、またCOGES活動によって改善された学



校環境の変化を現地の生の声と子どもたちの笑顔とともに上映されました。

児童による劇「タマ村の歴史とその由来」では、子どもたちの迫力ある演技・表現力とユーモアで、会場から笑みがこぼれ、詩の発表「村の女の子の主張」では、村で学校に行けない子どもの現状をリアルに表現しており、強烈なメッセージで会場の招待者の涙をさそっていました。このように児童による演劇や詩の発表、そして会場に展示されたAPPによる児童の作品に、多くの賞賛の声が聞かれました。

これらの様子は、テレビ・ラジオにて全国で上映され、地方のプロジェクト関係者にも今回の模様が届けられました。

基礎教育総局長は、「プロジェクトの内容がとても分かりやすかった。これらの活動を是非他のドナーやNGOに紹介したい。ビデオ・パネル展示・写真によって、活動の様子が一目で把握できました。また、児童によるAPP活動発表も画期的な発想であり、ニジェールの歴史や文化を尊重・伝承しようという取り組みがすばらしい。今回出席できなかった教育省関係者には是非この内容を紹介したい。」と、この日の内容を絶賛するお言葉を頂きました。





# COGES連合の結成と就学促進キャンペーン

この6月で、タウアに7つのCOGES連合が結成されました。連合内の学校数は、151校です。連合の結成のために、プロジェクトは2回の研修(会合)を行いました。この研修はそのほとんどの内容を参加者自身が自主的に考えるという試験的なものでした。住民参加研修にした理由は、COGES連合自体その結成がCOGES政策では予定されていますが、その構成は意義、行政的地位等は規定されていないため、COGES連合をできるだけ住民の意向を取り入れた組織にするためです。最初、研修の導入として、ニジェールの村の学校の問題を図解した絵を見せて、それらの問題がいったいどのレベルに属する問題か考えてもらいました。つまり、様々な問題がそれぞれ、村や学校レベルで解決できる問題なのかそれとも県レベルなのか州レベルなのかそれとも国なのかを明確しましたのです。明確にすることがわかると同時にもっと多くの力を結集しなければならないということも解ってきて、COGES連合が本当に必要だと参加者みんなが感じるようになりました。その後、COGES連合の意義や役割、その組織の構成などは、参加者が考えます。1回目の研修の終わりには、参加者が考えたCOGES連合が出来上がっています。参加者は各COGESの代表ですから、各村、学校に話し合った内容を持ち帰り、本当にCOGES連合に参加するかどうかを村の住民集会によって決定し、第1回目の研修で決められたCOGES連合の規定についても話し合います。COGES連合へ参加が村民の総意で可決された学校は、第2回目の研修に参加し、COGES連合の規定についての各COGESで話し合った内容によってコメントを受け、最終的な規定を作成した上で、COGES連合事務局の選挙を行って、事務局を選出し、COGES連合が結成されます。この研修を通して確認できたことは、参加者の意識や意欲の高さでした。出来上がったCOGES連合の規定は、プロジェクトの想定したレベルを超え非常にレベルの高いものでした。

結成されたCOGES連合の最初の仕事は、ニジェールの地方行政の最終単位であるコミューンにその結成を届け出て、正式な組織として認定してもらうことです。それから、COGES連合としての活動計画を作成します。この活動計画は、連合単位でしか解決できない問題を分析し、その解決策を計画化したものです。一番多かった計画は、就学促進でした。これは、世界で教育開発が最も遅れているニジェールでも就学率の低い、特に男女格差が大きいタウア州では、まず最初に解決しなければならないことですが、住民も同じ認識を



持っているということがわかりました。驚いたのは、教育開発のための住民による様々なイニシアチブがすでに発揮されていたということです。タウアの学校におけるもうひとつの大きな問題は、契約教員の問題です。この問題にもすでに取り組みもうとしている連合がありました。契約教員の問題は深刻で、その原因は待遇の悪さ(給与の低さ)、養成期間や短さやその内容の不十分さからくる教員としての質、モラルの低さです。契約教員の授業は面白くなく、欠席も多く、コミュニティーは不満を持っており、学校不振の大きな原因になっています。この問題に関し、ある連合では、契約教員に対する研修を自ら組織することをその活動計画の中で提案していたのです。もちろん、COGES役員の中には必ず校長が入っているために可能な計画ですが、この大きな問題を自分自身で解決しようとするイニシアチブには驚かされました。

プロジェクトは、活動計画の中で、すべてのCOGES連合がその計画の最初にあげている就学促進計画を支援することにしました。なぜなら、この計画を成功に導くためには、教育の地方行政の支援が必要だからです。教員の配置は、行政側の意思に係っています。せっかく、COGESが就学を促進して、その児童のための仮説教室を作っても教員が配置されなければ、なんの意味もありません。そこで、プロジェクトは、行政側を巻き込んだ就学キャンペーンを行うことにしました。このキャンペーンが成功し、実際に多くの子どもたちが新入生と登録された時、行政側もCOGES連合の実力を知り、COGES連合自身も自分たちが自分たちの子どもたちの未来に大きな役割を果たせることを肌で感じる事が出来るでしょう。その意味でもプロジェクトはこのキャンペーンに対し、全力を挙げて支援します。

COGES連合は、教育のための住民組織という枠を超えて、村の問題を解決するための住民組織に発展する可能性を持っています。現在、タウア県は去年の不作が影響して、食料が不足し、多くの村で、多くの子どもが飢え、死に直面しています。今年は雨が順調なので、あと2ヶ月持ちこたえられれば、飢えに犠牲になる子どもはいないはずですが、プロジェクトもCOGESも「子どもに未来を」という標語を掲げながら、今の状況に対し手をこまねいて静観しているだけです。COGES連合が発展すれば、将来的に食料安全供給のネットワークを作ることも可能になってくるでしょう。一日でも早い成長を祈って、プロジェクトは全力でCOGES連合を支援します。



## APPって何？

## ～その新しい形～

今回の用語解説は、少し、COGESの直接関係する用語を離れてAPPの解説です。

APPの日本語の訳は、生産実習活動です。ニジェールでは正式な学校での教科で、時間割では週1.5時間が振り分けられています。ニジェールだけでなく、多くのアフリカ諸国でも実施されているこの教科は、1987年に新しく成立した教育に関する「新プログラム」の一環で導入されました。定義は、「従来型の理論中心の教育から地域の実情を反映した生産活動を学校カリキュラムに組み込み、児童一人一人が自分たちを取り巻く地域社会を理解し、卒業後の生活に役立てられる技術・知識を身につけること」とされています。

しかし、ニジェールではその導入のため多くの努力がなされてきたにもかかわらず、盛んにはなりません。ニジェールだけでなく、他のほとんどの国でもAPPは成功していません。なぜなのでしょう。その理由については、ニューズレター第6号でも触れていますが、プロジェクトの1年半の活動で、その理由がさらにはっきりとしていました。要するに、他の教科に比べて優先順位が低いため、その促進のための政策もないし、国が予算も付けていないのです。したがって、現在のAPPの置かれている状況は、多くの教員にとっては、カリキュラムに組み入れられてはいるものの試験科目ではなく、重要性は低い、実施したくてもやり方はわからない、やり方がわかっても教材も教材を買うお金もないところなのです。

こんな状況の中、果たしてAPPは成功し、プロジェクトがAPPに期待する「魅力的な学校作り」に貢献できるのでしょうか。また一時教科が盛んになっても果たしてそれが継続するのでしょうか。APPは教員だけが頑張ればうまく行くのでしょうか。

プロジェクトが考えた解決策とは、教員や保護者やコミュニティのみんなが必要だと思い、児童が楽しいと感じるAPPを作ることです。この解決策を見つけるきっかけは、APPクラブにありました。APPクラブを始めてからクラブがある日には授業に欠席しがちな生徒も学校にくるようになり、クラブの時には児童に笑顔がありました。教員は子どもが夢中になる教え方にやりがいを感じ初めました。保護者や住民の人たちは、自分たちクラブで教えていることの教員として呼ばれ、興味を持ち、自分の子どもたちの将来に役立つことだと思えるようになりました。結果として、子どもはAPPクラブの日を心待ちにするようになり、教員は自分の教え方に自信を持ち、住民は教材購入などにお金を出すようになりました。

実はAPPにはもうひとつ重要な役割があります。それは、村の文化の継承です。先日首都ニアメで行った「みんなの学校DAY」で、タウア州ブザ県にあるTamaという小学校のAPPクラブのメンバーが演じた劇は、村の誕生の由来をテーマにしたものでした(下記コラム参照)。この劇は村の長老がAPPクラブのメンバーに語った古い村の伝承を元にして作



られたもので、それを見た多くのニジェールの教育関係者に感銘を与えました。その理由は劇自体の完成度が高かったこともありますが、それよりも、ニジェールの学校教育でその必要が叫ばれながら無視さえ続けてきたものが、その劇の中にあっただけです。それは、自国や地域の伝統や文化を伝えるという教育の形で、ここで演じられた劇はまさにそれお具現化したものだったのです。

10月からプロジェクトでは、子どもの主体性を引き出す指導法などを中心とした教員研修、住民にAPPの意義と参加の重要性を強調するCOGES委員研修を同時に行い、APPクラブの中に新しいAPPの形を模索します。

最後になりましたが、APPの定義は、みんなが満足し、楽しみ、自己の文化を再認識できる活動と定義してこの章を終わりたいと思います。

プロジェクトチーフアドバイザー  
原 雅裕

a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a p p a

## ぼくたち、私たちの村 タマ村の歴史 ～タマ村は、どうしてタマ？～

(ブザ郡タマ小学校 文化クラブより)

### < 第一章 >

むかし～、むかしのことだった。たった1つの井戸しか無い小さな村があった。村人は、大切な水をこの1つの井戸から供給していたのだが、いつの日からかその井戸の側に、恐ろしいライオンが住み着くようになった。村の女たちが井戸の側に近づくと、そのライオンは、恐ろしいうなり声を上げ人々を怖がらせた。

大切な水を確保できず困っている村人たちの様子を見て、村中の狩人たちがここぞとばかりに立ち上がった。そして、すさまじい格闘の末、狩人たちの勇氣ある行動によってライオンは仕留められ、村人たちは、自由に井戸を使えるようになった。

### < 第二章 >

水を確保できるようになったこの村は、もう1つ問題があった。

村の土地である。その村の土地は、やせていてごつごつした石(タマと呼ばれる石)で覆われていた。～この石が、タマ村の名前の由来である～

恐ろしいライオンは仕留めたものの、大事な食べ物が無い……。そこで、村の長老たちは考えた。

「この石で覆われた土地を開拓して農業を始めよう！」と。

村人たちは立ち上がり、みんなで力を合わせ毎日、毎日、土地を耕した。村の住民により、みるみる土地は豊かになり、十分な穀物・野菜を供給できるようになった。村は少しずつ大きくなっていった。

### < 第三章 >

村が、大きくなるにしたがって、住民の中には、他の国へ出稼ぎに行きだすものが始まった。一年に一度男たちは村に戻ってきて、家族に十分なお金とお土産を持ってきた。しかしながら、同時にいろいろな病気も。

(次頁へつづく)





## ～タマ村の歴史～ (前頁からのつづき)

家族の大黒柱である男たちが、出稼ぎに行くことは、村の女性にとって喜ばしいことではなかった。なぜなら、子どもの教育をすべて抱え込まなければならなかったし、家事にも忙しかった。そんな状況をすこしでも改善しようと村の女性たちはいろいろなことを考えた。

女性グループを作って、家事の負担を軽減したり、子どものお守りを協力したりした。

現在では、「女性の地位向上のためのグループ」・「女性の識字教育のためのグループ」等々多くのグループが活動している。

タマの村は、動き出している。タマ、タマ、タマ……。これが、私たちの村。誇り高き私たちの村。

終わり

## プロジェクト カレンダー

### 2005年8月～9月

8月1日:月例COGES担当官会議

8月2日:COGES連合会議、タウア視学官事務所長会議

8月8～12日:プロジェクト事務所夏休み

9月3日:月例COGES担当官会議

9月4日:COGES連合会議

9月3～8日:JICA基礎教育支援紹介ビデオ撮影

9月7～16日:JICA特定テーマ評価「住民参加」調査

9月中旬～下旬:COGES女子就学向上キャンペーン

### みんなの学校プロジェクト ホームページが

リニューアルしました!!

(<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>)

「みんなの学校だより」のバックナンバーはホームページからダウンロードできます。新しいホームページにはフォトギャラリーや動画もあります。是非、ご覧ください。

### 本誌「みんなの学校だより」に関する 皆様のご意見・ご感想をお聞かせください!

~~~~~ 編集・発行  
ニジェル住民参画型学校運営改善計画  
(みんなの学校プロジェクト)

お問い合わせ・連絡先  
Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER  
電話/FAX: +227 - 610 - 571  
E-mail: Rosedesaha@aol.com  
または Onoue.Kimikazu@jica.go.jp

## 編集後記 夢想癡

先日、タウアの小学校の教室の後ろで授業を見ていたら、窓のそばばかりを眺めている子がいた。見つかって怒られなければいいかと瞬間的に思った。そう思ったのは、実は自分が小学校のころ、外ばかり見てよく廊下に立たされたからだ。大人になるにつれ処世術を覚え、人がいるとぼうつとしていることを気づかれないようになったが、本質は変わっていない。一人で、タウアからニアメに向かう7時間の車の中では、眠っているか、ぼ外をんやり見ている。しかし、外を見ているからといって、景色を見ている訳でも、一つのことを考えるのでもない。ぼんやり何かを考えている。そんな時、そう100回に一回くらい、とてもいい考えが浮かぶ。今はプロジェクトの問題解決策のことが多い。

10年くらい前、アフリカの様々な国に行き、その国にあるほとんどの援助機関やプロジェクトを回っていたことがある。その頃、フランス語圏アフリカで同じような仕事をしている同国人が居らず、ホテルや省庁で会うのは、世銀とかDACとかGTZに雇われたコンサルタントと呼ばれる人が多かった。特に、世銀のコンサルタントは、機敏で、言葉が出来、すぐに大臣とか要人と会い、一晩で分厚い報告書を書いていた。比較する人間がこういう人たちなので、いつもものすごい劣等感に悩まされていた。どうしたら追いつけるのだろうといつも考えていた。しかし、その内、そういう人たちが中心になって作っ

たプロジェクトに感心できるプロジェクトが少ないということに気づいた。その理由は、あるいは、このような人たちが現場に行く機会がなく、人々の声が聞こえていないからかもしれないと思った。しかし、案件立案者が現場に行く機会が少ないのは当然だし、現在ほとんどの案件は住民の声を反映すべく、その立案に参加型手法を使っている。しかし、ほとんどの案件立案が参加型手法を使っている現在、その手法だけではいい案件にかならずしも繋がらないということはわかっている。それでは、なにが問題なのだろう。

ある日、ある人と話してそれがわかった。その人は、上述の問題は案件立案者に想像力と創造力が欠けているのだよと言った。彼の言う想像力とは、1日1ドル以下の生活をしているひとが国民の50%と知ったとき、その国の状況をまざまざと想像できる力であり、最貧国のニジェルで、学校をよくするために住民が5万円相当分の資源を動員したと聞いたときに、それがどのくらいすごいことか、想像出来ることである。あるいは、数少ない機会しかない現場で、聞いたり、見たりしたことで、本質を見抜く力と言ってもいい。創造力とは、現場の情報と、援助の潮流や国の政策などを総合的に判断し、もっとも費用対効果の高いアプローチを創造する力だ。この創造力は、一見、進んでいるように見える援助業界にたくさんある常識や固定観念に囚われない、自由な発想と、柔軟な

思考が必要である。あの人たちが作った案件は、恐らく、自分が属する組織が気に入るように作られた案件だったのだ。そう気が付いた時、専門書を閉じ、ひたすら夢想して、想像力を磨くことにした。もちろんこれは、自分が怠惰なことの言い訳だが、案件立案実施者にとって、この二つの力が欠けていることは致命的な欠陥と言ってい。自分に適正があるかわからない。

先日、上述した5万円を住民が動員した話を引いて、ニジェルの教育分野に大きな影響を持つドナーの案件担当者にニジェルの住民の能力を否定的に見て作られた案件のアプローチの改善を迫った。彼の答えは、自分は経済学者だから、アプローチの効率性を数字で明確に示さない限り納得は出来ないとやった。それならば、次回会うときは、ニジェル住民の教育への想いを、数字として、圧倒的な成果とともに示そうと心に誓った。(H)



## タウア全州にCOGES連合設置

### 学校活動計画研修も同時に実施、その5つの意義とは

在プロジェクトでは、タウア州の32コミュニティ(注1)で、COGES連合(注1)設置研修と1034校に対する学校活動計画研修(注2)を同時に実施しています。プロジェクトがすでに設立している7つのCOGES連合に、今回設立される32のCOGES連合を加えるとプロジェクト支援地域はタウア州全州に広がりました(注3)。研修は経済的で効果的な巡回、キャンピング方式で行うため、研修班が村に泊り込む日数も多くなります。そこで、研修班(車4台、NGO要員4名、支援要員2名)を2班に分けましたが、それでも3ヶ月の巨るマラソン研修となりました。この研修は、規模も大きいのですが、その意義も多岐にわたります。その意義を以下整理します。

#### COGES連合設置、学校活動研修の意義

**1. プロジェクト直接、間接裨益者の増大**  
プロジェクトの前半の活動で証明されたように、COGES(注4)委員の民主的な選出を行い、学校活動研修(注5)を受け、学校活動計画を実施した学校では、住民の教育への意識が高まり、住民の学校運営への参加が活発化し、学校の環境、教育へのアクセス、質が目に見えて改善します。今回の連合設置と同時に学校活動研修の対象1034校は、すでに民主的なCOGES委員の選出を終えおり、今回の学校活動研修を受けた後、COGESが「機能」しはじめます。これらの学校に、プロジェクト旧対象校を加えると、タウアのほとんどすべての学校に「機能」するCOGESが設置されたことになり、その活動成果の恩恵を受

ける児童は20万人を越えます。さらに、間接的な裨益者である保護者および地域住民は180万人に上ることになります。

#### 2. 州レベルでのCOGESモニタリングシステムの確立

COGES政策の大きな問題点の一つは、地方行政官であるCOGES担当官が一人で平均200以上の担当COGESを直接巡回してモニタリングができるかという点でした。この問題に対し、プロジェクトではCOGES連合の内部自主モニタリングとCOGES担当官の連携という解決策を提案していました。今回、この提案をタウア州全州で実現することにより、世銀等が疑問視していたCOGESモニタリング体制の確立の可能性を示しました。

#### 3. 全国普及モデルとしての「みんなの学校」モデルの実証

民主的な住民組織の設立+住民参加による学校改善計画の実施+地方行政官によるモニタリングという本プロジェクトが開発したCOGES設立、活性化モデルが、1300校において機能することによって、その速さ、単純さ、効果、持続性が実証され、全国普及モデルとしての有効性が証明されます。(プロジェクト解説参照)

**4. 住民主体の教育開発の可能性の提示**  
教育の地方分権化政策では、どの程度の権限が住民に移譲されるか、住民側の能力がどの程度改善されるかが重要です。しかし、それ以上に、住民の教育開発に対する意向が行政側にどの程度反映されるかがさらに重要です。COGES連合は、今後、住民の声を代表して、政府に届け、政策に本当に住民の意向を反映させ、住民主体の教育開発を実現出来る組織となる大きな可能性を持っています。

#### 5. 住民組織としてのCOGESの有効性

COGESはタウアの農村にあって、唯一の民主的で機能する住民組織である場合が多く、COGESが主導する活動の村民への影響力は、今回の就学キャンペーン(小学校入学者数が前年度の3倍となる)でも実証されました。COGESを教育分野のおける

住民組織という視点だけでなく、村の中の唯一の住民組織ととらえ、マルチセクターな村落開発の基本組織として利用することも可能です。

#### 今後の問題点

COGES連合が多く有意義を持っていることは確かですが、設置されはじめてから日も浅いことから問題もあります。

第1の問題点は政策的な立場です。COGES連合は、正式にその結成がCOGES政策の中で予定されている訳ではありません。教育開発10ヵ年計画の実施評価組織にはCOGES代表、COGES連合の参加は認められていません。今後COGES連合の内容を充実していくとともに、その地位の確立のため行政に働きかけていく必要があります。

第2の問題点は、COGES連合が機能化が必要です。COGES連合が機能するために運営費が必要です。COGES連合への政府からの補助金等が期待できない現状では、連合内の各COGESがお金を出し合う必要があり、実際に現在は各COGESの負担金でCOGES連合の運営費がまかなわれています。しかし各COGESの財源には限度があり、プロジェクトは、COGES連合の運営費を捻出する収入創出活動の導入支援を用意しています。

COGES連合が名実共に、COGESを通した住民の声を反映した教育改革の主役になるようにプロジェクトは応援していきます。

(注1) コミュニティとは、ニジェルの地方分権化改革の一環で、創設された最小の地方行政単位です。

(注2) COGES連合は、COGESをグループ化した組織ですが、詳しくはニュースレターVol8の我流用語解説「COGES連合って何」をご参照ください。ニュースターのバックナンバーはプロジェクトHPで見れます。

(注3) アイルランドのNGOの支援地域にある2コミュニティ、Euのプロジェクトの支援地域にある2コミュニティを除く

(注4) COGESについては、ニュースレターVol7. 我流用語解説「COGESって何」をご参照ください。

(注5) 学校活動計画は、住民が参加して作成、実施する学校の環境を改善するための活動計画です。詳しくはニュースレターVol.5「学校活動計画の本当の役割」をご覧ください。



研修参加者のためのマットレスを運ぶ車両



# 「みんなの学校」モデルとは

## みんなの学校プロジェクトが提案する あたらしい住民参加型学校運営の形



### 「みんなの学校」モデルとは

現在、多くの途上国において「万人のための教育」を達成するために、初等教育システムの改善充実に向けた取り組みがなされています。その取り組みの中で地域住民の参加による学校運営の改善向上は一つの大きな柱として、多くの国で政策として取り入れられています。これは国家が「万人のための教育」を提供するだけの“体力”と“能力”（つまり、国家予算と行政能力）を備えておらず、その不足を地方行政や地域住民の力で補い、かつ地域社会のニーズにあった学校教育を提供するという目的が背景としてあります。しかしながら、どのように学校運営に住民の参加を促し、機能させていくのか、具体的な戦略、枠組みについて明確な方針が定まっていなかった場合が多いようです。ニジェールにおいても「教育開発10ヵ年計画(2003-2012)」の中で、COGES(学校運営委員会)の設置による学校運営の分権化、住民参加の促進が明記されているものの、その具体的な戦略、枠組みは当初明らかではありませんでした。みんなの学校プロジェクトは、具体性に欠ける、いわば「絵に書いた餅」であったニジェールのCOGES政策に対し、具体的に目に見える成果とともに機能するCOGESのモデルを示しました。その結果、現在そのモデルがほぼそのまま政府の政策として採用されています。これまで本ニューズレターにて断片的に紹介してきたその内容について、今回一つのモデルとして整理し「みんなの学校モデル」としてご紹介したいと思います。

### 機能するCOGESに必要な3つの要素

機能するCOGESを作り出すために必要な要素として、(1)民主選挙、(2)学校活動計画、(3)研修・モニタリング、の3つが挙げられます。いずれも「みんなの学校モデル」に不可欠なコンポーネントなので、それらの特徴を以下に説明します。

#### (1) 民主選挙

「みんなの学校モデル」を特徴づける最も重要な要素はCOGES委員のうち住民の代表を民主的な選挙で選ぶということです。COGES委員は校長1名、教員代表1名、保護者会代表3名、母親会代表1名、児童代表1名からなりますが、その保護者会代表、母親会代表を選挙によって選びます。COGESの構成員を住



民が選挙で民主的に選ぶことによって、多くの保護者、住民にとって自由に意見ができ、参加しやすい環境が作られ、学校運営には住民のニーズが反映されます。また、民主選挙の実施はやる気と能力のある人材がイニシアティブをとって活躍できる機会を提供し、さらに、組織の透明性やアカウンタビリティも高めます。当初、ニジェールの伝統的な村落社会で民主的な選挙が本当に実施可能なのか危惧を抱く関係者も多かったのですが、プロジェクトの経験から、ほとんどのコミュニティでそれが受け入れられ、機能することが分かりました。コミュニティの中にはほとんど住民の支持なく保護者会を牛耳っていた「抵抗勢力」が存在するところもありましたが、関係者の粘り強い努力で選挙は実現し、その抵抗勢力は一掃されました。この一連の過程で広く住民自身が学校運営により関心を示すようになるようになりました。(みんなの学校だよりVol.4参照)

このように民主選挙の実施は学校運営に不可欠な“機能する”組織をもたらす重要な要素といえます。

#### (2) 学校活動計画

民主選挙で選ばれた代表によって、機能するCOGESの体制が整っても、活動の道筋、枠組みが無ければ具体的にどのような活動をどのように行えばいいのかわからないのが普通です。この活動の道筋・枠組みを示すものが学校活動計画です。まず、計画の策定に



当たっては、COGESが中心となって住民集会などの場で学校が抱える問題の分析を行います。数ある問題、課題のうち、その深刻さ、緊急性、コミュニティ自身で解決可能か、など様々な条件を考慮しながら、解決策や優先順位を定め、年間学校活動計画として策定します。この活動計画の実施予算は、コミュニティの自己資源でまかなわれます。つまり、プロジェクトからの資金や物品機材の投入はゼロだということです。コミュニティの自己資源を使うという点に対し、当初、大半の住民が絶対的貧困にあるニジェールの村落でその可能性を疑問視する関係者もいました。しかし、本ニューズレターでも多々ご紹介するように、学校活動計画の実施において、関係者の予想を大きく上回る住民の参加と数多くの具体的な成果が示されました。多額の資金をつぎ込んで実施する活動は、目に見える大きな成果が上がるかもしれませんが、外部から多大な資金や機材供与は、裨益者の依存心を高かめる上、投入が多ければ多いほどモニタリングの手間がかかるなど将来的に普及型モデルとして成り立ちにくいと考えられます。学校活動計画の成果は地味かもしれませんが、逆に地味でもすぐに成果が見えることで自分たちだけでもできるという自信につながり、新たな展開へと可能性が広がります。

#### (3) 研修・モニタリング

上記、COGES設置の為の選挙及び学校活動計画の策定実施には、まず研修を行ない、それぞれの研修を受けた校長、COGES委員が各学校で活動を行います。しかし初めから、各COGESが自立的な活動の実施を行うことは困難であり、外部者によるモニタリングが不可欠です。「みんなの学校モデル」では、その研修の講師とモニタリングを既存の行政機構、つまり県レベルの視学官事務所有一名ずつ配属されているCOGES担当官が実施するようしました。研修内容は単純で簡略であり、また全てのCOGES担当官は教員経験者であるため、短期間の養成で研修の講師として十分な能力を身につけることが出来ました。モニタリングについてはCOGES担当官がバイクで各COGESを巡回して実施します。タウア州内9名の

単純、簡単

迅速

実用性



COGES担当官は毎月一回月例会議を開催し、お互いのモニタリングについて報告、意見交換を行い、モニタリングなど能力の向上に努めています。さらに、研修の講師とモニタリングの両方を同じCOGES担当官が担当することで研修とモニタリングの内容の双方向のフィードバックが容易になります。このように研修・モニタリング能力強化を中心とした行政のCOGES支援体制強化を行なうことでプロジェクト終了後のCOGESの活動の継続性を図っています。

しかしながら、国のCOGES指定校の数が限定されていた昨年までは、この各県一名のCOGES担当官でモニタリングを行なうことが可能でしたが、今年4月から一挙に全ての小学校にCOGESが設置されることになり、このCOGES担当官だけでは全てのCOGESのモニタリングは不可能になりました。そこで、各COGESを行政の最小単位であるコミューン毎にCOGES連合としてグループ化し、連合が事務局を選挙で選出して、自主的にモニタリングを行ない、COGES担当官の任務を補完する体制作りに取り組んでおり、既に昨年度から他に先駆けて設置した7つのCOGES連合では、やる気と能力を兼ね備えた人材が事務局メンバーとしてCOGES担当官をしのぐほどの活躍しています。

今後、機能するCOGES連合が出揃い、行政とCOGES連合との補完的なモニタリング体制が整えば、「みんなの学校モデル」が州レベルで成り立ち、普及モデルとしての完成度が高まるといえます。

### 「みんなの学校モデル」から得られる成果

「みんなの学校モデル」から得られる成果、つまり機能するCOGESがもたらす成果は実に様々で、教育機会と質の向上に貢献するだけでなく、そのインパクトも含めると教育分野というセクターを越えて影響力をもつ可能性を秘めています。これまでのプロジェクトの経験から得られた成果について以下の4点にまとめます。

#### (1) 教育機会及び質の向上

昨年までの対象校においてCOGESは、学

校活動計画の実施を通して、以下のような子どもの教育機会の向上及び教育の質の改善向上に貢献できることを証明しました。(教育機会の向上)

- COGESによる就学促進を目的とした啓発活動の実施による親やコミュニティーの学校教育に対する意識向上、児童入学登録率の向上、特に女子就学の啓発活動

- 教室の増設
- 教員への便宜供与等による教員の確保

#### (教育の質の改善・向上)

- 校内安全の確保(塀の設置、清掃活動、警備員の雇用)

- インフラの整備(教室の修復、増設、机・椅子等の機材購入または製作)

- 保健衛生環境の整備(飲み水の供給、清掃活動、薬箱設置、植林)

- 学習効果の向上(教科書・教材の購入および支給、夜間学習グループ支援、COGESによる成績管理、教員への便宜供与、成績優秀児の表彰など)

- 地域社会のニーズに応じた教科の導入(生産実習活動支援、クラブ活動支援、修学旅行)

また、7ページの記事で紹介しているように、ニジュールでは教員(とりわけ契約教員)の待遇、教員の養成及びモニタリング体制の不備によって、欠席や不在、授業放棄など教員の勤務態度がとても望ましいといえる状況ではありません。このような状況に対して保護者やコミュニティーが関わり、学校に来る機会が増えることによって、教員の勤務態度にも変化が現れるなど、コミュニティーが学校運営に関わることで中央行政だけでは対処し切れなかった様々な問題の解決に効果を発揮することが実証されました。

#### (2) コミュニティーと学校の関係改善

これまでの小学校は国家によって「村に設立された学校」でしたが、COGESが設置されることで、より住民に身近な存在になり「村の学校」、「コミュニティーの学校」として認められ、住民のオーナーシップが高まりました。COGESの設置以前にも保護者会という組織は存在していましたが、形だけのものであったり、教員(校長)と対立するなど、学校運営に積極的に関われる組織ではありませんでした。教員は国家から任命派遣され、コミュニティーと良好な関係を築くことが

出来ず、孤立するものも少なくありませんでした。しかし、COGESが設置されることで教員・学校と保護者とのコミュニケーションが促進され、同じ土俵で同じ目標に向かって活動することでお互いの距離が縮まり、様々な方面でプラスに作用するようになりました。

#### (3) 住民参加の促進

「みんなの学校モデル」によってCOGESが成立することで、保護者や住民の活動への参加は格段に高まります。例えば、学校活動計画の実施を通じて、昨年度の対象校(329校中データ提出があった325校)では平均して1校あたり239,577Fcf(日本円で約5万円)の住民による拠出金が集められました。もちろん、お金による貢献だけでなく、労働や資材の提供もありました。COGESの設置前と後の比較調査を行なった24校について述べると、住民による学校への拠出金は1校あたり29,767Fcf(日本円で約6600円)から162,424Fcf(日本円で約36,000円)へと約5.4倍に増えました。また、住民集会が開催される回数も1校あたり平均0.4回から3.3回に、集会に参加する住民の数も1校あたり35人から284人に増えました。このように短期間で住民の参加が得られた背景には、もともと住民の子どもに対する関心の高さや国家によって提供される学校の現状に対する不満があったことが挙げられます。子どもの教育に対する関心の高さや学校の現状に対する不満の大きさも以前はきっかけが無かった為に行動にまでは至らなかったと思われれます。そして、「みんなの学校モデル」によって成立した機能するCOGESがそのきっかけもたらし、住民の思いをうまく行動、参加に引き出すことに成功したといえます。言い換えるとCOGESは住民がまさに待ち望んでいた組織であったのです。

#### (4) セクターを越えたコミュニティーの活性化

民主的に選出され、問題の分析から解決に向けたCOGESの一連の活動を通じて、住民は学校や子どもの教育だけでなく、コミュニティー全体の問題にまで関心を広げるところも出ています。例えば啓発活動の結果、教育の重要性を理解した親たちが自主的にグループを作り識字教室に通い始めたり、水資源が不足し、子どもたちも水汲み労働に時間を取られ、就学が阻害されている

5ページに続く



# COGES政策の今後

## 教育開発10計画共同評価ミッション報告から



2005年10月12日～14日にニジェール教育開発10ヵ年計画(PDDE)の合同評価が行われた。この合同評価では、基礎教育・識字省がPDDEのそれぞれの構成要素ごとに去年の年間目標とその達成状況を発表し、その発表に対してドナー等教育開発のパートナーが質問、コメントするという形で進められた。今回は、COGESについての2004・2005年の評価と2005/2006年の目標を検討する。

### 1. 2004/2005年のCOGES政策の評価

#### 1) 2004/2005年度の目標

- 国家、州、県、それぞれにCOGES担当の行政官の配置
- COGES推進室のすべてのメンバーに対する管理研修の実施
- 基礎教育・識字省におけるCOGESのヴィジョンの公式化の促進
- 全国の学校に対するCOGESの設置と最低限の情報(教科書管理の運営、の伝達)
- COGESの促進についてのドナー介入地図の作成
- ドナー支援地域以外のCOGES補助のための新しいアクターの特定
- COGESへの補助金
- 参加型組織の支援
- モニタリング

#### 2) 2004/2005年度の目標達成度

基礎教育・識字省の報告によれば、上記目標のほとんど100%達成したとしている。

#### 3) コメント

この評価には問題が多い。例えば、目標4のCOGESの設置について、100%達成とするのは、問題である。基礎教育・識字省が行ったのは、各州基礎教育・識字事務所に、COGESを各学校に設置せよと通達を出し、COGESの規定を定めた文章を配布したに過ぎない。したがって、ほとんどのCOGES委員は村の有力者が名目的に、COGES委員として名前を連ねている。タウアで行ったような民主的な選挙を経なければ、住民を代表し、住民の教育の声を反映でき、住民の力を動員できる組織はできない。現実と評価の間に乖離があり、今後、このような乖離をどう次年度計画で埋めていくのかが、問題である。その次年度目標を概観する。

### 2. 2005/2006年の目標と行動計画

#### 1) 2006年の目標

- 引き続き新しく設立された学校にCOGESを設置する
- 学校活動計画の作成、実施、モニタリングの研修をメンバーに行う
- 引き続きCOGES連合を結成する
- IECキャンペーンを行う
- COGES内の情報交換会を組織する。

#### 2) 2006年 行動計画

- IEC: COGESの教育開発における役割の重要さの広報
- COGES連合: COGES連合の設置は、COGES(少なくとも年間学校活動計画を実施している学校)の地域で行われる。このCOGES連合は、内部規定と規定を保持しなければならない。そして地方行政に正式にその地位の認定を求めなければならない。COGES監督官とCOGES担当官がこれらの活動を指導する。新設校のCOGES:に、選挙に引き続き、COGESを設置することを組織

的に行う。この活動は、COGESの役割、民主的な選挙の組織などの研修によって構成され、この活動はCOGES監督官とCOGES担当官によって行われる。

- 新しく設立された学校に関しては、選挙により、COGESを設置する。この活動は、COGESの役割に関する研修と民主的な選挙の組織化の研修を、COGES担当官とCOGES監督官によって受ける。
- すべてのCOGESは学校活動計画の作成、実施、モニタリングの研修を行う。研修はコミュニオン、教育区の中心地で、COGES監督官とCOGES担当官によって行われる。
- 年間2回、機能しているCOGES間の経験シェアリングセミナーを開催する。
- COGESドナー介入地図の改定する
- モニタリング:

第1段階: 学校レベルでは、COGES自身によるモニタリングを行う。

第2段階: COGES担当官はCOGES連合が存在するところは、COGES連合に対し、ないところに対しては、COGESに対し、直接COGESのモニタリングを行う。

第3段階: 州基礎教育・識字事務所レベル、毎月1回、COGES監督官は、すべてCOGES担当官と会議を持ち、月の活動についての報告を受け、困難な点について議論を行う。

#### 3) コメント

この部分に取り上げられているCOGES設置に関し、COGESの役割とCOGES委員の民主的な選挙を義務化している部分、COGES連合の設置及びその方法、COGES委員がすべて学校活動研修を受けること、COGES監督官とCOGES担当官によるモニタリング体制とその方法など、すべて過去、現在プロジェクトが実施し、その成果を基礎教育・識字省に示してきたことである。これが、正式にこの文章により、基礎教育・識字省の方針となったことを示している。また、今年度、プロジェクトが予定している活動のすべてが、COGES政策の2006年の目標の達成に貢献することになる。

### 3. COGESの新しい方向性への示唆

今回の報告の中には、様々なCOGESの新しい方向性への示唆が述べられていることは注目に値する。以下、新しいCOGESの方向性を述べた部分について触れる。

#### 1) 学校運営全体予算

これは、文房具などの従来の補助金の部分で述べられていることであるが、要するに、あらゆる収入や補助金、投資などをすべて学校活動計画の中に組み込みことを提案している。この試みはより住民の学校運営への関与を深めるために行われるとされている。その理由として、財務の権限の住民への移譲なしに、コミュニティーの学校運営の責任化と住民参加はありえないということが挙げられている。

#### 2) 補助金のコンセプトの改善

上記、全体予算に貢献するために、補助金を現在までの「文房具の購買」から、COGESの申請による使用先を限定しない補助金へ変更するとしている。

#### 3) COGES支援基金の創出

財源の不足を補うために、ドナーのコモンバスケットとしてのCOGES共同基金を創出することが提案された。

- 4) PDDEの住民参加組織(州教育協議会、県教育協議会)とCOGESの関係の強化  
PDDEでは、計画への住民参加の組織として州教育協議会、県教育協議会が挙げられているが、実際にはあまり機能していない。特に、委員として実態のない保護者会代表などが入っているためである。今後、COGESとの関係性を深めるべきであるという意見が述べられている。
- 4) コメント  
以上の提案を要約すると、補助金のコンセプトの改善からCOGESに対する全体的な予算の供与、ドナーのCOGES基金創出は、明

らかに教育の地方分権化の住民主体の学校運営の考え方をより推し進めたものである。この考え方は、プロジェクトとしては歓迎すべきものであり、プロジェクト開始当初から、COGES推進室へのプロジェクトの経験と様々な地方分権化に関する情報の提供が好結果を生んだと評価できる。しかしながら、基礎教育・識字省が提案する地方分権化の最終目的地に向う道筋にあいまいな部分があり、現在のままで、この方向性が推し進められることは、COGES政策の失敗を招く可能性があり、注意を要する。プロジェクト側が基礎教育・識字省側には何度も強調してきたことは、COGES政策の成功には学校運営に関する中央からCOGESへの権限の

移譲が必要であり、同時に、受け取り側のCOGESの条件が揃い、能力が十分に開発されていないしなければならないということである。基礎教育・識字省側は、権限を移譲するための基準を満たした学校のリストを作ることを提案しているが、その基準をどう決めるかが大きな問題となる。現在まで、プロジェクトがCOGESの基礎を作るものとして絶対的に必要と考える民主的な選挙の重要性の認識が低すぎるなど、評価や分析が不足している。今後プロジェクト側からの提言や、経験の共有などを進めていく必要がある。

## プロジェクト解説 つづき

ことから、村落内での水資源開発に取り組みはじめたり、COGES資金を確保する為に収入創出活動に取り組み始めたり、とCOGESをきっかけにして、自主的に新たな問題への取り組みを始めるところもあります。つまり、COGESが機能する学校は子どもたちだけの学び舎だけでなく大人たち、コミュニティの学び舎としても機能する、まさに「みんなの学校」として地域社会に貢献する可能性を示しています。

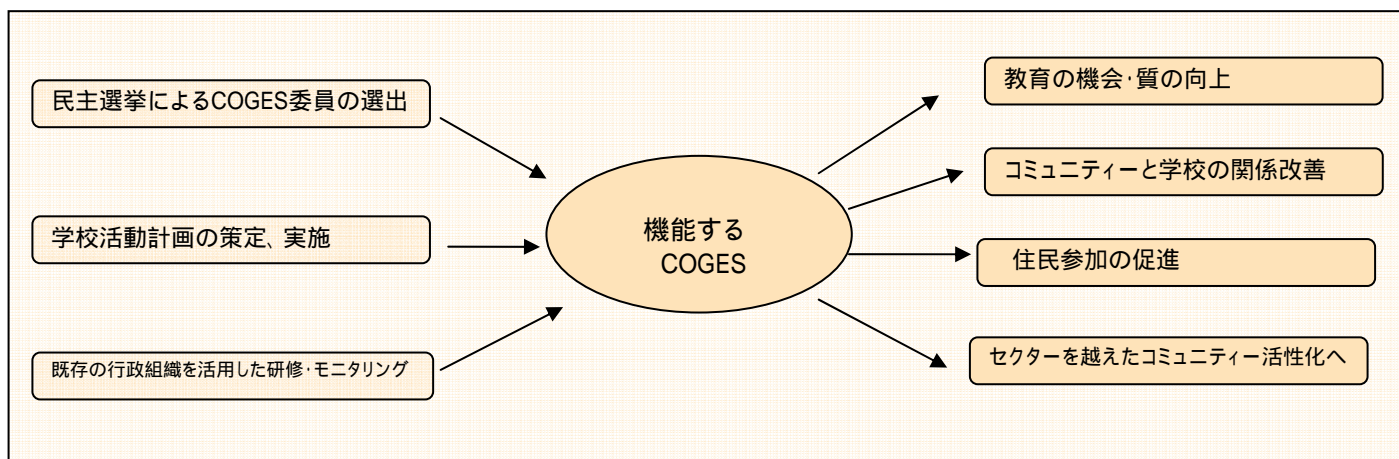
### 4. 汎用モデルとしての特徴

「みんなの学校モデル」は初めから汎用性を意識したモデルで時間と費用と手間がかからない、それでいて成果がすぐに出る工夫がなされています。例えば、研修の内容についてはその特徴として、

- 単純、簡略な内容、
- 理論、概念論を極力避け、シュミレーションを多く取り入れた参加型、実践的内容
- 現地語や絵を活用した非識字者でも分かりやすい内容

-1日で終わる短期間の研修などが挙げられます。高度で手間のかかる理論や手法ではなく、住民に出来ることを基本にしているため、住民にとっては負担がかからず受入やすく、簡単に成果につながります。短期間でかつ講師も行政官が行なえるので研修費用も安く、一度に多くの対象者へ研修を実施することが可能です。また予算や時間など条件が揃えば、広範囲にわたって普及することもできます。実際、今年4月にCOGESが全国すべての小学校に設置されることに決定された際に、プロジェクトの対象地域であるタウア州では、民主選挙を通じたCOGESの設置が不可欠であるとの判断から、「みんなの学校モデル」によるCOGES設置を支援しました。結果、他ドナーの対象校を除くタウア州のほぼすべての学校(1,034校)がプロジェクトの対象校となり、「みんなの学校モデル」に沿ったCOGES活動の実施に向け動き出しています。(これら新規対象校では現在学校活動計画研修を実施中です。)したがって、このモデルの全国普及に向けて現在タウア州で州レベルでの運用段階に入っているのです。

みんなの学校プロジェクトは来年1月で開始から2年が経ちます。プロジェクトに先立って実施された無償小学校建設のソフトコンポーネントCOSAGEの時代を含めてもこの「みんなの学校モデル」はこの2年半という短い時間で開発、検証されてきたものです。したがって、持続性という観点をはじめ、COGES連合の機能実証など、まだ検証、改善の余地もありますが、現段階においてもその効率性、有効性の高さから普及モデルとして十分考慮に値するものです。事実、冒頭で述べたとおり、ニジェールの基礎教育・識字省はこのモデルを評価しCOGES政策として採用しています。ニジェールという地域の特異性も考慮に入れる必要もありますが、西アフリカの周辺国をはじめ、同様の政策に取り組んでいる国々においてもこのモデルから多くのヒントが得られると思われまます。





# APPクラブ研修

～ 昨年の対象校25校にブザ県40校が  
新たに加わり、合計65校でAPPクラブが始まりま

## APPクラブ導入の理由

昨年度プロジェクトは、パイロット校25校の教員を対象にAPP研修を実施しました。この研修後、各学校で独自のAPPが実施され、いくつかの学校では試験的に「APPクラブ」が行なわれました。6月末に実施した経験シェアリングセミナーの中で、APPクラブ試験校から、児童が主体的に行動するようになった、欠席がちだった児童がAPPクラブがある日は進んで学校に登校するようになった、等の報告がなされました。

これら予想以上の「APPクラブ」の成果に、他校からも「APPクラブ」導入の要望が出され、それらの要望に応え、プロジェクトは今年度から本格的に「APPクラブ」の設置に取り組むことにしました。手始めに、今年度は現25対象校に加え、ブザ県の40校で「APPクラブ」を設置します。

## APPクラブの効果

「APPクラブ」の実施は教育面で以下のような3つの効果が期待できます。

1. 児童が自身で活動を選ぶことにより**児童の自主性**を育むことができる。
2. 児童に活動の運営を任せることで**児童の責任感**を養うことができる。
3. 異学年混合型で児童をグループ化することで**児童から児童への指導**が可能になる。

つまり、「APPクラブ」は児童自身が仲間と共に楽しみながら、自発性、自立性、協調性を培うことができる教育活動なのです。

しかし、教育面以外にも「APPクラブ」には大きな効果があります。それは、クラブ活動の最初の選択から、COGESを通し住民を巻き込み、住民の要望も取り入れ、住民と



縄編みクラブのデモンストレーション  
(コニ県サルナワ中央小学校)

教員と一緒に児童の活動を支援する住民参加型の活動だということです。住民が参加することにより、APP活動は、より地域のニーズを取り入れた、しかも住民の支援により持続化できる活動となります。「APPクラブ」はいままでAPP活動の失敗の原因を分析した上、現在までのプロジェクトに経験を加味した「みんなの学校」が提案する新しい形のAPPなのです。

以下、今回の研修の様態をご紹介します。

## ～APPクラブ研修～

10月30日(日)ブザ県ブザコミュニティの40校の校長、COGES代表計80名、11月12日(土)コニ県サルナワコミュニティの25校54名の計134名に対し、「APPクラブ」設置研修を行いました。研修参加者は、APPの新しい取り組みである「APPクラブ」に大いに興味を持ち、活発な意見交換が行われました。研修では、児童をグループにして活動する効果や意義、クラブ設置の順序、クラブ活動決定における児童の意思尊重の重要性などを分かりやすく説明しました。また「APPクラブ」の中心は児童であり、教員や保護者はあくまでも助言役であり、支援者として接することが望ましいことを強調しました。

研修の最後には、前年度試験的に「APPクラブ」を行なったタマ小学校(ブザ県)、サルナワ中央小学校(コニ県)が実際の活動(手芸・針金細工・文化劇等)を紹介し、参加者にクラブ活動の様子をイメージしてもらいました。この活動紹介は、参加者にとっても刺激になったようで、各クラブの担当講師に対して、多くの質問がなされました。

## ～ブザの場合～

40学校の参加者(校長、保護者)の中には、APPについての知識が無く、研修講師がAPPの基本的な内容を1つ1つ説明しなければならぬ場面がありました。しかし、その質問を基に講師を交えた参加者同士の話し合いで、今まで持っていたAPPに対する誤解や疑問が取り除かれていきました。そして、研修の終わりには、参加者から「APPによって、村の活性化につながる可能性がある。そして、子どもたちに責任を与えることで、活動に積極的に取り組む意欲が生まれるし、活動の継続にもつなが



APPクラブでの活動を披露する生徒たち

る。是非、試してみよう。」と新しいAPPの取り組みに向けて意欲的な感想が聞かれました。

## ～コニの場合～

コニの研修では、昨年からの各学校でAPP活動の経験があるため、「APPクラブ」に対する意見や質問もより具体的でした。実施過程の注意点や児童の教育面の効果については、特に活発に話し合われました。中でも「APPクラブ」による児童の意欲、自立心向上、協調性を高める「児童から児童に対する指導」、APP活動への住民参加に対して興味が集まりました。

「児童の絶えず向上しようとする心」を尊重し、住民と共に行う「APPクラブ」に対して参加者全員が新たな可能性を感じているようでした。

今後は、基礎教育省に配属されているAPP担当責任者及び指導主事と情報交換を密にし、APPクラブ活動のモニタリング体制を模索していきます。

「APPクラブ」を通して、地域の特色を生かし、地域の歴史や伝承に誇りをもった創造性豊かな児童の育成に貢献できるAPPが広がっているよう、プロジェクトでは支援を行います。

## 用語解説

### APPとは(生産実習活動)

児童1人1人が自分たちを取り巻く地域社会を理解し、卒業後の生活に役立てられる技術・知識を身につけることを目的とした教科「APPクラブ」に関しては、ニュースレターVol.8「児童主体の活動へ、APPクラブスタート」Vol.9「我流用語解説「APPって何?」」の記事を参照ください。

# 契約教員、コミュニティー関係改善セミナー

10月に開かれた基礎教育・識字省とドナーによる「教育開発10ヵ年計画(PDDE)の合同評価」の中で、契約教員の質についての問題が議論され、その改善の必要性が大きく取り上げられました。今や、契約教員の問題は、ニジェールの教育の質の改善において一番大きな問題と言えます。

## 契約教員問題とは

契約教員は、教員不足を解消するために、近年導入された制度です。教員の採用を契約ベースにすることで、その給与水準を低く抑え、採用数を増加させることを目的としています。この契約教員が毎年3000人程度採用され、ニジェールの教育機会の拡大に貢献していますが、問題も指摘されています。例えば、契約教員は、学校を欠席しがちである。あるいは、教え方が下手で、授業に熱心ではない。これらの問題は、その拙速な養成による教員としての質の低さや、劣悪な労働環境、低賃金、給料遅配などによる労働意欲の低さが原因だといわれています。「働かない」契約教員に対して地域住民は不信感を募らせ、住民と教員の関係が悪化し、それが、さらに教員に孤立感を与えるという悪循環に陥っています。

## 契約教員とコミュニティー関係改善セミナー

契約教員の労働意欲の低さの原因として挙げられた給与の低さや遅配などは、国に属する問題ですが、契約教員の管理がCOGESの役割と規定されていることもあり、事態の改善に何か貢献できないかプロジェクトは模索してきました。現在までのプロジェクト活動の中で、住民が教員の苦境を理解し、住居や食べ物を提供し、教員が住民の支援に応じて、授業を休まず熱心に行っている例がありました。そうした村の多くは、住民が学校やその運営に関心を持っていて、児童の成績は他の村の児童の平均以上であると報告されています。これらの経験にヒントを得て、今回、このセミナーを企画することにしました。セミナーの企画は、去年よりあったのですが、計画実現には1年以上かかりました。上で述べたように、COGESには契約教員管理という役割があり、COGESに対する研修の形を取るかと考えました。しかし、COGESが契約教員を採用したり、契約教員と契約したりすることは、国家が決定することであり、パイロットプロジェクトとして先走ることには危険性がありすぎる上、契約教員の反発も予想されます。そこで、今回は、教員とコミュニティー関係改善を目的としたセミナーを開くことで、COGESレベルでの解決策を提示することにしました。

## セミナーの内容

以下、セミナーがどのように行われたかを説明します。今回の対象は、すでにCOGES連合を設置した7コミュニティです。最初に、プザ県プザコミュニティで10月28日(土)にセミナーが開催されました。対象は、プザコミュニティ内の学校40校の契約教員120名と各COGESから2名ずつ80名です。午前中は、教員とCOGESがグループに分かれます。講師は、現在の教育改革の内容と、その教育改革の中での契約教員とCOGESの役割がどのようなものであるを説明しました。その後、現在の教育現場での問題特に、契約教員の問題について討議し、その討議の中で出された問題の解決策をそれぞれ提案してもらった後、その解決策が国、州、県、学校・コミュニティーのどのレベルに属する問題なのかを分類しました。ここまでで午前中のセッションは終了です。午後は、教員とCOGES委員が一同に会し、それぞれ、学校、コミュニティーレベルに属する問題を提示し、一緒にできる解決策を模索しました。解決策が見つかり、その解決策を実行するための契約書の見本を全体で作成しました。研修後、契約書の見



午後の合同セッションで、COGES側から契約教員側を写す

本をそれぞれの学校に持ち帰り、学校の事情を加味し、実行可能な契約書を作り、教員とCOGESが署名をすることになります。

## 契約教員とコミュニティーの契約

以下は、全体で作った契約書の見本の内容です。

- 学校に関するすべての活動において、保護者と契約教員の参加を強化する。この強化のために協定を作成する
- 小学校のすべての生徒の勉学を監督し、学習の成果を改善するため協力する。この枠組みで特に児童の成績を改善するため、特に6年生への進学試験合格率や、他の進級試験の合格率を改善するために、補修授業を組織する。
- 就学全体、特に女子の就学を促進する。

教員、コミュニティー関係改善セミナーは、教員にとって、COGESにとっても自分重要な問題を真正面から捉えたテーマだったので、会合は熱気を含み、真剣に進められました。両者が合意した契約内容は、現在のニジェールの小学校の現状から見れば画期的なものだと思います。しかし、問題は、両者が合意が守れるかどうかです。プロジェクトは、今学期の両者の関係を注意して見守りたいと思います。



同じ午後のセッション、COGES側を写す





## 2005年の活動と今後の方向性 みんなの学校モデルは、どこまで通用するのか

あけましておめでとうございます。と申し上げるには、少し遅すぎる「みんなの学校だより Vol.11」の発行となりましたが、これが、本年最初の皆様へのご挨拶となります。どうぞ、今年もよろしくお願いします。そして、プロジェクトスタッフ一同、皆様のご多幸をお祈りします。

### 2005年のプロジェクトの活動と成果

さて、2005年を振り返ると、本当に多くの活動を行いました。活動を箇条書きにすると以下ようになります。

- COGES監督官、担当官による月例会議の開催(12回)
- APPワークショップ(参加者:基礎教育省カリキュラム局長他計40名)
- プロジェクト第2回合同調整委員会の開催(参加者:基礎教育・識字省大臣他計20名)
- APP教員研修(コニ県サルナワ地区25校、75教員対象)
- 学校プロジェクトマニュアルの作成
- 学校プロジェクトの実施(対象:8プロジェクト、収入創出活動+教育改善活動)
- 就学促進啓発活動コンクールの実施(対象:25校)
- COGES連合設置研修(研修対象者:7コミュニティ、対象151校×COGES委員3名=453名)
- APP経験シェアリングセミナー(コニ県サルナワ地区25校対象、参加者50名)
- プロジェクト中間評価(実施者:横関JICA国際協力専門員他、10日間)
- 第3回合同調整委員会(参加者:基礎教育・識字省大臣他)
- 中間評価発表ドナー会議の実施
- みんなの学校デーの実施(プロジェクト紹介イベント、300名招待)
- JICA-NGOテーマ別評価「住民参加」(実施者:JICA職員、NGO等10日間)
- JICAの基礎教育ビデオのためのプロジェクト撮影(5日間)
- ザンデル州へのパイロット活動の開始、選挙研修、学校活動研修、対象60校)
- APPクラブ設置研修(コニ県サルナワ地区28校、プザ県プザ地区40校、COGES代表及び校長計135名対象)

- COGES連合設置研修(研修対象者:タウア州32コミュニティ、1038校×COGES委員2名=2076名)
  - 学校活動計画研修の実施(研修対象者:1038校×COGES委員2名=2076名)
  - 教員、コミュニティー相互理解セミナーの実施(参加者:7コミュニティ、教員700名、COGES300名)
- これらの活動を通してもっとも大きな成果は、COGES普及モデルとしてみんなの学校モデルが基礎教育・識字省、ドナーに認知され、全COGESへの普及の動きが出てきたことです。

### みんなの学校モデルの成功の鍵

最近、「プロジェクトの成功の鍵は」、「多くの成果を出した秘密は」、「みんなの学校モデルは他の国でも、他の分野でも通用しますか」と聞かれることが多くなりました。正直にまだ、成功というには程遠いと思われませんが、短時間で、しかも多くの学校で、学校改善のための活動が住民により自主的に、自分たちの資源を使って行われ始めたということは事実です。その理由については、前号(Vol.10)のニュースレターの中で、「みんなの学校モデル」として紹介したアプローチに鍵があり、その記事を是非読んでいただきたいと思います。今回は、なぜこのモデルに行き着いたかということをお話したいと思います。その記事の繰り返しになりますが、みんなの学校モデルとは、「民主選挙」、「学校活動計画」、「地方行政官によるモニタリング」の3つの要素から構成されます。一見、当たり前のような活動ですし、特別なものはないように見受けられます。しかし、例えば、「民主選挙」ですが、住民組織として住民の求心力を持つために、不可欠なプロセスなのですが、他のプロジェクトは、「民主選挙」を農村に持ち込むことは伝統的な社会構造に摩擦と混乱をもたらすと、本格的に選挙を奨励している例は稀でした。本プロジェクトの「民主選挙」導入に関しても、援助関係者の間では懐疑的な意見が主流でした。しかし、プロジェクトでは、それらの懐疑的な意見を押し切って「民主選挙」を導入し、ほぼすべての村で問題なく「民主選挙」が行われ、COGESに人々の声が集まるようになり、

COGESの基礎を作るのに成功しました。実はこの思い切った導入にこそ、みんなの学校モデルの考え方を解く鍵があります。

### みんなの学校モデルの考え方

プロジェクトは、「人はみな同じだ」と考えています。もちろん、場所により国により文化、環境、経済発展の程度など違いますが、人間の基本的な能力、感情は同じであり、人間にとって普遍的な価値を持つ活動は、どんなところでも実施可能であると考えている訳です。この考え方を上述の「民主選挙」に当てはめると、ニジェールの農村において、字が読めない人が多くても、影響力が強い村長が居て保守的であったとしても、民主主義という普遍的価値を持つ活動の実施は可能であるという結論に行き着くわけです。したがって、周りが懐疑的であっても、プロジェクトは「民主選挙」の成功にはまったく疑っていませんでした。ただ、「出来る」ということが前提にあっても、それを「出来る」ようにするためには調査や経験から得た様々な工夫が必要ですし、プロジェクトではその工夫には最大限の努力と労力を集中しました。

現在の結果は、この考え方の正当性を証明しています。そして、「みんなの学校モデル」は、ニジェールの他地域でも、他国でも通用し、タウアと同じような成果を得ることの可能性もあることも示しています。またこのモデルは構造が単純な分、教育だけでなく他の開発分野にも応用が可能です。実際に他ドナーによるこのモデルの他地域への普及が行われていますし、他分野への応用も実証段階に入っています。ただ、それらの試みがすべて成功するかどうかの判断するにはまだ早すぎます。それは、モデルはモデルに過ぎず、モデルを踏まえて現実に活動を具現化するには、実施者の能力、力量による部分が大きいからです。

プロジェクトとしては、現在の活動を広い範囲で実施し、より多くの人にこのモデルによる成果を裨益してもらおうとともに、モデルの完成度を高め、様々な現実への対応事例をより広く、外部に発信していることに努めていきます。



# プロジェクト成果の更なる広がり求めて

## ～プロジェクトとプログラムの連携を探る～



開発援助の世界では、近年、途上国政府のイニシアティブと援助機関どうしの協調を基にした、セクターワイドアプローチやプログラム支援、財政支援といったよりマクロなレベルでの取り組みが主流になりつつあるようです。これは従来、プロジェクトタイプの援助がその受入政府によって整合性のある計画に基づくのではなくドナーの意向により乱立し、その援助効果についても過投資、過投入など持続性に疑問が呈されることが多いという反省から来る帰結であるといえます。これらの取り組みの意義については否定の余地はないものの、よりマクロな視点への強調、傾注のあまり、ミクロな施策(つまりプロジェクトタイプの援助)が軽視され、あるいは不要論といった類で論じられることもあることは残念なことです。より包括的な枠組みの中で個々のプロジェクトがより戦略的に整合性をもって存在し、国家の、あるいはセクターの開発目標に効果的に貢献していくことが理想的なあるべき形であると思います。この項では、今般、みんなの学校プロジェクトによって開発、確立された、機能するCOGESのモデル＝“みんなの学校モデル”、の全国展開へむけた中央政府やドナーとの連携の取り組みというニジェールの現場で経験していることを踏まえて、身近の事例として紹介するとともに、より効果的なプロジェクトとプログラム支援のあるべき形について考察してみたいと思います。

### 世銀とプログラム支援

まず、上述のように近年主流となりつつあるドナーによるプログラム支援の形態がどのようなものなのかをニジェールで最も影響力を持つドナーである世界銀行(以下世銀)のアプローチを一例として概観してみたいと思います。世銀は過去10年間、その途上国支援に対するアプローチを従来のものからかなり大きく転換させてきています。この転換の転機になったのは80年代に実施された国家のマクロ経済運営に重点を置いた構造調整プログラムに対する国際的な批判・批難だといわれています。これらの批判、批難とは、構造調整プログラムによって、途上国の国家財政を健全化するために公共支出を切り詰めた結果、教育や保健医療などの社会サービスの提供が停滞し、貧困層の拡大や貧困度の深刻化を促した、といったものに代表されます。その後、世銀はこれらの批判、批難を踏まえて、もっと貧困削減に焦点を絞り、教育や保健医療などの人間開発分野の取り組みを含めた、より包括的なアプローチにその支援をシフトさせています。それはいわゆる

被援助国が策定するPRSP(貧困削減戦略ペーパー)に対する支援に代表されます。このPRSPは世銀からの資金援助や重債務国の債務取り消しのための条件にもなっているもので、途上国関係者の中には「形を変えた構造調整政策だ」と批判する人もいますが、このPRSPを通じた支援にみられる世銀の新しいアプローチはこれまでのイメージとは大きく転換しています。その主な特徴は、  
-途上国自身によるオーナーシップの重視と各国の特異性に配慮した国別アプローチ  
-様々な開発の要素を考慮に入れた長期的かつ包括的アプローチ  
-様々な利害関係者を巻き込んだ参加型プロセスと援助パートナー間の連携と協調  
-成果の重視と適切な目標、指標の設定などが挙げられます。PRSPは「貧困削減戦略ペーパー」という名称のとおり、途上国の貧困削減を大命題に掲げた国家の開発戦略を示すもので、経済成長に主眼を置いた従来の「国家開発 〇年計画」といった類の開発プランに取って代わるもの、あるいはより上位の開発プランとして位置づけられるものです。そして通常このPRSPの下に、各主要セクターについて開発プランが存在します。ニジェールの教育セクターの場合、「教育開発10ヵ年計画(PDDE:2003～2012)」が計画、実施されています。世銀はこのPDDEに沿った形でプログラム支援を行なっているのですが、その中の一つが「基礎教育支援プログラム(PADEB)」と呼ばれるものです。このPADEBは基礎教育・識字省が主体となって計画したものを世銀が評価し予算を付けるという形の援助であり、上述のような、途上国政府のオーナーシップの重視、パートナー間の連携、成果重視など、新しい世銀の姿勢が強く反映されています。

このPADEBはPDDEの掲げる目標の達成に最も影響力を持つプログラムの一つであることは誰もが認めるところですが、プロジェクトの現場から眺めると、様々な問題点が見えてくるのも事実です。例えば、各種研修などが現場の体制や意向を無視した強引なやり方で実施され、どうみても「実施した」という事実が重要で、そういった数値目標の達成のみ主眼に置かれているといった印象をぬぐえない、といったことや、あるいは地方の視学官事務所の行政官に車輛やバイクなどの機材が供与されても、ガソリン代やメンテナンス費用等が確保されていない(これについては中央の予算では確保されているといわれているが、何らかの理由で地方の事務所までそのお金が下りてこない)ことなど、が挙げられ

ます。途上国政府のオーナーシップやイニシアティブの重視は確かに大事なことではあるけれども、このように中央の役人が策定する計画は、得てして末端の現場の意向や実情とはかけ離れている場合が多く、また、その計画を執行する行政の体制や能力についても限界があり、支援を行なう側はいかに提示された計画が現実的で、それを実行する行政体制や能力が十分備わっているかどうかを見極めることが求められます。また計画が認められ、実行に移される段階では入念なモニタリングも不可欠です。しかしながら、いわゆるアカウントビリティと透明性の確保のために必要とされるこういった(理想的には第三者による)モニタリングや評価も、手間隙がかかるという理由でなおざりにされているのが現実です。

### みんなの学校モデルの全国展開に向けた動き

みんなの学校プロジェクトはこれまで、ニジェールの教育開発10ヵ年計画(PDDE)の柱の一つであるCOGES政策に資することを目的にスタートして、これまでにプロジェクトで実証されたモデル、アプローチは、基礎教育・識字省からも大いに評価を得ており、実際に国のCOGESに関するガイドラインは、ほぼプロジェクトの経験に基づいて作成されています。しかしながら、このガイドラインはCOGESやそれに関連する行政官、その他アクターの機能や役割などあるべきCOGESのモデルについて、記されているだけで、このモデルを具体的にどのよう全国に広めていくかといったスケーリングアップの為の普及戦略がないため、みんなの学校モデルの全国展開は具体的に動きが止まっていた。このモデルを全国展開するためには当然のことながらそれなりの予算が必要なのですが、世界最貧国といわれているニジェールの国家予算のみでこの新しい取り組みを実施していくことは不可能です。そこで当然のことながらドナーの支援が必要になるのですが、具体的には前述のPDDEに関してプログラム支援を行ない、大きな影響力を持つ世銀の支援を頼りにするというのが現実的な戦略です。そこでプロジェクトで中間評価の結果を踏まえて、昨年7月あたりから主に世銀を中心とした教育分野のドナーに対してもプロジェクトの成果をアピールし、モデルの有効性と全国展開

(次ページへ続く)

# COGES連合の収入創出活動

## COGESの自立発展性をもとめて

プロジェクトでは、収入創出活動のことをAGRと呼んでいる。これは、フランス語のActivité de génératrice de revenueの略である。プロジェクトでは、最近この言葉を毎日のように耳にする。その理由は、現在COGES連合事務局のためのAGRを試みているからである。COGES連合とは、各COGESをコミュニティ毎にグループ化したものであり、COGES担当官の代わりに各COGESをモニタリングしたり、研修を行ったり、各COGESの能力を超えた問題の解決に取り組んだり、COGESの未来を担う鍵となる組織である。ところが、このCOGES連合事務局にはお金がない。国からの補助金は当てにならず、各COGESからの分担金も集まらない。これに対し、それぞれのCOGESは活動計画実施で多くの資金を動員できた。それは、COGESの活動には透明性があつたからだ。つまり、COGESの学校活動計画では、すべての住民が学校の問題を自分たちで考え、解決策を探し、活動を計画し、実施した。そして自分たちで実施した活動の結果が見えた。だからこそ、みんなが喜んでお金や労働力を出した。しかし、COGES連合事務局は、この透明性を確保するのが難しい。まず、COGES事務局と各COGESを取り巻くコミュニティの距離が離れていることだ。この距離とは物理的な距離と心理的な距離の両方を意味する。実際に、チンタコミュニティなど、事務局のある町から一番遠いCOGESのある村まで、150キロも砂漠の道なき道を走破しなければたどり着かず、物理的に遠い。また電話はなく、コミュニティラジオの電波も届かず、通信の手段が少なく、COGES事務局と各COGESのコミュニケーションが取りにくい。したがって、COGES連合が何をやって、どのように自分と関係があり、どのようなメリットを自分たちにもたらしてくれるのかもわかりにくい。つまり心理的距離も遠いということである。それでは、これらの距離を縮めるにはどうしたらいいのか。COGES連合の会議を開催したり、COGES連合事務局から連絡のための人を各COGESへ巡回させたらどうか。しかし、会議を開くにも、事務局から各COGESを巡回するにもお金がかかる。つまり、先立つものはお金なのである。そこで、プロジェクトは事務局の運営費を捻出するためのAGRを導入することにした。

収入創出活動を始めるに当たって、他の例を調査した。本プロジェクトでも行っている穀物販売、あるいは穀物銀行、穀物製粉他、本当に沢山の例があつた。しかし、これらの例で得た教訓は、ほとんどすべてのAGRは、人々の能力強化や女性の労働の削減と結びつけており、ビジネスとして利益の追求を行っている例はほとんどなく、そしてほとんどが、他プロジェクトが宣伝するようにはうまくいっていないことがわかつた。つまり、普通の会社が行うようなマーケティングも、販売

戦略もなく、ビジネスの世界から言えば素人の商売で、ほとんど、現実社会では通用しない。これでは、困るのである。だから、COGES連合が提出してくるAGRの提案書はすべてつき返した。つき返した上で、プロジェクトとして徹底的なマーケティングを行った。実際に市場や商店を訪ね、その商売がどのようになりたっているか、どこから仕入れて、仕入れねはいくらか、一日どのくらいの売り上げがあり、儲けはいくらになるのか、難しい点はなにかなどを訪ねて回つた。結論的には、当たり前のことだが、簡単な商売などないということであつた。例えば、穀物販売には、穀物の値の動きを予想する必要があり、そのためには、各地、各市場の値段の動き、その都市の作柄、あるいは政府の補助政策など多くの情報が必要である。タウアの成功している大商人たちは、自分の一族や固有の情報ネットワークをニジェル各地、あるいは外国まで持っていて、常に情報を得た上で、商売をしている。電話のない、チンタの商人たちでさえ、衛星電話を手放さず、常に連絡を取り合っている。町の単なる氷、飲み物販売屋さんでさえ、成功している店とそうでない店には大きな違いがある。基本的には飲み物販売には、冷凍庫しか必要ない。だから、立地条件さえよければ、成功しそうだが、実際はそうではない。立地で勝負できるのは、市場の立つ日の週に一日だけで、後の日はたいした売り上げはない。ある経営者は、その町の周りの村の市場が立つ日に、人をその市場に派遣し、アイスボックスを持たせて販売させるという積極的な経営をしていた。ニジェルでは、市場の日は村によって違うので、ほとんど毎日市場はどこかであり、毎日売り上げを上げることが出来るのだ。このように、みんなの学校プロジェクトが導入しようとしているAGRIは、各COGES連合が経営者マインドを持たない限り成功しないという結論となつた。

そこで、プロジェクトでは、様々な工夫をすることとした。例えば、AGRに関し管理委員会や実施委員会は必要である。ただ、その委員会が出来てもAGRが成功するとは限らない。そこで、その委員会の中出来るだけ、COGES連合の事務局委員でしかも成功している商人を入れることにした。あるいはそういう人材が居ない場合、商人を顧問とし、そのアドバイスを常に受けれるような体制構築を図っている。その他の例は省略するが、プロジェクトとしては、各COGES連合への技術支援は惜しまないつもりである。そしてこれらプロジェクトからのAGRの支援は供与ではなく貸与とし、返却金は、当初プロジェクトで管理し、将来的にはCOGES連合を州レベルで統合した組織の事務局管理のCOGES資金とし、さらなるAGRあるいは、各COGESのマイクロクレジットとして成長させていきたいと考えている。もちろんそれは先の構想ではあり、現在では、7つのCOGES連合のAGRの成功のために全力を尽くす。

## プロジェクト解説～前頁からつづき

の必要性について理解を求めてきました。そして今年初め、東京のJICA本部においても世銀の幹部とJICAと間でコミュニティ開発案件の連携についての協議が行なわれ、その連携案件の候補としてみんなの学校プロジェクトが選ばれ、現場だけでなく東京・ワシントンという上意でも連携に向けての動きがありました。これはプロジェクトにとつてはまたとない後押しです。

さて、みんなの学校モデルの有効性とその全国展開の意義については現在では基礎教育・識字省、ドナー間でもほぼ認めるところとなっているといえますが、その全国展開に向けた具体的な戦略、計画作りについては、今まさに着手され始めたところです。やはり中央の役人が作る計画は現場の現状や意向からかけ離れたものが多く、無

駄なものが多いだけでなく、現場に混乱をもたらす可能性もあることは前述の事例のとおりです。世銀の支援は、途上国政府のイニシアティブを重視しており、いかにこの場合、基礎教育・識字省が現実的かつ効果的な計画を提示できるかにかかっているといえます。一方でプロジェクトは開始当初から面への広がり意識してプロジェクトの構成を練ってきており、それがまさに現実に起ころうとしている現在、絵に描いた餅ではなく、プロジェクトの経験、実績に基づいた現実的で実体のともなつたCOGES全国普及計画作りに向けて、プロジェクトは積極的に支援していく必要があると考えています。



# APP活動総括と今後の見通し

## ～2年間の活動を終えて～

私は、みんなの学校プロジェクトのAPP担当として2年前の3月に赴任しました。来月任期を終え、帰国します。今回はこの2年間の活動について振り返ってみたいと思います。

APP(生産実習活動)教科は、ニジェール国だけでなく、多くのアフリカ諸国で学校カリキュラムとして組み込まれています。ニジェールでは、1987年に新しく成立した教育に関する「新プログラム」の一環で導入され、その定義は、「従来型の理論中心の教育から地域の実情を反映した生産活動を通して、児童一人ひとりが自分たちを取り巻く地域社会を理解し、卒業後の生活に役立てられる技術・知識を身につけること」とされています。しかしながら、現在までAPPが機能している学校は、多いとはいえません。その原因として、様々な問題が挙げられます。教員のAPPについての知識不足、材料費の不足、また、基礎教育・識字省自体もAPPの重要性を重視していないことも大きな要因です。このような現状の下、機能するAPPの実現に向け試行錯誤が始まりました。

ブルキナファソ視察やニジェール国内のNGO視察、また、実際の活動経験を通して、何故今までAPPが機能しなかったかということに教員自身が気づき、APPの新しい形のヒントを見つけることができました。

APP活動としてまず行なったことは、ブルキナファソでのスタディーツアーでした。ここでは、様々な形のAPPを実際に見ることができました。そして基礎教育・識字省におけるAPPワークショップを行い、今までのAPPが何故上手くいかなかったか、という理由を考えました。そこで明らかになったのは、3つのAPP促進を阻んでいる問題点です。1つ目は、基本的なAPPについての知識を教員が理解していないこと。2つ目は、高額な材料費のかかる活動が多いこと。3つ目は、地域に即した活動を選択していないこ



裁縫クラブ(男女混合グループ)  
(コニ県ギダン・バワ小学校)

とでした。そこで、2005年1月、コニ県サルナワ地区のパイロット校25校、教員全員計75名に対し、APP研修を行い、それぞれの学校で実現可能なAPPを実践してみることにしました。そして、活動が一段落した、昨年6月、そのパイロット校で経験シェアリングセミナーを開催し、APP実施上の成果や問題点を話し合いました。そこでは、多くの改善点等が挙げられました。一番多かった意見は、APPの成功には、地域の人たちの理解と参画が必要であるということでした。さらに、他の地域の多くの学校を巡回したところ、APPが上手く行っている学校にはいくつかの共通点がありました。それが、以下の4点です。

APP活動に地域の人たちが積極的に参画している。

指導者がAPPの利点を理解し、地域にAPPについての啓発活動を独自で行っている。

教員・児童・地域住民にとって身近で役立つ活動を選択している。

児童をグループ化し、責任を与えている。

これらの共通点には、APPへの地域住民、教員の参加のほか、児童の主体性の尊重の側面があります。共通点を総合し、地域社会が求めるAPPを、地域の人たちや教員、児童みんなの賛同のもとで、3者が一緒になって行なう新しいAPPがないか模索し、行き着いたのが「APPクラブ」です。このクラブの特徴は、従来型の学校内で行なう児童、教員のみでの活動ではなく、地域の人たちを巻き込み、活動の決定や運営等も地域住民(COGES)と共に行なうことです。活動も児童・教員・保護者から責任者を決め、その責任者を中心として行います。

このAPPクラブを設置する為に、2005年10月、11月に渡って、コニ県サルナワ地区28校とブザ県ブザ地区40校、合計68校にてAPPクラブ研修が実施されました。モニタリングを担当する各県の指導主事からは、すでに多くの学校でクラブが設置され、早いところではすでに定期的な活動が開始されているとの報告がありました。ブザ県ブザ地区は40校中32校で、コニ県サルナワ地区では、28校中25校でクラブが設置されています。まだ、設置されていないいくつかの学校は、現在COGESを中心に住民集会を通してAPP啓発活動を行なっています。私は、定期的に巡回活動を指導主事と共にしていますが、校庭で子どもたちがグループになり、地域の人たちと共に活動している姿は、今までの学校では見られなかった光景です。それらのクラブで教員は、補助となり地域の人が主に講師として活躍しています。スポー

ツクラブでは、児童の責任者が指揮をとって活動している姿も見受けられました。児童の真剣な眼差しと、時折見せる笑顔がとても印象的でした。

### APPクラブの今後の課題

現在上述の68校にて、APPクラブが試験的に設置され、地域の参画によって活発で魅力的な学校生活の実現に向けた取り組みが行なわれています。少しずつですが、学校に変化が見られてきた今、改善していかねばならないいくつかの課題が見えてきました。それは、

APPの機能化

指導主事を中心としたモニタリングシステムの構築

APPクラブが児童・教員・住民に与える効果の実証

の3点です。

APPクラブが、上手く機能化するには、COGESを通じた住民の参画が一番の鍵であり、住民集会によるAPPクラブの活動への同意が不可欠です。現在のAPPクラブの構造は、少し複雑すぎて住民にわかりにくいので、それを単純化して、住民にわかりやすくすることが必要です。また、各学校のフォローアップにおいて、中心となる指導主事がどのような点に注意して効率よくAPPクラブについてアドバイスしていくかが重要になってきます。巡回時に指導主事自身が個々のイニシアチブによって、各学校に適した助言が出来るようになることも、今後のAPPクラブの重要な鍵となるでしょう。さらに、APPクラブを行なうことによって、学校全体にどのような効果があるかも実証していく必要があります。児童・教員・住民が楽しんでいるか、意欲的に出来る活動かどうか永続的なAPPの要因であると考えています。これらの課題を一つ一つクリアにし、機能するAPPを実現していきたいと思っています。

ニジェールに赴任したのは2004年3月下旬、雪深い青森から出てきた私は、50度近いような暑さに気を失いそうになったことを覚えています。あれからもうすぐ2年が経とうとしています。日々、APPとは何か、機能するAPPとは？を掘り下げて考える毎日でした。

「朝から晩までAPP」を考え続け早2年。まだまだ、奥が深いIAPPです。

APP担当 シニア隊員 齋藤 由紀子

# 砂漠の町のCOGES訪問記

チンタ県は、プロジェクトの開始当初から、プロジェクトの対象校があり、巡回に来てほしいという要望がありました。治安上の問題で、現在まで、いけません。今回は、武装兵士6名をつけることを条件に、巡回の許可を取り、日程が空いている大晦日と元旦にかけて出かけました。

チンタ県の県庁所在地チンタは、タウアから来たに165キロ北上したところにあります。タウア市はちょうど半乾燥地域と乾燥地域の境界に位置していますが、チンタは完全に乾燥地域にあります。実際にタウア市からチンタまでの行程で、半乾燥から乾燥地帯への風景の移り変わりをすることができます。チンタに近づくとききらかに、灌木も少なくなり、サボテンのような草のみの生える地域になります。ほとんど集落がなく、道でたまに見かける人たちも、顔立ちがアラブ系のトアレグか、顔に傷をつけているブル族の人たちが多くなります。道が悪いのでタウア市からチンタまで距離はたいしたことはないのですが、車で3時間以上かかります。

チンタはジェル政府によって、1964年にこの地域の行政の町として人工的に作られました。町の創設当初は官庁の出先機関しかなく、人がほとんど住んでいないという状態だったようです。その後、人が住み始め市場が出来ると、北部にある隣国アルジェリアやニジェールの南部から送られている品物の取引の町として発達しました。しかし、80年代のトアレグの反乱により、少し寂れたようです。この反乱には様々な理由付けがなされていますが、基本的には北部地域の他の地域と比べた開発の遅れや経済的格差が大きな原因でした。反乱軍とニジェール政府との和平合意後、反乱軍兵士の政府軍への統合と北部地域のへの大規模な援助が開始され、しだいにこの町にも住民が戻ってくるようになりました。現在、この地域では散発的な車の強奪を目的とした事件が散見されますが、一般的に平和を取り戻しています。

町にはいと、ニジェールの南部にある町とは明らかに違っていることがわかりました。町は自然発達したわけではないので、初めから区画整理されており、道が広く、各家もほぼ同じ敷地にあります。市場は、アルジェリアやモーリタニアの砂漠の町の市場の雰囲気があります。商品にはアルジェリアから運ばれてきた商品が多く、市場に流れている音楽もアラブ風です。市場の商人も、行きかう人もアラブ系の人が多く見受けられました。

チンタに到着してすぐ、学校を回り、COGESの学校活動計画の実施の様子を見ました。まったくプロジェクトスタッフが来ることなく、視察も初めての学校ですから、COGESがうまく行っているのか心配でした。もしかすると、今回プロジェクトを撮影されたディレクターが始めの試写で自分の作品を見るときこんな感じがするのかもしれないと思いました。視察したすべての学校のCOGESと住民は、複数のバンコ教室の建設、文房具の購入、水がめ、学校菜園等の多くの活動を自分たちの資金と労働力だけを使い実施していました。結束力の弱いと言われた砂漠の町チンタにあるCOGESの活動の成果を喜々として見せて回るCOGES連合の役員を見ているうちに、「本当にこんなに全部うまくいっているの」、「うまくいっている学校だけ見せているだろう」という気持ちになり、プロジェクトを視察した人がとよく言外に同様の感想をもたれる理由がよくわかりました。結局、チンタにある全学校を回りましたが、本当に住民の力に驚くばかりでした。それでも、きょううまく行っていない学校があるはずだと思い、次の日のCOGES連合会議に集まってきている25のCOGES委員の人



たちに、COGESの活動や住民の反応、住民集会の回数などについて聞きました。さすがに遊牧民のトアレグやブルの人たちの村では、COGESの活動以前に水、食糧の問題などで、村自体が移動してしまったりするところがあることが語られました。このような問題は3校ほどから上げられたのですが、その内の一校で、住民が活動計画で自前の食糧を供出し、自主給食を行っている学校があることがわかりました。この地域で、UNICEFが寄宿舎を作り、WFPが3食の給食を出して初めて子どもたちの就学を実現していたという事実を考えれば、驚くべき事実でした。UNICEFやWFPの援助する学校には、このような自主的な住民の力は見られません。是非、この2つの組織にこの学校のことを教えてあげたいと思いました。

COGES連合の会議では、組織としての透明性の維持とその活動の持続化のための収入創出活動について話し合われました。透明性のある組織を作ることは本当に困難です。COGES場合、住民の身近にあり、様々な会議も活動もすべての人が参加するので、透明性を維持することは可能ですが、COGES連合は少し大きな組織です。ともするとCOGES連合と住民の距離が遠くなります。そこで、どうすれば、COGES連合が住民に身近になるかを討議してもらうことにしました。COGES連合の基礎にあるのは、各COGESと住民の活力です。その活力をCOGES連合が吸い上げることができれば、きっとCOGESは下からニジェールの社会を変えていくような大きな力を発揮するかもしれません。それを予感させるような熱心が討議が繰り広げられました。

今年の元旦は、こうして砂漠の町チンタで迎えました。地平線のかなたに広がる砂丘の間から見えた初日の出は、地平線いっぱい広がる透明な朝焼けともなっていました。その朝焼けに向かってお祈りするたちのする人たちと共に、厳粛な気持ちで、COGESとCOGES連合の成長を祈りました。



## ブルキナスタディーツアー その1

どんなプロジェクトでも、それを動かしているのは人である。プロジェクトスタッフ、カウンターパート、校長、教員、生徒、人と人の接触があれば、そこに、「ドラマ」や「事件」が起こるのは必然である。このコラムでは、みんなの学校プロジェクトをめぐる人間的な様々な「デキゴトロジー」をご紹介します。第1回目は、ブルキナ研修にまつわるお話である。

あれは忘れもしない、2004年9月4日のニアメ空港でのことだった。その日、プロジェクトが企画した「ブルキナスタディーツアー」参加のために、タウアからCOGES監督官1名、担当官9名、プロジェクトスタッフ4名、ニアメからCOGES推進局長1名が、ニアメ発15:00発ブルキナ航空に乗るために集合した。その頃まだ、時間にルーズだったプロジェクト関係者に、もし集合時間に遅れたら置いていくと脅しをかけた成果が、私を含めた日本人スタッフが飛行機の出発3時間前に空港に着いたときにはすでに全員が空港ロビーに勢ぞろいしていた。飛行機に乗ったことがない人たちがほとんどなので、緊張しているのだが、緊張を表にだしたくないような不思議な表情をしていた。しかも、恐ろしく派手なブウブウとターバンを巻いていた。これは、盛装なのだが、タウアの人は赤やピンクの花柄とか男の人の衣装としてはとても派手な装いをする。したがって、この集団には、空港に入ったとたんすぐわかるような異様な雰囲気があった。私たちが着いたことに安心したのか、彼らは余裕を取り戻し、にぎやかな談笑になった。プロジェクトスタッフも全員が揃っていることに安心し、スケジュール、段取りの打ち合わせを始めた。気が付く時刻とは、搭乗手続き開始の14:00になっていた。周りは、この飛行機の乗客らしき人たちが溢れていた。ところが、われらがCOGES担当官たちが消えていた。14:00というのは、お祈りの時間であった。

悪い予感がした。

イスラムでは、日に5回のお祈りは義務であるが、旅行中はしなくても許される。だから今回は1回だけお休みにしてもらおうと思っていたが、言うのを忘れた。お祈りは15分くらいですむのだが、それが、搭乗手続きの時間と重なり、COGES担当官たちが居ない間に、どんどん他の乗客たちが、手続きを開始している。

悪寒が走った。

セネガル発のニジェル経由のブルキナ航空、いままでのアフリカ移動中の様々な飛行機にまつわるいやな思い出が頭の中を駆け巡った。しかし、予約の確認は再三再四行い、さらに前日にも旅行会社に念を押しておいたから大丈夫だと無理やり落ち着かせ、COGES担当官たちの帰りを待った。14:20分、お祈りを終え、談笑しながら、一行が戻ってきた。その時、旅行代理店の担当の人が、少し固い笑顔で、早く搭乗手続きを始めるように言いに来た。自分の悪い予感を打ち消すように、みんなをせき立てて、搭乗窓口に向った。旅行代理店の人は、特別にわれわれのために、ひとつカウンターを確保してくれていた。しかし、それが最悪の結果を招くとは誰も予想できなかった。この窓口の他に3つの窓口が開いていたのだが、窓口の係官の手続きがいつもより早い、なにか、競争しているようだ。しかし、この窓口では、COGES担当官たちがのんびりと航空券や身分証明書を出しているの動きが遅い。われわれプロジェクトスタッフは列の最後尾に並び、手続きが無事完了することを祈るような気持ちで待っていた。やっとプロジェクトスタッフの番がやってきて、ほっとした瞬間、カウンター内の係官の顔が曇った。そばに居る旅行代理店の人の顔が青くなったような気がした。係官いわく「飛行機の席は満席になりました。」「セネガルから20名予約より多い人が乗ってきてしまいました。」「4人は顔を見合わせた。よくあることなのである。ただ、すべてを取り仕切っている4名が一緒に行けないとすると、ブルキナについてから、飛行機も始めてで、ホテルの場所も知らないCOGES担当官たちはどうになってしまうのか。

以下 次号につづ

## プロジェクト カレンダー

## 2006年2月～2006年3月

- 2月3～10日：コミュニティー保育園保育士研修
- 2月15日：APP月例会議
- 2月16日：タウア州COGES担当官会議
- 2月上旬：COGES連合(39)巡回モニタリング
- 2月上旬：学校プロジェクト巡回モニタリング
- 2月下旬：ザンデルCOGES担当官会議
- 2月9、10日：JICAアフリカ域内教育ワークショップ参加(於：ケニア)
- 3月7日：中澤専門家(業務調整/能力強化)着任
- 3月上旬：COGES連合AGR会議
- 3月上旬：学校プロジェクト経験シェアリング会議

みんなの学校プロジェクト  
ホームページに

マンスリーレポートが加わりました。

(<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>)

マンスリーレポートでみんなの学校の活動をリアルタイムで知ることが出来ます。

また「みんなの学校だより」のバックナンバーはホームページからダウンロードできます。新しいホームページにはフォトギャラリーや動画もあります。是非、ご覧ください。

本誌「みんなの学校だより」に関する  
皆様のご意見・ご感想をお聞かせください！

~~~~~ 編集・発行  
ニジェル住民参画型学校運営改善計画  
(みんなの学校プロジェクト)

お問い合わせ・連絡先  
Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER  
電話/FAX: +227 - 610 - 571  
E-mail: Rosedesaha@aol.com  
または Onoue.Kimikazu@jica.go.jp

## 編集後記

### 記憶

人は、完全に忘れていたことを想いだすことがある。記憶は何の脈絡もなく、時と場所を選ばず、音楽、映像、言葉、感触、味などさまざまなきっかけで、突然、よみがえってくる。よみがえった記憶には様々な感情を、時には痛みまで伴うこともある。

それは、東京で行われた「アフリカ教育、子どもたちの未来を考えよう」というシンポジウムに呼んでいただいて、他のパネリストの人たちとアフリカの子どもたちや教育についての話をしていた時のことだった。司会者の方から、「アフリカの子どもと日本の子どもどちらが幸せか」というテーマが与えられ、パネリストがそれぞれの立場から回答していった。隣に座っていた元専門家である現任は小学校教諭の方が、「アフリカの生徒の目は、日本の生徒の目より輝いていました。」と答えられた。その瞬間、多くの参加者の方が目の前に座っていられるにも関わらず、時間と空間が飛んだ。

私は南アフリカのソエトという町のある小学校にいた。1979年、交換留学生としてリベリアの大学で勉強していた年だった。研究テーマは、南アフリカのapartheid。白人と有色人種を、教育、職業、居住区からセックス、結婚にいたるまで、あらゆる面で区別する社会的に制度化された差別政策で、世界的に悪名高く、しかもその時まで健在だった。有名な分だけ、研究書はたくさんあり、差別政策を心理学的に分析したものから、経済的な構造から説明したものまで多様だった。今思えば学生にとっては重過ぎるテーマだったのかもしれない。はっきり言ってよくわからなかった。どうしても実際に見たくて、休暇を利用して同じ留学生であった南アフリカの友人を訪ねることにした。訪れた南アフリカには暗いイメージが残っていない。バス、電車から、公園、トイレに至るまで、公共の乗り物や施設はすべて、白人と有色人種と別になっており、レストランまで「White Only」という札がかかっていた。近代的な首都、ヨハネスブルクですれ違う黒人は、下を向きうなだれているように見えた。盛りあがった黒人による反apartheid運動が、過激な弾圧によって制圧され、その指導者は獄中で拷問死したという事件の直後だったせいもあるかもしれない。友人はヨハネスブルクに通う黒人労働者(下級労働)の住居地であるソエトに住んでいた。巨大なスラムを想像していた私には、コンクリートやレンガ造りの家が整然と立ち並ぶ街並みは意外だった。しかし、一端内部に入ると、昼間から酒気を撒き散らした男たちがたむろし、マリファナの匂いがたちこめ、喧嘩が絶えず、売春婦が立ち並び、一瞬の快樂を求める人たちが徘徊するソドムのような地帯が多くあった。友人の知り合いのジャーナリスト、反政府活動家、一般市民たちなど多くの人たちと

話す機会があった。様々な話をしたが、ほとんどの人に共通だったのが、この国の未来について予想が暗いものだったことだ。すべての人が閉塞感を持っていた時期だったのかもしれない。私自身もとても絶望的な気持ちになっていた。加えて、小数白人が大多数の黒人を支配するために完備した巨大な秘密警察網は、頻りにソエトに通う政治とは関係ない私まで、不審人物としたりしく、尾行をつけるようになった。しかたなく暗然たる気持ちのまま南アフリカを去ることを決心した。そんなある日、通りかかったソエトの小学校の教室をふと覗いてみた。教室では、先生が生徒に静かに話をしていった。何を話しているのか知りたくて、先生の許可を得て、しばらく、授業の様子を見ていた。先生はその時勉強することの大事さについて話していた。勉強することが、黒人にとって職種を制限されているため、直接個人的利益に繋がらないその当時の南アフリカで、どんな話をするのか興味があった。先生は学ぶ楽しさや、知識を得ることによって広がる世界について具体的な例を引いて話していた。広い視野を持つことの大切さも語っていた。聞いている生徒の目は輝いていた。それを見た時、私は少し救われたような気がした。もしかすると南アフリカにも明るい未来があるのかもしれないと思った。それから15年たった1994年4月、南アフリカで全人種を含む総選挙が行われ、マンデラ政権が誕生した。そのニュースは南アフリカの動向から離れてしまっていた私にとって衝撃的だった。磐石とも思われた南アフリカの白人政権が自由選挙を認め、しかも、成立したマンデラ政権は、自分たちが多くの血を流したにも関わらず、復讐的な政策は一切採らず、平和的に権力の移譲が完了した。それは人類がなしたひとつの偉業だと思えた。その時、あの輝く目を持った子どもたちも20半ばを過ぎていたはずである。彼らが中心となってこれらの動きを支えていたような気がしてならない。

記憶が連鎖は、これだけで終わらなかった。一瞬で、場面が反転した。

それは、南アフリカでの劇的な政権交代から間もない頃、マダガスカル首都アンタナナリボの短いトンネルの中での出来事だった。その頃、私は、駆け出しの企画調査員で、マダガスカル開発政策について調査を行っていた。開発政策といっても守備範囲が広い。開発分野すべてを調べるといふことなので、回る省庁は農業、環境、保健、教育、工業など多し上、援助動向も調査対象なので、ドナーもすべて訪問していた。今思えば、とてもいい勉強になったが、その時は必死で、毎日、次の日訪問する省庁に関連する政策文章を読み、帰ってくるとその内容を夜遅くまでまとめるという日々が一ヶ月半の滞在中休みなく続いた。そんなに働いても能力不足のために、時間が足りない、約束の場所まで行く車の中でもずっと資料を読ん



でいた。その朝、ホテルを出て車の中でいつものように下を向き焦り気味で余裕なく資料に目を通していった。車が止まって動かない。ふと視線を感じ、目を上げた。そこは、アーケードのような短いトンネルだった。車の外をみると女の子、乗用車に座っている私とちょうど同じ目線だったので、10歳だったろうか、じっと私を見つめていた。いや見つめていなかった。彼女は私を見ていたわけではなかった。彼女は何も見ていなかった。こちらを向いていただけだった。しかし、私はその子の瞳から目をそらせなくなった。その瞳の中に感情というものを見出せなかったからだ。同年代の子どもたちの瞳の中には、好奇心、喜怒哀楽など豊かな感情があるものだ、少なくとも嫌悪感くらいあってもいい。しかし、彼女の瞳にあったものは、年老いた親が子どもを失った時に見せる絶望、それ以上に底なしの深い、あえて言えば虚無であった。それは私にとって驚愕であった。世の中の価値は相対的で絶対的な悪と決め付けられるものは少ないが、その時私は、これは絶対に間違っていると思った。このような瞳をもつ子どもを作ってしまう、親も社会も政府も絶対に間違っている。どんな理由を付けようか、この世界のあり方は間違っているにちがいない、と思った。あの子の瞳は抗議することさえ出来ない者が、社会につきつけた刃であった。あの頃、資料や統計の中でその国のことをわかってしまっていた。しかし、果たして回りのことを見ていたのだろうか。見ていたとしても、それは光景に過ぎなかった。資料や統計が役に立たないわけではない。しかし、それは道具にすぎず、本質的な部分は別にある。

幸福かどうかはあくまで主観的な問題だとすると、先の見えない袋小路のような社会の中でも、希望を持たせることが出来る教師にめぐりあった子どもたちは、幸せだったのかもしれない。しかし、誰からも振り向かれないことなく、路上に立ち尽くすあの子は間違いなく不幸である。だから、どんなに厳しい状況であっても、輝く目を持った子どもたちを作りだせる学校やそれをとりまく、教師、コミュニティーは、明日に続く、希望がもてる社会を創る可能性を持っている。

人は、時間がたてば、辛すぎることや悲しいことは忘れていく。それは、自己防衛の本能のなせる業なのかもしれない。今回、マダガスカル少女のことを思い出したとき、突きつけられていた刃は社会にはではなく自分に対してであったことがはっきりわかった。突然、よみがえってくる記憶は、人には忘れてはならないことがあるということを見せてくれているのかもしれない。(H)





# みんなの学校だより

vol.1 2

ニジェル住民参画型学校運営改善計画(みんなの学校プロジェクト)

2006年5月1日発行



今号のハイライト：  
COGES連合の機能強化  
教育開発10ヵ年計画合同評  
価現地調査  
SBM(学校自立運営)として  
のCOGES  
コミュニティー幼稚園開始  
中澤専門家・斎藤短期専門  
家の抱負

Vol.12

## COGES連合の機能強化

～現状と今後の見通し～

今回はトップページから地味なタイトルです。みません。しかしながら、この地味なタイトルにある「COGES連合の機能強化」は、今後のニジェールのCOGES政策の行方を左右するといっってよいほど、とても重要な意味をもっています。プロジェクトが提示している「機能するCOGESのモデル」についても機能するCOGES連合が実現することで、より完成度と実現性が高まるため、先のタウアでのPDDE合同評価調査(2ページに関連記事)においても、調査団のCOGES連合に対する期待と関心が示され、プロジェクトの取り組みと行方にも注目が集まっています。ということで、これまでのCOGES連合に対する取り組みの状況と課題及び、今後の展望についてまとめてみました。

### COGES連合とは

まずはおさらいですが、COGES連合とは各学校のCOGESをコミュニオン(ニジェールの最小行政単位)毎にグループ化した組織で、その存在意義はまず各学校のCOGES活動のモニタリングを行ない、機能するCOGESの維持強化を確保することです。なぜCOGES連合のように自主的にグループ化した組織にモニタリングの役割を課すのかというと、それはタウア州にいる9名のCOGES担当官のみでは全てのCOGES(タウア州で約1400校)のモニタリング・指導が不可能だからです。さらにはこれ以上の行政官を増やす余裕が国家予算にはないからです。このCOGES連合は基礎教育・識字省の当初のCOGESに関する法令、ガイドライン等にはこの点における具体的戦略が全く抜けていました。そこでみんなの学校プロジェクトが試行的にCOGES連合でもってその抜けた穴を埋める試みを始めたのです。これによってCOGES担当官はCOGES連合のモニタリングを行ない、COGES連合はCOGESをモニタリングするというシステムが出来るというわけです。COGESのモニタリング機能以外にも各COGESレベルではなし得ない課題や問題についてコミュニオンで団結して取り組むという役割などがあります。COGES連合は昨年6月に先行して設立された7つを含め、現在までにタウア州で39のCOGES連合が設立されています。

### これまでの活動と成果

さて、これまでのCOGES連合の活動の成果をまとめると、昨年9月に7COGES連合で行なった就学促進キャンペーンでは学年度開始時に入学登録率が平均して約2倍に増加するなど、関係者の予想以上の成果を残しました。入学希望児童数があまりにも多すぎて、教室や教員の確保が追いつかないという状況になるほどでしたが、COGESやCOGES連合を中心として、コミュニティーの参加による地域に根付いた啓発活動の効果、とりわけCOGESとCOGES連合の実力を実証したという点では大いに評価に値すると思われま。また、このほかにも契約教員とコミュニティーの関係改善にかかると新規赴任の校長に対するCOGES研修の実施など連合が主体となった多くの活動が行われました。その可能性と潜在性の大きさを示しました。昨年度のこれらの活動を実施したのは先行して設立された7つのCOGES連合で、大半のCOGES連合は昨年12月に設立されたばかりで現在ようやく4ヶ月が過ぎたところという状況で、本格的な活動はこれからです。

### 問題点

前述のCOGES連合の最も重要な役割であるCOGES活動の恒常的なモニタリング機能についてはまだまだ課題が多いようです。大半のCOGES連合が設立後間もないということで、事務局機能が未熟であることは否めません。その根本的な原因として、COGES連合の地理的な制約要因が考えられます。COGES連合もCOGES同様、民主的な組織で連合メンバーの総会が最高意思決定機関として活動の重要事項を協議決定することになっていますが、連合の構成メンバーである各COGESの代表は、お互いが地理的に離れたところに居住しているため、会合を行なうにしてもメンバーの集合が容易ではない場合が多いことが分かってきました。メンバーが頻りに顔を合わせることが出来ないということは、情報が迅速に行き渡らないだけでなく、メンバー間の結束力、モチベーションややる気の低下、更には活動の資金源となる分担金の回収率の低下、などの原因となる可能性もあります。このよう

にCOGES連合運営の基本部分に支障があるのと、連合の活動全体の発展が阻害される恐れもあるため、この問題に対する対処法をCOGES連合関係者やCOGES担当官と協議しています。コミュニオンの中心村で毎週市場が開催される日や金曜日の礼拝日を選んで実施するなど、人が集まりやすい機会を捉えて連合の会議も実施するという現実的な解決策などが提案されています。いかに外部からの投入を抑えた持続可能なシステムが可能であるか、創造力や視点の豊かさといったことが解決策を見出す上で重要になってきます。

その他、実験的に7つのCOGES連合に対して支援を行なっている収入創出活動も開始して約1ヶ月が経ちましたが、課題の多い滑り出しとなりました。氷や清涼飲料の販売(6連合)と玉ねぎの投機取引(1連合)がその活動内容ですが、前者の方は予想を大きく下回る売上です。事務局による運営能力や連合メンバーの意識及び地域社会の参加と協力が十分ではないようです。今後はより専門的な指導とモニタリングが必要になってくるとともに、連合による収入創出活動の一般化に向けた実現可能性について検討を行なっていきたいと思います。

### 今後の課題

COGESに比べてCOGES連合の活動についてはまだまだ実験的要素が強く、その概念が実際に現場で適用可能かどうか、モデルとして汎用性が確保できるかどうか、を今後はより注意深く見極めながら今後の活動を組み立て、実施していかねばなりません。少なくともCOGESの活動の恒常的なモニタリング機能の確保と強化は必須条件です。COGESレベルについて言えば、今や政府やドナー関係者を含め、誰もがみんなの学校モデルの実証によってその有用性を認めるところとなりましたが、COGES連合の機能化については、冒頭に述べたとおり、関係者がその進展状況には注目しているところで、これから具体的な形で説得力のある成果を出さなければなりません。これからもう一層ニジェル人関係者とともに一つの目標に向かって進んでいきます。

# 教育開発10ヵ年計画合同評価現地調査

## その結果と意義

ニジェールの教育開発を推し進めるために、基礎教育・識字省が作成し、ドナーが承認した教育開発10ヵ年計画(PDDE:2003年~2012年)の第1フェーズ4年間で2006年末で終了します。このため、毎年行っている、基礎教育・識字省、ドナーの合同評価を拡大し、今回は全国8州中6州への現地調査も行いました。その調査団がタウアにもやってきました。果たして、この調査は、ニジェールの教育開発に、そしてプロジェクトの今後にどんな影響を与えるのでしょうか。

### 調査団と調査の概要

タウア現地調査は、4月10~15日の6日間にわたり、基礎教育総局長、大臣秘書室2名、世銀2名(本部西アフリカ担当、ニジェール事務所教育担当)フランス、EU、JICA、オックスファム各1名の参加を得て行われました。調査内容は、COGESを通じた地方分権化、行政運営(県レベル)、教員養成研修、現職教員研修などの項目につき、各関係者からの聞き取りと現地視察などの方法により実施されました。聞き取り調査対象は、州基礎教育・識字事務所、各部署責任者、視学官事務所、教員養成校運営関係者、生徒などで、視察では、アバラック県、イレラ県、ケイタ県の複数の学校で、校長、教員、COGES委員、住民、生徒などとのグループインタビューが行われました。その他、ノンフォーマル教育部門では、ノンフォーマル視学官事務所、識字センターなどの訪問が行われました。調査団は調査の効率を上げるために、調査団を2つに分け、それぞれのグループが異なった調査を行い、調査終了後の情報を交換し合いました。

### 調査結果

調査終了後、4月14日午後8時から県教育関係者を集め、調査の概要と結果についての発表がありました。内容は以下の通りです。

#### ○COGESを通じた地方分権化

- COGES設置、研修、COGES連合に関して重要な進展が見られる。課題としては、プロジェクト後の効果の永続化のための戦略を策定することである。
- COGESの支援(モニタリング)組織、効果を生む能力開発については検討が必要であり、能力開発については、女子就学促進のための啓発研修、補修授業などの研修などが考えられる。

- COGES連合については、支援委員会の設立など、さらなる検討が必要である。

#### ○行政運営

- 組織機構、各役職の業務内容についての規定、新しい役職の創設、その定義等に、州基礎教育・識字事務所の努力は認められるが、その方法が参加型であるかわからない。

- 4半期ごとの活動計画の策定が開始されたが、策定は進んでいない。

問題としては、

- 基礎教育・識字事務所内の各役職の仕事の内容の規定が不適當
- 就学率に影響を与える都市部、農村部の教員の厳密な管理の不在
- 財務管理の不在(モニタリングは困難)

#### ○教員養成研修

- 教員養成研修は非常に深刻な問題を抱えていることが、すべての評価関係者の中で共有された。
- 教員養成研修の問題点については、積極的に活動的な解決策模索のための検討が行われている。

#### ○現職研修

- 現職研修は、非常に活動的で肯定的であるが、横断的な問題についてのCAPEDの議事進行に弱点が見られる。

#### ○教員養成校

- 教員養成校は生徒の入学時の学習レベルが低いことを前提として養成計画を策定すべきである。
- 教員養成校の遊牧地域出身の生徒のフランス語能力が低いことを認識すべきである。

### 調査結果の意義

現地調査は、PDDEの評価を補強するものとして、事前に各調査団共通の質問表を用意し、その質問表に沿って回答を得て、各調査団の調査結果を取りまとめる手はずでしたが、準備が悪く、調査表の内容について事前に合意を得ることが出来ず、第項目ごとに各調査団が独自に質問を行い、その印象をまとめる程度の調査となりました。実際、タウアの調査結果は、現地で活動する者にとっては当たり前の事実の確認にすぎませんでした。普段、デスクから離れることのない、ドナーや基礎教育・識字省上層部が現場の現実を自分の目で確かめたこと



住民にインタビューする合同調査団

は、非常に有意義であり、その結果が、PDDEの新しいフェーズに活かされることを祈りたいと思います。

### プロジェクトについての意義

プロジェクトに関して言えば、タウアにおけるCOGESの活動、COGES連合などの組織、COGES関係行政官のパフォーマンスなどを調査団に知らしめることが出来たという意味では、非常に意義があったと思われます。特に、調査2日目には、アポイントなしでの学校訪問が行われ、それらの学校でのCOGESの活動とその効果が確認されたことは、調査団員に深い印象を残したことは間違いありません。COGES担当官への世銀代表者からの質問などは、完全にタウアCOGESモデルの普及を前提としたものでした。世銀が6つある調査地域から特にタウアを選び、2名もその調査団に送り込んできた大きな理由の一つが、タウアのCOGESを見るためであることは、疑う余地もなく、そしてその視察の結果が今後のCOGESの進展に大きな影響を与えることも間違いありません。世銀がCOGESタウアモデルを認めれば、その普及に弾みがつきます。

今後は、プロジェクトとしては、モデルの普及に力を注ぐと共に、そのモデルが普及される際の形態についての技術支援、あるいは提案などに力を注いでいく必要があるのかもしれません。特に行わなければならないのは、現在プロジェクトが行っているCOGES連合の機能化の完成とその知見を現在のモデルに付け加えたモデルを完成させることです。



# SBM(学校自立運営)としてのCOGES

## プロジェクト支援の可能性と方向性

現在のプロジェクト目標は、中間評価後変更され、「COGES(学校運営委員会)を通じた住民参加型学校運営モデルが強化される」となっている。変更前の目標は「地域住民のニーズを反映した住民参加型学校運営が行われる」であった。この2つのPDMの関連性自体は、プロジェクト前期で確立したモデルを、プロジェクト後半で強化するという点で比較的わかりやすいが、この目標の中にある「住民参加型学校運営」が一体何を意味するのか、また、それが、学校教育にどのようなインパクトを与えるのか、どのような形でそのインパクトが現れるのかが明確ではない。そのため、よくプロジェクトのPDMがわかりにくいと言われる。勿論、プロジェクトの具体的な活動に沿って、上記疑問に回答することは出来る。しかし、これはあくまでプロジェクトの解釈で、一般的な答えにはなっていない。この不明確さはどこから来ているか、実はそれは、プロジェクトが支援しているCOGES政策、言い換えればSBM(School-based management)という地方分権化政策自体の持つ曖昧さから由来している。本稿では、このSBM政策を文献等で検討しながら、COGES政策や今後のプロジェクトのあり方を検討する。

### SBM(School based management)の定義

教育の地方分権化政策は、以下の3つに分類できる。(注1)

1. 「権力分散化政策」(deconcentration) : 中央政府が独占していた教育の計画、管理、財源、資源の収集及び割当て並びに運営に関する意思決定権を中央政府の地方事務所に委任する。
2. 「地方分権化政策」(decentralization) : 上述の決定権を州政府や市町村等の地方自治体や選挙で選ばれた地方機関に委任する。
3. 「民営化政策」(privatization) : 上述の決定権を私立学校等の非政府団体や親やコミュニティに委任する。

SBMはこの分類では、「民営化政策」に属する政策である。SBMを定義すると「中央政府により決められた到達目標、政策、カリキュラム、基準、説明責任の枠組み内で、学校運営に関する重要事項の決定権限と責任を学校レベルに体系的に分権化する。」(注2)ということになる。しかし、実際に行われているSBMはともこの定義でまとめることはできない。それは、SBMが異なった環境、予算、理由、方法で行われているからである。さらに、政策実施者が拠りどころとする考え方や価値観も様々である上、「学校」や「運営」といったより基本的

な概念でさえ、異なっている。唯一SBMを実施している国々において共通しているのは、学校レベルでの権限と責任の増加が見られる点である。

### SBMの導入の背景

地方分権化政策としてのSBMを多くの政府が導入している背景には、以下の理由が考えられる。(注3)

1. 教育支出のコストシェアリング  
教育支出の増大にともなう財政難のためのコミュニティや親の教育負担の共有する
  2. 教育計画・運営の効率化  
中央集権的非効率な教育計画・運営を解消する
  3. 教育効果のアカウンタビリティの向上  
コミュニティや親の教育ニーズを反映し、教育効果に関する結果責任の要求の容易にする
- 上記SBMの導入の理由の強弱により、各政府が実施するSBMの実施形態が異なってくる。さらに、それぞれの政府がもつ政治的な意図が付け加えられる。したがって、「左翼政権においては、SBMがコミュニティのエンパワーメントや職業技術の強化に関する方向性を持ち、右翼政権のSBMは、自由と多様性を求める傾向がある。」(注4)とも言われる。

### SBMの分類

学校レベルへどのような権限の委譲するかによってSBMの形態は、異なってくる。委譲する権限を分類すると以下ようになる。(注5)

- **知識**: 学習内容の決定権
- **技術**: 学習方法、教授方法の決定権
- **権力**: 決定権
- **資材**: 教材、教具の決定権
- **人員**: 人的資源の決定権
- **スケジュール**: 学習スケジュールの決定権



アバラック県でのCOGES総会の様子

● **財務**: 学校に供与された財的資源の使用目的決定権  
これらの権限の委譲のうち、現在行われているSBMでもっとも顕著な例は、学校レベルへの予算の分権化である。学校レベルへ多額のシステム予算を分散化しようとする側の論点によると、多様な生徒の学習ニーズは各校独特であり、そのニーズを満たし得るすべての種類の資源の組み合わせもまた、各校で独特なものになる。したがって、教員の雇用、備品、教科書、補助金などの量や金額の調整を、中央で決定するのは非効率であるということになる。国によっては、公教育に掛かる国家予算の90%に関する執行決定権を学校レベルに分権化しているところもある。

### SBMの実践

SBMは、10年以上、2500以上の学校で導入されているイギリスを始め、オーストラリアのビクトリア州、カナダ、アメリカなどで既に制度化され、行われてきた。先進国だけではなく、発展途上国においても、南米などでは、世界銀行の奨励により、SBMを多くの国で実施してきた。アジアでも、SBMの改革を掲げている国は非常に多い。アフリカ諸国に関しては、世銀の推奨により地方分権化政策を打ち出している国は多いが、SBMの形を取っている国は多くはない。どちらかという、「権力分散化政策」、「地方分権化政策」とSBMの要素が混在して行われている場合が多い。  
オーストラリアのビクトリア州の場合、上記権限のすべてを学校レベルに委譲したということで、SBMがもっとも進んでいる試みと捉えられている。(次号でケーススタディーとして検証する)

### SBMの効果、成果

非常に注目されているSBMであるが、果たしてSBMは何をもたらしたのだろうか。SBMの効果として確認できることは、「SBMの背景」の項で説明した教育予算の政府と住民のコストシェアリング、効率的な教育計画の立案、教育効果のアカウンタビリティの向上である。これらの点については、ビクトリア州のように、体系的に権限の委譲と関係者への能力改善が行われれば、効果が得られると推論できる。しかし、どの政府にとっても興味がある学習の向上にSBMが効果があるのだろうか。実は、政府の期待に反し、現在まで、SBMと学習効果の因果関係について、証明されている例は稀である。

## プロジェクト解説

その理由は、それを証明すべきデータベースが存在しないか、貧弱な場合がほとんどだったからである。しかし、最近の研究で、SBMが学習の向上に明確な効果を示したとの報告もある。ここで、インドネシアの例を紹介する。(注6)

インドネシアの3県79校でUNESCO、UNICEFによって支援された「子どもたちのための学習コミュニティ作り(Creating Learning Communities for Children)」(注7)というプロジェクトが行われた。プロジェクトの構成要素は、以下の通りである。

1. 79のそれぞれの学校に小規模の予算を供与する
2. 指導法とカリキュラムへの新しいアプローチに関する教員養成プログラムを実施する
3. 学校を支援するよう保護者を促すコミュニティ開発プログラムを実施する
4. Active Joyful Effective Learning(注8)

(このプロジェクトでは、開始より12ヶ月後には、出席率と試験成績において劇的な改善がみられた。上記4つの活動のうち、SBMの要素としては、1と3の財務権限の委譲と、保護者、コミュニティへのエンパワーメントが挙げられる。それに、2、3の活動、つまり、教員の教授法研修と実践を組み合わせることが、学習成果の向上に結びついたと分析できる。またラテンアメリカの教育の質研究所の報告によると、ラテンアメリカ7カ国に関する研究結果(注9)でも、質の高い学校運営と効果的な教授技術により学習の成果が改善されたと分析されている。

### 中央集権化とSBMの問題点

多くの国でSBM導入を表明しながら、実際に遅々として政策が進まない場合がある。なぜか。それは、「制御、統一、効率性を志向する“中央集権化”と、自由、差異性、即応性を志向する“地方分権化”は緊張関係にある」(注7)ためであり、SBMを導入は政府や教育システムの指導者のイニシアチブである一方、中央の職員は大抵、この変化に対して抵抗する。それは、権力、権限、責任、影響力を喪失すると考え、実際にそうなるからである。つまり、地方分権化政策を導入している政府内部、あるいは、教育省内部は一枚岩ではなく、つねに、抵抗勢力があり、政策が政府の意図した方向性に沿って進まない場合もありうるということである。アフリカ諸国などの現状を見ると、世銀などの奨励により、SBMの政策を打ち出し、権限と責任の受け取り手である「学校運営委員会」などの組織は作ったものの、政府内部での調整が出来ず、権限分散化政策と混在するような制度となっている国が多いのは、上のような事情があると推測される。

### SMBとしてのCOGES政策の現状と課題

ニジェールのCOGES政策をSBMの観点から検討する。ニジェールの場合、他のアフリカ諸国と同様に世銀の推奨を受けてSBMを指向す

る地方分権化政策の導入を図り、委譲すべき、権限の受け取り手となる学校運営委員会(COGES)を中心とした制度を導入した。法令では、学校運営委員会の役割として、多くの以下のような内容を規定している。

- 児童と教員の精勤さについての管理とモニタリングを行う
- 就学、特に女子の就学促進活動の企画準備を行う
- 保護者、教員、児童他、様々な学校の関係者間の調整を図り学校内での平安と平穩を保障する
- 児童の勉学と生活の環境や学習の質の改善を目指した活動に参加する
- 学校活動計画の作成、実施・モニタリング・評価を行う
- 学校の教科書、学用品の受け入れ管理を行う
- 学校のインフラ、備品の維持管理を行う
- 学校給食用の食糧の管理運営を行う
- 特別カリキュラムの作成に参加する
- 教員自主研修(CAPED)組織に参加する
- 学校の保健衛生の改善に参加する
- 学校環境の浄化と安全確保を行う

この規定を権限と責任という面で分析すると、権限については、**資機材**(教科書、学用品の受け入れ管理、学校給食用の食糧の管理運営)しか触れられていない。SBMの政策として見た場合、多くの責任委譲が予定されているが、権限委譲はほとんど予定されていないことがわかる。他のSBMでもっとも特徴的である財務の権限委譲が予定されていない。世銀などは、COGESへの教科書直接配布を強く推奨し、実施にいたったが、他の権限についても権力の委譲に積極的である。しかし、ニジェールがビクトリア州のような全面的なSBMの方向に向うのか、中途半端なままのSBMに終始するのかは明らかではない。それは、政府、あるいは基礎教育・識字省内部でのSBM推進に対する抵抗が根強いからである。

### COGESとプロジェクトの今後

前項で明らかにしたように、ニジェールのCOGES政策の行方は非常に不透明である。その不透明な行方を方向性を示し、その戦略についての実現に向けた方策を、その成果によって示してきたのは本プロジェクトであり、それ自体は評価に値する。しかし、本プロジェクトが明らかにし、実証してきたことは、住民が自ら教育に対するニーズに沿って、学校に関する改善活動を行った時のエネルギー、実行力であり、実力である。そしてプロジェクトが支援するタウアの1330のCOGESが成し遂げている成果は、政府やドナーを住民が主体となった教育開発の方向性に動かしている。しかしながら、オーストラリアのビクトリア州のようなSBMの特徴を最大限に生かした制度を作り上げるためには、政府がSBMを正しく理解し、イニシアチブを取り、政府内部への多くの啓発活動を行い、能力改善を行っていく必

要がある。それには、多くの時間と努力が必要である。プロジェクトが出来ることは、住民の教育開発におけるより広い範囲で、より深い成果を積み重ね、政府が権限委譲をしやすい土台を形作っていくことである。しかし、ここで注意しなければならないのは、ニジェールがより多くの権限を学校レベルに委譲するSBMの方向性に向ったとしても、それですべてが解決するわけではないという点である。それは、SBM自体が学校改善のすべての希望を叶える「万能薬」ではないからである。この政策は、他の様々な政策や能力開発と組み合わせられてはじめて、教育開発において大きな役割を演じることが出来るのである。したがって、プロジェクトとしても、今後、インドネシアの例のように、学校運営の改善と教員の能力改善などを組み合わせた重層的な援助を行うことによって、COGESが、教育のアクセスの改善だけでなく、教育の質の改善にも大きく貢献できることを具体的に示すことにより、SBMの本質と有効性を提示し、ニジェールにおけるSBMの先導役を勤める必要がある。(注10)

- 注1 Rondinelli, Dennis A, et al. (1983). Decentralization in Developing Countries: A Review of Recent Experience (Staff Working Paper No. 581) Washington DC: World Bank
- 注2, 4, 6 Brian J. Caldwell (2005) School-based management (Education policy series) International Institute for Education Planning
- 注3 吉良直 世界銀行の教育地方分権化政策のジレンマ(2001)開発と教育
- 注5 Ibtisam Abu-Dohou (1999) une gestion plus autonome des écoles, International Institute for Education Planning
- 注7 現在このプロジェクトはオーストラリアの支援を受け、大規模に展開されている。
- 注8 JELとして知られる児童中心型教育方法
- 注9 The Latin American Laboratory for Assessment for the Quality of Education の2002年の報告
- 注10 ニジェールの教育の質の問題において、校長の能力や教員の質が一番重要で深刻な問題であるとの共通認識がある。しかし、ニジェールには校長研修制度は存在せず、また教員養成研修が不十分で、その不備を現職教員研修により補完する政策が取られているが、現職教員研修も十分に機能していない。一方学習の質や教員の質の問題に、住民が多くの問題意識を持っていることは、住民が学校の問題を自ら分析し、解決策にプライオリティーをつけて行っていく学校活動計画の枠組みで現職教員研修支援や、補習授業支援などの活動が多く実施されていることで判明している。政府は、政策として校長研修を含む、現職教員研修への支援をCOGESの役割としている。しかし、その支援は、COGESが機能しない限り、期待できない。したがって、この支援を実現できる可能性があるのは、COGESが機能しているタウアのみであり、プロジェクトとしては、将来の活動として、COGESを通じた教育の質の改善に取り組んでいく大きな責務があると思われる。



## 就学前教育

# コミュニティ幼稚園よちよち歩き中！

「ボンジュール、タンティン！（おはようございます、おばちゃん）」数ヶ月前に訪れたときには、珍妙な訪問者（筆者）を好奇心と恐怖心の入り混じったような“くるくる眼（まなこ）”で凝視するだけだったはずのちびっ子たちが、ちよっぴり誇らしげに挨拶をしてきた。「おやまあ、この子たちったら、ちよっと思わない間にこんなに立派になって。。。と目尻も下がり、すっかり孫の成長を見守るおばあちゃんの心境である（ちなみに筆者は孫どころか子なし夫なしなのだが...）。

\*\*\*

昨年度12月から準備を始め、2月中旬にイレラ県内3村にて開園したコミュニティ幼稚園が早2ヶ月を迎えました。このコミュニティ幼稚園は、COGES学校計画のひとつで、教室やクラス内設備から保育者の給与に至るまですべてがコミュニティによって賄われています。コミュニティからの動員は、財政的・物的資源に留まりません。幼稚園の保育者も村の住人であり、コミュニティによって選ばれた人材なのです。まさに掛け値なしで“100%”村の資本により運営されている幼稚園といえます。

でも 小学校就学率が50%でその教室も教材も充分には程遠いニジェルにおいて、「なぜ就学前教育？」「お金を使うなら幼稚園よりも小学校じゃないの？」「田舎の村に本当に幼稚園が必要なの？」という声も挙がるかもしれませんが、ニジェルのように初等教育の普及が充分でない国においては、乳幼児の発達教育としてもさることながら、「小学校就学率の上昇」「母親の負担軽減と女性の自立」「女子の就学率上昇」など基礎教育全体の底上げがその効果として期待されています。また、村の住民自身も「小学校入学への準備（学校生活への適応）」や「子供の安全確保と母親（保護者）の負担軽減」「モラル・社会性の習得 社会生活への適応」などをその役割として期待しています。

しかし、小学校就学も儘ならないニジェルの現状において、就学前教育を村落住民のイニシアチブのみで進めていくことはやはり容易なことではありません。就学前教育へ



ちびっ子たちも元気に体操！

のニジェル全国就学率は、わずか1%で、ほとんどが首都および都市部に集中。公立幼稚園でも年間6000~12000FCFAもの学費を納めなければならず、まさに町のお金持ち子弟の施設となっています。よって、地方農村部においては、せいぜいわさに聞く程度で、多数の住民が実際の「幼稚園」なんて見たことも聞いたこともないという状態です。その一方で、各村コミュニティ幼稚園の主要な運営者は小学校長などバリバリの教育者たち。彼らが考える「幼稚園」はまさにニジェルの公立幼稚園そのものです。つまり、そこには色々なおもちゃや教材がなくてはならず、フランス語や算数の基礎を小学校の準備として習うべきで...などなど。学力向上面重視の傾向が根強いのです。また、村の保育者たちも公立幼稚園のカリキュラムを基にした保育内容の研修を受けているため、その通りに来れない環境に幾分戸惑い気味。その結果、教材がない、遊具がない、お金が集まらない、だから何もできない、と思考停止に陥ってしまうこともしばしばです。限りある（かつわずかな）財源の中では、「幼稚園はこうあるべき」という固定観念が「袋小路」へと繋がってしまいます。

「何も特別な物がなくたって充分遊べるでしょ。日常の「遊び」からだって子供はいっぱい学べるんだから。」幼稚園の最大の役割は「小学校への準備」。読み書きを始めることがより大切だ！園児用の黒板とチョークが絶対必要！、「子供を安全な環境で保護するだけだって充分意味がある。今ある人的・物的資源を最大限利用して、出来ることから始めるべきでしょう？」「住民だって子供に読み書きをしてもらいたいんだ！でもお金がないから何も出来ない！」「この石頭！」「この世間知らず！」とさすがに最後のやり取りまではありませんが、それこそ（特に運営者側がもつ）既存の「幼稚園」という固定観念を打ち破ることから始めなければなりません。

村の一般家計の厳しい現実を前にして、とてもとても教材や遊具の揃った「幼稚園」を作り上げることは無理ですし、またその必要があるとも思えません。そもそも100%村の資本なのだから、公立幼稚園に右倣えする必要も全くないのです。保育内容も保育時間もすべて何でも自分たちで決めることができるのです。その一方で、住民の持つ資源を超えるものはもちろん出来ません。住民による意思決定の「自由」と住民の能力内ではできないという「制限」とこのバランスの中でうまく、自分たちが望み、自分たちで出来る“自分たちの幼稚園”を創りあげることが必要なのです。もちろんこれは口で言うほど簡単ではありません。何しろ



今日は何を勉強するのか？

「お手本」がないのですから。その中で、手作りのおもちゃを作ったり、村の人に遊び道具を提供してもらったりと、すこしづつすこしづつ保育者も運営者も模索を始めています。

\*\*\*

そんなこんなで、名実共に“まっさらな更地”ゼロのゼロから出発した3村のコミュニティ幼稚園はまだまだよちよち歩きで、山あり谷ありです。時に「本当に幼稚園へのニーズは村にあるのだろうか？」「これは教育関係者や町の一部の人のエゴに過ぎないのではないだろうか？」等々思うこともしばしばです。それでも「引込み思案だったうちの子がきちんと挨拶をするようになったのよ！」と満面の笑顔で誇らしげに話す村のお母さんたちの姿は、少なくともこの試みが“ゼロ”ではないことを示しています。子供も大人も無理して背伸びをする必要はないのです。「あいさつをするようになった。」「自分で顔を洗うようになった。」これだけで、こんなにも誇らしいのですから。お金はなくても、村にはそれこそ有益な資材がたくさんあります。物知りなお年寄り、話好きのお母さん、国中を旅した商人...。文化・伝統、社会のきずな...伝えるべきこともたくさんあります。そんな皆さんの村の資源をつかって、コミュニティ幼稚園ならではの幼稚園の“かたち” それぞれの村に合った幼稚園を創りあげることこそ、コミュニティ幼稚園が今後発展していく道でしょう。

保護者たちが交代でやってきて子どもと遊んでいく、村のおじいちゃんおばあちゃんが昔話をしに訪れる。それこそこのコミュニティ幼稚園が老若男女の入り混じる「村の集いの場」になればなんと願いつつ、今後もニジェル内のコミュニティ幼稚園発展への可能性を探っていきたいと思っています。

### 現在までの活動実施状況

保育者研修：7日間保育者6名参加 - 幼稚園視学官事務所長担当（2月初旬）  
コミュニティ幼稚園巡回視察（1月～4月）  
コミュニティ幼稚園アトリエ：保育者6名、COGESメンバー6名参加（3月末）  
住民意識アンケート調査・インタビュー（4月下旬）

### みんなの学校プロジェクト ホームページに

マンスリーレポートも掲載しています。

(<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>)

マンスリーレポートでみんなの学校の活動をリアルタイムで  
知ることが出来ます。

また「みんなの学校だより」のバックナンバーはホームペー  
ジからダウンロードできます。新しいホームページにはフォト  
ギャラリーや動画もあります。是非、ご覧ください。

### 本誌「みんなの学校だより」に関する 皆様のご意見・ご感想をお聞かせください！

~~~~~ 編集・発行  
ニジェール住民参画型学校運営改善計画  
(みんなの学校プロジェクト)

お問い合わせ・連絡先  
Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER  
電話/FAX: + 227 - 610 - 571  
E-mail: Rosedesaha@aol.com  
Onoue.Kimikazu@jica.go.jp  
Nakazawa.Junko@jica.go.jp

## プロジェクト カレンダー

### 2006年5月～2006年7月

- 5月3日: プザ県校長アトリエ
- 5月4日～17日: ザンデル州選挙研修(全校対象)
- 5月25日～27日: PDDE合同レビュー
- 5月末: COGES担当官会議
- 6月2日～3日: JICAアフリカ圏教育ワークショップ(セネガル)
- 6月中旬: ザンデルCOGESメンバー選挙
- 6月末: COGES担当官会議
- 7月1日～27日: ザンデル学校計画研修・COGES連合研修
- 7月13日～28日: プロジェクト終了時評価
- 7月23日: COGES担当官会議
- 7月24日: COGES連合会議



4月24日 - 30日は「万人のための教育」習慣で、タウアでも大イベントがありました(本プロジェクトも後援)。「学校は好きですか?」との質問に、男の子は元気な声で「うん、大好き!」と回答。

## 編集後記

### タウア名物

タウアの一番暑い季節がやってきた。この時期になると冷房のない室内にいますと、手に触れるものがすべて暑い。クーラーがあってもよほど強力なものでないと、冷たい風が出ているところ以外は暑い。学校に巡回に行き帰ってくると、しばらくたっても体の熱さが抜けず、夜になっても氷で頭を冷やしていないと眠りにつくこともできない。さらにこの時期には断水、停電が多い。すべてが一週にやってくるとトリプルパンチといったところで、もう降参するしかない。調査団が来て、まともなホテルもなければ、店もなく、活動以外に見せるものもない。同じニジェールでも、ニアメとタウアは本当に違う。ニアメにはフランスから輸入された食品や製品があるし、中華やフランスのレストランもある。停電や断水も少ないし、フランス、イギリスと同じテレビ番組を見ることもできる。しかし、ドナー会議で会う先進国の援助関係者の人たちは、雑談で、ニジェール(ニアメ)の生活苦ばかりを話している。その話にはついていけない。かれらは、ほとんど地方に足を運ぶこともなく、来たとしても、長く2泊といったところだ。その人たちがタウアにやってきた。このニュースレターにも書かれている「教育開発10ヵ年計画」合同評価のための現地調査であった。タウアに5泊し

た。異例のことである。着いた日は断水であった。これに参っていたが、次の日の朝、朝食を頼んでから、ネスカフェと粉ミルクのフェオレが出てくるまで30分以上かかって、会議に遅刻、夜仕事をしようとしたら、停電であった。「タウア名物」の洗礼を受けたといったところかもしれない。

しかし、この人たちに体験してほしかったのは、タウアの暑さや生活の厳しさではなく、タウアの学校を取り巻く人たちの熱さだった。調査一日目は、予定した視察と訪問をこなしたが、2日目から、アボなしの学校訪問を行った。大体ドナーの人たちは、準備された訪問を信用していない。それは、私も同じなので、調査団長の世銀に人に、予定している学校以外にもどんどん車をとめて、教員や住民と話をしてみるといいとアドバイスした。それで、調査は予定以外の訪問が中心となった。COGESに関してはすべての調査団員に強烈な印象を与えたようだ。アボなしで訪問したすべての学校で、COGES委員や教員や住民がCOGESのことを語り、COGESが実施した活動計画で実施した活動を見せた。タウアのCOGESが見せかけではなく、機能しているということを感じてもらったことは、とても大きなことだったと思う。これで、タウアCOGESモデルの全国普及が

後戻りすることはない。

ただ、ひとつ気になったことは、世銀の人がタウアモデルの全国普及に技術支援の必要性をあまり考慮していなかったことだ。このモデルを他に持って行って、そのまま必要なお金を付けば、タウアと同じようにCOGESが機能すると考えていた。今、プロジェクトがしていることは、モデルが機能するために、ポイントポイントでのアドバイスや介入なのである。例えば、COGES連合の会議が予定通り開かれない、その場合、プロジェクトでは、会議を開けと命令するのではなく、なぜ、開かれないのかを関係者と話し、その結論からアドバイスをし、スタッフが直接会議に出向くこともある。そういう支援こそ、モデルを機能させるために必要であり、プロジェクトが存在する意義であり、言い換えれば、技術援助が必要となるのである。タウアで行われている女子就学促進の活動にしろ、もう少し技術支援を行ったら効率的になるだろうと思うことがたくさんある。セクタープログラムが進展する中で個別プロジェクト不要論も言われているが、今後も本当の「技術」をもったプロジェクトの必要性がなくなることはないだろう。もちろん、そのプロジェクトが本当の「技術」を提供できることが不可欠な条件ではあるが... (H)



## COGESタウア州モデルの確立と全国普及を目指して!

7

月18日から7月28日までの11日間、JICA本部調査団による終了時評価が行われました。今回の調査では、従来の対象地域であるタウア州に加え、新しいパイロット地域であるザンデル州も調査対象となっています。

タウア州の現地調査では、COGESモデルが確立されたかどうかを検証するために、APP、コミュニティー幼稚園、学校プロジェクトなどのCOGESやCOGES連合による活動実施状況の確認と、COGES関係者への聞き取り調査が行われました。

ザンデル州では、タウア州で構築されたCOGESモデルの汎用性の確認を目的として、対象校訪問、学校活動計画・COGES連合設置研修の視察、関係者に対するインタビューが行われました。

これらの調査結果は、ニアメにおける基礎教育・識字省側との協議を通じ取りまとめられ、合同調整委員会において報告され、正式な交換文書としてその内容が日本側とニジェール側とで共有されました。

### 調査結果

評価結果の詳細は後述しますが、総合的な評価としてはプロジェクト目標である「COGESを通じた住民参画型の学校運営モデルの強化」を含む、ほぼ全ての成果が達成されたと判断され、上位目標とされる当プロジェクトの運営モデル全国普及についても、現時点では普及化には至っていないものの、ニジェール側がこのモデルを全国に展開したいという意向が非常に強いことが明らかになった為、達成の可能性が高いと評価されました。

### 課題

一方、プロジェクト終了までの期間内に取り組むべき重要課題は、以下2点があげられています。



終了時評価調査終了、その結果は?

#### 中央レベルでのCOGES政策支援

COGESモデルの全国展開を実現するためには、基礎教育・識字省の強いイニシアティブにより、PDDE(教育開発10年計画)年間計画へCOGES政策支援を継続的に反映し、政策実施に必要な政府予算を確保していくことが必要になりますが、現在その努力は十分ではありません。この点をプロジェクトで支援する必要性が評価団によって提言されました。

#### タウアモデルの確立

タウアのCOGESモデルとして、「みんなの学校モデル」と呼ばれる各COGESを機能化させるためのミニマムパッケージ、つまり、民主選挙、学校活動計画、地方行政官によるモニタリングについては、その有効性は証明されています。しかし、モデルを完成するためには、地方行政官にCOGES連合を加えたモニタリング体制の確立が必要となります。しかし、モニタリング体制の鍵ともいえるCOGES連合が現在十全に機能しておらず、その機能化の重要性も調査団により指摘されました。

#### 具体的な方向性

以上の提言を受け、当プロジェクトは、「中央レベルのCOGES政策支援」に関し、COGES推進室がCOGES政策を推進できるように、現在までのCOGESのさまざまな実践を評価し、提言を行う外部COGES評価を技術、

財政面において支援します。さらに、外部評価の政策提言をもとに、基礎教育・識字省とドナーが評価結果を政策としてまとめるためのワークショップ、そして政策の承認を行うためのアトリエなどの開催もお手伝いしていきます。

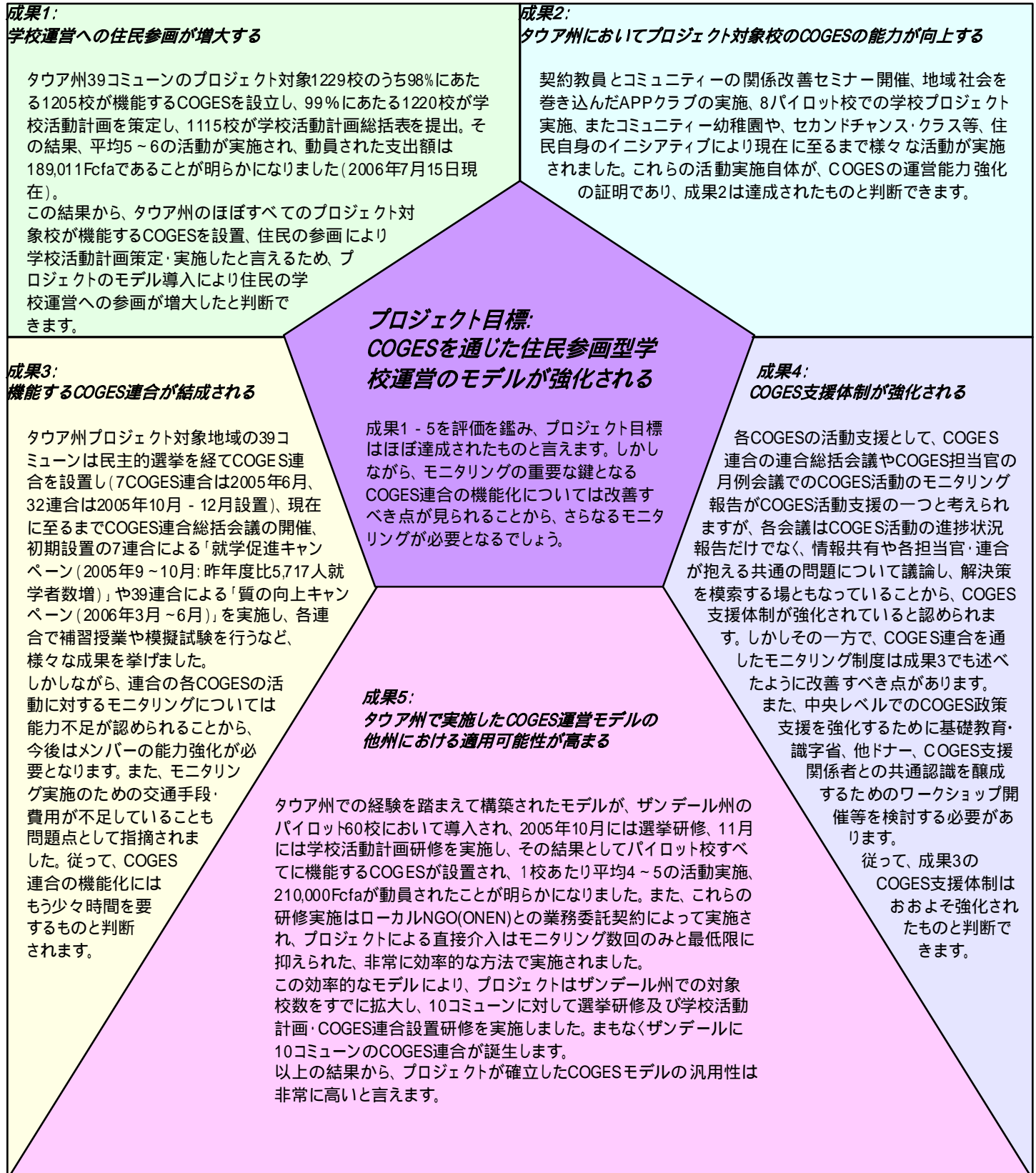
また「タウアモデルの確立」に関しては、現在行っているCOGES連合の機能化に向けてのワークショップ、研修などを強化するとともに、このモデルを更に合理化し、NGOへの委託でCOGESとCOGES連合の確立を目指す「ザンデルモデル」の確立を目指します。

さらに、当プロジェクトは、COGES連合の“教育開発の推進役”としての役割を強化していきます。COGES連合は、設置されて以来、COGESの活動を支援するための連合会議開催を始め、契約教員とコミュニティーの関係改善セミナー、質の向上キャンペーンを組織し、2005年9 - 10月に実施された就学促進キャンペーン(7連合対象)では、新入学生数を前年度比50%上昇させるなど、数々の実績を挙げてきました。これらの成果は、行政からの一方的な押し付けの活動ではなく、住民のニーズを的確に汲み取った計画を、住民が一丸となって取り組んだため達成されたものです。COGES連合が中心となり、住民共通の課題に各COGESの活力を集約し取り組みことで、より大きく、明白な成果も出せるのです。その上、地域住民の代表であるCOGES連合が、住民のニーズを反映した教育計画や提言を、県や州の基礎教育局に対して行い、中央レベルの教育政策へ反映することにより、下から上への教育開発が可能になります。COGES連合は、ニジェールの教育開発の成功を左右するほど重要な存在であり、COGES連合支援に当プロジェクトは全力を尽くしていきます。

最後になりましたが、ハードスケジュールをものともせず、真摯に調査を実施して下さった調査団の団員、調査に協力して下さった関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

# 終了時評価結果概要

今回の終了時評価の結果、プロジェクト目標及び期待される成果について、ほぼすべてを達成したとの評価されました。一方、改善すべき課題については、プロジェクト終了までの残された期間内に達成できるよう真摯に取り組んでいきます。以下、本稿では終了時評価調査団による現地報告書をもとに終了時評価の結果概要をお伝えします。





今後の課題及び活動方針

(1)全国普及のための中央省庁・他ドナーへの働きかけ

2004年1月のプロジェクト開始以来、当プロジェクトでは「みんなの学校モデル」確立に向けてタウア州で様々な取り組みを行ってきました。現在、そのモデルはほぼ完成しつつあります。

しかしながら、当プロジェクトのモデルを全国へ普及するためには、基礎教育・識字省や他ドナー等の関係者がCOGES支援、及び当プロジェクトのアプローチによる取り組みとその実績に対して更に理解を深めることが必要となります。今後、当プロジェクトから更なる情報発信・働きかけを行い、近日実施予定のPDDE技術会合や合同レビューで当プロジェクトのアプローチによるCOGES支援政策を議題として取り上げられるような努力を行うことが必要です。

また、類似プロジェクトを実施しているUNICEFやEU、CONCERN(国際NGO)等の他ドナーとの支援アプローチを統一するための働きかけも必要となります。



(2)COGES推進室の能力強化支援

組織的持続発展性を考慮するうえで、基礎教育・識字省及びCOGES推進室の能力強化は必須です。COGES推進室とCOGES支援ドナーによるワーキンググループ(WG)は既に存在していますが、今後、COGES政策の方針と行動計画を確立させるために、WGの活動を活発化させるための支援を行う必要があります。



(3)COGES連合モデル化の確立

みんなの学校モデルでは、COGES連合を活用したCOGESのモニタリング実施及びコミュニケーションレベルの教育開発のモデル構築を目指していますが、上述の通りモニタリング制度については、モニタリングの標準化、COGES、COGES連合からのレポートシステムの改善等取り組むべき点が幾つかあります。また、連合の果たすべき役割とその機能について、メンバーが理解を深めることも能力強化の点で重要になります。これらを踏まえ、機能するCOGES連合のモデル構築を目指します。



評価5項目に沿った評価結果

| 評価項目  | 結果          | コメント                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 妥当性   | 非常に高い       | 本プロジェクトは、ニジェール国10ヵ年教育開発計画(PDDE)においてマネジメントの改善として、COGES政策の実施が掲げられていることから、教育省のニーズにも合致しており、「万人のための教育(EFA)」、「ミレニアム開発目標(MDG)」にも対応しているものと判断できる。<br>また、本プロジェクトで採用した限られた資源を効果的に活用する戦略は、ニジェールの教育事情(限られた予算、人的資源)を鑑み、極めて妥当であると考えられる。プロジェクト対象地域についても、タウア、ザンデルはニジェールの中でも教育指標の低い地域であり、教育省の要望、地方教育行政官のやる気ともに非常に高く、本地域を対象としたプロジェクトの実施は適切であった。                                                                                                      |
| 有効性   | 高い(ほぼ達成された) | プロジェクト目標の達成について、住民参加を促進したCOGESと民主的な学校運営モデルの構築については確立されたと判断できる。しかしながら、COGES連合を活用したCOGESのモニタリング実施、及びコミュニケーションレベルの教育開発のモデルの構築については、現在連合モデルが試行期にあることから、モデル構築の成否はまだ判断できない。継続してモニタリングを行ない、COGES連合の役割の明確化、効率的な運営について改善する必要がある。また、COGES及びCOGES連合の地方教育行政官によるモニタリング・システムの構築については、モニタリングの標準化、COGES、COGES連合からのレポートシステムの改善が必要である。<br>汎用性については、二つの側面(他地域への汎用性、普及のための汎用性)を考慮する必要がある。COGESの他地域への汎用性についてはザンデル州への普及で証明された。COGES連合の他地域への汎用性は試行段階である。 |
| 効率性   | 非常に高い       | 研修期間の短縮、研修の集中実施、現地NGOとのパートナーシップを通じ、プロジェクトは多大なる努力をし、成功している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| インパクト | 非常に大きい      | 上位目標の達成にいたるには、プロジェクトの成果に加え、COGES政策実施におけるニジェール国政府の強いイニシアティブとドナー間でのCOGES実施方針の共有が不可欠となる。ニジェール国政府はプロジェクト成果を高く評価し、今後ドナー技術会合等を通して関係者間でのプロジェクト運営モデルの共有を検討していることから上位目標達成の可能性も高いと判断される。また、プロジェクトの成果は既に国のCOGES政策文書に影響を与えており、政府が開発したCOGES運営マニュアルについてもプロジェクトのCOGES運営モデルが反映されており、かつプロジェクトの手法が他ドナーによっても採用されている。                                                                                                                                 |
| 持続発展性 | 十分          | プロジェクトのCOGES運営モデルは既にCOGES政策文書へ反映されており、PDDEでもCOGES支援は重要な課題と位置づけられ、PDDEの中間レビューでも、COGES実施の経験共有が必要であることが指摘されているが、全国展開のための詳細な活動計画は策定されておらず、今後フォローが必要である。<br>技術面では、既にCOGES監督官、COGES担当官は自らCOGES運営手法を他に伝えられるほどよく理解しており、その持続性は問題ないと判断される。<br>組織的持続性については、COGES連合のモデル化及びCOGES推進室の能力強化が必要であり、かつ財源という点においても、COGES連合のコミュニケーション共通課題に対する活動費やCOGES担当官のモニタリング経費、COGESを全国展開するための予算計画などが課題とされる。                                                      |

終了時評価雑感

ニジェールの小さな学校から

・ コミュニティ支援は、こんこんと湧き出る地下水脈のような住民パワーを掘りあてる井戸のよう



ニジェールは貧しい国、2005年の人間開発報告指数は、177か国中最下位だった。平均余命指数、経済指数に比べて教育指数が低いのが特徴だ。成人識字率は15%程度、小学校純就学率は

38%、アフリカ地域で最も低い。実際に村に行くと、これよりも更に低いのではないと思う。学校に行っていない子どもの数は多く、読み書きの出来る大人は少ない。

それでも、ニジェールの村の学校に行くと前向きな気持ちになる。何故だろう？ 色鮮やかな一張羅を着て来客を迎えてくれる子どもたちの姿が、そして一生懸命に「自分たちの学校」を作り出すことに打ち込む大人と子どもたちの姿が私たちの心に共感と希望を与えてくれる。

ゾンゴ・アロキ村でAPP活動として綺麗な模様のござを編んでいた子ども達。細長く編んだの帯を合わせて丸い綺麗なマットが出来る。色を考えて皆と同じように編んでから合わせる。教えているのは村の女性、子どもたちの真ん中で自分も編んでいた。共同作業には多くの学びがある。皆、楽しそうに作業を続けている。子どもたちの鮮やかな手さばきに見とれてしまった。COGESの話し合いが始まったので用意された椅子に座ってCOGESの方々の話を聞いていた。しばらくすると小さな手で後から肩をたたかれた。振り向くと、さっきまでござを編んでいた8歳くらいの女の子が丸く綺麗に仕上がったマットを引きずって持ってきた。「これ、あげるって」。。。小鳥のような声だった。村の土の匂いをする三色の渦巻き模様のマットは私の大事な宝物になった。

カオラ・アラッサン村でCOGES活動の一環として始めた成人識字教室では、20代後半の若者が真剣に文字を書いていた。いつも聞いている言葉を書くことができる興奮と嬉しさ。taとlaを習ってTalata（水曜日）と、誇らしげに、小さな手持ちの黒板に書いている。どうして識字教室に来ようと思ったのですか？との質問に、思慮深い口調でこう答えた。



「村に小学校が来た時には、私は既に大人になっていました。でも、学

びたかったのです。識字教室で勉強して読み書きが出来るようになったら、教育の大切さについて村の人に話をしていくつもりです」

コミュニティで造った質素な教室、夜間に男性の識字教室をしている。新学期から、昼間は学校の教室として使い、2時間以上ある学校の昼休みの間に、女性の識字教室も開きたいと語る村の人たち。教室をフルに活用するマネジメント能力と意欲に脱帽。

ムジャ村では、村人総出で私達の為に昼食を作ってくれた。背筋をしゃんと伸ばして村の女性たちの料理を監督していたオバア様はCOGESの会計役。住民の信頼を得ているゴッドマザーのような人なのだろうか。私達の所に来て色々世話焼いてくれた。「COGESで色々話し合うのはよいことだよ。問題はたくさんある、でも、全ての問題には『解決策という薬』があるのだからね」と含蓄の深い言葉を残して、また、忙しそうに向こうの方に行き女性たちに指図をしている。

問題にはたくさんある、でも、全ての問題には『解決策という薬』があるのだからね。

貧困と困難の中にあってもコミュニティには力と知恵があることを実感して首都ニアメに戻った。ミニッツ協議の内容をまとめる時に、コミュニティ支援について原リーダーがこう言った。「コミュニティは既に自分たちのニーズを満たすための力を持っているんです。支援は、このコミュニティ自身が持つ能力を慎重に引き出すことです。ちょうど、こんこんと湧き出る豊かな地下水脈を汲み出す井戸を掘るように。なるほど、この表現をそのまま教訓に書くことにした。「え？かなり詩的で情緒的だなあ、こんな文言をミニッツに入れちゃっていいのかな？」と思いつつ、日本側もニジェール側も皆この表現がすっかり気に入ってしまったのは、これがフィールド訪問で皆が感じたこととぴったり一致していたからだった。コミュニティは外からは見えないところに力を持っていて、時には、コミュニティの人たち自身もそれに気づいていないこともある。それを引き出すことが真のコミュニティ支援であることを、わかりやすく説明してくれた原リーダーに脱帽。

ニジェールの小学校就学者数は伸び続けているが、それでも2015年までに学齢児童の全てが学校に行くことは難しい。さらに、毎年のように国を襲う旱魃と洪水。最貧国に対して自然やグローバル経済は厳しい。大きな困難の中で、コミュニティと行政の協働体制を作り出してきたのが『みんなの学校』プロジェクトだ。その中で、全力を尽くす人々の意欲と勇気を実感できるから、ニジェールの村の学校に行くと「私たちも頑張らなくては」と思われる。

プロジェクト専門家の皆さん、プロジェクトに協力するNGOの皆さん、カウンターパートの皆さん、本当にありがとうございます。これからも益々のご活躍を期待しています。私たちも頑張ります。

(終了時評価調査団 横関祐見子氏)



APPクラブは、現在COGESによって実施されています。今年度のAPPクラブ活動について、ブザ県ブザ地区の40校及びコニ県サルナワ地区28校、計68校にてアンケート調査をした結果、以下の ~ の効果が確認されています。

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| クラブ活動経費の確保      | 活動の持続発展性  |
| 出席率の向上          | 残存率向上への貢献 |
| 学校とコミュニティーの関係改善 | 学校活動の活性化  |

このように、APPクラブを導入することによって、児童が卒業後に役立つ技術や知識を学ぶだけでなく、学校とコミュニティーとの関係にも様々なよい影響を与えていることがわかってきました。今回の記事では、アンケートの結果から、具体的にAPPクラブにどのような効果があるのかご説明したいと思います。



~地域に適した身近な活動で、活動経費の捻出に成功~

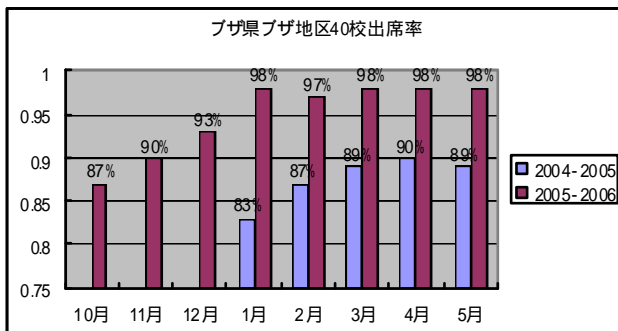
下記の活動実績表からわかることは、APPクラブが、教員、生徒、コミュニティーに受け入れられ、頻繁に活動が行われたということです。これは、COGESが主体的に関わり、地域社会のニーズにあった、地域社会で資源調達できる活動を計画したことで、達成できた成果と分析できます。地域に受け入れられたことは、従来のAPP活動において弊害となっていた材料費不足等が、地域社会からの協力によって解消したことに伺われます。

|          | クラブ実施状況                                                                          |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------|
| APPクラブ設置 | 全学校にて設置                                                                          |
| APPクラブ開始 | 2005年1月上旬                                                                        |
| 実施回数     | 週1回(計28回)                                                                        |
| 平均クラブ数   | 3.5クラブ                                                                           |
| 材料費      | *68校合計金額 1,390,225Fcf(323,308円)<br>*1校当り 20,444Fcf(4750円)<br>*児童1人当り 130Fcf(30円) |
| 住民動員数    | クラブ設置にかかる住民集回数；<br>平均2回(1回当り参加数 約50名)<br>APP活動：各クラブ1名及び有志参加者                     |



~児童の出席率に貢献!~

各学校の校長に「APPクラブを始めてから、子どもたちに変化はありましたか?」との質問をしたところ(複数回答あり)、たくさんの肯定的な回答が得られました。



今年度の活動結果及びアンケート調査結果から

APPクラブで子どもが変わる、学校が変わる、コミュニティーが変わる!!!

全体の半数が、「児童が学校を楽しんでいる」と回答し、また、68校中38校の校長は、「児童が学校活動に積極的になった」と回答しています。現在のニジェルにおける学校現場では、6学年までに中退する児童が多い事が問題となっていますが、APPクラブによって、「学校が楽しい場」へと変わることによって、児童の中退を未然に防ぎ、残存率の向上、さらには初等教育修了率の向上にも貢献が期待できます。

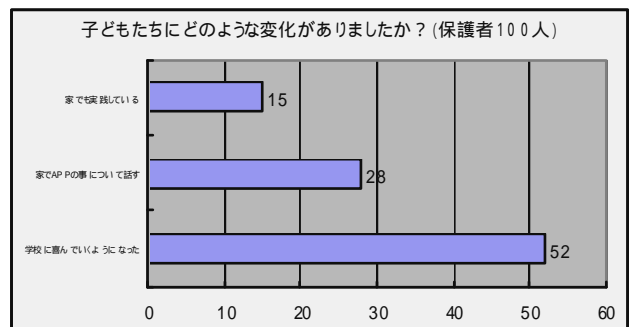
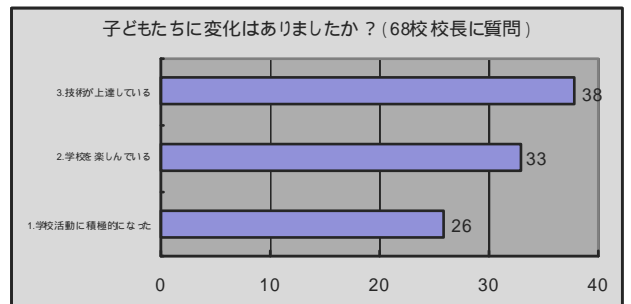
さらに、地域住民(保護者)100名に、「子どもたちにどのような変化が見られたか」と質問したところ、「学校に喜んでいくようになった」と答えた保護者が半数以上に及びました。また、「児童が家庭でAPPについて話すことが多くなった」との意見が多いことから、APP活動が児童に正のインパクトを与え、学校へ行きたいと思う意欲につながっているといえます。(右下のグラフ参照)

加えて、今年度からの対象校であるブザ県ブザ地区40校においては、児童の出席率が昨年度平均87%から、今年度平均95%へと8%増加しています(左下グラフ参照)。この結果からも、地域住民の参画によるAPPクラブ(COGES活動)によって、学校が児童にとって行きたいと思える場になっており、それが結果的に出席率の向上につながったと言えます。(注:昨年度は、教員ストのため、1月より学校開始)



~学校とコミュニティーの関係改善に貢献!~

「地域住民にどのような変化があったか?」という質問に対して、校長先生の73%がAPPクラブを通して「地域住民と学校との交流の場が増えた」と答えています。このことから、週1回の活動が児童にとっての技術習得の場になっているだけでなく、学校と地域住民をつなぐ交流の場にもなっていることがわかります。従来の学校は、算数やフランス語が主の教育内容であり、地域住民が教育内容に参加できる機会がほとんどなく、学校現場は敷居の高い、遠いところでした。しかしながら、APPクラブの導



**み**んなの学校プロジェクトの現在の対象校は、タウア州で約1300校に及びます。その1300校で、学校環境改善のための住民によって他に例を見ないほど多くの貢献がなされました。この成果は、プロジェクトが導入した住民参加アプローチの効率性と汎用性を証明しているとも言えます。しかし、一般的に「住民参加」と一口に言っても、その解釈には様々なものがあります。それぞれの事業において、その内容や目的は様々であり、活動の計画から実施まで住民の発意に基づく主体的な参加もあれば、強制労働や対価の支払いによる動員も「参加」という言葉で括ることも出来ます。本項では、みんなの学校プロジェクトにおける「住民参加」の内容とはどのようなものなのか、そして主体的な住民参加を促進、維持するための要件はなにか、昨年9月に実施されたNGO-JICA評価小委員会による特定テーマ評価「住民参加」(以下、「NGO-JICA評価」)の現地調査結果やプロジェクトが実施した調査とモニタリング結果をもとに考察してみたいと思います。

**みんなの学校プロジェクトにおける住民参加の内容**

みんなの学校プロジェクトが支援しているCOGESの活動における住民参加の具体的な内容やその度合いは以下のようにまとめられます。

**代表選挙への参加**

まず住民はCOGES委員及び保護者会役員を選出するための投票に参加し、住民の代表を民意によって選びます。この過程は自分たちの代表を自分たちで選ぶという意味決定への参加という意味で重要な参加の第一歩となります。NGO-JICA評価調査では調査対象6村落中、4村落で80%以上の住民が投票に参加し、残り2村落についても約50-60%の住民が投票に参加した、との結果が出ており、大半の住民がCOGES及び保護者会役員選挙に参加して自分の意志を反映していることがわかります。

**住民集会への参加**

次に住民はCOGESが開催する住民集会に参加し、COGESの活動における様々な情報を得て、話し合いによって重要事項を決定します。特にCOGESによる学校活動計画の策定にあたっては、住民のニーズに応じた住民自身で解決可能な無理の無い計画とするため、問題の発掘・分析や解決策、予算化など

「住民参加」の視点から見た  
みんなの学校プロジェクト

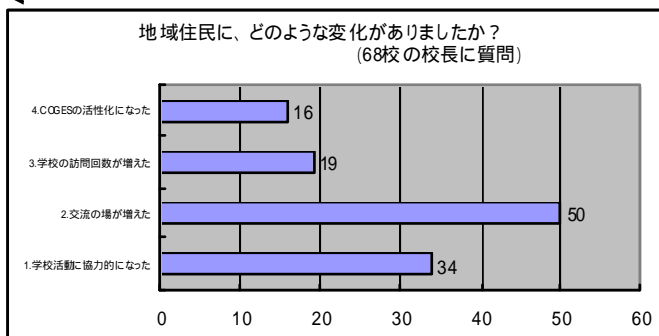
を住民集会の場で話し合います。また、COGES委員は活動の進捗状況や結果を住民集会の場で報告し、それについての話し合いを行ないます。この過程も住民が村全体の活動の決定に参加するという意味で重要です。住民集会への参加の度合いは各COGESで濃淡がありますが、昨年9月の「NGO-JICA評価」調査では6村落中、半数で80%以上の住民がこのプロセスに参加しているという結果でした。また、プロジェクトのパイロット24校で実施した調査では1年間で一校当たり平均3.30回の住民集会が開催され、COGES設置前の平均0.40回から約8倍、さらに住民集会への参加者数(各校平均約90名)についても約8倍に増えたとの結果が出ています。

**分担金供出、労働力や資材の提供**

さらにCOGESの学校活動計画における住民による活動資源の提供という形の参加があります。活動計画に基づいて策定される予算を賄うために住民が分担金を支払います。分担金が支払えない住民は資材や労働力を提供することも可能です。例えばわらぶき教室の設置に伴う藁などの材料を提供したり、設置に係る労働力を提供したりします。この過程では住民自身が決定した活動に自分で参加するという意味があります。これら住民による活動資金の動員は、2005-06年度の実績では1校あたり208,586Fcf(日本円で約5万円)でした。

APPクラブつづき

(5ページ「APPクラブ、のつづき」)



入をきっかけに、地域住民が教育内容に関心を持ち、参加できる場が生まれ、学校現場の敷居が低くなり、住民にとってより身近な場へと変化しているといえます。

さらには、98%の住民が今後もAPPクラブに協力を続けるつもりだと答えていること、また、同様に98%の児童、校長が共にAPPクラブを今後も続けたいと答えていることから今年度のAPPクラブ活動が学校と地域の関係を繋ぐ架け橋となったといえます。



以上の結果から、APPクラブの実施は、地域住民、教員、そして、児童に多くのよい影響を及ぼしていることがわかりました。児童が、APPクラブを通して、学校活動に積極的な姿勢を持つことで、保護者がその姿に満足し、教員も教授意欲が高まりました。さらに、特に注目したいのは、クラブ活動を通して、保護者、地域住民が教育活動に気軽に参加できる機会が得られたことです。つまり、APPクラブの実施によって、地域住民が「教育の質」の改善へと参加できる余地が生まれたのです。これら、学校と地域が一体となっていくAPP活動が活発に実施されるならば、学校が集いの場となり、コミュニティーにより近い学校になるでしょう。





**その他の参加**

このほか、住民は子どもの学習状況の様子を見るために学校を訪問したり、APP(生産実習活動)を行なっているところでは住民が子どもたちに技術を教える講師として学校活動に参加したり、あるいは子どもたちの発表会に参加したりして以前よりも住民が学校に対して興味をもち、気軽に学校に足を運ぶ状況が生まれています。また、COGESの活動をきっかけにして住民が学校教育だけでなく地域の抱える問題について幅広く話し合い、解決に向け取り組みを始めるといったところもあります。

このように、COGESを通じて実現された住民参加は代表選挙への参加や学校活動計画の枠組みの中で問題解決のために住民自身で出来ることを住民自身が計画し実行する、という非常に**主体的な参加**が実現していると言えます。

**COGESの設置によって住民や関係者はどうか変わったのか？**

では、住民参加によるCOGESの設置により、以前と比較して住民や関係者の意識や行動にどのような変化が見られたのでしょうか？

ニジェールの村落の地域住民にとって、小学校というのは、あまり身近な存在ではありませんでした。それは、小学校が子どもの教育のために国家によって設置、運営され、「国家の所有物」という意識が住民にあったからです。しかも、国家行政による学校運営は劣悪で、かつ教員ストライキや質の悪い契約教員の増加などで住民は国家が提供する学校教育に対して不信感を募らせ、しかも校舎が村の中心部から離れた村のはずれにたてられていることが多く、心理的にも物理的にも住民と学校の距離がかけ離れていました。また、COGESの設置以前にも保護者会という組織がありました。



COGESのように教員と保護者(住民)との合同組織ではなかったため、教員との関係がもつれたり、関係が悪いとうまく機能しないといった問題がありました。さらに、保護者会は選挙で代表を選出する仕組みが無かったため、村の権力者の意向で代表が選ばれるなど、民主的な組織運営がなされているところはほとんどありませんでした。保護者から集められた分担金の使途がうやむやにされて全く住民から信頼されず、結果として住民は次第に組織から遠ざかり、活動が停滞するといった例が多く見られました。つまり保護者会は形ばかりで機能する組織では無かったのです。従って以前は、住民は自分達の子どもにより良い教育を受けさせるために、学校の現状を改善したいとの思いを持っていたにもかかわらず、その思いを形にする仕組みが無かったのです。

しかしながら、COGESが設置されてからは、代表選挙や、学校活動計画の作成、実施への参加により、学校はコミュニティのみんなの所有物で、住民も運営に参加して自分たちでできることは自分たちで改善しようという意識に変わってきました。COGESを通じた住民参加によって「国の学校」から「みんなの学校」へ住民の意識の変化を促したと言えるでしょう。

教員にも大きな変化が見られます。村の学校に配属される教員

のほとんどはそのコミュニティ以外の地域の出身者であるため外部者意識が少なからずあったり、あるいは上述のように住民が学校や教員に対して不信感を抱いている場合もあったりするため、教員が学校の問題を解決するためにコミュニティに働きかけるきっかけがつかめずに学校とコミュニティの距離が生じていました。COGESが設置されてからは学校教員とコミュニティ住民が同じ目標にむけて協働、参加することでお互いのコミュニケーションが促進され、関係改善が進み、教員も住民からの協力を得ることでいろいろな面で負担が減り、正常な教務に励む環境が整いました。

その他の関係者として、プロジェクトのカウンターパートであるCOGES監督官とCOGES担当官たちにも大きな変化がありました。これまでは、地方教育行政官であるにもかかわらず、移動手段の欠如によって、各学校の教育現場に巡回することすら不可能で、現場の状況を把握するには難しい状況にありました。プロジェクトからCOGES担当官に対してモトクロスバイクを供与したほか、COGES関連各種研修の講師として養成するための研修及び経験・情報共有のための月例会議の開催など彼らの能力強化を行ってきました。彼ら自身が研修を行ない、現場の状況を巡回モニタリングして把握することで彼らの業務に対して理解を深めるとともに、住民が積極的に活動を実践し成果を出すことで彼ら自身も刺激を受け、彼らの存在意義を認識することで自信を持って業務を遂行するようになりました。

そして全ての関係者に言えることですが、具体的に活動を実施し、目に見える成果を達成することで、それぞれの関係者が自信を深め、更なるやる気に繋がっています。またうまく行かなかった活動についてもなぜそうなのかを話し合い分析することで、そこから学習して改善していくという継続性のある学習プロセスが形成されるようになりました。

**主体的な住民参加を促し、持続させる要件**

上述したような主体的な住民参加を促し、さらにそれを持続発展させていくための要件として、どのようなものが考えられるのでしょうか。

**機能する組織作り**

まず第一に挙げられる重要な要件として組織化が挙げられます。住民が自らの力で運営でき、かつ機能する組織を作ることです。機能する組織とはどのような組織かという民主的に選ばれた代表と民主的で透明性のある運営体制を持った組織であると言えます。みんなの学校プロジェクトでは、COGESの住民代表を保護者や一般住民の投票による民主的な選挙によって選出しています。従来からある保護者会では、代表が村の権力者の意向によって決められ、非常に排他的な代表性である場合が多いのですが、それに比べると民主選挙による代表選出によって、やる気と能力を持っているとみんなが認める人を選ぶことができ、組織の機能化にプラスに作用すると考えられます。また、組織運営についても民主的なルール作り、活動や資源管理における透明性といった工夫や配慮も重要です。例えば、重要な決定事項は

必ず住民集会の場で承認することや、定期的に活動内容やその結果を広く住民に対して報告し、情報を共有する。公正な会計管理と定期的な報告といったことも重要です。前述とおり過去の保護者会の例では不透明な会計から住民の信用をなくし積極的な参加を阻害していました。信頼の置けない人になけなしのお金を託すことが憚られるのは当然のことといえます。したがって、常に住民とのコミュニケーションを図り、公正で透明性のある運営を心がけ、信頼関係を保つことが、住民の参加の増大と活動の持続性が確保されると言えます。

**住民自身で出来る活動の枠組み**

第二の要件は、活動の枠組みについてです。重要なことは住民が持っている能力ですぐに適用可能で役に立つ実践的な活動の枠組みを導入することです。実際に、機能する組織が出来ても、その組織が住民の意思を代表した活動を行わない限り、住民にとって組織としての意義は小さくなってしまいます。COGESの活動においては前述したとおり、「学校活動計画」の策定、実施、モニタリング評価というプロセスに住民が参画するのですが、活動計画はあくまでも住民自身で解決可能なものを選択して実施します。外部からの援助を当てにするのではなく住民自身の力で解決できる身の丈にあった活動を選ぶことで、一つ一つの活動は地味ながらも着実に成果につながり、成果を出すことで自信をつけ、モチベーションを維持していくことが出来るのです。

**支援体制作り**

基本的に上記2つの要件、あるいは後述するような所与的な要件が揃っているところでは、それだけで住民参加が継続していくところもあります。しかしながら、様々な阻害要因があるところでは外部者からのモニタリング支援が必要となることもあります。この場合外部者とは、行政官であったり、COGES連合のような自主グループ組織です。このモニタリング支援体制を整備、強化することでコミュニティ自身で解決策が見出せない問題も外部者がファシリテートすることで解決される可能性が高くなります。後述のように、校長のやる気が無いとか、村長や宗教指導者の理解協力不足など、外部者によるファシリテーションがこういったマイナス要因の解決の一助となります。

**実践的でわかりやすい研修**

最後の要件として、重要なことは研修の内容です。みんなの学校プロジェクトが実施する研修の種類は主に「選挙研修」、「学校活動計画研修」、「財務研修」ですが、研

修の対象者は一般住民ではなく、校長先生やCOGES委員を対象としています。研修を受けたものが村に帰って選挙の実施なり、学校活動計画の策定実施を住民とともにしています。したがって、具体的な活動に繋がる実践的な内容ということを重要視して研修を構成するよう配慮しています。必要最小限の理論以外は実践的な内容に厳選して、現地語でシミュレーション(寸劇)や絵などを使って研修受講者が非識字者でも内容を理解し、楽しく研修に参加できるよう工夫しています。村に帰ってすぐに実施に移せてすぐにその効果が見えるという点において、非常に効果的であると思います。

以上の4つの要件は、関係者による働きかけによって住民参加を促す、いわば作用因としての要件です。言い換えると、プロジェクトの住民参加アプローチはこれらの要件をカバーするように構成されています。次に関係者による働きかけではコントロールしにくいような所与的な要件について考えてみたいと思います。

**住民のニーズ**

ニーズが無いところ、あるいはニーズとしてプライオリティが低いような活動に対しては主体的な住民参加を短期間に実現することは難しいと言えます。その場合、「意識化」という働きかけが必要になり、住民がニーズとして意識するようになるまでには長いプロセスになる可能性もあります。みんなの学校プロジェクトの場合、COGESの設置によってこれだけ短期間で主体的な住民の参加が実現したのは、もともと住民の中に学校教育の改善という高いニーズが潜在的にあったことも大きな要因として考えられます。このように住民参加による活動が住民のニーズに合致しているかどうかは、参加の質や度合いに影響を与える重要な要因であるといえます。

**コミュニティリーダーの理解、指導力、カリスマ性**

COGESの代表のやる気や能力もさることながら、村長や宗教指導者といった村の指導者層がCOGESの活動に対して理解を示し、積極的に協力するところは、住民の参加度もかなり高くなります。村長や宗教指導者といったリーダーはCOGESにとって外部者ではありますがCOGESが村の住民組織である以上、監督あるいは支援する立場にあるべき人々です。しかしこのような伝統的なリーダーは世襲であり、民主的な選挙で選ぶことはできないため、彼らの元来持っている資質によって、こういった住民の参加にプラスあるいはマイナスに影響を及ぼす可能性もあります。

**コミュニティ内の社会関係**

元々のコミュニティ内の社会関係の状況も住民の参加に大きく影響を及ぼすと考えられます。例えばコミュニティ内で敵対するグループや派閥が存在していたり、一部の富裕層が利権や資源を独占するような封建的な権力構造の上に成り立っていたりする場合など健全な住民の参加は阻害される可能性が大きいと言えます。一方でコミュニティがリーダーのもとによく纏まって連帯感があるようなところは参加の促進要因になると言えます。

**校長(教員)のやる気、リーダーシップ、能力**

校長や教員は村の中でも数少ないインテリに属する人であり、彼らがCOGESの活動に果たす役割は重要です。しかしながら、COGES委員の中で学校の校長先生は自動的に委員になれるので、選挙の対象にはなりません。つまり住民が校長先生を選ぶことが出来ないため、もともと学校に配属された校長の能力、やる気、資質などに左右されることとなります。校長がコミュニティのリーダーや住民と良好な関係を築き、住民の主体的な参加をうまく引き出しているところは、COGESの活動も問題なく非常に活発で様々なアイデアを実践することが出来ますが、校長の資質ややる気に問題があり、コミュニティとの関係も悪いと主体的な住民参加の阻害要因となりえます。

このように、所与的な要件はプラスの要因が多ければ多いほど住民参加の質量を増大させ、マイナス要因が多ければ多いほど住民参加を阻害することになります。上述のとおり、COGESを取り巻く状況に阻害要因があり、当事者だけで解決が出来ない場合は、それらの要因を取り除く、あるいは和らげるために行政官やCOGES連合といった外部の支援体制が必要なのです。

みんなの学校プロジェクトで用いる住民参加型の手法は上記の要件に配慮して、短期間で具体的に実践して、成果を出すための工夫、配慮をしています。住民のエンパワメントを支援するにしても外部から新しい知識や技術という形で時間をかけて能力を付加するのではなく、住民が既に持っている、あるいは潜在的に持っている能力をうまく引き出してそれを効率的に発揮できる場を提供することに留意しています。そして、具体的な実践と成果から住民がその能力を自覚し、自信を身につけながら次の活動に結びつけていく。こういった学習プロセスを経ることで更なる能力強化が図られるのです。





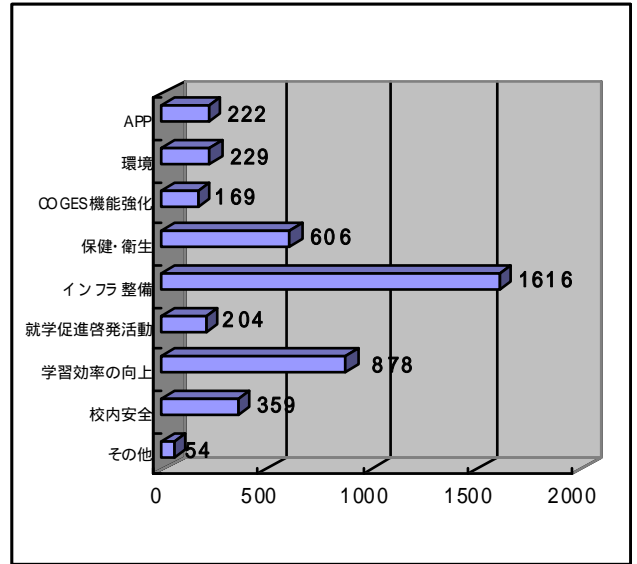
# 数字で見る

## “みんなの学校プロジェクト”

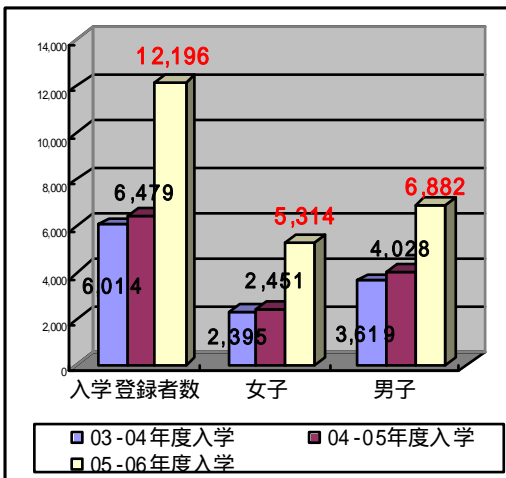
COGES 学校活動計画実績 (2006年5月時点) \* 1円 = 約4.5Fcfa

05-06年度学校活動計画カテゴリー別活動

|            | 03-04年度<br>(対象171校) | 04-05年度<br>(325校/対象329校) | 05-06年度<br>(1170/対象1269校) |
|------------|---------------------|--------------------------|---------------------------|
| 学校活動計画総数   | 617活動               | 1,765活動                  | 7,804活動                   |
| 1校あたり平均計画数 | 3.61活動              | 5.43活動                   | 6.67活動                    |
| 実施総数       | 575活動               | 1,595活動                  | 6,934活動                   |
| 1校あたり平均実施数 | 3.36活動              | 4.91活動                   | 5.93活動                    |
| 実施率        | 93.19%              | 90.37%                   | 88.85%                    |
| 学校活動計画予算総額 | 26,414,028Fcfa      | 98,919,811Fcfa           | 281,639,934Fcfa           |
| 1校あたり予算総額  | 196,126Fcfa         | 304,369Fcfa              | 240,718Fcfa               |
| 1児童あたり予算総額 | -                   | 1466Fcfa                 | 1,835Fcfa                 |
| 実施総額       | 77,862,435Fcfa      | 77,862,435Fcfa           | 244,045,081Fcfa           |
| 1校あたり実施総額  | 154,468Fcfa         | 239,577Fcfa              | 208,586Fcfa               |
| 1児童あたり実施総額 | -                   | 1,154Fcfa                | 1,590Fcfa                 |
| 資金投入率      | 76.67%              | 78.71%                   | 86.79%                    |



### 7COGES連合における入学登録者数変遷 03年度～05年度



### 各種研修実績 (2003年～2006年7月)

|                    | 03年度 | 04年度 | 2005年度 |      | 2006年度(06年7月未現在) |            | 合計       |
|--------------------|------|------|--------|------|------------------|------------|----------|
|                    |      |      | タウア    | ザンデル | タウア              | ザンデル       |          |
| 実施地区               |      |      | タウア    | ザンデル | タウア              | ザンデル       | タウア+ザンデル |
| COGES選挙研修          |      |      |        |      |                  |            |          |
| 対象学校数              | 171校 | 158校 | 905校   | 60校  | —                | 1484校      | 2778校    |
| 参加者数               | 171名 | 158名 | 905名   | 60名  | —                | 1484名      | 2778名    |
| 一人当たりの経費目安*        |      |      |        |      |                  | 11,130Fcfa |          |
| 学校活動計画研修           |      |      |        |      |                  |            |          |
| 対象学校数              | 171校 | 158校 | 905校   | 60校  | —                | 372校       | 1666校    |
| 参加者数               | 513名 | 474名 | 1810名  | 120名 | —                | 744名       | 3661名    |
| 一人当たりの経費目安*        |      |      |        |      |                  | 10,080Fcfa |          |
| COGES財務研修          |      |      |        |      |                  |            |          |
| 対象校数               |      | 171校 |        |      |                  |            | 171校     |
| 連合数                |      | —    |        |      | 39連合             | —          | 39連合     |
| 参加者数               |      | 342名 |        |      | 78名              |            | 420名     |
| COGES連合研修          |      |      |        |      |                  |            |          |
| 連合数                |      | 1連合  | 38連合   |      |                  | 10連合       | 49連合     |
| 対象校                |      | 26校  | 1208校  |      |                  | 327校       | 1561校    |
| 参加者数               |      | 78名  | 2531名  |      |                  | 744名       | 3353名    |
| COGES/契約教員関係改善セミナー |      |      |        |      |                  |            |          |
| 対象校数               |      |      | 194校   |      |                  |            | 194校     |
| 参加者数               |      |      | 807名   |      |                  |            | 807名     |
| APP研修              |      |      |        |      |                  |            |          |
| 対象校数               |      | 25校  |        |      |                  |            | 25校      |
| 参加者数               |      | 85名  |        |      |                  |            | 85名      |
| APPクラブ研修           |      |      |        |      |                  |            |          |
| 対象校数               |      |      | 68校    |      |                  |            | 68校      |
| 参加者数               |      |      | 136名   |      |                  |            | 136名     |

### COGES担当官巡回記録 (05年10月-06年4月)

|          | 全COGES担当官<br>(9名) | COGES担当官<br>一人あたり平均 |
|----------|-------------------|---------------------|
| 巡回訪問先数   | 1,020訪問           | 113.33訪問            |
| 月平均訪問先数  | 145.71訪問          | 16.19訪問             |
| 巡回日数     | 534日              | 59.33日              |
| 月平均巡回日数  | 76日               | 8.48日               |
| バイク走行距離  | 49,676km          | 5,519.56km          |
| 月平均走行距離  | 7,097km           | 788.51km            |
| ガソリン代    | 2,235,420Fcfa     | 248,380Fcfa         |
| 月平均ガソリン代 | 319,346Fcfa       | 35,483Fcfa          |

\*一人当たりの経費目安: 研修実施に掛かる総経費を参加者数で割ったもの。講師代、マニュアル代、日当・交通費、NGO業務委託諸経費等を含む。

みんなの学校プロジェクト  
ホームページに

マンスリーレポートも掲載しています。

(<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>)

マンスリーレポートでみんなの学校の活動をリアルタイムで  
知ることが出来ます。

また「みんなの学校だより」のバックナンバーはホームペー  
ジからダウンロードできます。新しいホームページにはフォ  
トギャラリーや動画もあります。是非、ご覧ください。

本誌「みんなの学校だより」に関する  
皆様のご意見・ご感想をお聞かせください！

~~~~~ 編集・発行  
ニジェール住民参画型学校運営改善計画  
(みんなの学校プロジェクト)

お問い合わせ・連絡先  
Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER  
電話/FAX: +227 - 610 - 571  
E-mail: Rosedesaha@aol.com  
konoue@yahoo.co.jp  
Nakazawa.Junko@jica.go.jp

編集後記

先日、日本に一時帰国した際に、書店で本を眺めていたら、「フランツ・ファノン」という評伝が目に入った。学生時代、この著者の「地に呪われた者」という本を読んだことがあったので、思わず買ってしまった。その本の裏表紙には「精神科医であり、アルジェリア戦争に身を投じた第三世界の解放の理論家、抑圧と非人間化への宣戦布告の書『黒い皮膚・白い仮面』をはじめ、4冊の著書の作者、そして、仏領アンティルに黒い皮膚を持って生まれたマルチニック人」とファノンを紹介していた。この評伝を読んでいて、すこしずつ「地に呪われた者」の内容を思い出した。思い出したくらいだから、実は、ほとんど内容を忘れていた。しかし、ずっと憶えていた一文があった。

それは、次のような文だった。「一つの橋の建設がもしそこに働く人々の意識を豊かにしないのならば、橋は建設されない方がいい。市民は従来通り泳ぐか渡し舟に乗るかして渡っていけばよい。橋は、空から降ってくるものであってはならない」この文は、人間開放の思想家とも言われているファノンの思想の全体像を象徴している訳ではない。覚えていた理由は、ただ、自分にとって印象的な一文だったからであろう。しかし、今、この一文を読み返すと、援助の世界にも当てはまるようにも思える。

「COGES（学校運営委員会）は教育10ヵ年計画の成功の鍵」だと、上の人たち（基礎教育・識字省、ドナー関係者）がよく言う。COGESは、上のひとにとってみれば、地方分権化を実施する際に、中央から権限を受け取る受け皿である。実際、その受け皿であるCOGESの機能化にプロジェクトが取り組んでいる。しかし、組織としてのCOGESの意味付けは、プロジェクトと上の人たちとは、だいぶ

違う。上の人にとってCOGESは、教育財政のコストシェアリングとか、教育需要の効率化など地方分権化の効果を出すためのツールに過ぎない。それはあたかも、お金を入れれば製品が出てくる自動販売機のようなものだ。COGESを作って、そこに権限を委譲すれば、自動的にことが改善すると思っている。つまりCOGESは絵に描いたもちなのだ。みんなの学校プロジェクトがCOGESの機能化に成功したの

フランツ・ファノン 橋とCOGES

は、COGESという民主的な住民組織を作り出すことが出来たからだ。COGESが住民の教育に対する需要や意見を吸収し、その需要や意見を実際の活動に変えることが出来るイニシアチブを持った人が組織の代表となり、積極的に組織を動かしたからだ。そして、その活動により、学校に対する住民の意識を変えた。もし、権限の受け取り手としてのCOGESに住民組織としてのダイナミズムがなければ、ニジェールの地方分権化は失敗するだろう。その意味で、恐らくファノンが書いた一文の「橋」と言う言葉を「COGES」という言葉に書き換えることが可能なのだと思う。

プロジェクトも2年半を過ぎた。今、感じることは、コミュニティーあるいは、住民には、様々な開発ニーズがあり、そのニーズを自分自身で解決していくやる気も能力もあるということだ。その力は、無尽蔵の地下水のように豊富にある。だから、プロジェクトがなすべきことは、その地下水を地上にくみ上げる井戸を掘る手伝いをする事だ。しかし問題なのは、井戸により地上に水が出るように住民のパワーが発揮される

ようになって、上に居る人たちがそのパワーをうまく使えないということだ。それは、上の人たちが聞く耳を持たないか、住民の声が聞こえないか、上の人たちと住民とは使う言語が違うからだ。だから、プロジェクトの専門家がなすべきことは、住民の声をわかりやすい言葉に翻訳した上、拡声し、上の人に伝え、下から上を変えていくことなのだと思う。

フランツ・ファノンは、36歳の若さで死んだ。しかし、彼は現代でも通用する人間解放の思想を残した。

それを可能にしたのは、精神科医として社会的な弱者の声を聞いていたから、いや聞く耳を持っていたからだと思えてならない。(H)



プロジェクト カレンダー

|                  |                                 |
|------------------|---------------------------------|
| 2006年9月～2006年11月 |                                 |
| 9月6日             | COGES担当官会議                      |
| 9月7・8日           | COGES連合大会                       |
| 9月中～下旬           | ザンデル州学校活動計画/<br>COGES連合研修(18連合) |
| 10月              | PDDE合同技術会議(予定)                  |
| 10月10日～24日       | 終了時評価調査(追加調査)                   |
| 10月24日～11月3日     | 研修ビデオ撮影ミッション                    |



## 巻頭言

## 3年間を振り返って

とうとう「みんなの学校だより」も最終号となった。もっとも、来年の7月までの延長フェーズが決まったので、正確には最終号とは言えないが、プロジェクトスタッフは、この12月をデッドラインとして、プロジェクトを運営してきた。そういう意味で、この号で、3年間を振り返ってみることも意義があると思える。プロジェクトのことを知らない人もこの項を読んでいるかもしれないので、次ページに改めて、プロジェクト概要とこの3年間の進捗をまとめてみた。参考にして欲しい。

### 対象校が25校から2800校へ

この3年間のプロジェクトの進捗を数字で見ても最も特徴的なことは、対象校が、25校から2800校に増えたことだ。対象校が増えたということは、プロジェクトの直接の活動からみると、2800校に対し、COGES設立のための研修、学校活動計画研修、そしてCOGES連合設置研修を行い、地方行政官によるモニタリングシステムを導入したということである。

これらの研修やモニタリングシステムの導入によって、いったい何がどのように変わったのか。それについては、中間評価や終了時評価の結果を前号までに、プロジェクトのPDMを使って説明してきた。その結果を要約すれば、「プロジェクトは地域のニーズを反映した学校運営への住民参加モデルの確立に成功し、その普及もある程度順調である」ということになる。

### タウア州就学率、修了率の伸び率 全国トップへ

しかし、もう一つ公的な評価には使えなかったが、プロジェクトが誇れる成果がある。それは、タウア州の2005年から2006年にかけての教育指標である。最近、基礎教育・識字省の統計局から教育統計の発表があり、2005年から2006年にかけて、就学率、新入学者数、修了率のタウア州の伸びが、いずれもニジェル内8州のトップであることが判明した。タウア州は、2004年から2005年までの上記に挙げた指標の伸び率が非常に低く、また、今年、他州に比べ、ドナーや識字省の人的・材的投入を特に、享受したとい

う事実はない。つまり他にこの伸び率の要因があったということになる。プロジェクトは、2005年の前半にタウア州すべての学校に上記のCOGESの研修を終え、地方行政官やCOGES連合の支援の下、ほぼすべてのCOGESが学校活動計画を作成した。そして、この作成された計画が各学校で実施された。活動は様々な分野に及びその動員金額も大きなものであった。これらの各COGESの活動が、2005年のタウア州の飛躍の原動力になっていることは間違いない。



写真: みんなの学校プロジェクトスタッフ・COGES担当官(2006年8月撮影)

### 住民主体の教育開発

住民の参加なしに、トップダウンの政策やその実施だけでは、教育計画の目標は達成できないということは、もう明らかである。仮に政策に、住民を巻き込むような、学校レベルへ権限を委譲する地方分権化を含んでいたとしても、達成の可能性は限りなく低い。それは、政策立案者の多くにとって、COGESは、組織図の最も下部にある一構成要素にすぎず、そこにある住民の需要や、その需要を行動に変えた時のダイナミズムを理解していないからである。それは、政策立案者だけではなく、教育関係者もドナーも理解していなかった。

プロジェクトが3年をかけて証明したかったことのひとつは、住民が教育開発の一方の主役になりうるということなのである。それをドナーや政策を決定するレベルの人間だけではなく、住民自体にも理解してほしかった。この3年間で、ニジェールの住民は、その活動の成果によって、

多くの関係者に驚きを与え、その固定化した先入観を打ち破り、COGESや住民の力を見せつけることによって、住民自身による教育開発の可能性を認めさせるようになった。ドナーも基礎教育・識字省関係者も、住民の力なしに、教育開発の成功が望めないということをはっきりと認識し始めている。先に述べた指標がその力を立証している。

### 信じがたいハードワーク

3年前、同じことを話しても、誰も信じてくれなかった。だから、成果によって証明するしかなかった。しかもその成果は、通常のプロジェクトの常識を破るような短時間で広い範囲で上げることが必要であった。そしてプロジェクトはそれに成功した。短期間に成果を挙げられた理由は、住民に教育に対するニーズも能力もあったこと、プロジェクトの採用した効率的なアプローチ、研修手法などが挙げられる。しかし、忘れてはいけないのは、プロジェクト専門家、現地人スタッフやCOGES担当官の信じられないようなハードワークである。彼らの献身なしには、この成果を短時間に達成することは不可能だったと思う。彼らは炎天下、休日もなく働き続けた。この努力により、プロジェクトは早い速度で進展した。彼らのハードワークを支えたのは、住民の熱意だったような気がする。

プロジェクトを陰で支えたのは、プロジェクトスタッフだけではない。プロジェクト実施には、多くの方々の支援があった。JICA本部の人間開発部基礎教育チームの方々、特に歴代のプロジェクト担当者、評価等で多くの貢献、支援をいただいた横関さんを初めとした専門員の方々、また、ニジェル事務所で、プロジェクトに最初の理解と最大の支援をいただいた所長、そして、煩雑な事務手続きを代行していただいた企画調査員、事務所員の方々。

いまここで、改めてプロジェクトを支えてくれたすべての人々に感謝を捧げたい。

ありがとうございました。

チーフアドバイザー 原 雅裕

# プロジェクト概要と3年間の歩み

|                                                            |
|------------------------------------------------------------|
| 和名: (技プロ/新規)ニジェール国・住民参画型学校運営改善計画プロジェクト<br>(みんなの学校プロジェクト)   |
| 英名: School for All                                         |
| 実施期間: 04年1月1日～06年12月31日(07年7月末までの延長が決定)<br>C/P機関: 基礎教育・識字省 |

|                                         |
|-----------------------------------------|
| 上位目標: COGESを通じた住民参画型学校運営のモデルが普及する。      |
| プロジェクト目標: COGESを通じた住民参画型学校運営のモデルが強化される。 |

## 概要:

サブサハラ地域の最貧国の一つであるニジェールの教育の総就学率は52% (2005/2006年)と世界最低水準であり、かつ教育の質も低く、地域間・男女間格差も大きい。このような状況を改善するために、ニジェール政府は、教育のアクセス、教育の質、教育システムの改善を大きな目標とする教育開発10ヵ年計画(03 - 12年)を策定し、実施している。この改革の重要な要となっているのが、教育の地方分権化政策である。

この政策の具体的な内容は、各学校に校長、教師代表、保護者代表、母親会代表の計6名から構成される学校運営委員会(COGES)を設置し、教科書、文房具の受け取り・管理、契約教員の管理、補助金の運営管理の責任、さらに、就学促進、学習の質の向上などの役割を与えることにより、学校運営の効率化や教育開発の向上を目指すものである。さらに重要なのは、COGESを通じた住民の学校運営や教育開発への参加により、住民の間に根ざす、学校への不信感を払拭し、学校とコミュニティの心理的距離を縮めることであった。

このCOGES政策を支援するために2004年1月に開始されたみんなの学校プロジェクトは、枠組みのみあり、具体的な戦略のなかったCOGES政策を肉付けし、具現化してきた。まず、COGESの設置において、民主的な選挙を導入し、COGESを、イニシアチブを持った者が指導する風通しのよい組織とした。また組織の活動指針として、住民自身が学校の問題を自ら考え、解決していく枠組みとして学校活動計画を導入し、住民による多くの教育改善活動の実施という成果を得た。住民によって実施された活動としては、学校インフラの建設、整備、清掃、教室の清掃、トイレの建設、保健啓発活動から、就学促進啓発、補習授業などの教育の質の改善活動まで多岐にわたる。さらにプロジェクトは、このCOGESの活動をモニタリングするための地方行政官の能力改善を通じ、COGESモニタリングシステムを構築した。

またプロジェクトでは、生徒に実際の生産活動を教えるべく学校の教科として導入されたが、現在はほとんど廃れている生産実習活動(APP)を、住民の参加により活性化させ、地域住民のニーズを反映させた魅力的な学校づくりを行っている。

## 進捗:

2004年1月、タウア州(人口200万人、学校数1300校)の25校を対象にプロジェクト開始し、COGES設置における民主選挙、COGESによる学校活動計画を導入。COGES政策の進展により、2006年6月に対象支援校を25校から171校に変更。

2004年10月、COGES政策の進展により、対象支援校を171校から329校に増加。

2005年1月、プロジェクト合同調整委員会で、1年間の活動の成果を報告、その成果が評価され、2月には先方政府から対象地域拡大の要請がなされる。

2005年7月 中間評価において、当初のプロジェクト目標がすべて達成されたことが確認され、プロジェクト目標をそれまでの成果の普及に変更。また対象地域拡大について、ザンデル州での展開を通じて、モデルの普及展開の可能性を検討することが、ニジェール側とJICAで合意される。

2005年10月、COGES政策の進展により、タウア州のすべての学校を対象支援校とする。ザンデル州のパイロット校60校での活動開始。

2006年7月に実施された終了時評価(コンサルタントによる詳細な調査は10月に実施)において、プロジェクト目標の達成可能性が高いことが確認され、評価5項目いずれにおいても高い評価を得る。しかしながら、COGES連合(注)のモデル化については、現在行っている試行的な取り組みを整理した上で、政策提言を行うべきであることから、現行プロジェクト期間を7ヶ月程度延長することが総合的な見地から妥当であるとされた。

2006年10月現在、タウア州においては、COGES連合の機能化を中心として活動を展開し、ザンデル州においては、ほぼ州半数の学校において、タウアで確立したモデルを試行中。中央においては、COGES政策へプロジェクト成果を反映するため、COGES関連活動の外部評価、COGES政策策定アトリエ実施支援を行っている。

(注)COGES連合は、ニジェールの最小の行政区分であるコミューン毎にCOGESをグループ化したもの。少数の地方行政官で、多くの学校をモニタリングし、またコミュニティや地方教育行政との持続的な連携を構築するのは難しいことから、周辺のCOGESを一まとまりとした連合体として機能強化することとなり、2005年3月に策定された基礎教育・識字省COGES政策文章において、COGES連合の設置が明文化された。



# 朝から晩までAPP

## ～ APPと共に歩んだ2年と8ヶ月～

APP担当の齋藤由紀子専門家が2006年12月末日に任期終了となります。帰国にあたって、2004年3月に青年海外協力隊シニア隊員として派遣されてから、短期専門家としての再派遣を経た現在(2006年12月)まで、「生産実習活動(APP)」の可能性に懸け続けた2年8ヶ月に渡る軌跡を綴って頂きました。

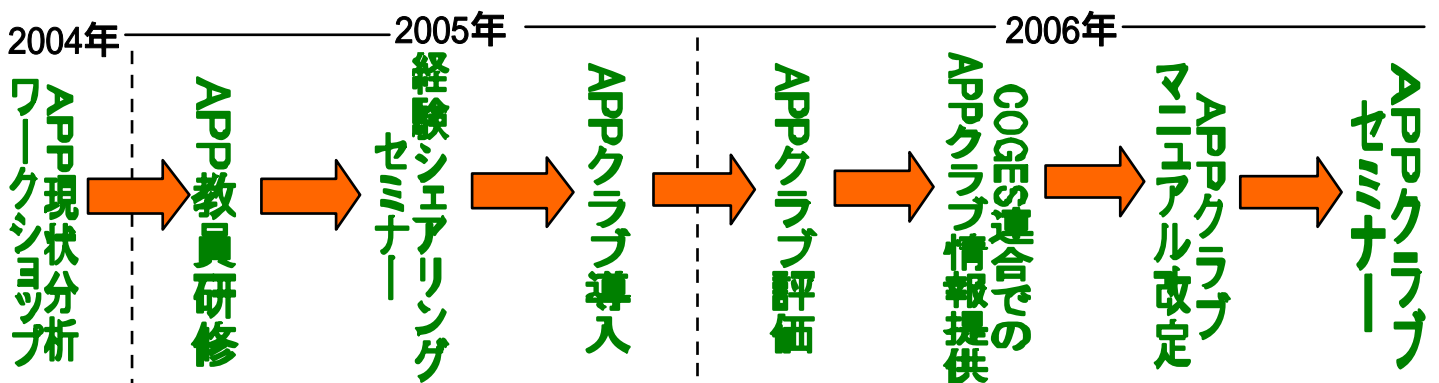
一 ジェールにおけるAPPの歴史は、1987年、「新教育プログラム」の一環で初等教育カリキュラムの中に導入されたことに始まります。従来の理論中心の教育から、卒業後の社会生活に役立つ知識、経験、実践技術を身につけるための教科として、取り入れられたのです。地域の実情を反映した生産活動(農業、手工業、社会文化活動、家庭経済等)を各学校、教員が自由に選択し、実施できるとしていますが、残念ながら現在に至るまで上手く機能しているとはいえません。そんな中、みんなの学校プロジェクトは、これら実用的な活動を学校活動に取り入れ、活性化させることによって、学校への住民参加を促すことができるのではないかと考え、プロジェクトの重要な構成要素としてAPPを組み込みました。そこで、2004年3月にシニア隊員として派遣された私に課せられた要請内容は APPの「現状分析及解決策の模索」、そしてAPPを通じた「学校と地域の関係改善の可能性」を探ることでした。ここに、カリキュラムの1つであるAPP教科の充実を図り、地域住民が求める「機能するAPP」を実現するため、私の2年8ヶ月に渡る試行錯誤が始まったのです。



現状分析から解決策の模索へ(04年3月 05年9月)  
 まず取り組んだのが、APP教科の“現状分析”です。なぜAPP教科が機能しないのか、現在の問題点を見極め、今後の方向性を見出す為です。実際のAPP活動現場や、基礎教育・識字省APP関係者を招いて行った「APP現状分析ワークショップ」から見てきたAPP機能不全の理由は以下の通りでした。保護者・教員間でのAPPに対する理解不足 活動道具や材料購入の経費が確保できない 保護者との協力が無い 教員に指導ノウハウが無い 教員のモチベーション低い、ということです。このような5つの問題点の中でも、特にAPPに関する「教員の知識不足」は多くの関係者から指摘される点でした。

「APPクラブ」は  
 「コミュニケーションと学校の架け橋」

このような現状に対し、まずはAPP活動における教員側の問題に対応することが先決として実施したのが、教員の能力強化を狙った「APP教員研修」です。対象は当初のパイロット校コニ県サルナワ地区全教員、計76名(25校)。この研修の中では、実践的な活動を伴うAPPには、児童の発達に合わせた段階的な教授が必要であるとし、児童発達心理学を組み込んだ内容にしました。この研修後、実際に教員のAPP活動に対する関心が増し、25校すべての学校でオリジナリティー溢れるAPPが行われるようになったのです。そしてその半年後、パイロット校での活動を評価し、さらなるAPPの方向性を見出すため「APP経験シェアリングセミナー」を開催。結果、パイロット校全てで活発なAPPが行われ、今後も継続したいという意向が明らかになりました。しかし、依然として指摘されたのは、材料費がなかなか集まらない 教員が指導できる技術の種類、人材に限りがある、ということでした。つまり、いくら教員にモチベーションや指導力があっても、活動に対する費用が捻出されなければ活動は継続できないため、APPを行う上で、材料費の不足は決定的な問題であるということです。また、技術の教授に関しても、教員のみでは専門的な知識に欠け、限界があることが浮き彫



りになりました。そして、このセミナーやパイロット校での経験から、APPの活性化には、やはり“**地域住民の参画が鍵**”であるとの結論に達したのです。



「APPクラブ」誕生(05年10月 06年6月)  
この地域住民の参画という“APPの方向性”に“学校と地域の関係改善”という課題を練り合わせ…そして生まれたのが「**APPクラブ**」です。教員と児童2者のみで行われていたこれまでのAPPをより地域のニーズを取り入れた地域が望む活動になるよう、地域住民を巻き込み、**教員・児童・地域住民の3者協同で行う“APP”**に作り変えたのです。プロジェクトが実施している学校運営への住民参加モデルを応用し、機能するCOGESを通じたAPPクラブの啓発および話し合いによって、クラブ導入段階(クラブ実施決定およびクラブ選択)から住民を巻き込み、学校活動計画へAPPクラブ活動費を組み込むことにしたのです。これによって、地域住民からの同意が得られ、活動費の問題を解消することができました。また、APPクラブ講師としてコミュニティーの人的資源を活用することにより、クラブの多様化・活性化を可能とし、住民の能動的な参加を促したのです。さらには、活動選択時に地域住民や教員だけでなく、児童の要望も取り入れたことで、児童のより積極的な取り組みが見られるようにもなりました。



2005年10・11月に「APPクラブ研修」を通し、このAPPクラブをパイロット68校に導入しましたが、7ヶ月後に実施したアンケート調査では、APPクラブによる成果として、生活に役立つ技術の習得というAPP教科の本来の目的に加え、「出席率の向上」、「学校とコミュニティーの関係改善」、「クラブ活動経費の確実な捻出」に貢献したということが明らかになりました。活性化したAPPクラブを介して、児童・教員・住民(保護者)が相互に刺激し合い、プラスの効果を挙げていることが見えてきたのです。つまり、住民の巻き込みで活性化したAPPクラブによって、児童が喜んで通学するようになり、その姿に保護者は満足し、更なる参画・参加への動機付けとなる。また、児童の積極的な姿勢や保護者の介入は、教員の意欲を高めることが期待でき、それにより様々な学校活動の更なる活性化へと結びつく、という訳です。その他にも、APPクラブの可能性は様々です。ひとつ例を挙げると、生産実習活動を通じたCOGES集金軽減の可能性です。いくつかのクラブでは、活動を通して実際売れるほどの見事なものが出来ており、学校によっては市場で売っています。その売り上げをCOGES基金に還元し、他のCOGES活動へ貢献することが可能なのです。また別の可能性として、APPクラブを通じた地域への啓発活動が挙げられます。文化クラブで行なわれる歌、劇、詩に、女子就学促進や保健衛生、環境に関する内容を盛り込み、村落内で発表することで、より多くの地域住民へ効率

的に様々なメッセージを送る事ができるようになるのです。



最後の関門—汎用性のあるAPPクラブへ—(06年7 12月)  
紆余曲折を経て、このように多くの可能性を持った「APPクラブ」に辿り着きましたが、そんな私に最後に残された課題が“普及拡大のためのモデルづくり”でした。つまり、APPクラブをニジェール内に広めていく上で、“広範囲で行なわれる活動のモニタリングはどうするか”、“機能するAPPクラブ”をより多くの学校で、より簡単に、より効率的に導入するにはどうすべきか”、という点への対策を講じることです。まず、APPクラブの簡易な導入へ向けては、研修を受けなくても活動が開始できるように、既存のAPPクラブマニュアルをより具体的で分かりやすく改定しました。そして、補助資料として、実際の活動を行うためのヒントになるような活動事例集の作成にも着手しました。次に、以前は教育主事が担っていたモニタリングの問題に関しては、財政および物理的な制約を考慮し、現在プロジェクトで確立しつつあるCOGES連合のネットワーク体制を活用することに汎用性への活路を見出しました。つまり、各COGESレベルで活動の自己評価を規定のモニタリングシートを使って定期的に行ない、COGES連合レベルでの会合を通して情報共有・問題解決策の模索を行なうという構図になります。APPクラブのCOGES連合を活用したモニタリング体制はまだまだ試行段階であり、今後の継続的な試行および評価を実施していくことが不可欠ではありますが、これらの対策をもって、現在認められたAPPクラブの効果を最大限に生かしつつ、より現実的で実現可能な汎用性のあるモデルとして機能することが期待されます。



2006年12月末、基礎教育・識字省APP関係者にAPPクラブのアプローチを紹介する「APPクラブセミナー」をもって、私の任期は終わりを迎えます。しかし、ニジェールにおける「APPクラブ」の歩みは今始まったばかりです。以上述べてきたように、私の2年と8ヶ月を賭けて辿り着いた「APPクラブ」は、従来のAPPが持っていた問題を解決するだけではなく、**コミュニティーと学校の架け橋**となりえるものです。さらには、“みんなの

学校プロジェクト”が理念とする「**みんなが集う、楽しい学校**」

“みんなの学校”を具現化する活動だと言えるでしょう。この可能性溢れる「APPクラブ」の更なる発展と、ニジェールの子どもの夢ある未来を祈りつつ…。



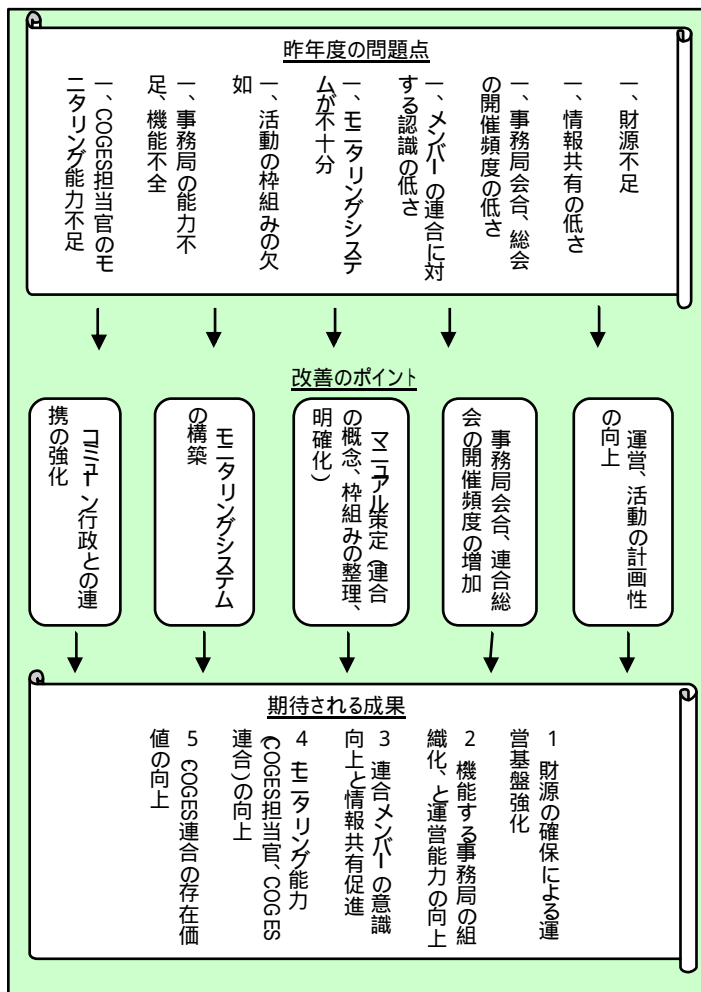
2006年12月13日 ニジェール・タウアにて

APP担当短期専門家 齋藤由紀子

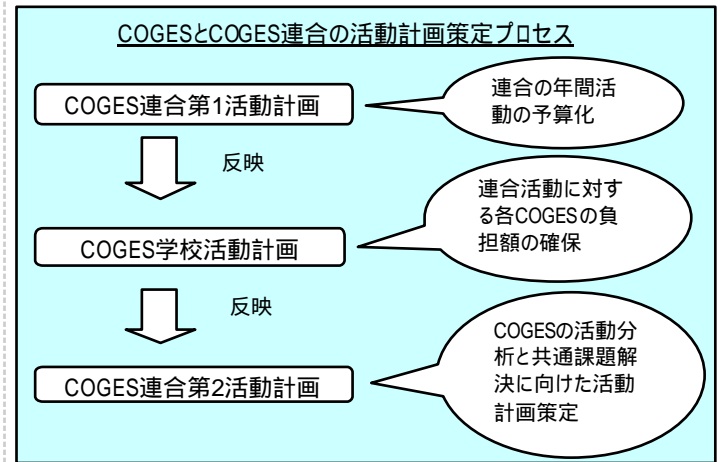


# “ここが違う、今年のCOGES連合” ~ COGES連合の機能化に向けて ~

**既**にご紹介した通り、みんなの学校プロジェクトは終了時評価の結果を踏まえて、2007年7月まで延長することになりました。その延長フェーズの終了時点までに達成しなければならない「宿題」の一つが“COGES連合の機能化”です。既に実証済みである「機能するCOGESモデル」に比べて「機能するCOGES連合モデル」は試行後間もないこともあり、モデルとしての価値を今年度一年間を通して実証する必要があります。昨年度から設置され、プロジェクトが活動を支援してきたタウア州の39のCOGES連合は、就学促進や模擬試験の実施などに一定の成果を残し、COGESとそのネットワーク組織であるCOGES連合による活動のインパクトの大きさ、そして潜在能力の高さを提示することが出来ました。一方で、開始初年度は、活動や運営の枠組みについては確立されたモデルがなかったため、手探り状態での活動の実施でした。その結果、資金不足をはじめ運営基盤や体制に脆弱性を露呈するなど、課題も多く残りました。そこで今年度は昨年度の問題点、課題を踏まえて、改善に向けた多くの取り組みを実行に移しています。これらの改善点をまとめたのが以下の図です。



年度から導入しました。ポイントは計画性の向上です。今年度はCOGES連合の活動計画を2種類に区別して、連合の事務局会合や総会などの連合の運営にかかる計画を第1活動計画とし、年度初めに策定するようにしました。この活動計画を策定することでCOGES連合が1年間に実施する事務局会合や連合総会の開催数が予め確定され、年間予算が概算されます。各COGESは連合の年間予算を踏まえて、各COGESが負担すべき金額を学校活動計画の中に組み込みます。各COGESが連合に支払う分担金のほか、連合総会に出席する際の交通費旅費についても、この中に組み込むことで、連合の資金確保を確実にし、総会への参加も促進することが狙いです。COGESの学校活動計画が策定され、連合によってそれらが回収されると連合はその内容を分析した上で、第2の活動計画を策定します。このプロセスを経ることで、各COGESのモニタリングを容易化するだけでなく、各COGESに共通する課題を見つけ、ニーズの高い活動を連合の活動計画として策定することが可能になります。



これまでのモニタリングの結果、タウア州の対象コミュニティ全ての39連合で年度初めに第1回の連合総会を開催し、第1活動計画の策定を完了しました。現在、この連合の第1活動計画をもとに各COGESが学校活動計画を策定し、連合が順次回収中です。すでに第2活動計画の策定にも着手する連合も出てきました。これまでのところ連合の総会や事務局会合の開催状況や参加度も昨年度に比べて格段に向上しており、機能化に向けて順調なスタートを切ったということがいえます。

### 改善に向けた様々な取り組み

このほかにも、プロジェクトでは連合の機能強化に向けた様々な取り組みを行なっています。今年9月に各連合の代表を集めて会合を開催し、上述した新しい活動計画プロセスなど改善に向けての研修を行ない、さらに月例COGES担当官会議においても、モニタリングチェックポイントや各種活動計画の集計表などのレポートを含めたモニタリングシステムを整備し、彼らのモニタリング能力の向上を図っています。その結果、徐々に関係者の連合に対する意識が向上してきており、それは会合の開催頻度や参加率の改善だけでなく、多くの連合がやる気の無い連合事務局委員の交代や改選をおこない事務局の機能強化に取り組んでいることなどにも現れています。

また、昨年度からもコミュニティ行政と連携する連合が多くありましたが、これまでのモニタリングから、コミュニティ行政自体も連合の活動に強い関心を示していることがわかりました。今年度は独自のローカル予算を持っているコミュニティ行政との連携を恒常化させるための戦略をすすめ、その第1弾として来年早々コミュニティ長を招いたCOGES連合大会をタウアで開催し、連携の具体的な形を協議する予定です。この両者の連携は、中央からの押し付けではない、現場でのニーズに基づき、現場の実情を反映した地域発の地方分権化政策への発展にむけた流れを作るという意味で、大きな可能性と期待を秘めています。

### 活動の計画性向上

昨年度の活動を通じて直面した大きな問題の一つは、連合の活動運営資金不足でした。COGES連合は構成員（各COGES代表）が地理的に離れた所に住んでいる為、まず彼らが集まって話し合いを行なうために移動費などの費用が発生し、この点がCOGESとは異なり連合のハンディキャップであるといえます。つまりCOGES連合の場合、会合の開催など最低限必要な運営活動に、ある程度のお金がかかるということなのです。昨年度は多くの連合が資金不足のため、年度後半に入って会合すら開催できなくなる、あるいは会合を開いても参加者が少ない、といった問題がおこりました。そこで、限られた資源を確実に確保して有効活用するための工夫を今

“赤黒く変色した皮膚、嘔れた声、刻まれた深い眉間の皺、そして無意識に零れ出る溜息...”11月4日にニジェル入りした撮影クルーの1週間後の姿である。猛烈に照りつける太陽の下、カメラの前に興奮して大挙する子どもたち相手に大声を上げ、分刻みのスケジュールと時計の針を見比べながら、遅々として進まぬ撮影に焦る。



みんなの学校プロジェクトの研修用マルチメディア視覚教材3編(プロジェクト概要編、選挙研修編、学校活動計画研修編)を制作するため、日本から撮影クルーが来二。およそ10日間に渡ってインタビュー及び“寸劇”を含む各種ビデオ撮影が、首都ニアメとプロジェクト対象地・タウアにて行われた...



5日から12日までの8日間、タウア州内4村で行われた撮影現場は、日本語とフランス語と現地語の3語が入り乱れる、まさに「喧騒」の場であった。ひとつの言葉を伝えるのに、2段階、時には3、4段階を経なければならない。そんな交錯した意思疎通によるもどかしさの中で、“カメラ”にも“撮影”にも慣れない住民群や即席役者団(COGES担当官、校長、プロジェクト現地スタッフで構成)相手の撮影は、順風満帆とは程遠く、日本国内の撮影では味わえぬ悪戦苦闘の日々であったことは想像に難くない。素知らぬふりを決め込んでいたものの、撮影クルーの日々憔悴を増す表情に多少なりとも(現場ロジ担当としての)責任を感じていた者としては、どうにかこうにか全行程を乗り切った時にはクルー以上にほっと胸を撫で下ろしたものである。しかし、そんな悪条件かつ強行軍にもかかわらず、丁寧、真摯に、“プロとしての仕事”を全うする撮影クルーの姿には、まさに「流石」の一言。「職業魂」を見せ付けられた思いの現地スタッフ、役者、住民共々、このビデオが素晴らしいものになると確信以上の確信をもっている。



# ビデオ撮影つれづれ記



このように今回の撮影が何はともあれ無事終了できたのは、撮影クルーの「善戦の賜物」ではあることは言うまでもない...が、しかし、住民たちの多大なる協力なしには何事も進まなかったこともまた真実である。撮影時はちょうど収穫期に当り、村の住民にとってはまさに畑仕事に精を出すべき大切な時であった。この期の収穫品こそ、この後1年の「糧」なのである。そんな多忙かつ重要な時期に、連日この撮影のために集まってくれた住民こそ、ある意味、今回の撮影の「真の功労者」かもしれない。炎天下の中いつ終わるか分からぬ撮影につき合わされ、何度も何度も立ったり座ったり。突然来たよそ者に「ああしろ、こうしろ」と訳も分からず命令される。なんて理不尽な...。それにもかかわらず、「自分たちの活動をいろんな人に見てもらおうのだ」と、損得勘定抜きに全面的に協力し、我々の我侘な要望を忍耐強く、かつ笑顔で受け止めてくれた村の人たち。今回の撮影は、ニジェールの人々の懐の深さとその想いに改めて感じ入る日々であった。住民とともに作り上げられたこの3編のビデオ今後ニジェル国内のみならず、西アフリカ各地にてCOGESの研修教材として活用される予定である。ビデオの中で言葉として語られることと共に、そこから住民たちの真摯な心意気をも読み取ってもらいたい。



それにしても、普段の研修等でシミュレーション(寸劇)に慣れている役者(COGES担当官たち)の面々は言わずもがな、住民たちの“玄人跳の演技力”には、心底舌を巻く。それが血によるものかまたはまた風土のなせる業か。怒涛のごとき撮影の日々の再来には腰が引けつつも、彼らの演技はぜひとも再見したいものである。

(K)

本誌「みんなの学校だより」に関する  
皆様のご意見・ご感想をお聞かせください!

~~~~~ 編集・発行  
ニジェル住民参画型学校運営改善計画  
(みんなの学校プロジェクト)

お問い合わせ・連絡先  
Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER  
電話/FAX: +227 - 20 - 610 - 571  
E-mail: Rosedesaha@aol.com  
konoue@yahoo.co.jp  
Nakazawa.Junko@jica.go.jp

みんなの学校プロジェクト  
ホームページに

マンスリーレポートが加わりました。

(<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>)

マンスリーレポートでみんなの学校の活動をリアルタイムで  
知ることが出来ます。

また「みんなの学校だより」のバックナンバーはホームペー  
ジからダウンロードできます。新しいホームページにはフォト  
ギャラリーや動画もあります。是非、ご覧ください。



## 編集後記



タウアの村は牧歌的である。雲ひとつない透き通った青空を背景に、赤茶けた土塀で囲まれた家々が浮かびあがる。塀の中には、四角形の土の家と、円錐形の土の穀物貯蔵庫があり、庭では、ヤギ、羊、鶏たちと一緒に子供が遊びまわり、女性が炊事をしている。村のあちこちにある広場では、女性が集団となり、収穫したミレットを木のうすでつき、それを空中にまきながら、脱穀をしている。

日本からの訪問客にこんな風景を見せると、「のんびりしていいですね。先進国のぎすぎぎした生活をおくるより幸せなんじゃないですか。」といった感想をよく聞く。心の中で、少し違うかなと思うが、議論はしない。所詮、他人の生活を傍から見ていて、幸せかどうかわかるものではないし、そういう人たちの論拠を完全に覆す論拠を自分が持っているわけではない。

ただ、こういう物言いを聞いた時に思い出すことがある。それは、COGESが主催した女子就学促進のキャンペーンの中で、演じられた寸劇である。その寸劇は、学校に行けず、早く親に結婚させられ、毎日、育児、炊事、農作業に追われている女の子が、彼女の幼馴染で学校に行って看護婦になった女の子と再会し、自分の境遇を嘆き、両親や先生に向けて女の子を学校に

行かせてほしいと訴えるという場面を描いたものだった。筋は比較的一般的なパターンで、女の子たちの演技も特にうまくはなかった。ただ驚いたのは、この劇の途中で、その劇を見ていた何人かの女の子が大きな声で泣き出したことだ。事情を後で聞くと、泣き出した女の子たちも劇の中で描かれた女の子のように、学校に行きたいのに行けず、早く結婚させられて、生活に追われる毎日を送っており、劇の中の女の子の中に自分をみて、現在の自分の状況を思い、泣いてしまったということであった。

「世の中にフェアなことなどなにもない」という一説で始まるテレビドラマがあった。実際、世の中はアンフェアなことばかりである。しかし、上で述べた女の子のように、自分の生き方の

ろうか。答えはNOである。なぜなら、このミニマムパッケージは、人々の需要や動機が無ければ機能しないからである。

それから、こんなこともあった。それは、プロジェクトがCOGESを通じた就学キャンペーンを行った時のことである。プロジェクトは、ほとんどお金や手間をかけず、ただ、7つのCOGES連合に属するCOGESに就学促進を行ったらどうですかとすすめた。その結果、COGESは、自分たちで就学啓発活動を組織して、例年の4倍以上の入学志願者を集めた。こんな成果は、ニジェルで行われたいかなる就学促進キャンペーンも出していない。

素朴に、なんでこんなことが可能だったのだろうという疑問が湧いてくる。私には、これらの行動は、世の中のアンフェアに対するニジェールの人々の静かな抗議に思える。自分たちはともかく、子供たちには少しでもフェアな世界で生き

## セカンドチャンス

選択のチャンスを与えられないことほどアンフェアなことはない、と、ここニジェルに住んでいると思えてくる。アンフェアと感じるのは自分だけなのだろうか。ニジェルの人々が感じていないのだろうか。

彼らは、大きな声や派手なジェスチャーで抗議するわけではない。だから、わかりにくい。私は、彼らがそのことを意識していると思う時がある。例えば、今年の学校活動計画の実施結果を取りまとめた表を見た時である。経済的に貧しいニジェルの人々が、驚くような多くの金を出し合い、労働力を動員し、自分に子どもたちの教育を改善するための活動を行った。プロジェクトの導入した住民参加促進ミニマムパッケージだけが、この活動の原動力になったのだ

て欲しいという親の想いが原動力になったのではないかと思えるのだ。

プロジェクトでは、今、セカンドチャンススクールという学校を支援している。セカンドチャンス、なんと美しい命名なのだろう。もう一度やり直せたらと思ったことがない人はいないだろう。そして、多くの人が、自分で勇気を出せば、やり直すことができる境遇にいる。しかし、ニジェールの就学年齢を過ぎてしまった子どもたちには、学校に入学するチャンスは2度とない。セカンドチャンススクールは、そのことも達し、もう一度、就学出来るチャンス、自分の行き方の選択肢を与えることができる学校である。

しかし、この学校は、国によって完全に制度化されておらず、援助もないので、学校の建設から、先生の雇用、給与の支払い、すべて完全にコミュニティが支えなければ成り立たない。難しい試みであると、援助関係者は声をそろえて言う。

だが、プロジェクトスタッフは全員成功すると思っている。それは、この3年の経験を通し、ニジェルの人たちのフェアさを求める強い気持ちを痛いほど知っているからだ。(H)

## プロジェクト カレンダー

## 2006年12月～2007年2月

- 12月7日 7COGES連合会合(タウア州)
- 12月8日 タウア州月例COGES担当官会議
- 12月18～22日 国際学校管理セミナー(ニアメ・タウア)
- 12月27日 APPクラブセミナー(MEB/AおよびJICA関係者対象/ニアメ)
- 12月30日 斉藤短期専門家帰国
- 1月16日 タウア州月例COGES担当官会議
- 1月17日 COGES連合大会(タウア州内39連合)
- 1月下旬 合同調整委員会(ニアメ)
- 1月下旬 ザンデル州月例COGES担当官会議
- 1月25日～ ザンデル州COGES連合・学校活動計画研修(10連合)
- 2月中旬 タウア州月例COGES担当官会議
- 2月下旬 ザンデル州月例COGES担当官会議
- 2月下旬 COGES連合大会(ザンデル)





**ECOLE  
POUR TOUS**

# みんなの学校だより



vol.15

ニジェール住民参画型学校運営改善計画(みんなの学校プロジェクト)  
2007年3月8日発行

今号のハイライト  
延長フェーズにむけて  
COGES連合大会開催  
女子就学促進  
新プロジェクトメンバー紹介

Vol.15

2007年延長フェーズ開始にむけて

## 進化するみんなの学校プロジェクト

みんなの学校プロジェクトも開始から4年目、7ヶ月間の延長フェーズに入りました。気分も一新、新たな目標に向け進んでいきたいと思えます。本年もよろしくお願いたします。

### 新しいCOGES政策をめぐる動き

2007年に入り、教育分野最大のドナーである世界銀行の二つの調査団が来しました。一つ目の調査団は、世銀の出資する基礎教育支援プログラム(PADEV, Programme d'Appui au Developpement de l'Education de Base)終了時評価ミッション、二つ目は世銀の財政援助評価ミッションでした。これらの調査団がニジェール政府と交わした合意事項で、COGES政策に関連するものがありましたので、ご説明します。

### 世界銀行の財政援助の方向性

世銀の財政援助ミッション報告では、財政支援の中期目標として、以下の3点を挙げています。

- (1) 3,000人程度の契約教員の雇用財源の確保
- (2) 雇用された契約教員の管理(特に出勤状態)
- (3) 教育財源の地方分権化(財源に関する権限を学校レベルに委譲)

これらの目標は、世銀のニジェールにおける教育分野の優先課題を示しています。つまり、世銀は、ニジェールでの教育へのアクセス、教育の質向上のために契約教員の問題解決は不可欠と認識し、組織の基本方針でもある教育財源の地方分権化を、ニジェールでも進めていこうと考えていることがわかります。この世銀の財政援助戦略とCOGES政策は直接関連があります。前者の契約教員の管理については、COGESを契約教員の給与の支払いに関与させることを、世銀は義務付けています。また地方分権化政策における教育補助金の学校レベルへの供与においても、世銀はCOGESをその受け取り先、管理責任組織と規定しています。実際にニジェール政府は、COGESに直接補助金を出すというパイロット活動をマラディ州とティラベリ州で行うことを約束しました。

契約教員の問題に関しては、確かに現在の

ニジェール教育分野において、もっとも深刻で緊急に解決策を探らなければならない問題です。しかし、COGESに契約教員管理の一部の権限を持たせるための法令を制定するだけでは、契約教員の管理がスムーズに行われるとは考えにくく、現場ではCOGESと契約教員が対立するなど混乱を招く可能性が高くなります。また、COGESへの物品や財務権限の直接供与は、COGESという組織が透明性や管理能力を持っていなければ、供与されたお金や物がうまく管理されず、逆に多くの問題や弊害を生むことになることは明白です。しかも、ニジェールにおけるCOGES政策を含む地方分権化政策は、まだ、多くのドナーと国民教育省(旧基礎教育・識字省)が政策の内容について議論している最中で、ニジェール政府にとっても結論が出ている訳ではありません。しかし、なぜニジェール政府は、このような財政援助を受けるためのコンディショナリティ(条件)とも言えるような政策に合意したのでしょうか。それはニジェール政府にとっても、契約教員の給与の確保は最優先課題ですが、外部からの資金に頼るしかなく、世銀の条件を飲まざるを得ないのです。これが世銀とニジェール政府の財政援助をめぐる交渉の背景です。このような状況の交渉は今に始まったことではなく、ニジェールの地方分権化政策自体が世銀の財政援助の条件(コンディショナリティ)として進められてきたとみることもできます。

### PADEVの評価

一方、PADEVの終了時評価ミッションでは、PADEV第1フェーズ(2004~2007年)で予定され、現在まで実施されていない活動を取りやめ、代わりに2007年度PDDE(ニジェール国教育開発10ヵ年計画)活動計画のうち、COGES活動にかかる実施資金をPADEVの枠内で支出することを終了時ミッションが提言し、国民教育省側はこれを承認しました。この決定は、COGES活動以外の分野では第1フェーズで目標を達成するのが困難であるという理由の他に、上述した世銀

財政援助の戦略にも関係しています。つまり、各学校に補助金を世銀の財政援助から支出を行う際、供与された資金の運用管理がうまくいかば、COGESが機能しているかどうかが大きく影響しているからです。そして、COGESを機能させる支援活動として、本プロジェクトのタウアモデル・ミニマムパッケージを中心とした計画の実施が決定されました。この背景には、世銀ニジェールの教育担当者が、去年参加したPDDEレビューの現地調査でタウアを訪問し、実際に機能するCOGESを見て、ミニマムパッケージの成果を確認したということがその背景にあります。

### 世銀の戦略の問題点

世銀が財政援助や教育支援プロジェクトの中で推し進めるCOGESによる契約教員の給与支払いへの関与や、COGESに対する補助金などの管理運営の責任委譲は、果たしてうまく行くのでしょうか。実は、タウア州ではすでに州国民教育地方事務所が、契約教員の給与支払いの条件として、各教員の出席証明書をCOGESが発行するという措置を義務付けようとした。しかし、この措置を実施に移す前の説明段階で、契約教員とコミュニティー双方に大きな疑問・誤解、不信感を巻き起こしました。そのため、プロジェクトはタウア州国民教育地域事務所にその措置実施の延期を申し入れ、現在は実施が延期されています。COGESへの物品の供与については、COGES委員に対する管理研修だけでは不正使用を防ぎきれず、適正な管理を行うためにはCOGESが透明性を持った成熟した組織であることが不可欠であることをプロジェクトの経験が示しています。

これらの世銀の戦略は、現場を知らない政策立案者が南米などニジェールとは条件の異なる国の成功例をもとに机上で考えたもので、ニジェールの実情に合うとは思えません。しかしながら、世銀が融資を行う場合につけるコンディショナリティがニジェールの教育分野の地方分権化を実質的に進める外部圧力に



# COGES連合と コミュン行政との連携に向けて



## コミュン行政・COGES連合・地方教育行政の 連携を考えるワークショップ開催

COGES連合の機能化に向けた取り組みの一環として、本年1月17日にタウア州プロジェクト対象地域のCOGES連合代表、コミュン長、及び各県視学官を招いて、三者の連携を考えるワークショップを開催しました。ワークショップの目的は、COGES連合の機能化を図る上で不可欠と考えられる三者の連携の枠組みのあり方をこれまでの経験をもとに討議し、具体的実現可能なアクションプランを策定することでした。

ワークショップは、まずみんなの学校プロジェクトの活動と成果の紹介、COGES連合の活動紹介、続いてタウア州の地方分権化政策担当部局からコミュンの概要と現状について説明がありました。その中でコミュンレベルでの教育開発を進める上で、COGES連合、コミュン、視学官事務所の連携の有用性及び必要性が強調されました。その後、既に連携の実績を持つ参加者から事例が紹介され、一般化すべき連携のあり方を模索する為に意見交換がなされました。

討議の結果、ワークショップ終了時に以下の行動計画が全体で決議されました。

- 1) コミュン評議会、COGES連合、地方教育行政の3者による正式な協議の枠組みを創設し、教育の問題に対する取り組みを協議する。今年度から年3回の協議を始める。
- 2) コミュンの代表(教育分野担当評議委員)をCOGES連合事務局に送る。
- 3) コミュンの「コミュン開発計画」の中にCOGES連合の活動計画を取り入れる。
- 4) コミュン開発計画策定過程へのCOGES連合代表の参加。

このほかにもコミュン、教育行政、プロジェクトに対する提案事項も決議されました。これらの決議事項は、タウア州知事代理、タウア市評議会議長、タウア州国民教育(旧基礎教育・識字)局長など関係者列席のもと、参加者全体の承認を経て全体で発表されるとともに、全国テレビ、ラジオ、新聞などのメディアにも広く広報されました。

今回のアトリエでは、ほぼ全てのコミュン、COGES連合代表、視学官が出席し、積極的な発言が多く見られ、このテーマに対する参加者の関心の高さを示していました。コミュン評議会議員は民主選挙で選ばれてい

ることもあり、中央から任命された行政官よりも地域住民に対する貢献について熱意とやる気を持った者が多く、さらに実際にコミュン長をはじめとするコミュン評議会議員には教員や教育行政出身者も多く、教育開発に高い優先順位を持った人が多いことも、この連携のニーズを底上げしている要因ではないかと思えます。

現在、ワークショップ開催から約1ヶ月半経過しましたが、これまで既にコミュン長(あるいはその代理)が連合の総会に出席し積極的に意見交換を行い、連合の活動に対する支援を始める例が確認されました。例えば、コミュンが庁舎の一角にCOGES連合の事務所スペースを提供したり、コミュンと連合が合同で就学促進のための啓発キャンペーンを企画実施したり、COGES連合の機能化のための資金援助や活動計画の実施支援を行なうなどワークショップの効果が早速現場で具体的な形として見られ、連携に対するニーズの高さを覗わせる結果となりました。

今後この連携がさらに進展し、恒常的に確立されれば、COGES連合の機能化に向けより強固な支援体制がローカルレベルで構築されます。それだけでなく、コミュンレベルでの教育開発計画の策定と実施を促進する枠組みが形成されることにもなり、COGES連合は学校レベル、コミュニティレベルでの教育に対する現場のニーズを汲み上げる組織として、そして具体的な活動の実施主体として、その存在意義が高まる可能性があるといえます。

しかしながら一方で、コミュン行政自体も誕生して間もない地方自治体であり、その能力と可能性は未知数です。例えばコミュン行政の予算について政策的には国からの補助が予定されているものの、現在のところ、各種の税収入を基盤とするローカル予算のみで執行されており、地域及びコミュンの経済力によってその予算規模が異なるのが現状です。コミュンの計画策定及び執行能



力といった行政能力も未知数です。今後は国の地方分権化政策の進展を注視しながら、過剰な期待に基づく連携ではなく、現場のニーズや実情に応じた身の丈にあった現実的で実施可能な連携の形を模索していくことから始めていく必要があると言えるでしょう。

地方分権化したコミュン行政自治体と教育分野のCOGES連合のような組織との関連性は、他国の場合、政府が決定し、それを実施することが多いのですが、実はあまりうまくいっていないケースも多いようです。もし、現在行われているCOGES連合とコミュン行政との現場レベルのニーズに沿った連携の形を政策レベルに反映できれば、ボトムアップの新しい形の地方分権化政策が誕生する可能性も生まれてくるかもしれません。



# Bon Courage, Jeunes Filles !!! ~ 頑張れ、女の子たち! ~

MDG達成まであと8年、目標3：初等教育における男女格差解消なるか？

**突**然ですが、クイズです。ニジェールの女の子が小学校6年間を無事卒業できる確率は何パーセントでしょうか？正解は約65%です！。そう言われると、ニジェールにおける女子の教育環境は決して悪くない印象を受けます。しかし、一体何人のうちの65%なのか？を考えなければいけません。ニジェールの女子純就学率は34.4%と言われることから、入学年齢期に当たる100人の女子がいれば、わずか34人が小学校に通い、うち65%、つまりは22人だけが小学校を無事卒業できるということになります。裏を返せば、5人に一人しか小学校を卒業できないのです。さらには、2005 - 6年度の6年生対象の卒業試験は例年以上に厳しい内容だったことから、卒業できた生徒は40%台だったことが報告されています。ということは、100人中、わずか13人しか卒業できないということになります。

しかしながら、ニジェールの全ての地域において同じ状況というわけではありません。図1<sup>2</sup>で示すように、首都ニアメにおける就学率は男女ともにほぼ100%を達成しており、その一方で、地方都市は軒並み低い数値を示していることから、大きな地域格差が生じていることは明白です。

では、みんなの学校プロジェクト活動対象地域であるタウア州はどうでしょうか？男子の就学率は決して良いとは言えませんが、53.4%から64%に上昇し、ニジェール国内では中間の順位に位置しています。女子就学率も26.5%から33%と上昇しつつあるものの、残念ながら過去数年間、最下位に甘んじています。しかも、男女格差は拡大しつつあるのです。2002 - 3年から2004 - 5年のタウア州男子就学率が10.6%の伸びを見せたのに対し、同時期の女子就学率はわずか6.5%に過ぎません。わずか数年で6.5%も就学率が上昇すること自体、驚異的な事実なのですが、着目すべきは、就学率は上昇しているが、男女格差は拡大する一方だ、ということです。

なぜ男子の就学率だけが大きな伸びを見せるのでしょうか？教育問題に関心のある皆さんの中には、「女子の就学には様々な阻害要因がある」ことを聞いたことがあるでしょう。その理由のひとつに、「親が女子の教育の重要性を理解していない」ことが頻繁に挙げられます。でも...本当に娘を持つ親はそう思っているのでしょうか？

みんなの学校ニュースレターでも以前お伝えしましたが、2005年9月に実施した7COGES連合（202校）の住民自身による身近な就学促進キャンペーンでは、2004 - 5年の入学人数（6,479人）は、前年度比約2倍にあたる12,196人の児童が入

学登録したとの結果が報告されています。この住民の教育に対する需要の大きさに、プロジェクト関係者一同驚きましたが、さらに驚くべき点は、男子の入学登録者数が前年比1.7倍であるところ、女子の登録者数はなんと2.16倍だったことです。「えっ、ニジェールって女子の就学率低いでしょ?!教育に対する需要がそんなにあるなら、就学率はもっと高くなるはずでは??」と思われる方もいると思います。筆者もそんなことを考えた一人です。

「女子の教育は大事だ」。COGESのメンバーはもちろん、訪問した村の誰に聞いても、皆同じ事を口にします。もちろんニジェール国内で、娘を持つ親全員が女子教育に対して理解を示しているとは言えません。しかし、「女子への教育は必要ない」と考えている親は決して多くないとも言えるのではないのでしょうか。では、そう思っているながらも、なぜ両親は女子を学校へ送らないのでしょうか？あるいは学校へ送りたくても送れない事情があるのでしょうか？それとも女子生徒自身が学校へ行きたくないと思うのでしょうか？誰を、あるいは何をどうすれば女子就学率は上昇するのでしょうか？

今回は、これがあればニジェールの女子就学率が上昇するはず!!!というものを列挙してみました。皆さんもどうぞ一緒に考えてみてください。

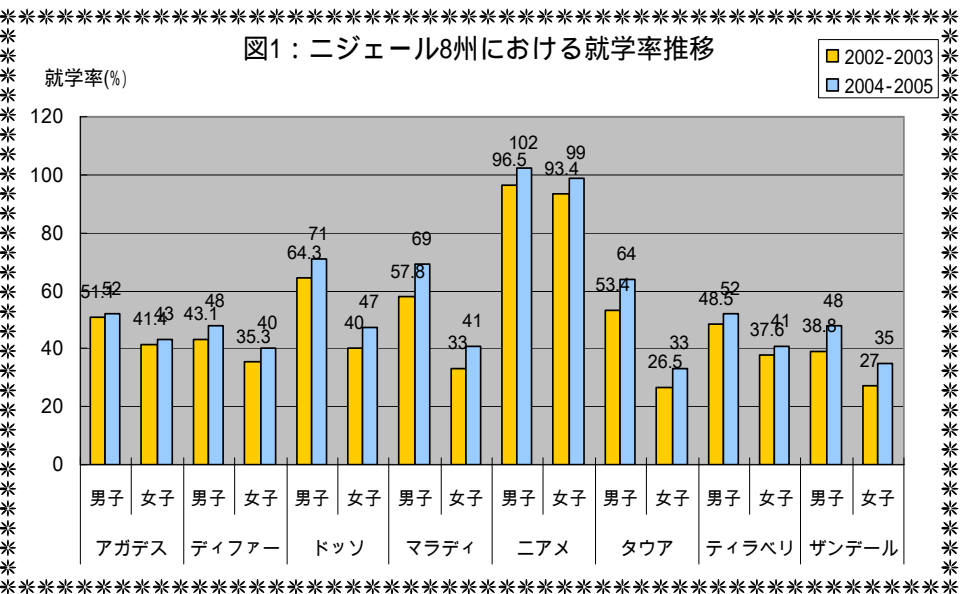
**【供給サイドにおける解決策】**  
**学校数、教室数が十分にある**

政府予算が常に不足する中、教室不足はいつでも深刻な問題です。いくら入学希望者が多くても、教室数が不足すれば、受け入れ可能な生徒数も決まっています。ニジェールの教育開発10ヵ年計画（PDDE）では、2012年までに就学率92%の目標を達成するために、毎年3000教室の建設を予定していました。しかし、実際の建設教室数は、目標の半分程度です。その一方で、就学率は確実に伸びています。その理由は、毎年、住民が仮設教室（藁葺き教室）を建設しているからです。

しかしながら、新入生を受け入れるためには、教室建設だけでは十分ではありません。教室には教員が必要です。就学率を増加させるためには教室数だけでなく、需要に見合った教員数増加が必要不可欠なのです。

**常に教員が学校にいて、適切な授業を実施する**

ニジェールにおける教育分野で、現在最も深刻な問題と言えるのが、まさにこの「教員」の存在なのです。現在ニジェールでは、毎年3000名の契約教員を養成、雇用することになっていますが、まず、この人数が十分ではありません。また、タウアなどでは、この3000名の内、600名程度が割当られませんが、





## 女子就学

内、600名程度が割り当てられますが、希望者が少なく、その600名を採用することでもできません。そのため、教員不足を補填するために、教員採用試験に一度落ちた人たちを2次募集にかけて採用する措置も取っていますが、それでも教員不足は解消されません。それは教員、特に女性教員の希望勤務地が大きい町ばかりで、水も電気もない農村部への赴任には、皆、非常に消極的です。そのため、「町中は教員余剰、農村部は教員不足」現象が起きています。

しかし教員が採用されても、必ずしも学校に来るとは限りません。特に農村部では教員が学校に居つかず、教員のいない学校は「開店休業」状態です。COGESのメンバーと住民は、教員のために住宅を建設したり、収穫した農作物を教員に届けるなど、教員の生活を支援する努力を行っていますが、士気の低い教員は欠勤しがちで、先生が来たり来なかったり、という環境では子どもたちも落ち着いて勉強ができません。または、教員組合が呼びかけて実施する、待遇改善のためのストライキが驚くほど頻繁に起きています。ストライキにより教員が学校に出勤しないことから、見かねたCOGESが保護者に呼びかけ、本来は政府が払うはずの教員の給料を、住民の分担金で賄っている学校も散見されます。十分な教室数があっても、いくら親が子どもを学校に送っても、肝心の教員が学校にいないければ、学校に行く意味がありません。つまり、教員の不足、質の低さは、ニジェールの教育へのアクセス、質の改善を阻むもっとも深刻な問題のひとつであると言えます。

### 女子生徒が安心できる学習環境

女子が安心して学校で勉強するためには、女子の身体的成長に配慮した環境が必要となります。その一つがトイレです。

ニジェールの農村部ではトイレが存在しない小学校が多くあります。仮にあっても、男女共用で、平らな土地に1メートルほどの壁を四方に巡らせたものであり、用を足すための穴はありません。照りつける太陽と乾燥のおかげで、小用ならば跡形もなく消えるからです。しかし初潮を迎える高学年の女子児童にとってはこのようなトイレは使用し辛く、生理中はトイレに行くのを我慢するか、学校に行かず家にこもるしかなく、授業に徐々にいけなくなる可能性もあります。トイレに行くのを我慢しても授業には集中できず、腹痛を起こすことさえあります。

また、女子児童は高学年になると身体の発達が見られることから、学校の男性教員や同級生、コミュニティーの一部の人からセクシュアルハラスメント等の被害に遭い

やすくなるそうです。実際、自分の娘が男子と同じ教室で勉強することを不適切と考えている父親、母親も少なからずいることも判明しました。ニジェールに限らず、幾つかのイスラム諸国では、女子が初潮を迎えると、成人女性とみなされ、女子一人での外出禁止、男子との接触を禁じることもあります。

以前、タウア州国民教育（旧基礎教育・識字）地方事務所と女子就学促進担当者に上記の話を報告したところ、「男女別学は不自然である」と一蹴されてしまいました。高学年女子の娘を持つ親のニーズは、「女子のみの学校」にあるように思えてなりません。

### 農村地域小学校の女性教員の存在

学習環境への配慮と同様、女性教員も女子就学率向上には欠かせない存在です。学校において、同性として女子児童の声を代弁できる唯一の存在でもあり、かつ女子を、学校内で起こるセクシュアルハラスメントから守る上でも女性教員の役割は大きいでしょう。

さらには、女性教員は「中等教育を終え、労働賃金を得て働く女性」としてのロールモデルにも成りえます。保護者の中には、「どうせ女子を中学校ま

なかな実現しそうにありません。

### 【需要サイドにおける解決策】

#### 女子教育に対する親の意識が変わる

この点については言うまでもありません。COGESメンバーによる地道な啓発活動が実を結んだ結果が、冒頭に記した就学促進キャンペーンの功績ですが、その活動は苦勞の連続です。児童を学校に送らない家庭を訪問しても「お前には関係のない話だ」と断られることもあり、宗教指導者マラブーに依頼して、金曜日の礼拝時にコーランから引用した「児童の教育の重要性」を説いてもらう等、様々な知恵を絞って活動を続けています。女子に対する教育が重要なのはもちろんですが、COGESの女性メンバーの中には、「私が学校に行けなかったから、娘は学校に行って頭のよい人になって欲しい」という思いも強くあるようです。

#### 児童の労働時間・負担が軽減される

途上国では子どもたちは貴重な労働力です。男子は大抵の場合、家畜の世話や単純作業等による賃金労働、物売りに借り出されますが、女子は主に、水汲み、弟妹の世話、掃除、料理等、家で母親の家事を手伝います。また、雨期中は、子どもに学校を休ませてでも農作業に借り出す親は少なくありません。資源の少ないニジェールで、食糧確保が最重要なのは当然のことです。しかし学校が始まる時期を「雨期が終わったら」、「11月」「12月」と思っている児童が多いことは残念に思います（実際は10月上旬です）。

女子の労働軽減と、その分学校で勉強する時間を作るにはどうしたら良いのか、知恵の絞りに井戸を建設し、学校の帰りに水汲みができれば一石二鳥です。また弟妹の世話をすることも、幼稚園が存在すれば母親のみならず女子の労働軽減が可能になります。

### 【学校外での解決策】

#### 結婚後も継続できる学習環境

高学年まで学校に通うことで、「婚期を逃してしまう」ことを恐れている父親は多いようです。ニジェールでは女子は16歳以前の婚姻は法律により禁じられていますが、実際は10歳や11歳で結婚することもあり、いわゆる早婚のために小学校を退学するケースが後を絶ちません。少女が自我意識を持つ前に結婚するほうがいいから早婚が好まれるのだ、という話も聞いたことがあります。教育を受けることは重要であると理解していても、結婚がより重要であると認識されているのででしょう。



女の子たちは、いつもでも真剣

で行かせても、勉強についていけず、落第して村に戻ってくるのがオチだ」と考えている人もいますが、小学校の女性教員は前期中等教育を立派に終え、かつ教員養成校も出た「良い見本」とも言うべき人たちなのです。

しかし現実には、上記の通り、女性教員の多くは農村部の過酷な環境を望まず、都市部に集中するため、結局農村部で勤務する教員は男性が大半を占めることとなります。中等教育を終えた村出身の女子が、将来教員として自分の村に戻ってくることは可能ではないかと考えましたが、結局、村出身の女性にとっては中等教育どころか初等教育すら終えること自体、決して容易な道のりではなく、女性教員の農村部配置は

さて、早婚が問題かどうかはさて置き、どうすれば結婚後も彼女たちが勉強を継続できるのかを考えなければいけません。

結婚と同時にどうして退学する必要があるのか、との問いに対し、娘を持つ父親は、夫以外の男性と接触を持つ機会があるのが好ましくないと回答しています。つまり結婚後は、例え同級生であっても男子と同じ空間にいることが許されないようです。それならば、彼女たちが女子校に通学すればこの問題は解決できるようなも思えます。

しかし前述のように女子が「自我意識を持つ」ことを恐れる夫の中には、「教育は脅威」と捉える人もいるかもしれません。そのような人には、女子の教育がいかに家族にとって有益かを説くための啓発活動が必要になるのでしょう。

**初等教育レベル以上の資格を持つ女性の雇用機会の増大**

女子が教育を受けることで家族にもたらすメリットは様々あります。衛生概念、栄養に関する知識、病気・怪我への対処法...。賃金収入を得ることもその一つです。数年前まではニジェール同様、女子教育が最重要課題であったバングラデッシュの好事例があります。

バングラデッシュでは1990年代後半よりアメリカの繊維産業が進出し、工場で働く安価な労働力として初等教育修了レベル以上の女性が多く採用されました。バングラデッシュはニジェール同様、90%以上がイスラム教徒であり、女性が外で働くことはあまりよしとしない環境でした。しかし、この女性雇用機会の増大で、教育を受けた女性が賃金を生み出す可能性に気付いた親が女兒を学校に送るようになり、結果的には就学率の向上へと結びつきました。バングラデッシュでは多くのドナーが女子就学率向上のための協力を以前から行っていましたが、こうした努力と民間企業のメリットが良いタイミングで重なった事例と言えるでしょう。ニジェールの経済状況は決して良いとは言えませんし、外国企業が進出する機会など、もしかしたら今後何十年以上ないかもしれません。しかし一定レベルの教育を受けた女性を対象とした雇用創出の機会が何らかの形で見込めれば、親は男子だけでなく女子も学校に送るようになるかもしれません。

**ニジェール女子教育に未来はあるか？**

このタイトルを自分で書きながら、「未来はあるに決まって

**延長フェーズにむけて（続き）**

なってきたということは事実ですし、今後この構図は続いていくと思われる。問題は、世銀が財政支援につける条件と、現場のニーズが合っていないことです。果たして、この問題を外部のドナーが是正できるのでしょうか。課題は、世銀だけでなくニジェール側が全体として、COGESに対する正しい認識を持っていないことにもあります。プロジェクトは多くの機会を利用して、世銀を初めとしたドナーや国民教育省に対して、プロジェクトの経験、知見を公開し、積極的にミニмумパッケージ普及の必要性についての情報を流してきました。その結果が今回のPADEBによるミニмумパッケージ全国普及実施決定に繋がっています。しかし、それだけでは十分にCOGES政策の全体の成功に導くことは難しいと思います。

**進化し、深化するみんなの学校プロジェクト**

みんなの学校プロジェクトは、住民の主体性を最大限に引き出しながら教育開発を行っていくという下からの視点を持ったプロジェクトです。逆に世銀は、教育資金をどう流すかといった上からの視点で教育開発戦略を考えています。コミュニティの能力強化を謳いながらも、世銀にとってCOGESは地方分権化のツールに過ぎず、住民の主体性を引き出すことは二の次です。もちろん教育予算や教科書、文房具などのCOGESへの直接供与自体が悪いわけではありません。しかし、住民参加を得た透明性を持ったCOGESがなければ、供与された教科書や補助金の管理運営はうまくはいきません。つまり、COGES政策の成功のためには、上からと下からの両方の視点が必要なのです。今後、欠けているその下からの視点を加味するため

いるじゃないか!」と思ったものの、果たしてMDG達成の2015年までに初等教育完全普及、男女格差解消可能かと聞かれれば、回答に苦慮します。

もちろん、回答は難しいですが、上述のキャンペーンの効果ももう一度別の角度から検討し、その可能性を探ってみたいと思います。

キャンペーンを行った年の対象校における新入学者数の男女比は、それぞれ、56%、44%です。それは、その前年度の62%、38%から大きく男女格差が改善しています。しかし、実は、このキャンペーン結果はその成果を正確に表していません。実は、COGESはこの年実際の新入学者数の2倍の就学年齢児童を集めていたのです。しかし、教員の不足のため、その半数は入学できませんでした。その入学できなかった児童の大半が女子だったのです。つまり、十分な教員が居れば、この年の新入学者の男女比は逆転していた可能性もあります。もちろん、このキャンペーンの結果を一般化することは出来ませんが、女子就学の需要が確実にあることは、現在までのプロジェクト活動の中で確信しています。したがって、供給サイドの問題を解決し、COGESによる身近な啓発活動を展開すれば、2015年までに、初等教育完全普及を実現し、男女格差をほぼ解消することも可能であるとプロジェクトでは考えています。また、男女格差完全解消には、さらなる需要サイドへの働きかけが重要だと思われます。それは、女子教育の問題には今回記述しなかった文化、宗教等も含め、様々な事柄が複雑に絡み合っているからです。

そして、それらの地域の女子教育に関する問題、ニーズを1番把握できる立場にあるのは、COGESです。だからCOGESによる地道な啓発活動こそ、男女格差完全格差解消、そして、女子教育の将来を担っているといっても過言ではないのです。実際に今年度もタウア州で多くのCOGESが女子就学促進を学校活動計画に取り込んでおり、活動を展開しています。その活動から抽出されたベストプラクティスを今後全国に展開される機能するCOGESに伝授できれば、男女格差、女子教育の問題は、大幅に改善されるでしょう。今後、プロジェクトでは、需要サイドの問題だけでなく、供給サイドの問題をも解決すべく、中央での働きかけを強化し、男女格差解消のためにも、努力を続けていきます。

- 1 “Global Monitoring Report” (2006), UNESCO, Annex 2, pp310
- 2 「ニジェール共和国 基礎教育識字省 教育開発10ヵ年計画実施中間報告」(2006年5月より抜粋)

に、プロジェクトは、今後国民教育省のみではなく、他のパートナー、特に世銀との対話を強化していきます。さらに今年行われるミニмумパッケージの全国普及を成功させるため、現在までプロジェクトが蓄積してきた経験をもとに、COGES推進室に対する技術支援を強化していきます。これらの活動を通し、みんなの学校プロジェクトは、タウア、ザンデルを本拠とするパイロットプロジェクトから、住民の意向を反映し、またその力を利用して、COGES政策やニジェールの教育開発政策全体の成功を支援する全国レベルのプロジェクトへ進化していきます。

進化は、面での広がりだけではなく、現在までプロジェクトは、住民組織としてのCOGESを活性化し、そのCOGESを通じた住民参加を大きなうねりとする事に成功しました。この住民の教育開発への参加は、すでに多くの成果を上げています。しかし、その成果が、残念ながら、生徒たちの笑顔には直接は繋がっていません。それは、教室の中の主役は、住民ではなく、先生と生徒だからです。その主役の一人である教員の問題は深刻で、国民教育省、前述した世銀を初めとしたドナーも対策を考えていますが、問題を解決する糸口もつかめていません。それは、それらの対策が、上からの視点作られたものであり、現場にいる教員のニーズを反映していないからです。教員もCOGESのメンバーなのです。COGESを通して見ると、また違った視点での対策がうまれてきます。それらの対策を、住民や教員を支援することによって、下からの「教室の中の改善」を行うことも可能なはずで、みんなの学校プロジェクトは、学校の取り巻く環境だけではなく、学校の中身の改善をも包含し、真にニジェールの学校が、「みんなの笑顔が溢れる学校」になるよう、深化を続けていきます。



## 新メンバーからご挨拶

1月9日に技術協力専門家養成個人研修員としてニジェルに赴任、11日にタウア入りしました。約11ヶ月間「みんなの学校」プロジェクトで実務研修を受けさせていただきます。よろしくお願ひいたします。以前より、学校は地域の人々が集う、知識や情報の集合・発信地であると同時に、その運営により地域コミュニティ強化も相乗効果として期待できると考えていたことから、このプロジェクトに強い関心がありました。限られた時間ではありますが、たくさんの事を吸収しながら自分にできることは精一杯やっていきたいと思ひます。(ちなみに、よく受ける質問ですので専門家養成個人研修について少し紹介しますと、同研修はOJTプログラムであり、研修員が実習先を決定するものとJICAが実施するプロジェクトに派遣されるものの2種類があり、各々4名ずつ年に2回の募集があります。私は後者です。)

研修期間を通して、JICAのプロジェクト計画及び実施運営管理手法を学ぶとともに、住民参加促進のアプローチや効果的な学校運営手法を学びます。

### 近藤研修員

よろしくお願ひします!



その他、ニジェル側関係者との折衝の仕方なども、専門家の皆さんに指導いただきながら判断力を養っていきたく思ひます。また、プロジェクト実施地域を巡回し、COGES担当官会議及びCOGES連合のモニタリング、地域住民が主

JICA新人海外OJTの一環で、1月15日から2ヶ月間みんなの学校プロジェクトでお世話になりました。本日より編集がプロジェクト事務所での最後の仕事となりますが、この機会に、プロジェクトOJTの総まとめとして2ヶ月間を振り返り、学んだことをまとめたいと思ひます。

OJTを始めてから、COGES連合大会・COGES担当官月例会議の実施補助、ザンデル州での学校活動計画策定・COGES連合設置研修の視察、COGES・COGES連合総会のモニタリングと、多くのフィールドに出させていただき、自分の目でプロジェクトの与えるインパクトの大きさ、中でも人々の変化を感じることができました。その際プロジェクトスタッフの方々からは、コミュニティに根付いたプロジェクト運営の視点を日々感じさせられ、学びました。例えば先日は、タウア州に新規配属になりCOGESについて研修を受けたことのない校長を対象に、民主選挙導入・学校活動計画策定研修の追加実施に対する支援が決定されました。当初、プロジェクト活動に本研修は計画されていませんでした。しかし、いくつかの学校で民主選挙の実施や学校活動計画の策定に問題があるという声を聞きつけ、調べてみたところ、新しくタウア州配属になり初めてCOGES活動をする校長が他にも多く存在したことが分かり、研修実施に至りました。全国普及を視野に入れ対象校が3,000校近くになった現在も、このように各学校のニーズも引き続き察知している事実には感心しました。同時に事務所内では、通常業務に加え、プロジェクトホームページ作成、パンフレット改定など情報発信活動を中心に業務をさせていただきました。(これらは後日公開予定!)これらフィールドや事務所内でのOJTを通して、フィールドで得た知見を情報発信のため頭の中で整理する機会が与えられ、プロジェクト活動内容への理解を深めました。そして、その理解をまたフィールドでの活動に還元することができました。

本プロジェクトでOJTをするにあたり、3つの目標を持って臨みました。最初の2つは、「プロジェクトでの業務の進み方、視点を身につける」「案件関係者(専門家、現地スタッフ、ニジェル国カウンターパート、地域住民)の立場を知る」ですが、これは上記の業務経験を通して十分達成できたように思ひます。

最後のひとつは、プロジェクトスタッフが普段から何気なく実行している「意識されていないプロジェクト活動・工夫を見つけ出し、ミニマムパッケージの明文化を補足する」ことでした。延長フェーズでの課題はプロジェクトの開発したCOGESモデルの標準化と文書化であり、また本モデ

ルを今後他のプロジェクトにも適用させることを考える

と、プロジェクト活動の明文化は不可欠な作業であると感じました。経験豊富な専門家や現地スタッフの中で、新人がプロジェクトに貢献できることは何だろうと考えていましたが、逆に新人だからこそその新しい視点を活かし、プロジェクトを見て、感じる

と、疑問、工夫を話題に出してみることで寄与できるかもしれないと思ひました。ですが、プロジェクトOJTを終えてみると、それはなかなか難しい課題でした。プロジェクトでは、関係者が各々試行錯誤しながら、常に最大限改善に努力しており、活動要素が複雑に絡み合っているからです。また、ミニマムパッケージの実践を通して図られているのは、教育行政官、COGES委員、住民など関係者の能力開発・強化ですが、それは非常に重要な役割を担っているにも関わらず、詳細まで文面には表れにくいのです。これはカウンターパートであるCOGES監督官・担当官に特に顕著です。先日来訪したミッションでは、日本人のフランス語での質問がなかなか理解されないと、「彼が言いたいのは…」とその意図を汲み取り代わりに質問しているCOGES担当官の姿がありました。これはささいな例ですが、COGES監督官・担当官の能力はプロジェクトとともに日進月歩強化され、今ではプロジェクトスタッフの強力なパートナー、時には現場をよく知るアドバイザーのような存在になっています。これから「みんなの学校」プロジェクトは全国展開に向けてもっともっと加速していくと思ひますが、その中でもいつまでも地元のニーズをくみ上げながら、地に足のついたプロジェクト活動が続くことを願っています。今回のOJTでは学ばせていただくことの連続でしたが、プロジェクトスタッフの視点から現地、JICA在外事務所、JICA本部を見ることができたのは非常に貴重な経験でした。この視点をいつまでも忘れず、これから在外事務所や本部に戻ってからも還元できるようがんばります!期待していただき!!2ヶ月間本当にお世話になりました。

### 宇井職員



先生体験中?!

ルを今後他のプロジェクトにも適用させることを考える

と、プロジェクト活動の明文化は不可欠な作業であると感じました。経験豊富な専門家や現地スタッフの中で、新人がプロジェクトに貢献できることは何だろうと考えていましたが、逆に新人だからこそその新しい視点を活かし、プロジェクトを見て、感じる

と、疑問、工夫を話題に出してみることで寄与できるかもしれないと思ひました。ですが、プロジェクトOJTを終えてみると、それはなかなか難しい課題でした。プロジェクトでは、関係者が各々試行錯誤しながら、常に最大限改善に努力しており、活動要素が複雑に絡み合っているからです。また、ミニマムパッケージの実践を通して図られているのは、教育行政官、COGES委員、住民など関係者の能力開発・強化ですが、それは非常に重要な役割を担っているにも関わらず、詳細まで文面には表れにくいのです。これはカウンターパートであるCOGES監督官・担当官に特に顕著です。先日来訪したミッションでは、日本人のフランス語での質問がなかなか理解されないと、「彼が言いたいのは…」とその意図を汲み取り代わりに質問しているCOGES担当官の姿がありました。これはささいな例ですが、COGES監督官・担当官の能力はプロジェクトとともに日進月歩強化され、今ではプロジェクトスタッフの強力なパートナー、時には現場をよく知るアドバイザーのような存在になっています。これから「みんなの学校」プロジェクトは全国展開に向けてもっともっと加速していくと思ひますが、その中でもいつまでも地元のニーズをくみ上げながら、地に足のついたプロジェクト活動が続くことを願っています。今回のOJTでは学ばせていただくことの連続でしたが、プロジェクトスタッフの視点から現地、JICA在外事務所、JICA本部を見ることができたのは非常に貴重な経験でした。この視点をいつまでも忘れず、これから在外事務所や本部に戻ってからも還元できるようがんばります!期待していただき!!2ヶ月間本当にお世話になりました。

## 編集後記 業界

仕事をしていると、「この業界では」「業界の常識では」という言葉をよく耳にする。そして、業界内では、ほかの人にはわからないような用語、略語、隠語などを使い、他の業界人とは区別する。私自身、飲食業に身を置いていたことがあるが、この業界の用語は、まず、挨拶からしてちがう。飲食業は、水商売や芸能界に近いので、夜遅くても、挨拶は「お早うございます」という。これは、どうも夜から働く人が多いからそのように言うようになったらしい。コックの世界では、会社や店よりも先輩、後輩の関係が強固で、その帰属意識が強く、先輩の意向で勤めている店を移動することなどは頻繁にある。

どんな業界でも、働いている人にとって一日の大半はその世界で過ごしているのだから、否応なくその業界になじんでいく。さらにその業界に長くいると、知らず知らずとその色に染まっていく。それはある面、その業界で生きていくための知恵や技術を憶えていくということなので、必要なこととも言える。しかし、その業界で生きていくためには、挨拶や知恵や技術だけでなくその業界での価値基準を身に付けることも必要である。しかし、その価値基準は外からは想像できないくらい強固な場合もあり、それになじみすぎると、他の世界が見えなくなったりその業界の「常識」で物事の価値を判断するようになっていく。そうすると弊害も出てくる。この業界という言葉で組織と言い換えてもいい。組織の価値観と一般的な社会の価値観とのズレが、大きな事件を生んでいることは、オウム真理教の例を待つまでもなく、よく耳にする。事件にならないまでも、小さなまさは常に起こっているような気がする。

援助業界という言葉があるが、この業界の中にもいろいろな組織がある。例えば、一つのプロジェクトがあるとしよう。そのプロジェクトを巡り、援助実施機関に属する人、援助の政策決定機関に属する人、コンサルタント会社に勤める人、民間企業で援助の一部を請け負う人などに加え、相手側の政府関係者、他国のプロジェクト関係者など

様々違う立場の人が関わっている。そして、それぞれの立場や属する組織によって、同じプロジェクトでもその見え方が少しずつ違って来る。これらの人たちとプロジェクトについて議論していると、同じことを語っていても、微妙な「ズレ」を感じることがある。それは、その人それぞれの考え方というよりは、その人が属している組織の「常識」が違っていることに根があるような気がする。だから、プロジェクトをめぐる議論で食い違いが生じた時は、その議論を行っている人の属している組織の常識を知らないと、議論は平行線のまま、最終的には個人的な属性に帰結してしまうことになる。もし平行線のまま議論を続けると、議論は空転しプロジェクトは進まず、責任をお互いに擦り付けるだけでだれも責任は取らず、肝心の裨益者やプロジェクトの費用を負担している国民はおいてきぼりにされることになる。

だから、ひとつのプロジェクトを円滑に動かし成功に導くためには、そのプロジェクトをめぐる関係している組織の考え方の基になる背景を知っておくことが必要になる。そして、プロジェクト実施者にとって重要なことは、議論する相手の立場を知っているだけでなく、自分自身が属している組織の常識から一歩はなれ一般的な価値観を失わず、客観的に状況を判断し平衡感覚を持ち続け、プロジェクトの最終的な目標達成のために粘り強く活動を続けることだと思える。それは、とても難しいことではあるが。(H)



## プロジェクト カレンダー

2007年3月～2007年5月

- 3月7日: ザンデル州COGES担当官会議
- 3月6・7日: JICA青年海外協力隊カレゴロ生活改善グループ派遣チーム・プロジェクト訪問
- 3月15日: コミュニティー幼稚園研修
- 3月20日: タウア州COGES担当官会議
- 3月21・22日: タウア州ドナー会合
- 4月上旬: ザンデル州COGES担当官会議
- 4月中旬: タウア州COGES担当官会議
- 4月10日: プロジェクトフェーズII開始事前評価調査(10日間)
- 4月中旬: COGES政策全国アトリエ
- 5月3日: ザンデル州COGES連合大会
- 5月上旬: ザンデル州COGES担当官会議
- 5月中旬: タウア州COGES担当官会議

HPがリニューアル!  
プロジェクトのA to Zがわかりやすく解説されています。

3月中旬完成予定  
要チェック!



みんなの学校プロジェクト  
ホームページに

マンスリーレポートも掲載しています。

(<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>)

マンスリーレポートで「みんなの学校」プロジェクトの活動をリアルタイムで知ることが出来ます。

また「みんなの学校だより」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。そのほか、ホームページにはフォトギャラリーや動画もあります。是非、ご覧ください。

本誌「みんなの学校だより」に関する  
皆様のご意見・ご感想をお待ちしています!

~~~~ 編集・発行 ~~~~~  
ニジェル国住民参画型学校運営改善計画  
(みんなの学校プロジェクト)

お問い合わせ・連絡先  
Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER  
電話/FAX: +227 - 2061 - 0571  
E-mail: Rosedesaha@aol.com  
konoue@yahoo.co.jp  
Nakazawa.Junko@jica.go.jp





# みんなの学校だより



vol. 16

ニジェル住民参画型学校運営改善計画 (みんなの学校プロジェクト)

2007年7月1日発行

今号のハイライト:  
プロジェクトモデル全国普及へ  
セクターアプローチとプロジェクト  
数字で振り返る第1フェーズ  
COGES連合の現状と未来  
みんなのコミュニティー幼稚園の  
今後

2007年4～7月

Vol.16

## 機能するCOGES世銀の資金により全国普及へ

みんなの学校だより15号から16号までの3ヶ月間の間にCOGESを巡り、大きな出来事がありました。以下その出来事についてご説明します。

### 世銀の資金による機能するCOGES みんなの学校モデル全国普及へ

世銀とみんなの学校プロジェクトは、プロジェクト開始当初より、教育の地方分権化やCOGESの役割、機能化などについて議論を繰り返してきました。議論は時には平行線に終わり、時には歩み寄りを見せました。議論の内容については、いままでのみんなの学校だよりにも沢山かかれています。主な争点は、世銀にとっては、どのようなCOGESが、世銀が推進する教育分野の分権化で供与される権限や機材、資金を十分に受取、管理、運営できるかということでした。プロジェクトは、COGESが世銀の望む能力を身に付けるためには、まず、COGESという組織を機能化する必要があると主張してきました。機能するCOGESとは、透明性があり、計画性能力、イニシアチブをもち、住民への動員力がある組織のことです。機能するCOGESの例を、タウアのCOGESが成し遂げた様々な成果を挙げ、説明したり、あるいは、PDDE(教育開発10ヵ年計画)のドナーと国民教育省合同評価の現地調査で、実際に見てもらったりしました。その結果、世銀も、COGESへの補助金の供与や、契約教員管理の権限委譲の前に、COGESを機能化する必要があると考えようになりました。そして、最終的に世銀は、プロジェクトのCOGES機能化ミニмумパッケージ(COGES委員の民主的選出、学校活動計画の導入、地方行政官のモニタリングシステムの確立)をニジェルの全小学校に普及するという国民教育省が提出した要請書に同意し、資金を提出することを決定したのです。

### ミニмумパッケージの公式化

プロジェクトは、COGES機能化モデル全国普及の世銀資金供与決定の前に、その決定を容易にするような準備を行っています。まず、2007年のPDDE行動計画COGES部分の年間計画にCOGES機能化ミニмумパッケージの活動を入れることを働きかけ、COGES機能化ミニмумパッケージを実質的に国民教育省の政策とし、さらに、様々なCOGES活動についての外部評価とその評価結果によるCOGES戦略の統一化のためのアトリエを支援しました。その結果、COGES機能化ミニмумパッケージはニジェル国の正式なCOGES活性化戦略として採用されたのです。これら一連の、今回の世銀の資金提供決定を促進しました。

### 資金提供決定後の動き

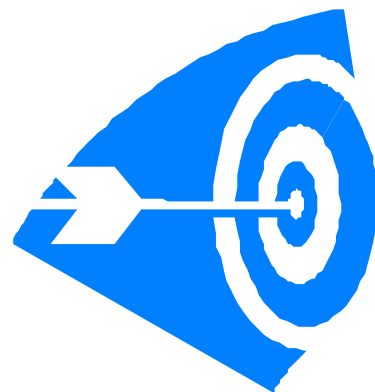
世銀が機能するCOGESモデルの全国普及が決定したのは、3月下旬で、その決定事項が実際に動き始めたのは、5月に入ってからです。これは、国民教育省内のPADEBの実施プロセスの承認過程に時間がかかったことが原因です。COGES推進室は、世銀の決定を受け、迅速に手続きを開始しましたが、決定プロセスに関わる部署の手続き処理は緩慢で、特に、この実施を実際に補助するNGO選定には、時間がかかりました。プロジェクトとしては、その第二フェーズの目標を、機能するCOGESの全国普及支援と、事前調査のミニッツにおいてプロジェクトの立場を明確にした上で、世銀資金の支出過程をフォローし、世銀担当者、国民教育省次官などにその状況を通知し、手続きの迅速化を図りました。その結果、ついに5月30日に普及化実施支援NGOとして、プロジェクトが現在まで協働してきたONENに決定し、普及化プロセスが実際に動き始めました。

### モデルの普及の実態

COGES普及モデルの公式化、資金の支出促進、そして実施決定プロセス支援など実際に普及化が動き出すまでの働きかけも非常に困難を伴いましたが、それ以上に今後の普及活動の支援も大変です。プロジェクトはパイロット活動を繰り返しながら、20校から2800校までのモデル普及に3年間掛かりました。それを、8ヶ月でしかも、経験のほとんどない141名のCOGES担当官と6名のNGO要員が中心となり7500校に普及することになります。果たしてこれで、ミニмумパッケージの質の高い効率的な研修やモニタリングを行うことができるのでしょうか。いやそれ以前に、参加者への通知や研修場所の設定、研修費の管理、正確な支払いなどできるのでしょうか。これらの問題を解決するために、プロジェクトは全国普及の側面支援活動を実施しています。第1に、研修、モニタリング実施の現場での中心的な役割を演じるDREN(州国民教育省事務所長)に対するセミナーを開催しました。全国のDREN8名を集め、ミニмумパッケージ普及に必要なすべての知識と情報を提供し、さらに、タウア、ザンデルのDRENからは、みんなの学校プロジェクトの経験を語ってもらいました。さらには、セミナー以後の普及化へのプログラムを自分たちで作ってもらい、共有し、実施してもらったのです。セミナーの成果は予想以上のものでした。次に各州のCOGES監督官、担当官を指導し、DRENと研修費用等を管理するNGO要員の研修が第2番目の支援となりました。実は、この2つの活動は、国民教育省が世銀に提出した要請書からは抜けていたのです。プロジェクトは、これらの支援活動を行うことで、国民教育省の計画の穴を埋めているわけです。今後もCOGES監督官、担当官への再研修支援などを通じ、全国普及を支援していきます。

# セクターアプローチの中での プロジェクトのあり方

## あるいは、普及モデルの作り方



### ニジェールのセクターアプローチ

ニジェールの教育開発分野もセクターアプローチに確実に向っている。2003年からニジェール政府とドナー間の交渉が始まり、バスケットファンドは2005年に設置され、全面的ではないにしろ機能していたが、2006年に発覚したバスケットファンド不正使用から、凍結されている。しかし、この中断も、決して、ニジェールにおけるセクターアプローチが後退したことを意味する訳ではなく、今後確実に、プロジェクトアプローチを取るドナーには、そのアプローチの変更を迫るプレッシャーがかかってくると思われる。

このニュースレターの巻頭で説明したように、みんなの学校プロジェクトは、世銀の資金を受け、プロジェクトが形成したモデルの普及の過程に実際に係ることになった。そのため、セクターアプローチによる活動実施の問題点と、その際にプロジェクトの果たしえる役割について考えさせられる機会を多く与えられることになった。ここで、その問題意識から、セクターアプローチの中でプロジェクトが演じるべき役割を、みんなの学校プロジェクトの経験に沿って考えてみることにする。

### セクターアプローチには普及モデルが必要

世銀は財政支援を梃子として、ニジェールの教育分野の地方分権化を進めようと考えている。そこで、必要になることは、権限や資源を分権化する受け手である。世銀は、その受け手としてCOGESを想定した。しかし、そのCOGESは機能していない。世銀にとって地方分権化を促進するために、その時点で必要になったことが、COGES機能化普及モデルであった。全国普及モデルが必要になるのは、教育分野の地方分権化だけのことではない。例えば、現職教員研修の例をとってみよう。ニジェールの場合、教員自主研修としてCAPEDというモデルを採用した。この

CAPEDというのは、10年くらい前に教員たちが、自分たちの技量を高めるために手弁当で始めた自主発生的研修活動であった。この活動に目をつけた国民教育省がPDDE(教育開発10ヵ年計画)の中で、現職教員研修のモデルとして規定し、制度化し、世銀が資金を付け、全国で実施しようとした。しかし、結果はCAPEDがまったく機能しないという惨憺たるものとなった。理由はたくさんあるが、一言で要約すれば、パイロット活動を行っていたいかなるドナーもCAPEDの機能する普及モデルを創造できなかったということに尽きる。その結果、PDDEの第一フェーズのテーマ別評価小委員会(教員研修)は、このCAPEDの中止を提言している。

### 普及モデル形成に必要なこと

もちろんセクターアプローチ＝モデルの普及ではない。しかし、セクターアプローチを実施しようとするれば、必然的に多くの分野で、機能する普及モデルが必要になってくる。そこで、本稿では、みんなの学校プロジェクトのCOGES機能化モデルの普及形成の経験から、ここで、モデル普及に必要なことをまとめてみる。

#### 1. 現状に即した普及可能なモデルの形成

普及モデル形成には、そのモデルの完成度や効果だけではなく、効率性、即効性、経済性、簡易性などが普及時点において重要になってくる。これらの点を初めから考慮した普及モデルを開発する必要がある。

#### 2. モデルの有用性の実証

小規模、少数のサンプルで形成したモデルは、上記注意点を考慮しても、普及の際には、様々な問題点が浮上してくる可能性が高い。したがって、全国規模でそのモデル普及可能性を検証するためには、広範囲、大規模なモデルの効率性の実証が必要である。この実証なしに、モデルの有効性を他ドナーや裨益国を

説得するのは、困難である。

3. 普及モデルを公式化する努力  
いくら、普及モデルとして実証しても、公式に認められなければ、モデル普及のための国家資金、他ドナーの資金の導入は困難である。あらゆる機会を利用したモデルの有用性の宣伝や、公式化のための評価や公式化セミナー実施支援等を行うことが必要である。

みんなの学校プロジェクトの場合、上記3番目までの過程を達成することができたが、モデル普及成功はそれだけでは十分ではなかった。

### セクターアプローチでのプロジェクトの役割

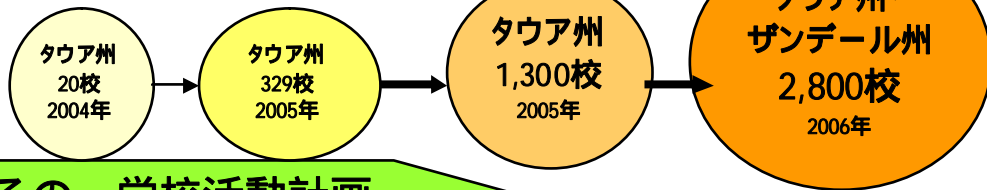
不十分な点は何だったのか。それは、国民教育省が作る普及計画が欠陥だらけだったのである。つまり、国民教育省には、モデルを普及する計画能力、その計画を実施する能力が欠けていた。ニジェールだけでなく、セクターアプローチ実施に必要なモデルの普及には、その国の行政の十分な計画能力、実施能力が必要なのは自明の理であるが、それが十分ではないのが現状であり、ほとんどのセクターアプローチ実施国の失敗は、この能力不足が原因である。だからこそ、モデル普及段階でも、支援が必要になってくる。そして、そのOJT的支援が、行政の本当の意味での能力強化に繋がっていく。したがって、セクターアプローチの中で、プロジェクトの役割として重要なことは、今回、みんなの学校プロジェクトが実施したような普及モデルの形成のみならず、その実施段階までの支援なのである。それが、恐らくセクターアプローチの中でプロジェクトの存在価値であり、役割であり、生き残っていく方向性なのだと思う。



# 数字で見る「みんなの学校」

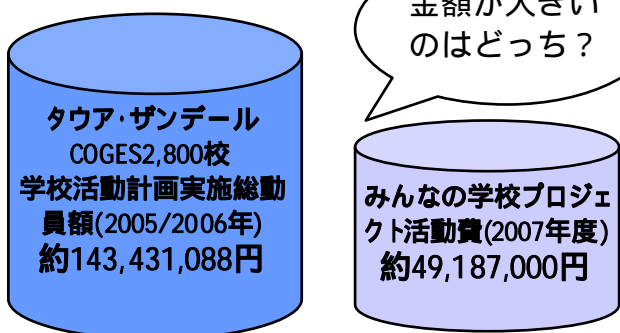
## 数字で振り返る第一フェーズ

### その 対象校数の変遷

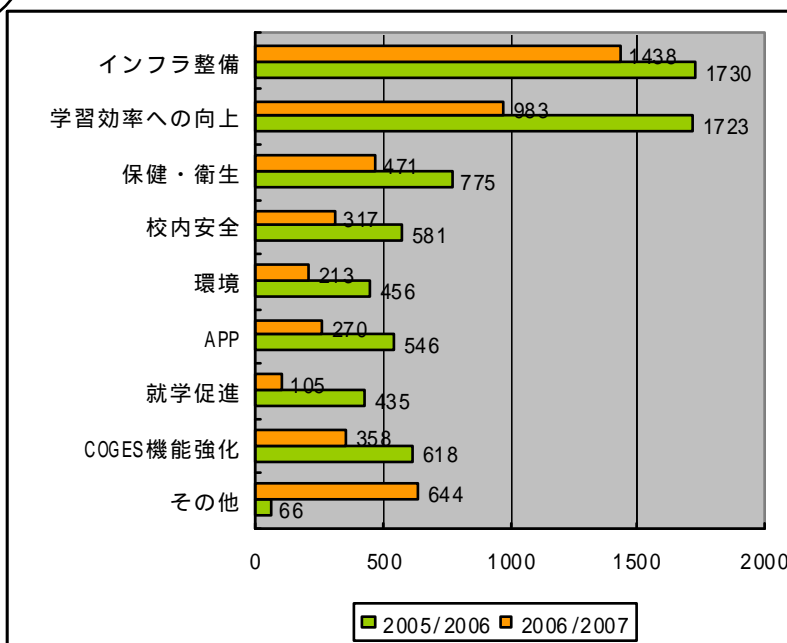


### その 学校活動計画

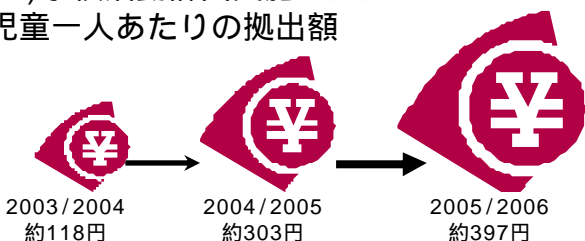
#### (1) 学校活動計画実施動員額



#### (2) 学校活動計画カテゴリー別内(2004年度~2006年度)



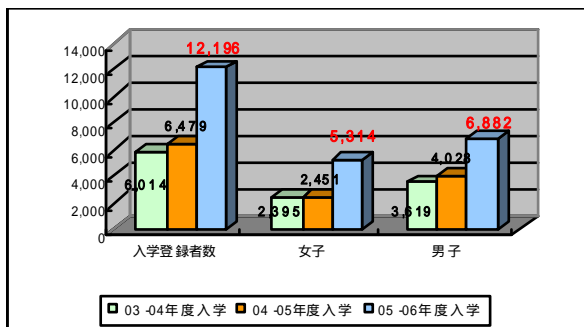
#### (3) 学校活動計画実施にかかる児童一人あたりの拠出額



### その COGES連合活動

#### タウア州入学登録者数の変遷

2005年~2006年COGES連合就学促進キャンペーンの成果



### その モニタリング

#### COGES担当官モニタリング走行距離

タウア州COGES担当官9名、一人あたりの月平均  
 2005-2006年 894キロ 箱根駅伝約21回分  
 2006-2007年5月末 757キロ



### その 研修実績(タウア・ザンデル)

- 選挙研修/学校活動計画研修
- COGES連合設置研修
- 財務研修
- APP・コミュニティー幼稚園研修等

研修受講者数のべ 15,866人

### その 数字いろいろ

|                                                 |                                                  |                                                |                                              |                                            |
|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------|
| プロジェクト車輛3年半間の走行距離総数<br><b>約43万キロ</b><br>赤道約10周分 | 専門家月平均出張回数<br><b>約3回</b><br>(タウア-ニアメ間 往復1,200キロ) | プロジェクト月報 合計ページ数<br><b>395ページ</b><br>(2004年8月~) | タウア事務所エアコン 故障回数月平均<br><b>2回</b><br>とにかく暑い!!! | タウア事務所傾斜度<br><b>約5度</b><br>床が年々 傾斜しています... |
|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------|

## COGES連合の現状と未来

6月最終週には小学校の卒業試験が行なわれ、今学校年度も終わりを迎えようとしています。COGES連合の活動については、現在も多くの連合が年間活動総括総会を実施中です。したがって時期的に少し早いのですが、今年度のCOGES連合の活動の総括と今後の展望について述べてみたいと思います。

### 1. COGES連合の現状、今年度の活動のまとめ

昨年12月発行の「みんなの学校だより第14号」にて紹介しましたとおり、タウア州では昨年度のCOGES連合の経験を踏まえて、COGES連合の機能化に向けて新しいシステムを導入し、機能するCOGES連合のモデル作りに取り組んできました。また、ザンデル州でも、新たに作成した連合設置マニュアルをもとにした研修を実施し、全てのコミュニティ（55）でCOGES連合が設置され初年度から非常に活発な活動が行なわれました。両州でのその取り組みの結果、昨年度から改善された点を中心に以下に纏めます。

#### 活動計画策定

昨年度は、年間を通した活動計画を策定していた連合はなく、ほとんどが場当たり的に会合や活動を行なっていました。今年度からはプロジェクトが導入した計画方式で、全てのCOGES連合が、年間総会及び事務局会合の開催計画（第1活動計画）と教育課題に対する改善活動計画（第2活動計画）の2種類の年間活動計画が策定されました。両活動計画は全て連合の総会場で討議、承認されました。

#### 会議の開催状況

上記計画性の向上の効果は、連合の総会及び事務局会合開催数の増加と参加者の増加に繋がりました。一連合あたり平均2.52回の総会を実施し、事務局会合も5.67回実施しました（5月末現在）。最後の年間総括総会を実施中あるいは実施予定の連合もあるため、最終的にはこの数値は更に増えることとなりますが、総

会、事務局会合の開催数はほぼ計画どおりに実施され、昨年度に比べると会議の数は格段に増加しました。また、総会や事務局会合への参加者数についても平均すると約8割の参加率を確保する連合が多くありました。これは第1活動計画に基づいて会合開催に必要な経費（例えば、各COGESの代表を連合総会に派遣するための旅費や、総会の開催時の昼食代など）を各COGESがその学校活動計画に包含することで、費用が確保されたことも大きな改善の要因です。COGES連合のように、地理的に離れたメンバーで構成される組織の場合、そのメンバーが如何にして定期的に集うことが出来るか、つまりメンバーが会合出席のための移動にかかる手段や費用を捻出できるか、がその組織の存続を左右することはCAPED（教員自主研修組織）の機能不全状況をみても明らかです。この意味でCOGES連合はこの第一の難関をクリアしたといえます。

#### COGESのモニタリング

まず、各COGESが策定する学校活動計画の回収状況は、タウア州で1,321校中1,220校（92.35%）、ザンデル州では1,662校中1516校（91.22%）が連合によって回収されました。昨年度はCOGES担当官が直接回収するところもあったのに比べて、今年は、全てCOGES連合によって回収されています。各COGESのモニタリングに関しても、ほぼ全ての連合がゾーンごとに責任者を決めて実施しています。しかしながら、責任者による巡回型のモニタリングは移動手段が確保できないなど、問題を抱える連合が多くありました。巡回型のモニタリング以外にも、連合総会などの機会に各COGESの活動進捗状況を報告することでモニタリングを行なう集会型モニタリングを行なう連合もあり、この集会型モニタリングは、巡回型モニタリングに比べてコストがかからないというほかにも、問題にぶつかったときにみんなでその解決策を考えたり、それぞれの経験や情報の交換や共有も出来るという利点があります。このようにシステムを多様化することでモニタリング実施の確実性が高まりました。

#### 第2活動計画実施状況

各コミュニケーションレベルでの教育課題に対する活動についても多くの連合が自主的に実施しました。主な活動内容は、COGESの活動に関する啓発活動、新任校長に対するCOGES研修の実施、模擬試験の実施、などです。5月末時点でのタウア州のCOGES連合の活動実施状況を見ると1連合あたり3.92活動が計画され、そのうち2.74活動が既に実施されました。6月にも模擬試験を実施する連合が多くあることから、最終的に実施率は更に上昇すると思われます。

#### コミュニティとの連携状況

タウア州では2007年1月にCOGES連合、コミュニティ、視学官事務所との連携についてのワークショップを開催しましたが、その結果、多くのコミュニティが連合の活動に対する支援を行いました。総会や事務局会合の開催費用や模擬試験、啓発活動の活動費用を支援したり、連合総会、事務局会合にコミュニティの代表を参加させるなど、活発な連携が見られました。

#### 事務局の改選

連合大会やCOGES担当官による巡回モニタリングによって、連合関係者の意識も徐々に高まりました。連合の中には、昨年度の事務局委員で会合などに参加しないなど事務局委員としてやる気と能力が備わっていない委員がいるところでは再選挙を実施して事務局を一新するなど、機能化に向けた取り組みを多くの連合が行いました。ま



今年もCOGES連合の活動として模擬試験が行われました。



た、各COGESレベルにおいても、意識の向上を図るための啓発活動が連合の活動として行なわれました。

COGES担当官のモニタリング能力の向上

COGES担当官によるCOGES連合のモニタリング能力についても今年度を通して向上しました。COGESのモニタリングについてはこれまでの活動経験でノウハウも身につけていた担当官ですが、連合のモニタリングについては、当初モニタリングのポイントも異なり、戸惑っている様子でしたが、今年度の活動によって特に連合のモニタリングのポイントを整理しなおし、担当官会議を通じて確認しあうことで、彼らのモニタリング能力も向上しました。

このように、今年度の活動を通して、多くの改善点が見られ、組織としての機能度は向上した一方で、課題も見られました。一つは、財源確保の点ですが、分担金の徴収が不十分だったり、年間を通した予算管理が杜撰で財源不足に陥る連合が少なからず見られました。自己財源が乏しい連合はコミュニティとの連携などで最低限の活動を実施することが出来ましたが、更なる財務管理のノウハウが必要であると思われま。第二に回収された学校活動計画の分析集計を当初連合レベルで行なうことを意図していましたが、集計データの抽出について内容が難しすぎて満足に出来た連合はあまりありませんでした。COGES関連のデータをどの程度絞って視学官事務所から中央に伝達すべきか、その内容と各レベルでの処理能力を再考する必要があります。

## 2. 機能するCOGES連合に必要な要素とは、..

COGES連合の活動も2年目が終わろうとしていますが、これまでの経験を通して、機能するCOGES連合とそうでないCOGES連合との違いがある程度明確になってきました。その違いとは何でしょうか?機能するCOGES連合に必要な要素とは何でしょうか?

以下、これまでに明らかになった機能するCOGES連合に不可欠な要素です。

民主的な意思決定システム  
COGES連合の事務局委員選出にあたって民主選挙を実施することを始め、連合の活動や運営についての重要事項に関する意思決定が民主的であるということがまず第一の条件となります。

活動や運営管理の透明性  
上記と密接にかかわることですが、事務局委員が行なっている活動について、総会など定期的に連合のメンバーに情報が共有されているかどうかも重要な条件です。連合の代表が連合大会などの会合に参加した後にはきちんとその内容が他のメンバーに報告されているかどうか、連合の活動の進捗状況、あるいは会計経理の内容が逐一共有されているかどうか、など事務局が如何に透明性を確保しているかが機能する連合の重要な条件の一つであるといえます。連合のメンバーは、連合の活動状況を逐一把握することで連合の存在意義を認識し、更なる活動への参加意欲を増進させることが出来ます。

総会及び事務局会合の定期的な開催

総会及び事務局会合の開催は、COGES連合の生命線といっても過言ではありません。総会及び事務局会合を開催するだけの最低限の財源の確保は連合にとって不可欠です。今年度の経験からこれらの財源は自己財源に加えてコミュニティからの支援によりほぼ賄えるという目途がつき、今年度導入した新しい活動計画の方式はこれらの会議の実施を促進確保するツールとして、非常に有効であることが実証されました。しかしながら、分担金の徴収が不十分で、かつコミュニティからの支援もない連合では、これらの会議を開催することも厳しいといえるでしょう。

事務局委員のモチベーション、インシアティブ

事務局委員、特に代表と事務局長のやる気の能力、そしてリーダーシップを発揮しているかどうか重要な鍵です。また、事務局委員同士あるいは連合のメンバー同士の連帯感や団結の強さなども連合の機能に大きく左右します。連合によっては、代表と事務局長間、事務局委員と他のメンバー間など、関係が悪くそのことが活動に悪影響を

与えている例がありました。

パートナーとの連携

コミュニティや視学官事務所との連携も重要な要素です。もっとも身近で頼りになるパートナーといえはコミュニティ行政ですが、コミュニティと良好緊密な関係を持っている連合の活動は非常に活発です。さらにCOGES担当官によるモニタリングが効果的に行なわれていることも重要な要素です。

## 3. 今後の動き、展望

今年4月に開催された機能するCOGESモデルの承認アトリエでは、COGES連合については承認の対象となっていなかったものの、COGES連合の必要性についてはすでに言及されていました。更に今般のPDDEレビューの中でも、COGES課題グループの提言の中で、COGES連合の経験の客観評価(教育省主催で現地調査及び報告書作成)を経て、モデルの承認アトリエを開催することが来年度(2007-08年度)の活動計画として提言されるなど、中央レベルにおいても、COGES連合の全国普及に向けた道筋が準備されようとしています。また、二国の地方分権化政策のなかで地方行政の主役となっていくであろうコミュニティとCOGES連合との連携についても現場レベルだけでなく中央、政策レベルでの調整、討議が始まることが予想されます。今後は、これらの中央での動きに合わせて現場での経験教訓が効果的に政策レベルに反映されるよう、現場の経験の文書化、理論化が重要な活動になってくると思われます。



# みんなのコミュニティ幼稚園の今後



## コミュニティ幼稚園における UNICEFとの連携から見てくるもの

みんなの学校プロジェクトの第二フェーズ事前調査団の来二中である4月16日、UNICEFとJICAは、コミュニティ幼稚園分野での協力を進めていくことに合意しました。

この連携の目的は、

- ・「JICAとUNICEFの連携により、コミュニティ幼稚園の信頼できるモデルを確立する」
- ・「現在から2008年までに、タウアおよびザンデル州の農村地域における就学前教育就学率を上昇させる」となっています。

そして、具体的には、

- ・「2006/2007学年度の終了時に、タウア州内でCOGESにより運営されるコミュニティ幼稚園が、少なくとも10箇所に至る」
- ・「2007/2008学年度に、タウア州およびザンデル州内でCOGESのイニシアチブにより少なくとも20の新規コミュニティ幼稚園が設置される」などを目標としています。

### 連携の背景

ニジェールの就学前教育就学率は、世界でも最低の水準にあり、各ドナー特にUNICEFは、この分野の改善を目指し、長年取り組んできました。しかしながら、就学前教育の普及は、特に、農村部で実現せず、解決策としてコミュニティベースの幼稚園の導入を2002年から図っています。しかしながら、UNICEFのコミュニティ幼稚園の住民参加アプローチは、園の運営を支えるべきコミュニティへの啓発や、園を支えるべき住民組織の組織化に問題があり、園が開設されたものの、住民からの運営資金の回収が出来ず、廃園になる園が出始めました。

一方、みんなの学校プロジェクトは、COGESの設立、機能化を目指し、組織の透明性を確保する委員会設立のための民主選挙、住民間の教育開発に関するニーズの発掘と住民による教育開発を実施するための学校活動計画などを導入し、COGESの機能化に成功しました。そして、この機能するCOGESを通して住民の教育開発のイニシアチブを支援する活動の一環として、プロジェクトは、住民からの要望が多かったコミュニティ幼稚園設立の支援を2005年から開始しました。同プロジェクトのコミュニティ幼稚園設立アプローチは、すでに設立されている機能するCOGESが主体となり、住民が就学前教育の啓発から、園児の募集、幼稚園教諭の雇用、給与の負担、幼

稚園舎の建設など、園の運営に関わるすべてをコミュニティが実施するという革新的なもので、導入したパイロット園で、住民による完全自立運営に成功し、現在はその数は13園と増加しました。現在も幼稚園を設立したいというコミュニティからの要望がプロジェクトに多く寄せられています。

このアプローチのもう一つの利点は、住民の需要と機能するCOGESがあれば、どこでも完全自立型のコミュニティ幼稚園が設立できるという画期的なもので、ニジェールの就学前教育就学率向上に大きく寄与できる可能性を持っていることです。2007年6月にはプロジェクトの開発した機能するCOGESモデルが、世銀の資金により全国普及されることが決定したため、上記可能性はさらに高くなったと言えます。

この同プロジェクトの新しい試みに注目したUNICEFより、プロジェクト視察の申し入れがあり、協議を重ねた結果、園の設立、運営を同プロジェクトが支援し、教育面の支援をUNICEFが行っていくという内容の協定文書が、2007年4月に調印された訳です。

### 連携の意義

この連携の基本的構図は、上述したようにプロジェクトがCOGESを通じた園の設立、運営支援を、UNICEFが教育面、特に、幼稚園教員の養成や視学官のモニタリング経費を持つという相互補完的なものです。効果という意味でさらに重要なことは、機能するCOGESによるコミュニティ幼稚園モデルの有効性が実証された後、UNICEFの就学前教育分野での影響力の大きさが、このモデルの公式化を行う際には、大きな役割を演じることで、UNICEFにとっても、コミュニティ幼稚園をいままで多く実施してきたわりには、自立経営という面での成功例が少ないため、このニジェールモデルの成功は、UNICEF自身にとっても、大きく評価できる出来事となると思います。

### 今後の展開

もちろん、COGESを通じた「みんなのコミュニティ幼稚園」モデルに問題がないわけではありません。幼稚園の自立運営を維持していくためには、幼稚園自体がコミュニティのニーズを反映した運営、教育内容を行い、コミュニティに支持される必要があります。UNICEFが行っている幼稚園教諭研修の内容は、現地の幼稚園関係者との間で、練り上げられたものではありませんが、それは、どちらかというと、公立の都市部にある幼稚園向きのものです。したがって、今後、コミュニティの支持を得られるかは疑問です。現在は、UNICEFに完全に園の教育部分は任せていますが、将来的には、この部分も協議の対象としていく必要があるでしょう。





## 「ニジェルで全小学校を「みんなの学校」へ - 世界銀行とJICAによる支援 - 」

以下、世銀とJICAのHPに掲載されたプレスリリースの内容です。

2007年4月、ニジェルで、「住民参画型学校運営改善計画（通称：みんなの学校プロジェクト）フェーズII」プロジェクトの立ち上げのための事前調査団を派遣し、JICAが2004年から支援してきた住民参加による学校運営改善のモデルを、ニジェル全ての小学校（約9,000校）に導入し、学校運営委員会の機能化を支援していく方向で合意しました。さらに、このモデルの導入に当たって、全ての小学校に学校運営委員会を設置するために必要な研修費用など多くの経費を世界銀行が支援することになっています。

ニジェル教育省は、プロジェクトが対象としてきた2州（約2800校）を除いた6州（約6200校）の小学校の校長に対して、民主的な選挙による学校運営委員会設置の仕方に関する研修や、学校運営委員会メンバーに対して住民参加型の学校改善活動

の計画や実施の仕方に対して研修を行い、より住民が参加しやすい学校運営委員会を作っていきます。教育省からの要請に基づき、JICAが引き続きこれら研修や学校のモニタリングの技術面での支援を行うことになりました。

これら研修を行うための経費については、世界銀行が教育省に対して財政的な支援を行うことが決定していますが、この決定までのプロセスには、JICAプロジェクト専門家も加わりフェーズIの成果の共有などを踏まえ、検討を進めてきた成果といえます。

2007年4月、事前調査で合意したプロジェクト枠組みについて、教育省とJICAの間で合意文書が交わされ、世界銀行も連署人（Witness）として署名しました。今後、2007年8月からのプロジェクト開始を目指して、教育省とさらに準備を進めていく予定です。

-----  
住民参画型学校運営改善計画（みんなの学校プロジェクト）プロジェクト

プロジェクトは、2004年1月から2007年7月まで実施されているプロジェクトである。本プロジェクトでは、住民と学校の間には不信感、心理的距離感が就学率の低い要因のひとつであるとし、政府が取り組んできた住民参加による学校運営の改善を支援している。具体的には校長、教員、保護者会代表、母親会代表、生徒代表からなる学校運営委員会を設置し、住民に学校運営に参加してもらうことを通じて学校を自分たちのものと感じ、それぞれの地域のニーズにあった学校運営実現のための政策である。プロジェクトでは学校運営に住民が参加しやすくなるための枠組みを提言した。学校運営に住民参加を促進するために効果的な三つのポイントをプロジェクトでは次のように整理し、「ミニマムパッケージ」と呼んでいる。第一に保護者からの代表を選挙によって選出すること、第二に、誰にでもわかりやすく参加することが可能な学校活動計画を策定し、実施すること、最後に住民による自主的な活動を行政がモニタリングによりサポートしていく。

### プロジェクト カレンダー

#### 2007年7月～2007年9月

- 7月4日 タウア州COGES担当官会議
- 7月中旬 COGES機能モデル全国普及開始（選挙研修）
- 7月31日 プロジェクト第1フェーズ終了
- 8月1日 プロジェクト第2フェーズ開始
- 8月上旬 プロジェクトニアム事務所開設
- 9月上旬 COGES担当官再養成研修（学校活動計画）
- 9月上旬 第1回合同調整委員会開催
- 9月下旬 学校活動計画研修開始（すべての学校）



#### みんなの学校プロジェクト ホームページに

マンスリーレポートが加わりました。

(<http://project.jica.go.jp/niger/6331038E0>)

マンスリーレポートでみんなの学校の活動をリアルタイムで知ることが出来ます。

また「みんなの学校だより」のバックナンバーはホームページからダウンロードできます。新しいホームページにはフォトギャラリーや動画もあります。是非、ご覧ください。

本誌「みんなの学校だより」に関する  
皆様のご意見・ご感想をお聞かせください！

~~~~~ 編集・発行  
ニジェル住民参画型学校運営改善計画  
(みんなの学校プロジェクト)

お問い合わせ・連絡先  
Projet Ecole Pour Tous, BP165 Tahoua, NIGER  
電話/FAX: +227-20-610-571  
E-mail: Rosedesaha@aol.com  
または Nakazawa.Junko@jica.go.jp

## 編集後記

### 蛇足

以下蛇足である。

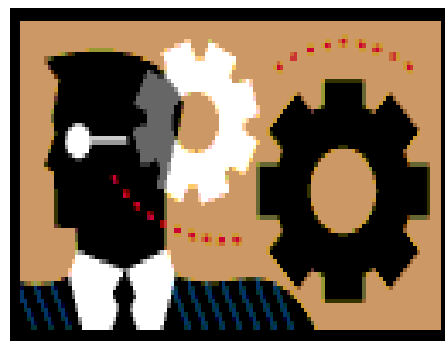
この号では、私自身が、パイロットプロジェクトや、普及モデルのことをいくつか稿を変えて書いてきた。しかし、プロジェクトモデルが普及されるかどうかは、他の稿で書いたような原則を守れば、なされるといった単純な話ではもちろんない。様々な別なこともある。例えば、普及モデルとなるためには、その分野での他のプロジェクトが開発したモデルとの競争に勝ち残らなくてはならない。

COGES機能化みんなの学校モデルについて言えば、プロジェクトが始まった時、EU やAide et Action(フランス系NGO)、その他NGOが学校運営改善、あるいは学校を巡る住民参加という分野ですでにプロジェクトを行っていた。当然、COGESについての会議でも、主導権を握っているのは、そのような先行するプロジェクトの関係者だったし、発言も自分の経験やアプローチを称揚するものだった。もちろん成果も経験もない新参者は沈黙を守るしかなかった。例えば、Aide et Actionは、農村開発的な総合アプローチを主張し、村に入る時に、住民参加型の入念な調査を実施し、学校の運営費を捻出するような収入創出活動を導入し、学校の住民の自主運営の実現を目指していると高らかに語っていた。

私は、会議の時には黙っていたが、いつも心の中で首をかしげていた。プロジェクトが開始する前に、すでに、他の関係プロジェクトの活動はすべて知っていたし、実際に現場もすべて見ていた。だから、その現実がどのようなものか知っていた。しかし、それらのプロジェクトはみんなの学校プロジェクトの参考にできなかった。考えてみてほしい。たしかに、Aide et Actionの現場はプロジェクトの出資によって建設された井戸があり、設立された穀物銀行の利益によって様々な学校環境改善活動が行われているし、住民の参加も見られている。しかしである。一体、一村の調査にどのくらいの時間と費用が費やされているのか。あるいは、一体、住民参加が行われるようにするために、井戸や穀物倉庫につぎ込んだお金がどのく

らいなのか。モニタリングは、村に住み込んだプロジェクトで啓発員が行っているが、そのような費用を政府が捻出できるのか。仮に啓発員の仕事を地方行政官が引き継いだとして、彼らの活動費用は負担できるのか。また、仮にモニタリングが行われなかったら、どうなるのか。こういった疑問は、このプロジェクトを作る前に、マリ、ブルキナファソ、ベナン、トーゴなどの近隣国のプロジェクトを実際に見たり、アジアや中南米のプロジェクトの文献を読んでいたときにも同様に抱いた。見たり読んだりしプロジェクトが開発したモデルは、理論構成はすぐれていたが、少数の対象サイトでの成果は立派だったりしたが、果たして、将来的な普及を目指して精査されたモデルかどうかは疑問だった。モデルの精査には、モデルの中で組み合わされている活動のひとつひとつをその効果だけではなく、経済性や効率性から厳密に検討した上で、ミニマムな形に形成していくという作業が必要なのである。この作業は自分の考えているモデルからかけ離れそうで、案件立案、実施者にとっては、非常に厳しい作業である。作業中に、様々な重要な要素を切り捨てているような気がするし、果たして、その要素を抜いた場合に、同じような効果が出るか疑心暗鬼になってくる。しかし、この過程を通過しない限り、普及モデルとはなりえない。精査等の作業に必要なことは、常識とされている現象をもう一度見直し、様々な角度から、想像力を最大限に発揮し分析すること、困難と思われる課題には創造力を持って新しいアプローチも含めて考えることが必要である。

余談になるが、プロジェクトが「住民参加手法」の評価対象になったことがある。この調査では、評価のための様々な視点を取り入れていた。その視点についてコメントを求められたので、その手法の費用対効果とか経済性とか普及可能性をその視点に入れたらどうかという提案したが、却下された。確かに純粋に住民参加の手法を検討したいということだったのかも知れないが、やはり普及することができない手法など意味がないと



いわざるを得ない。

話を元に戻すと、みんなの学校プロジェクトのモデルは、他プロジェクトが開発したモデルとの競争に勝ち残った。それは、必然であった。2800校でその有効性を実証したモデルに対抗できるそれは、ニジュールには存在しないからである。しかし、問題は、まだまだあった。まず、モデルの有効性を証明した後は、モデル普及のための財源を見つけなければならない。モデルがいくら良くても大体政府はお金がなく、PDDE実施のほとんどの活動は外からの資金に頼っている。だから、モデルを政府だけではなく、他のドナーにも売り込みむ必要がある。売り込みに成功してお金が見つかったら、今度は、モデル普及の実施支援が必要である。

そこまでする必要があるのかと思われる方もいるかもしれない。普及モデルを提案できたら、先方の自主努力を期待するというで終わるプロジェクトも多い。しかし、実は、アフリカの政府を初め各省庁は、その実施能力が欠如している。だから、その欠如している部分を支援することは、モデル普及成功には不可欠なのである。また実施能力強化という意味では、概念的なことを説明する研修よりも、実際の活動に即した実施側面支援の方が、より効果的である。

2007年8月31日から始まるみんなの学校プロジェクトフェーズ2では、下からだけではなく、上からのアプローチが必要とされることになるであろう。そして、この下と上からのアプローチを完成した時に、本当の意味でのミニマムパッケージが完成することになる。(H)





**ECOLE  
POUR TOUS**

# みんなの学校だより

## 号外(第1フェーズ最終特大号)

ニジェール住民参画型学校運営改善計画(みんなの学校プロジェクト)

2007年7月12日発行



号外ハイライト  
歴代本部担当者  
プロジェクトに関わった  
人々  
プロジェクトアプローチの  
応用  
COGES担当官の思い出  
現スタッフからの一言  
新人紹介



みんなの学校だよりもいよいよ第1フェーズの最終号を迎えました。プロジェクト開始から3年7ヶ月の間、みんなの学校だよりは、活動の進捗状況を伝えるだけでなく、プロジェクトをめぐる現場で起きていることを出来るだけ、リアルに発信することを目的として書き続けられてきました。この目的がどの程度達成できたかはわかりませんが、このニュースレターを読めば、報告書では、見えてこないプロジェクトの歴史を読み取ることが出来ると信じます。この第1フェーズの最終号では、プロジェクトを支えてきた人々のプロジェクトに関する思い出や想いについて語っていただこうと思います。



# 10年後も楽しみ... みんなの学校プロジェクト

藤田由布 / 元短期専門家

実に、忘れられない、熱くて長い15ヶ月間でした。3年前になりましたが、私がIICA専門家のデビュー戦となったのもみんなの学校プロジェクトでした。つまり、原点です。地盤沈下が進む住居、うっすら砂埃が顔を覆う目覚めの毎朝、協力隊時代となんら変わらない生活環境で過ごせたお陰で、その後赴任した東アフリカやアジアの国々はまるで天国のようでした。

タウアのそんな大変な条件のもと、常に緊張感を保ちつつ創造性と即効性に富んだこのプロジェクトに、幾度となく身震いがする感動を受けたことを思い出せます。ひとつは、指標など目で見える数値的なプロジェクト成果も確かにスゴイのですが、むしろこのプロジェクトの活動過程において、行政関係者やCOGESの皆、そして住民が教育問題に取り組む力を獲得していることを肌で感じたことでした。そして最大の感動は、10年後に再び

この地を訪れても、このプロジェクトは現地人の手によって進化しているだろう、と感じたことです。みんなの学校プロジェクトでは、費用対効果が高く全国に普及できるシステムを作ることが皆の目標でしたし、また、どうしたらこのプロジェクト終了後もシステムが存続しうるか、という視点でさえも、日本人もニジェール人も一緒に共有できていました。成功へのビジョンがこれほど共有できているプロジェクトは、実は珍しいのではないかと思います。

以下の「参加の度合い」という表を見て下さい。これは、参加型開発プロジェクトにおける対象者(国)の参加の度合いを測る目安ですが、レベルの数字が高い方が、対象者(国)がプロジェクトに対する高いオーナーシップをもつことを意味しています。つまり言い換えれば、プロジェクトの成功度合いを測ることも意図しています。

| レベル            | 観察可能な行動                                                                             |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 7 自立発展         | 組織されたローカルグループは外部からの介入を待たずにイニシアティブを取る。外部的な介入はアドバイザーあるいはパートナーとしてのみされる。                |
| 6 相互作用的参加      | 組織されたローカルグループがプロジェクトの形成・実施・評価に参加する。これは体系的・形成的な教授 学習プロセスと、プロジェクトの発展的な主導性を意味する。       |
| 5 機能的な参加       | プロジェクトによって設定された目的に応えるために活動グループを編成して参加する。プロジェクトの形成には影響しないが、モニタリングや活動の修正などには意見が尊重される。 |
| 4 インセンティブによる参加 | 資材、訓練、集会などのインセンティブによって、労力や場所などを提供して参加する。プロジェクトの決定には直接的に影響しない。                       |
| 3 相談による参加      | 外部の人に意見などを聞かれてそれに応える。しかしそれらの相談の結果とられる判断や決定に影響を及ぼさない。                                |
| 2 情報提供         | アンケートなどに答える。しかしその情報の利用に関して影響を与える可能性もない。                                             |
| 1 受動的          | 誘われたら参加する。プロジェクトの実施や判断に影響を及ぼさない。                                                    |

出展：「参加型開発の80のツール」Frans Geifus、GTZ-IICA(スペイン語版)をICNet(株)社の伊藤拓次郎氏が和訳した



私はこれまで関わってきたプロジェクトを、この表でもって比べることがよくあります。ふと思うのですが、どれだけの技術協力プロジェクトが、実際にレベル7に到達できているのでしょうか。本来、全てのプロジェクトがレベル7に到達しなければ、どれだけ単発的な成果が見られても、真の成功とは言えないのでしょう。みんなの学校プロジェクトは、まだまだ進化している最中なので専門家による舵取りの支援を必要としています。村落住民から行政レベルまでもがかなり高いレベルにいるようです。

村落開発モデルを作って、研修マニュアルを作って、全国を研修巡回するといったプロジェクトはよくありますが、活動や研修の費用額は現地スタッフが知らなかったり、村落の状況に見合わないマニュアルが外国人専門家の手によって作成配布され、それを元にして研修がなされていたりします。実際に、使用されないまま本棚で埃をかぶった‘マニュアル’は散見されます。私も任期中、COGES対象とした啓発活動研修を実施するにあたり相当悩みました。そんなとき、原チーフから「型にはまったもの

にこだわるな」と言われ、その言葉のおかげで、絵を使った教材と研修の開発が実現しました。学校や生活に関する様々なテーマの絵を見て、住民が自由に問題提起をして、解決のための議論を展開させる方法です。この手法は、識字力に関係なく、弱者の声を引き出し、住民の低就学率問題に対するオーナーシップを高めることを意図します。宗教などのタブー領域を侵さないかと不安もありましたが、白熱した議論は期待以上で、学校と住民の距離を縮めることに少し貢献したように思えます。

私だけの思い出話のような文面になってしまいましたが、タウアの地でこの偉大なるプロジェクトの熱い仕掛け人の皆様と共に活動できたことを今でも大変幸運に感じています。そして、短い間でしたが、私もみんなの学校ファミリーになれたことをとても誇りに思います。このプロジェクトのお陰で、私は自己を更に磨いて将来もニジェールの地に戻りたいと願うようになり、また、生涯にわたり国際協力の現場プレーヤーになりたいと思うようになりました。みんなの学校プロジェクトの10年後が楽しみです。




 元プロジェクト  
 専門家からの一言


齋藤由紀子 / 元短期専門家・シニア隊員

私は、みんなの学校プロジェクトが始まって3ヶ月が経った2004年3月から約2年8ヶ月間、APPを通してお世話になった。プロジェクトでの活動の日々は、笑いあり涙あり。任期を終え帰って来た今でも時々、思い出すことがある。数え切れないエピソードの中から、特に印象に残っている2つの事を紹介したいと思う。

「魚じゃなくて、魚の釣り方を！」

村に巡回に行くと、集まったCOGESメンバーや住民達が、作り上げた教室やトイレ、塀などを満足げに眺めながら、その時の様子や苦労話を事細かに説明してくれる。一見、他の学校の教室と変わらない教室だが、よく見ると丁寧な細工がしてあることに気づく。工夫を凝らした部分を「オリジナルだ」といいながら、得意げに話してくれた。その話を聞きながら、「すごい、これをみんなに見せるからね」と、その部分をカメラに押さえるのが常だった。

巡回で感じたのは、どの村も他の学校のうわさを聞きつけながら、真似ながらその村独自のオリジナルを追求している。情報を集めながら、そこよりも上を目指そうとする姿に出会うと決まって感じる疑問は、「限られた予算や状況の中で、ベストを作り上げようとする姿勢の意欲の源は？」

ある日、1人のCOGESメンバーが私にボソッと一言が今でも忘れられない。

「今まで、いろんなプロジェクトがここにやってきたけど、彼らは、いつも魚をくれる。でも、魚は食べてしまえば、無くなってしまふんだ。私たちは、みんなの学校プロジェクトから、魚の釣り方を教えてもらったよ。」

シミュレーションを交えた研修や、現地スタッフによる一問一答の丁寧な説明を通し、とすると、分かりにくいCOGESのシステムがかみ砕かれ、シンプルな形になって、住民に伝わったのだと思う。内容を十分理解した上での感想として、上記の一言が、発せられたのだと思う。プロジェクトが巻いた種に、彼ら自身が水をやり、オリジナルの花を咲かせているのだと思うと、やっぱりすごいプロジェクトなのだと思う。

### - 「3分の1の法則」

赴任した当初、原プロジェクトリーダーがこんなことを言った。「3年のプロジェクトの場合、最初の1年が勝負。修正や補足の時間が後の2年。APPでの君の任期が、2年であるなら最初の8ヶ月間が勝負ですね、大変でしょうが、頑張ってください！」

この激動プロジェクトは、この「3分の1の法則」で1年目から走り始めた。それはまず、「実際の現場を見なければわからない、実際にやってみなければわからない」からだと思う。取り掛かりが遅いとその分、軌道修正が利かなくなってしまう。やってみて現場の声を反映させ、生かすためにはやは

り、最初が肝心であるとう  
 更ながらつくづく思う。

プロジェクト1年目の最初の研修後、フォローアップに何万KMを走っただろう。。危険地帯とされていたチンタ・アバックは、現地スタッフが巡回に行ったが、それ以外の対象校の殆どを訪問し、住民の声を聞いて回った。4、5月の猛暑の最中、2台の車両に分かれ、チームを組んで早朝5時に出発し、夕方帰る毎日。現地スタッフと水を分け合い、途中の村で羊の肉を食べながらの巡回である。もちろん、原リーダーも、そして、やはり原リーダーは、タフだった。

延長フェーズには、残念ながら関わる事が出来なかったが、すでに第二フェーズへの準備が始まっていることだろう。「3分の1の法則」で更なる激動に突入だろう。プロジェクトに関わって以来、何かを始める時は決まってこの「3分の1の法則」を思い出す。

思い返すとプロジェクトの最初の事務所は、教員養成学校の敷地にある空き教室？から始まった。砂漠に近いタウアでは、立て付けの悪い窓の隙間から容赦なく細かい砂が入ってくる。トイレも無い。クーラーは利かず、パソコンを打つ手から汗がジワリ。そんな状況下で、走り回っていた。活動が多い分、関わる人間も多く、その分ハプニングも多かった。傍から見ると、「忙しいプロジェクトで大変だろうな」と思うだろうが、中にいると案外お笑い珍道中。ハプニングだらけで毎日に変化に富んで、笑いが絶えなかった。素敵な方々に恵まれたプロジェクトでの日々が、なんだか楽しかったと思えるのは私だけだろうか。。

原専門家、尾上専門家、中澤専門家、影山さん、近藤さん、伊藤さん、そして、現地スタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。そして、いつも応援しています。



 みんな大好き、  
 APPクラブ


# われら撮影隊が行く

赤羽政幸 NTTラーニングシステムズ  
ロデューサー

## 撮影後記

2007年7月で「みんなの学校プロジェクト」の第1フェーズが終了するとのこと。関係者の皆様におかれましては、本当にお疲れ様でした。また撮影に際しましては、多大なご努力、ご尽力をいただき、この場をお借りしまして心よりお礼を申し上げます。

マルチメディア教材の制作に当たり、2005年及び2006年の2度に渡りニジェル・タウア州を訪れました。思い起こせばニジェルっていったいどこ？という無知な状態から始まった訳です。そしていよいよ期待と不安を抱えた1回目のニジェルロケへ出発。飛行機を降りた瞬間の熱風には「これからどうなるんだろう？」と胃がキリキリしたものの、タウアへの移動中に見た風景は比較的緑が多く、家々の立ち並ぶ景色はまるで映画の一場面のような、のどかで美しいといった印象を受けました。その後のロケは暑いながらも比較的順調に進み、無事終了。その際にプロジェクトメンバーからは「これは本来のニジェルの姿ではないですよ」という一言が。その時にはあまり深く考えずに、無事終了したことの喜びと「もうニジェルへ来ることはないんだろうな」という思いから全く気にしませんでした。

昨年それが何と2回目のニジェルロケが決定したのです。内容はプロジェクト全体の紹介と地域住民に向けたマニュアルビデオを作成するというかなりのボリュームのもの。識字率を考慮し、更に分かりやすい内容にするために、CGアニメーションとドラマ組み合わせた内容を提案しました。また現地原リーダーより現地語で制作して欲しいとのニーズもいただき、ほぼ毎日のように現地とのメールのやり取りを交わしながら、構成やシナリオを詰めるという作業を行いました。シナリオが決まるとそれを元に香盤という撮影スケジュールを練る作業に入りますが、これは撮影地の地理的状況や協力者の関係が大きく起因するため、通常現地で作成していただいたものに対して我々の希望を反映させていく形を取ります。しかし送っていただいたものをディレクターと二人で見て思わず「完璧！」と声を揃えるほどの内容。撮影に対する理

解力の高さに驚いてしまいました。その反面、香盤表から見てくる撮影ボリュームの多さとタイトさに思わず冷や汗が流れましたが、一度ニジェルを経験している安心感から何とかなるかなと…。

そして2度目の渡二。ニアメからタウアへ向かう途中の景色の違いに、「あれ～、何か去年と違う」。ウルトラマンのカラータイマーよろしく頭の中で警鐘が鳴り響いたのです。その警鐘は早速翌日から体感することに。2日目の撮影が終わった頃には、容赦無く降注ぐ太陽が我々の顔や腕を真っ黒に焦し、唇からは水分を奪い去っていました。そこでふと頭をよぎったのが「これは本来のニジェルの姿ではないですよ」という一言。そう、ニジェルは今乾季だったのです。これが本来の姿。思わず「甘かった」と誰にも聞こえないか細い声が口について漏れた瞬間でした。しかしこれはほんの序章にすぎず、この後数々の珍事が待ち受けていたのです。

APPの取材のため4～5時間の山道を移動し、カウラ・ゴガの小学校で撮影した時のことです。既に生徒達や村人が集合し準備万端。早速撮影を開始したのですが、大人だけで活動しているクラブが目にとまりました。なぜ大人だけのクラブがあるのか不思議に思ったのですが、今回は学校活動の一環ということで生徒たちがメイン。時間も限られていることから大人のクラブ活動は撮影しなかったのです。ところが撮影も終盤に差し掛かった時に「俺たちが撮影されていない」とご立腹とのこと。間に入って調整をしていた校長先生が困っている様子だったので、急遽撮影をすることにしました。とりあえず皆さん、満面の笑みでカメラに収まったことでご立腹も解消。校長先生の顔を立てることもでき、ホッと一安心。

またドラマシーンのほぼ全てをフンコイガバス村で撮影したのですが、ディレクターからの演技指導を日本語で行い、それを仏語そして現地語のハウサ語に訳して進めていきます。しかし撮影が進むにつれ慣れてきた事も手伝ってか、俄かディレクターが何人も出てきてしまったのです。ディレクターが具体的な指示を出す前に、協力してくれているCOGES委員や校長先生が先んじて演技指導を行ってしまい、内容を確認した所、狙いと違うことが発覚。再度演技指導をし直すと言う事が多々起こってしまいました。またディレクターが「カット」という言葉を発するまで芝居を続けるのですが、ディレクターが言う前に現地スタッフが「カット」と発

してしまい、NGになってしまうこともしばしばありました。今となっては酒の肴として笑い話になるのですが、炎天下の中に立ちずくめで体力も消耗し、何よりも時間内に撮影が終わせるかと言う危機感から、正直僕の顔がこわばっていたそうです。(後述談)

こうした珍事、エピソードはいくつもあったのですが、それもこれも皆さんが一生懸命に取り組んでいる証。今回の教材制作にあたり一番の功労者であり理解者は、村々の皆さんだと実感しています。聞けば我々の撮影時期と穀物の収穫時期が重なっていたそうなのですが、自分たちの生活の糧である収穫をずらしてまで撮影に協力してくれたことに、彼らの並々ならぬ想いが伝わってきました。そうした想いが、今回のマルチメディア教材という媒体を通して形に現れているものと思います。ある意味我々撮影隊は恵まれていたと言わざるを得ません。どんなに我々が頑張っても、結局は協力してくれる皆さんの理解がないと中身のある教材にはならないからです。その村人たちのモチベーションを引き出したのが、プロジェクトに関わるスタッフの皆さん。日頃からお互いに信頼関係を築いてきた賜物ではないでしょうか。協力してくれた村々に何度も足を運んで協力を取りつけ、撮影隊が入るギリギリまでリハーサルを繰り返して、順調に撮影が進むよう黒子に徹して努力してくれたことは、感謝の言葉もありません。

最後になりましたが、タウアで生まれたこの一滴の雫が、やがて支流をなしニジェルから西アフリカ諸国へとつらなる大河となって、そこに暮す人たちに知の恩恵をもたらすことを切に願っています。





## プロジェクトアプローチの応用

### 「みんなの学校」から生まれた「みんなの学校保健」

岩田守雄 セネガル国フィールド調整員/元ニジェール国ドッソ学校保健協力隊グループ派遣グループリーダー-シニア隊員

私は平成13年度2次隊派遣で2年間の協力隊活動をニジェールで行いましたが、その結論は、「この国の発展には初等教育の普及と質/管理の改善が優先的かつ継続的に必要だ」というものでした。そんな中、任期終了間際にプロジェクトの前身となった「COSAGE」の取組みが耳に入り、大きな期待を感じていました。

その半年後、シニア隊員としてドッソ学校保健協力隊グループ派遣の支援業務を開始しましたが、着任早々隊員から「教員や保護者の姿勢が他人(ドナー)任せでどうにもならない」「学校保健に取り組もうにも学校運営自体が儘ならない」という切実な声が寄せられました。「学校保健」の前提には「学校運営改善」と「住民の自助努力」があったのです。そこでこの「みんなの学校だより」などプロジェクトの資料を収集し日夜研究の日々が始まりました。

そして1年後、「ミニマムパッケージ」をドッソ対象校に導入するご提案を頂き、プロジェクトの支援を得て、プロジェクトのメインパートナーである現地NGOへの業務委託という形で導入が決定しました。正に「啐啄同時」の時機でした。

ミニマムパッケージの導入にはドッソの状況に合わせた応用が必要な部分もありましたが、その際特に役立ったのはプロジェクト紹介VTRです。その中でプロジェクト対象校の保護者が現地の言葉で自分達の取組みや成果を紹介する部分が極めて効果的であり、VTRを観た後に保護者や地域住民の目が

希望できらきらし始めるのがわかる程の、まるで魔法のような効果がありました。

導入の結果、前述の問題は殆ど解決したといえます。最大の効果は、人々が「自分達の力で状況を確実に改善することができる」という手応えを得たことです。学校が「みんなの学校」となったことで、「学校保健」も「みんなの学校保健(自分達の子供の問題)」というように人々の意識が180度変わったのです。驚くべきことでした。

私は現在、セネガル国において「地域の自助努力による継続的な学校給食運営モデル作成」を目指した協力隊活動支援に携わっており、同じ州内では今後プロジェクトの成功経験を応用した技プロも開始され、連携が期待されています。協力隊グループ派遣でも活用可能なシンプルかつ効果的なモデルを作ったプロジェクトの手法は、協力隊活動と技プロの本当に効果的な「連携」のあり方を示唆してはいないでしょうか？より恒久的なモニタリング体制の確立や収入創出、資金管理の改善と浸透など残された課題はありますが、ここセネガルでもプロジェクトのアプローチは根本的な部分で有効だと確信しています。

「みんなの学校」の種は、ニジェールから風に乗ってここセネガルに根を張ろうとしているのかも知れません。大切に育てていきたいと思います。

写真左「COGESアクションプランで購入された清掃用具で毎日の清掃」

写真中「出来上がったアクションプランをチェックする保護者」

写真右「保護者が力をあわせてごみ処理場の設置」



## 就学前教育

加藤千秋 ニジェール国フィールド調整員

ニジェール就学前教育分野への隊員派遣は1991年に始まり、現在6名の幼稚園教諭隊員が首都や地方都市の幼稚園視学官事務所に配属され、幼稚園巡回や講習会開催を通じて幼児教育の質の改善に取り組んでいます。ニジェールには幼稚園教諭養成所がない為、隊員が企画する講習会には、視学官事務所が管轄する公立私立幼稚園や他ドナーが支援するコミュニティ幼稚園の保育者も参加し、数少ない学べる場として好評を得ています。

先月COGES運営コミュニティ幼稚園13園の保育者に対する継続研修が行なわれました。UNICEF出資、幼稚園視学官事務所が企画するこの研修では、隊員が関係者と作成した幼稚

園教諭向けのガイド「幼稚園の生活」が使われ、保育者の心構えや保育の流れ、手洗いなどの衛生教育等が組み込まれました。また2名の隊員とカウンターパートが講師として参加し、運動遊びや身近なものを使った遊びの活動を紹介しました。特に稗やもろこしの茎を使った伝承遊びは馴染みやすかったようで、参加者自身が遊びを披露する場面もみられました。「明日から実践できる保育活動」として皆が幼少の頃に遊んだ伝承遊びを保育に取り入れていくことは、既存の幼稚園でももちろんのこと、コミュニティ幼稚園の経験のない保育者にとっては特に有効ではないかと考えています。

物が無い、無いと出来ない、といわれている幼児教育現場で、隊員はニジェールで手に入るものを使っての教材・玩具づくりの提案や遊びの重要性、それに対する教諭の意識改善、また衛生教育の推進等を行なっています。しかしながら、幼児教育の質の改善に大きく影響を与えている幼稚園の運営面や環

## ニジェールのあちらこちらで使われる

## プロジェクトアプローチ

境改善については、隊員はなかなか介入できませんでした。特に園運営費となる保育料の使用内容が不透明で、園環境の改善に反映されることが少ないという問題があります。そこに問題意識を持つ就学前教育関係者もあり、幼稚園COGESの普及を独自で進めるなど試行していましたが、名だけの機能しないCOGESが点在するのみでした。同時に関係者からはタウアで展開しているめざましい働きをするCOGESをぜひ幼稚園でも！という強い要望がありました。そこで昨年視学官事務所関係者を集め、COGESに関する研修及び今後の普及に向けての会合を設けました。その後8園においてみんなの学校プロジェクトCOGES機能化モデルミニマムパッケージを導入し、12月より実施してきました。そして今年6月に国民教育省とともに行った評価で、園運営と住民参加に非常に効果があることがわかりました。現在はどのように機能する

COGES普及していくかということが目下の課題となっています。

隊員による保育の質の向上支援、幼稚園COGES普及支援による園運営・環境の改善、みんなの学校のCOGES運営によるコミュニティー幼稚園普及、この「質、マネージメント、アクセスの改善」の3点からのアプローチで、ニジェール就学前教育の状況は今少しずつ変化の兆しが見えてきました。今後も引き続きUNICEF等他ドナーとの協力しながら、現場・上層部のニジェール人と共に考え、ニジェール幼児教育の発展を支援していきたいと思います。



## カレゴロ地域 生活改善計画協力隊グループ

### 佐々木タ子 ニジェール国シニア隊員

私たちカレゴロ地域生活改善計画協力隊グループ(以下カレゴロ・グループ)は、現在、環境・保健・村落開発分野の隊員5名から構成されており、「教育・保健・植林・農業分野における啓発・技術移転を通じて住民の教育環境及び住環境が改善する」というグループ目標に向かって様々な活動を展開しています。活動対象村は、ティラベリ州コロ県の二つのコミュニティ内の39ヶ村であるため、隊員が主導となるこれまでのような活動形態では、到底39ヶ村をカバーすることはできませんでした。そこで、住民自らが地域開発の主体となり、それが持続的に発展していくような新たなアプローチがカレゴロ・グループに求められました。時を同じくして、それを正に体現化していたのが「みんなの学校」プロジェクトであったので、そのノウハウを私たちの活動地域にも導入しました。「みんなの学校」のノウハウとは、すなわち、機能する組織を作り出すための、民主選挙の実施、学校活動計画の策定・実施・評価、地方行政官によるモニタリングシステムという3つの要素からなるミニマムパッケージを指しますが、2005年11月から2006年2月にかけて、活動対象村全てに導入しました。その結果、39校中37校において、住民が自らの財源、資源を使って学校の環境改善活動を行うようになりました。具体的には、1校あたり平均4.2活動が実施され、活動のために動員された資源の平均は約16万CFAにも上りました。また、生徒数の伸びも顕著で、ミニマム・パッケージを導入した2005-2006年度、生徒数は実に1626人増加(増加率61.96%)し、2006年度でも更に649人増加(増加率16.20%)しました。これまで、学校すらなかった村や、学校があっても長らく閉鎖されていたような村でも、機能する住民組織ができたことにより、住民が学校の重要性を理解し、住民自らの財源や資源で学校を取り巻く環境改善に取り組み始めたのです。また地方行政官が定期的なモニタリングを行うことにより、多くの学校が抱える教員不足の問題も解消されました。このような住民のダイナミックな動きをさらに村レベル

まで広げ、村における様々な問題を住民自らが解決していけるような組織作りを今後目指していきたいと考えています。

(写真上)

2006年1月にできたばかりの新しい学校であるが、生徒数は現在300人に達している。バンコ製の教室も今年住民により建てられた。対象校の中で、最もCOGESが活発な村である。(ンパンガ小)

(写真下)

2007年6月11日に行われた学校祭では、生徒たちによる就学率促進を呼びかける歌や劇が披露され、学校に多くの住民が集った。(コリア・グルマ小)





# タウア州COGES担当官 第1フェーズ、私たちの思い出

**Attikinou Abdourahamane**  
**アバラック県COGES担当官**  
COGES担当官及び監督官の活動への全力投資とEPTチームからの支援

**Mahamat Ougagui**  
**ケイタ県COGES担当官**  
機能するCOGES設置のための研修を受けたこと。そして、我々、住民が共同体として生きるための経験を得たこと。

**Ibrahim Moussa**  
**コニ県COGES担当官**  
タウア州のCOGES担当官達に出会えたこと。そして、EPTの皆さんが我々のすべての活動を成功へ導くために支援してくださったこと。

**Babacar N' Diaye**  
**マダウア県COGES担当官**  
満足感とEPTへの感謝

**Aboubacar Yacouba**  
**イレラ県COGES担当官**  
COGES担当官と住民が共に満足していること。

**Hamza Alio**  
**タウア県COGES担当官**  
第1フェーズの思い出  
1. EPTチームからの絶え間ない支援  
2. 学校環境の改善、教育へのアクセス、教育関係者の能力向上



**Salouhou Mamaga**  
**チンタ県COGES担当官**  
EPTの皆さんからの支援とCOGES担当官と監督官が全力を尽くして働いたこと。

**Abdoulaye Ali**  
**タウア市COGES担当官**  
4年間に渡る集中的な活動を通して、住民からの強い協力のもと、私たちは児童と教師の教育環境改善のために尽くしました。その結果、特にタウア州の就学率の向上、そして、住民自らが学校運営を行うことで彼らに自信を持たせることができました。当初学校に不理解を示していた住民が、現在ではそれを自分たちのものと感じています。間違いなくすべてを成功に収めたと言えるでしょう。

**Elh. Hamidou Abou**  
**ブザ県COGES担当官**  
一人と人とを結んだこと  
- さまざまな研修を受けたこと  
- ブルキナファソを訪問したこと  
- 教育制度改革のために貢献したこと

(写真下) COGES担当官によるモニタリングの様子

**Zakaria Seybou**  
**タウア州COGES監督官**  
第一フェーズでは、EPTによるさまざまな支援のおかげで、タウア州は他の州の鏡、模範となるような輝かしい地域となりました。この成功に関われたことに、喜びを感じるとともに、誇りに思っています。そして、挑戦し、成功し、COGESの全国普及のモデルとして採用されたことを嬉しく思います。我々を助けてくださった人々の成功とEPTの戦略及び専門家の方々がニジェールの他地域、アフリカ全土に知れ渡ることを願っています。



**原 雅裕 / チーフアドバイザー**

教師のストによる長期にわたる学校閉鎖、大統領選による学校の麻痺、雨不足のための不作と飢餓、能率が極端に落ちる断食月、中心的現地スタッフの不慮の死、突然の人事による中心的カウンターパートの交代、多数の中心的COGES担当官の引退、突然のCOGES政策の変更、他プロジェクトの妨害など、以上、プロジェクト運営上降りかかってきた困難を頭に浮かんできた順に書いてみました。その他にもいろいろありましたが、様々な困難を乗り越えたのは、多くの人の支援によるものです。月並みですが、皆様、あらためてお礼を申し上げたいと思います。

**Ibo Issa / 政策アドバイザー**

このJICAみんなの学校プロジェクトの当初の目標は、ミニマムパッケージを基に、機能するCOGESの設置とニジェールの全地域で適応しうるCOGESのモデルを試し、発展させることでした。タウアとザンデルでの経験がこのミニマムパッケージの適応性を十分証明したことで、国民教育省と他パートナーをやる気にさせ、ニジェール全州へのミニマムパッケージの普及に至らせたのです。この段階において、プロジェクトの成功は確実なものであったと言えるでしょう。現在は、この機能するCOGESを確立させるためにCOGES連合のモデルを発展させ、広範な地域における各COGESへのモニタリングを着実に進めています。そうすることで、持続可能なモデルの完成となるのです。今後もがんばっていききたいと思いをします。



(写真上) タウア事務所にて、ニジェール人スタッフと。

## 現スタッフ からの一言

第2フェーズも  
よろしくおねがいし  
ます!!

**Eih. Gambobo Ibrahim / COGES連合チーム**

「ニジェールと日本の協力の成果」  
コミュニティーの参画により学校環境の改善を支援する、というこのプロジェクトが、ニジェール教育分野において最も成功したプロジェクトであるということは間違いありません。学校を取り巻くコミュニティーの力を利用したこのプロジェクトは、3年の経験を通して、住民に学校運営の能力があることを証明してきました。COGES担当官のように、各COGESに対する指導や研修に尽力した人達のおかげで、このプロジェクトは、住民自身が団結し、学校を発展させる力があることに疑いを抱いていた人々を納得させることができました。プロジェクトメンバーの一員として、今後決してこのような結果を残すことができないようなことを成し遂げることができたことに大きな喜びを感じています。我々は、成功したチームの一員であることに大変満足しています。

**尾上公一 / 専門家**

みんなの学校プロジェクトが始まって3年半という月日が経ち、第1フェーズは無事に終わりを迎えようとしています。多くの関係者の皆様のご指導とご支援に支えられながら、ここまで来ることが出来ました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。3年間を振り返ると、悲喜こもごも本当にいろいろなことがありましたが、まだまだ過去を振り返って淡い感傷にひたるには少し早いようです。何故ならニジェール全土で「みんなの学校」を広げていく活動が今まさに始まろうとしているからです。現在各州で開催されている準備会議の盛り上がりを見ると今までの活動は助走でしかなかったのかと思わせるような勢いです。大きな社会変革の始まりのようにも思えてきます。原チーフの「これからが正念場」という言葉を3年間事あるごとに耳にしてきた気がしますが、まさに「これからが本当の正念場」。次なる目標に向かって、頑張っていきたいと思いをします。これからも宜しくお願いします。

**Kabo Ibrahim / APP・コミュニティー幼稚園チーム**

タウアにおけるみんなの学校プロジェクトの3年間に渡る第1フェーズが7月31日に終わります。このプロジェクトは、コミュニティーの力を再強化し、彼ら自身の力による学校運営を実現させました。COGES担当官を通して、COGES委員会を設置し、学校活動計画を作成、実行し、そしてモニタリング活動を行ってきました。その結果、機能するCOGES委員会、コミュニティーと学校の関係強化、就学率の向上、学業結果における改善をもたらしました。



**Ousseini Habou / COGES連合チーム**

すでに活動を開始していた大変活気にあふれたこのプロジェクトチームを完全なものにするために加わりました。このチームの活動力はメンバー同士の相互理解から生まれるもので、それが肯定的な結果を生むと思います。成功したこのチームの一員であったこと、そして、大変効果的な仕事のリズムに自分が適応できたことに誇りを感じています。

**影山晃子 / プロジェクトスタッフ**

このプロジェクトで働き始めた1年7ヶ月前 私の日尻には「烏」の足跡があった。それが今では「烏賊」の足跡と化している。。。この1年7ヶ月、それだけ皆と笑い合うことが多い「笑顔の絶えない日々」だったのだと前向きに解釈している。でも...足跡の周りには「イカ墨」というおまけまで散在。これはなんと解釈しましょう？

**Hamza Djibo / 情報統計処理**

このプロジェクトを通じて、自分の知識を十分に活かすだけでなく、活動を通して、それらをさらに深めることができました。そして、多くの経験を得、スタッフ会議を通して意見交換をすることの重要性を学びました。最も印象深いことは、チームで働くこと、とりわけ、日本人とニジェール人との間に流れるすばらしい雰囲気です。

**Yacouba Amadou / COGES連合チーム**

JICAみんなの学校プロジェクトで、COGES連合チームに所属し、COGESの活動のモニタリングを担当しています。このプロジェクトで働き、2年が経ちましたが、その間に多くのことを学びました。はじめに、藤田さんからはコミュニケーションを、中澤さん、影山さん、近藤さん、伊藤さんからは協力して働くことを、そして、尾上さんからは的確な指示と柔軟性を学びました。また、チーフである原さんのユーモアのセンスと彼の仕事上でのアドバイスが深く印象に残っています。最後に、みんなの学校プロジェクトが長く続き、それに関わったすべての人々の成功を願っています。さようなら。Kala Tonton!

**中澤順子 / 専門家**

「あ~~~~っ」という間に赴任して1年4ヶ月が過ぎました。「今日こそはのんびりできる!」と思えた週末はゼロに等しく、様々な活動が同時進行で発生し、数週間前の出来事すら遙か昔の出来事のように感じられる、そんな毎日でした。ダイエット・プロジェクトと呼ばれるだけあって、激しい活動をこなしながら痩せていく尾上専門家、齋藤専門家を尻目に、私と影山スタッフは例外的に体系を「維持(あるいは膨張?)」し、フェーズ1終了を迎えてしまいました。常に猛ダッシュの原リーダーのもと、時にはお尻を叩かれ、息切れしながらも、皆と完走できたことを嬉しく思います。それだけでなく、フェーズ1の成果がフェーズ2の全国展開へとつながり、益々発展していく「みんなの学校プロジェクト」を通じて、財政支援と技術協力の連携のあり方、住民の需要を汲み取り国策へと反映していくアプローチ、本当に多くのものを吸収できました。プロジェクトのメンバーをはじめ、関係者の皆様に公私ともに支えていただき、本当にありがとうございました!

**近藤奈々 / 技術協力専門家養成個人研修員**

研修員として当プロジェクトに赴任してから6ヶ月、任期が11ヶ月である私にとってはちょうど折り返し地点です。この半年間、「ここでハルマッタンを迎えるのはこれで4(3)回目だ。」とおっしゃる専門家の方々に囲まれながら、自分の唯一の長所である体力だけを頼りに、取り残されないようにやってきました。フェーズ1終了を目前に、ようやく慣れてきた業務のスタイルがフェーズの境目でどのように変わるのか不安でもあります。楽しみでもあります。

**Hamissou Maifada / 秘書**

このプロジェクトでの3年間の職務を通じ、自分の専門分野に加え、他の分野における能力を身に付けることができました。とりわけ、民主的なCOGES連合の設置のために実施した研修、ラジオ番組を使つての啓発活動を通して、さまざまな力を身に付けることができました。さらに、プロジェクトを紹介するビデオの民主選挙と学校活動計画を立てる場面で、主役を演じることができました。このプロジェクトは住民の行動を変えただけでなく、彼らに他の住民活動へ挑戦する武器を与えたと思います。



頼りになる事務所警備員、アジズさん



サボリ気味の掃除夫、オマルさん



どんな僻地もお手の物、我らが運転手、オマルさん、アダムさん、イブラヒムさん

# プロジェクト第2フェーズ解説

| プロジェクトの要約                                                   | 指標                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>上位目標</b><br>住民参画型学校運営により基礎教育の質とアクセスが改善される                | 就学率の変化<br>留年率の変化<br>中退率の変化<br>卒業試験合格率の変化                                                                                                                                    |
| <b>プロジェクト目標</b><br>全国に機能するCOGESを設置、維持するためのCOGES政策実施体制が強化される | 1 民主的選挙を通して設置されたCOGES数<br>2 学校活動計画を策定したCOGES数、計画実施率                                                                                                                         |
| <b>成果</b><br>1 すべてのレベルにおけるCOGES関係者の能力が開発、強化される              | 1-1 COGES政策にかかる地方教育行政官の理解度や意識のレベル<br>1-2 導入研修に出席した関係者の数<br>1-3 研修を受けたCOGES監督官、担当官の数<br>1-4 各州で策定された研修計画数<br>1-5 COGES設置研修を受講した校長の数、及び学校活動研修を受講したCOGES委員の数<br>1-6 COGES戦略の改善 |
| 2 持続的なCOGESモニタリング体制が構築される                                   | 2-1 マニュアルが改訂される<br>2-2 COGES連合モデルの承認<br>2-3 設置されたCOGES連合の数<br>2-4 月例会議が定期的に行われる<br>2-5 COGES監督官の報告書が定期的提出される                                                                |
| 3 コミュニティーベースの教育開発モデルが学校活動計画支援によって確立される                      | 3-1 タウア、ザンデル州のいくつかのCOGESに対する学校活動計画実施支援<br>3-2 タウア、ザンデル州において経験シェアリングセミナーを開催する。                                                                                               |

**ニジェールの学校で学ぶ子どもたち・・・みんな学校が大好き！！**



**•Ecole Pour Tous•  
Phase II**





# みんなの学校、ニジュール全土へ展開中

## はじめに

これまでに「みんなの学校だより」でお伝えしてきたように、現在ニジュールでは、プロジェクトが開発、実証した機能するCOGESモデル（COGESミニナムパッケージ）を全国に広げるといった活動が展開されています。この活動については、世界銀行が全国普及にかかる資金を提供していることもあり、JICA技プロの成果が世銀の資金援助で面的に拡大するというドナー間の連携の好例として積極的に広報されています。このように関係者間では、ドナー間の連携事例として注目を浴びているようですが、ニジュールで進行中の全国普及活動は、ニジュール政府、ローカルNGO、JICA、世界銀行の四者の連携によって実施されており、関係者にとっては過去に比類のない規模の事業を展開しているという点で、ドナー間の連携だけでなく、様々な教訓や知見を提供しうる貴重な経験であるといえます。本稿では全国普及の進捗状況も含めて、これら一連の活動と経験の意義とそれが示唆する事柄について考えてみたいと思います。

## 全国普及の進捗状況

まず、今回の機能するCOGESの全国展開の実施体制について説明します。今回の全国普及活動は世銀が国民教育省へ資金提供を行い、同省は技術及び実施支援のパートナーとして現地NGOであるONENと業務委託契約を結んで事業を実施しています。ONENは対象各州にファシリテーターを一名ずつ配置して、州レベルでの研修計画策定や準備及び実施についてCOGES監督官や州国民教育局長（DREN）をサポートします。みんなの学校プロジェクトは、全国展開実施において機能するCOGESの研修モジュールの提供及びCOGES担当官及び関係行政官に対する講師養成研修や



ニアメで開催されたDREN関係者による全国普及経験共有・準備会議の様子

研修準備会議などの実施を通して全国展開の活動を側面支援しています。

6月に全国の州国民教育局長（DREN）及び関係行政官を招集してニアメで開催した機能するCOGESの全国展開にかかる準備会議を皮切りに、7～8月には対象6州でミニナムパッケージの第1の要素であるCOGES設置の為に民主選挙研修が各小学校の校長を対象に実施されました。夏季休暇の時期で本来ならば教員はじめ多くの行政官が休暇に入る時期でしたが、結果的には6州全体で96.5%という高い研修実施（受講）率となりました。また、研修の結果、各学校にて選挙によるCOGESの設置が実施され、その議事録が回収された割合は6州全体で85.4%でした。多くの学校が砂漠地帯に位置し、行政機関との連絡体制に困難を伴う地域では、議事録の回収が遅れているほかは、ほぼ当初の目的を達しているといえます。各州における10月末時点での結果は表1（次ページ）のとおりです。

9月の中旬には再度各州の国民教育局長及びCOGES監督官、担当官を召集して、COGES選挙研修の結果報告や経験の共有、さらに今後予定されている学校活動計画/簡易財務研修に向けた準備のための会議が開催されました。11月現在、対象6州では、学校活動計画/簡易財務研修が実施されている最中で、来年1月上旬を目途にこれらの研修は完了する予定です。

## これまでの経験から得られる教訓

9月に行なわれた州国民教育局長（DREN）及び関係行政官との会議の場においても、各州における活動の結果と共にそれに伴う経験と引き出された教訓が報告され、関係者間で共有されました。6州で実施した選挙研修の結果は既述のとおり、期待以上の結果であったといえることが出来ると思います。対象6州で合計6836校の小学校の校長を対象にした研修を1ヶ月という短期間の中で州内をコミュニティ毎に巡回しながら実施するという事業は、ニジュールの関係行政官もこれまでに経験したことのない画期的で大規模なスケールの活動であったと言えます。成功の要因は、様々考えられますが6州の経験から言えることはDRENの活動に対する理解、そしてイニテアティブと関与が非常に重要であるということです。今回の全国普及の活動の中で、各州において中心的な役割を果たすのは各州に一名配置されているCOGES監督官及び



ニアメで開催されたDREN関係者による全国普及経験共有・準備会議の様子

NGOのファシリテーターそして研修の実施準備や講師を務めるCOGES担当官ですが、彼らの活動を指揮監督する立場にいたるのがDRENであり、このDRENのイニテアティブや関与が高く各方面に働きかけを行なったところほど研修の成功率は高いということが分かりました。もしCOGESに関する活動がCOGES監督官とCOGES担当官の業務責任範囲であることから、他の行政官が関知する必要が無いという態度であったならば、恐らくここまで成功はしなかったと思われるかもしれません。なぜなら研修がスムーズに行なわれた州ほどDRENが各視学官、指導主事、その他州教育局の行政官にも研修の意義と重要性を伝え、州を挙げた活動として人員や必要となる機材（移動のための車輛やバイク）を動員することが出来たからです。

次に重要と思われる要因は適切な情報の伝達です。ニアメでの準備会議において研修の意義や重要性を初めとして、実施にかかる企画準備など詳細に渡って議論をしたことも、スムーズな研修実施に繋がったと思われます。というのは、従来ドナーの援助等によって行なわれる活動は、教育省など行政が主体となって実施するよう求められていますが、活動の実施に不可欠な情報が中央から現場の地方行政まで伝達されないことが多いのです。

タウア州の現場においてもよく見られたことですが、教育省は公電数枚を州国民教育局にFAXするので、活動の意義や具体的な実施体制や準備事項などについての指示がほとんどなされず、現場は混乱したまま、成果が出ないことが分かっていながら形だけでも実施するというような活動が非常に多いのです。このような事態を避けるため

## COGES民主選挙研修結果及びCOGES設置進捗状況（表1）

2007年10月末現在

| 州     | 対象校数 | 研修受講済<br>校長数 | 研修受講率  | COGES設置議<br>事録回収数 | 議事録回収率 |
|-------|------|--------------|--------|-------------------|--------|
| アガダス  | 364  | 270          | 74.18% | 77                | 21.15% |
| ディファ  | 396  | 327          | 82.58% | 65                | 16.41% |
| ドッソ   | 1802 | 1774         | 98.45% | 1554              | 86.24% |
| マラディ  | 1911 | 1911         | 100%   | 1911              | 100%   |
| ニアメ   | 493  | 445          | 90.26% | 362               | 73%    |
| ティラベリ | 1870 | 1870         | 100%   | 1870              | 100%   |
| 合計    | 6836 | 6597         | 96.50% | 5839              | 85.42% |

にも、中央でまず関係者を招集して活動の意義や実施プロセスについての情報をきめ細かく伝達し、また現場の責任者が参加型で具体的な準備の進め方について議論を行なったことが功を奏したといえます。

一方で、様々な困難や問題にも直面する州もありました。例えば、州国民教育局のPADEB（世銀による基礎教育支援プロジェクト）会計担当者との調整不足によって研修実施資金の引き出しが大幅に遅れたり、一部の州において国民教育省が予算計上していた見積額が不十分であったり、移動手段が不足したり、などです。これらの問題については、DRENが中心となり、州全体が一丸となって粘り強く問題に対処することで克服することが出来ました。また、中央と地方との調整連絡においても、国民教育省内での



COGES推進室の指揮及び調整能力の不足が露呈しました。というのも、教育省の序列からいうとCOGES推進室長の立場が州国民教育局長より下位にあり、各州で問題が起こった場合に同室長が問題解決のために州局長に介入し問題解決する直接の指揮命令権限がないのです。しばしば委託先であるONENが介入して問題解決せざるを得ない状況もあり、教育省内の指揮系統という点で課題も残りました。

### セクターアプローチへの教訓

最近の世銀など大手ドナーの援助の傾向を見ると、行政を飛び越えて、直接現場レベル（学校や住民）への裨益を狙ったアプローチが多いように見受けられます。能力や体制基盤が脆弱でかつ不正が横行する既存の行政を介する援助、あるいは行政の能力強化を伴った援助が非効率で成果が上がらないことに対する一つの回答なのだと思います。しかしながら、今回のCOGESの全国展開という活動を通して言える事は、ニジェールの行政にもこれだけの大規模でインパクトのある活動を実施できる能力があるということです。冒頭に紹介したように4者の連携による活動とはいえ、活動の中心を担ってきたのはニジェールの行政です。活動を実施するにあたっての適切な情報の伝達、特に活動の意義や重要性をその

将来的なビジョンとともに関係者に正確に伝えることと具体的な活動の道筋を示すことが地方の行政官を動かす上でとても重要であり、成功の要因であると述べましたが、これまでの非効率で成果が上がらない多くの活動にはこの視点が欠けていたといえるかもしれません。つまり、ニジェールの行政には能力が無いのではなく、必要不可欠な情報が行き届いていないのです。もちろん本来ならばこういった情報やきめ細かい指示は中央から地方へと伝達されるべきですが、中央の役人は具体的で的確な指示を出せるほど現場の実情に精通していないのが実状です。そういう意味で今回みんなの学校プロジェクトが現場の経験をもとにCOGESモデルの普及という活動のコンポーネントだけでなく、その全国展開のロジスティックも含めた具体的なオペレーションにかかる現場の実情に即した技術支援に注目したこと、そしてそれに基づいて、ニジェールの行政が実施能力や潜在能力を示すことが出来た意義は非常に大きく、財政支援やセクターアプローチのあり方にも一石を投じるものであると思います。

COGESモニタリング担当 尾上公一



# マリ、ニジェール地方分権化比較

11月1日より12日まで、マリ国学校運営委員会支援プロジェクトの第1次事前調査にみんなの学校プロジェクトの原、尾上両専門家が参加しました。調査は、マリ側の積極的な協力もあり、実りおおいものとなりました。また、両専門家にとっても調査を通じ、マリ、ニジェールにおける地方分権化、学校運営委員会の実態を比較する機会を与えられ、改めて、地方分権化と住民参加との関係性など根本的な問題を考えなおすことができました。以下は、その成果です。

## 1) 地方分権化政策

### 地方分権化、分散化組織

教育地方分権化政策は、教育行政に関する権限の中央から地方への委譲を骨子とする。マリでは、中央とは教育省であり、地方は州政府、県庁、市役所を指す。教育分野の地方分散化組織としては、教育行政システムの再編で創設された州レベルの「Académie: AE」と県レベルの「Centre d'Animation Pédagogique: CAP」がある。分権化組織と分散化組織の関係は、分権化組織が権限を授与され、それを行使し、その行使にあたり、分散化組織が技術支援を行うという構図となっている。教育分野の分散化組織であるAEやCAPの主要な役割は、各レベルの教育機関に対する教育面の指導と規定されており、地方分権化政策におけるその役割は、州政府、県庁、市役所などへの技術支援に限られている。

ニジェールの場合も、マリと同様に地方分権化組織と教育省の分散化組織が存在する。構造は、ほぼ同じだが、分散化組織の名称は、州レベルが国民教育省州事務所（DREN）、県レベルは、視学官事務所（IEB）とよばれ、各レベルの教育機関に対する教育面の指導の他に、教育に関する権限を多く保持している。

### 両国の教育地方分権化の特徴

教育の地方分権化において、通常使われている権限委譲の種類の種類では、マリの場合、技術、スケジュールを除き、知識、権力、人員、財務のすべてが、その一部の権限を地方自治体（小学校の場合は、コミュニティ）に委譲されることが予定されている。これは、他国、例えば、ニジェールなどに比べて、地方自治体への権限の委譲の度合いは大きい。ただし、ニジェールの



ニジェールの学校運営委員会総会

場合は、コミュニティではなく、学校レベルへのより大きな直接の権限の委譲を予定しており、両国の地方分権化はその指向している方向性が異なっている。

### 地方分権化の現状

マリの地方分権化政策のコミュニティレベルにおける権限委譲は、人員（教員）と資機材（教材、教具）が予定され、現時点では、文房具等の購買費教室建設費が供与され、その管理責任を負っている。両資金とも世銀の資金で、2010年までの3年間で教室建設に2200万ドル、文房具購入費に400万ドルの支出を予定している。教育分野の地方分権化には多くのドナーがかかわっているが、実際に資金を供与し、政策推進の中心となっているのは世銀である。世銀の地方分権化に対する姿勢は、資金流通プロセスでの消失を防ぐため、資金を裨益者のできるだけ近いところに供与するというもので、資金補助金も小学校が一番近い市役所からの供与となっている。このシステムが機能しているかについては、世銀も現状を十分に把握していない。この状況に象徴されるように、マリの地方分権化の現状は、法令などでシステムを規定しつつ、その機能化の実証を行っている段階であると言える。ニジェールの場合も、人員、資機材の決定の権限は、分散化組織に留まっており、学校レベルへの権限の委譲は、教科書の管理、人員管理の一部と将来的には運営費及び、運営管理の権限の委譲が予定されている。この権限の委譲も世銀が深く関わっている。しかし、政策的にもマリのように確定された方向性があるわけではなく、権限委譲スケジュールもない。また、地方分権化組織と分散化組織の関係も明確ではなく、今後、その形が形成されていくものと思われる。

## 2) 両国の学校委員会の役割

### 定義、位置づけ

マリは2004年に、ニジェール2005年に法令により、すべての学校に設立することが義務付けられた。定義は、両国ほぼ同じであるので、マリの場合を紹介する。「学校運営委員会は学校の発展と運営に向けて、対話、協議と実施の組織である。宗教から独立し、政治色がなく、公



マリの学校運営委員会の委員

立で、加盟自由、連帯、民主的な運営、学校生活への自発的な参加を原則とした「共同組織」である。学校運営委員会は、教育活動を成功に導く風土を作り出すために、学校プロジェクトを通してコミュニティの教育、社会、経済ニーズに応えることを目的とする。（GUIDE PRATIQUE DE LA GESTION DE L'ECOLEより）」となっている。定義付けで、両国の学校運営委員会の違いは、マリの場合、「地方自治体より協定書により一部の権限の委譲を受けたCGSIは、学校発展のための考察、対話、協議を促進する。」とされており、権限委譲を受けるのが、地方自治体であること、したがって、地方自治体の下に属する組織であることが前提となることを留意しなければならない。これに対し、ニジェールの学校運営委員会は、分散化組織であるDREN, IEBの管轄下にあり、地方分散化組織との関係性は非常にあいまいである。

### 役割

学校運営委員会での両国の違いは、あまりみられない。基本的には、学校運営に関連する関係者間の連絡を計り、学校の問題を分析し、解決策を模索していくのが主な役割である。違いは、権限の委譲として、ニジェールの場合、教員の管理（精勤）、教科書の管理等、カリキュラムの作成への参加などが予定されていることである。保護者会との関係では、マリは明確にその役割分担を規定している。規定によると主に、学校運営委員会は、住民への啓発活動を担当し、保護者会は、住民からの教育改善活動に関する動員を行うこととなっている。ニジェールの場合はその規定が曖昧である。

# マリ、ニジェール地方分権化比較 両国の学校運営委員会

| 国名       | マリ                                                                                                                                                                                                                                                                           | ニジェール                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 正式名称     | Ccomité de Gestion Scolaire CGS                                                                                                                                                                                                                                              | Comité de Gestion des établissements scolaires COGES                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 創設       | 「教育の地方分権化の枠組みで、すべての学校において、CGS：学校運営委員会と呼ばれる参加型の組織を創設する」[法令93 008]の第9項（1998年）<br>「CGSと名づける運営組織をすべての学校に創設する」[法令第04 0469/MEN SG 2004]2004年3月」                                                                                                                                    | 1998年の教育基本法で、すべての学校に運営のための委員会を創設することを示唆し、2002年「教育開発10ヵ年計画」で学校運営委員会の設立を決定。2003年、学校運営委員会の概要についての法令を公布。2005年に全国の学校に学校運営委員会を設置することを法令によって規定。                                                                                                                                                                                 |
| 構成       | 校長 1名<br>教員代表 1名<br>生徒代表 1名<br>保護者会の代表 2名<br>その他、市民社会代表、コミュニティー代表も含め、11名まで                                                                                                                                                                                                   | 校長 1名<br>教員代表 1名<br>生徒代表 1名<br>保護者会の代表 3名<br>母親会代表 1名<br>計 7名                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 選出方法     | 民主的な選出（選挙ではない場合が多い）                                                                                                                                                                                                                                                          | 民主選挙                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 所管機関、担当者 | 市役所（教育評議会）、<br>技術支援は、AE（州）、CAP（県）                                                                                                                                                                                                                                            | 教育省分散化機関、COGES監督官（州）、COGES担当官（県）                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活動計画     | Projet d'école                                                                                                                                                                                                                                                               | Plan d'action d'école                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| モニタリング   | 市役所（教育委員会）                                                                                                                                                                                                                                                                   | COGES担当官、COGES連合                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 財源       | 共益費、寄付、供与、補助金、分担金、融資、収入創出活動の利益                                                                                                                                                                                                                                               | 共益費、寄付、供与、補助金、分担金、融資、収入創出活動の利益                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 役割       | 学校や学校を取り巻く真実のパートナーシップを創造する<br>学校プロジェクトを作成し、実施する<br>総会で承認された書類（特に学校プロジェクト）を地方自治体に提出する<br>地方自治体によって承認されたプログラムの活動を実施する<br>活動のモニタリング、評価を行う<br>学校生活についてのすべての問題を分析し、解決策を提案する<br>学校の内部規則の適応を保証する<br>学校校舎の維持管理を保証する<br>学校の供与機材、サービス、学校生活の質を保証する<br>新入生登録（入学）を準備する<br>学校開発計画の策定、実施を行う | - 保護者、教員、児童他、様々な学校の関係者間の調整を図り学校内での平安と平穩を保障する<br>学校活動計画の作成、実施・モニタリング・評価を行う<br>児童と教員の精勤さについての管理とモニタリングを行う<br>就学、特に女子の就学促進活動の企画準備を行う<br>児童の勉学と生活の環境や学習の質の改善を目指した活動に参加する<br>学校の教科書、学用品の受け入れ管理を行う<br>学校のインフラ、備品の維持管理を行う<br>学校給食用の食糧の管理運営を行う<br>特別カリキュラムの作成に参加する<br>教員自主研修（CAPEP）組織に参加する<br>学校の保健衛生の改善に参加する<br>学校環境の浄化と安全確保を行う |

## モニタリング

学校運営委員会のモニタリングは、両国では大きく違う。これは、学校運営委員会の管轄が、マリの場合、地方自治体（小学校は、コミューン）で、ニジェールの場合、教育省にあることに由来する。ニジェールの場合、州レベルにDRENとCOGES監督官、県レベルにCOGES担当官という行政官が任命されており、彼らが、学校運営委員会のモニタリングを担当する。マリの場合は、小学校の学校運営委員会は、コミューンの市役所の中で、教育担当の議員を中心に構成された「教育委員会、Commission éducative」が担当することになっている。

## 学校運営委員会の現状

以上、マリとニジェールの地方分権化政策と学校運営委員会の制度面での違いを見てきたが、現場の状況は果たしてどうであったのだろうか？

マリでの現地調査を行なった結果、結論として言えることは、ドナーの介入地域以外ではCGSは十分機能しているとはいえない状況である、ということである。今回の調査では、18校のCGSに対して調査を行ない、「透明性」「計画性」「動員力」「モニタリング」という4つの観点から学校運営委員会の機能度をみた結果、以下のことが判明した。

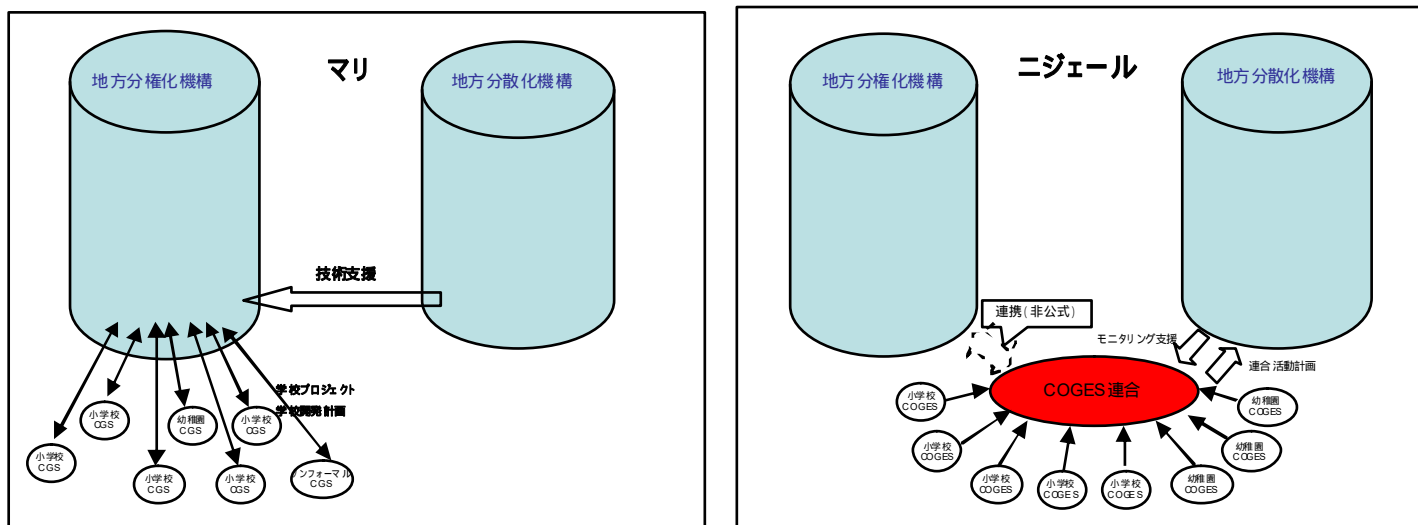
### 1. 活動・運営の透明性

多くのCGSでメンバーの定期会合は開催されているものの、住民集会の開催度、地域住民の参加度は低い。メンバー間の情報共有が出来ていても、CGSと地域住民との間の情報共有が不十分。

地方分権化政策におけるCGSとAPEのそれぞれの役割について、CGSメンバーだけでなく教員、地域住民の理解が不十分であった。多くの学校においてAPEとCGSとの間に軋轢が見られた。つまり、APEが徴収した親からの分担金をCGSの活動に使うことに対して、APEが拒否感を示



## マリ、ニジェール地方分権化の構造の比較



し、CGSとAPEの連携が取れていないケースが散見された。

### 2. 活動の計画性

マリのCGS政策においては、CGSレベルで学校プロジェクトという活動計画を策定することになっているが、ほとんどのCGSではこの学校プロジェクトが策定されていなかっただけでなく、学校プロジェクトの概念そのものを理解していなかったり、策定実施のプロセスに係る研修も受講していない状況であった。

学校プロジェクトを策定していた学校でも、数活動が策定されかつその予算規模も莫大で外部からの資金援助を想定した活動計画であり、「プロジェクト」という言葉が、大掛かりなパートナーを巻き込んだ活動計画という固定観念を植え付けている可能性がある。いずれにせよ、住民のニーズと能力に応じた、身の丈にあった活動計画を策定しているCGSはほとんど見られなかった。

### 3. 住民参加と動員の度合い

CGSメンバー設置時には住民集会を開催して選出したところがほとんどであったが、ニジェールの民主選挙(無記名記入投票)方式でメンバーを選出したCGSは皆無であった。推薦または自薦での立候補に対して、挙手による選挙あるいは、集会の承認という形で選出したところがほとんどである。設置集会では、児童数に比して参加した保護者、住民は比較的少ないといえ、さらにCGSの役割意義が十分説明がなされていないようであった。CGS設置以前にもAPEが比較的活動を行なっている例(教室や机の修復など)が見られた。しかしながら、CGSの設置以降、関係者がCGSとAPEとの役割の違いについて理解していない為、CGSとAPEがそれぞれ異なる活動を行なっている例が多く見られた。つまり、住民

の動員力があるにもかかわらずAPEの関連性が薄い為にはCGSが上手くその動員力を活かしきれていないという状態である。

### 4. CGSに対するモニタリング

CGSに対する外部モニタリングの存在を調査した結果、本来CGSをモニタリング管理すべきコミュンレベルにおいてもCAPレベルにおいてもCGSに特化したモニタリングは行なわれていなかった。CGSの設置の際のときのみ、マリ政府が予算措置を取ってコミュンの担当者を各学校に派遣しCGS設置を支援を行ったが、その後のモニタリングなり、研修の実施は、ドナーの介入地域以外には行なわれていないことがわかった。また、CGSを監督すべきコミュンの教育担当評議員及び教育委員会のメンバーもCGSと彼らの権限等について理解が不十分であり、CAPとの連携についてもほとんど行なわれていない状況であった。

さらにこれらCGSの機能不全の要因を分析すると以下の点に纏められる。学校関係者(教員、保護者/地域住民、コミュン関係者、CAP)のCGSの意義役割 活動内容に対する理解が不十分である CGSメンバーの学校運営にかかる能力が不十分である。特に学校運営に住民を巻き込む必要性への理解及びその具体的な手法に係る知識と技術に乏しく、地域住民の学校改善に係るニーズや参加へのモチベーションは高いにもかかわらず住民参加の度合いが低い状況である。関係行政機関によるモニタリングが欠如しているだけでなく、関係者のCGSに対する理解度も非常に低い。

したがって、プロジェクトは上記の3つの問題点を解決することで、CGSの機能化を図ることが目標とされる。

このようにマリの地方分権化政策と学校運営委員会は制度上は立派に構築されているように見受けられるが、現場レベルで十分機能しているとはいえない。したがってCGSも形ばかりの存在となって、委員も自分たちの役割を認識していない。しかも彼らに対して助言指導行なう立場の行政官たち(コミュン及びCAP)もよく自分たちの役割を理解していないあるいはそのノウハウを持っていないという状況である。これは、ニジェールにおいてプロジェクトが介入する以前のCOGESあるいは、プロジェクトが介入していない地域のCOGESと同様の状況であるといえる。

これは多くの場合、地方分権化政策が影響力のあるドナーの顔色を伺っている官僚や彼らの手のかかったコンサルタントが中心になってトップダウンで観念的に作り上げられており、具体的な現場での実証に基づいて作られたものではなく、既存の行政体制や能力に見合ったものではないためである。あるいは少なくともそのようにトップダウンで作られた政策を具体的に施行するためにどのような行政体制を構築し、現場レベルに浸透させ維持していくかというビジョンもないままに政策が一人歩きしている状況であるといえる。もちろんトップダウンの政策であれ、それが制度として試行錯誤され改善を繰り返してようやく現地の実状に合ったものに進化していくべきなのだと思われる。この意味でも現場で物事を推進し、中央に向け政策提言できるプロジェクトの意義は非常に大きいといえる。

改善の必要性大いにあり！

# 教員の質を考える



「教員になるための研修？いえ、受けたことないです・・・」

これは、今年4月（少し前の話ですが・・・）、PDDE（ニジェール国教育開発10ヶ年計画）現地調査のために、とある小学校を訪れた際、契約教員として働いている青年の口から出た言葉です。

「教員なのに一度も研修を受けたことがないの??」筆者はその衝撃を隠しきれませんでした。

「研修を受けないで、一体どうしたら教員として働けるの?」「一般の人が教壇に立つのと、何が違うのか?」「彼に教える資格などはたしてあるのだろうか?」という質問がのど元まで出かかりました。それ以来、学校における「教育の質」について、悶々と筆者は考えていました。しかし、彼のケースは氷山の一角であり、教育の質はニジェールのみならず、多くの国で見られる共通の問題となっているようです。

1990年に提唱された「万人のための教育」及び2015年のミレニアム目標達成を目指して、多くのサブサハラアフリカ諸国で教育のアクセスが改善されつつある一方、生徒受け入れ数が急激に増加したことにより、深刻な教室数、教員数の不足などの問題が起きています。また東南部アフリカなどのHIV/エイズが蔓延する国々では、教員自身もHIV/エイズのために命を落とし、教員不足は深刻化する一方です。UNESCO統計研究所によると、サブサハラアフリカでは2015年までにあと**160万人**の教員が必要ともいわれます。

各国教育省も教員数を増加させ、「先生のいない教室」を減らすための様々な努力を行っていますが、「量」の確保に追われ、教員になるための適切な研修を提供できないことから、上記のように普通の若者たちが、突如「先生」として教壇に立つ姿が見られるようになるなど、いまや教育の質が大きな問題となっています。

通常、教員のための研修は、大きく分けて①教員になるための養成研修と、教員なってからも能力向上のために実施される研修（現職教員研修）の2つがありますが、サブサハラアフリカの多くの国では、現職教員研修制度そのものが存在しない国や、研修制度が存在していても、研修講師の質、教材の質、研修実施のための予算不足等、様々な理由により研修制度自体が機能していない国が多くあります。残念ながらニジェールは、その国の一つといえるでしょう。

今回のニュースレターでは、このような現状に対処するために、サブサハラアフリカでICTを利用しながら教員研修を広域展開しているTESSAの活動紹介及びニジェールにおける教員研修と校長研修の可能性について特集を組みました。

## ニジェールでは教員の半分以上が契約教員

ニジェールでは生徒の急激な増加に対応するために、2003年より教員養成校の研修期間を2年間から1年間に短縮しました。しかしながら、それでも教員数は必要数に満たないこともあり、ドナーの支援によって「45日間即席研修」を受講した“即席先生”が多く誕生しています。

また、教員数増により教育予算が圧迫されたことから、国で雇用されている正規教員よりも待遇の低い“契約教員”制度を導入、いまや、その数は正規教員以上となりました（図1参照）。一方、他国では生徒の親が即席教員として働いているケースも多くみられるようです。



タウア州小学校授業風景

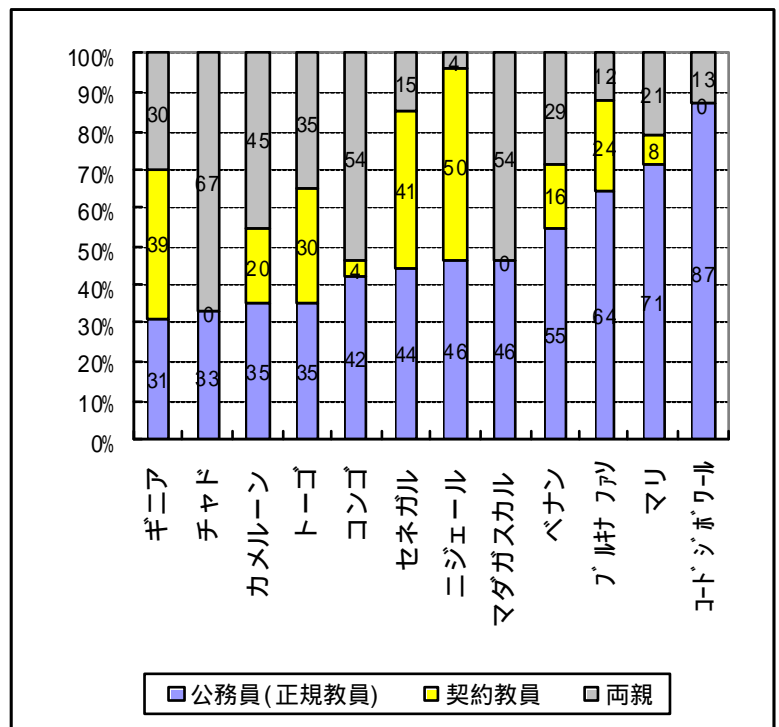


図1: 中西部アフリカにおける初等教育教員の形態別分布

出典: UNESCO Institute for Statistics (2006)



## ICTを通じたアフリカ現職教員研修パイオニア

皆さんは「TESSA」をご存知ですか？この言葉にピンと来たあなたは現職教員研修あるいはICTと教育のスペシャリストに違いありません！（え、ICTを知らない？分からない人は上司に聞いてくださいね。）

TESSAとはTeacher Education in Sub-Saharan Africaの略で、英国のオープン・ユニバーシティ（the Open University：OU、通信教育大学）とケニアを拠点としているアフリカ・バーチャル・ユニバーシティ（the African Virtual University：AVU）が中心となり、2005年に設立されました。現在は、主に英語圏アフリカ諸国の国立大学、通信教育大学（注1）を通じてITによる初等・中等教員現職教員を実施しており、近い将来、仏語圏アフリカ諸国での研修実施を開始する予定です。また、AVUは現職教員研修についてNEPAD、アフリカ開発銀行、国連開発計画とも協力関係にあり、サブサハラアフリカにおいて、現在9カ国、18の大学と提携して研修を実施しています。

10月にニジェール国民教育省を訪問するために来二したTESSAの方々と、ニジェールの現職教員制度について議論する機会がありました。時代の最先端をいくTESSAの活動について皆さんにご紹介します。

TESSAはOUで実施しているプロジェクトの一つであり、サブサハラアフリカにおいて、正規教員資格を持たない教員、あるいは不十分な資格しか保持していない教員に対して適切な資格を得ることのできるコースや、より上の資格が取得できる研修プログラムを提供しています。教材はアフリカで広範に使用されている5つの言語で作成され、読み書き、算数、科学、生活技能、社会学習の5教科、3モジュールに分かれています（図2参照）。また、必要とされる教材は無料でインターネットからダウンロードでき、学習内容を補完するオンラインサービスを提供しています。研修は学校をベースに実施され、教室で教材をすぐ可以使用できるようになっています。

### なぜサブサハラアフリカでICT?

公共インフラもままならないサブサハラアフリカで、なぜICTなのか？と思う人もいでしょう。

TESSAのスタッフに言わせれば、「アフリカだからこそ、ICTを利用した研修が必要」なのです。なぜならば、サブサハラアフリカの国々では、研修講師の能力が不十分、教材が古すぎて現在のニーズにそぐわない等、改善すべき点がいくつもあることから、教員のための研修を開始するまでの準備に非常に時間がかかります。一方、ICTを利用すれば、直接学校の教員にたいして研修を実施することから、研修講師育成にかかる時間がある程度節約でき、また、画一的な内容の研修を実施することで一定の質を保つこと、空間の制限がないことから、研修受講者は何人でも対応できる

等のメリットがあります。また、新しい教材も簡単にデータ更新できることから、教員たちは常に新しい情報入手することが可能となります。この手方により、適切な研修を受けた教員を短期間で多く輩出できることから、まさにサブサハラアフリカにおける課題 - 質の確保及び教員不足の解消 - が解決できることになるのです。

### ニジェールにおけるTESSAアプローチの可能性は？

ではニジェールでの教員の質を改善するために、このアプローチは有効な手段となり得るのか、検証してみたいと思います。

通信事情の点から考慮すると、首都ニアメ以外の地域でも、中国などの進出により、州都一部地域で無線LANが使用できるようになりました（余談ですが、タウア州には本サービスはなく、当プロジェクトのタウア事務所は未だに電話回線を使用しています。）長期的視点で考えた場合、インターネット環境は徐々に整備されていく可能性が高いことから、一部地域ではこのアプローチによる研修実施が可能かもしれません。

なぜ一部地域なのか？それは電気の供給がある地域で、OA機器の保管しやすい場所が提供できる所であればならず、砂漠の国ニジェールでは、この条件を満たせる小学校は決して多くないのが実情だからです。

比較的生活環境が整っている町中の小学校で研修が実施できるよう整備し、他の小学校の教員が定期的に通う、つまりは教員が州都まで来る交通費が捻出できれば、TESSAのアプローチによる現職教員制度の確立も考えられるかもしれません。

しかしながら、現在ニジェールの現職教員制度でネックとなっているのが、まさに交通費の確保なのです。わずか年2,3回の研修のための教員の交通費すら国民教育省は捻出できず、ドナーの支援がある一部地域でしか研修が実施されていないのが実情です。また、インターネットでダウンロードできる無料のはずの教材も、紙代、インク代等を工面する

ことも決して容易ではありません。これらの費用捻出も難しいことから、このアプローチでは遠い道のりのようにも思えます。おそらくパイロットとして実施することは可能でしょうが、汎用性・持続性を考えると、現状の国家予算では対応は困難と思われる。

そうは言っても現状を放って置くことはもちろんできません。時間を要するかもしれませんが、対象者を変えてTESSAのアプローチで研修を実施することも代替案として考えられます。ニジェールにおいて現職教員制度を支援する国立大学

は現時点ではありませんが、各州、県の視学官事務所等で働く教育行政官を養成するための高等教員養成校が首都ニアメに1校あります。ここの学生は皆、教員経験者であり、教育行政官となるための研修を1年間学習します。コース終了後は指導主事として現場に配置され、現職教員研修を支援する責務を負うことから、彼らの在学中に研修を実施し、現場赴任後に学校を巡回しながら学校の教員へ指導するアプローチも検討できます。ただ、100%の研修の質の確保は困難となること、指導主事の巡回にかかるバイク・ガソリン代の確保も課題として残ります。

あれもだめ、これもだめではニジェールの現職教員制度には未来がないように思えます。しかしながら、TESSAが長年の経験を蓄積して作成した教材のみを利用する手もあります。元来、学校ベースに利用できる内容であることから、5分野からなるモジュールのうち、ニジェールの状況に見合った内容で、かつ最小限のものを抽出し、コピー代のみをCOGESの学校活動計画に入れて支援することとし、各学校で自主的に校内研修を実施することは可能かもしれません。

ニジェールに必要なアプローチとは、コストのかからない、シンプルで、かつ教員のモチベーションをあげるために効果が目に見えやすいものが適切であると思われます。

注：主な提携大学、パートナーはOpen University Tanzania, University of South Africa (UNISA), Makerere University, University of Zambia, Ghana University of Education., BBC World Service Trust, Commonwealth of Learning 等になります。

### 参考文献等

・ Teacher Supply and Demand in Sub-Saharan Africa, (2006) UNESCO Institute for Statistics

・ <http://www.tessaprogramme.com>

住民能力強化担当 中澤順子

| モジュール: 生活技能 |                       |                                   |                          |
|-------------|-----------------------|-----------------------------------|--------------------------|
|             | 1. 習得にかかる自己評価インパクト    | 2. 社会背景での児童発達調査                   | 3. コミュニティーと市民権に関連した質問の研究 |
| 1           | どのように児童をよりよく知ることができるか | 社会ネットワークの探究                       | 市民権の条件                   |
| 2           | 身体的発達と児童発達に関連する研究     | 広義でのコミュニティー内での児童の立場による自意識を持つことの支援 | 男性と女性に関連する質問             |
| 3           | 健康的な生活について児童の考え方の研究   | 責任を持つ                             | 仕事と就労                    |
| 4           | 幸福感の向上                | 自己評価の研究                           | 環境破壊                     |
| 5           | どのように幸福感を向上させるか       | 衝突マネジメント                          | HIV/AIDS問題への取り組み方法       |

図2: TESSAの“生活技能”モジュール内容

教員経験年数ほとんどナシ、それでも校長先生になれる？

## 校長研修の必要性を考える ～校長の能力強化は喫急の課題～

### 校長研修 - COGES (学校運営委員会) イニシアチブによる校長能力強化研修

現在ニジェールの学校教員は、入学希望者・学校数の増加に伴って雇用された契約教員（正規の教員養成過程ではなく即席研修を受講）が多数を占め、校長さえ経験の浅い教員が任命されています。このような状況下、学校運営の地方分権化政策に伴い、各学校・COGESへの権限委譲は進み、校長の果たすべき役割は以前にも増して多様化しています。しかしながら、校長を対象とした継続的な研修制度は存在せず、校長の能力強化につながるはずの現職教員研修制度（CAPED）も全国的に機能していないのが現状です。

教員の質改善は「教育開発10カ年計画」（PDDE）の中でも最優先課題の一つであり、プロジェクトとしてPDDEテーマ別会合（教員養成・現職教員研修）に参加する他、教員養成・研修局及び他ドナー教育アドバイザーとの会合など、校長（教員）研修について協議を重ねてきました。

そして、9月初旬、みんなの学校プロジェクト事務所において「校長能力強化研修準備アトリエ」を開催しました。国民教育省教員養成・研修局（DFIC）局長をはじめ、現場経験の長い元視学官事務所長や現職の小学校校長、ベルギー技術公社の教育アドバイザーも参加した本アトリエでは、CAPEDの現状と問題点、学校改革において新たに求められる校長の能力及び校内・コミュニティにおけるその役割、さらには今後必要とされる新しい形の現職教員研修制度について議論することができました。ここでその内容を一部紹介します。

### 現職教員研修制度（CAPED）の問題点

研修の内容が理論中心で現場とかけ離れている上、現在はドナーからの資金援助がなければ実施されない状態となっています。研修内容及び実施体制の両方に問題があるため、新たな継続性のあるシステムの導入が必要であることが確認されました。



タウア州Ader学校授業風景

### 新しい研修の方法と内容

「学校」は教員指導においても基本となる枠組みであることや費用対効果の面から、一度に全教員を対象に研修するのではなく、まず校長を研修し、その後校内研修において他の教員に波及する方法が望ましいとの結論に至りました。また、研修においてある程度質を保つためにはモジュール（マニュアル）を利用することが効果的であり、その内容をより実践的なものにするため、現場に近い視学官事務所・学校レベルが策定に関わるべきであるとの意見が出されました。

基本的にモジュールは教員養成校での内容を補足するものですが、大切なことは、教員が実際の授業ですぐに使える実践的な内容にすることです。教室の整備、板書、質問の投げかけ方、児童の間違いの扱い方、教員の態度など日常にかかる助言も含みます。校長研修では、校長が授業やその準備における要所を理解し、各校で校内研修及び日頃の教員指導をできるようにすることが必要です。モジュールにはシミュレーションや図、漫画などを効果的に取り入れ、参加者がモチベーションを保てるように工夫をします。

また、校長の役割は管理運営者・教育者・教員指導者などの複数の役割がある上、学校の形態による業務の違い（村落部の一人教員の校長、都市部の担任クラスをもたない校長、複式学級を抱える校長など）にも配慮しなくてはなりません。

### 研修費用の確保

現状では国家予算で確保することも、（かつてのように）教員自身が研修費用を自己負担し続けることも困難であるため、COGESによる費用捻出の可能性が協議されました。研修が学校の質改善につながり、住民にとっても有益と感じられれば、学校設備への費用負担と同様に、COGESによる学校活動計画を通じた研修費用（校長の移動費など）負担も可能です。そのためには、まず、効果的な啓発活動により、関係者の理解を得ることが重要です。

### 研修の試験的実施

現職教員研修の試験的実施方法及び対象地域について協議を行い、以下の結論に至りました。

- ・行政の地方分権化政策と整合性がとれ、既に市役所（コミュニケーションレベル）と協力しているCOGES連合があることなどから、集団校長研修を行うグループの単位はコミュニケーションとする。



校長研修アトリエの様子 - 研修の在り方について白熱した議論が交わされました。

- ・試験的実施の対象は100校以下にする。
- ・対象校に關係する視学官及び教育指導主事の十分な関与が必要である。
- ・研修の試験的実施の關係者（講師など）にかかる支払い等の負担は当初のみとする。
- ・学校關係者（市、保護者会、COGES、COGES連合、校長）の効果的なコミュニケーションシステムを構築する。
- ・国民教育省、PTF（技術・財政パートナー）、リソースパーソンからなる委員会を設置する。同委員会が計画、予算確保、モニタリング評価を行う。また、同委員会は政令により定められる。（ ）
- ・試験的実施は教員養成・研修局の下で行う。

### 委員会（ ）の設立とこれから

今後、教員養成・研修局が中心となって、現職教員研修を改善するための委員会が発足される予定です。この委員会は、現場の意見を反映させ、現実に則した制度を策定していくとの見地から、国民教育省関係者だけでなく、現職教員やドナー関係者も含まれています。研修の企画段階から中央が絡むことによって、準備作業がスピードダウンしたり政治的になってしまうことへの懸念もありますが、研修が公式化されることによって、将来的な全国展開は容易になることが期待されます。

教員養成・研修局より当プロジェクトにも同委員会への参加要請が出ているため、機能するCOGES政策を支援する上で、校長の能力強化は必要不可欠であるとの見地から、当プロジェクトも委員会の会合に積極的に参加していく予定です。

JICA個別専門家養成研修員 近藤奈々



# コミュニティ幼稚園普及の現状

2006年初めタウア州にて、産声を上げた“みんなの学校プロジェクトアプローチによる「機能する」COGES（学校運営委員会）を通じたコミュニティ幼稚園”。それはわずか3園からのスタートでしたが、昨年2006/2007学年度には10園が加わり、13園にての実施となりました。全13園が対象とした児童数は928名に上り（女子507名、男子421名）、総計20名のコミュニティ保育者と42名の住民ボランティアが各園にて活躍してきました。コミュニティ幼稚園活動関連に対する住民からの動員においては、クラス・トイレ建設、クラス活動ボランティア等への労働提供に加え、COGESあたり平均74,300Fcf（約2万円）の資源投入が実現しました（注1）。そして、今年2007/2008学年度にはさらに14園の新規を迎えることとなり、合計27園にまで広がっています。また各COGESによる園児の募集が続いており、正確な児童数は出ていませんが、最終的にはおよそ1600名の子どもの通園が見込まれています。

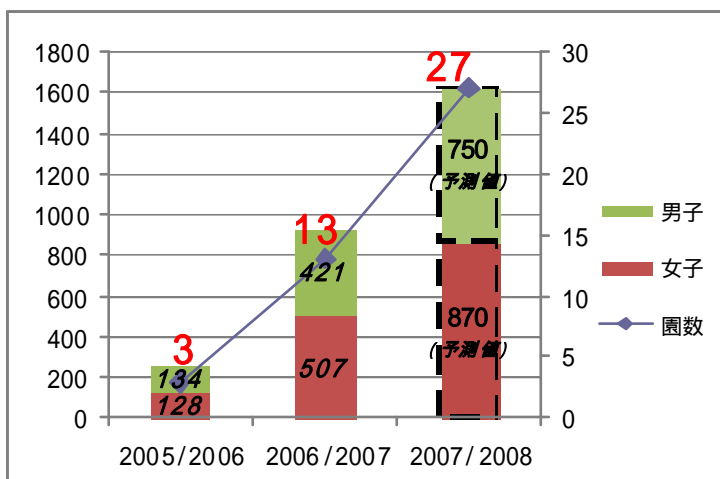


図1(上)：タウア州内EPT型コミュニティ幼稚園数および対象園児数の推移

就学前教育施設就学率が1.6%（2006/2007年度値）しかない（かつ、農村部の数値ははるかに低いと推定される）ニジェールにおいて、プロジェクトによるパイロット指定でもなく、完全に住民の意思と資源に任せての実施であるにもかかわらず、このようなウナギ登りの増加が可能となったのはなぜなのか？それは…。現在まで就学前教育サービス提供の蚊帳の外に置かれていた農村部においても、“就学前教育に対するコミュニティのニーズ”が存在していたこと、「みんなの学校プロジェクト」のアプローチによりそのようなコミュニティ内で埋もれていたニーズの表面化・具体化が可能となったこと、そしてこれらのコミュニティ幼稚園が、たとえわずかであっても、“コミュニティが望む”成果をコミュニティに還元してきたためではないでしょうか。



ミレットの茎も教室作りに欠かせない大切な資源です。

## 成果

では“コミュニティが実感した変化”とは何なのか？ - 昨年度末に実施したアンケート（コミュニティ幼稚園実施の13COGESを対象に実施（2007年5月））によると、下記のような点がコミュニティ幼稚園を実施した成果として住民により評価されました。

### 子どもへの効果：「行動・振舞いの変化」

活発さ、礼儀正しさの習得  
衛生観念の習得  
学校および社会生活への適応

### 学校への効果：「学校環境の向上」

新入生登録の容易化  
就学率上昇（特に女子就学率への効果）

### コミュニティへの効果：「意識の変化」

COGES活動や就学前教育および教育全般に対する関心・興味の向上  
学校とコミュニティとの関係の親密化  
コミュニティ全体の誇り・自信の高まり  
保護者の労働軽減

いつも親の後ろにおっかなびっくり隠れていたちびっ子たちが、コミュニティ幼稚園に通いだしてから、あいさつをするようになり、自分の名前や親の名前を言えるようになり、トイレの後やご飯の前に率先して手を洗うようになる…。小さな変化かもしれませんが、保護者および周りの住民にとっては、それこそ“目から鱗”の変化だともいえます。そんな子どもたちの雄姿を見るにつけ、就学前教育への信頼とともにそれを可能にした自分たちの活動がちょっと誇らしく思えてくるようです。また、コミュニティ幼稚園に通っていた6歳児たちが、当然のこととして女の子も男の子もそろって小学校一年生へと進んでいきます。校長先生にとっては、保護者達に新入生登録をするよう声高に呼びかける必要もありません。毎朝通園してきた子どもたちにとっては、学校に通うのは自然なこと。時間どおりにきちんと通ってきます。“初めての環境”に周りをキョロキョロ、ソワソワ、仕舞いには泣きべそ…なんてこともありません。コミュニティにとっても、コミュニティ幼稚園設立過程や活動実施にあたって何度となく開かれるAGやボランティアとしての関わりが、学校のことや子どもたちの教育をより多く知るきっかけとなり、結果として、教育全般への興味・関心のさらなる高まりへと繋がっていきます。

…しかしその一方で、やはり農村部コミュニティによる完全自立運営の難しさは否めません。

## 問題点と戦略

前記アンケートにて、“問題点”として断トツトップで挙がったのは...やはり、保育者報酬をはじめとした運営費確保、資金不足の問題でした。つまり、分担金の回収が思うようにいかない。お金がない、モノがない、給与が払えない...ということです。しかし、そこで本当に問題とすべきなのは“お金がない”ということではなく、そのような状態に陥った本来の原因つまり、「コミュニティの住民にとってその計画が妥当なものであったのか？」ということです。コミュニティにとって現実的で実現可能な計画でなければ実現できないのは当然のこと。確かに、自分たちのみの資源で一つの教育施設を設立・運営維持していくことは容易なことではありません。今までCOGESが実施してきた活動よりも多くの資源を要することになるでしょう。資金の問題は、自立運営施設に付きまとう最大の障壁だとも言えます。しかし、だからこそコミュニティの能力（その可能性と限界）に見合った妥当な計画でなければならぬと言えるでしょう。現金収入があまりなく、かつ時期によって収入にばらつきがある（例えば、収穫直後と収穫前）農村部住民にとって、毎月の現金による定額払いは決して容易なことではありません。とくに保護者からのみ保育料として回収した場合、一人の保護者に対する負担は大きく、とても農村部の農民だれもかれもが継続的に支払えるような額ではなくなってしまいます。つまり、持続可能性も汎用性もその分低くなります。それに、そもそも排他的な“金持ち子弟のみの幼稚園”となってしまったのでは、「“みんなの”コミュニティ幼稚園」とは言えません。

そこで、昨年度末に今年度の戦略としてプロジェクトから提案したのが「収



タウア州イレラ県コミュニティ幼稚園様子

穫期直後における住民全体からの（通常の学校活動計画への完全統合による）穀物一括払い方式」です。これは、大半が農民である住民にとってより捻出しやすいのは穀物であり、その時期も（家計のストックが最も潤う）収穫直後であり、かつ、持続可能性を高めるには一個人の負担を少なくして住民全体にて運営を支えていく必要がある、という考えに基づいています。この戦略の利点は一年間の活動費が事前に確保されることで、財源不足を理由とした年度中の活動中断が起こらない。（現金の捻出に比べて）コミュニティへの負担がより無理のないものとなり、かつ一人一人への負荷が軽減されることで、分担金の回収がより確実になる、その結果として活動の持続可能性が高くなる、その上、幼稚園の門戸も広がる、ということです。昨年度に実施したコミュニティ幼稚園対象の経験シェアリングセミナーにて、この戦略の可能性を話し合った結果、今年度実施の27園中半数以上がこの方式を取り入れ、収穫期である現在、各COGESの管理の下で穀物の回収が行われています。

## 今後の展開

かつての“よちよち歩き”（「みんなの学校だより」12号参照）からこの一年余りで曲がりなりに飛躍した、みんなの学校プロジェクトアプローチによる「COGESを通した“みんなの”コミュニティ幼稚園」ですが、タウア州27COGESによる活動実施という結果を引っ提げて、今後どこへ向かっていくのか。みんなの学校プロジェクトとして今年度なを目指していくのか。今後、主に以下のような展開を目指しています。

### ザンデル州への進出

みんなの学校プロジェクト第一フェーズのパイロット地域であり、すでに「機能する」COGESが活発な活動を繰り広げているザンデル州においても、今年度、COGESを通した“みんなの”コミュニティ幼稚園活動を促進していく予定です。そのため現在は、各地域のCOGES担当官とともに、各COGESの機能具合と照らし合わせつつ、住民ニーズと実現可能性を探っている段階です。ザンデル州農村部における就学前教育就学率の拡大に貢献するために、今年度中に20園の設立を目標としています。

### EPT/UNICEF共同モデルの確立へ

前回のニュースレター（「みんなの学校だより」16号内記事“みんなのコミュニティ幼稚園の今後”参照）でご紹介し

たように、2007年度4月、みんなの学校プロジェクト（JICA）とUNICEFはコミュニティ幼稚園分野での協力を行っていくことで合意しました。この連携の目標の一つに掲げられているのが、「みんなの学校プロジェクト/JICAとUNICEFの連携によりコミュニティ幼稚園のより信頼できるモデルを確立する」ことです。現在のタウア州27園と今後ザンデル州に設立される園から経験を抽出することで、みんなの学校プロジェクトによる住民参画や運営面への技術的支援とUNICEFによる教育面への支援という相互補完的な連携関係を骨組みとして、より住民のニーズに合致し、かつ妥当性の高いモデルの確立を目指していきます。

## 普及への課題

みんなの学校プロジェクトのCOGES機能化ミニマムパッケージが全国普及へと至った現在、COGESを通したコミュニティ幼稚園が、住民ニーズと「機能するCOGES」があればどこでも設立できる“高い拡大可能性”の「強み」をもつモデルであるということは明らかです。しかしその一方で、ニジェールの就学前教育就学率向上に大きく寄与できるように、住民による完全自立運営のコミュニティ幼稚園が普及するためには、まだまだ数多くの障壁があることも否めません。“普及”のためには、機能するCOGESを通したコミュニティ幼稚園が広がり、かつ「持続していく」ことが必要であり、そのためには以下の点が克服すべき課題として考えられるでしょう。

### 住民全体で支える財源システムの安定化（妥当な保育者報酬システム確立）

一般的に財源不足や不安定さが住民自立運営の教育施設最大の懸念事項であるため、安定的な財源システムの確立が最大の課題とも言えます。上記「戦略」において述べたように、今年度過半数のCOGESが「収穫期直後における住民全体からの穀物一括払い方式」を採用しています。このシステム実行の推移を見極め、その成否、および改良への検討を続けていく必要があります。



### 住民主導の運営の実現

コミュニティ幼稚園も教育施設の一つであるため、多くのCOGESにおいて校長が主役となってその活動のイニシアティブをとっているケースが多々見られます。コミュニティ幼稚園活動において、校長の関与がその活性化に大いに貢献し得るのはもちろんですが、教員には異動が付き物であるため、持続的な活動を可能にするには、やはりその村落に根付いている住民が活動の軸を担っている必要があります。既存のコミュニティ幼稚園においても、今年度の校長の異動により、活動の開始が遅れたり、新学期の準備が完全にストップしてしまったり、といった状況に陥っているところが多く見受けられます。校長が替わるたびに“振りだしに戻る”のでは、村落での教育開発の動きも足踏みを続けることとなります。それに対し、COGESメンバーを中心とした住民が実行に際し大きな役割を担っている場合、校長の異動があったとしても活動への致命的な打撃とはならず、新校長へと順当かつ発展的につながっていくと言えます。実際、現在活発な活動が実施されているコミュニティ幼稚園においては、必ずしも校長一人が主導で実施しているのではなく、校長の関与もさることながら、他のCOGESメンバーや住民が非常に活動に積極的であり、意識的にも物理的にも参与しているケースが多いことが、全体的傾向として見受けられます。その中で、校長が各種調整や関係者との連絡、計画遂行の後押し、住民集会の取りまとめ、住民ニーズの具現化といった役割を節目ごとに担っているのです。つまり、活発な活動の実現には、住民のイニシアティブと校長の調整およびファシリテーションが調和することで可能となるといえるでしょう。プロジェクトでは今まで、コミュニティメンバーから選出された保育者や、住民ボランティアグループによるクラス活動への参加、COGESメンバーによる定期的な内部モニタリング、情報公開のための住民集会開催を勤めることで、コミュニティ幼稚園への住民参加を促してきましたが、上記の状況に鑑みると、住民がこの活動に“必然的に”組み込まれるようなさらなる枠組み、あるいはシステムを確立することも検討する余地があると思われます。

### モニタリング/情報収集システムの構築

汎用性、持続可能性のあるCOGESを通じた自立運営コミュニティ幼稚園モデルの構築においては、COGESおよびCOGES連合を通じた内部モニタリングシステムの

機能化が必須課題といえます。昨年度から、COGESローカルレベルでのモニタリングシートを用いた定期内部モニタリングと、COGES連合レベルでのモニタリングシートおよび連合総会を利用した情報収集・交換、という二層のモニタリング体制を実践してきましたが、まだまだ「機能している」とは言い難い状態です。そこで、今年度も引き続きこの体制を試みながら、問題を抽出し、より簡素でかつ汎用性の効くかたちへと改良を図ること必要と言えます。

### コミュニティ幼稚園に適したクラス活動プログラムおよび研修内容の開発

上記のように、住民運営のコミュニティ幼稚園が拡大し、かつ継続していくためには、「住民のニーズ」を満たす成果を“資本主”である住民へと還元し続ける必要があります。その一方で、農村部コミュニティの能力（含む資源）には限界があるのが当然です。よって、住民の能力範囲内でかつ住民のニーズに合致するアウトプットを出すようなインプット（保育者研修、教育内容、クラス活動プログラム）を提供することが大切となります。言うならば、コミュニティ幼稚園がコミュニティ幼稚園であるがためには、それに見合う最適なクラス活動を行うことが必然なのです。“みんなの”コミュニティ幼稚園は、「みんなに寄与する」コミュニティ幼稚園です。だからこそ“みんなで支える”ことが可能となるのです。小さい成果であれ、常に住民が成果を実感し続けることで、コミュニティ幼稚園に対する住民のモチベーションが維持できるのです。現在は、公立幼稚園のカリキュラムやクラス内容を基にした保育者研修が幼稚園視学官事務所より提供されていますが、上記のようなコミュニティ幼稚園の理念に照らした上で、公立幼稚園のためのカリキュラムや現在の研修がどれほど住民ニーズと能力に合致し、かつ望ましいアウトプットを継続的に還元し得るものかという点は見極める必要があるでしょう。コミュニティ幼稚園普及のためには、運営面のみならず、その自立的な運営と継続的な活動の実現に大いに影響を与えうる「結果」の素となる“教育面”も含めた「コミュニティ幼稚園モデル」を創り上げることが望ましいといえます。“住民がコミュニティ幼稚園に望むこととは何なのか？”“そのニーズの中で、村落環境に即し、かつ村落住民・保育者・子どもにとって実現可能なものは何なのか？”という点を見極め、それを具体的なクラス活動やプログラムという「形」とし、そして、その形を生み出すための効率的で適切な研修（設立および保育者研修）を組み立てることが求められると言えます。

\*\*\*

かつての“よちよち歩き”から少しは成長したかに思える“みんなの”コミュニティ幼稚園ですが、この先さらなる発展へ向けて進んでいくには、上記の如く、まだまだ山あり谷あり。決して容易な道のりではありません。しかし、1か月前には下を向いてもじもじしていた子どもたちが、胸を張って「ボンジュール！」と言えるようになった瞬間、それを目にした大人たちの驚きと喜びは一緒です。“コミュニティ幼稚園”の存在意義が証明されたのです。COGESを通じた「コミュニティによるコミュニティのための幼稚園」それは、コミュニティの“求め”に基づき、“喜び”に繋がらなければなりません。その理念に沿う限り、“みんなの”コミュニティ幼稚園の歩みも続き得ることでしょう。

(注1)：このデータは、2007年5月時点でのコミュニティ幼稚園活動への投入額であるが、13園中8園が同年(2007年)3月に開園していることから、この額は、年間投入額ではなく、ほぼ3か月間に投入された金額である。

学校活動計画担当  
影山晃子



(写真上)  
2007/8年度コミュニティ幼稚園新人  
保育者研修風景

## オレンジとケイタイ

毎回、出張のたびに、多くの逸話を作ってきたのに、マリの出張では、あまりエピソードがなかった。短期の企画調査を繰り返していたときは、行く国々で内戦、反乱、クーデターに巻き込まれ、嵐を呼ぶといわれていたこともあった。最近では個人的なことばかりなので、少しは、アフリカも平和で安定した国が増えてきたのかなと実感している。マリで起ったのも個人的な出来事であった。それは、出張2日目のことだった。その朝レンタカーの運転手に携帯電話の5000CFA（約1200円）のプリペイドカードを買ってきてくれとお願いして、朝食を食べていた。現在、アフリカ諸国の首都の路上の物売りでもっとも多いのがこのプリペイドカード売りで、これを商売かアルバイトにしている若者が多い。バマコもその例外ではなかった。だから、長くても5分ぐらいで帰ってくるだろうと思った。しかし、30分たっても戻ってこない。きっと、気を利かせて、領収書が取れる場所まで買いに行ってくれているのだと勝手に解釈して待っていた。運転手は1時間くらいしたら帰ってきた。すぐカードを渡してくれるのかと思ったら、車に來いという。怪訝な思いで、車に向かうとなにか柑橘系の甘いにおいがする。運転手は誇らしげな表情をして、トランクを示した。そこには、山のようなオレンジが詰まっていた。一種唖然としたが、次の瞬間笑ってしまった。実は、マリでもっとも大きな携帯電話会社の名前が、「ORANGE」で、運転手に頼んだときに、両手の指で四角をつくり、5000CFAのオレンジを買ってきてくれと言ったのを思い出した。運転手は果物のオレンジだと思い市場に買いにいったのだ。今はオレンジの季節だから、とても安いので5000CFA分でトランクいっぱいになってしまった。これは自分のミスだから、しょうがないが、量があまりにも多い。自分で全部食べる分けにもいかないので、断食月明けのお祝いも迫っている。全部運転手へのプレゼントとした。

それにしても、アフリカの携帯電話の普及の勢いはすごい。ニジェールでプロジェクトが始まったとき、タウア州のプロジェクト関係者で携帯電話を持っている人は皆無だったが、4年後、携帯電話を持っていない関係者は皆無となった。1300校の校長、COGESの議長もほぼみな携帯電話を持っている。おかげで、会議

の通知や情報の収集は楽になった。しかし、どう考えても携帯電話、そして通話料は、この国の人々の収入を考えれば高い。どのような発想でビジネスが導入され、どうして成功したのか、ずっと疑問に思っていた。ただ、根本には「通じていたい、繋がってほしい」という人間の基本的なニーズ（気持ち）があるのだろうとは考えていた。出張に行くときに飛行機の中で読んでいた「グラミンフォンの奇跡」という本で、その謎が解けた。思っていた通りであった。

みんなの学校プロジェクトのCOGES機能化ミニマムパッケージの特徴は、簡単に言えば人間の基本的な気持ちに着目したことにある。それは、各村や国や人種を超えてある感情で、たとえば、親の子供を幸せにしたい、あるいは自由に自分の意見をいいたいというものだ。だから携帯電話が「繋がってほしい」というだけでも思っていることを実現することによって、成功したように、ミニマムパッケージはどこでも基本的に通用する。もし通用しないとすれば、問題は行政かプロジェクトの方にあり、解決は可能である。だから、現在実施中のミニマムパッケージ全国普及は成功し、住民の需要に沿った多くの活動がニジェール全土でなされ、そのインパクトはとても大きなものになるだろう。そして、その活動は、住民たちの力により数年は続く。その証拠もある。小学校建設計画のソフトコンポーネント計画のCOSAGEという小さなプロジェクトは、みんなの学校プロジェクトとほぼ同時期に、ドソ州の17校に対してミニマムパッケージを導入した。しかし、COSAGEはこのパッケージを導入してすぐ終わってしまった。終了後、当然、COGES担当官によるモニタリングや支援は行われなくなった。しかし、COSAGEを当時担当していたコンサルタントの人が個人的に行った調査によれば、学校活動計画の枠組みで住民により行われた活動数は、1年後、2年後、3年後と増加し、その実施のために住民によって動員された予算も増えている。ニジェールの住民の教育開発への希望は需要、その実施能力、動員力は、政府、ドナー、プロジェクト関係者が思っているより、はるかに強い。

しかし、残念ながら、その後については楽観的な予想はもっていない。なぜなら、携帯電話の場合は、お金を払えば



「通じてほしい、繋がってほしい」というニーズは満たされる。だから、繰り返し、携帯電話は使われ、会社は儲かり、投資が繰り返され、携帯電話網は広がっていく。しかし、ミニマムパッケージの場合は、住民がいくら頑張っても、よくなるのは、学校の一部の環境、数割の生徒の成績などで、「学校全体がよくなり、子供が幸せになる」ことに直接繋がらない。だから、住民は失望し、住民による教育改善活動は勢いを失っていく可能性もある。

必要なことは、住民による教育改善活動を孤立化させず、行政、ドナーが行う教育改善計画に結びつけ、両者が相互補助的な役割を演じ、実際に大きな成果を挙げていくことだ。結論はわかっているが、この問題の解決は容易ではない。地方分権化政策にしても「住民の開発政策決定への参加」を謳っているが、実際の「参加」は形だけのものだ。ドナーの援助も政府の理解の枠をでないし、プロジェクトにしても、その実施枠組みに柔軟性がなく、現実の需要に対応できない。

現在プロジェクトは、COGESのイニシアチブによる活動支援の一環で、コミュニティー幼稚園の設立、運営を援助している。住民には多くの教育の開発に関する需要があり、就学前教育のそれは、比較的目立たないものだった。では、なぜこの分野を選んだのか。それは、就学前教育の拡大は、ニジェールそして世界の教育開発潮流に一致し、しかも、就学前教育分野支援の大手ドナーのUNICEFの存在があった。つまり、住民の需要と動員力が期待でき、開発政策に一致し、ドナーの支援も期待できたのだ。プロジェクトの投資は、人件費以外にほぼ0に等しいが、プロジェクトが設置、運営を支援するコミュニティー幼稚園の数は、今年中に50近くなり、現在の就学前在学者数の15%ぐらいをカバーすることになるだろう。このくらいの結果を出したら、政策決定者、ドナー関係者は、住民の活力を政策の実施に一致させることの重要さに気づいてくれるかもしれない。(H)



2007年11月~2008年1月

## 教育開発のためのザンデル連帯フォーラム 女子就学促進キャンペーン結果、COGESの力

COGESは学校運営への住民参加を促し、COGES連合は、その力を結集して教育開発に貢献できるとプロジェクトは言い続けてきましたが、はっきりとその結果をお見せすることができませんでした。今回、その力の一端を垣間見ることができましたので、それを報告させていただきます。

### ザンデルでのフォーラム

会場は、COGES(学校運営委員会)連合代表、コミュン(市)長、視学官、COGES担当官、教育分野ドナー関係者、教員組合代表によって埋め尽くされていた。そして国民教育大臣の閉会の挨拶が終わったとき、参加者から大きな拍手が巻き起こった。その拍手を送る参加者の表情は、通常行われているこのような会合の儀礼的なそれとは、明らかに違っていた。満足感、達成感、自尊心、希望、そんなものが交じり合ったような表情をみな等しくしていた。スピーチを終えた大臣にも同じような表情がうかがえた。あとから、個人的に言われた賛辞よりも、その表情が実際の大臣の満足感を本当に表しているようだった。それは、2008年1月11日18時30分、ザンデルの看護士養成学校の大講堂で開催された「COGES連合大会 教育開発ザンデル連帯」と名売ったフォーラムの閉会挨拶での出来事だった。

### 女子就学キャンペーン

ザンデルのすべてのコミュンでCOGES連合が2007年1月までに結成され、今後、COGES連合全体としてどのような活動を行っていくかを話し合う全COGES連合を集めた大会が去年の5月に開催された。この会合で、「女子の就学向上キャンペーン」をCOGES連合の共通活動として行うことが決定され、実施されてきた。今回のフォーラムは、このキャンペーンの成果発表と今後の活動を定めるために開催された。キャンペーンは、COGESが住民に対して啓発を行い、それをCOGES連合と市役所が側面支援するというアプローチを採用した。キャンペーンへの外部からの投入は全くない。もちろん、市役所の協力

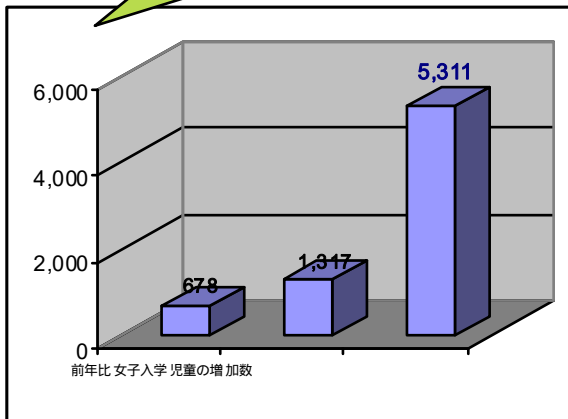
で、就学キャンペーンのクラシックな方法である車での巡回啓発を行ったところもあったが、主な活動は、COGESが中心となり、住民総会での啓発や個々の家を回って女子の就学をさせない親を直接説得したり、村長やマラーブーなど住民に影響をもつ人々が率先して活動に参加するといったような身近な啓発であった。現在は、ザンデル全体の72%の学校のみデータしかないが、その途中経過だけでもCOGESが中心となったキャンペーンの威力とすばらしさがわかる。女子の新入生の入学率の伸び率を去年の伸び率と比べると10倍になり、通常より5000人多い女子生徒が入学している。この成果は、前述したようにザンデル全体の学校の72%においての結果であり、今後その数は増えていくことになる。これはいままでも、ニジェルのどの地方でも達成されたことがない、あるいは、他プロジェクトからの多額の資金投入による、女子への奨学金の供与、就学している女子もしくは女子の母親への援助、女子の家事労働軽減のための女性グループ収入創出活動、キャラバン式(隊を組み、巡回啓発活動を行う)のキャンペーンなどで達成したいかなる結果よりも優れた成果である。

### キャンペーン成功の構図

なぜこのキャンペーンが成功したか、図式的に示してみたい。まず、第1の条件は、COGESが機能していること、つまりCOGESに透明性があり、住民への動員能力があり、啓発能力があることが必要であった。これにより、COGESを通じたメッセージは住民へ伝わりやすくなった。さらに、地域全体

として共通の活動を行うためには、COGES連合の存在が不可欠であった。COGES連合が機能していることにより、定期的にCOGES連合総会が開かれ、そこで、連合内での各COGESへの女子就学活動のメッセージとその共同活動への統一意思を確認することができた。また、COGES連合が市役所の協力を取りつけるための仲介的役割を果たした。これにより、COGES連合大会で決定された統一活動のメッセージは各COGESやその他関係者に伝達され、そのCOGESの住民動員力と啓発力によって、多くの親が女子を学校に送り出すこととなった。つまり、このキャンペーンの成功の最大の要因は、機能するCOGESとCOGES連合が存在し、その力とネットワークを利用したことにある。

ザンデル州女子児童入学数、5000人増加！！



第2の条件としては、ザンデル州教育事務所がこのキャンペーンの意義を理解し、キャンペーン成功のためのイニシアチブを発揮したことが挙げられる。具体的には、いち早くキャンペーンの成果を予測し、必要数に応じた教員を確保したことがこのキャンペーンの第2の成功要因であった。せっかく入学する児童が大幅に増加しても、その増加分に見合う教員数を配置できなければ、児童は小学校に入れない。ニジェールの現在の新しく教員配置される大多数が新人契約教員である。契約教員の給与がほぼすべて、ドナーから支出されているため、新しく採用する契約教員数は、教育省とドナーとの協議によって決まる。今年度も、その交渉によりニジェールは、例年と同じ契約教員数を確保した。この確保した人数の州ごとの配分は、各州からの要請によって決まるために、早く要請した州が教員をより多く確保できる可能性が高い。つまり、ザンデル州は他州より早い時期にその就学者の伸びを想定し、教育省本省に強くその需要を申請する必要があった。そこで、ザンデル州教育事務所は、早い時期に新入生募集状況に関するサンプリング調査を実施し、結果を予測。さらに、前年度より200人以上多い教員の割り当てを確保し、教員配置の合理化により、新入学予定の児童の受け入れを可能となった。

### キャンペーンの本当の意義

このキャンペーンの意義はどこにあるのだろう。実は、女子の新入学者を増加させることは、他国、他のプロジェクトが行った就学促進キャンペーンでも、巨額の費用を投じれば、成し遂げることが可能な成果で、それほど驚くようなことではない。しかし、このCOGESを通し、住民が中心になったキャンペーンにほとんどお金がかかっ



写真：手前から、ザンデル州国民教育事務所長、ザンデル州次官、国民教育大臣、奥本JICA所員、原チーフアドバイザー、イボONEN代表

ておらず、しかも、機能するCOGESが全国普及した現在、ニジェールのように教育予算が限られている国でも、全国で同じようなキャンペーンが可能であるという意味で、大きな意義を持つ。今回のフォーラムでは、教育政策の最大の決定権限を持つ、教育大臣にその可能性を気づかせたという意味でも、その意義が高い。このアプローチを使えば、ニジェールは、アクセスという面だけに限定すれば、EFA(万人の教育)の目標達成が可能になる。

### 確実に政策決定者へ

このキャンペーンでは、確かにアクセスの改善、そしてEFA達成のための道筋を示すことができたが、質の高い教育を万人に普及することが本来のEFAの目標であるのに、質を忘れていたのではないかとこの意見があるかもしれない。しかし、その意見は、ニジェールの現実を見ていない的外れな意見だと断言できる。ニジェール政府もドナーもひとつの教育政策のもとに、財政、人的資源を投入し、努力しているにも関わらず、目標から程遠い成果しか出ていない現実には、実は等しく落胆し、前に進む気力を失ってきている。このキャンペーンの成果が、どれだけ住民を、そしてすべての教育関係者を勇気付けるかを想像してほしい。さらに、教育省もドナーも可能性のあるところに、資源を投入するようになり、成果は拡大する。つまりこのキャンペーンの結果は、ニジェールの教育開発を前進させるひとつの突破口になるのだ。本当の意味での質の改善には、長い資源の投入と努力が必要であり、その努力を続けるためには、人々を勇気付ける短期的な成果も必要なのである。

また、大臣に直接その成果をアピールしているやり方にも、中間の行政システムを飛び越えているという批判もあるかもしれない。しかし、この意見もまったくニジェールの現実からかけ離れた意見だといえる。現在のニジェールの教育省は、7つの局長のポストが空席が暫定であることに象徴されるように、制度的な機能性が非常に悪い。これは、汚職に絡む大臣の更迭にともない教育省内部改革をその任務として送り込まれた新任の大臣が、内部改革を実施中であることがその理由と考えられるが、以前は、もっと機能性が悪かった。プロジェクトは、常に、カウンターパートからの教育省内部への情報の伝達を行っているが、実際には、その情報が実質的な政策決定権を持つ、大臣まで届かない。あるいは、恐ろしく時間が掛かる。大臣が求めている政

策決定に必要な情報が届かないのだ。長い目で、教育省内部の正式なルートにこだわることも必要だろうし、その努力を行っている。しかし、建前にこだわりすぎ、プロジェクトの限られた予算と時間が無駄に浪費されるのを静観するのは、好ましいこととは言えない。

セクターアプローチが進展する中、今、みんなの学校プロジェクトが行うべきことは、現状にあった教育改革モデルを提示し、結果を出すことによって人々を勇気付け、教育改革の方向性を示すことなのだ。

### ザンデル連帯、新しい挑戦

もちろん、フォーラムの目的は、女子就学促進キャンペーンの結果を報告するだけのものではなかった。今年多くの女子(男子)児童が小学校に入学したとしても、彼ら、彼女らが、すぐ学校からドロップアウトしてしまっただけでは、このキャンペーンの成果を無駄にすることになる。したがって、フォーラム1日目の提言として、COGESおよびCOGES連合、そして、ザンデル州国民教育事務所、市役所、教員組合など、すべてのザンデル教育関係者は、新しく入学した児童たち、そして、現在小学校に在籍している生徒たちの残存のために最大限の努力をするために連帯すると宣言した。そしてフォーラム2日目は、現在学校にいる生徒たちを残存させるために具体的などのような戦略が必要なのかを議論した。その結果、基本的にCOGES連合、そしてCOGESとしては、キャンペーンと同様、なぜ、生徒が残存できないのかを住民自身が分析し、自分たちでできる解決策を実施するという戦略をとることを決定した。また、市役所やその他の関係者は、できるだけ、COGESの活動を支援することになった。そして、ザンデル州国民教育事務所は、フォーラムの中で、特に問題として指摘された教員の不在、教員の質の悪さを改善するために、学校への直接のモニタリングを強化することを約束した。

この生徒の残存率の改善は、就学率を上げることより難しい課題が複雑に交じり合っており、成果を挙げるのは困難である。しかし、みんなの学校プロジェクトはザンデルの連帯が成果をあげると確信している。そして、その成果をあげるための具体的な戦略を支援していく。



# ザンデル州COGES連合フォーラム開催報告

## I. 日時

2008年1月11日、12日

## II. 場所

国立保健学校大講義室（ザンデル市）

## III. 参加者

コミュニティ市長（55名）、COGES連合代表（各2名ずつ、計110名）、視学官（幼稚園、ノンフォーマル、フランコアラブを含む、計21名）、ザンデル州保護者会代表（1名）、ザンデル州国民教育事務所（所長、副所長、COGES監督官、SCOFI（女子就学）担当官、統計担当官、計6名）、COGES担当官（7名）、国民教育大臣及び省関係者（約5名）、ザンデル州知事（1名）、ザンデル市長（1名）、教育分野ドナー関係者、教員組合代表（5名）、ザンデル州選出国會議員、ONEN（現地NGO）スタッフ、JICAニアメ事務所所員、EPTスタッフ、2日目は、COGES連合代表（2名ずつ）及びDREN（州国民教育事務所）関係者（所長、COGES監督官、COGES担当官）、及びプロジェクトスタッフのみの参加であった。

## IV. フォーラム開催の背景・目的

COGES連合、コミュニティ、地方教育行政の連携によって女子就学向上キャンペーンに取り組むことを決議した前回のフォーラム（2007年5月3日開催）を受けて実施した同キャンペーンの結果を関係者に報告、共有するとともに、今後女子就学の残存にかかる活動について可能性を協議することを目的とする。さらに、上記の女子就学向上という教育のアクセスについて他に比類の無い成果を示すことで、住民が主体となる教育開発の有効性について、また、その中でのCOGESとCOGES連合の意義と役割の重要性について、特に今回来賓として参加した国民教育大臣をはじめ、メディアを通じて広報することで広く関係者にアピールし、今後の政策推進への後押しを期待するという目的も含有している。

また、2日目は、1日目に決議された女子就学残存に向けた活動について討議を行い、具体的な活動の可能性を探ることと、これまでのプロジェクトによる連合活動のモニタリングによって指摘されていた会計管理能力強化のニーズに応え、簡易財務管理研修を実施することが目的であった。



写真：コミュニティ市長、COGES連合、教育行政機関関係者等、参加者様子。

## V. 議事次第

1月11日（金）

| 時間            | 内容               | 担当                                          |
|---------------|------------------|---------------------------------------------|
| 9:30 ~ 9:45   | 歓迎の挨拶            | ザンデル州庁書記長                                   |
| 9:45 ~ 10:00  | 挨拶               | EPTプロジェクトチーフアドバイザー                          |
| 10:00 ~ 10:30 | 開会挨拶             | ニジェール国民教育大臣                                 |
| 10:30 ~ 11:50 | 女子就学向上キャンペーン結果発表 | - ザンデル州国民教育事務所所長<br>- 同副局長<br>- ONENザンデル州代表 |
| 11:50 ~ 12:20 | 議事運営委員選出         |                                             |
| 12:20 ~ 15:00 | 食事、お祈り休憩         |                                             |
| 15:00 ~ 16:00 | 参加者による討議         | 参加者                                         |
| 16:00 ~       | お祈り休憩            |                                             |
| 16:30 ~ 17:30 | 討議のまとめ、決議事項      | 議事進行委員                                      |
| 18:00 ~       | 決議事項発表、閉会の挨拶     | 議事運営委員、国民教育大臣                               |

1月12日（土）

| 時間            | 内容              | 担当                           |
|---------------|-----------------|------------------------------|
| 8:30 ~ 10:30  | 女子就学残存活動についての討議 | COGES連合代表                    |
| 10:30 ~ 12:30 | 簡易財務管理研修        | ザンデル市COGES担当官<br>グレ県COGES担当官 |
| 12:30 ~ 13:00 | その他、連絡事項        |                              |

## VI. フォーラムの内容（概略）

1日目（1月11日）

### 1. プロジェクトチーフアドバイザー挨拶

みんなの学校プロジェクトの原チーフアドバイザーによる挨拶の要旨は次のとおり。

住民主体による教育開発を推し進めているみんなの学校プロジェクトでは、タウア州に引き続きザンデル州においてもプロジェクトからの直接投入を極力減らし、州国民教育事務所が中心となりローカルNGOであるONENの支援によって、COGES及びCOGES連合の機能強化を目指した活動を行ってきた。昨年の5月に同じ会場で行なわれたフォーラムでは、COGES連合、コミュニティ、地方教育行政の連携を推進していくことと、ザンデル州の女子就学率の向上を目指して、三者の協力による女子就学啓発キャンペーンを実施することが決議された。その結果は非常にすばらしく、これまでにどこの州でも、また、いかなるプロジェクトも、成し遂げられなかった歴史的な成果となった。しかもその成果は、ニジェール人が中心となり、最小限のリソースで、さらに、自分たちだけで協働して出来ることを行なった結果であるということが非常に重要なことである。国家の教育開発10ヵ年計画の目標達成が危ぶまれている中、今回のザンデル州の人々が行なった努力と成果はニジェール全体への希望の光である。今回達成した成果を今後も引き続き継続するために、具体的には今回のキャンペーンによって入学してきた多数の児童が途中で退学したり、挫折したりしないようにコミュニティーに何が出来るかを考えて欲しい。そしてまたみんなが力を合わせて努力を続け成果を出して欲しい。それがニジェールの教育開発を推し進める力になり、子どもたちの未来に繋がっていくと信じる。

## 2. ニジェール国民教育大臣挨拶

ニジェール国民教育大臣の発言要旨は次のとおり。  
 昨年5月に行なわれたフォーラムの結果を受けて、ザンデル州の関係者が行なってきた女子就学向上キャンペーンは非常に素晴らしい成果を残した。特に強調したい点は、地域住民や行政など学校に関わる異なるアクターが一つの目標に向かって活動を起こし、具体的な成果を出したということである。今年度の入学者登録の完了を報告した1,345校（全校数1,856校の72.47%）の合計入学者数は、既に昨年度の47,547名を超え55,223名に達している。これは今年度国が設定したザンデル州の数値目標55,946名にほぼ近い数値であり、今後報告される残りの学校の結果を加えれば大幅に目標値を超えることは間違いない。また、女子のTBA（入学率）が昨年度の53.90%から67.22%（上記数値同様全体の72.47%の学校の結果）に大幅に増加していることや男女比も0.94まで向上している。この素晴らしい結果に対して、特にCOGESのメンバー、コミュニティ長、校長、JICA、そしてザンデル州の全ての関係者に対して敬意を表す。この結果については大統領と第一首相に報告したい。今年度はPDDE第1フェーズの最終年度であり、これまでの活動の評価分析を行なうにあたり、ザンデルでのこの結果は非常に示唆に富んでいる。特に言えることは教育のアクセス及び質の向上といった目標を達成するには、コミュニティの巻き込み、積極的な関与が非常に重要であるということである。今後も教育開発政策を推進していく上で住民の巻き込み、住民活動の活発化を重点としていく。

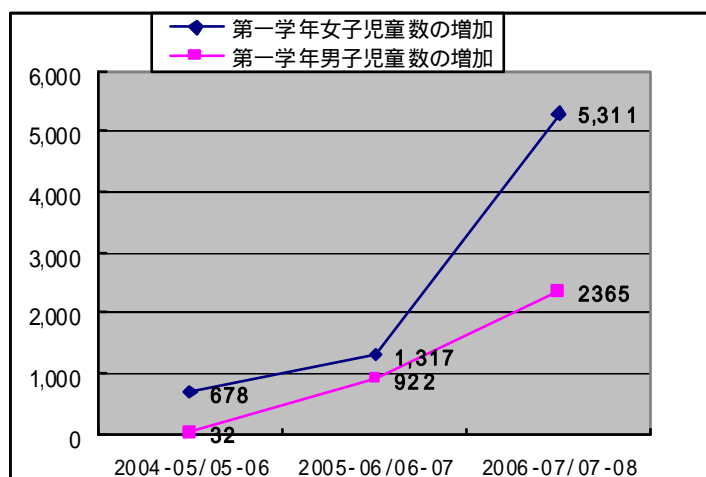
## 3. 女子就学キャンペーンの結果発表

まず、ザンデル州国民教育事務所長からザンデル州の教育行政体制及び教育開発指標の現状が説明された後、同局副局長から女子就学キャンペーンの結果が発表された。結果概要は次のとおり（ページ下グラフも参照のこと）。（2007 - 08年度の数値は全体の72.47%の学校数の数値）

### 【ザンデル州入学者数及び入学率】

|          | 女子      | 男子      | 全体数     | TBA女子  | TBA全体  |
|----------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 2006_07年 | 21,499人 | 26,048人 | 47,547人 | 53.90% | 58.80% |
| 2007_08年 | 26,810人 | 28,413人 | 55,223人 | 67.22% | 68.24% |

### ザンデル州男女入学者の伸び（前年度比増加数）



数値による結果発表後、今回のキャンペーンにて適用された戦略について以下のとおり発表された。尚、本発表の内容は事前に行なわれたアンケート調査の結果が反映されている。

全体戦略は、以下の3点であった。

- 1) 地域住民を巻き込んだ身近な啓発活動の実施
  - 2) COGES及びCOGES連合、コミュニティ、地方教育行政が中心となり、村長、伝統首長、宗教指導者など、地域の主要関係者を巻き込んだ協働活動
  - 3) 州国民教育事務所による通常よりも増加を見込んだ教員の採用配置の実施
- また、異なる関係者のそれぞれの役割、活動内容が簡潔に説明された。

#### COGES

- 地域における女子就学委員会の組織
- 地域に密着した啓発活動（戸口啓発、マラブーによる啓発、住民集会、など）

#### COGES連合

- 5月開催のフォーラム内容のCOGES及びコミュニティ関係者への周知
- コミュニティレベルでの会議実施と戦略策定
- COGESの活動支援（啓発キャラバン、ラジオ啓発、コミュニティでのフォーラム開催、など）
- 異なる関係者間の調整、活動促進

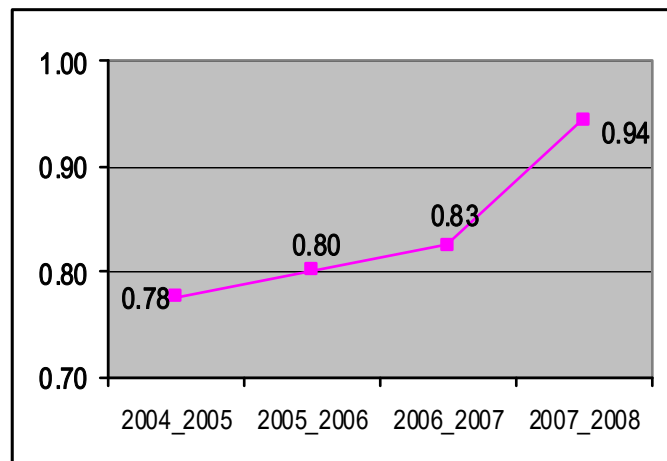
#### コミュニティ

- 啓発活動の組織及び参加
- 資金及びロジスティック援助
- コミュニティ評議員の動員
- 地域社会動員
- 児童の出生証の発行
- 学校関係パートナーへの連絡調整促進

#### 地方教育行政

- 啓発活動の全体監督、入学登録のモニタリング
- 校長会議の開催
- COGES連合及び異なる関係者間の調整
- 技術及びロジスティック支援
- 視学官事務所関係者（教育主事、COGES担当官）の巻き込み

### ザンデル州第一学年男女比（男子を1.00とした場合の比率）





伝統首長

- マラブーなどの社会的権威者の動員
- 各村の啓発委員会の調整
- 啓発活動への参加

女性及び青年グループ

- 啓発活動の組織、参加

教員

- アニメーターとして啓発活動への参加

最後に、COGES及びCOGES連合の昨年度活動のまとめが発表された。

#### 4. 参加者討議

参加者による討議の前に、議事進行委員会が選出され、DREN、COGES監督官、視学官、COGES連合代表、コミュニケーション代表、ONEN/JICA代表がそれぞれ一名ずつ選出された。そして、リストに基づき参加者が発言した。

##### 1) 女子就学促進キャンペーンの戦略について

討議の第1のテーマは、女子就学キャンペーンのより効果的な戦略アプローチ、テクニックについてであった。各参加者が実施し効果的であったと考える戦略アプローチ及びテクニックの要約は以下のとおり。

村長、マラブーなど村人の行動に影響力を持つアクターを巻き込む

女性グループや青少年グループなどを巻き込む

各村にCOGESのもとに女子就学委員会を編成する

コミュニオンを幾つかのゾーンに地区割りして啓発隊が巡回する

寸劇や歌などの啓発チームを編成する

地域の市の日や金曜日の礼拝日を狙った啓発活動を行う

コミュニオンレベルでの討論会、フォーラムを開催する

特に就学率が低い村や地域を重点においた啓発活動を行う

ラジオによる啓発をする

##### 2) 女子就学残存に係る今後の活動について

討議の第2のテーマは、女子就学残存についてであった。女子就学の残存については、参加者の多くが、教員の不在や質の低下、更には行政のモニタリング不足や対応の不十分さを指摘するなど、コミュニティーで解決できる範囲を超えた問題がのしかかっており、問題解決のためには、行政との連携や長期的な視点を踏まえた解決策も同様に必要であること



が浮き彫りになった。また、COGESやCOGES連合が中心となり住民主体で出来る活動としては、次のような発言があった。

COGESによる児童の出席モニタリング

COGESによる教員の精勤管理

早婚や家事労働など女子児童の就学を阻む問題に対する啓発活動

APP(生産実習活動)など実務的科目の導入と充実

優秀児童の表彰

(教員不足に対して)退職した教員の採用

AME(母親会)の活動活性化

インフラの整備

#### 5. 決議事項及び大臣閉会挨拶

##### 決議事項

例外なくすべての関係者を巻き込み、就学改善(特に女子の就学改善)のために、すべての関係者が啓発キャンペーンを継続する  
登録したすべての児童が学校に留まるための残存活動に取り組む

##### 大臣閉会挨拶

今回の就学キャンペーンにかかわったすべての関係者にお礼を申し上げたい。今年度、就学率、とりわけ女子就学率の向上において前例のない素晴らしい結果を出すことができた。これ(COGESローカル及びCOGES連合による就学キャンペーン)がやがて教育省の正式なアプローチとして取り入れられることを切に願っている。今後もこのような啓発活動が持続・拡大されることが重要であり、そのためにもすべての情報、伝達手段を使い啓発活動を行っていただきたい。また、今回のフォーラムの議論を通じて、就学率改善のためには学校管理が重要だということを改めて認識したが、そのためには視学官による学校訪問回数を増やすことが重要だと考えている。今後もニジェールの教育開発改善のために一緒に取り組んでいきたい。

##### 2日目(1月12日)

##### 女子残存率向上にむけた具体的な戦略について

前日の議論を受け、2日目は、女子の残存率向上を目標とするための、現実的かつ実践可能な活動についての議論がなされた。1日目のフォーラム終了時間が19時過ぎと長時間に渡ったことから、多くの参加者が疲れていたはずだが、始終活発に意見が出され、白熱した議論と

なった。各COGES連合、COGESローカルが実施する具体的な活動については、住民自身が住民総会の場で決定すべきであるとの見地から、今フォーラムでは活動戦略の方向性について話し合い、確認することとした。

残存率向上に向けて提案された活動事項は以下のとおりであった。

#### 1) 活動実施体制

視学官事務所、COGES連合、コミュニオン等、すべての関係者を巻き込み、共同で活動を実施  
視学官事務所レベルで実施される女子就学促進活動とCOGESレベルでの活動の調整

近隣のCOGES連合間で経験シェアリングを実施（特に女子就学促進活動で成果を挙げている連合の経験を学ぶ）

AME（母親会）や女性グループの巻き込み及び同団体の活動に対する補助金支援

#### 2) 保護者を学校に目を向けさせるための手段

様々な手段を講じた啓発活動（家庭訪問、キャラバン隊結成、ラジオ放送、劇団バンド等）

学校教育のメリットを示す（APP等により児童が収入を得られる技術を習得、通学する児童/通学しない児童との比較を行い、学校教育のメリットを示す、等）

#### 3) 女子自身が通学に対するモチベーションをあげるための手段

成績優秀者や無欠席者に対しての褒賞制度導入

#### 4) モニタリング

モニタリング委員会の結成

コミュニオン、村落レベルでの地区割りを決め、

モニタリング責任者を決定

欠席しがちな女子生徒の家庭訪問をCOGESローカル事務局メンバーで実施

COGESと教員をグループ化し、女子生徒の出欠

状況のモニタリングを実施

また、上記の決定事項を、今回フォーラムに出席した各COGES連合代表メンバーが各COGESメンバー、住民に対して、以下のプロセスを経て情報共有することも確認された。

COGES連合事務局会合を開催し、その他連合事務局委員へ報告する。



写真：啓発活動一例



写真：ザンデル州女子就学向上キャンペーン結果発表を行う同州国民教育事務所副所長。

COGES連合総会の場にて、フォーラムでの決議案を報告し、今回のキャンペーンで達成された結果について発表する。

各COGESにて同内容の報告をCOGES委員に対して行う。

村レベルでの住民総会にて、同内容報告会を行う。

このように地域住民すべてに情報が行き届くことで、住民が共通の目標を持つことが可能となり、関係者が一丸となり女子の残存率向上に向けた活動を展開していくこととなる。

また、住民レベルで解決するものとしては困難であるが、他のアクターにより残存率向上に貢献できる活動として、以下のものが挙げられた。

コーランを学校教育へ導入する（しかし、ニジュールでは公立学校（フランコアラブ学校は除く）での宗教教育は禁止されている。）

国民教育省発布の条例219条の活性化（公務員や教員などが学校内の生徒に性的嫌がらせ等をした場合、逮捕されるとの条例）

この結果については、学年末にあたる6月末以降に正確な残存率が算出されることから、おそらく8月以降に確認できるものと思われる。

#### 簡易財務研修

今回のフォーラムの機会を利用し、COGES連合代表及び事務局長を対象に簡易財務研修を実施した。ザンデル州で財務研修を実施するのは初めてであったが、マニュアルの内容が比較的シンプルで誰でも使用できる汎用性を考慮した内容となっていることから、質疑応答を通じて、参加者の理解度の高さが伺えた。

尚、今回は時間的制約からシミュレーションを省略した。



# 女子の残存率向上に向けた取り組みへの支援

## 次へのステップ

今回のザンデル州のCOGES連合による女子就学キャンペーンは、昨年5月に活動を開始し、わずか数ヶ月で驚異的な結果を出すことができました。特にジェンダーギャップが激しいといわれるニジェルにおいて、入学生徒数の男女比がほぼ1:1となったことは賞賛に値すると言えます。住民主導で行われたこのキャンペーンは、まさに住民自身が問題に課題を把握し、効果的な解決方法を実践していることを示しています。今後の残存率向上への取り組みについても、住民自身が主体的に実施することで、どのドナーもなし遂げられなかったような結果を出すことが期待されます。

しかしながら、フォーラム開催中、参加者から「入学より残存させることのほうが難しい」との発言があったように、残存率については様々な要因が複雑に絡んでいることから、解決策を見つけるのは決して平坦な道のりではありません。経済的貧困、早婚、家事労働、ジェンダー配慮の欠如等色々考えられますが、特に慣習的なものについては、住民ですら「介入は難しい」と漏らしています。

他方、解決可能なものもあります。

## 残存率と教員の関係

例えば、今回の女子就学キャンペーンの結果を通じて、「女子も学校に行くべき」と考えている保護者が多く存在することが証明されましたが、それにもかかわらず女子の残存率が低いのは、その原因が需要側の問題というよりも、供給側の問題、つまりは学校や教員に起因する問題が考えられます。実際、フォーラム開催中、ニジェルの低い就学率、残存率の問題は教員に起因するという意見が参加者から多く聞かれました。教員不足のみならず、教員のプロ意識の欠如により欠勤が続くことで、教員のいない学校に児童が足を運ばなくなることも残存率低下に拍車をかけていること、また、学期途中で教員を辞めてしまう者が多くいることも問題であるとの意見もありました。しかし、これらはCOGESレベルで解決できるものではなく、教員を管轄する州国民教育事務所や各県視学官事務所の努力が必要となります。

今回のフォーラムでの討議を受け、教員管理の改善すべきとの認識しており、今回の就学促進キャンペーンにあわせ、ザンデル州国民教育局長へは、契約教員の給料遅配をなくす努力

を、また教員組合には、給料遅配や雇用条件に反抗するためのストライキ実施を見合わせるよう申し入れ、それぞれから承諾を得ることができました。これはほんの一例ですが、こうしてプロジェクトが供給側の問題を解決するためのお膳立てをすることで、住民のニーズを汲み取る受け皿を整えることができ、しいては初等教育における、あらゆる状況を改善することが可能となります。

## 新たな取り組み

今回のフォーラム終了後、州国民教育事務所長は、教員管理を改善するためには、教員の監督機関である視学官が徹底して現場を巡回すること、また、COGES担当官月例会議のように、視学官も定期的に情報交換・問題解決のための議論の場が必要であることを強調しました。しかしながら恒常的な予算不足で、簡単には実施できないのが実情です。そこでプロジェクトは、ザンデル州国民教育事務所長とともに本件について協議し、費用対効果を十分考えた上で、同事務所長の要請に応じ、教員の現状改善のための活動について一部支援をすることにしました。

具体的には、視学官事務所長の月例会議開催を支援します。この会議の場で、各視学官事務所長は毎月学校巡回報告をし、情報共有及び問題解決に向けた議論を行うこととなります。巡回のためのガソリン代は州国民教育事務所長が予算を捻出することを約束しているため、今後視学官は「ガソリン代が捻出できないから巡回できなかった」という言い訳はできなくなります。

この月例会議開催支援を行うことで、以下の効果が期待されます。

### (1)巡回を通じて「教員のいる学校」へ

教員の出勤管理等の補助をすることは、最近COGESの役割と規定されましたが、元来、教員を管轄するのは視学官事務所の役割です。彼らの業務の一つに学校の巡回があり、授業を視察した上で、教員の教授方法等についてアドバイスを行うことが求められます。現職教員研修制度が機能していないニジェルでは、彼らの巡回が唯一の「教員の質の向上」につながるものです。しかしながら、実際は予算不足のため、学校を巡回するためのガソリン代が捻出できず、巡回はほぼ実施されていません。これにより、質の向上どころか、上司の目が行き届かないのはいいことに、特別な理由もなく欠勤する教員は後を断たず、学校が学校として機能していない状態にありま

す。「もう2年以上、視学官の人が学校の巡回に来ていない」と現状を嘆く校長たちが多くいます。

このような理由から、視学官が現場に巡回に出ることで、教員の出勤状況が劇的に改善されることが期待できます。また、長期的には彼らのアドバイスを通じて教員の質の改善にもつながります。

### (2)多様なニーズに応える情報提供の場へ

この月例会議の機会を利用し、巡回の結果を報告のみならず、様々な情報提供、あるいは簡易研修を実施することが可能になります。

例えば、女子にとって、学校が「過ごしやすい環境」となるように配慮するには、どのようなことが必要なのかを、この視学官たちがこの会議中に研修を受け、学校巡回の際に校長や教員に対して指導することが可能となります。但し、教員たちが簡単に適用できる簡素化したモデルで、かつ効果がすぐに出せるものでないと、誰も取り入れてくれません。

また、フォーラムでは多くの参加者が、APP(生産実習活動)を通じて児童が技術を身につけることで、親が子供を学校に送るインセンティブにつながると発言していたことから、視学官への研修を通じて、希望する学校に対して、当プロジェクトフェーズ1で実施していたAPPクラブの導入も可能になります。さらには、学校保健、環境教育、複式学級の効果的な指導方法等、教員、住民のニーズに合わせた情報提供を行うことが可能となります。

2月中旬には、第1回目の月例会議を予定しています。そこでは女子の残存率を向上させる上で、女子に配慮した学校環境とするために教員が持つべき視点等、また具体的などのような活動を実施すべきかを皆で議論します。

就学率向上に引き続き、残存率向上に向けて、住民、教員、地方行政官とともに一体となって、みんなの学校プロジェクトはニジェルの教育開発指数向上に貢献していきます。



## 風の音を聞きながら 2

スピーチほど、きれいなものはない。それが外国語だと超がつくほど嫌だ。もともと人の前でしゃべるのが苦手で、とても緊張する。ただ、最近は立场上、人の前で、しゃべることが多くなった。この号の特集でもあり、テレビ放映が予定されていた「教育開発のためのザンデル連帯フォーラム」でも、仏語でスピーチをしなければならなくなった。このフォーラム自体は、ニジェールの教育開発の方向性を変えるほど重要なイベントであり、それに、住民の力のすごさを是非、参加者やテレビを見ているひとに伝えたかった。だから、自分の作った原稿の仏語をスピーチ用に体裁を整えてもらい、フォーラムの前日にホテルの部屋で声を出して練習していた。伝えたい気持ちがあっても、発音やイントネーションが悪くて、内容が通じなければ、意味がないからだ。しかし、悪いことに、その日の夕食で、鶏肉をかじっていたら前歯が抜けて、へんなどころから、息が抜けて、うまく発音できない。なんとか、抜ける空気を調整するために、その日は、朝方まで、発音の練習をしていた。当日は寝不足のせい、会場の熱気のせい、普段よりは緊張せず、スピーチを終えた。終わったとたん、少し、ぼんやりしてしまった。このスピーチの後に、とてもよい教育大臣の開会スピーチがあったのだが、ほとんど覚えていない。あとで、テレビのニュースで結

構長くこのフォーラムのことが放映された。大臣のスピーチの場面では、他の人が緊張した面持ちで、大臣の話を聞いているのに、自分だけ、少し上を向き、ぼんやりと遠くを眺めている様子が映し出されていた。実はこういうことがよくある。極度の緊張の後に、まったくその場とは関係ないことが頭に浮かび、その場から遊離してしまうことが。その時は、昔パリにいたときのことを考えていた。

とても若い時期に、パリで一年ぐらい、遊んでいた。語学留学というのは、名目だけで、午前中は、生活費を稼ぐために、凱旋門界隈にある日本企業への仕出し弁当を5000の三輪自動車で配達し、午後は、パリスコープを片手に、パリ中のシネマテークで古今の名作、駄作の映画を見て暮らしていた。勉強しなかったのも、その罰あたり、今でも語学には苦労している。このパリでの一年、とても長い無駄な時間だったようにも思えるし、限りなくおいしい時間にも思える。

人生が有限である限り、時間の無駄使いという言葉があるのは当然だが、無為と思える時が、必ずしも無駄であるとは限らない。あまり選択もせず見た映画が、教えてくれたことも多いし、ただ、散歩ばかりしていた時間が、心に潤いを与えてくれたような気がする。

だから、本当に自分にとって価値があると思えることが見つかるまで、無駄に時間を過ごすのも悪くはない。



ただ、空白とも思える時間の中に行くと、自分が、袋小路に追い詰められた気がしてくる。そんな時は、そこから一步踏み出せばいい。そうすれば、明日が見えるかもしれない。

しかし、実際には、前に進んでも、明日なんて見えないことが多い。でもそれも悪くはない。生きるということ自体、実現しない夢を繰り返してみているようなものだから。

風の中に立つと、物語が聞こえてくることがある。もしかすると、実現しなかった夢を物語にかえて、誰かが風にたくして、語っているのかもしれない。だから、風の中に立ったら、言えなかった言葉、届かなかった思いや夢を語ろう。風が、伝えたかった人に、自分の物語を運んでいってくれるかもしれないから。

我に返ったときは、大臣のスピーチは終わっていた。(H)

### みんなの学校プロジェクトフェーズ2 ホームページ開設!

(<http://project.jica.go.jp/niger/0608872/>)

当ホームページでは、**マンスリーレポート**にてみんなの学校の活動をリアルタイムで紹介しています。フォトギャラリーや動画もご覧いただけます。

また、「みんなの学校だより」のバックナンバーはホームページからダウンロードできます。是非、ご覧下さい。

### 本誌「みんなの学校だより」に関する 皆様のご意見・ご感想をお聞かせください!

~~~~~ 編集・発行  
ニジェール住民参画型学校運営改善計画第2フェーズ  
(みんなの学校プロジェクト)  
お問い合わせ・連絡先  
Projet Ecole Pour Tous Phase  
BP2728 Niamey, NIGER (ニアメ事務所)  
電話/FAX: +227-2035-0644  
BP165 Tahoua, NIGER (タウア事務所)  
電話: +227-2061-0571  
E-mail: [Rosedesaha@aol.com](mailto:Rosedesaha@aol.com)  
または [Nakazawa.Junko@jica.go.jp](mailto:Nakazawa.Junko@jica.go.jp)



## 普及されたCOGESの機能化とCOGES連合の全国普及

ついに、機能するCOGESの全国普及が終わった。それは、プロジェクト開始当初20のパイロット校から始めたことを思えば、夢のような話だが、一端、実現してしまえば、今度は、クリアしなければならぬハードルがさらに増えた。

### 機能するCOGESの全国普及

機能するCOGESの全国普及は、ニジェールのタウア、ザンデル両州を除く地域の7500校に対して行われた。去年の7月にCOGES委員選出のための研修が始まり、今年2月に学校活動研修が終了した。実施は、資金を世銀が提供し、国民教育省によって行われた。研修受講者は、22500人にのぼり、研修実施期間7ヶ月かかっている。この全国普及のために行われた活動を具体的に列挙すると以下のようなことになる。

1. 州COGES監督官を補助し、研修計画や実施の支援を行うNGO要員の公募、選考、契約
2. 県COGES担当官への講師研修
3. 研修計画の策定
4. 研修の実施

この研修実施は、いままでニジェールの教育分野において行われたもっとも大規模な研修であり、それが、ニジェル人の手で実施されたことは、非常に大きな成果であると評価できる。しかし、現実には、この研修プログラムは穴だらけだった。例えば、このプログラムには、研修を計画・実施する州レベルの関係者への、研修に関する情報提供の機会が予定されていなかった。あるいは、研修の実施をモニタリングするための情報収集システムもなかった。

### 問題点とプロジェクトの役割

国民教育省が作成した計画通り研修が実施されていたら、実施の現場は混乱し、期限内に研修を終えることは不可能だった。研修の質は著しく低下していたに違いない。プロジェクトは、これらの穴を埋めるために、手助けをしてきた。まず、研修実施の当事者たちと研修情報を共有するための会合を開催し、さらに実施NGOを

通した研修の実態と問題点の把握を行い、その修正、そして、国民教育省に対する問題点の通知などを行った。正直に言えば、こんなことはすべて、国民教育省がやるべきことだし、オーナーシップの面から、プロジェクトの介入はやりすぎだと言う人もいるかもしれない。しかし、このプロジェクトの支援により、研修は成功を収め、機能するCOGESが全国に誕生した。そして、今回の研修実施上の問題点は、次回の全国規模の研修に活かされることになる。一方、このような技術支援を行わない研修は効率的に行われていないし、成果を上げていない。そして、それらの研修実施結果からは何も学べない。それに比べれば、今回の研修は、支援を受けながらも、実際の研修を実施し、成功するためには何が不足して、何が必要なのかを知ることによって、ニジェル側が学んだことは非常に大きい。

### 普及終了後の課題

COGES全国普及の研修終了と同時に、大きな問題が発生することが、予想されていた。それは、世銀の資金支援が今年2月で終了し、COGESのモニタリング体制維持の予算がなくなってしまうことだ。勿論、現在までの経験で、COGESはモニタリングや技術支援なしでも動く。しかし、モニタリングや技術支援なしでは、機能度は下がるし、COGESに関する情報が中央でわからない。だから、ミニマムパッケージという、地方行政官によるモニタリング体制を整備、機能化する必要があった。現在は、その機能化を「ニジェールの予算」(見返り資金)で、動かそうとしている。これが、また動かない。現在、見返り資金の運営に関する調印の調整から始まって、実際の運営の細部にわたる交渉を行っているが、国民教育省側内部の調整に非常に時間がかかる。世銀の資金提供は終わっているのだから、早く、この資金を支出しなければ、COGESのモニタリング体制は麻痺してしまう。そのため、プロジェクトでは、この資金使用開始のために必要な手続きの促進に全力で取り組んでいる。

一方、プロジェクトとしての今年のもう一

つの大きな課題に、COGES連合の全国普及がある。タウア、ザンデル両州で経験しているように、COGES担当官によるモニタリングは、その限界があり、この限界を補うために、COGES連合の内部モニタリングが必要であるし、その緊急性は高い。COGES連合の全国普及には、まず、プロジェクトのCOGES連合の試行モデルが正式に承認されなければならず、そのために、まず、外部コンサルタントによるCOGES連合評価、そして、国家レベルでの承認が必要である。その後、全国のCOGESに対するCOGES連合研修の実施が待っている。現在は、評価のためのコンサルタント雇用のための手続きを国民教育省が行っているが、それにも非常に時間が掛かっている。

### COGES連合と地方分権化

これだけの労を要して、機能するCOGESやCOGES連合を設置してどのような意味があるのか。予想できる説明は、教育の地方分権化体制の中で、権限を委譲される受け皿(COGES)の能力強化という地方分権化の枠組みの中でのものだ。しかし、地方分権化の議論は百花繚乱であり、試行されている形も様々である。しかも、様々な地方分権化実施の成果に関する評価が確定している例は少ない。地方分権化の中での住民参加について言えば、多くの地方分権化が、住民を教育開発における決定の過程に参加させることや、責任を持たせることをその基本理念に謳っているのに、実際には住民参加が達成できている例は少ない。その理由をよく考える必要がある。理由を単純化して述べれば、地方分権化の完全なる体系を作り出したとしても、その形だけでは、住民参加は起ってこないということに尽きる。それは、地方分権化政策と住民参加は「別物」だからである。そしてそのことを政策策定者がよく分かっていない。だから、多くの地方分権化政策が想定する分権化体制は、住民参加を促すようには出来ていない。そこに住民参加を促すためには、別の種類の努力が必要なのであ

(3 ページに続く)



# COGES連合評価 現場調査から

1月2日から2月26日までの約2ヶ月間、短期専門家として派遣され、プロジェクト対象タウア州、ザンデル州における学校運営委員会(COGES)連合94団体の実績と問題点を調査しました。COGES連合とは、コミュニティ(市・郡)レベルの全COGESをグループ化した組織です。調査では、COGES連合、コミュニティ、COGES、地方教育行政関係者等へのアンケート及び聞き取りを行いました。これらの調査結果については、国民教育省に対する発表、及び両州のCOGES担当官月例会議にて共有されました。

COGES連合の評価にあたっては、国民教育省のCOGES推進室長と協議を行い、主に(1)連合運営能力、(2)連合活動の成果、(3)支援体制、(4)インパクト、の視点で評価を行いました。主な結果は以下の通りです。

## (1) 連合運営能力

### 民主性:

94連合中88連合が、コミュニティ内の全COGES代表による投票で連合事務局の設立を行っていることが分かりました。また、全ての重要決定事項(連合活動計画や最終評価の承認等)についても、90以上の連合が総会の場で、COGESの総意を得て行っており、民主的な組織運営がなされていると言えます。

### リソース動員能力:

COGES連合計画の実施にあたっては、プロジェクトによる支援は一切行われておらず、93連合がCOGESからの分担金、コミュニティからのわずかな支援によって自主運営をしています。COGESからの分担金は昨年度1連合あたり、96,741FCFA(約2万3千円)、1校あたりおよそ3,000FCFA(約715円)が連合の活動・運営資金として負担されています。

### 透明性:

COGES連合の活動には、一部の限られた役員のみが関与しているのではなく、総会の場を通じて、常にCOGESに対して情報共有されており、活動の透明性は確保されていると言えます。また、91連合が会計帳簿、92連合が分担金帳をつけており、会計の透明性も保たれています。ただし、現場では「一つの行に収入・支出を書いている」、「分担金帳にサインがない」等技術的に問題がある連合やずさんな会計管理を行っている連合が一部見受けられました。

## (2) 連合活動の成果

COGES連合は、1) 個々のCOGESのモニタリング、2) コミュニティ内の教育改善活動の実施、3) 行政・その他機関との交渉の3つを中心に活動を行っています。これら活動の成果は以下の通りです。

### 1) 個々のCOGESのモニタリング

- ▶ COGES連合は学校活動計画票や最終評価票を収集・分析し、「詳細に欠けている」、「実現不可能な計画となっている」等技術的な問題がある場合には、指導も行っています。学校活動計画票の収集率は91.1%(2,728校分)、最終評価票の収集率は86.5%(2,590校分)と非常に高い数値でした。
- ▶ 連合は年平均3.1回の総会を開催していることが明らかとなりました。総会参加に平均1時間42分を要し、交通費は参加校負担となっている中で、この数値は非常に高いと言えます。また、総会の場では経

験共有、情報共有が行われています。94連合中83連合がゾーン責任者による巡回モニタリングを実施しており、計画実施状況の確認や問題の解決が行われています。

### 2) コミュニティ内の教育改善活動の実施

連合の教育改善計画の中で、221活動、つまり1連合あたり平均2.6活動が自己資金で実施されました。啓発活動(就学促進、COGESの役割等)や質の向上を目的とした活動(補習授業、模擬試験、教員自主研修支援)が多く実施されていることが分かりました。

### 3) 行政・その他機関との交渉

COGES連合は、コミュニティと活発に連携を行っています。コミュニティからの物的支援(啓発・巡回時のガソリン、バイク、総会時の食事の供与等)を受けている連合は94連合中56連合、人的支援(総会や啓発活動等への参加)を受けている連合は94連合中65連合であることが分かりました。コミュニティからの資金援助はザンデル州にて、52.7%、その額は平均112,629FCFA(約2万7千円)となっており、最も多いところで、150万FCFA(約36万円)の支援を受けた連合もありました。また、視学官事務所もCOGES連合を情報伝達・収集・問題解決の場として利用しており、連合をうまく利用しています。

### (3) 連合支援体制

94連合中半数以上が1ヶ月に1回以上COGES担当官からモニタリング・指導を受けているとしており、十分な回数のモニタリング・指導がなされていると言えます。COGES担当官に対するグループインタビューでも、COGES連合活動計画、会議議事録や会計帳簿について内容のチェック・指導を行っているとしています。ただし、一部の連合について、計画・会計能力が不足しており、COGES担当官による指導の質の向上が今後の課題と言えます。

### (4) インパクト

2007年5月頃からザンデル州で行われたCOGES連合及びCOGESによる「女子就学促進」キャンペーンにより、前年度に比べて、女子児童が7000名以上多く入学する結果となり、男女比率も昨年度0.83から今年度0.92へと大幅に改善しました。現場インタビューでは、以前の啓発手法と違い、外部の人間ではなく、コミュニティ内のCOGESが中心となり、啓発活

### COGES連合優良事例:

#### 卒業試験対策の補習授業支援(タウア州コニ県バザガ連合)

昨年、COGES連合の活動として、コミュニティ内の全12校にて卒業試験対策の補習授業を支援しました。コミュニティ長もこの活動を奨励し、連合は、ランプや問題集を購入して配布しました。補習授業の効果は高く、12校中7校にて試験合格率がタウア州平均値より20ポイント以上高い結果となりました。12校の試験合格率は連合総会で発表され、他校に刺激を与えました。この成果により、住民の教育に対する意識が向上し、昨年は非常に時間のかかったわらぶき教室の建設に、今年はほとんど時間がかかりませんでした。





動(住民総会や家庭訪問)を行ったことが、成果につながったとの声が多く聞かれました。

### 結論

以上のように若干の課題はあるものの、ほぼ全ての項目で、タウア、ザンデルで試行されているCOGES連合は、非常に高い評価を得たといえます。一部の改善を行えば、全国普及に向けてモデル化は可能であると判断されます。近隣国で現在、このような組織が、これほど、広範囲に住民により自主的に運営されている例はありません。このような成果を得られた

主な要因は、「すべての重要決定事項(役員選出、計画策定、評価等)が総会の場で構成のCOGESの総意で決められており、民主的でなおかつ、透明に実施されていること。」「COGES連合の運営・活動実施は、プロジェクトによる支援なしで、COGESからの分担金等ローカルリソースに頼るというアプローチを取り入れ、COGESがそれを受け入れたこと」などが挙げられます。

地方教育行政担当短期専門家 森本 美奈子

### 調査を終えて

ニジェルで、学校運営に関わるのは2回目です。2003年から実施された日本の無償資金協力による小学校建設のソフトコンポーネント(COSAGE)で、原専門家は新卒同然で何も分かっていない私を常駐担当者として1年半働かせてくれました。冷房禁止、ニジェル人スタッフとその孫との同居、2週間続けたの断水、押せどもタウアの砂に埋まる小型四駆、イスラム裁判出席等々、思い起こせば、厳しくも楽しい日々でした。でも、その頃から、ニジェルの住民の持つパワーに勇気づけられてきました。

今回の調査でも、連合に関わる人々のやる気や使命感の高さには驚かされました。学校運営委員会(COGES)連合の事務局役員は皆ボランティアで働いていますが、その上、役員限定の分担金を設けているところもたくさんありました。インタビューでは、「連合の活動を成功させたいので、役員限定の分担金も支払っている。」「ザンデルの人々の暮らしを良くするためには、教育は重要。ザンデルの将来のために連合活動を真剣に行っている。」という声が聞かれました。

今回最も印象深かったのは、女子就学に関するキャンペーンです。連合・コミュニティ関係者の誰に聞いても、COGES連合とCOGESを通じた啓発手法はうまくいったと話していました。「よそ者による以前の啓発手法とは違い、今回はコミュニティのメンバーであるCOGESが啓発を行っており、啓発後、女兒が入学するまでフォローアップを行ったことが大きい」との声が多く聞かれました。

ニジェルの人々を取り巻く環境は非常に厳しいです。タウアやザンデルでも、時期によっては、一日一食食べられない

状況になる人々もいます。このような厳しい状況の中で、なぜニジェルの人々はこんなにも一生懸命に目の前の教育課題に立ち向かうことができるのでしょうか？

女子就学促進の成果が出たコミュニティでこんな話が聞かれました。「連合総会で、自分たちのコミュニティの女子児童の入学数を他の地域と比べて発表すると、皆、感激していたし、誇らしげだった。」目に見える形で成果が出るということが、現場の人たちにとって非常に重要で、誇りや勇気を与えると原専門家も話されていました。ニジェルにおけるCOGESのこれほどの普及や発展も、小さなことであっても自分たちで実施した住民の実績と自信と誇りから生まれていると感じています。教育やコミュニティの発展によって、ニジェルの人々の心や暮らしが少しでも豊かになることを願うばかりです。

最後に、調査にあたって様々な情報提供、意見交換、側面支援をくださった中央・州カウンターパート、ONEN、日本人専門家の方々に心より御礼申し上げます。学校運営委員会支援及び教育改善全般に対する関係者の方々の熱い思いには心打たれるものがありました。(森本)



女子就学促進の戦略について語る女性  
(ザンデル州COGES連合大会にて)

(1ページから続く)

あるいは、地方分権化が、住民参加を促し、その力を十分に活かすような体制を作りたいのであれば、まず、住民参加を中心とした機構を考え、その機構を活かす形での地方分権化の形を考える必要がある。

ニジェルでは、幸か不幸かまだ、教育の地方分散化機構と、地方分権化機能との関連性がはっきりしていない。すでに、現実を考慮していない、表面的な議論が展開されていはいるが、これから、その関係性についての本格的な議論がなされていくだろう。勿論、COGES連合は、その議論の端緒となると思われる。プロジェクトとしては、安易にこの論戦に加わり、そして、吟味されていない結論が下されることを危惧する。

### COGES連合の未来

今すべきことは、多くの人たちにCOGESやCOGES連合の実力を知らしめることである。今年は、ザンデルだけではなく、タウアでも女子就学促進キャンペーンが展開される。ザンデルは、就学促進だけではなく、現在は、生徒の残存のためのキャンペーンが進行中で、しかも、そのキャンペーンは、州国民教育事務所の視学官の学校巡回強化のイニシアチブを伴った形で行われている。この二つの州で、今年は、去年以上の大きな成果が望める。現在、進展中のCOGES連合戦略承認プロセスを経て、来年2月までに、COGES連合が普及されれば、このキャンペーンを全国で展開することが可能となり、その結果は、ミレニアム開発目標の達成に直接大きな貢献を行うこととなるだろう。ここまでくれば、COGES連合の教育開発における役割に疑問を抱く者はいなくな

るだろう。COGES連合の位置付けについて議論するのは、この時点でも遅くはない。むしろ、その時には、住民参加を優先した形の新しい地方分権化の形が生まれてくる可能性がある。

現在ニジェルの優先事項は、表面的な地方分権化の制度的な整備ではなく、より多くの子どもたちが、特に女の子が学校で学べることであり、その学校には、先生がいて、教科書があることなのだ。COGESやCOGES連合は、これらの教育開発における最低限の目標に、最小限の投入で、最大限の効果を上げられる、ニジェルにとって、最後の切り札なのである。その実例をプロジェクトが示し続けることによって、ニジェルの教育開発や教育状況は、変わっていくだろう。

チーフアドバイザー 原 雅裕

# ニジェール女子就学促進の費用対効果を考える

## ～女子教育改善の鍵を握るのはCOGESとCOGES連合～

先般、ユネスコより「万人のための教育(Education for All: EFA)グローバルモニタリングレポート2008」が発表されました。この年次報告書は、国際社会がEFA達成に向けて取り組んでいる教育開発の進展を6つの指標を用いて報告しています<sup>(\*)</sup>。その中の一つの指標として、ジェンダーの視点が挙げられています。

今年の報告によると、初等教育アクセスの点において、1999年から2005年の間に多くの国で就学率の男女格差が解消、あるいは改善されつつあり、ニジェールも大きく改善された国の一つとして列挙されました。しかしながら、現在でも就学率の男女比は0.80以下<sup>(2)</sup>、すなわち男子100人に対し女子は80人以下しか就学できていないという、依然として大きな格差が存在していることも合わせて指摘されています。

国民教育省によると、ニジェールの教育開発10ヵ年計画(PDDE)が開始された2003年、男女別の総就学率はそれぞれ54.2%、36.5%、男女格差は17.7ポイントでした。それが、2006年には男女総就学率は63%、43%とともに上昇しましたが、男女格差は19ポイントと拡大しつつあることが判明しています<sup>(3)</sup>。他国同様、ニジェールでも、国民教育省をはじめ多くの開発パートナーが女子教育改善のために様々な協力を行ってききましたが、支援ドナーの数も支援額も増加する一方で、就学率における男女格差は拡大する、そんな皮肉な現象が起きています。

他方、「みんなの学校だより」第18号でお伝えしたとおり、ザンデル州ではCOGES及びCOGES連合のイニシアティブにより、2007/2008年の入学登録者数が増大し、男女格差が劇的に改善され、国民教育省関係者をはじめ、他ドナーを驚かせる結果となりました。なぜ関係者が驚いたのでしょうか？ それは、上述の通り、様々なドナーが大規模な投入を行い、長期間に渡って女子就学促進のための活動を実施してきたにもかかわらず目に見える結果が出せない一方、地域住民が自分たちの限られた資源を駆使して、あるいはほとんど費用をかけずに、他ドナーが成し得なかった結果を短期間で出してしまったからです。

「それなりの投資があれば結果もついてくる」- そんな援助業界の常識を覆したのが、今回のザンデル州におけるCOGES及びCOGES連合の取り組みです。わずかな投資で最大限の成果を出すことができたこのアプローチは、費用対効果が高いと言えるでしょう。

本稿では、ずばり、ニジェールの女子教育促進活動の費用対効果について考えてみたいと思います。

### 大規模な投資とその効果

ニジェールではユニセフ、カナダ国際開発庁、世界銀行をはじめ、数々のドナーやNGOが女子就学促進活動を展開しています。今年からはアメリカ政府系のMCC(Millennium Challenge Cooperation: ミレニアム・チャレンジ公社)も支援を開始するなど、女子就学促進活動は熱気を帯びるばかりです。

2004年から2007年の4年間にわたって、これらのドナーが女子就学促進活動に投じた額は、922,038,000Fcfa(約2億2,570万円相当)になります<sup>(4)</sup>。ちなみに、ニジェール教育分野の最大ドナーである世界銀行は、この合計額のうち1億円以上を女子就学支援に支出しています。そして、その投資の効果ですが、この期間、女子の総就学率の増加は前述のとおり、2003年の36.5%から2006年44%へと、7.5%増加しました。つまりは、ニジェールにおける2億2千万円の投資の結果、7.5%の就学率改善につながった、ということになります。費用対効果を考えると、果たして、この結果が妥当なのかどうか、微妙なところではあります。

### 本当に有効なアプローチ？

では具体的にどのような活動を実施しているのでしょうか？ 国民教育省を始め、ドナーに取り入れられている活動には、女子の就学促進及び修了率向上を目的とした、地域住民による啓発活動、教育行政官へのジェンダーに関する研修の実施、成績優秀な女子生徒への報奨金、学校給食等があります。

ここニジェールでは、女子就学啓発活動において、COGESや母親会を積極的に巻き込んだ就学促進活動が非常に効果的であるとの評価が高く、世界銀行、カナダ国際開発庁、国際NGO、ニジェール国民教育省等、ほぼ全てのパートナーが同様のアプローチを取っています。身近な住民による啓発活動はモニタリングもしやすく、継続的に実施可能、かつ費用がかからないなどのメリットが多くあります。さらには、地域住民に対して影響力の強い伝統的首長、イスラム教指導者(マラーブ)などが女子教育の重要性を説くことで、啓発活動の効果がさらに増すといわれています。これは「みんなの学校プロジェクト」で積極的に取り入れている手法でもあります。

このように、非常に「経済的」かつ「持続的」な活動がある一方、資本金や研修等、ある程度の投入が必要となる活動も実施されています。その一つに、国民教育省や多くのドナーが導入している「母親の収入創出活

(\*1) EFAの6つのゴールは以下の通り。(1) 乳幼児のケア及び教育(ECCE)；(2) 初等教育の完全普及；(3) 青年や成人のための教育；(4) 成人識字；(5) ジェンダー；(6) 質

(\*2) 男子の就学率を1として比較した、女子の就学率の割合

(\*3) PDDE(教育開発10ヵ年計画) 2em Phase: 2008-2010: Composant Accès, p.37

(\*4) Millennium Challenge Corporation (MCC) Threshold Program Action Plan, p.52



動を通じた女子の就学促進支援」があります。これは母親会のメンバーが小規模ビジネスを立ち上げ、そこで得た収入から女子の就学資金に割り当てるというアプローチで、PDDE第1フェーズにて世界銀行の基礎教育開発支援プロジェクト(PADEB)資金により実施されました。経済成長率が低く、雇用機会が少ないニジェールのような国では、女性が自分の労働力により賃金を得ることは決して容易なことではありません。ましてや、ニジェールはイスラム教徒が大部分を占め、特に農村部の女性は収入を得るところか、自分の意思決定で自由に使えるお金を持つことなど大変困難です。そんな環境下、女性が自分の力で小規模ビジネスを始め、成功して収入を得ることは、自分の娘を学校に行かせる機会を与えるだけでなく、収入を生み出すという行為を通して自信を持つことができ、さらには、自分で得た収入の使い道を、自分の意思で決定できるようになれば、女性の自立の一步へとつながる可能性もあります。そのような意味では、これは女子、女性の社会進出に大きく貢献しえる活動と言えます。

しかしながら、その成果は決して良好なものとは言えないようです。昨年度実施されたPDDE現地調査の結果、収入創出活動のための資金は配分されたものの、活動計画が不明瞭である、母親会のメンバーで資金配分額にかかる揉め事が起きる、研修が適切に実施されていない等、様々な問題が多発し、また資金配分後のモニタリングもほぼ実施されず、この収入創出活動の結果がどの程度女子の就学率及び残存率に貢献したか、的確なデータの集計が困難であることが判明しました。また、母親が自分の収入創出活動のために、学校に送るべき娘を動員して、市場に物売りに行かせるなど、残念な話も耳にしました。

結局、この活動を含めた女子就学促進活動は、全般的に、期待された成果を出すことができなかつたと結論づけられました。これらの活動は世界銀行によって支援されましたが、その総額は2007年だけで354,587,000Fcfa(約8,700万円相当)になります。

それにもかかわらず、PDDE第2フェーズ(2008 - 2010)でも、インパクトがそれほど見込めなかつたPDDE第1フェーズと同様の活動が盛り込まれ、さらにはドナーも、この評価結果を吟味せずに、「国民教育省の計画に記載されているから」との理由だけで、活動に予算を充てることにしてしまいました。

また、PDDEの女子就学促進における支援対象地域は、ニジェール全国で9,000校以上ある中、わずか600校が対象となっています。従って、限定された学校の状況が改善されても、そのインパクトは微々たるものであることから、昨年度の評価調査結果の提言として、女子就学率改善のためには、汎用性のあるアプローチを採用し、全国レベルで支援すべきとあります。

費用対効果が高く、かつ汎用性のあるアプローチ、それを具体的に提示しているのが、「みんなの学校プロジェクト」が協力しているザンデル州でのモデルなのです。

### 今後の女子就学促進はCOGESとCOGES連合が鍵

入学登録者数の増加だけでなく、男女格差解消にも貢献したザンデル州での女子就学促進キャンペーンのアプローチのもう一つの強みは、まさにこの費用対効果にあります。プロジェクトで支援したのは、女子就学問題を関係者間で議論する場となったCOGES連合フォーラム開催費のみです。この費用は約6,000,000Fcfa(日本円約140万円)ですが、各COGESで実施した活動はそれぞれ学校活動計画に記載されていることから、地域住民の負担となります。手法としては、市長や伝統的首長出席のもと住民総会を開催し、女子就学についての啓発を行うものが最も多く取り入れられており、その他、ラジオを使用した啓発、コミュニティや村等で集会が実施される際に合わせて女子就学の啓発も行う等、身近に実施できる活動ばかりです。

女子就学促進活動のための予算は、上記のPDDEのアプローチが600校に対し8,700万円、「みんなの学校」では1,800校に対し140万円。1校あたりの配分額はPDDEが14万5千円、「みんなの学校」は777円。どちらも費用対効果が高いかは歴然としています。

このように、高い費用対効果とCOGESのネットワークを使った女子就学促進のアプローチに関心を抱いた世界銀行ニジェール事務所の担当者からも、ザンデル州での活動結果について問い合わせがありました。前述の通り、世銀はPDDEの女子教育活動に大規模な予算を充てている大手ドナーの一つですが、去る3月に実施されたPADEB中間評価にて、女子就学活動の評価が決して高いものではなかつたことから、活動のアプローチを転換せざるを得ない状況にあるようです。

また、他ドナーのみならず、国民教育省内、州レベルでも関心は高まるばかりです。タウア州国民教育事務所長もこのアプローチに大きな関心を示し、2008 - 2009年の新学期に向け、女子就学促進キャンペーンの取り組みを開始しました。タウア州はニジェールの中でも就学率を始め、あらゆる面で男女格差が最も大きい州でもあります。タウア州では、2005年 - 2006年に7連合のみで就学促進キャンペーンを展開し、成功した経緯がありますが、今回はみんなの学校プロジェクトが対象としている全39連合に、国際NGO「Concern」が活動対象地域の3連合もキャンペーンに参加することが決まっています。タウア州の女子教育指標がどの程度改善されるかは、住民と教育行政官の意思と行動にかかっています。

今年のPDDE活動計画に、全州でのCOGES連合設置が予定されています。COGESとCOGES連合のネットワークが全州でつながる日が、遠くない未来にやってきます。例えば来年、全COGES連合が一同に女子就学向上キャンペーンを実施したら、どんな結果が出てくるのか。そんなことを想像すると、ソクソクと武者震いしてしまうのは筆者だけでしょうか。

住民能力強化担当専門家 中澤 順子

# 見返り資金による全国のCOGES支援へ!

2008年2月19日、国民教育省大臣とJICAニジェール事務所西本所長の間で「見返り資金」(下記注)の運用にかかる議定書署名式が行われました。この日から、見返り資金による、ニジェール国民教育省の学校運営地方分権化政策推進支援プロジェクトが開始されました。COGES政策を推進する上で、活動の根幹であるCOGES担当官月例会議やモニタリングにかかる費用が、すべて見返り資金の支援によって実施されることとなります。つまり、日本は今や、COGES政策を支援する最大ドナーとなったのです。この支援は今後3年間続く予定です。

## 見返り資金申請の背景

すでにご存知の方もいらっしゃるように、当プロジェクトは世界銀行と連携して、機能するCOGESを全国の小学校へ普及する活動を支援してまいりました(詳細は「みんなの学校だより第16号」をご覧くださいね)。これは当プロジェクトで開発した汎用性の高いモデル「COGESミニマムパッケージ」を、国民教育省が有効なアプローチと認め、このアプローチを使って全国のCOGESを機能化させることを決定しました。しかしその後、実施するための十分な予算がないことが明らかになり、最終的には世界銀行の基礎教育開発支援プロジェクト(PADEV)により、この「機能するCOGESモデル」全国普及実施に必要な予算が支出されることが2007年2月に決定しました。これにより、タウア・ザンデル州以外の6州において、選挙研修並びに学校活動計画研修実施にかかる費用、及びCOGES担当官月例会議開催費、巡回のためのガソリン代等の支援を受けました。

しかし、その世界銀行の支援が終了する2008年1月末以降、COGES政策実施支援経費の負担を予算事情の厳しい国民教育省に求めることは短期的には困難でした。必要な予算をどう捻出すべきか、関係者一同頭を悩ませておりました。そこで浮上した案が見返り資金の運用でした。本資金の運用申請に関しては、ニジェールを兼轄する在コートジボワール日本大使館と協議を重ね、その結果、2007年12月に外務省より見返り資金運用の承認が得られました。

## 見返り資金によって実施される活動

今後3年間にわたって実施される活動は、中央レベルと州レベルに分けられます。具体的な活動は以下の通りです。

### <中央レベル>

COGES推進室による全国COGESのモニタリング

### <州レベル>

COGES担当官月例会議

州COGES監督官及び県COGES担当官のモニタリング費用(ガソリン代)及びバイク維持管理費

COGES事務所運営費(光熱費、文房具、電話代等)

NGO委託経費(州COGES監督官の支援要員)

新任校長への選挙研修及び新設校COGESへの学校活動計画研修

会計監査備上費(プロジェクト終了後実施)

## 円滑な事業の実施、透明性の高い資金運用を目指して

見返り資金運用にかかる一切の責任は、日本政府や

注: 無償資金協力によって供与された物資や食糧の売却代金を被援助国政府が中央銀行などの指定口座に積み立てるもの。見返り資金の活用は、我が国の在外公館を通じてモニタリングされる。(出典: 外務省)

JICA事務所、プロジェクトではなく、先方政府に帰するものです。従って、今回の資金管理、活動実施管理もニジェール政府や国民教育省が一切の責任を負います。

しかしながら、多くの政府機関では、書類手続きや内部決裁等にかかなりの時間を要することが多く、国民教育省もその例外ではありません。万一、見返り資金運用のための手続きが停滞してしまうと、すべての活動を停止せざるを得ず、それはプロジェクトの活動にも多大な影響を及ぼします。例えば、COGES担当官会議開催支援費やモニタリングのためのガソリン代が見返り資金から支出されなければ、プロジェクトは、COGES担当官を通じてCOGES及びCOGES連合のモニタリング状況を確認したり、会議を通じて担当官の能力強化を図ったりすることが不可能となります。

このような問題を未然に防ぐために、見返り資金運用の進捗管理を行うための「運営委員会」を設置しました。委員会のメンバーは、国民教育省側からは財務局、計画局、基礎教育総局及びCOGES推進室、JICA事務所から2名、当プロジェクトから3名で構成され、月1回の定期会合を開催しています。また、この委員会の場で、国民教育省より、JICA事務所及びプロジェクトに対して会計管理、会計報告や活動実施状況の定期報告も行われます。

さらには、現場での支出が適切に行われ、逐一状況が確認できる体制を整えるために、NGO要員を配置します。彼らはPADEV同様、COGES監督官の支援要員として各州に1名配置され、技術的な支援のみならず、予算執行の直接責任者であるCOGES監督官の会計業務も補助していきます。こうして第三者的立場にあるNGO要員が、国民教育事務所の予算管理に多少なりとも介入できることから、予算執行管理にかかる透明性の確保が可能となります。プロジェクトではこの点を考慮し、NGO要員が各州に配置された時点で、国民教育省から各州国民教育事務所へ資金を送金するよう依頼しています。

現在、国民教育省は公募によるNGO選定手続きを進めています。実際に契約を締結するまでには約2ヶ月かかることが想定されます。3月末時点の状況を考慮すると、早ければ5月下旬に契約が締結され、NGOの要員が各州へ配置、活動が本格的に開始されるのは6月上旬となります。

## 見返り資金と技プロの補完的役割

見返り資金の運用開始と同時に、プロジェクトはCOGES政策実施にかかる一連の活動を技術的に支援していきます。

例えば、州レベルのCOGES担当官会議開催については、各担当官が行ったモニタリングの結果を皆で分析し、学校現場での問題にどのように対処すべきか等、参加者で議論することで、問題解決能力を強化することが可能となります。このように担当官月例会議を能力強化の場として効果的に運営していくために、タウア州及びザンデル州での経験の中から応用できるものを抽出し、マニュアル化していきます。

このように財政的支援に技術支援を組み合わせることで、支援がより効果的、効率的に実施されることとなります。COGES政策支援を通して、教育省や他ドナーに技術協力の好事例を示す良い機会とも言えるでしょう。

見返り資金が終了する3年後までに、持続的なCOGES支援体制が確立するよう、プロジェクト関係者一同、COGES政策関係者の一層の能力強化に取り組んでいきます。

住民能力強化担当専門家 中澤 順子



# 統計から見たニジェール教育開発の現状

ニジェール国民教育省統計情報局で青年海外協力隊員として活動中の井上数馬さんよりご寄稿いただきました。

## はじめに

昨年8月、みんなの学校プロジェクト第2フェーズがCOGES機能化モデルの全国展開と共に始まりました。第1フェーズの地方における機能化モデルの実施、成功、そして全国展開へ。

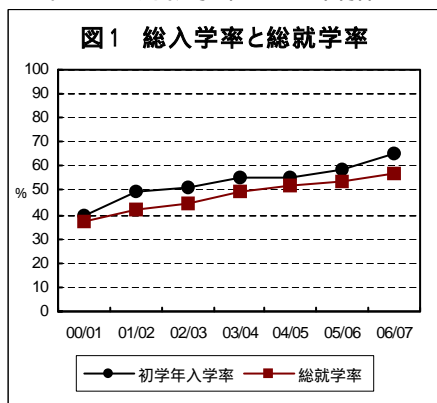
本稿では、プロジェクトの焦点も第2フェーズに入り全国に移ったことから、ニジェールの初等教育の現状について基本的な教育統計指標を用い、マクロな視点から現状を探っていきたく思います。2号にわたり前編後編にわけ、今号では入学率や就学率を通して見る子どもの初等教育への参加の度合い(アクセス)、入学した後、生徒のどのくらいの割合が進学、留年、そして退学し、最終学年まではどのくらいがたどり着けるのか(内部効率)、について見ていきます。

## 1. アクセス

途上国の教育状況、特に子どもたちの学校教育への参加の度合い(アクセス)を探るうえで最も代表的な指標として用いられるのが入学率や就学率です。特に総入学率は小学校初年度に入学すべき年齢(7歳)の子ども人口に対し実際に入学した子どもの割合、総就学率は原則就学すべきとされている年齢(7 - 12歳)の子ども人口に対し実際に就学している子どもの割合を表します。それではこれら二つの指標を用い、ニジェールのアクセスはどのようになっているのか見て行きたいと思います。

### 1-1. 総入学率と総就学率(図1)

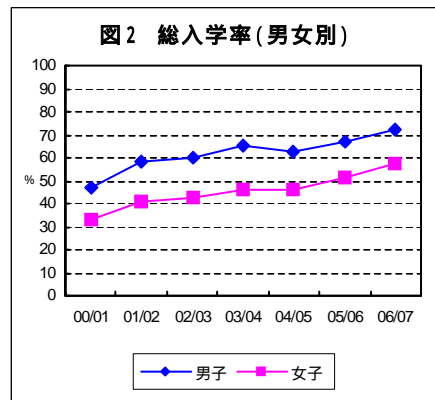
図1は総入学率と総就学率の移り変わりを表すものです。ニジェールは他のサブサハラアフリカ諸国と比べてもアクセスにおいて低い水準ではありますが、図が示すように、過去7年にわたり総入学率、総就学率とも着実に伸びています。2006/07年には、総入学率が65%、総就学率が57%に達しています。ニジェールでは、国の教育開発10ヵ年計画(PDDE)において2012年までに総就学率93%を目指しています。



### 1-2. 男女別の総入学率(図2)

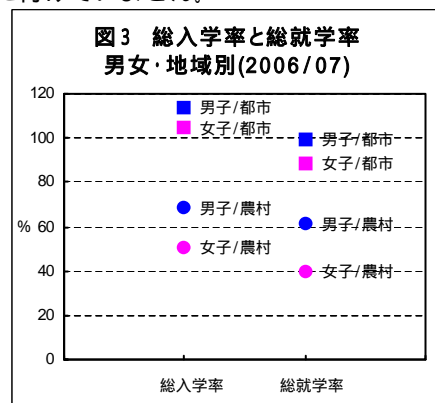
上記で全体として総入学率、総就学率が上がっているというのはわかりましたが、それでは男女別ではどのように増えているのでしょうか。図2は男女別の総入学率の移り変わりを示しています。見てのとおり毎年男子と女子の入学率にはほぼ一定の格差があります。また特に注目すべきは、男女とも毎年ばらばらに成長するのではなく、同じような変遷をたどって増加しています。これらは毎年全体として入学率は着実に伸びているものの、何らかの理由により男女間に固定的な一

定の格差を生じさせる制約があることを示唆しています。また、実はこの男女間格差は入学時点でこれだけ存在することから、総就学率、修了率にも同じ傾向でそのまま格差が残っています。状況の改善には、入学時点に焦点を当て特別な介入をし、男女間格差をなくす努力が必要なることを物語っています。



### 1-3. 男女・地域別の総入学率と総就学率(図3)

男女間格差もさることながら地域別格差はどうでしょうか。サハラ砂漠を有する広大な国土を持ち、インフラが十分に整っていないニジェールにおいて、都市部と農村部の差は教育の普及に関して影響を及ぼしています。男女別・地域別の総入学率と総就学率について示している図3によれば、総入学率、総就学率とも同じように都市部と農村部の格差は激しいです。都市部においては男女間に差はあるものの両方とも高い水準であるのに対し(100%を超えているのは学齢前後の児童も混じっているため)、農村部、特に女子にいたっては、第一学年への入学は約半数であり、小学校全体(全6学年)では半数以下しか学校に行けていません。

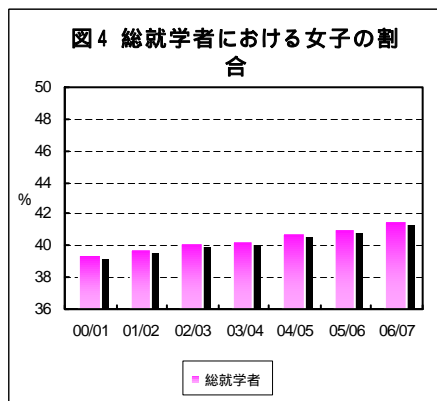


### 1-4. 総就学者における女子の割合(図4)

初等教育における男女の就学率の平等化は、ミレニアム開発目標(MDGs)、EFA、そしてニジェール国の教育計画において重要な目標となっています。したがってこの項の最後では、女子の教育へのアクセスにより焦点をあて、最も簡潔な指標である男女比について見ていくことにします。

図4は、総就学者における女子の割合を過去7年間にわたって示しているものです。見ての通り、詳細に見ればわずかながら毎年少しずつ改善されているのがわかります。過去7年で見ると、約2%改善されたようです。

(8 ページに続く)



しかしながら、それではこの割合は他の国と比較してどのくらいの水準なのでしょう。表1は2005年におけるニジェールとその他の国の初等教育における女子の割合を示しています。この表には一般的に、女子の割合が低いとされるイスラム諸国が記載されていますが、残念ながらニジェールは、特別な事情のあるアフガニスタンの次に低い水準(41%)となっています。初等教育における男女平等をいかに達成していくかも、ニジェールの教育分野にとって大きな課題です。

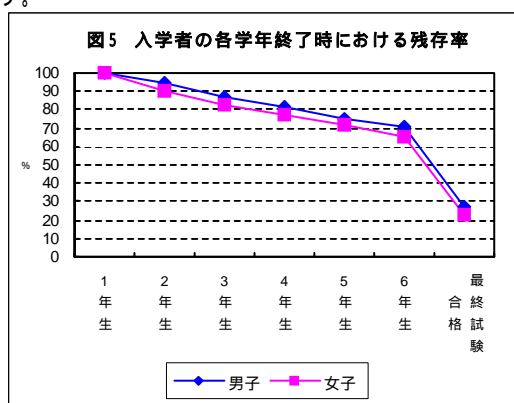
表1 女子の割合/国際比較(2005)

|         |     |         |     |
|---------|-----|---------|-----|
| ニジェール   | 41% | スーダン    | 46% |
| ブルキナファソ | 44% | エジプト    | 47% |
| マリ      | 43% | イラク     | 44% |
| セネガル    | 49% | アフガニスタン | 36% |

出典: UNESCO Institute for Statistics (2007)

## 2. 内部効率

途上国において、いったん入学した生徒たちが自動的にそのまま6年間過ごし卒業していくことは残念ながらありません。それはニジェールにおいても例外ではありません。この項では、いったん入学してからどのくらいの生徒が進級を続け卒業できるのかについて見て行きたいと思います。



上記の図5は、2000/01に入学した生徒たちが年を重ねるに連れてどのくらいの割合で残り、2005/06に迎える最終学年の中学校入学資格取得試験にどのくらいの割合で合格しているかを追ったものです。その図によれば、やはり入学した以降も、女子の方が留年や退学する割合が少しではありますが多いと考えられます。全体的には毎年ほとんど同じ割合で減り続け、留年、退学なしに小学校6年生に達する生徒は入学した生徒の中で69%しかおらず、さらに最終試験を突破して中学校への進学資格を得られるのはわずか25%のみとなっています。無試験で自動的に進級できるにも関わらずこれだけ減り、さらに最終学年に達

しても多くが中学に進学する学力が身についておらず、進学資格を取得できないでいると言えます。最終学年の留年率は最終学年に達した生徒の中の18%で、これらの生徒たちは最終試験に合格するため、もう一度最終学年に留年してやり直しています(表2)。

表2 留年率と退学率

|    | 留年率 (全体) | 留年率 (最終学年) | 退学率 (最終学年含まず) |
|----|----------|------------|---------------|
| 男子 | 4.8%     | 17%        | 6.6%          |
| 女子 | 5.1%     | 19%        | 8.1%          |
| 全体 | 4.9%     | 18%        | 7.2%          |

## まとめ

アクセスと内部効率について見てきましたが、総合すると以下のようなことが言えます。

ニジェールの子どもの初等教育への参加率(アクセス)は毎年着実に拡大しています。しかしながら、男女別で見るとその格差は非常に大きく、国際的にも女子の割合が非常に低く大きな改善が必要です。入学率における格差がその後の就学率や修了率にもそのまま残ることから、特に入学時点での男女格差をなくす努力が第一に必要で、それが小学校全体の男女格差の解消に最も効果的だと考えられます。また入学してからも女子の方が留年や退学する率が高いので、入学した後のフォローも必要となってきます。そしてさらに、特に地域格差が激しいニジェールにおいては、農村部の就学率や男女格差をどう改善するかが全国の値を改善するポイントになってくると考えられます。

そういった意味で、就学率が8州のうち2番目に低いザンデル州で、2006/07年度から2007/08年度にかけて行われた女子就学促進キャンペーンや連携フォーラムは、国全体の政策や方針という観点から見ても妥当で非常に意義のあるものだったと言えます。

次号後編は、最も基本的な教育インフラである学校と教室、そして教員について見ていきたいと思います。就学率を上げようとする中、どのくらいのペースで学校や教室が建設され、誰がどのくらい建設費用を負担しているのか。また、教員の需要と供給はバランスよく行われているのか。そしてそれはどのような政策の下で進められているのかについて紹介していきます。楽しみに。

青年海外協力隊 井上 数馬

主要参考文献: (文中特に出典の記載のないもの)

Niger Ministère de l'Éducation Nationale (2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007), *Statistiques de l'éducation de base: Annuaire 2000/01, 2001/02, 2002/03, 2003/04, 2004/05, 2005/06, 2006/07*

引用参考文献:

UNESCO Institute for Statistics (2007), *Global Education Digest 2007: Comparing Education Statistics across the World*

筆者紹介:

2007年3月より青年海外協力隊(18年度3次隊統計隊員)としてニジェール国民教育省統計・情報局に配属。就学前教育、初等教育、識字教育に関する統計の調査、情報処理、分析の一連のプロセスにおける改善と情報の有効化を目指し、日々ニジェール官僚と共に汗を流す。ロンドン大学教育研究所にて修士号(教育計画・経済)。



# How to survive in PBAs?

## ～日本の技術協力の有意性とは？～

JICAニジェール事務所員の奥本恵世さんよりご寄稿いただきました。

アフリカの多くの国同様、ニジェールにおいてもローマ宣言、パリ宣言の精神に則って、援助効果向上を目指したプログラム・アプローチ(PBAs: Programme-based Approaches)の導入、深化が少しずつ進んできています。ニジェールの中でも、教育分野は比較的早く2003年には教育開発十ヵ年プログラム(PDDE)が出来、これに基づく中期支出枠組み(MTEF)が策定され、毎年セクターレビューが行われています。PBAsの導入・深化は財政支援への移行と全く同義ではありませんが、例えばニジェールではEU等の大口ドナーが「コモンファンド セクター財政支援 一般財政支援」へと歩を進めようとする中、日本、あるいはJICAとしてもこの流れに対応した支援を行うことが求められています。日本はプロジェクト型援助の有意性および他の援助モダリティとの補完性を主張する立場なので、当然プロジェクト型援助である「技術協力プロジェクト」の実施がこのPBAsの流れに沿い得るものであること、貢献できることを財政支援との補完性の面から示していく必要があります。

このような新しい援助アプローチと旧来のシステムとのギャップに日々頭を悩ませている(?) JICA在外事務所のスタッフ同士の情報交換、またJICA本部の援助協調担当部署(企画調整部)へ現場の状況をフィードバックする場として昨年度より「アフリカ地域援助協調会議」が開催され、今年度は2月12-13日の2日間の日程で、パリのJICA欧州事務所で行われました。

このようなアフリカ域内でのネットワーク構築といった趣旨も強い会議ですので、日程の中心は各参加者からの発表です。私は今回、「SWAPsの中での技術協力の役割について - 技プロみんなの学校を例として - 」というタイトルで発表を行いました。アフリカの中でも援助協調の進展具合は様々で、一般的に東南部の英語圏アフリカに比べて中西部の仏語圏アフリカではその進展が遅れています。中でもニジェールは一般財政支援が開始されておらず、またドナーコミュニティの中でも技術協力締め出しの動きも決して強くはありません。そのため、ニジェールから発信するとすれば、セクター・ワイド・アプローチ(SWAPs)が比較的進んでいると言える教育分野、またその教育分野の中で存在感を示している「みんなの学校プロジェクト」を取り上げることは必然的でした。

今回行った発表のポイントは、教育開発十ヵ年プログラム(PDDE)の実施過程において、「みんなの学校プロジェクト」で行ってきたCOGES政策への支援がどの位置にあり、どのように貢献しているのか、また、貢献しているのであればその要因は何であるか、ということでした。PDDEでは、基礎教育に関して総就学率を2012年には70%まで引き上げることを目標に、アクセス、質と並んで学校運営への地域の参加促進を通じたマネージメントの改善が目標とされています。「みんなの学校プロジェクト」の第1フェーズはこのマネージメント改善のため既に枠組みとしては存在していたCOGES政策の実施を機能させることにあったわけですが、結果的にPDDEへの貢献は明らかで、2007年に行われたPDDEの年次レビューの報告書を読むと、「COGESに関しては目標がほぼ達成されている」と書かれています。ではこの貢献の要因は何だったのか。このようなインパクトのある成果の要因は、PBAs、SWAPsが進んでいるのに関わらず、「日本の技術協力の有意性とは？」ということを常に問われているJICA関係者にとって非常

に興味のある点です。今回の発表では、最後にまとめと問題提起として以下の点を参加者に投げかけました。

適切なテーマの選定、またセクタープログラムの動きを常にフォローし、先を読んで活動を行う専門家の意識・努力によりSWAPsの中で技プロ「みんなの学校」は有効に位置づけられている。

「みんなの学校」のようにプログラムへの整合性、また成果、費用対効果を示すことができれば技協の存在価値はあり、セクター目標達成に貢献する可能性はある  
中央行政機構全体のキャパシティの低さ、非効率にどうアプローチするのか？

果たして参加者からはどのような反応があるのかあまり予想もできなかったのですが、質疑応答の中で、「関係者皆がSWAPsを意識して事業を行うこと、そのためにはアドバイザー型等の専門家が常に相手国政府やパートナーとの情報交換を行い、根回しやアピールが必要であること」、について特に認識が共有されたように思います。また、このような実際の現場の経験に基づいたプロジェクト型援助の有意性の議論については今後とも発信、情報共有していくことが求められました。

私個人としては、PDDEに直結する成果を効果的に示すための努力を行ってきたことも、「みんなの学校プロジェクト」がPDDEへ貢献していることを示すための大きな要素であったかと思っています。JICAの事業は、基本的に先方政府のプログラムとの整合性が事前評価の時点で必ず確認されることとなっており、その意味では整合性は極端に言えばどのプロジェクトも取れていることとなります。その上で、事業の成果が相手国、また他のパートナーからプログラムの成果に直結すると認められるものであることは非常に重要で、他の技術協力においても案件形成の時点から意識すべき点かと思っています。

今後、ニジェールでもPBAsが進み、財政支援の割合が少なくとも今よりは増えてくることが予想されます。今回の会議において、既にこの動きが進んでいる各国からの発表は将来のニジェールの姿を想像する上でも、とても興味深いものでした。例えば最も進んでいる国の一つであるタンザニアでは、既に一般財政支援が援助全体の4割を占め、日本も借款、無償でその3.4%程度を担っていますが、タンザニアの初等教育分野では従来からあったバスケットファンドを取りやめ、全て一般財政支援にシフトし、その結果として教育省がセクターレビューに対して非積極的になってきている(セクターレビューが資金の動向に直結しないため)現状があるようです。一般財政支援への完全なシフトがセクタープログラムの成果達成にどのような影響をもたらすのか？ もしかすると数年後には技術協力の補完的な役割が改めて見直されるのではないかと思います。

現在国民教育省では中央の機構改革が進行しているところです。一方「みんなの学校プロジェクト」は現在第2フェーズの活動でCOGESがアクセスや質の改善に資することを成果で示すためにプロジェクト・チーム一丸となって邁進中です(みんなの学校だより第18号参照)。将来的にニジェールにおいてPBAsが拡大・深化した暁に、このような技術協力で示された成果を国民教育省が自らの意思で遂行していけるような中央政府のリーダーシップを期待したいと思います。

JICAニジェール事務所 奥本 恵世

## 遠い雷鳴

リベリアでは、いつでも雷の音を聞いていたような気がする。部屋の中にいて稲妻が見えなくても、空気を少し震わせながら、その音は伝わってきた。雨が降らず、雷鳴が聞こえない時でも、私が交換留学生として勉強していた大学は、首都モンロビアから車で4時間くらい走ったジャングルの高台のようなところにあったから、緑の地平線のかなたにかかった雲を、稲妻が浮かびあがらせていたのがよく見えた。

私がリベリアの留学から日本に帰った翌年の1980年にドウ軍曹のクーデターがあり、長く政権を独占していたアメリカライベリアン(アメリカから移住した解放奴隷の子孫)の政権が転覆した。私の居た頃にも、生活必需品に値上げに端を発した暴動が、首都のモンロビアでときどき起っていた。アフリカ政治が一応その大学での専攻だったのに、住んでいる国の政情には、まったく疎かった。リベリアに着く前に聞いたアフリカでもっとも安定して安全な独立国という話を頭から信じていて、暴動も一時的な、民衆の不満の捌け口くらいにしか思っていなかった。

私が、その話を信じたのもまったく根拠がないわけではない。リベリアは、アフリカの解放奴隷が送り込まれて、現地人を武力征服し、1847年に独立した国で、国自体の独立が非常に早く、しかも、アメリカ経済の恩恵を受け、政治的安定を享受している国であった。その他のアフリカ諸国が、1960年前後の独立以降、政治的に不安定で暴力的な政権交代が頻発していたのに比べ、一度もクーデターを経験したことのない国だった。私が到着したころも、モンロビアの町の治安も悪くなく、他のアフリカのイスラムの国とは違ったアメリカ的な開放感にあふれた国だった。しかし、1980年のクーデター後、多くの私の学友や知り合いは、消息をたち、その後、四半世紀にわたる混乱、内戦の歴史が続いた。やっと、2005年11月、民主選挙によるアフリカ初の女性大統領が誕生した。

留学当時、大学でアフリカの政治体制について行われていた議論は、「アフリカはその部族主義の伝統、社会的な背景から、複数政党制は適しておらず、民主主義は育たない」であるとか、「アフリカにおける独裁制は、政治的安定には必要である」など、アフリカの後進性や特殊性を強調するものが多かった。確かに1980年代の終わりまで、アフリカの多くの国が独裁者、単一政党や軍部によって支配されており、複数政党制が機能している国はほとんどなかった。だからと言って、アフリカに民主主義が似合わない、あるいは、適さないという議論は極論であるとその当時から感じていた。村の中に暮らしては



いかなかったが、近くで見ていると、果たして、アフリカの伝統的な指導者を長とした制度に、すべての村民が満足して暮らしているのか、あるいは、自由に自分の意見を言えないことに対してそれをよしとしているのか等いろいろな疑問があったし、「複数政党制を導入すれば、部族や地域を背景とした政党が乱立し、収集のつかない混乱に陥る」という議論に対し、疑問を持ち続けてきた。問題は、複数政党制そのものではなく、その導入の仕方なのではないか、というのが私の見方だった。しかし、その当時、私の意見を実証する例はなく、沈黙を守るしかなかった。しかし、1990年前後から、アフリカ諸国で複数政党制が導入され、今もその体制が維持されている国も多い。アフリカの独裁体制は、部族主義や地域主義を利用した為政者やその為政者を結果的に支援した冷戦構造によって持たされてきたと見るのが妥当ではないのだろうか。ただ、こ



こで忘れてならないのは、アフリカ諸国の民主政権の誕生という歴史的な流れに取り残され、もっとも平和だと言われていたリベリアの迷走が続いたことだ。その理由は、多くあげられる。しかし、根本的に、リベリアは、1980年以前、安定した独立国ではあったが、決して民主的な国家ではなく、民主的な風土も育っていなかったことが問題だったのだと思う。なぜなら、複数政党制、あるいは民主主義体制を本当に支えるのは、人々の中に根付いた民主主義であり、独裁者や政党の民意を操るためにうそを見破ることができる「教育」を受けた人々であるからである。

ニジェールは政変を繰り返し、独裁体制が続いてきたが、今後再び長期の独裁制に逆戻りすることはないだろう。なぜなら、自分たちの意見が反映される組織を持った人々が、独裁制を支持することはなく、その民主的な雰囲気の中で、教育を受けていく子どもたちがこの国の未来を作っていくからだ。全国のCOGESを設置するためにニジェールのほとんどの村で行われた民主選挙の導入は、本来の目的以上に、人々の意識を変え、村の権力構造にインパクトを与えた。そしてCOGESやCOGES連合を通じた住民が参加した教育開発は、その困難な現状を打ち破り、新たな世代を生み出すだろう。

今でも遠くから聞こえてくる雷の音を聞くと、リベリアのことを思う。そして、今度こそ、本当の発展を平和と安定の中で達成してほしいと心から願わずにはいられない。(H)



## ニジェールの教育シーンを変える「フォーラムアプローチ」 ～ COGESイニシアティブを集約する場へ ～

### タウアでも女子就学キャンペーン開始

「女子への教育は重要です！もっと地域住民への啓発活動を行うべきです！」多くの男性参加者に混じって、少数の女性参加者の一人がはっきりと意見を発表したのがとても印象的でした。それは、4月26日、タウア州にて開催されたCOGES連合フォーラムでタウアの教育の問題について議論を行っていたときの出来事でした。このフォーラムは、44 COGES連合(\*1)の代表各2名、44のコミューン長、州国民教育事務局長をはじめとした教育行政官など、約150名が参加し、タウアの教育全般の問題を話し合い、解決策を模索するために開催されました。フォーラムでの議論の結果、女子就学における問題が緊急に解決すべきと決議され、その問題解決のための議論、決議がなされました。その結果、2008 - 09年の入学期に女子就学率を改善するため、「フォーラムアプローチ」を戦略として採用することを決定し、参加した関係者は、各自の責務を誓いあい、いよいよ女子就学キャンペーンの幕開けとなりました。

ザンデル州で、女子入学者の増加、男女格差の改善で、関係者を驚かさず結果を出したこの「フォーラムアプローチ」。このアプローチの特徴は、COGESの動員啓発能力と、COGES連合のネットワーク力を有機的に結び付けたところにあります。しかし、なぜ、このアプローチが、とても困難だと言われている男女格差の改善に驚異的な力を発揮するのか、本稿ではその全況をお伝えします。

### 身近な啓発がキーポイント

親や保護者に意識変化をもたらす上で、啓発方法やその手法に多くの注目が集まりますが、「誰が住民に対する啓発を行うのか」に重点を置いている啓発キャンペーンは多くありません。例えば、国民教育省や多くのドナーが実施する啓発活動は、州や県に配属されている女子就学監督官や指導主事等のメンバー、あるいはドナーに雇用されたNGOのスタッフ等でキャラバン隊を結成し、農村部を巡回するキャラバン式です。この手法は、単発的で継続

性がない上、多くの費用がかかります。しかもこの手法に、違和感を抱く住民も多いということがわかってきています。今年1月から2月に短期専門家としてプロジェクトに赴任した森本専門家がCOGES連合の評価のための、現地調査を実施しました。その際、ザンデルのCOGES連合や地域住民に女子就学キャンペーンと以前行われたキャンペーンの違いに関する質問に対し、「今までの(女子)就学キャンペーンは、突然知らない人たちがやってきて、児童を学校に入れるよう話していたので、聞く人はあまりいませんでした。それに対し、今回のキャンペーンは、知っている身近な人々の話なので、女の子を学校に入れることの大切さがよくわかりました」と回答する声が多く聞かれました。また、啓発活動は、COGESが開催する住民総会や戸口訪問のみならず、結婚式、赤ちゃんの命名祭、女性が集まりやすい井戸での水汲みの時など、「あらゆる日常的な機会を利用」していることがわかりました。どのように行動すれば具体的な結果につながるか、最も効果的な解決策を知っているのが、実は住民自身だったのです。住民自身が啓発活動を考え、行った、そこに成功の秘訣の一つがあると言えます。

また、今回のキャンペーンを通じて女子を入学させた母親へのインタビューでは、「もともと女子の教育の大切さはわかっていました。でも、自分の娘を行かせようと思ったのは、近所の人もキャンペーンで、娘を学校に送ることにしたからです」と回答しています(\*2)。このように、同じ地域住民による身近な啓発が良い働きかけとなって、自分の娘を学校へ行かせるかどうか悩んでいた親の行動変容につながり、結果としてザンデル州女子就学率の向上へ結びつきました。

実は、こうした「身近な人による啓発活動」の有効性は、ある程度認識されていましたが、同時、組織的にこれらの啓発活動を誘発する手法は、どこにもありませんでした。それを可能にしたが、COGESとCOGES連合のネットワークなのです。

(2 ページに続く)

(\*1) タウア州の計44のコミューンの内、当プロジェクトの活動対象地域は39コミューンですが、今回は国際NGO、CONCERN等との協力の結果、全コミューンを招聘することが可能となりました。

(\*2) 当プロジェクト作成、「女子就学促進キャンペーンインパクト調査実施報告書」(2008年5月)より引用

(1 ページから続く)

### 個々の活動を集約的活動へ ～フォーラムアプローチの導入～

過去において、タウア州やザンデル州では、個々のCOGESが女子就学促進活動を実施していましたが、活動が散発的であったことから、そのインパクトを見ることは困難でした。この活動を、すべてのCOGESで一斉に実施すれば、大々的なインパクトを示せるのは間違いなく、そのためには何をすべきかをプロジェクトは考えました。その手法として、COGES連合代表や関係者をフォーラムに招き、住民のニーズをもとに抽出した統一テーマについて議論を行い、集团的決議を取る方法を導入したのです。このフォーラムで決定した事項について、参加者であるCOGES連合の代表が、各地のCOGES連合総会を通じて各COGESに情報を伝達することになります。つまりは以下のような流れになります(図1参照)。

#### (1) COGES連合フォーラムの開催

州内の各COGES連合代表2名及びコミュニティ長や教育行政官らが出席する、州レベルのフォーラムを開催。地域の教育問題を討議後、統一テーマを決定。テーマに関する問題点の掘り下げ、解決策の協議、今後の活動にかかる決議(各関係者の具体的な活動事項等)を行う。

#### (2) COGES連合総会の開催

フォーラム終了後、後日、各COGES連合で連合総会を開催。フォーラム出席者はフォーラムの報告を行い、参加者全員でテーマ(女子就学促進キャンペーン)について、実施の可否を討議。実施となった場合、今後の活動計画を討議し、決議する。

#### (3) 住民総会の開催

連合総会終了後、各COGESの代表者は自分の地域で住民総会を開催し、フォーラムの開催報告、キャンペーン実施の可否を議論、実施となった場合、COGESレベルでの活動計画を策定する。

#### (4) 地域住民による活動実施

テーマ(女子就学キャンペーン)の解決に向けて各COGESで策定された活動が、地域住民によって実施(州内のほぼ全地域の網羅が可能)

こうして、ザンデル州では結果を出すことができました。

しかしながら、忘れてはいけないことがもう一つあります。それは入学登録者数が増加するだけでは、必ずしも入学率向上には結びつかないという事実です。

#### 就学児童の受入確保:適切な教員数の配置を目指す

教育の重要性は、既に住民の人々に認識されており、きっかけさえあれば保護者が子どもを学校へ送るはず、つまり、就学に対する需要は元々ある、とプロジェクトでは考えています。

しかしながら、その受け皿となるべき教室や教員の数は不足しているのが現状です。教室不足はCOGESの学校活動計画の「藁葺き教室建設」で解決可能ですが、教員不足に対処できるのは国民教育省のみです。ニジェールではここ数年、就学者数増加に伴う深刻な教員不足に悩まされています。国民教育省やドナーも少しでも多くの教員を養成、配置する努力を行っていますが、需要になかなか追いついていません。

そのため、教員の問題を理由に、就学啓発キャンペーンを無意味なものとして捕らえてしまう地域住民も出ています。つまり、「受け皿の確保」なしには、せっかくのCOGESの啓発の努力も無に帰してしまうのです。

このような事態を避けるため、ザンデル州の女子就学向上キャンペーンにおいて、州国民教育事務所長や視学官は、COGESの啓発によって増加する入学登録予定者数の予測を事前に行い、それに見合った教員を新学期に配置できるよう、国民教育大臣や国民教育省関係者に働きかけました。また、州国民教育事務所長は適切な教員配置、特に女子を多く入学させた学校に対して優先的に教員を配置することを明言し、その結果、入学登録者数前年比

12,000人を受け入れるのに十分な教員数を確保することができたのです。

このように、COGES及び地域住民による「啓発活動」と、教育行政官による「適切な教員数の配置」の両方が揃って初めて、入学率向上という具体的な結果につながるのです(図2参照)。

#### 国民教育大臣

「ぜひ他州でもフォーラム開催を」  
今年1月にザンデル州で開催されたCOGES連合フォーラムには国民教育大臣も出席されましたが、このキャンペーンやフォーラムの効果に驚き、機会があるごとに国民教育省関係者に対して、ザンデル州の結果を語っているそうです。先日、原専門家が大臣と面談した際、大臣から「他州からもフォーラム開催の要請が来ている」と伝えられたそうです。

しかしながら、他州で実施する  
(10 ページに続く)

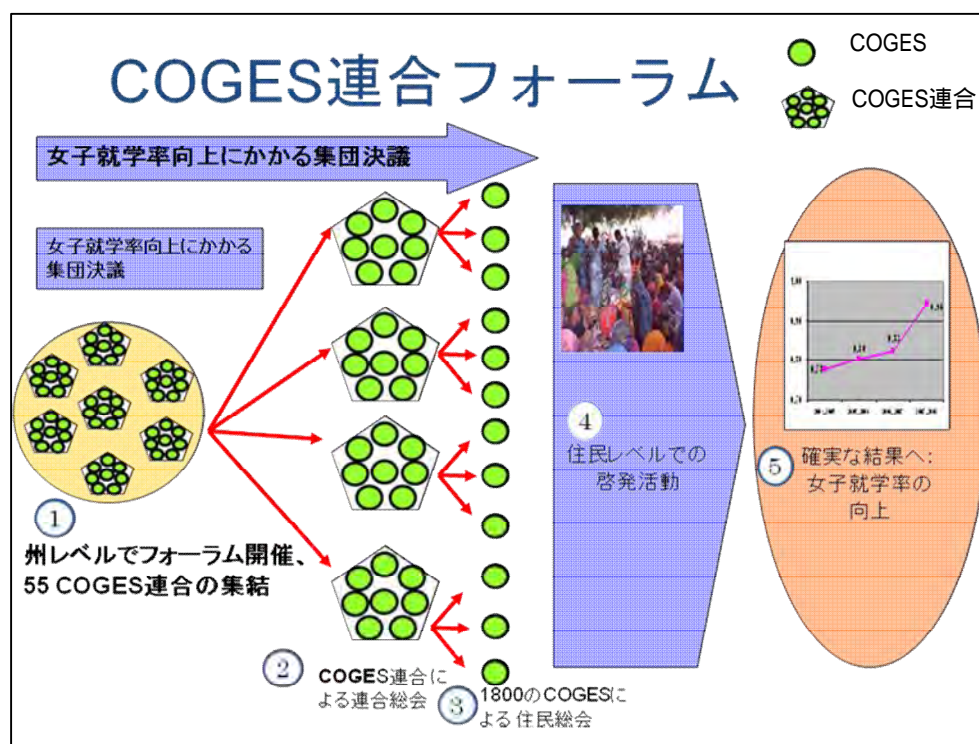


図1: COGES連合フォーラムを利用した情報伝達の仕組み: ザンデル州の例



## JICAみんなの学校プロジェクト/UNICEF 連携協定書署名式開催

“本日のJICAとUNICEFの連携協定書署名は、ニジェール国の就学前教育の発展にまさに結び付くものであります”

(ニジェール国民教育省事務次官補)

2008年5月6日(火)、気温40度、いつものごとく晴れ。

首都ニアメのブードリエ幼稚園の敷地にて、JICA、UNICEF、国民教育省、就学前教育関係者、NGO、新聞・テレビ・ラジオの報道各社、そして幼稚園の子どもたちと総勢70名が見守る中、みんなの学校プロジェクトとUNICEFがコミュニティ幼稚園の促進において連携することを約束する協定書の署名が取り交わされました。

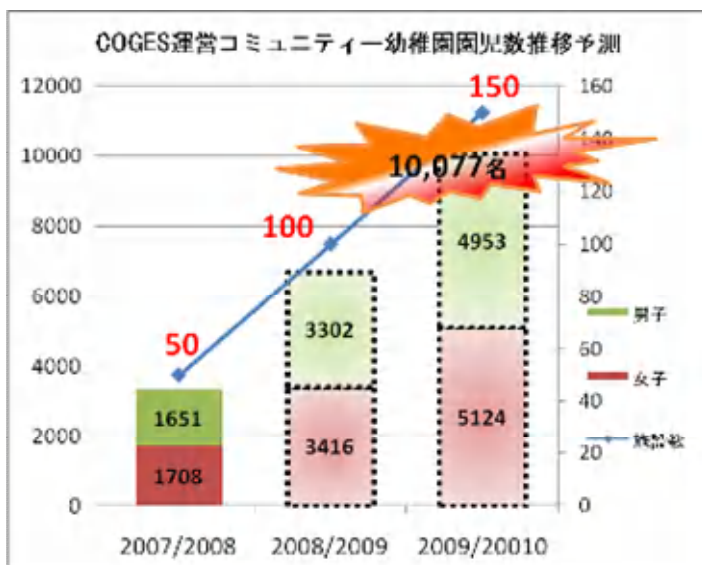
この協定書は、2007年4月に結ばれた前回の連携協定が目標値をはるかに上回る成果を残したことを受け、ニジェール国の就学前教育の発展へさらなる貢献を果たすため、両者の連携活動の継続と拡大を定めたものです。



今回の協定書が掲げる目標とは：

- ▶ 両者活動の協働作用により、コミュニティ幼稚園の将来性のあるモデルを強化する
- ▶ 現在から2010年までに、タウア州およびザンデル州内農村部の就学前教育就学率を上昇させる

具体的には、タウア、ザンデルの2州において毎年50園、2年間で100園のCOGESのイニシアティブと運営によるコミュニティ幼稚園設置運営支援を共同で行うことを約束したものです。プロジェクトは実施サイト(対象COGES)の選定とその運営面にかかる支援を、UNICEFは教育面への支援を担います。



冒頭のニジェール国民教育省事務次官補の言葉通り、今回のUNICEFとJICAのコミュニティ幼稚園にかかる連携は、今後のニジェール国就学前教育の発展の鍵を握り、特に“質を保ったアクセスの拡大”に関しては、今後画期的な成果をもたらす可能もっています。

プロジェクトが支援するコミュニティ幼稚園は、住民ニーズとイニシアティブに基づき、園設立、運営のために必要なすべての資源(財政的、人的、物的)が、住民から「計画的」に提供され、住民自身により運営されます。その設立・運営に際して外部からの財政支援は全くない、まさに住民による100%完全自立運営型のコミュニティ幼稚園です。そのため、就学前教育の公的サービスや外部支援が届きにくい農



村部においても広く拡大する可能性を備えています。このまさに「住民の住民による住民のためのコミュニティ幼稚園」ともいえる園の設立・運営を可能にするために、プロジェクトは、住民への能力強化等の技術支援を行って

きました。

2006年にわずか3園、262名の園児からスタートしたJICAみんなの学校プロジェクトによるコミュニティ幼稚園支援は、この2年間の間でスタート時の17倍の数の園が設立され、就学児童数は13倍に上昇するまでとなっています。現在の50施設、3千名を超える就学児童数は、ほぼ全ニジェールの就学前教育就学児童数の10%に相当します。今回のUNICEFとの連携協定書においては、今後2年間で少なくとも100園の増園(合計150園)を支援することが予定されており、その結果、2年後には当該コミュニティ幼稚園の裨益児童数は1万人を超える見込みです。

初等教育が優先分野であり、就学前教育に大きな投資が期待できない、しかもアクセスの低さが深刻なニジェール国就学前教育分野にとって住民による完全自立運営のコミュニティ幼稚園は、「アクセスの拡大に革命的な改善」をもたらす切り札となります。

今回のUNICEFとの連携により、就学前教育の質の改善に多くの経験と知見を有するUNICEFが、プロジェクトが支援するコミュニティ幼稚園の保育者研修や教育活動支援を担うこととなります。これにより、住民による完全自立運営のコミュニティ幼稚園においても、国際的な就学前教育の質が確保でき、質の高い教育を提供する、住民のニーズにそったコミュニティ幼稚園の実現が可能となりました。

つまり、UNICEFとJICAのコミュニティ幼稚園にかかる連携は、「就学前教育の質を保ちつつアクセスの大幅拡大を果たす」を可能にしたのです。

学校活動計画担当専門家 影山 晃子

# ニジェールにおける学校保健活動の導入

ガーナ「国際寄生虫対策西アフリカセンター(WACIPAC)プロジェクト」の栗澤俊樹専門家よりご寄稿いただきました。

## WACIPACとニジェール

こんにちは。ガーナで実施中の「国際寄生虫対策西アフリカセンター(WACIPAC)プロジェクト」(注)の栗澤です。WACIPACではニジェールを含む西アフリカ諸国の教育省・保健省の対策官を招いた研修会の開催と、研修参加者が自国での寄生虫対策を目指した学校保健活動を開始する際の支援を実施しています。ニジェールでの活動を考えるために、研修終了者と共に学校保健活動の現状を把握するための検討会を開くことにしました。

## 第1回学校保健会議

ニジェールの学校保健活動の現状を把握する目的で、国民教育省の学校保健推進室(BSS)を中心に、各州の学校保健担当官や支援団体を交えて、学校保健活動に関する検討会を開いたところ、授業時間割には保健衛生の授業は無く、保健教育活動の実施は困難との発表があり、学校保健活動はドナー支援により実施されてはいるものの、国家的な計画は無く、また、BSSが独自に計画・実施している活動はない状況でした。

一方で、青年海外協力隊(JOCV)グループ派遣「ドッソ学校保健グループ」による保健教育活動が実施されておりましたが、限定された学校に人的・資金的投入がなされており、そのままでは全国的な展開は難しく、また、素晴らしい保健教育教材が開発されてはいても、前述のとおり、保健教育授業は課外活動等の限られた時間での実施となり、教材が活用できないというのが現実でした。

## 学校保健活動の導入手法

それでは、できる限り人的・資金的投入を抑えてできることは何でしょうか？

学校保健推進室(BSS)の企画による学校保健活動を検討した結果、教師自らの自己評価によって学校保健の問題を認識させること、その認識に基づき改善活動が開始されることを意図して、以下の活動を実施することに決定しました。

- ▶ JOCVの保健教材と活動事例を統合・簡易化して、「学校環境衛生状況自己診断用紙」と「活動事例集」(問題解決のためのガイド)を作成し、学校に配布する
- ▶ 校長および教師がこの配布をきっかけに学校保健活動を開始しうるのが観察する

この狙いは、投入過多の逆を行くもので、WACIPAC周辺国支援の限られたリソースというデメリットを逆手にとって、「最低限の投入でどんな活動が生み出せるものか試してみよう」というものでした。同時に、試行実施地域の学校保健の状況調査ができ、また、その手法がニジェールC/Pの身につくことも狙いでした。

## 自己診断に基づく学校保健活動導入の試行

2007年に実施された「学校の環境・保健活動の自己診断に基づく学校保健活動導入」の試行実施地区として選定されたのはティラベリ州でした。試行活動の流れとしては、まず州国民教育事務所による説明会が招集され、各県視学官へ活動実施方法の説明と各種資料の配布がなされました。その後、視学官から各指導主事へ、そして指導主事から各学校へ、同様の説明と資料配布が順を追って行われました。

前述の視学官対象の説明会において州国民教育事務所長は、「学校保健・衛生の視点は昔から重視すべきものと考えられているが、同時に忘れがちな部分でもある。衛生面の啓発活動は新しい試みではないが、その成果、つまり、学童の行動変容を促すことが重要であり、これは教育の質の普遍化にも寄与する。その意味で、教員たちが忘れられがちな教育の側面を思い起こすよい機会となるだろう。また、このようにコストのかからないアプローチを実証することは大切」と、視学官に対して適切に説明していることから、国家プログラムの試行として理解されていると思われました。

## 試行の結果

本試行はティラベリ州の全小学校(1,976校)を対象にしましたが、各学校で実施された改善活動を調べることで実施可能な活動を明確化する目的で、直接観察による実施状況確認調査を30校で実施したところ、2ヶ月間の短い観察期間ではありましたが、「学校環境衛生状況自己診断用紙と活動事例集の配布というきわめて簡単な活動にもかかわらず、多くの学校で改善活動が開始・実施された」という結果が得られました。

表：2回の観察により改善が見られた学校の割合(30校中)

| 教室          | 校庭          | トイレ         | 衛生活動        | 行動変容        | その他         |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 23<br>(77%) | 16<br>(53%) | 12<br>(40%) | 16<br>(53%) | 14<br>(47%) | 10<br>(33%) |

結果からわかるように、全ての項目に於いて改善が観察されており、何らかの改善活動を導入するという目的は達せたようです。この手法では、掃除回数の増加やごみ箱・ごみ袋の設置といった、資金を必要とせず意識の向上のみで実



<活動前>のトイレ

<活動後>のトイレ

注：WACIPACプロジェクトの活動は、以下のウェブサイトにより詳しくご覧いただけます。

▶ ホームページ(英文・仏文)：<http://www.wacipac.org/>

▶ プロジェクト概要(和文)：[http://gwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/VIEWVDocSearchX/7290b90b17911ef2492573a7002515a5?OpenDocument#\\_Section5](http://gwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/VIEWVDocSearchX/7290b90b17911ef2492573a7002515a5?OpenDocument#_Section5)



施可能な、簡単な改善活動が引き起こされるに過ぎませんが、衛生観念の定着という意味では重要な一歩であり、また自らの力で改善活動を開始するという習慣づけにも有効だと思われます。

一方で、掃除用具(バケツ、ほうき)や手洗用具(ジョウロ、石鹸)の購入など、初期投資および継続的な資金が必要となる改善については、学校運営委員会(COGES)または保護者会の支援を得て実施している学校がありました。

したがって、自己評価用紙の配布により、今まで普通と考えていた状態に意識を向け、問題と再認識させること、さらに活動事例を提示することで、「これをしなければならぬ」という政策的な意思がしっかりと伝達されるなら、実施可能な活動を促進することができそうです。

「問題の意識化」と「政策的方向付け」のツールを用いた今回の手法が、継続的により大きなインパクトを生み出すためには、COGESまたは類似の組織を巻き込み、学校での活動状況や衛生状態の報告を定例化することにより、学校間または地域間での競争意識を促すことが考えられています。

### 学校から地域へ

学童は、学校において便所使用・手洗い習慣などの行動変容を促されていますが、家庭においては従来の習慣

に戻らざるを得ないという矛盾した環境に身を置いています。この矛盾を解消するためには、家族、地域住民の保健衛生への理解が必要不可欠となります。また、保健センターは各地域に1箇所あるかないかですが、学校は必ず複数存在し、地域住民にとって一番近くに存在する政府組織でもあります。住民組織ともいえるCOGESを巻き込み、学校から地域へと保健活動を発信していくことで、保護者や家庭における環境改善を促し、ひいては、地域保健の向上も期待できると言えそうです。

### 「みんなの学校プロジェクト」への期待

WACIPACプロジェクトは2008年12月で5年の協力期間を終えることとなります。BSSが独自にでも実施できる活動として試行をおえた「学校の環境・保健活動の自己診断に基づく学校保健活動導入」は、本年度の支援活動で全国的な展開を計画しています。EPTの活動実施地であるタウアとザンデルにおけるCOGES連合を介しての導入や、学校間または地域間での継続的なモニタリングの試行など、原チームアドバイザーをはじめとする関係者の方々と情報共有し、いろいろなご意見を頂いた上で、さらに今後の方向性を練り上げていきたいと思っています。

国際寄生虫対策西アフリカセンタープロジェクト  
栗澤 俊樹

## < 解説： 途上国における寄生虫感染症の現状と対策 >

### 西アフリカにおける寄生虫感染症の現状

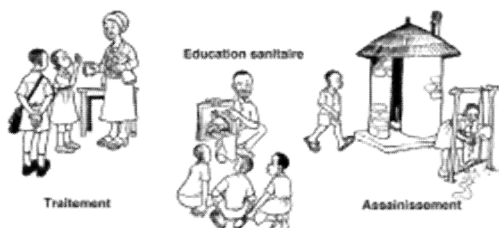
回虫などの腸管寄生虫と住血吸虫は途上国を中心に世界中で20億人が感染しており、内訳は回虫に感染している人口が14億5千万人、住血吸虫に感染している人口が2億人等と推定されています。西アフリカも例外ではなく、就学児童を中心に高い罹患率が報告されています。重度の腸管寄生虫感染が持続すると、貧血・栄養失調から学習能力の低下が認められると言われており、全ての学童に対する便検査と駆虫の実施は教育セクターにおける重要な課題です。

一方で、これまでの各国の寄生虫対策は、主に保健セクターによる寄生虫ごとの縦割りプログラムであり、教育セクターとの連携はほとんどなされておらず、そのための人的資源と情報が不足しているのが現状でした。

### 途上国での寄生虫対策

世界保健機関(WHO)によると、寄生虫対策には以下の3つが実施されることが必要とされています。

1. 定期的薬剤治療
2. 保健教育
3. 衛生状況改善



このうち、定期的薬剤治療は寄生虫病による病態を改善する直接的な対策であり、保健教育と衛生状況改善は感染機会を減少させることで、直接的な対策を補強する間接的な対策手法です。

WACIPAC参加国における寄生虫対策の進行度は様々であり、状況に応じて上記対策手法を学校保健活動やPHC活動を活用して実施しています。

直接的な対策活動が開始されていない場合は、費用対効果の高いとされる定期的薬剤投与が国家的に実施されるよう、関連諸機関同士の活動連携を支援します。この協議において、教育省と保健省との協調を支援して、学校保健活動(Health Promoting School)による寄生虫対策を導入させ、また、治療による病態対策のみならず、この効果を持続させるために感染の機会を減少させるための保健教育が組み込まれた国家対策となるように計画します。

定期的薬剤治療による対策が開始されている国では、感染の危険度を減少させるために感染力を持つ寄生虫の摂取・接触をいかに防ぐかを考え、寄生虫自体を制圧するための包括的な対策の導入を進めなければなりません。再感染を減少させかつ対策を長期間継続させるためには、住民自身が寄生虫疾患対策の重要性を認識し健康的な生活習慣を形成する必要があります。

このような展開により、対策効果がより持続されることのみならず他の感染症も抑制され、社会開発への貢献が期待できます。また、上記の間接的対策により、糞便処理が不十分であることが原因である他の疾患(下痢性疾患など)の対策にも貢献できます。(栗澤)

# 統計から見たニジェール教育開発の現状（後編）

前号に続き、国民教育省統計・情報局で青年海外協力隊員として活動中の井上数馬さんよりご寄稿いただきました。

## はじめに

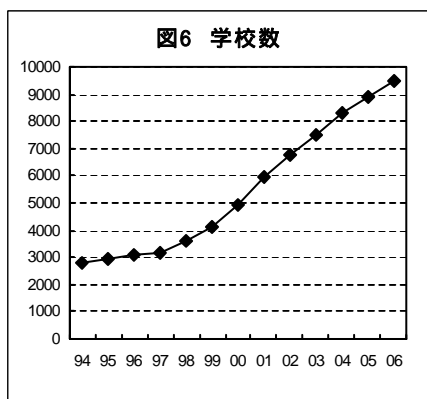
前号の前編では 入学率や就学率を使った初等教育へのアクセスと 進学率、留年率、退学率、修了率など生徒入学後を追った内部効率に関して報告しました。今号の後編では、教育の基本インフラとも言える学校や教室と 教室において授業を実際に担っていく教員に関してニジェールではどうなっているのかを、統計を用いて見ていきたいと思います。就学率は着実に増えていますが、その背景で学校数や教員数はどのように変化し、どのような政策の下でそれが供給されているのでしょうか。

## 3. 学校

### 3-1. 学校数(図6)

学校は教育の基本インフラです。学校がなければ生徒が集まる場所もなく授業も行えません。そう言った意味で、学校の整備は教育を普及させる際、最も初段階に行われる必要不可欠なものといえます。

図6はニジェールにおける近年の学校数の推移を表しています。全体的に学校数が増え続けているのが一見してわかります。そしてさらにその図からが示しているのは、90年代は少しずつしか学校数が伸びず緩やかな増加カーブしか描いていないのに対し、2000年代は増加のペースが速くなり急速に数が伸びています。2006年には9490校に達しましたが、1996年の3063校、2000年の4904校から比べれば、学校数はここ過去10年の間で約3倍、ここ過去6年の間で約2倍になっています。これらは言い換えれば、ほんの数年前までは今の2分の1、3分の1くらいの規模でしかなく、それ以前は、学校はほとんど増加していなかったにも関わらず、ここ近年だけで学校が急速に増加しているということです。これはニジェールが近年教育の普及により本腰を入れ、就学率向上にむけて取り組み始めたということを示しています。



### 3-2. 1教室あたりの生徒数(表3)

それでは次に、現在学校また教室の供給は一定の教育の質を確保する意味で十分行われているのでしょうか。近年、他のサブサハラアフリカ諸国では急激なアクセスの増加により学校や教室が十分に供給されていないところもありますが、ニジェールではどうなっているのでしょうか。

表3は、1校あたりの(使われている)教室数と1教室あたりの生徒数を表しています。その表によると、ニジェールでは平均で1校あたり約3教室あり、1教室には約42.8人の生徒が

いるようです。1校あたり約3教室と言うのは、必ずしも1つの学校にすべての学年があるわけではなく限られた学年しかない、もしくは1つの教室に2学年以上が混ざって勉強していると言うことです。学校ができたからと言っても、ニジェールでは必ずしも必要数の教室が備わっているとは限りません。そして、1教室あたりの生徒数約42.8人に関しては、教育のアクセスの拡大を目指し進行途中のサブサハラアフリカ諸国の水準を考慮すれば、国全体としては悪い数ではありません。ただニジェールにおいても、都市部と農村部、学年(退学等に伴い高学年ほど生徒数は少ない)、教室の種類によって教室内の人数がまったく違うなど、それらによる人数格差は依然としてあるようです。

表3 1校あたりの教室数と1教室あたりの生徒数

|                   |      |
|-------------------|------|
| 1校あたりの(使われている)教室数 | 3.0  |
| 1教室あたりの生徒数        | 42.8 |

### 3-3. 教室の種類と建設者(表4、表5)

ニジェールでは、様々な種類の教室があります。それらは大きく分けると、コンクリート加工・ブロック、土、わらの教室に分けられますが、それぞれ56%、5%、38%(不明2%)の割合でそれらの教室が建設されています(表4参照)。

表4 教室の種類とその割合

|    | コンクリート | 土  | わら  | 不明 | 合計   |
|----|--------|----|-----|----|------|
| 割合 | 56%    | 5% | 38% | 2% | 100% |

またそれらの教室の建設者は、表4が示すとおり、34%が教育省、15%が援助機関・NGO等、39%が保護者の分担金、6%が地方行政機関等(不明6%)です。表4と表5を照らし合わせてもわかる通り、教育省や援助機関または地方行政機関が作る教室は大抵がコンクリート加工やブロックでできており、保護者の分担金で作られたものは大抵わらでできています。当然保護者たちがお金を少しずつ出し合って建設するわけですから、これらはわらでできた安い教室になります。しかしながら、39%の教室が保護者の負担で建設されているという事実は、国(教育省)、もしくは援助機関等による供給が需要に追いついていないことを示唆しています。この分担金を集めている各学校の保護者会及び母親会の役員は民主的に選ばれると共に、学校運営委員会(COGES)委員6人のうち4人はそれらの委員会から選出され、COGESとは密接に関わっています。学校現場にあるCOGESが、学校のニーズをよく汲み取ると共に必要なものを補完していく機能は、教室の供給という問題においても大きな役割を担っています。

表5 財政負担者別の教室建設数とその割合

|    | 国(教育省) | 援助機関、NGO等 | 保護者の分担金 | 地方行政機関等 | 不明 | 合計   |
|----|--------|-----------|---------|---------|----|------|
| 割合 | 34%    | 15%       | 39%     | 6%      | 6% | 100% |

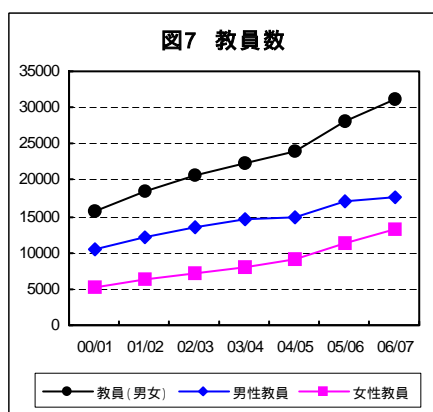


## 4. 教員

### 4-1. 教員数(図7)

もう1つ学校教育に関して考慮しなければならない重要な要素は教員です。教員が十分にいなければ授業を行うことはできませんし、教員の質は大いに授業の質、生徒が学べることの質に大きく影響してきます。

図7は2000年から2006年までの教員数の推移を総数と男女別で表しているものです。教員の総数に関しては、2000年の約15000人から毎年伸び続け、2006年は約31000人にまで達しました。教員数もここ6年において約2倍になっています。2006年における教員1人あたりの生徒数は40人ですが、これもサブサハラアフリカ諸国の水準からすれば、悪い水準ではありません。また女性の教員も増加し、2000年の女性の教員の割合は33%であったのに対し、2006年には43%になり教員における男女格差は減少してきているようです。これは女子生徒への配慮という観点から、また女性の学校教育への社会参加という観点からも重要なことです。



### 4-2. 地域別の教員数(表6、表7)

全体的に教員の供給は一定の水準で行われているのはわかりましたが、教員の配置はどうでしょうか。以下地域別に、均等にバランスを取り行われているか見ていきます。まず教員1人あたりの生徒数を見ると、農村部41人、都市部38人となり、わずかに都市部の方が少ないものの平均的にはあまり差はないようです(表6)。

表6 教員1人あたりの生徒数

| 農村部 | 都市部 | 全体 |
|-----|-----|----|
| 41  | 38  | 40 |

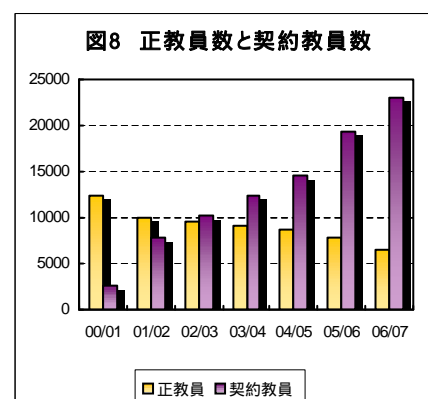
表7 教員の男女比(地域別)

|    | 農村部 | 都市部 | 総計 |
|----|-----|-----|----|
| 男性 | 70  | 27  | 57 |
| 女性 | 30  | 73  | 43 |

しかしながら地域別に配置されている教員の男女比を見ると、農村部は全教員のうち男性70%、女性30%、都市部は男性27%、女性73%とそれぞれなっています(表7)。つまりこれは農村と都市間において、必要とされる教員の配置は比較的均等なもの、男女別の配置はまったく逆と言っていいほど不均等に行われているということを意味しています。この理由としては、ニジェールで教員になれるくらいの比較的高学歴とされる女性は都市部にいる可能性が高く、電気や水がないような農村部に、またセクハラ等を恐れて、単身赴任ができない、行きたがらないなどがあり、女性を都市部に配置せざるを得ない背景があるそうです。全体的に女性の割合が増えてきたといっても、農村部と都市部の間には依然男女の割合において大きなばらつきが見られます。

### 4-3. 正教員と契約教員の割合(図8)

また教員の雇用形態、正教員と契約教員の割合も、ここ数年で大きく変化しています。図8は正職教員数と契約教員数の推移を示していますが、2000年には約12000人いた正教員は毎年減り続け2006年には約6500人に、また約2500人しかいなかった契約教員は約23000人にまで達しました。そして割合も約17%だった契約教員は、78%まで占めるようになりました。これは急速な学校建設や生徒の増加に伴い、それらに対応するために行われているもので、多くの教員を低待遇な契約教員という雇用のままにして、1人当たりのコストを抑え、教員数を増やそうというものです。しかしながら、正教員の雇用が増えないことや、契約教員の給与がなかなか払われないことから、頻りに契約教員によるストライキが行われ、学校の授業の質に大きく影響してきています。また教育省は、教員学校へのコストを抑えたと共に教員数をスムーズに確保するために、2001年に教員養成校の期間を2年間から1年間にするという政策を始めました。しかしながら休みの期間などを含めると実質はそれ以上短くなり、十分な授業時間を確保できないことから2008年の10月から2年間に戻すことになるそうです。生徒が毎年ますます増えていくなか、ニジェールでは十分な教員の確保をいろいろ苦労しながらも行っているというのが現状です。



#### まとめ

現在、国の教育10ヵ年計画に則り就学率を着実に伸ばし、初等教育を受けられる子どもたちを増やしている一方、教育システムを支える学校や教員の総数は今のところ一定レベルで供給し続けています。しかしより細かく見てみると、学校や教室に関しては、政府に十分な財政がないという理由から、COGES・保護者会を中心とした保護者の分担金により何とか必要な教室数を補充しているという現状です。また教員に関しても、歴然とした地域別な男女配置格差が存在し、雇用体系に関しては契約教員ばかりを増やしているという現状です。このほかにも紹介しきれなかった問題は多々あり、乗り越えていかなければいけないものはたくさんありそうです。しかしながら、すべての子どもが教育を受けられるように、ニジェールの教育開発は始まったばかりですが着実に前に進んでいます。これからもこの進展を止めないよう、みんなの学校プロジェクトをはじめオールジャパンでニジェールの教育開発を脇から支えていければと思います。

青年海外協力隊 井上 数馬

主要参考文献：(文中特に出典の記載のないもの)  
Niger Ministère de l'Éducation Nationale (1995 - 2007), *Statistiques de l'éducation de base: Annuaire 1994/95 - 2006/07*

(2 ページから続く)

ならば、幾つかの点に留意する必要があります。まず1点目は、COGES連合のネットワークの存在です。タウア、ザンデル州以外ではCOGES連合がまだ設置されておらず、他州でフォーラムを開催しても、COGESにまで適切な情報が伝達されない恐れがあります。但し、今年末から、プロジェクトの活動として、タウア、ザンデル州以外の全州においてCOGES連合設置のための研修が予定されて

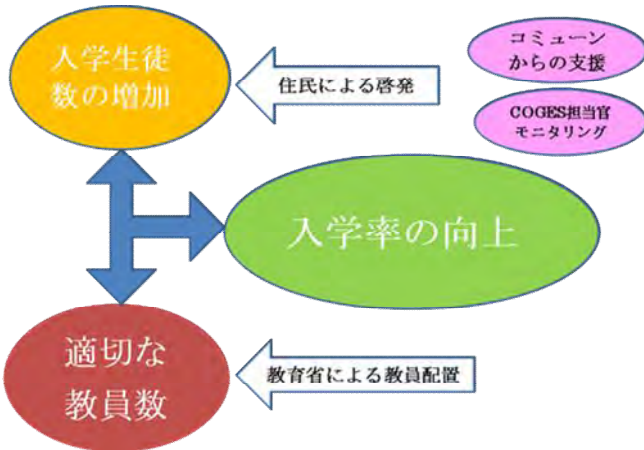


図2: 入学率の向上に必要な条件

いることから、連合が設置された州については、来年度の入学キャンペーン実施及びフォーラム開催が可能となる条件は揃います。

2点目は、キャンペーン実施と同時に適切な教員数の配置が必要である点です。この点について、教育省関係者の認識度は残念ながら低いように思えます。前述の通り、教員不足は深刻な問題であり、全体の教員数を増加させない限り、キャンペーンを各州で実施したものの、州ごとで教員確保の争いとなり、その結果、適切な教員数が確保できずにCOGESや地域住民によるキャンペーンの努力が水の泡と帰ってしまうことも考えられます。このフォーラムアプローチの明暗が、実は自分たちの手中に委ねられていると教育省関係者が自覚し、十分な教員数が確保できるようになるまでは、全州にて同時にフォーラムを開催することは困難と思われる。

国民教育省や他ドナーが効果的かつ必要性の高いと思われる活動を選択、集中的に予算化すれば、結果は自ずと出てくるはずで、タウア州での女子就学キャンペーンを通じて、「就学率向上、男女格差解消」という結果を出すためには、国民教育省がどの活動に焦点を当てるべきなのか、そんな問いかけができればと思います。

能力強化 / 業務調整担当専門家 中澤順子

## 速報 : 着実に広がる「みんなの学校」

### マリ学校運営委員会支援プロジェクトが開始される！

ニジェールの隣国のマリで、JICAの技術協力プロジェクト「学校運営委員会支援プロジェクト」が5月1日に開始されました。このプロジェクトは、みんなの学校プロジェクト(ニジェール)、教育環境改善計画(セネガル、2007年5月開始)とともに、JICAが推進する仏語圏アフリカ学校運営改善プログラムの一翼をなすプロジェクトです。学校運営委員会の機能化と、機能化された学校運営委員会を通じた住民参加によって、学校運営と教育環境の改善を目指しています。

プロジェクトのチーフアドバイザーは尾上公一専門家、住民参加 / 業務調整担当は齋藤由紀子専門家(6月下旬着任予定)で、二人とも「みんなの学校」の経験者です。この二人の専門家を中核としたプロジェクトは、「みんなの学校」で培った経験の上に、新しい工夫を加えて、「みんなの学校」以上の成果を上げることが期待されています。

ニジェールからもマリへエールを送ります。

### みんなの学校、TICAD IV 横浜行動計画に登場！

去る5月28日から30日にかけて横浜で開催された「第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)」において、「横浜宣言」及び「横浜行動計画」が採択されました(TICAD IVとは? [http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/index\\_tc4.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/index_tc4.html))。その「横浜行動計画」では、「みんなの学校」が確立した住民参加型学校運営モデルを活用した取り組みが、具体的な活動計画として正式に盛り込まれました！ 読者の皆さんとも共有したいので、以下、該当箇所を抜粋いたします。

#### ▶ 基礎教育分野:

- ▷ 地方教育行政の能力向上及び「みんなの学校」プログラムを通じたコミュニティに根ざした学校運営の能力向上を促進する。(資料1、p.11)
- ▷ 西部アフリカにおいて、「みんなの学校(School for All)」モデルを基礎とした学校運営改善のためのプロジェクトを1万校に拡大。また、コミュニティ参画型の学校運営モデルをさらに促進するため、日本社会開発基金(JSDF)に、1,000万ドルの特別資金枠を設置。(資料2、p.8)

#### ▶ コミュニティ開発分野:

地域住民の教育及び学習の成果へのアクセスを向上し、現地生産された作物による学校給食等を通じて地域経済とのつながりを強化するため、地域住民による学校運営の参画を奨励する(「みんなの学校」)。(資料1、p.10)

出典: (資料1) 外務省ウェブサイト「TICAD IV 横浜行動計画」, [http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/tc4\\_sb/pdfs/yokohama\\_kk.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/tc4_sb/pdfs/yokohama_kk.pdf)  
(資料2) 同ウェブサイト「TICAD IV 横浜行動計画 別表」, [http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/tc4\\_sb/yokohama\\_bh.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/tc4_sb/yokohama_bh.pdf)



## 見えないものを形に

住民参加の成果は見えにくい。このプロジェクトの場合、学校運営への住民参加ということが目標になっていたから、なおさらであった。一応、住民集会の回数や人数や、人々の意識の変遷をプロジェクトの前後で比較して、評価することになっていた。もちろん、大きな変化はあった。PDM上では高い評価となった。しかし、その評価の内容は、プロジェクトに関わっている人以外にはわからない。例えば、ニジェールや日本に居る一般の人にわからない。ニジェールの教育省やドナーの人たちにもわからない。

このプロジェクトの場合、学校活動計画の枠組みで、人々は、自分ちの教育に対するニーズを形にし、多くの学校の環境を改善する活動を行った。一学校あたり、5つの学校改善活動を自分たちの財源だけを使って実施し、その費用は、日本円で5万円になった。これは、現場にいると目を見張るような動員力なのだか、この説明をしても心から驚く人は、数少なかった。それは、ニジェールの教育省の人の中にはもっと分からない人がいたから、しかたないことのような気がする。きっと一般の人たちは、ぴんとこないだろう。そこで、いろいろ考えて、COGESも動員力を使った就学促進活動をタウアの7コミュン(200校)で行った。その成果も驚くべきもので、普通の4倍くらいの新入生候補者が集まった。しかし、キャンペーン実施対象学校数が少なすぎて、疑い深いひとは、成果を出すために、プロジェクトが大きな投入をしたのだらうと邪推して、この成果はほぼ無視されてしまった。しかも、教育省は十分な数の先生を配置できず、住民が集めた新入生候補者のうち半数が就学できず、子どもや住民を失望させてしまった。だから、今度は、ザンデル全校、全COGESで、教員配置数が限られていても、住民やCOGESの力を示せる女子の就学促進キャンペーンをやることにした。今度は、州の教育省側ともよく話し合い、女子を多くリク

ルートした学校に優先的に先生を配置するという原則を徹底し、しかもそのことを、COGESを通し、住民にも浸透させた。キャンペーンは成功し、前代未聞の結果が出た。今回は、もう、COGESやCOGES連合を通した住民の教育開発への実力に疑問を挟むひとはいなかった。それだけではない、結果を大々的に発表し、首相から、ザンデルへの人々へ感謝状が出された。住民の人たちもこの結果に満足した。そして、やればできる、認められるということが、さらにモチベーションを上げている。

住民参加という見えないものを形にして、結果として見せるということは、大事なことだ。住民には自分たちの生活をよくするために、行動する能力ややる気があるというのは、普遍的な事実である。だから、住民参加型のプロジェクトは、住民の能力ややる気を引き出す手助けだけではなく、その努力の結果を目に見える形にする努力をしないと、活動をより大きく、長く続けさせるための支援を呼びこむことが出来ない。そういうことを最近はずくづく感じている。

タウアの北の方の学校の巡回しているときに、砂漠の中をよく通った。そんな時、絵本の「星の王子さま」のことを思い起こした。それは、本の中の主人公が星の王子に出くわす冒頭のシーンが砂漠だったからかもしれない。そしてその本の中の「大事なものは、目に見えない。」という一説が何度も頭のなかに浮かんで消えた。どうしてそんなセンテンスが頭の中に浮かんできたのだろうか。自分も、大事なもの(住民参加)は目に見えないな、といつも考えていたからだと思う。この5年間どのように住民参加を目に見えるようにするか、ずっと考えてきた気がする、そして工夫してきた。この5年間の努力は、あの絵本の作者であるサンティクジュペリが、子どもや大人にひとつの重要なメッセージを伝えるために、一冊の絵本を書いたのと同じことだったような気がする。(H)

### みんなの学校プロジェクト・フェーズ2 ホームページ更新中!

(<http://project.jica.go.jp/niger/0608872/>)

当ホームページでは、**マンスリーレポート**にてみんなの学校の活動をリアルタイムで紹介しています。フォトギャラリーや動画もご覧いただけます。

また、「みんなの学校だより」のバックナンバーはホームページからダウンロードできます。是非、ご覧下さい。

### 本誌「みんなの学校だより」に関する 皆様のご意見・ご感想をお聞かせください!

<< 編集・発行 >>

ニジェール住民参加型学校運営改善計画フェーズ2  
(みんなの学校プロジェクト)

Projet Ecole Pour Tous Phase

住所: BP2728 Niamey, NIGER(ニアメ事務所)

電話/FAX: +227-2035-0644

E-mail: [Rosedesaha@aol.com](mailto:Rosedesaha@aol.com)

または [junko0524@hotmail.com](mailto:junko0524@hotmail.com)

タウア事務所は2008年3月31日で閉鎖し、

タウア州コニへ事務所を移転しました。



# みんなの学校だより



vol.21

ニジェール住民参画型学校運営改善計画 (みんなの学校プロジェクト)  
第2フェーズ

2008年8月7日発行

今号のハイライト：  
ついに教育の質の世界へ  
セネガル訪問記  
同釜飯論的技術移転論考察  
原さん、お疲れさまでした  
チーフ交代の挨拶

2008年6月～7月

Vol. 21

## ザンデール州、卒業試験合格率が全国トップに！

～ みんなの学校、ついに「教育の質」の世界へ ～

### ザンデール州、卒業試験合格率が全国トップに！

去る7月24日に、ザンデール州視学官事務所会議が開催されました。その会議の場で、去る6月末に実施された小学校卒業試験の合格率において、ザンデール州が全国トップとなる67.7%を記録したことが、州国民教育事務所長によって報告されました。自らの前年度の結果を13.3ポイントも上回る、文句なしの成績を上げたのです。

2007/08年度の新学期に向けて取り組んだ女子就学促進キャンペーンで目覚ましい成果を上げたザンデール州では、女子就学促進キャンペーンに加え、入学させた児童を退学させないための「残存率向上キャンペーン」、そして「成績向上キャンペーン」を、それぞれ市町村(コミューン)単位の学校運営委員会(COGES)連合が中心となって実施してきました。今回の卒業試験の結果は、ニジェールにおいてこれまで誰も示せなかった、教育の質的改善に向けた効果的かつ自国の資源で実施可能な処方箋を初めて実証したという点で、非常に大きな意味を持っていると私たちは考えています。

### なぜ、「試験の成績」が大切なのでしょう？

子どもが社会性を体得したり、勉学や課外活動に参加する楽しさを感じたりできるかどうかといった、学業成績では表せない要素も、子どもにとって、そして社会にとって大切であることは言うまでもありません。それでもなお、プロジェクトとして成績向上を前面にした取り組みを支援したのは、現在のニジェールにおいては「卒業試験の合格率」を高めることが行政と住民のそれぞれにとって大きなニーズとなっており、それは行政と住民の努力によって成果を上げられる、とプロジェクト・チームが信じていたからです。

プロジェクトがフェーズ1から活動を実施してきたタウア州とザンデール州においては、COGES連合のネットワークとCOGESの住民啓発力を原動力に、すでに、就学率の全般的な向上や入学登録者数の男女格差是正といった「教育機会」の面での成果を上げてきました。しかし、他のアフリカ諸国もそうであるように、ニジェールにおいても、「教育機会」の次は「教育の質」が改善目標となっています。「ニジェール政府もドナーもひとつの教育政策のもと

に、財政、人的資源を投入し、努力しているにも関わらず、目標から程遠い成果しか出ていない現実に、実は等しく落胆し、前に進む気力を失ってきている」(みんなの学校だより第18号、p.2)のが現実です。また、住民側も、子どもたちに質の高い教育を受けさせ、将来の選択の機会を拡げさせたいと強く望んでいます。様々な「犠牲」を払って子どもたちを学校に通わせるからには、卒業試験を合格できるだけの学力は身につけてほしい、と保護者が考えるのは当然です。

そのような中、行政、教員、そして住民が望む教育の質的改善を、卒業試験の成績向上という目に見える形で示すことは、精力的に教育開発に取り組んできた関係者を励ますばかりでなく、COGES連合とCOGESが主導する教育の質的改善のアプローチを制度化させる絶好のチャンスとなるでしょう。プロジェクト評価で言えば、「自立発展性(Sustainability)」を飛躍的に高めることができるわけです。

### 住民の決意と実践：COGES連合フォーラムの効果

ザンデール州で「成績向上キャンペーン」を実施する直接の契機となったのは、2008年1月の同州COGES連合フォーラムでした。その目的は、同州が2007/08年度の女子就学促進キャンペーンの成果を報告・共有すること、そして、入学した児童を退学させないための活動について協議することでした。後者の問題について話し合う過程で、教員の欠勤及び質の低下が深刻な問題であるにもかかわらず、行政として十分な対策を打っていないことが改めて確認されました。そんな学校に子どもを通わせても、生活や仕事に必要な知識も技能も身につかないのは明らかで、保護者の理解は得られません。子ども自身も学校生活を楽しめません。このような状況で、学校現場における教育の質を改善することは、児童を退学させないために不可欠な取り組みであると言えます。

同フォーラムの終了後、決議事項をCOGES連合、そしてCOGESへと順次伝達する過程で、成績向上と残存率向上に必要な住民による取り組みとして、特に以下の活動の重要性が確認され、そして実施されました。

(2 ページに続く)



(1 ページから続く)

- ▶ 受験生による試験準備を支援する（例：模擬試験への支援、教員への支援、ランプ用灯油の提供など）
- ▶ 全ての受験生が試験本番に出席するようにする
- ▶ 試験会場を提供する村においては、受験生の滞在に必要な手配を十分に行なう（例：宿泊先、食事、安全、応急処置など）
- ▶ 児童が学年末まで確実に授業へ出席するよう、必要な措置をとる
- ▶ 学年度終了前に前倒しで長期休暇に入ろうとする教員に注意を払う

### プロジェクトが果たした役割とは？

では、教員が休まず出勤して、十分に準備をして授業に臨むようになるには、行政としてどんな取り組みが必要なのでしょう。プロジェクトが出した結論は、視学官による学校視察を活性化させるということでした。そして、それを最低限の投入で実現する手段として、国民教育省に対して、州レベルの視学官事務所会議の定期開催を提案し、試験的な導入について合意を得ました。これまでプロジェクトが支援してきたCOGES担当官月例会議がCOGES担当官の意欲を高め、担当者間の競争心を芽生えさせてきたように、視学官についても同様の効果を戦略的に狙ったのです。

しかし、1人の視学官が管轄する小学校は平均しておよそ100校から150校に及ぶため、学校視察の効率化も重要な課題です。現在のタウア州国民教育事務局長は、ザンデル州グレ県視学官として在職中の2007年6月の卒業試験において、県別成績で全国1位を達成しました。その手腕が評価されて現職に抜擢されたのです。プロジェクトは、その後も自ら学校視察を積極的に行なっていた彼から、限られた時間内に効率的に学校視察を進めるための秘訣として、例えば、各校で受験生の担当教員を対象を絞って短時間で指導を行なうといった知恵を借りました。そして、2008年2月の第1回視学官事務所会議にプロジェクト・スタッフも参加し、タウア州国民教育事務局長の知恵を視学官と共有した上で、最終的には視学官たちが自ら視察方法を決めました。

視学官事務所会議では、州国民教育事務局長による議事進行のもと、成績向上や児童残存率の向上に向けた活動戦略の策定、学校視察の成果報告、及び視学官同士の経験共有が行なわれました。「みんなの学校」では、試験的な取り組みとして、2月、3月、4月、そして今回7月の計4回にわたり、会議の開催費（各回約16万円）を支援しました。また、2月を除く全ての会議について、プロジェクトの簡易電話会議システムを活用して国民教育大臣にも出席していただき、視学官事務所会議の意義を直接訴えかけました。そして、ついに成績向上という具体的な成果を示すことで、同会議の制度化に向けて確かな手応えを得ました。

視学官による学校視察を促すために、州国民教育事務

所長は、巡回に必要なガソリン代に対する予算措置を約束しました。その結果、「みんなの学校」から一切の資金的支援がなかったにもかかわらず、各県の視学官は試験本番の直前まで各地の小学校を精力的に訪問し、教員の出勤状況の確認、授業準備ノートの検査、教員欠員状況の確認、及びCOGES及びCOGES連合との意見交換を行ないました。さらに州国民教育事務局長自身も、試験本番の前月である5月に州内各地の小学校を集中的に訪問し、卒業試験に向けた準備状況を確認し、校長及び教員に対して助言と叱咤激励を行ないました。

以上のような住民と行政による努力を後押しするために、「みんなの学校」では、練習問題集を1,000部配布しました。5月末の時点で、州内の約1,000校において活用されたとのこと。今回の視学官事務所会議でも、練習問題集を活用した試験対策の効果を非常に高く評価する声が視学官から相次ぎました。来年度以降も各学校の、そしてザンデル州の財産として継続的に活用していくとの意向が確認されました。

こうした住民と行政による一連の取り組みが相乗効果を生み、ザンデル州での快挙に大きく貢献したと考えられます。州国民教育事務所の関係者はもちろんのこと、COGES連合及びCOGESの委員、そして住民たちにとって、大きな自信と励みになったことでしょう。

実は、先日の視学官事務所会議にあわせて、「原専門家を送る会」がザンデル州国民教育事務所によって開催されました。驚くべきことに、今回の成果を高く評価し、自ら参加者に名を連ねた同州の教員組合の代表者から、チーフアドバイザーとしての原専門家に対して感謝状が授与されたのです。「子どもたちに良い教育を！」と願う住民、行政官、そして教員の想いが一つになった瞬間に立ち会うことができたような気がしました。

### 今後の展望

ついに「みんなの学校」は、住民参加による学校運営の改善が「教育の質」を高めていく一つの道筋を示し、実証することができました。そこで重要な役割を果たした視学官事務所会議は、それによってニジェルが自国の限られた資源で教育改善の成果を上げる見通しを示せたことから、早くも制度化の可能性が非常に高まってきました。

今後は、視学官による学校視察の重要性、COGES連合の主催する模擬試験やCOGESの主催する補習授業の効果、住民が定期的に学校を訪れ、校長及び教員とコミュニケーションを図ることの意義などについて、行政や住民を対象とする様々な会議や研修の場でこれまで以上に訴えていきます。そして、今回の成果を教育分野の援助機関関係者にも積極的に広報していきます。さらには、「教育の質」のより長期的な改善に向けて、行政と住民が支える持続的な教員研修のあり方について検討を開始します。

COGESモニタリング担当専門家 國枝 信宏

## セネガル「教育環境改善計画」訪問記

～ JICA中西部アフリカ地域支援事務所ニュースレターより ～



ニレレ小学校の学校運営委員会の代表は、話し合いが終わると、小さな校庭の隅に作られた、小さな学校菜園に案内してくれました。そこで、乾燥した台地に植えら、そこだけ、目に新鮮な緑の草に近づき、一束をちぎって、手渡してくれました。それは、40度を超す暑さを一瞬忘れさせてくれるようなさわやかな匂いがするミントでした。

これは、2008年6月5日、セネガル国教育環境改善計画(PAES)の対象校の一角を訪れたときの出来事でした。ニレレ小学校は、リングール県の首都から、車で50分走ったところで砂漠の中に突然現れました。教室が二つ、生徒が40人の小さな学校です。1990年にミッション系団体の学校として設立されたそうですが、先生が赴任しなかったり、赴任してもすぐいなくなったり、真面目に教えなかったり、そのため、生徒がやめてしまい、卒業生がまだひとりもでていないそうです。そこで、村のひとたちが一生懸命にIDEN(視学官事務所)をお願いして、一人の先生がやっと赴任しました。それが、3年前のことです。その先生は、一生懸命生徒に教えました。父兄や村の人たちは、この先生の熱意に応え、支援をしようとしたが、うまく形にできませんでした。そこにPAESがやってきたのです。PAESは、まず、学校運営委員会を民主化し、風通しのよ

い、人々が意見を言いやすい組織に変え、そして自分たちの力だけでできる学校活動計画を、学校運営委員会を通して、導入しました。学校活動計画は村の人たちが、学校に対するニーズや想いを形にできるツールです。ニレレ小学校で、この学校活動計画の枠組みで、計画され実施されたのが、教科書やノートやボールペンを買うことです。先生や生徒はずいぶん助かりました。そして、私がもらったミントも、先生が疲れをいやす、お茶に入れるために栽培されているのだと思います。このミントには、住民の学校に対する想いがこもっています。

PAESは、2007年5月より、ルーガ州の285校を対象に実施されているプロジェクトです。馬野、清野両専門家、そして、ETRというIAやIDENの視学官などで構成されたプロジェクトチームによって運営されています。専門家もセネガルのプロジェクト関係者も、みな真面目で、「僕らの一番の仕事は学校運営委員会、コミュニティ、先生、子どもたちを少しでも励ますことだと思っています。」(馬野専門家)という言葉に象徴されるように、情熱を持って働いています。そして、プロジェクトの理想は、訪問した学校の中にもめばえ始めていると思いました。恐らく、セネガル中の生徒や先生、そして、住民はみんなPAESが村にやっていることを待っていると思います。

しかし、全国にPAESを広げるためには、多くの障害が待ち受けていると思います。明確な目標、現実的な戦略、様々な状況に対応できる柔軟さ、忍耐、そして日々の地味な努力が必要でしょう。様々な困難を乗り越えて、全国の小学校に、PAESが育てつつある「ミント」が届くことを祈りつつ、ニジェールからエールを送ります。

JICA国際協力専門員

「みんなの学校プロジェクト」チーフアドバイザー  
原 雅裕

### 「みんなの学校」のCOGES連合モデルが国家戦略として承認されました

7月14日から15日にかけて、「学校運営委員会(COGES)連合モデル承認会合」が国民教育省の主催により開催されました。この会合は、既存のCOGES連合モデルの外部評価結果を基に、全国普及に向けたCOGES連合の「国家モデル」を関係者間で承認することを目的として実施されました。当日は、中央の国民教育省関係者をはじめ、全8州の国民教育事務局長、州COGES監督官、一部の県視学官、県COGES担当官、コミューン長、及びCOGES連合の代表が参加をし、COGES連合の役割や機能化に向けた戦略等について話し合いました。そして、それら討議の結果、プロジェクトがタウア州とザンデル州で2005年から試行してきたCOGES連合のモデルがほぼ全面的に承認されることとなりました。

今回のモデル承認により、行政によるCOGES活動のモニタリング、そして「フォーラム・アプローチ」(みんなの学校だより第20号をご参照ください)による教育改善活動の鍵となるCOGES連合の全国普及に必要な条件が整いました。8月以降は、研修マニュアル改定等、全国普及にかかる研修の準備作業を進めていく予定です。ニジェールの教育を変えるCOGES連合のパワーに、どうぞご期待ください!





## コラム： 同釜飯的技術移転論考察

COGES連合戦略承認アトリエに参加して、地方行政官、中央行政官、ドナー関係者が、COGESやCOGES連合について、真剣に議論しているのを聞きながら、プロジェクト開始当初のことを思い出していた。そのころは、COGESという組織は法令で、その設置が規定され、パイロット的に設置が始まっていたが、COGESのことを知っている人、気にかけている人は稀であったし、国民教育省の上層部も、COGESという組織について、名前だけは知っているが、その内容について知っている人はほとんどいなかった。それが今や、COGESは教育開発のどの分野でも、その成功のカギとして語られているし、COGES連合に関する討議も、その人の意見もそれほどの外れではなかった。COGESもCOGES連合も、完全に教育開発10カ年計画の実施計画に取り入れられて、具体的な実施スケジュールが国民教育省によって策定されて、ドナーも含めた会議で、承認され、実施されている。みんなの学校プロジェクトはモデル形成、普及型の技術協力プロジェクトと定義できるとおもうが、ここまでくれば、技術移転はある程度成功したと判断できるのではないかと思う。ただ、前に、みんなの学校プロジェクトの技術移転の方法論について、問題視されたことがあった。

その発端は、プロジェクト第2フェーズの開始当初の合同調整委員会にあった。その委員会の中で、第2フェーズの内容の説明をカウンターパートではなく、小職が行っていたことに端を発する。プロジェクト型技術協力プロジェクトの経験の長い人から、合同調整委員会のプロジェクト活動の説明は、プロジェクトのカウンターパートがすべきであるし、このことに象徴されるように、このプロジェクトはニジュール側の巻き込みが少なく、様々な実証をプロジェクトの中で行い、それを相手国側に提案する「開発調査」的であり、技術協力プロジェクトのあるべき姿ではないと指摘された。その時は、その人の見方が皮相的だなと思ったが、とても忙しかったので、その指摘に関し説明しなかった。しかし、やはり、プロジェクトを去る前に、プロジェクトの責任者として、しっかりしたプロジェクトの技術移転に関する考え方を示しておくべきだと思い、ここの記しておく。

この小文のタイトル同釜論とは、カウンターパートとそれこそ、同じ釜の飯を食う、つまり、ともに働き、苦勞を共にしながら、プロジェクトを形成することにより、カウンターパートに技術の移転と、オーナーシップの醸成を行うという技術移転論のことで、みんなの学校プロジェクトの在り方が、この論とはかけ離れている指摘がなされたのだと思う。同釜飯的技術協力プロジェクトの在り方の具体的なイメージとしては、プロジェクトに対する専属のカウンターパートが何人もいて、関係省庁の中にあるプロジェクト事務所に専門家とともに勤務し、一緒にプロジェクト活動を行っていくというものである。そして、苦勞、辛勞をともにし、カウンターパートがプロジェクトやプロジェクトが伝える技術を新に自分のものとし、そのカウンターパートによ

り、プロジェクト関係省庁のオーナーシップが醸成され、相手国への技術移転がなされていくというものであると思う。人によっては、解釈は少し、違うかもしれないが、だいたいこんなものだと思う。

みんなの学校プロジェクトの第1フェーズは、タウアで、このイメージとほぼ同じ形で行われていた。そして、年間2回行われる合同調整委員会や、その他の中央で国民教育省次官や、その他のプロジェクト関係の人に会う際に、プロジェクトの活動や成果の報告をしていた。しかし、第2フェーズになって、プロジェクトのベースが首都のニアメに移り、直接のカウンターパートが基礎教育総局長や、COGES推進室長となって、状況は変わってきた。COGES関係のプロジェクトは複数あり、これらのみんなの学校プロジェクトのカウンターパートは、同時に他の複数のプロジェクトのカウンターパートであり、プロジェクト責任者となっていた。また、国民教育省の建物が小さいせいもあり、省内に部屋を持っているCOGES関連のプロジェクトはなかった。COGESのモデルづくりをしているライバルがたくさんいて、ライバルたちの事務所は初めからニアメにあり、中央との関係もプロジェクトより強かった。この状態では、同釜飯論的な環境は作りえない。もちろん、カウンターパートへのプロジェクトの情報の提供などは頻繁に行っているが、複数のプロジェクトのカウンターパートであるCOGES推進室長が、みんなの学校プロジェクトだけに肩入れする態度をとれないのは当然ではないかと思った。こんな状況では、プロジェクトのCOGES機能化公式モデルにならない限り、全国普及は行えないし、ニジュールに対する自立発展性を持った技術協力を行ったとは言えない。COGES連合にしても同様なことが言えた。

少し無理はあるかもしれないが、みんなの学校プロジェクトが置かれていた立場、そしてニジュールの技術協力の構図を日本の戦国時代に当てはめてみたい。織田信長が地方から中央に攻め上がったように、プロジェクトもタウア、ザンデルでCOGESやCOGES連合の成果を積み重ね、地方から、中央へ進出してきた。全国統一の過程では、信長には桶狭間の戦いや武田勝頼との決戦のような決定的な戦闘があった。プロジェクトで言えば、それは、去年のCOGES政策戦略承認アトリエや、今年のCOGES連合承認アトリエであったとも言える。織田信長には、伝来したばかりの鉄砲という武器と緻密な戦略、大胆な行動があったが、プロジェクトには、住民が成し遂げた圧倒的な成果という武器と、その成果を国民教育省側の需要に合わせるという戦略があった。そして勝ち残った。

結果論ではなく、技術協力プロジェクトの技術移転の形には、その置かれた状況により、様々な形がありえる、それが、プロジェクトから同釜飯論への回答です。

(原)

## 風の音を聞きながら ~ 終わりに ~

昔レストランを経営していた時、自分の給与が出ないことがよくあった。理由は簡単で、個人営業の経営者の給与は、店の売上から、経費(家賃、電気水道、原材料費、人件費、借金返済、税金など)を引いた分が、自分の給与額を上回ってはいれればいいが、下回れば減給か、給与は出ない。マイナスなら持ち出しとなる。とても厳しい環境だが、当たり前といえば当たりのロジックである。つまり、店の経営に失敗したら、店の経営責任者の給与は出ないのである。

そんな経験があるせいか、プロジェクトを実施していて、自分にかかっている経費のプロジェクト総経費に占める割合が大きいことがとても気になっていた。プロジェクト責任者の場合、レストランの経営者のように単純なロジックではないが、プロジェクトが目標を達成している、あるいはそれ以上の成果を出せるかということが、自分の存在価値となる。その成果を出しているという実感がもてず、居心地の悪い思いをしていた。プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)に書かれている目標を達成すれば、それで、いいのかというと、それも違う気がしていた。みんなの学校の場合で言えば、住民参加によって、学校運営を改善することが当初のプロジェクト目標であった。しかし、住民や国民教育省の実際のニーズは、学校運営改善は入口にすぎず、学校運営改善を通して、実際に教育のアクセスや質が向上し、生徒の学習の質が高まるということにあった。したがって、そこまでいける感覚がないと目標が達成されたという気持ちにはなれなかった。

しかし、ニジェールのタウアの教育現場の状況は、ひどい状態だった。住民が、学校がほしくて、生徒を募集し、仮設教室を作って、国民教育省に教員を送るようお願い

しても、教員はいつまで経っても来ない。学校があっても、教員がストライキなどで長期的に欠勤する、教員がいても、生徒に教えられるレベルに達していない。教室に教科書はない、教員の指導書はない、教員を指導すべき指導主事は、モニタリング費用がなく、全く学校を回っていない。住民が、学校に失望するのは当然である。

プロジェクトは、住民参加を促すミニマムパッケージを導入して、大きな住民参加を得た。それは、現場にいるとても信じられないような動員であったし、何年も継続的に行われた。実際には、この住民の動員に応えるような政府の政策は、とられておらず、学校現場では、住民を落胆させるようなことが続いていた。痛感させられたのは、もっとも困難な状況の中で、子どもたちの教育を改善するための戦いを続けているのは、国民教育省やプロジェクトではなく、間違いなくこの「普通の人たち」だということだった。プロジェクトの活動がうまく進まず、能力不足だと思い、何度も辞任することも考えたが、最後まで続けられたのは、この「普通の人たち」の努力に励まされたからだ。そして、彼らは、みんなの学校という船の帆に、強い熱い追い風を送り続けた。プロジェクトが突き進めたのは、帆をいっぱい張ってその追い風を受けとることができたからかもしれない。

今は、国も教員もこの強い風を感じ、それに応え始めようとしている。プロジェクトは、この追い風に乗っている限り、そして、住民の力を国や教員の努力と一致させることができれば、必ずもっとずっと先まで進んでいける。もし、風がないなら、風の方向がわからなくなったら、立ち止って耳をすませてほしい。必ず、風の音が聞こえてくるから。(H)

### みんなの学校プロジェクト・フェーズ2 ホームページ更新中！

(<http://project.jica.go.jp/niger/0608872/>)

当ホームページでは、**マンスリーレポート**にてみんなの学校の活動をリアルタイムで紹介しています。フォトギャラリーや動画もご覧いただけます。

また、「みんなの学校だより」のバックナンバーはホームページからダウンロードできます。是非、ご覧下さい。

### 本誌「みんなの学校だより」に関する 皆様のご意見・ご感想をお聞かせください！

<< 編集・発行 >>

ニジェール住民参加型学校運営改善計画フェーズ2  
(みんなの学校プロジェクト)

Projet Ecole Pour Tous Phase

住所: BP2728 Niamey, NIGER(ニアメ事務所)

電話/FAX: + 227-2035-0644

E-mail: [junko0524@hotmail.com](mailto:junko0524@hotmail.com)

[nobuhiro@zau.att.ne.jp](mailto:nobuhiro@zau.att.ne.jp)

タウア事務所は2008年3月31日で閉鎖し、  
タウア州コニ市へ事務所を移転しました。



原さんは私にとって単なる仕事のパートナー以上の人であり、友人であり、兄弟でありました。彼は仕事における率直さと熱情と洞察力と実用主義、人間関係における丁寧さ、素朴さ、寛大さを身につけた人でした。ちょうど彼の効果的で、効率的で、汎用性のあるCOGESモデルのように、原さんは模倣すべき協力者のモデルです。なぜなら彼は、物事が最善となるよう自分が取り組んでいるのだ、と信じているからです。

国民教育省COGES推進室長 ダマナ・イサカ



私たちは、多彩な資質を備えた原さんを忘れることはないでしょう。彼の分析力、計画力、そして実行力は、プロジェクトに大きな力を与えてくれました。彼の下では、ミスは最小限となり、失敗の余地はありません。彼は原則を大切にし、取り組むこと全てを固く信じています。だからこそ、プロジェクトが進めてきた戦略は

全て成功したのです。常に成功を求めて結束しているプロジェクト・チームを5年にわたって率いてこられたのは、彼の卓越した人材管理能力があったからこそです。現場レベルの成果を追求する彼の哲学の下、プロジェクトは住民参加による学校運営モデルを確立し、それは今や、ニジェール国民の誇りとなっています。お疲れさまでした！

EPTプロジェクト政策アドバイザー イボ・イッサ

原さんはカリスマがあり、活動的で、常に仕事の成功を求めています。原さん、あなたはタウア州とザンデル州の人々の教育ニーズを具体的な活動に換えてきました。その結果、これまで国内外の教育専門家が誰も実現できなかった住民参加型教育開発モデルの構築が実現したのです。あなたが蒔いた木の種は、芽を出し、生長し、花を咲かせ、そして実りました。その熟れた果実は、今ではニジェールの国境を越えて流通するようになったのです。ニジェール国民は、あなたに心から感謝しています。



EPTプロジェクトCOGESチーム ハムザ・ジボ

初めて原さんを知ったのは2004年4月のタウアでした。つまり、まさにプロジェクト開始時にあたるタウアのいくつかのCOGESへの研修時でした。そして、その時からわずかの間に、探求と行動の人、原さんについてわかったのです。原さんとは

- ▶ 鋭く、明晰、先見の明があり、鋭い
- ▶ 完全なる確信を追求
- ▶ 最後まで楽天主義
- ▶ まさにブルドーザー！
- ▶ 人との仕事で不可欠な人間関係において丁寧であるため、愛想がよくて社交的
- ▶ 「休憩」という言葉を知らない人。会う度毎回同じ答え 「どこから来たの？」「仕事場。」「どこへ行くの？」「仕事場。」
- ▶ などなど。。。

彼と共に過ごすうちに、彼のモットーに慣れ、かつ採り入れることができました。つまり、彼のモットーとは：仕事、いつも仕事、ただ仕事だけ。原さんは、みんなの学校プロジェクトを通して日本を立派に代表するようになり、この国を去っていきます。ある思想家は言っています。“人生とは常に二つの斜面をもつ。そこで我々はよじ登るか、滑り落ちるがままにいるかだ。” 確かなのは、原さんは上昇する斜面をとったのだということ、なぜなら我が国、そしてとくに教育システムにおいて名声の頂点で飛っていくのだから。また、“讃えるために訪れるべきは、偉大な人が生まれた場所でも死んだ場所でもない。その人が人々の称賛を得た場所あるいは作品なのだ。” ニジェールは原さんが称賛を得て、彼が喜びを持って実行した仕事の場所である。よって、原さんのCOGESをその情熱と第二の祖国であるニジェールに貢献するものとして敬意を表します。

EPTプロジェクトCOGESチーム ハミドゥ・ハッサン



原さんのことはお会いする前から存じ上げていましたが、まさに運命に導かれ、一緒に働くことになりました。私がみんなの学校プロジェクトにいたこの9か月の間に、私は彼について再び知り得ることとなりました

つまり、慎重な人で、用意周到かつ献身的な働き者で、戦略家で改革者。彼は見通しを持った上で進んで危険を冒す術を知っています。原さんはチェスの競技者のように集中して働きます。全ての駒を素晴らしい腕前と勝利へと結び付く才気を伴う戦略をもって動かしながら、このように、具体的で明白な成果へと達する術を知っていたのです。原さんが去った後、長い月日が経とうとも、ニジェールは学校運営における彼の目覚ましい働きを忘れはしないでしょう。新しい職場で道が開けますように。そしてもう一度、原さん、本当にありがとうございました。幸運を。



EPTプロジェクト・アドミニストレータ アブ・イドゥリサ

まずなによりも、原さんが旅立つことを非常に残念に思っています。しかし、原さんのポジションに来た三浦さんが原さんのような方であることを誇らしく思います。EPT全スタッフが今後も原さんがいた時と同様に、原さんが目指してきたものへ向かって進んでいくことを願っています。そしてEPTすべての運転手は今後も尊厳と結束を持って働いていきます。

プロジェクト運転手を代表して  
アダム・ジボ



#### ニジェール政府からの贈り物

着実にかつ全国規模で成果を上げてきたEPTプロジェクトを率いた原専門家を称え、大統領より教育功労賞、及び国民教育大臣(左写真)より感謝状が贈られました。

さらに、ザンデル州国民教育事務所は、COGES担当官月例会議等が開催される会議室(右写真)を「ハラ・マサヒロ会議室」と命名しました。



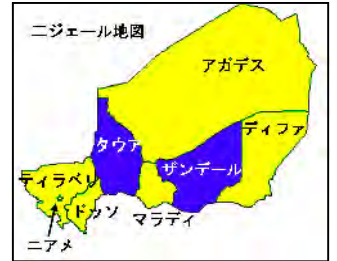
ニジェールの教育の為に尽力したことでよく知られているあなたは、あらゆる学校関係者、協力者、そしてとくに部下たち敬服を集めています。あなたはまさに、豊かな才能と仕事への熱意、そしてニジェールへの献身的な情熱を備えたリーダーです。少しも妥協することがない仕事への信念を持っており、この信念こそが、あなたのスタイルの主要な性質。つまり、明晰で厳格な部分をつくりあげているのでしょう。

ニジェールにいる間に、あなたは、まさに住民参加を通じた地方分権化を夢ではなく現実のものとするので、ニジェールの教育システムが麻痺状態から脱するのに多くの貢献をしたのです。具体的な行動から明白な結果を得るといふあなたの毅然とした態度こそが、あなたを誰もが認める並はずれた専門家にしていると言えます。あなたがニジェールのコミュニティの健全で公正な強い願いを行動に移す術を心得ているのは、まさにこの専門家としての見極めと教育分野におけるあなたの能力によるものです。これこそが、当該分野でいわゆる“専門家”と言われる人々とあなたを大きく隔てるものでしょう。

あなたは常に熱意と才気と行動を仕事に注いでいました。これこそまさに、リーダーとしての非常に崇高で大いに望まれる特質なのです。私は、ひとつの模範としてあなたに感嘆と将来への信頼を抱きました。我々部下一同は、仕事へのエネルギーと熱狂をあなたによって掻き立てられました。ニジェールの人々は、あなたによって希望と献身を取り戻しました。親愛なる我らがボス。あなたは、後任の方がよく認識するように、埋め難い穴を残して去っていきます。後任の彼女には幸運を祈ります。タウアのCOGESグループメンバー一同、無事の日本帰国と新しい職場での大いなる成功を願っています。私たちはあなたにさよならを言うけれども、永遠のサヨナラではありません。いつかあなたに会うという希望を持ち続けている限り。なぜならニジェールはあなたの第二の祖国なのだから。

ニジェール革新教育者会(ONEN) アルハジ・ガンボボ・イブラヒム





## 巻頭言：往く年来る年～この1年と次の1年と～

ニジェールに来て1年が過ぎました。1年前の「みんなの学校だより」では、「この2年間の中心課題は、『学校運営委員会(COGES:コジェス)連合の全国普及を支援し、連合を通じたCOGESの支援体制を構築すること』と書きました。COGES連合の全国普及はほぼ終了し、現在は連合を核としたCOGESのモニタリング支援体制を始動、強化するために、全力投球しています。

この1年を二言で表せば、「引っ張って伸ばす」、「引っ張る力を維持する」ということになるでしょうか。プロジェクト活動とその成果であるCOGES連合のモデルを、それまでの2州から、全国普及に向けて一気に7州(アガデス州を除く全州)に拡大、「えい、やあ!」と引っ張って伸ばしました。その結果、プロジェクトもモデルもゴム風船のように伸び、2州に集中していたときには1cmくらいあった「手厚さ」が、膨らんだために3mmくらいまで薄くなってしまいました。つまり、プロジェクトの州毎の投入と関与が減ったということです。それでも、先行していた2州と同様の成果を上げるためにはどうするか。次ページの記事のとおり、これまでの経験を活かし、かつ、さらに工夫した結果、プロジェクトが「薄く」なっても、見事、元気な連合が誕生しました。もちろん、連合誕生の立役者は各州の関係者です。州教育事務所長から州COGES監督官、県COGES担当官まで、一丸となり連合設立に取り組みました。プロジェクトの関与が少ない分、イニシアティブを発揮しやすかったようで、連合設立への支援も彼らのイニシアティブで実施されました。彼らを熱くしたものは、連合設立時のCOGES代表者の熱気でした。妥協なく夜中まで続く連合事務局員の「民主選挙」を目の当たりにし、州事務所長も「これはたまたごとではない」と感じ入ったようでした。元をただせば、やはり、住民の頑張りプロジェクトを引っ張ってくれているのですね。

次に、「引っ張る力を維持する」、つまり、全国に広がったCOGES連合という組織の機能を維持するにはどうするか。そのためには、連合の機能を支援する刺激(=引っ張る力)を、定期的に外部より与えなければいけません。機能に弾みをつける強い力の例は、州COGES連合フォーラムなどの大きなイベントです。しかし、何よりも重要なのは、弱くても継続的な刺激、すなわち州監督官や県担当官が日常的に行うモニタリング活動です。この資金は、国民教育省が管理する「見返り資金」(第19号に詳細)から出ていますが、プロジェクト活動に合うタイミングで支払われず、「引っ張る力がなくなる!」危機に直面したこともありました。

さて、これから始まる1年ですが、新たな課題は「画鋲で留める」、「他に引っ張る力を探す」ことでしょうか。今のところ、「引っ張る力」は、プロジェクトや「見返り資金」など外部の資金が生み出しています。ですから、その資金が尽きたら、力も消えます。力が消えても、連合が機能し続けるにはどうしたら良いか、その戦略を考え、実践しなければいけません。戦略は、ずばり、「単純化と習慣づけ」です。COGESの機能強化に必要な連合の機能—COGESのモニタリング機能と教育開発に貢献する各種キャンペーン機能—を、うんと単純化し、その実施がCOGESと連合の習慣となるように、種々の情

報伝達回路を使い働きかけます。現在考えている習慣は、連合のモニタリング機能としては「年3回の連合総会開催」、キャンペーン機能では「女子の就学促進」や「初等教育修了試験対策」等の実施です。活動の習慣づけにはインセンティブが必要で、キャンペーンを成功させ、COGESや連合に達成感を持たせることも重要です。先行しているタウアとザンデルの2州では、キャンペーンも成果をあげており、これらの活動がある程度習慣となりつつあります。そこで次年度では弱い部分を補強し、仕上げに入ります。つまり、「画鋲を打ち込み」、外部の力が減少・消滅しても、連合の機能が止まらないようにします。一方、連合元年となる他州では、最初から単純化した必要最低限の機能の定着を目指しますので、先行2州と比べると、短期間で効率的に画鋲留めができると目論んでいます。ただし、現在実施しているキャンペーンが成功したらという条件付きですが。

しかし、プロジェクトに残された1年で、本当に全ての連合が立ちできるのでしょうか。見通しは、残念ながら“No”です。では、どうしましょう? プロジェクトが終了しても残る「引っ張る力を探す」しかありません。それにはまず、プロジェクトの成果を引き継ぐべき国民教育省に、「引っ張れ!」と言わなければなりません。「自分の資源を活用し、COGESや連合の支援を続けて!」と。省の既存体制を使うのであれば、全国に散らばる初等教育視学官や指導主事をCOGESと連合の支援に取り込むのが一番でしょう。遅配の問題はあるにしても、視学官にも主事にも、国家予算から現場を巡回する資金が支払われているからです。プロジェクトでは、フォーラムや視学官会議を通じて、これらの地方教育行政官のCOGES・連合のモニタリングへの巻き込みを図り、既成事実を積み上げています。現在、連合のモニタリングを担当しているCOGES監督官や担当官の活用も、もちろん、続けてもらいたいところです。しかし、先にも述べたとおり、彼らのモニタリング費用は「見返り資金」から支出されています。「見返り資金」終了後も彼らの活動が継続されるためには、「コモンファンド」(援助機関グループの共通基金)など何らかの新たな資金源より、モニタリング費用が供給されなければなりません。そのためには、教育省や関係ドナーに対する根回しが必要であり、これもプロジェクトにとり新たな挑戦となりそうです。

他の可能性は、援助機関によるCOGESや連合への支援です。すでにCOGESに対しては、様々な援助機関が様々な支援活動を展開しています。連合に関してはどうでしょうか。COGESに比べると関与する機関は少なく、その支援も小規模です。連合を支援する組織、特に連合の能力強化に地道に取り組む組織を開拓し、増やすことも、連合という新しい組織を提案した私たちの役割と考えます。

多くのことがあったこの1年を振り返りつつ、もっと多くのことが待ち受ける次の1年に思いを馳せました。最後に何かまとめの言葉と思うのですが、何も思い浮かびません。まだ、道半ばで必死に前を見て歩いているからかもしれません。

チーフアドバイザー/教育アドバイザー 三浦 浩子

# COGES連合、ついにニジェール全土へ!

「みんなの学校プロジェクト」(以下「EPT」)第2フェーズの2年目は、今フェーズで新たに対象地域として加わった6州の各市町村における、学校運営委員会(COGES:コジェス)連合の設立支援に明け暮れました。

COGES連合とは、全国の小学校に設立されたCOGESを、市町村単位でグループ化した組織です。COGES連合の運営を担う12名の事務局員は、設立総会において、加盟COGESの代表者から選挙(右写真)で選出されます。



EPTは、第1フェーズよりタウア州とザンデル州の計99市町村でCOGES連合のモデル構築を進めてきました。国民教育省は、COGES連合モデルの外部評価調査を実施した結果、2008年10月、EPTのCOGES連合モデルを基に、全265市町村でCOGES連合を設立する省令を制定しました。その後これまでに、5州149市町村において新たにCOGES連合が設立され、第1フェーズの対象2州を含めると、ニジェールの全市町村の93.6%に及ぶ248市町村でCOGES連合が活動しています。

## COGES連合を全国普及する意義

まず、全国のほぼ全ての市町村でCOGES連合が設立されたことで、中央の国民教育省が全国1万校以上のCOGES活動のモニタリングを行う土台が整いました。それまでは、各県のCOGES担当官が平均200校に及ぶCOGESを直接管轄していました。担当県内のCOGESの活動状況を把握し、必要に応じて助言するのが県COGES担当官の役割でしたが、一人でできる業務には当然限りがあります。COGES連合は、最低年3回開催する総会を通じてCOGES(各市町村に平均40校)と情報交換し、県の教育行政と小学校を結ぶ橋渡し役を担うことが期待されます。

COGES連合に期待されるもう一つの役割は、地域の教育開発への貢献です。例えば「フォーラム・アプローチ」(第20号に詳細)によるザンデル州の卒業試験成績向上キャンペーン(第21号に詳細)では、「州フォーラム → COGES連合 → COGES → 地域住民」という流れで情報伝達と合意形成が進められました。そして、各COGESによる住民への働きかけや受験生への支援のみならず、自治体の協力を得たCOGES連合による模擬試験も実施され、大きな効果を上げました。こうした情報伝達や自治体との連携は、市町村単位のCOGES連合だからこそ担えるのです。

## COGES連合設立に至る取り組み

EPTは、国民教育省によるCOGES連合設立に向けた取り組みを、以下の流れで支援してきました。その際、各州国民教育事務所の主体性を尊重し、州側の努力を支えることを心がけました。

| 国民教育省の取り組み           | EPTの役割 |
|----------------------|--------|
| 1. 各州研修実施計画の策定       | 助言指導   |
| 2. 県COGES担当官対象の講師研修  | 研修講師   |
| 3. COGES代表者研修の実施     | 助言指導   |
| 4. COGES連合設立総会の開催支援  | 助言指導   |
| 5. COGES連合設立後の活動実施支援 | 助言指導   |

## 全国普及に貢献した要因

COGES代表者に対する研修後、COGES連合の設立に至る過程で、EPTによる資金支援は一切ありません。つまり、研修に参加したCOGES代表者、そして研修内容の報告を受けた地域住民がCOGES連合設立の意義と方法を理解し、設立と加盟を決め、必要な資源を自ら調達して設立総会を開催しない限り、設立は実現しません。そこでEPTは、少なくとも以下の点に留意し、全国規模での確実な設立を目指しました。

### ▶ EPTモデルから国民教育省令への進化:

EPTの働きかけによって制定された国民教育省令のおかげで、自治体や教育行政の関係者は、COGES連合の設立がEPTという「外部者」ではなく、ニジェール政府が推進する取り組みであることを理解し、設立過程に主体的に関与しました。

### ▶ 市町村長を巻き込む仕掛け:

各市町村での研修開講式に市町村役場代表者の出席を求めるとともに、各州の最初の研修地で開催した研修開講式に州知事を招き、自治体の関与と支援が必須であることを内外に印象付けました。

### ▶ 非識字者にも優しい研修:

研修では現地語を用い、内容はCOGES連合の意義と設立手続きに焦点を当てました。一日の最後に、参加者による寸劇形式の演習を行い、理解度を確認しました。なお、各州における研修運営は現地NGO“ONEN”に委託し、全国展開に耐える効率化を図りました。

### ▶ 県COGES担当官による研修と設立過程支援:

研修後のCOGES連合設立、そして設立後の活動を見守り、助言指導するのは県COGES担当官の役割です。担当官が講師を務めることで、COGES連合に関する理解と主体性が深まると同時に、設立前後の活動に携わる受講者との相互関係の構築に寄与しました。

### ▶ EPTによる設立過程の戦略的モニタリング:

研修も設立総会も各市町村にとっては一回きりのイベントですが、各県の担当官にとってはそうではありません。各県の活動序盤でEPTによるモニタリングを行い、担当官に対し助言指導を行うことで、中盤以降の担当官業務の質的改善を目指しました。

## 勝負は最終年度

5月から6月にかけて、全国各地でCOGES連合の年度末総会が開催されました。全国248のCOGES連合が、自ら動員した資源で着実に会議を開催している事実は、非常に高く評価できます。しかし、総会の場を利用して各COGESの活動状況を確認したり、地域の問題解決に向けた独自の活動を実施したりという段階まで機能しているCOGES連合は、まだそう多くはありません。全国のCOGES連合の機能化に向け、8月からの第2フェーズ最終年度が勝負の年となります。



モニタリング体制構築担当 國枝 信宏



# 「0から1の大変革」

## — コミュニティ幼稚園成長記 —

「3年間で36倍！」。2006年にわずか3園から“よちよち歩き”でスタートを切ったCOGESによる完全自立運営のコミュニティ幼稚園。その後コミュニティのニーズと動員力、そしてUNICEFとの連携に支えられ“急成長”を果たし、2009年現在、その数はタウア州54園、ザンデル州55園、当初の36倍になり、合計109園に達しました。ニジェール全土ですら2006/2007年度には400園程度(公立、私立、コミュニティ全て含む)しかなかったことから考えると、この「COGESによるコミュニティ幼稚園」の急成長がニジェール国の就学前教育分野にもたらすインパクトは少なくないといえるでしょう。ニジェールでは、人口の8割以上が農村部に暮らすにも関わらず、就学前教育関連施設の3分の2が都市部に集中しています。この「就学前教育」状況の中で、全国津々浦々の小学校に存在する「機能するCOGES」が立ち上げ、100%コミュニティからの資源で運営するコミュニティ幼稚園は、就学率1-2%の低い就学率が表すとおり、これまでまさに都市部上・中流層だけの特権であった「就学前教育へのアクセス」の“道”を農村部の一般住民にも開いたといえます。



つまり、昨年までに設立された園に加えると、合計159園以上、裨益園児数は約1万人に上る見込みです。現在2州それぞれで住民ニーズとCOGESの機能具合を測りつつ、来年度の設立サイトの選出が進んでいます。すでに来年度開園へ向け保育者の選出を行ったコミュニティもあり、コミュニティの需要と士気の高さが伺えます。その一方で、コミュニティ幼稚園の急成長に伴い、大きな問題となっているのがモニタリング。住民ニーズに基づき設立され、住民参加により実施されるコミュニティ幼稚園活動ですが、そのような活動を持続させるのに重要なのが、住民活動を支援するモニタリング。保育者への指導・助言をする教育面のモニタリングももちろんですが、コミュニティ幼稚園を“機能させ続ける”ためには機能・運営面での適切なアドバイスや支援が重要です。しかし、急速に拡大する「COGES運営のコミュニティ幼稚園」を十分にサポートできる適切なモニタリングシステムは未だ確立しておらず、プロジェクトとしても大きな課題といえます。そのような中、プロジェクト側の働きかけもあり、コミュニティ幼稚園が最も集中的に設立されているタウア州イセラ県に、就学前教育主事が来年度から配置されることになりました。通常教育主事は、教育面の指導がその中心的業務となりますが、コミュニティ幼稚園の運営、住民参加、COGES機能化の面のモニタリングも可能となるようプロジェクトとして支援をしていく予定です。



教育主事は、教育面の指導がその中心的業務となりますが、コミュニティ幼稚園の運営、住民参加、COGES機能化の面のモニタリングも可能となるようプロジェクトとして支援をしていく予定です。

\*\*\*\*\*

「0から1の“大変革”」

一。年間に雨が降るのは雨季の3カ月程度というニジェールでは、それ以外の時期はほとんどの地が砂と土の「茶色」に覆われています。そんな不毛地帯—「茶色尽くしの景色」が雨季初めの一回の雨で一変することがあります。一振りの雨で地中深くで息を潜めていた緑の息吹が一斉に噴き出し、地上一面の茶色い大地が緑の大地に変わります。まさに「無から有」—「0から1」の衝撃的変化。小学校就学率60%—初等教育もままならないこの国で、就学率1-2%の就学前教育などさらに縁遠い農村部コミュニティにおいて、住民による完全自立型のコミュニティ幼稚園が設立・運営されるというのは、まさにこの「0から1」的な“大変革”といえるでしょう。これが可能となったのは、“地底深くに脈々と流れている地下水の如く”まだ顕在化していない住民ニーズを汲み上げ、具現化する仕組みを「機能するCOGES」が持つからであり、それゆえに「COGESによるコミュニティ幼稚園」はニジェール国の就学前教育状況を“大変革”させる大きな可能性を持つと思われます。

学校改善活動モデル構築担当 影山 晃子

### 昨年度(2007/2008年度)活動結果

- ◇ COGESの学校活動計画内コミュニティ幼稚園関連活動実施数平均: 4活動
- ◇ 活動例)教室・トイレ建設、保育者報酬、教室備品購入、など
- ◇ 計画実施率平均: 87%
- ◇ 動員額平均: 147,165Fcf(約3~4万円)(ただし、ザンデル州は08年度2月以降の開園の為、活動実施期間3カ月程度の動員額。年間を通して活動が実施されたタウア州17園の平均動員額は、206,049Fcf(約4~5万円))
- ◇ コミュニティ保育者(コミュニティによる募集、選出・雇用)数(2州合計): 75名
- ◇ クラス活動支援コミュニティボランティア数(2州合計): 122名

そんな中、2008年8月には、国民教育省主催で開かれた「コミュニティ幼稚園モデル承認アトリエ」にてCOGESを主な運営母体とするコミュニティ幼稚園が国のモデルとして承認されました。

\*\*\*\*\*

「4年間で53倍へ」。来年度2009/2010年には、UNICEFとの連携協定書の最終年を迎えます。この年の目標値は「タウア・ザンデルの2州で少なくとも50園を新設する」。

## VOL. 0「カバの国、カバの街」



バマコ市内の通称「カバのロータリー」

突然ですが、みなさんは「カバ」という動物について、どれくらい知っていますか？

日本では、カバは大きな体でのそのそ歩き、いつも水の中でのんびりしている穏やかな動物、それとも「歯磨き」のイメージでしょうか。

カバは、大人で体長4メートル、体重は3トン近くにもなり、陸上動物の中では象に次ぐ、超重量級巨体動物です。ご存知の通り、一日の大半を水の中で過ごすことで、アフリカの厳しい暑さを凌いでいますが、それだけではありません。俗に「血の汗」と呼ばれる、保湿と殺菌効果に優れた粘液を皮膚から分泌することで、自身を守り、厳しい環境と上手に調和しています。また、群れで生活する彼らは、普段は温厚に水の中で悠々と暮らしていますが、群れが危険に晒されると、一転して強く逞しい動物に変身し、家族や仲間を外敵から守ります。



では、ここでクイズです。

そんなカバを、国の象徴として名付けている国があります。

それは、どこでしょうか？

正解は…マリです。

「マリ」とは、バンバラ語で「カバ」。

その昔、マリ王国の時代に、「力強さ」の象徴として名付けられたそうです。

そんなマリ国の掲げるスローガンは、「Un peuple, un but, une foi」言い換えると、「強い信念を持ち、みんなで一丸となって、ひとつの目標に向かっていこう」と、いったところでしょうか。

このスローガンを体現するような取り組みが今、マリの教育現場で行われています。

それは、「みんなによる、みんなのための、みんなの学校づくり」です。

保護者や教員、地域住民が一丸となって、教育の問題を自分たちの力で解決できるという強い信念を持ち、子どもたちが楽しく通える学校づくりを目指して取り組んでいます。

このみんなの力が、この「カバの国」のすべての学校に、今まさに、力強く広がろうとしていて、私たちのプロジェクトは、まさにこのような広がりを応援しています。

さて、マリの小学校現場では、いったいどんな取り組みが行われているのでしょうか？これからしばらく、様々な小学校の取り組みを、シリーズでお伝えしていきます。

どうぞお楽しみに。



## VOL. 1 「俺は悔しい！学校に通えていれば…」



熱い想いを静かに語るサンブ・トラオレさん

初めての訪問は、クリコロ州ジョイラ県のザン・チギラ小学校です。

ザン・チギラ小学校は、マリの首都バマコ市から東南方向に国道6号線を約80Km離れた、道路沿いの小さな村にあります。

この学校は、地域住民によって設立されたコミュニティスクールで、昨年からは、地域住民みんなで取り組む学校運営委員会（CGS）の活動が開始されました。

この学校では、子どもたちの様子を見るため、CGS委員が交替で、毎日欠かさずに学校に来ています。

子どもたちがちゃんと楽しく勉強できているか、教師や子どもたちの安全や健康が保てる環境が整っているかを見るほかに、休みがちな児童がいると、その児童の家庭を訪問して事情を聞き、保護者の相談に乗りながら、また楽しく学校へ行けるように手助けをしています。

この取り組みに、静かな情熱を燃やしている男がいます。

サンプ・トラオレさんは、2009年7月に行われたザン・チギラ小学校 CGS 委員選挙の結果、「住民参加促進担当委員」に選ばれました。

休みがちな児童は大抵、その家庭環境や内面に様々な問題を抱えていることが多いものです。そうした子どもとその親たちの話を直接聞き、一緒に解決策を探すことは、忍耐が必要で、容易なことではありません。そんな取り組みを黙々と続けるトラオレさんに、その想いを伺いました。

「わたしは学校に通ったことがありません。親の事情で通うことが出来なかったのです。そんな自分が、地域の人たちの信頼を得て選挙で選ばれ、CGS 委員になったのです。その後の研修に参加した時です。他の学校から参加していた CGS 委員たちがとても優秀にみえて、自分も小学校へ通えていればと、悔しい想いをしました。

でも、その研修を通じて、新しいことを学ぶ楽しさや喜びも感じました。そして、自分だからこそ出来ることが何かあるはずだ、と考えました。それは、この気持ちそのものを、自分の体験を交えて伝えていくこと。子どもを学校に通



わせていない親や、学校に無関心な住民に、教育の大切さを心から伝えていくこと。それこそが自分の役割ではないか、と思ったのです。」

こんな想いが、今まさに、静かに広がろうとしています。

このカバの国のすべての学校に…

## VOL. 2 「手作りの学校で…ある女の子の夢」



ファラカ中学校の第1期生になったファトゥマタ・シディベさん

今回の訪問は、クリコロ州ジョイラ県ファラカ小学校です。

首都バマコ市から南へ約160Km行くとジョイラ県の県庁所在地であるジョイラ市があり、そこから更にでこぼこ道を約30km行くとファラカ小学校にたどり着きます。車で約2時間半、日本で言うと、東名高速で東京から静岡まで行くような感じでしょうか。

この学校では、CGSが女子就学の促進に力を入れていますが、他のCGSとは少し違った、ユニークな取組みが行われました。

ところで、学校へ通わせてもらえない女の子が男の子よりも多いという女子就学の問題ですが、いったいどうして女の子を持つ親たちは、学校に通わせがらないのでしょうか？…遠くの井戸からの水汲みや、炊事用の薪集めなど家事



の手伝いのため？ 幼い兄弟の世話のため？あるいは、男の子が優先されるため？…一般的には、これらが原因と言われているのではないのでしょうか。

しかしながら、ファラカ小学校の CGS 委員が、女の子を学校に通わせていない保護者の家々を訪問し事情を聞いていったところ、意外なことが判明しました。

このファラカ村では、小学校を卒業した女の子は 30km 離れたジョイラ市の中学校へ進学しなければならず、そうすると親御さんにとって下宿代などの出費も嵩み、なにより年頃の娘を自分たちの目の届かないところへ預けることそのものが大きな心配です。娘を小学校へ通わせるということは、そういった心配の種を抱えることになるため、そもそも小学校へすら通わせたくないということだったのです。

そこで CGS を中心に住民みんなで話し合い、村への中学校設立許可の申請と教員の配置を県に要請しました。また、教室や机椅子などは住民が用意して、なんと、手作りの小さな中学校が誕生したのです。

「私の家の事情では、小学校を卒業しても、中学校への進学は諦めて今ごろ家で家事手伝いをしていたとおもいます。でも村に中学校ができたので、親も安心して学校に行かせてくれ、家の手伝いもしながら勉強もできるようになりま

した。将来は、医者か弁護士になりたいです。」と、ファラカ中学校の第1期  
生となったファトゥマタ・シディベさん。

こんな女の子の夢が、今まさに、静かに広がろうとしています。

このカバの国のすべての学校に…



## VOL. 3 「登場、みんなのドクター！！！」



コロカニ県病院 医師

デンバ・ジャラさん

今回の訪問は、クリコロ州コロカニ県のコロカニ B 小学校です。

コロカニ B 小学校は、マリの首都バマコ市から北に 158Km 離れたコロカニ市内にある児童数 523 名（男子 278 名、女子 245 名）の小学校です。

この学校に CGS が誕生したのは、プロジェクト 2 年目の 2009 年 8 月。この小学校では女性の CGS 代表を中心として、地域住民みんなが学校の活動に活発に参加しています。

この学校では昨年、3、4 年生のクラスを中心に、授業中に咳をする児童が目立ちはじめました。ちょうど世界中でインフルエンザが猛威をふるっていた頃です。もしこれがインフルエンザウィルスによるもので、500 人以上もいる全校児童が感染するようなことになっては一大事と、校長先生は大変心配しました。

ところが、マリの小学校には保健室もなければ、保健の先生もおらず、児童の疾病への対応や健康管理は全て個々の保護者にゆだねられています。さらに、診察や費用負担は保護者にとって大きな負担となるため、保護者の中には子どもが重症化するまで受診させないケースも多く見られます。これでは、あっと言う間にインフルエンザが児童全体に広がる危険性があります。

途方に暮れた校長先生は、CGS 代表のセバ・トラオレさんに相談を持ちかけました。

事情を聞いたセバさんは事態を重く見てすぐに市に掛け合い、市が近隣の医師達に協力を募ったところ、コロカニ県病院の Dr.デンバが無償での協力を申し出てくれました。Dr.デンバはすぐに学校へ訪問し 3, 4 年生児童全員を無料で問診して、治療が必要な児童には処方箋を出して薬の購入と投与を指示し、これによって児童全体への蔓延を未然に防ぐことが出来ました。

コロカニ小学校校長は、その活動の様子をこのように語っています。「自分ひとりでは到底解決出来なかったはずの問題を、CGS を通じて地域住民の協力を得て解決することができるようになりました。これまでには無かった画期的な出来事です。もしあのまま広がっていたら、たくさんの児童の病欠が出て、勉強に遅れが出るところでした」そして、実際に児童の問診を行ったコロカニ県



立病院の医師、デンバ・ジャラさんは、「地域の子供たちの健康を守るのは、地域住民の一員として当然のことです。これからも喜んで協力しますよ」と。

このような地域住民の協力の輪が、今まさに静かに広がろうとしています。

このカバの国のすべての学校に…。

## VOL. 4 「学校運営とは、信頼である！」



会計管理は信頼をつなぐ仕事と語るニャンコマ・ジャバテさん

今回の訪問は、クリコロ州ジョイラ県のサナ小学校です。

サナ小学校は、首都バマコ市から南東方向に約 195Km、車で 2 時間半ほどのところに位置します。児童数 118 名（男子 83 名、女子 35 名）で、1・2 年生、3・4 年生、5・6 年生の 3 つの複式クラスからなる、小さな小学校です。

プロジェクトが始まった 2008 年に学校運営委員会が設置され、今年で 3 年目を迎えたこの小学校では、毎年地域の人たちは、みんなで協力しながらたくさん活動を実施してきました。例えば、教室の修繕、教員宿舎の建設、井戸掘り、トイレの建設、通学路の整備、教科書・ノートの購入などです。これらの活動を小さな村の地域の人たちが毎年実施するのは、容易なことではありませんでした。



学校運営委員会の制度が始まる以前のマリの小学校では、保護者が学校の改善のためにお金を集めて活動をしているところもありましたが、その多くの学校で十分に資金が集まらず活動に支障をきたしていました。なぜなら、集まったお金がどのような活動にいくら使われたのかが、きちんと住民に報告されておらず、学校と保護者との間に不信感が生まれ、お金を出すことを躊躇する保護者が多かったからです。

このサナ小学校の学校運営委員会の会計役であるニャンコマ・ジャバテさんは、このような学校と住民との間の不信を避けるために、誰が見ても分かる会計帳簿を工夫して作り、定期的に住民に報告するほか、その帳簿をいつでも、誰でもすぐに見られるようにするなど、透明性のある会計管理に努めています。このニャンコマさんの帳簿と彼の報告は、保護者や地域住民にとっても好評で、その結果、毎年多くの分担金が寄せられ、計画された活動はすべて、地域の人たちの協力の下で確実に実施されています。

彼の仕事ぶりに信頼を寄せるのは、保護者や地域住民だけではなく、この地域で活動しているデンマークの国際 NGO「ボンフォンデン」も、彼がいる学校運営委員会の存在に大幅な信頼を寄せて、教室建設の支援を決めました。

この支援によって、毎年修繕が必要だった土壁の教室が、立派なコンクリートの教室に生まれ変わりました。

「学校運営にとって、住民との信頼関係がとても大事です。その信頼を維持するためには、会計管理の透明性が鍵だと思っています。今、サナ小学校は、学校運営委員会を通してみんながひとつになって活動しています。子どもたちのために使われるお金であれば、生活が決して楽ではない家庭の保護者や地域住民でも、快く協力してくれるのです」と、会計役ニャンコマ・ジャバテさん。

このような信頼の輪が、今まさに静かに広がろうとしています。

このカバの国のすべての学校に…。



## VOL. 5 「『よそ者』から『みんなの先生』へ！」



住民手作りの教員住宅の前で



村長を中央に

今回の訪問は、クリコロ州ジョイラ県のコワザナ小学校です。

コワザナ小学校は、首都バマコ市から約 250Km、車で片道 5 時間の距離です。

その道のりの半分は舗装されていないでこぼこの砂利道で、時にはタイヤのパ

ンクを修理しながら移動しなければなりません。児童数は 152 名（男子 92 名、

女子 60 名）、1・2 年生、3・4 年生、5・6 年生の 3 つの複式クラスからなる、

小さな小学校です。この小学校の学校運営委員会は、特に先生たちへの支援に

力を入れています。

マリの、特に農村部で小学校の先生を勤めるのはとても大変です。

中には、村から遠く離れた町からやってくる先生もいます。彼らにとって、一番の問題は住居の確保なのですが、村の中に家賃の安い下宿先や、空き家が見つからないこともあり、時には 5km~10km 離れた街からバイクで毎日通わなければならないため、ガソリン代が相当な額になります。

農村部の小学校へ配置されるのは若い独身男性の「契約教員」が多く、彼らが受け取る給与だけでは生活を十分に賄うのは難しい場合がほとんどです。例えばこの小学校の先生の給与は月に 25000 フラン(約 5000 円)で、この中から、食費とガソリン代を引くと、もうほとんど何も残りません。このようにして日々の生活に追われていると、子どもたちの生活の細かいところにまで目を向けるゆとりが、だんだんとなくなってしまいます。

学校運営委員会の住民集会で、このような事情を知った地域の人たちは、町からやってきた 3 名の先生のために、安心して生活ができる環境を提供することに決めました。まず、教員住宅とトイレを設置し、その他にも、若い独身の先生たちのために、地域の人たちが持ち回りで食事の提供をしています。これらの支援によって、彼らはより一層、熱心に授業に取り組めるようになりました。



「村長さんをはじめ、地域の人々の協力で、とても働きやすい環境を作ってもらえました。雨季の激しい雨にも耐える立派な住宅を作ってもらい、さらには、毎日の食事も支援してくださって、給与の少ない私たち若い教員にはとても助かります。また、何よりもよそ者であった私たちを自分たちの息子や兄弟のように想ってくれ、問題がある時はいつでも相談に乗ってくれます。このように、大切にしてくれる村長さんをはじめ保護者や地域の人たちとは、まるで家族になったような気持ちです。」と、ドゥラマン・バロ先生。（写真上：右から2番目）

このような保護者、地域住民の想いが先生たちへと伝わりはじめています。

このカバの国のすべての学校に…。

## VOL. 6 「そうだ、CGS 連合で相談してみよう！」



新設されたヨロブグ-サガブグ学校運営委員会メンバー3名(中央がジャラさん)を挟み連合代表(左)とコミュン教育担当者(右)



照れくさそうに 29 校の活動進捗ノートを見せる、コロカニ CGS 連合代表のジョマン・トラオレさん

今回の訪問は、バマコから北へ 125Km、車で 1 時間半ほどの距離にあるクリコロ州コロカニ県の新設校を訪問し、学校運営委員会 (CGS) 代表のスngo・ジャラさんにお話を伺いました。

ジャラさんは昨年まで、ニャラコロ小学校の CGS 委員でした。この小学校はこの地域で唯一の小学校だったため、多くの集落の子どもが毎日遠くから通っていました。また、教室と先生の不足から、各教室では先生 1 人が約 100 人の児



童を教えなければいけませんでした。ジャラさんは、この状況をなんとかできないものかと考え始めました。

そんなある日、いつものように CGS の定例会に参加すべく、村から小学校までの道のりを歩きながら、ジャラさんは考えていました。「自分も学校へ行くのに 7km も歩く。この距離を子どもが毎日歩くのは大変だ。CGS で教室や教員を増やすことも話し合っているけれど、本当はこの地域にもう一つ別のあたらしい小学校が必要なのではないだろうか。でも、それはニャラコロ小学校の CGS だけで取り組める問題ではないしなあ、ああ、いったいどうしたらいいんだろう…」

「そうだ、CGS 連合<sup>(注1)</sup>で相談してみよう！」

思い立ったジャラさんは、翌月の CGS 連合の会議で相談しました。すると、会場の皆から賛同が得られ、コロカニ CGS 連合として積極的に支援に乗り出すことになりました。そして後日、CGS 連合の総意としてコミュンへ相談を持ちかけたところ、コミュンと県教育指導センター間の協議を経て、新たに小学校が作られることになりました。

「私はサガブグ村に住んでいて、隣にはヨロブグ村があります。両方の村の子ども達と同じ距離で通えるように、2つの村のちょうど中間に小学校が作られることになりました。あたらしい小学校の名前は、皆で知恵を出し合って考えた結果、『ヨロブグ・サガブグ小学校』に決まりました」と、ジャラさん。彼はその後、その功績から住民の信頼を得て、この新設校のCGS代表に選ばれました。

コロカニCGS連合代表のジョマン・トラオレさんは、「機能するCGSが集まってお互いに助け合う『CGS連合』という繋がりができたおかげで、各CGSだけでは解決できない問題にも協力して取り組むことができるようになりました」と、照れくさそうに、でも得意げに言います。

このようにCGSの間の団結と協力の輪が広がりはじめています。

このカバの国のすべての学校で…。

(注1) 学校運営委員会(CGS)を各コミュン単位でグループ化した組織。詳しくは「用語解説」

ページをご覧ください。



## VOL. 7 「クラスで一番！その秘密は…」



学年テスト1位の印である黄色の布を巻いて笑顔のドラマン君（6年生）



今回の訪問は、首都バマコから東へ120km、車で2時間ほど行ったところにある、クリコロ州ファナ県ザンゲナブグ小学校です。この小学校では、学校運営委員会（CGS）が中心となり、児童の学力向上に取り組んでいます。

マリの小学校では、クラス毎に月末テストが行われ、特に6年生の子どもたちは、その総合評価で中学校への進学が決まります。マリでは、小学校へ通う子どもの数は、近年かなり改善が見られていますが、その中で更に中学校へ進学できる児童は、全国平均でも2人に1人に過ぎず、特に農村部ではまだまだ狭き門です。

ひとりでも多くの子どもが中学校へ進学し、より高い教育を受けられるようになることは、個々の親のみならず、地域全体の願いでもあります。

ザンゲナブグ小学校では、その願いをかなえるために、CGS が住民集会を開催し、先生と地域住民みんなと一緒に、自分たちに何ができるのかを話し合いました。その結果、児童の学習意欲を高めるために、毎月のテストの度に、上位5人の児童を表彰し、賞品としてノートとペンをプレゼントすることにしました。また、あらゆる学力の基礎となる「文章を読む力」を身につけることが大切であると考え、「音読コンクール」を毎月各クラスで実施し、こちらも優秀者を毎回表彰するようにしました。更に、テストの日には3名のCGS委員も学校を訪れ、子どもたちの頑張る様子を見守るようになりました。これらの活動を通じて、子どもたちのやる気がとても高まってきているようです。

6年生のドラマン・トラオレ君は、今年度の成績でクラス1番になり、表彰を受けました。

「前は、テストが好きじゃありませんでした。でも、近所のおじさんやおばさんが見に来てくれたり、頑張るとご褒美をもらえたりするようになったから、今では一番になってほめてもらえるのがとても嬉しくて、テストが楽しくなりました！テストが近づくと大好きなサッカーも我慢して勉強してます！」



と、自慢げに話すドラマン君は、7人兄弟の4番目。家では兄弟がうるさくてなかなか集中して勉強できません。そこで、家から少し離れた場所に自分だけの居場所を作り、5年生の時からこっそり利用しています。それが何処かは、誰にも内緒。彼だけの秘密、だそうです…。

このように学校運営委員会の活動を通して、子どもたちが勉強する喜びを感じ始めています。

このカバの国のすべての学校で…。

## VOL. 8 「ジャラさんの恩返し」



子どもの頃の思い出を語るシラバ・ジャラさん

今回は、いつもとはちょっと趣向を変えて、バマコ市内の「サヘル給水施設建設調査サービス (SEROHS)」という民間企業に勤める、環境エンジニアのシラバ・ジャラさんを訪問しました。シラバさんは、主にマリ国内の井戸や給水施設設置に関わる調査を手がけ、農村部の人々の暮らしに安全な水を提供する仕事に携わっています。

さて、私たちが、彼のいるバマコの事務所を訪問するきっかけとなったのは、バマコから 280Km 東南へ車で 4 時間のところにある、クリコロ州ジョイラ県ニャンチラ・コミューンを訪問したことでした。このコミューンでは、8 つの小学校が CGS を中心に積極的に学校改善の取り組みを行っています。その成功の秘訣を探ろうと様々な関係者にインタビューをしたところ、多くの人から、協力者の一人としてシラバさんの名前が挙げられたのです。



今から 52 年前、シラバさんはこのニャンチラ・コミュニティにある小さな村に生まれました。

彼の両親は学校で公教育を受けたことがなく、せめて息子にはと、小学校へ通わせましたが、2 年生の時に父さんが、その 3 年後にはお母さんが、共に病気で亡くなりました。彼を引取った叔父は、彼になんとか勉強を続けさせようと中学へ進学させました。その後、首都バマコの高校と大学へ通うに当たっては、親戚のみならず地域の人たちからも様々な支援を得て、現在の地位を築くに至りました。

成功したシラバさんは、今度は自分にも何かできないかと考え、自身の体験を元に、まず、両親を病気で亡くす子どもを一人でも減らし、病気になっても身近に治療を受けられるよう、給水施設と診療所の設置を支援しました。現在は、子ども達に少しでも良い教育の機会を与えるための取り組みをしています。

「普通なら、両親を失った時点で、私は学校をあきらめなければならなかったでしょう。ところが、地域の人たちのおかげで、教育を受け、自分の人生を自分で切り拓くことができました。今度は私が誰かを支える番です。最近 CGS の人々と協力して、トイレや教員宿舎の設置など、地域のニーズに応じた支援をしています。その小学校の子どもたちがいずれ大人になった時に、今の私と

同じような想いを抱いて、更にその子どもたちへの教育を助け、この助け合いの連鎖がさらに大きな輪となって広がってほしいと願っています。」と、シラバさん。

このように、子どもたちの未来を想う協力の輪は、地域を越え、大きく広がり始めています。

このカバの国のすべての学校で…。



## VOL. 9 「水がめに込められた母の願い…」



水がめを前に、CGS 代表のミナタ・トラオレさん（左から 2 人目）と CGS 委員



笑顔で勉強する子どもたち

今回の訪問は、クリコロ州コロカニ県のバラ小学校です。この小学校は児童数 120 名、低・中・高学年の 3 つの複式クラスからなる小さな学校で、首都バマコから北に約 165Km、東京から見て福島県境ほどの位置にあります。

この小学校では、3 年前に近隣の 5 つの村の住民が集まって CGS 委員選出の民主選挙が行われました。そこで代表に選ばれたのがミナタ・トラオレさん、女性でした。

実は、プロジェクト開始前は、女性の CGS 代表はほとんどいませんでした。女性はいくら能力があり人望が厚くても、マリの伝統社会では男性を差し置いて代表者の地位に就くことはできなかったからです。ところが、無記名投票による民主選挙は、この伝統に変化をもたらし、今では本当に適した人物が、男女を問わず代表や委員に選ばれるようになりました。

CGS 代表のミナタさんは、定期的に行う住民集会の場で、活動の進捗と会計報告を細かく丁寧に行うことで、多くの保護者や地域住民から厚い信頼を得ています。その結果、住民の参加と貢献によって活発に活動が行われるようになり、これまでに教室建設、トイレ建設、教員の給料支援、植林、学習用具の購入、夜間のグループ学習支援等々、様々な活動が住民の手によって実現しました。

その中でも、「教室への水がめの設置」は、彼女が CGS 代表になって真っ先に実施した活動です。「なぜ、教室に水がめ？」と不思議に思うかもしれませんが、マリの小学校では、子どもたちが学校で快適に過ごすためにとても重要なことなのです。なぜなら、水道はおろか井戸のある学校も少なく、井戸があったとしても飲み水としては安全ではない場合が多いからです。それに、年中暑いこの国で、扇風機もクーラーもない教室の室温は時として 40 度を超え、児童が脱水症や熱中症になるなど、とても危険でもあります。

ミナタさんが提案したこの取り組みは、住民集会の場において全員一致で採択され、併せて、「消毒用の塩素の購入」と「村の井戸から学校への毎日の水運び」の2つの活動も実施することになりました。今では、子どもたちが安全な水を自由に飲むことができ、勉強にも集中できるようになりました。

「以前は、学校の現状を改善したいと思っていても、そう願うだけで、実際の行動に移す機会はありませんでした。地域住民の信頼を得て CGS の代表になり、みんなの協力で多くの活動を実現できるようになりました。多くの母親は、子どもたちが健康で安全に過ごせる学校環境を願っています。これからも、その想いを1つずつ実現していきたいと思っています」と、ミナタさん。子どもの健康と安全を願う母親らしい配慮から実現した活動です。

このように安心して学べる学校環境の中で、子どもたちの笑顔が広がり始めています。

このカバの国のすべての学校で…。



## VOL. 10 「育て！未来の○○！」



マルヤマ・トラオレさん



フィリップ・トラオレさん（左上2番目）、石田隊員（右下）、教員たちと一緒に

今回の訪問は、クリコロ州ジョイラ県のウェレケラ小学校です。この小学校は、バマコから 130km 離れた小集落の中心にある、児童数 137 名（男子 77 名、女子 60 名）の小さな小学校です。

この小学校では、CGS を通じた学校改善活動に対する保護者や地域住民の関心が高く、毎年 10～13 もの活動が実施されています。例えば、校舎そのものも地域の人たちによって建てられたものですし、教員宿舎の建設や教員給料の補填、机椅子の修繕やトイレの建設、文房具購入、植林など校庭の整備、救急箱の設置や衛生用品の購入、成績優秀者の表彰など、実に多岐にわたります。こ

これらの活発な取り組みが高く評価され、昨年はなんと、教育識字国語省大臣も視察に訪れ、さらには日本の無償資金協力による教室の増設も予定されています。

また、昨年9月からファナ教育指導センターに派遣されている青年海外協力隊員（青少年活動）の石田仁美さんも、子どもたちにとって楽しい学習環境づくりを目指し、CGSと協力して、児童の学習発表会の開催（寸劇や踊りなど）や児童会活動を支援しています。

この学校を取り巻く人々にとって、一体何が、これほどの行動を促す動機となっているのでしょうか。

「私たちの役割は、子どもたちが安心して楽しく勉強できる環境を整えることです。そのためには実に多くのことが必要ですが、CGSを通じてみんなの力が集まれば実現できることが分かりました。最近子どもたちもみんなのために協力することを学び始め、例えば、昨年は手洗いのための石鹸を購入しましたが、以前は粗末に使う子が多かったのに比べ、最近は皆大事に使うようになってきました。このような小さな変化が、私たちにとってさらなる意欲につながっています。少しずつ、少しずつですが、学校の環境や、みんなの意識が変わり始めています」と、CGS委員のフィリップ・トラオレさん。

5年生の女の子マルヤマ・トラオレさんは、昨年度の成績が学年第1位で表彰を受けました。将来は何になりたい？という質問に、「小学校の先生になりたいです。だって未来のお医者も、未来の弁護士さんも、そして未来の大統領も、みんな先生が教えて育てるんだから…」と、はにかみながら、でもまっすぐな眼差しで語ってくれました。

こんなウエレケラ小学校の子どもたちからどんな「未来の〇〇」が誕生するのか、楽しみです。

このように学校運営委員会を通して、地域住民や保護者、そして子どもたちが、未来への想いでつながり始めています。

このカバの国のすべての学校で…。



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## プロジェクト活動月報(2005年1月)

作成日：2006年2月1日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                                                                                | 担当、出張者                                     |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 1月1日(日)  | COGES 連合総会モニタリング (タバラク)                                                                                           | 原、ウセイニ                                     |
| 1月2日(月)  | COGES 連合総会モニタリング (チンタ)                                                                                            | 原、ウセイニ                                     |
| 1月3日(火)  | APP モニタリング (コニ)<br>Tahoua→Niamey                                                                                  | 齋藤<br>原                                    |
| 1月4日(水)  | COGES 連合総会モニタリング (プザ)<br>サヘルオアシスプロジェクト訪問<br>APP モニタリング (サルナワ)<br>人間の安全保障ビデオ準備<br>大臣主催ドナー会合 (ニアメ)<br>Tahoua→Niamey | ムナヒ<br>ウセイニ<br>齋藤<br>影山、ヤク<br>原、イボ<br>尾上   |
| 1月5日(木)  | COGES 連合総会モニタリング (マダウア)<br>人間の安全保障ビデオ準備<br>APP モニタリング (プザ)<br>世銀ニジェール事務所訪問、連携打ち合わせ<br>Niamey→Tahoua               | ムナヒ、ウセイニ<br>影山、ヤク<br>齋藤<br>笹館所長、イボ、尾上<br>原 |
| 1月6日(金)  | COGES 連合総会モニタリング (コニ)<br>APP モニタリング (プザ)<br>人間の安全保障ビデオミッション到着、打ち合わせ                                               | ムナヒ、ウセイニ<br>齋藤<br>尾上                       |
| 1月7日(土)  | COGES 連合総会モニタリング (タウアコミュニティ)<br>人間の安全保障ビデオ (コニ)<br>Tahoua→Niamey                                                  | ムナヒ、ウセイニ<br>原、影山、ヤク<br>尾上                  |
| 1月8日(日)  | 人間の安全保障ビデオ (コニ)<br>Konni→Niamey                                                                                   | 齋藤、影山、ヤク<br>原                              |
| 1月9日(月)  | 人間の安全保障ビデオ (コニ)<br>PTF 会合出席<br>コミュニティー保育園会議<br>Niamey→Tahoua                                                      | 尾上、影山、ヤク<br>原<br>ムナヒ<br>原                  |
| 1月10日(火) | 人間の安全保障ビデオ (ニアメ) 大臣インタビュー<br>タバスキ                                                                                 | 井手企画調査員                                    |
| 1月11日(水) | タバスキ                                                                                                              |                                            |
| 1月12日(木) | Niamey→Tahoua                                                                                                     | 原                                          |
| 1月13日(金) | COGES ドナー会議                                                                                                       | 原、イボ                                       |
| 1月14日(土) | Tahoua→Niamey                                                                                                     | 原、イボ                                       |
| 1月15日(日) | APP 会議                                                                                                            | 原、齋藤、カボ                                    |
| 1月16日(月) | COGES 担当官会議                                                                                                       | 全員                                         |
| 1月17日(火) | COGES 連合財務研修 (タウア)                                                                                                | 全員                                         |
| 1月18日(水) | COGES 連合大会<br>合同調整委員会                                                                                             | 全員                                         |
| 1月19日(木) | 基礎教育省関係者プロジェクト対象校視察 (ナダラ、コーサ1小学校)                                                                                 | 原、イボ                                       |
| 1月20日(金) | APP モニタリング (プザ)<br>Tahoua→Niamey                                                                                  | 齋藤、カボ<br>原                                 |
| 1月21日(土) | APP モニタリング (プザ)                                                                                                   | 齋藤、カボ                                      |
| 1月22日(日) |                                                                                                                   |                                            |
| 1月23日(月) | 学校プロジェクト巡回 (Charingue, Grado Sud)<br>APP モニタリング (サルナワ)                                                            | ウセイニ<br>齋藤、カボ                              |

|          |                                                          |               |
|----------|----------------------------------------------------------|---------------|
| 1月24日(火) | 学校プロジェクト巡回(TAbotaki, Tama)<br>APP モニタリング (サルナワ)          | ウセイニ<br>齋藤、カボ |
| 1月25日(水) | サヘルオアシス計画プロジェクト視察<br>学校プロジェクト巡回(Kaoua Alhassane, Moudja) | ウセイニ          |
| 1月26日(木) | 学校プロジェクト巡回(Agueye, Touba Baggaoua)<br>Tahoua→Niamey      | ウセイニ<br>齋藤、イボ |
| 1月27日(金) | ザンデール COGES 担当官会議                                        | ザカリア、ハムザ      |
| 1月28日(土) |                                                          |               |
| 1月29日(日) |                                                          |               |
| 1月30日(月) |                                                          |               |
| 1月31日(火) | イスラム暦新年(祝日)                                              |               |

### (1) 今月の総括

今月は、7 COGES 連合の全体総会のモニタリング、人間の安全保障ビデオ撮影、タウア COGES 連合大会及び連合対象の財務研修、合同調整委員会などが主な活動であった。その他、月例 COGES 担当官会議(タウア、ザンデール)、APP 担当者会議、APP モニタリングなどが行われた。さらに、サヘルオアシスのスタッフ及びカウンターパートのプロジェクト訪問があった。COGES 関連のドナー会合では、大臣主催のものが2回行われ、個別テーマの COGES 関連の会合も1回行われ、それぞれの会合にチーフアドバイザーとコンサルタントが出席した。今月も多く活動をを行ったが、それぞれ大きな成果を残した。特に合同調整委員会、COGES 連合大会及び財務研修を組み合わせに行ったことは、それぞれの会合の参加者に刺激を与えるという相乗効果を生み、活動の費用対効果を高めたことは特筆に値する。さらに、日本で行われた JICA 本部における世銀副総裁との会合において、世銀、JICA 間でのコミュニティー開発分野における具体的な協力案件として本プロジェクトが指名され、世銀副総裁の前でプロジェクトのプレゼンがなされ、ニジェールにおいても、世銀、JICA の事務所長とニジェール世銀代表の会合で、COGES 分野での原則的協力の合意が得られた。これらは、世銀の資金による機能する COGES 「みんなの学校モデル」の全国普及へ向けにおおきな後押しとなった。さらに、合同調整委員会に出席した基礎教育・識字省次官は、今年度5月にマダガスカルで行われるフランス語圏教育大臣会議で、ニジェールの発表時に、ニジェールの COGES 政策及びタウアにおける本プロジェクトの活動を映像と併に紹介したい要望をプロジェクト側に伝えており、今後の「みんなの学校モデル」の他国への普及に向けても大きな一歩を踏み出した月となった。

### (2) COGES 担当官会議

今月の COGES 担当官会議は、COGES 連合会議の前日に開催し、COGES 担当官通常活動報告の他に、COGES 連合結成後、どのように COGES 担当官の役割が変化するかということを中心に話し合われた。

### (3) COGES 連合財務研修

タウア州の COGES 連合が出揃い、連合全体会合を開く機会を利用し、連合組織強化の一環として、連合事務局に対する財務研修を実施した。研修は、参加者78名を3グループに分けて行ったが、この研修に先立つ全体会合では、COGES 連合が機能するための条件である各 COGES の機能化(選挙及び学校活動研修の実施)の重要性と、組織としての透明性の重要性を説明し、その透明性を維持するために、今回の財務管理研修が必要なことを強調した。今回の講師は COGES 担当官が勤めたが、この研修の前日に COGES 担当官会議後、研修のシミュレーションを行った結果、非常に効果的な研修が出来た。今後も、講師養成にも、より多くのシミュレーション訓練を取り入れていくこととする。

#### (4) タウア州 COGES 連合会議(39連合)

去年の12月までの新しく結成された32COGES連合とすでに結成されていた7COGES連合を加えた39のCOGES連合を集めた会議を行った。会議の目的は、COGES連合の役割の再確認と組織としての透明性の確保であった。会議は、すでに5ヶ月の活動実績がある7COGES連合がその経験からの問題点提起を行い、それにそって、全体で討議するという形の会議となった。会議の討議の焦点は、COGES連合事務局の運営方法、メンバーCOGESとの情報伝達手段、定期総会の開催の必要性、事務局運営費と各COGESの分担金などに当てられた。結論としては、組織の透明性確保のためには、情報公開、情報の伝達方法の確保が不可欠であり、各COGES連合は、開かれた組織となるよう努力するというものであった。なお、会議の最終結論をまとめる部分で、合同調整委員会に出席中の基礎教育・識字省次官、基礎教育総局長、計画局長などが参加し、COGES連合の発表を聞き、それを受けた演説を行い、会議は閉会した。

#### (5) 合同調整委員会

今回の合同調整委員会よりニジェール側委員に大きな変更があった。まずCOGES推進室が次官直属から基礎教育総局内の組織として位置づけられたことで、基礎教育総局長が新たに委員として追加された。また基礎教育・識字省次官、計画局長、タウア州基礎教育・識字局長の人事異動による交代などがあり、新委員にプロジェクトの活動を直接視察してもらい、プロジェクト理解を深めてもらうために委員会をタウアで開催した。参加者は上述の4名の他、COGES推進室長、笹館 JICA ニジェール事務所長、COGES 監督官、プロジェクトスタッフが参加して行われた。会議は、チーフバイザーの挨拶の後、次官が会議の開催を宣言し、プロジェクトコンサルタントからプロジェクトの概要と過去6ヶ月の活動についての説明のあと、質疑応答がなされた。質問の内容は、住民動員成功の理由、援助地域の他ドナーとの調整、選挙の実施方法などであった。その後、指標を含めたPDM改訂版が承認され、会議は20時に閉会された。これら合同調整委員会参加者は、翌19日にタウアからニアメに戻る途中にある、2校のCOGES校を視察してもらった。この視察に参加者は大きな感銘を与えた。特に、訪問予定の学校に行く途中にある学校で、偶然に遭遇したCOGESの塀作りなどを見て、作り物ではない、COGESの力を実感してもらえたことはプロジェクトにとっては大きな成果となった。

#### (6) APP

今月は主に、対象校の巡回を行なった。それぞれの学校によって、APPクラブ設置の進捗状況に差はあるものの、校長とCOGES代表が中心となり、APPクラブ設置の第一段階である地域住民への啓発がすべての学校で行なわれていることを確認した。

今回の巡回は、COGESメンバーを含めた地域住民の前でAPPクラブ進捗状況や設置状況を聞くように心がけた。現時点で啓発の段階にある学校に対しては、指導主事がAPPの重要性、地域住民と話し合いによる選択の必要性、児童に責任を与え児童主体で活動を進めることの効果等を説明した。今後も、指導主事を中心にモニタリングが行なわれることになる。

APP会議は、ブザ、サルナワ両コミュニティのAPPクラブ設置状況報告、効率的な情報収集のための巡回用紙改訂が主な目的であった。今回の会議では、効率的な情報共有を目指して、会議の前日にすべての学校の基本情報をまとめた用紙を指導主事と共に準備したこと(添付資料参照)、会議開始時間厳守を徹底したことで、進行がスムーズに運び十分な内容の話し合いができた。会議内容も充実しており、巡回時の着眼点、注意点が多く挙げられた。(詳細は、別添資



料参照)

担当の指導主事からは、すでに多くの学校でクラブが設置され、早いところでは定期的に活動が開始されているとの報告を受け、ブザコミュニオンは 40 校中 24 校で、サルナワコミュニオンでは、28 校中 25 校でクラブが設置されているとのことである。また、クラブが設置されていない学校が数校あるが、現在 COGES を中心に住民集会を通して APP 啓発活動を行なっている最中である。今後の APP クラブの課題として「クラブ設置の過程の簡略化」と「APP 活動のイメージがつかめない学校への提案」が挙げられた。

#### (7) 学校プロジェクト巡回モニタリング

1 月 23 日から 26 日にかけて 8 校を対象に実施している学校プロジェクトの進捗状況確認のために巡回モニタリングを行なった。収入創出活動については 1 校を除き、いずれも予想通りあるいは予想以上の収益を上げており、得られた収益を COGES 活動資金としてそれぞれ計画された学校改善活動に投資するとともに更なる収益向上に向けた投資を行なうなど意欲的かつ堅実な運営が行われていた。1 校のみ (Charingue 小学校) 製粉機運営担当者が出稼ぎのため村を離れ、その後後継者が見つからず活動が滞るという問題を抱えており、早急に後継者を見つけるとともに COGES による運営管理を徹底するよう COGES 担当官とともに対策を検討することとした。

#### (8) コミュニティー保育園

1 月 9 日にコミュニティー保育園の設置要請を受け、イレラ県の 3 校を集め、コミュニティー保育園設立準備会議を行った。これらの学校は、すでに住民集会でコミュニティー保育園の設置を決議し、その建設に掛かる活動計画を作成している。この会議では、その活動計画を検討し、実現可能性を検証した。また就学前教育視学官から、保育士の雇用、あるいは、研修についての説明があった。このコミュニティー保育園は、その運営においては、保育士の給与まで、運営費すべてをコミュニティーが支出する形の完全なコミュニティーベースの保育園である。この COGES を通したコミュニティーの需要にそったコミュニティー保育園が成功すれば、間違いなく、ニジェールにおいて、もっとも全国普及が可能な保育園モデルとなるであろう。

#### (9) ザンデルのパイロット活動

1 月 27 日にザンデル州の COGES 担当官会議が行なわれ、タウア州の COGES 監督官およびプロジェクトスタッフ 1 名をザンデルに派遣した。ザンデル州のパイロット 60 校では既に全ての学校において学校活動計画が策定されており、既に 100%実施済みの学校も少なからずあり、追加の活動計画を提出している学校もあった。全体的に進捗状況は概ね良好で、いくつかの問題点として、計画が住民集会の承認を得ていない学校が数校あったことが挙げられ、再度住民集会で承認を得るように COGES 担当官が指導監督を行なうなどのアドバイスがなされていた。今回はプロジェクトのカウンターパートであるタウア州 COGES 監督官が出張して参加したが、予想以上にザンデル州での進捗が早く、関係者の高いモチベーションとプロジェクトのプレゼンスが薄い中での堅実な運営管理など、多くの点で驚きを隠せなかったようで強力なライバルの出現に刺激を受けたようであった。今後 2 つの州での活動を共有することで双方の関係者がお互いに競争意識を持ち、相乗効果が得られることを期待したい。

#### (10) 中央、他ドナーの動向

年始から大臣主催（通常はPTF代表フランス主催）が2回行われた。1回目は、準備不足のために、実質的な討議はなかったが、2回目の会議においては、PDDE 本年度計画が発表された。計画についての実質的な討議は、次回の会合に持ち越されたが、ここでの質問に対して、大臣が COGES に関連するドナー会合を開くことを明言し、それが実現した。この会議で特に重要なことは、世銀側が、本プロジェクトが COGES 普及モデルとして主張し続けてきた、ミニマムパッケージ（民主選挙、学校活動計画、地方行政官によるモニタリングシステム）を始めて公式に認め、PADEB への要請として、具体的な活動予定を COGES 推進室長に依頼したことである。現在、プロジェクトはこのプログラム策定について、COGES 推進局長に対する技術的アドバイスを行っている。

#### (11) 人間の安全保障ビデオプロジェクト撮影

1月7～10日にかけて、JICAで製作する「人間の安全保障」をテーマにした研修用ビデオの撮影の為、撮影ミッション（JICA企画調整部職員1名とビデオ製作者2名の計3名）がプロジェクトの対象校（コニ県カオラルハッサン小学校）にて3日間撮影を行なった。撮影は同対象校での COGES の活動を中心に、COGES 委員、校長、村長、保護者、母親、COGES 担当官に対するインタビューを行なった。また、10日にはニアメで基礎教育・識字大臣のインタビューも収録された。住民への直接裨益、上（行政）からと下（住民のエンパワーメント）からのアプローチなど本プロジェクトのアプローチは人間の安全保障の視点と多くの点で合致しており、今回の撮影対象として選ばれ、撮影内容も製作者の意向に沿ったものを収録することが出来た。ただし、事前の打ち合わせにおいて製作者側が現地到着後に撮影内容の詳細を固めるといった姿勢であった為、対象校での準備が直前になったり、突然の変更が行なわれたりと、プロジェクト側の調整も容易ではなかった。

#### (12) サヘルオアシス開発調査関係者プロジェクト視察

1月25日にニジェールサヘルオアシス開発調査関係者一行（邦人4名、関係省庁カウンターパート6名）がタウアを来訪し当プロジェクトを視察した。プロジェクトの活動紹介及び質疑応答の後、タウア市のワダタ、ビルビス両小学校とコニ県のカオラルハッサン小学校の COGES 活動をそれぞれ視察した。サヘルオアシス開発調査は当プロジェクトのモデルを応用して「みんなの学校モデル」の“村落開発バージョン”に取り組む方向で、現在、対象地域の選定段階にあり COGES の成功モデルを有するタウア州はその有力候補として挙げられている、との事であった。

#### (13) プロジェクト運営管理

##### ①第3四半期現地活動費精算報告

1月6日にニジェール事務所に2005年度第3四半期の会計報告書類を提出した。今期分の精算額は以下のとおり。

1. 前期繰越分：6,191,073Fcfa
2. 概算受入額：100,867,800Fcfa
3. 支出額：71,324,661Fcfa
4. 差引残額：35,734,212Fcfa

また、第4四半期分の現地活動費が1月下旬に前途資金として送金された。

##### ②ONEN 業務委託契約

ザンデール州のパイロット 60 校に対する COGES 支援業務の ONEN への委託に関して、10～12 月分(6 ヶ月契約の前期分)の精算を行ない、3,861,514Fcf を ONEN に支払った。

③COGES 連合担当スタッフ (ONEN 派遣) のムナヒ氏が 1 月に入り体調を崩し、ニアメにて長期療養を余儀なくされた為、当分の間、残りのスタッフで COGES 連合の機能強化に関する業務を分担していくことになる。

#### (14) 課題

プロジェクトの評価の高まりと共に、プロジェクトを取り巻く環境も変わりつつある。現在、プロジェクトは、COGES の機能化と住民参加に成功し、その基本的なモデル作りに成功したというのが現状であり、国家政策とあいまって、永続化するモデルの完成までには程遠い。しかし、外部より多くの場面で、様々な貢献が求められており、そのために割く時間が多いため、日常的な活動を通常通り展開していくのに困難が生じる危険性があり、バランスの取れたプロジェクト運営が求められている。

### 3. 2月の予定

| 予定                                                    | 期間         |
|-------------------------------------------------------|------------|
| ➤ COGES 担当官会議                                         | 2 月 10 日   |
| ➤ JICA 教育分野アフリカ域内ワークショップ (於：ケニア、尾上専門家出張参加 2 月 7~14 日) | 2 月 9,10 日 |
| ➤ ザンデール COGES 担当官会議                                   | 2 月 20 日   |
| ➤ 原専門家休暇終了                                            | 2 月 17 日   |
| ➤ COGES 連合巡回モニタリング (32 新 COGES 連合)                    | 2 月上旬      |
| ➤ 7 COGES 連合収入創出活動支援モニタリング及び機材購入                      | 2 月中旬      |

別添 1 COGES ドナー会合議事録

別添 2 コミュニティー保育園設置巡回報告書

別添 3 APP 会議議事録



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## プロジェクト活動月報(2006年2月)

作成日：2006年3月1日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                            | 担当、出張者            |
|----------|---------------------------------------------------------------|-------------------|
| 2月1日(水)  | COGES 連合巡回 (ケイタ、ブザ)                                           | カボ、ザカリア           |
| 2月2日(木)  | COGES 連合巡回 (ブザ)                                               | カボ、ザカリア           |
| 2月3日(金)  | COGES 連合巡回 (ブザ)<br>コミュニティ保育園保育士研修 (9日まで)                      | カボ、ザカリア           |
| 2月4日(土)  | COGES 連合巡回 (ブザ、チンタ)                                           | カボ、ザカリア、ウセイニ、ガンボボ |
| 2月5日(日)  |                                                               |                   |
| 2月6日(月)  | COGES 連合巡回 (ブザ、コニ)<br>APP クラブ巡回                               | ウセイニ、ガンボボ<br>齋藤   |
| 2月7日(火)  | COGES 連合巡回 (コニ、マダウア)<br>Tahoua→Nimey                          | ガンボボ、ザカリア<br>尾上   |
| 2月8日(水)  | COGES 連合巡回 (コニ、マダウア、タウア県)<br>尾上ケニア出張 (アフリカ域内教育ワークショップ、~13日まで) | ガンボボ、ザカリア、カボ      |
| 2月9日(木)  | COGES 連合巡回 (イレラ)                                              | ガンボボ、ザカリア         |
| 2月10日(金) | COGES 連合巡回 (タウア県)                                             | ガンボボ              |
| 2月11日(土) |                                                               |                   |
| 2月12日(日) |                                                               |                   |
| 2月13日(月) | COGES 連合巡回 (チンタ)                                              |                   |
| 2月14日(火) |                                                               |                   |
| 2月15日(水) | APP 会議                                                        | 齋藤、カボ、イボ          |
| 2月16日(木) | COGES 担当官会議<br>Niamey→Tahoua                                  | 全員<br>尾上          |
| 2月17日(金) | 原一時休暇から帰国                                                     |                   |
| 2月18日(土) |                                                               |                   |
| 2月19日(日) | Niamey→Tahoua                                                 | 原                 |
| 2月20日(月) |                                                               |                   |
| 2月21日(火) | Tahoua→Zinder                                                 | イボ                |
| 2月22日(水) | ザンデール COGES 担当官会議                                             | イボ                |
| 2月23日(木) |                                                               |                   |
| 2月24日(金) |                                                               |                   |
| 2月25日(土) |                                                               |                   |
| 2月26日(日) |                                                               |                   |
| 2月27日(月) | サルナワ巡回                                                        | 齋藤、影山             |
| 2月28日(火) | ブザ巡回                                                          | 齋藤                |

#### (1) 今月の総会

今月は、COGES 担当官会議、APP 会議、ザンデール COGES 担当官会議などの定例月例会議の他に、コミュニティ保育園保育士養成研修、COGES 連合モニタリングが行われた。特に、設置されたばかりの COGES 連合に対するモニタリングは、COGES 連合設置研修、タウア COGES 連合大会において、強調された COGES 連合運営における透明性の確保が出来ているかどうかという点を確認するために、39 すべての COGES 連合事務局を対象に行った。この巡回において様々な問題点が判明した。また尾上専門家がケニアで行われた教育分野域内ワークショップに参加した。

## (2)COGES 担当官会議

今回の会議では、COGES 連合のモニタリングの仕方、特に、どのように COGES 連合活動計画の内容についてのアドバイスを行ったらいいかという議論が行われた。これは、1月の COGES 連合大会において、COGES 連合としての活動計画の策定を決めたが、策定された計画書に問題が多いことがわかったためである。議論の結果、COGES 担当官自身が、COGES 連合としての活動計画の方向性を理解していないことが判明したため、COGES 連合のから提出された実際の計画書を見ながら、なにが問題なのかを参加型で議論を行い、問題点を指摘していった。会議は、夜の 10 時間まで行われ、内容的にも充実したもので、今後の COGES 連合のモニタリングを担当する COGES 担当官にとっても有意義な内容となった。

## (3)APP 会議、APP クラブ

今回の APP 会議は、コニ県サルナワ地区・ブザ県ブザ地区の担当指導主事に、新たに各県 1 名ずつを加えた計 4 名の指導主事と共に行なった。この措置は、人事異動の多い基礎教育省において、現在活動を共にしている指導主事に異動が生じた場合、活動が停止してしまう恐れがあることから、今後の活動を見据え、各県 2 名体制で行うことが妥当であると判断したためである。会議のはじめに、新指導主事に対し、APP クラブを設置するに至った経緯と APP クラブの特徴をまとめたパワーポイントを紹介し、今後の活動開始にあたって、現地コンサルタントより、①効率的に計画を立てて巡回すること、②互いの巡回情報を共有すること、③各学校に対して行なう助言は、汎用性を考えクラブの特徴を考慮し適切に行なうことなどが説明された。新たに加わった 2 名の指導主事は、APP クラブの取り組みをとっても評価しており、プロジェクトパイロット校以外の学校へも紹介したいと考えているようである。しかし、今年度の活動は、対象校 68 校で行なっている APP クラブ実施の結果をもとに、さらに効率的で普及可能な APP 提案のための準備と考え、対象校の活動を十分観察し、それぞれの意見を十分に出し合うことを目的としている。したがって、現在のところは、汎用性のある活動の追及を第一に巡回していくことの必要性を伝え、全体場で意識の統一を図った。

各学校の活動は、全体の 80%（対象校 68 校中 54 校：コニ県サルナワ地区 28 校中 25 校、ブザ県ブザ地区 40 校中 29 校）でクラブが設置されており、順調な滑り出しといえる。COGES を通した地域住民へのアプローチによって、住民が求める活動が選出され、従来の APP としてイメージされていた裁縫・菜園・飼育という 3 大活動だけではなく、多種多様な活動が挙げられている。特に、地域色の強い活動に関しては、これらの活動技術を持っている教員は少ないため、地域住民が講師として参画しているのが特徴である。これら有志で参加している住民がモチベーションを維持していけるよう、何らかの工夫が必要であると感じている。（例えば、COGES から表彰する、視学官事務所から表彰する等）

また、巡回については、実際の活動の様子をできるだけ観察し、各学校が毎週定期的に APP を行なう習慣を自然に身につけるよう指導主事側から促していくようにしたい。

## (4)COGES 連合巡回モニタリング

1 月下旬から、2 月の中旬にかけて、プロジェクトスタッフ、COGES 監督官及び COGES 担当官による 39 の COGES 連合事務局へのモニタリングが行われた。この巡回により、多くの問題点が浮き彫りになった。（詳しくは別添の「COGES の現状」を参照）。今後、COGES 連合が機能する組織となるためには、多くの努力が必要であり、プロジェクトとしては、一 COGES より、大きな組織である COGES 連合の機能化モデルを作り出し、新しいアプローチを創出する必要がある。

3月中には、COGES 連合の問題点を分析し、COGES 連合マニュアル」作成のためのアトリエを開催することとした。

#### (5) コミュニティー保育園保育士養成研修

コミュニティー保育園がイレラの3つのCOGESによって創出されることとなったが、その施設の保育士養成のための研修を開催した。この研修の講師は、タウアの就学前教育視学官が担当した。この視学官は、UNICEF がタウアで設立しているコミュニティー保育園の保育士の養成を担当しているため、そのマニュアルを使った研修となった。期間は1週間であり、研修期間中の研修生の日当宿泊費等最低限の費用はプロジェクトから支出している。これらのコミュニティー保育園が目指すものは、コミュニティーが設立し、外部からの資金援助なしに運営する完全自立型の保育園であり、保育園の持続性は、コミュニティーの需要を最大限に生かした保育内容でしか確保できないため、研修の内容も今後の巡回などを通し収集した情報を基に改定していく予定である。

#### (6) ザンデールのパイロット活動

ザンデールのCOGESパイロット60校は、現在学校活動計画を実施中であり、多くの学校で計画が100%実施されたことが報告されている。4月以降、ザンデールにおける他の学校へのCOGES委員の民主選挙の研修が予定されることから、自己評価の時期を早め、3月中に第1回目の学校活動計画の評価を行うこととした。

#### (7) 中央、他ドナーの動向

基礎教育・識字省では、PDDE の共同レビューの準備が進んでいる。今年予定されているレビューは、PDDE の第1フェーズ(2003～2006)の最終年にあたり、フェーズの総括的な意味があり、現地調査を含む大規模なレビューとなる。現地調査は4月1日から15日までが予定され、すべての州において、別々のチームが調査を行う。タウアの調査団長は、世銀のウエドラゴ氏となった。

#### (8) アフリカ域内教育ワークショップ

2月9,10日にケニアにてJICAのアフリカ各国における教育開発支援の事例の共有を目的として、ワークショップが開催され、プロジェクトより尾上専門家が出席し、ニジェールでの地方分権/学校運営委員会の取り組みの事例として当プロジェクトの経験を発表した。(詳細は別添出張復命書参照)

#### (9) プロジェクト運営管理

##### ① NGO 業務委託契約

昨年10～12月に実施したCOGES連合研修及び学校活動計画研修のNGOへの業務委託契約について、最終精算額が確定し、最終支払いが完了した。精算額は34,292,204Fcfで第1回、第2回概算払い分を差し引いた今回の残額支払い額は6,785,755fca。

##### ② COGES 連合収入創出活動支援

昨年5月に設置した7つのCOGES連合による収入創出活動の支援について、それぞれ連合事務局より提出された提案書を吟味・検討した結果、それぞれの地域で収益性が高いと考えられる氷やヨーグルトなどの氷菓子販売のための冷凍庫及び付属機材を購入することとした。2月下



旬に競争入札による業者の選定を行ない、3月上旬には機材が納入され支払いを行なう予定。

#### (10) 課題

今後の課題として COGES 連合の機能化が第1に挙げられる。大規模な住民組織が自主的に機能するためには、学校レベルとは異なった様々な仕掛けが必要であり、今後プロジェクト期間を通したもっとも重要な取り組みとなる。貧困地域で、しかも通信事情も悪いニジェールでこのような組織を機能させることは、参照にする事例も少なく、当事者、関係者の努力、創意工夫が必要である。プロジェクトとしては、それらのイニシアチブを引き出していく努力が必要である。

### 3. 2月の予定

| 予定                              | 期間       |
|---------------------------------|----------|
| ➤ 学校プロジェクト対象校会議                 | 3月4日     |
| ➤ COGES 連合会議                    | 3月6日     |
| ➤ 中澤専門家（業務調整/能力強化）着任            | 3月7日     |
| ➤ ニジェール中等理数科プロジェクト事前調査団プロジェクト訪問 | 3月11、12日 |
| ➤ COGES 担当者会議                   | 3月22日    |
| ➤ 齋藤シニア隊員帰国                     | 3月22日    |
| ➤ COGES 連合マニュアル作成アトリエ           | 3月23日    |
| ➤ ザンデール COGES 担当者会議             | 3月15日    |

別添1：タウア県における COGES の状況（2006年2月現在）

別添2：出張復命書（第2回アフリカ域内教育ワークショップ）

別添3：第4回 APP 会議議事録

# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## プロジェクト活動月報 2006 年 3 月)

作成日：2006 年 4 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時           | 活動                                                                          | 担当、出張者                       |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 3月1日(水)      | COGES 連合巡回 (サルナワ)<br>APP 巡回 (ブザ)<br>コミュニティー幼稚園巡回 (イレラ)                      | Kabo<br>齋藤<br>影山             |
| 3月2日(木)      | COGES 連合巡回 (ブザ)<br>APP 研修 (ブザ)                                              | Kabo、Zakaria<br>齋藤           |
| 3月3日(金)      | APP 巡回 (ブザ)                                                                 | 原、齋藤                         |
| 3月4日(土)      | 学校プロジェクト評価会議 (8校)                                                           | 原、Ouseini、影山                 |
| 3月5日(日)      |                                                                             |                              |
| 3月6日(月)      | 7 COGES 連合会議                                                                | 全員                           |
| 3月7日(火)<br>¥ | 中等理数科プロジェクト調査団来ニ (石原、岩崎他 2名、ニアメ)<br>中澤専門家到着 (原出迎え、挨拶同行、ニアメ)<br>Tahoua→Nimey | 原<br>原                       |
| 3月8日(水)      | PFT 会議、中澤専門家挨拶、調査団同行 (ニアメ)                                                  | 原                            |
| 3月9日(木)      | Namey→Tahoua<br>Tahoua→Niamey                                               | 原<br>尾上                      |
| 3月10日(金)     |                                                                             |                              |
| 3月11日(土)     | SMASSE 調査団コニへ移動<br>Tahoua→Konni<br>Niamey→Konni<br>Konni→Tahoua             | 原、齋藤、影山<br>尾上、中澤<br>齋藤、影山、中澤 |
| 3月12日(日)     | SMASSE 調査団タワーに移動<br>Konni→Tahoua                                            | 齋藤、影山、中澤                     |
| 3月13日(月)     | スタッフ会議<br>収入創出活動機材供与式典 (タワー)                                                | 全員<br>全員                     |
| 3月14日(火)     | コミュニティー識字学校巡回<br>COGES 連合巡回                                                 | 影山<br>Zakaria、Ganbobo        |
| 3月15日(水)     | ザンデール COGES 担当者会議<br>収入創出活動機材移送開始<br>Tahoua→Niamey                          | IBO<br>齋藤                    |
| 3月16日(木)     | 収入創出活動移送終了<br>コミュニティー幼稚園巡回<br>齋藤シニア隊員最終報告会                                  | 影山<br>齋藤                     |
| 3月17日(金)     |                                                                             |                              |
| 3月18日(土)     |                                                                             |                              |
| 3月19日(日)     |                                                                             |                              |
| 3月20日(月)     | スタッフ会議                                                                      | 全員                           |
| 3月21日(火)     | 収入創出活動機材供与式 (タワー、タバラック、ブザ各コミュニオン)<br>Tahoua→Nimey                           | 原、影山                         |
| 3月22日(水)     | PTF 会議 (ニアメ)<br>齋藤シニア隊員<br>Niamen→Tahoua                                    | 原、<br>原、影山                   |
| 3月23日(木)     | 収入創出活動機材供与式 (バドゲッシャリ、サルナワコミュニオン)<br>APP 会議                                  | 原、IBO<br>影山、原、IBO            |
| 3月24日(金)     | COGES 担当官会議                                                                 | 全員                           |
| 3月25日(土)     | COGES 連合会議                                                                  | 全員                           |
| 3月26日(日)     | 収入創出活動機材供与式 (チンタ)<br>収入創出活動機材購買(コニ)                                         | IBO<br>尾上                    |
| 3月27日(月)     | スタッフ会議                                                                      | 全員                           |

|          |              |                              |
|----------|--------------|------------------------------|
| 3月28日(火) |              |                              |
| 3月29日(水) |              | Tahoua→Niamey 尾上             |
| 3月30日(木) | コミュニティー幼稚園会議 | 原、影山、IBO<br>Niamey→Tahoua 尾上 |
| 3月31日(金) |              |                              |

### (1) 今月の総括

今月、タウアにおいては、学校プロジェクト評価会議、COGES 担当官会議、教育の質改善キャンペーン開始のための COGES 連合会議、APP 担当者会議、コミュニティー幼稚園関係者会議、7 COGES 連合に対する収入創出活動機材供与をおこなった。またザンデルにおいて、COGES 担当官会議を開催した。その他、ニジュール中等理数科教育強化計画事前調査団のプロジェクト訪問があった。また、ニアメにおいては、教育開発 10 カ年計画の基礎教育・識字省、ドナー共同評価のための現地調査受入れ準備を行った。今月も多く活動が行われたが、活動の主眼は COGES 連合の機能化であり、COGES 連合による収入創出活動、質の改善キャンペーンにしてもこの目的を達成するための活動と位置づけられる。プロジェクト内部の動きとしては、APP 担当の齋藤シニア隊員が任期終了に伴い帰国したが、同女史は短期専門家と 4 月 24 日に赴任する。また中澤専門家（業務調整/住民能力強化）が着任し、尾上専門家がプロジェクト運営業務に専任し、原専門家は、チーフアドバイザーに加え、教育アドバイザーとしての業務を兼任する体制となった。

### (2) COGES 担当官会議

今月の会議は、先月に引き続き、COGES 担当官と COGES 連合の関係、COGES 連合を通じた各 COGES のモニタリング手法確立、COGES 連合の機能化などが主な討議テーマとなった。現在指摘されている問題は、COGES 担当官が COGES 連合に対する支援を行っていかねなければならないが、その担当官の COGES 連合のシステムや構造、意義などに対する認識が低いことが、COGES 連合機能化の大きな障害となっていることである。そのため、上述したテーマが会議の議題として取り上げられた。会議は、終日に亘り、行われ、多くの議論がなされた。

### (3) タウア COGES 連合会議

今回の会議では、COGES 連合事務局の事務局長を集め、COGES 連合の機能化と連合を通じた教育の質改善のイニシアチブについて討議が行われた。

#### ① COGES 連合の機能化

COGES 連合はその設置から一番早いもので 10 ヶ月、最後の連合設置からは 4 カ月が経っているが、いまだその自主的な運営システムが確立しているとは言いがたい。特に、COGES 事務局と各 COGES の関係がその通信の困難さから良好ではなく、事務局運営費のための各 COGES からの分担金が集まらず、事務局会議や全体会合などがおこなわれていない連合もある。これらの問題は設立以前から予想される問題であり、研修や設立後の連合大会の中でも解決策を模索するように指導してきたが、依然として状況は厳しい。今回の会合では、参加者である事務局長自身がそれぞれの問題の本質はどこにあるのかを認識してもらうことに重点を置いた。例えば、COGES 連合事務局運営費が不足しているという問題では、事務局長は各 COGES が分担金を滞納していると非難した。この非難に対し、各 COGES 内では分担金が容易に集まる事実と比較してもらうことで、問題の本質は、事務局と各 COGES やそれを取り巻く住民との間に心理的にあることを理解してもらうように努めた。つまり、各 COGES や住民が COGES 事務局を自分たちの代表、あ



るいは自分たちの利益を代表していると考えられないということが結果的に分担金を払うことに対して消極的になる大きな理由になっているのである。問題の根本を理解することが出来れば、ある程度の解決策は見つかるはずである。会議ではこれらの議論を通して、ある程度の共通認識を得ることが出来た。距離を縮めるには、組織の透明性を向上させる情報公開が必要であり、情報公開のためにはより頻繁な情報交換や討議が必要となる。会議では、情報公開のために最も実現可能な方法は何かを討議した。議論は、事務局委員が各 COGES を巡回するよりは、市場などの人々が集まる機会を利用して、短時間でも全体会議を行うことが効率的で、現実的であるという結論に行き着いた。

## ② COGES 連合を通じた教育の質改善のイニシアチブ

このイニシアチブでは、特に小学校修了試験合格率改善のために、各 COGES 連合がイニシアチブを取り、具体的には各 COGES が試験合格率の向上を目指した活動計画を作成し、実施する。現在、本プロジェクトの対象校は 1209 校（タウア州全小学校の 90%）であり、これらすべての学校で一つの成果に向けた活動が行われれば、タウア全体としての合格率が向上させることも可能である。小学校修了試験の合格率の改善がそのまま教育の質の向上を意味するわけではないが、このイニシアチブで目に見える効果が上がれば、基礎教育・識字省、ドナーには、COGES 連合が持つネットワークを使った COGES の教育開発における実力を見せることが出来、保護者、COGES 委員や COGES 連合にとっては、大きな自信となることは間違いない。現在まで、住民が主体となった組織がこのような広範囲のネットワークを使い、教育の質の改善で大きな成果挙げた例は稀であり、このイニシアチブが成功は、ニジュールの COGES の実力を世界に示すものとなる。会議では、試験の合格率を上げるための具体的な戦略が討議された。連合事務局長は、多くの経験のある校長が含まれており、示唆にとんだ戦略が多く出された。それらの戦略をどのように連合で具体化するかを話し合った。

## (4) 7COGES 連合に対する収入創出活動

COGES 連合機能化の一環として、プロジェクトとして、COGES 連合事務局運営費捻出のため収入創出活動を支援している。7つの連合がそれぞれ提出した要請書から、綿密な調査の結果、飲み物販売と穀物貯蔵が収入創出活動として選んだ。今回は、それらの活動のための機材である冷凍庫（6COGES 連合）とたまねぎ（1 COGES 連合）を供与し、その供与式典を、地方行政関係者などを招いて行った。COGES 連合は、それぞれ、販売委員、管理委員などを任命し、その委員たちの主導のもとに収入創出活動を開始している。収入創出活動は、COGES がそれまで行ってきた教育改善活動とはまったく主旨も内容も違う活動であり、プロジェクトとしては、経営管理技術などの情報を豊富に COGES 連合事務局に提供してきたが、今後も経営については、困難が予想されるので、技術支援を継続して行っていく。

## (5) 学校プロジェクト会議

パイロット的に行われた 8つの学校プロジェクトが開始されてから一年が経過したため、今回は学校プロジェクトの評価を行うために会議を行った。学校プロジェクトと学校活動計画の違いは、学校活動計画は、各学校の問題をコミュニティーの資源動員の限界を考慮して立案、実施するのに対し、学校プロジェクトは、コミュニティーの資源動員の限界を越えた問題に対し、収入創出活動から得た資金により継続的な解決策をプロジェクトとして行っていくことにある。この学校プロジェクトのために収入創出活動の原資を本プロジェクトが支援した。

評価は、収入創出活動の結果とその活動から得た収入による教育改善活動の 2 分野について行った。

まず、収入創出活動については、穀物粉碎と穀物販売の 2 種類が行われたが、結果的には、穀物販売は予想以上の収入を創出したが、一方、穀物粉碎の活動は大きな収入を得るには至らなかった。穀物粉碎がうまくいかなかった理由は、基本的には需要が少なかったということが挙げられる。もちろん昨年の穀物の不作などの影響もあるが、よほど大きな町か人口が多い村で運営管理が整備されていない限り、穀物粉碎は収入創出活動としてなりたないという教訓を得た。これに対し、穀物販売は穀物の購買と売却の時期さえ間違わなければ、大きな利益を上げることが可能である活動であることがわかった。教育改善活動に関しては、穀物粉碎を行っている学校は、収入がないためにあまり活発ではなく、逆に穀物販売をしている学校の中には得た収入により、ユニークな活動を展開しているものもある。学校プロジェクトの最終的な評価は、現地コンサルタントの報告書提出を待ってまとめるものとする。

#### (6) APP 会議、APP クラブ

今回は、コニ県およびブザ県より各々 2 名、計 4 名の指導主事に向かえて APP 会議を行った。各指導主事からの報告によると、現時点までにコニ県サルナワ地区一対象 28 校中全校、ブザ県ブザ地区一対象 40 校中 38 校にて、APP クラブが設置済みであることが確認された。個々のクラブで細かな問題はあるものの、全般的に見てほとんどのクラブが順調に実施されているようである。特筆すべきは、ブザ県ブザ地区の文化クラブ（寸劇・歌・詩の朗読）が今月より取り組み始めた校外活動である。これはクラブの活動場所を学校内から村落内へと移し、地域住民の前で活動を発表する活動であり、「学校からコミュニティーへの発信」として非常に興味深く、多方面への効果が期待できる。子供がクラブの実施状況を住民に見せることで、APP クラブへの住民の理解を高めることになり、また、保健や女子児童就学のテーマで劇や歌等を行うことで、住民への啓発効果も望めるためである。このようなコミュニティーとの連帯・関係作りはもちろんのこと、APP クラブと COGES 連合との協力体制や学校長のモチベーション向上のための視学官事務所所長の介入等の必要性も今回の会議で話し合われた。現在のところ、APP クラブのモニタリングを担当している各指導主事のモチベーションは非常に高く、今回の会議でも各校の仔細に渡る巡回報告が挙がってきた。しかしその反面、現在のモニタリング体制が個人の資質と過大な労力に依拠し過ぎている感があり、APP クラブの拡大可能性に鑑みると、その点で汎用性に欠けることが懸念される。よって、今後の課題としては、効率的で均質的なモニタリング体制の考案が挙げられる。（別添「APP 会議議事録」）

#### (7) コミュニティー保育園

今月 30・31 日の 2 日間、イレラ県 3 村の COGES 学校活動計画によって 2 月中旬に開園された、「コミュニティー幼稚園」に関わる会議を行った。参加者は、各村より保育者全員 (Djinguiniss 2 名/Dangona 3 名/Dabnou 1 名)、COGES 代表、学校長の計 12 名である。今回の会議の目的は、1) COGES メンバーおよびコミュニティー幼稚園保育者に対し、コミュニティー幼稚園の本質に関する理解を促し、今後のコミュニティー幼稚園運営体制確立へ向けた布石とする、2) 幼稚園・保育者支援のための体制作りへの提案、および具体的な保育内容例（遊びのアイデア）を提供し、コミュニティー幼稚園活性化への足がかりとする、という二点であった。初日 (30 日) は、「コミュニティー幼稚園と公立幼稚園との違い」という点を議論の切り口とし、その違いを認識した上で、どう住民が満足する「幼稚園」を作り上げていくか、現在各コミュ

コミュニティー幼稚園が直面している問題（主に資金・資材の不足）をどう解決していくか、等の点について話し合った。これらの議論を通し、住民のニーズを知ると同時に、コミュニティー幼稚園がどう住民の利益となるのかについて住民に説明・啓発することの重要性が認識され、その為の住民集会開催の必要性が参加者間で確認された。二日目（31日）は、現在幼稚園で計画されている保育内容、およびその中で直面している問題点（文具の不足）の検討を行った。各園から挙げたプログラム上の問題に対しては、「遊び」の例を紹介し、「遊び」を通して子供が学び得るものの多様さを提示することで、硬直したプログラムへの再検討を促した。また、コミュニティー幼稚園の目的を参加者間で再確認し、コミュニティーの可能性と限界を踏まえたうえで、優先づけをしながら、柔軟な思考で目的達成へと繋げることの必要性を話し合った。今回の会合は、コミュニティー幼稚園という新しい試みを前にして、どう取り組むべきか五里霧中といった感のある COGES メンバーおよび保育者に対し、コミュニティー幼稚園の出発点であり、かつ今後の運営の指針となる部分－住民の需要という視点－を認識してもらうことを最大の目的とした。その為、この二日間の話し合いだけでは、彼らが現場で直面する問題の全てに対して答えが出たわけではない。しかし、少なくとも参加者それぞれがコミュニティー幼稚園の意味を認識し、従来型の「幼稚園」という凝り固まった思考から抜け出すことで、様々な問題に対して柔軟な対応策を模索していくきっかけとなったことを期待する。

#### **(8) ザンデルのパイロット活動**

今回の会議では、ザンデルにおけるパイロット 60 校の学校活動計画の実施評価の取りまとめと、4月から、予定されているザンデル全州における保護者会、COGES 委員選挙の具体的な日程作りについて話し合われた。学校活動計画については、予定活動数を上回る活動が実施された。一校平均活動実施数 4.4 活動、一校平均活動実施予算 210000CFA、生徒一人当たり活動実施費 962CF という結果は、タウアの初年度の実績をすべて上回った（詳しくは別添参照）。今回は、完全な NGO 委託として、活動が行われており、タウアで確立された COGES 導入、活性化のミニマムパッケージ（みんなの学校モデル）は、他地域でも、プロジェクトの直接の介入ないしでも、有効であることを証明した。保護者会、COGES 選挙研修については、5月3日から2週間に亘り、ザンデルのすべての小学校を対象に行われることが決定した。実施形態は、現状と同じように、NGO への完全委託となる。

#### **(9) 中央、他ドナーの動向**

今回の会議の主要な議題は、PTF による PDDE の合同レビューの準備特に、現地調査の準備についてと共同基金の実施手続きについてであった。PDDE の合同レビューは現在の所、5月24日から27日までの3日間が予定されているが、そのレビューに先立ち、4月1日から15日までの現地調査が予定されている。その現地調査による情報を整理し、分析し合同レビューに反映する。そのためには、まず、現地調査で行う作業内容の詰めが必要であり、その調査項目のドラフトが PTF 作業班によって作成され、関係者に配布された。今後この調査項目についてコメントを各関係者が基礎教育・識字省に送り、取りまとめられる。調査は、この項目にそって行われる。また具体的な調査日程については、各州で前もって任命されている調査班長によって決定される。

ドツソの調査班長である Eu の代表より、JICA からドツソ調査班に人を入れてほしいとの要望があった。2 つ目の議題である、共同基金について、現在監査システムが構築できず、手続きが止まっている状況が説明された。共同基金の監査委員会は、財務省、基礎教育・識字省、PTF



の代表から構成されるが、特に財務省のリアクションが悪く、今後さらに財務省に委員会設置への努力を促すことをPTF全体で要請することが決定された。

CONCERNは、本プロジェクトの支援地域であるタウア州の2つのコミューン（タウア州、全体で43州、プロジェクト支援コミューン39州）で、活動を行っているが、活動コミューンを拡大し、イレラ県にも活動を拡大することが決定された。現在、プロジェクトでは、イレラ県の全コミューンで、ミニмумパッケージ及び、COGES連合の結成をすでに終えており、その活動の調整のために、先方の依頼により会談を行った。会談の結果、CONCERNは、イレラ県の中で、もっとも僻地となるアジャイコミューンのみを援助対象地域とし、その地域での援助も、本プロジェクトがすでに行ったCOGES活性化のための活動は行わず、CAPED（Cellules d'Animation Pédagogique：現職教員研修組織）を使った現職研修強化の活動に集中することで合意した。同NGOの活動は、教員の質の向上を目指すものであり、本プロジェクトの活動を補足するものであり、同NGOとの現場での提携には大きな効果が期待できる。また、小職からは、すでに本プロジェクトのミニмумパッケージを使って活動を行っているタウア州の2コミューンにおいて、COGES連合の結成時期を早め、今年の小学校修了試験の合格率を上昇させるためにCOGES連合によるイニシアチブに参加することを要請したが、CONCERN代表はこの要請を承諾し、具体的に活動を委託しているローカルNGO（ONEN）に対して迅速に指示を出すことを約束した。

#### （10） 中等理数科改善計画プロジェクト訪問

中等理数科教育事前計画調査団が来ニし、調査を行ったが、週末を利用し、本プロジェクトを訪問した。今回の訪問は、調査団の団員で、本プロジェクトの本部の担当でもある石原基礎教育第2チーム長と岩崎職員その他、ケニアSMASSEプロジェクトの専門家とカウンターパートのほか、ニジェールからは、同プロジェクトのカウンターパートとニジェール事務所から井手企画調査員が参加した。訪問プログラムは、プロジェクトのパワーポイントによる紹介と学校視察でのCOGES委員、保護者、児童などとのグループインタビューによって構成した。訪問は問題なく終了した。また、訪問の合間に、石原チーム長と岩崎職員とプロジェクトの今後のスケジュールなどのについての討議を行った。

#### （11） プロジェクト運営管理

##### ①中澤専門家着任

3人目の長期専門家（業務調整/住民能力強化）として中澤専門家が3月7日に着任した。

##### ②齋藤シニア隊員離任

2004年3月からプロジェクト付きのシニア隊員として活動を行っていた齋藤シニア隊員が任期満了に伴い2006年3月22日離任帰国した。齋藤シニアは4月下旬から今度は当プロジェクトの短期専門家（生産実習活動）としてプロジェクト終了時まで派遣される予定。

##### ③NGO契約

ザンデル州パイロット校のCOGES活動支援のために実施していた現地ローカルNGOのONENへの業務委託契約が完了し、最終精算額を確定し、支払いを行なった。第一回精算払いと今回の精算払いの合計総額は8,628,980Fcfでであった。

##### ④車輛、バイクの購入

シニア隊員が離任となりシニア車輛がニアメ事務所へ返却された為、3台目のプロジェクト車輛（TOYOTA ランドクルーザー）を新たに本部から携行機材費として前途された資金にて購入した。また、COGES連合へ貸与予定のオートバイ13台を携行機材費にて購入した。

### 3. 4月の予定

| 予定                   | 期間       |
|----------------------|----------|
| ➤ PDDE 共同レビュー現地調査    | 4月7～15日  |
| ➤ COGES 担当者会議        |          |
| ➤ COGES 担当者会議（ザンデール） | 4月14日    |
| ➤ 教育の質改善キャンペーン       | 4月～6月    |
| ➤ 齋藤短期専門家着任          | 4月24日    |
| ➤ 「万人のための教育」習慣       | 4月24～30日 |

別添1：ザンデール COGES パイロット活動総括

別添2：ドッソ学校保健グループ派遣活動視察記録

別添3：APP 会議報告書

# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## プロジェクト活動月報 2006 年 4 月)

作成日：2006 年 5 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                    | 担当、出張者             |
|----------|---------------------------------------|--------------------|
| 4月1日(土)  |                                       |                    |
| 4月2日(日)  |                                       |                    |
| 4月3日(月)  | Tahoua→Niamey                         | 尾上、中澤              |
| 4月4日(火)  | 2005年度第4四半期会計報告                       |                    |
| 4月5日(水)  | Niamey→Tahoua                         | 尾上、中澤              |
| 4月6日(木)  |                                       |                    |
| 4月7日(金)  | COGES 連合総会 (Tabalak)                  | 尾上                 |
| 4月8日(土)  | COGES 連合総会 (Malbaza)                  | 尾上                 |
| 4月9日(日)  | COGES 連合総会<br>PDDE 合同評価現地調査           | 尾上<br>世銀、EU、JICA、原 |
| 4月10日(月) |                                       | 世銀、EU、JICA、原、尾上    |
| 4月11日(火) |                                       | 世銀、EU、JICA、原、影山    |
| 4月12日(水) |                                       | 世銀、EU、JICA、原、      |
| 4月13日(木) |                                       | 世銀、EU、JICA、原       |
| 4月14日(金) | ザンデル担当者会議                             | 尾上、Ibo             |
| 4月15日(土) | Zinder→Tahoua                         | 世銀、EU、JICA         |
| 4月16日(日) |                                       | 尾上、IBO             |
| 4月17日(月) |                                       |                    |
| 4月18日(火) | コミュニティー幼稚園巡回                          | 影山<br>原            |
| 4月19日(水) | APP 巡回 (Bouza)<br>タウア PTF 会議          | 影山<br>尾上<br>原      |
| 4月20日(木) |                                       |                    |
| 4月21日(金) | APP 巡回 (Bouza)<br>COGES 総会 (B.Katami) | 影山<br>尾上           |
| 4月22日(土) |                                       |                    |
| 4月23日(日) |                                       |                    |
| 4月24日(月) | 世界 EFA 週間 (教員問題)                      |                    |
| 4月25日(火) | 齋藤短期専門家着任                             | 原                  |
| 4月26日(水) |                                       | 原、齋藤               |
| 4月27日(木) | APP 担当官会議                             | 原、齋藤、影山            |
| 4月28日(金) | COGES 担当官会議<br>教員の夕べ                  | 全員                 |
| 4月30日(土) | 教員問題討論会                               |                    |
| 4月31日(日) |                                       |                    |

#### (1) 今月の総括

今月は、タウアにおける PTF 合同 PDDE 評価現地調査、タウア COGES 担当者会議、世界 EFA 週間のイベント (教員問題) などが行われた。合同評価では、タウアにおける COGES 活動も調査の目的となっており、十分な評価がなされ、今後の「みんなの学校モデル」全国普及に向け、前進したと評価できる。ザンデルにおける COGES 担当官会議では、5月に予定される保護者会、



COGES 委員選挙研修の内容、ロジの打ち合わせがなされた。今回の研修の実施者は、すべて COGES 担当官で、プロジェクト支援は、NGO を通した研修の交通費などの支払いのみとなっている。この研修が成功すれば、全国普及へ向けたより効率的な研修モデルの完成に近づく。プロジェクトの動きとしては、齋藤短期専門家（APP 担当）が着任した。

#### （２） タウア COGES 担当官会議

4 月 28 日にタウア州の月例 COGES 担当官会議が行なわれた。会議では、プロジェクトチーフアドバイザーから先の PDDE 合同評価ミッションのタウア現地調査の結果報告が行なわれた後、COGES 連合の機能強化に向けたワークショップを実施した。COGES 連合のこれまでの活動の評価分析を行い、機能する COGES 連合の条件、COGES 担当官によるモニタリングのポイントなどを討議した。COGES 担当官の分析によると、事務局があまり機能していない COGES 連合では連合内の情報の伝達共有が不十分であることや事務局の能力、指導力不足など主要因として挙げられ、連合総会や事務局会合を定期的、計画的に開催し、同総会や事務局会合での決定事項をメンバーが遵守徹底すること、などが解決策として呈示された。今回のアトリエでの結果は早速 COGES 担当官のモニタリングに反映させることで全員が合意した。今後はこれら COGES 連合の機能強化にむけてさらにこれまでの活動経験の分析と更なる概念化を図り、6 月末を目途に COGES 連合にかかるマニュアルを作成する予定である。

#### （３） COGES 連合を通じた教育の質改善のイニシアチブ

3 月末に実施した COGES 連合会議にて合意された COGES 及び COGES 連合による教育の質向上キャンペーン実施にあたって、各 COGES 連合が総会を開催し、そのモニタリングを行なった。今回のキャンペーンでは具体的に学年度末（6 月）の 6 年生の最終試験合格率の向上を目標に COGES 連合が中心となり各地域で様々な取り組みが計画されている。例えば、6 年生の児童を持つ保護者に対する啓発活動（試験勉強に集中させる為に家庭内の労働の軽減や子どもの自宅学習への関与などの呼びかけ）、夜間や週末の補習授業の実施、模擬試験の実施などがそれぞれ COGES 連合総会の場で議論された。各総会では、視学官事務所をはじめコミュニケーション長なども積極的に協力が表明されるなど、様々な関係者がこのキャンペーンの意義を理解し協力を得て、非常に活発な動きを見せている。プロジェクトではこのキャンペーンに際して試験の練習問題集 1000 冊を配布する予定である。

#### （４） 7 COGES 連合に対する収入創出活動

プロジェクト支援による 7 COGES 連合に対する収入創出活動が開始されてから約 1 ヶ月が経ち、これまでの活動状況のモニタリングを行なった。1 連合を除いた 6 つの連合で収支の状況について調査したところ、平均 26,980Fcf 程度の収支残高であった。開始前の計画では月平均 100,000～200,000Fcf 程度の利益を見込んでいたが、それを大きく下回る結果となった。また、計画段階では想定していなかった問題も発生している。開始早々最も深刻な問題を抱えているのが、イレラ県バダギシリ COGES 連合で、販売の担当予定者が出稼ぎのため海外へ移動してしまい、代理としてあてがわれた者も年齢的にも能力的にも運営管理が困難な人材があてがわれるなど、事務局責任者のコミットメントも不十分で、急遽コミュニケーション長や視学官事務所長なども含めた関係者が対策を練り、販売担当者の人選など具体的な改善策が呈示されるまで当面の間活動の停止することとした。そのほかの連合では、電気の供給が不十分であったり、プラスチック袋が現地で入手が困難である、などの問題が発生している。今後は売上と収益額の向上を図るため

により専門的な販売戦略を策定する必要がある。そのためには連合による活動の意義をコミュニケーション内にさらに浸透させ、商売のノウハウに通じている連合あるいはコミュニケーション内の人的資源を積極的に活用することやモニタリング能力の向上させることが必要であると考えられる。

#### (5) PDDE 合同評価現地調査 (別添資料参照)

今回の現地調査の目的は、PTF 合同で、過去 3 年間の PDDE の実施状況調査の一環で行われた。プロジェクトとしては、主要ドナー、特に世銀に「みんなの学校モデル」の有効性を示し、その全国展開の弾みとすることが主要な狙いであり、そのための準備を行った。ドナー側の COGES に関する関心は強く、COGES 連合、COGES 監督官、担当官へのインタビューに多くの時間が割かれた。また学校レベルの調査においても、COGES 委員、APE への聞き取り調査が組み入れられ、ドナー側はタウアの COGES に関する多くの情報を得たことは間違いない。プロジェクト側としては、COGES に関する全体的な情報を整理し、調査団側に提示し、学校訪問においても便宜を図った。全体的にプロジェクト側の目的は達成したと評価できる。今後、PDDE の枠組みで、世銀のプロジェクト PADEB に資金で、「みんなの学校モデル」に全国普及が進展していく可能性もある。しかし、現在プロジェクトが取り組んでいる COGES 連合の機能化については、はっきりした目処が立っている状態ではなく、COGES 連合の機能化も含めたモデルを提示すべく、一層の努力が求められる。

#### (6) EFA 週間キャンペーン

4 月 24 日から 30 日までの 7 日間は UNESCO が提唱している「万人のための教育週間」であり、今年「教員の質」がテーマであったことから、タウアでも 25、27、29 日の 3 日間、教員に焦点を当てたキャンペーンが実施された。このキャンペーンは教員協会とローカル NGO、ONEN が主催し、本プロジェクトも後援者として参加した。初日には教員とコミュニティーの関係改善についての討論会の実施、2 日目にはタウア州教育局上層部を巻き込んで、昨年の本キャンペーンで教育局がコミットした改善策に対して、どの程度達成できたかの確認を、教員を含む関係者で行った。最終日には、子供たちの合唱、詩の発表会などが行われたあと、関係者全員で、来年度のキャンペーンに向けて、教育の質の向上を含む、教育環境改善を行っていくことを共同宣言として発表した。

#### (7) APP 会議、APP クラブ

4 月 19 日にコニ県サルナワ地区 5 校、21 日にブザ県ブザ地区 6 校の APP クラブ巡回視察を実施した。APP クラブ開始に係る難しさに比べて、活動が一旦軌道に乗り出した現在、どの学校も比較的順調に活動を進めているようである。サルナワ地区では、訪問先のほぼ全ての校長が APP 始動後の変化として、出席率の上昇、児童の積極性向上、学内活動の活発化を挙げており、APP の実施に係る効果を高く評価する一方、ブザ地区校長はコミュニティーとの関係性が密接になったことを APP 開始後の効果として評していた。このような効果に対する評価の違いからも伺えるように、今回の巡回で浮き彫りになった両地区の違いは、クラブの主要牽引者とコミュニティーの参画具合である。サルナワ地区は、訪問先各校で校長・教員のモチベーションが高く、彼らのイニシアティブをもってクラブ活動が活発に実施されているといえる。その反面、住民の参画具合が幾分儘ならず、APP クラブの必須要素であるべき「住民クラブ責任者」が、ほとんどクラブ活動に参画していないことが今回明らかになった。それに対してブザ地区は、クラブへの住民参画が比較的实现しており、各クラブの活性化の成功要因を住民のモチベーションと

その参画に見ることができる。一見すれば、両地区共に順調な活動が展開されているが、長期的に見て、この違いがどのように APP クラブの今後に影響してくるかは、十分に見極める必要がある事項であろう。学期終了目前である現在、来年度および今後の拡大へ向けて、今年度 APP クラブ設置・実施過程各段階の障害を明確化し、それへの一般化しうる対策を検討することが今後の課題である。

また、27 日にはコニ県 2 名およびブザ県 1 名一計 3 名の指導主事を迎えて、APP 会議を実施した。指導主事からの報告によると、現在コニ県・ブザ県ともに対象全校において APP クラブが設置され、全般的に見て順調に活動が実施されている。今回の会議では、今年度の APP クラブに係る一般的な問題点を明確化し、来年度へ向けた対策を検討することに主眼を置いた。APP 会議詳細は別添参照のこと。

#### (8) コミュニティー幼稚園

4 月 18 日、コミュニティ幼稚園設置 3 村 (Djinguiniss, Dangona, Dabnou) に対し、巡回視察を行った。今回の巡回では、コミュニティ幼稚園に対する住民意識調査の一環として、1) 住民意識アンケート用紙配布および実施方法説明、2) 住民に対するインタビュー調査、および 3) 3 月末実施のコミュニティ幼稚園会合後の状況見分・聞き取り、を実施した。上記 3 村共に、先月末のコミュニティ幼稚園会合を受けた住民集会在実施されていたが、現在学期の終わりということもあり、会合や住民集会在契機とした“画期的な”変化・変革は運営面、園内活動面ともに特に見られなかった。特に、Dabnou においては園児保護者分担金の問題で現在も行き詰っている状態である。これに対しては、保護者直接負担の分担金制度そのものの再考を促し、食料や労働（保育者援助）での支払いや収穫期のミレット売上金による支払い等、金銭に代わる分担方法を住民と共に検討するよう提案した。その一方で、他 2 村においては、来年度に向けて保護者直接負担に代わる給与支払い方法の検討を始めており、その点で来年度以降幾分期待が持てるといえよう。その他の問題としては、タウアでの会合時に支援グループ組織化の提案を行ったが、現在のところ 3 村共に支援グループや保育ボランティアに関しては実施に向けて動き出してはいない。しかし、保育者負担過多状況および今後の発展を考慮した場合、直接的なコミュニティ幼稚園の支援グループが非常に重要になってくると思われる。よって、コミュニティ幼稚園の必要条件としてその組織化を要請していくことも検討すべきであろう。インタビューから伺える住民意識に関しては、対象人数が非常に少ないため一般化は難しいといえるが、園児保護者は概ね幼稚園に満足しており、すでに子供の行動の変化を感じ取っているようである。ただ、幼稚園の活動内容に関する情報が園児保護者、未入園児保護者問わず、住民にほとんど届いておらず（特に女性に対して）、またインタビュー対象者の中に幼稚園を訪問した経験のあるものがほとんどいなかったのは、留意すべき点といえる。幼稚園の開放性と発信性は、住民参画、保育ボランティアや支援グループの確保、さらに保護者への説明責任のためにも不可欠な要素である。インタビュー対象者のほぼ全員が、機会があれば幼稚園を訪問したいとの旨を述べていることから、まずは開放的な幼稚園作りの“きっかけ”として「参観日」や「幼稚園開放デー」等の実施を提案していきたい。

#### (9) ザンデールのパイロット活動

4 月 14 日にザンデール州の月例 COGES 担当官会議が行なわれた。今回の会議では、主に 5 月から実施予定のパイロット 60 校以外のすべての小学校 (1,544 校) を対象にした COGES 選挙研修実施にかかる研修内容とロジスティックの確認が行なわれた。今回のザンデール州全域にわた



る COGES 選挙研修はタウア州で確立したモデルの今後の全国展開を視野に入れて、州単位での研修パッケージとしてローカル NGO へ業務を委託しプロジェクトからの介入を極力抑えた形で実施することで関係者の合意を得た。昨年度から始まったパイロット 60 校での活動については、プロジェクト関係者はタウア州に駐在しており遠隔操作であるにもかかわらずザンデール州の関係者は COGES 監督官を中心によく纏まっており、自主的、積極的に活動に取り組んでおり、順調に進行している。この現状から判断してザンデール州はプロジェクトの介入度を抑えたモデルの汎用性を実証するには好条件が揃っているといえる。今回予定している研修はコミュニケーション毎に開催し、5 月 3 日から 17 日の期間中に 6 名の COGES 担当官及び ONEN の補助ファシリテーター 2 名の合計 8 名が 2 人一組で講師となり 4 組に分かれ、合計 6 県 28 コミュニティを巡回して実施する。COGES 監督官、ONEN スタッフ一名がモニタリング及びロジスティックを担当し、必要に応じプロジェクトスタッフがタウアから出張してモニタリングを行なう。

#### (10) 中央、他ドナーの動向

今月初旬には上述した現地調査が行われ、後半は、その結果をテーマごとに取りまとめる作業が行われた。

#### (11) プロジェクト運営管理

##### ① 斎藤短期専門家着任

2 年間にわたりシニア隊員として APP を担当してきた同氏が、4 月 26 日に短期専門家として再び着任した。プロジェクト終了予定の本年 12 月まで APP 担当として活動する。

##### ② ザンデールでの活動にかかる ONEN との業務実施契約

ザンデール州のパイロット 60 校以外の全ての小学校を対象にした COGES 選挙研修実施と月例 COGES 担当官会議実施にかかる業務委託契約を ONEN と締結した。今回の契約は 4 月から 6 月末までの 3 ヶ月契約で契約見積金額は 19,706,170Fcf。契約直後に見積額の 80% を ONEN へ概算払いし、残額を実費精算払いで支給する。

##### ③ 第 4 四半期現地活動費会計報告

4 月 5 日、JICA ニジェール事務所にて 2005 年度第 4 四半期会計報告を行った。前期繰越分が 173,368,400Fcf、第 4 四半期概算受入額は 23,402,322Fcf、合計支出額は 196,770,762Fcf (差引残額は -40Fcf) となり、予算執行率は 100% となった。

##### ④ 臨時会計役の交代

4 月 1 日よりプロジェクトの臨時会計役が尾上専門家から中澤専門家へ交代し、各引継書類を作成の上、事務所へ提出した。

#### 4. 5 月の予定

| 予定                                    | 期間              |
|---------------------------------------|-----------------|
| ➤ 保護者会、COGES 委員選挙研修 (ザンデール：対象 1544 校) | 5 月 3 日～14 日    |
| ➤ COGES 担当者会議                         | 5 月 28 日        |
| ➤ COGES 担当者会議 (ザンデール)                 | 5 月 19 日        |
| ➤ PDDE 合同評価レビュー (ニアメ)                 | 5 月 25 日～27 日   |
| ➤ 尾上専門家一時休暇                           | 5 月 2 日～6 月 2 日 |

# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2006 年 5 月)

作成日：2006 年 6 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                           | 担当、出張者              |
|----------|--------------------------------------------------------------|---------------------|
| 5月1日(月)  | スタッフミーティング<br>Tahoua→Niamey                                  | 全員<br>尾上、中澤、齋藤      |
| 5月2日(火)  | 尾上専門家休暇開始                                                    |                     |
| 5月3日(水)  | 校長アトリエ (Bouza)<br>ザンデル選挙研修                                   | 原、Ibo、影山            |
| 5月4日(木)  | コミュニティー幼稚園巡回 (Dabnou)<br>Niamey→Tahoua                       | 影山<br>中澤、齋藤         |
| 5月5日(金)  | APP巡回 (Bouza)                                                | 齋藤、Kabo             |
| 5月6日(土)  | ↓<br>Tahoua→Niamey                                           | 原                   |
| 5月7日(日)  |                                                              |                     |
| 5月8日(月)  |                                                              |                     |
| 5月9日(火)  |                                                              |                     |
| 5月10日(水) | Niamey→Tahoua                                                | 原                   |
| 5月11日(木) | コミュニティー幼稚園巡回 (Illelaの2村)<br>Tahoua→Zinder                    | 影山<br>Ibo、中澤        |
| 5月12日(金) | APP巡回 (Bouza)                                                | 齋藤、Kabo             |
| 5月13日(土) | コミュニティー幼稚園巡回 (Dobnou)<br>Zinder→Tahoua                       | 影山<br>中澤            |
| 5月14日(日) |                                                              |                     |
| 5月15日(月) | Tahoua→Niamey                                                | 原、齋藤、Kabo           |
| 5月16日(火) | Niamey→Tahoua                                                | 原、齋藤、Kabo           |
| 5月17日(水) | スタッフミーティング<br>Tahoua→Niamey                                  | 全員<br>原             |
| 5月18日(木) | 質の向上キャンペーンにかかる巡回 (Illela)<br>APP巡回 (Konni)                   | Gambobo<br>齋藤       |
| 5月19日(金) | APP巡回 (Bouza)<br>学校プロジェクト巡回 (Tabotaki、Groud-Sud)             | 齋藤<br>影山、Osseini    |
| 5月20日(土) |                                                              |                     |
| 5月21日(日) |                                                              |                     |
| 5月22日(月) | スタッフミーティング<br>Niamey→Tahoua                                  | 全員<br>原             |
| 5月23日(火) | 学校プロジェクト巡回<br>Tahoua→Niamey                                  | 中澤、Osseini<br>原、影山  |
| 5月24日(水) | PTF準備会合 (ニアメ)                                                | 原                   |
| 5月25日(木) | 質の向上キャンペーンにかかる巡回 (Tsernaoua、Madaoua)                         | Kabo                |
| 5月26日(金) | 質の向上キャンペーンにかかる巡回 (Abalak)<br>APP巡回 (Bouza)<br>Niamey→Tahoua、 | Yacouba<br>齋藤<br>影山 |
| 5月27日(土) | ↓                                                            |                     |
| 5月28日(日) | 質の向上キャンペーンにかかる巡回 (Keita)                                     | 中澤、Gambobo          |
| 5月29日(月) | APP会議                                                        | 齋藤、Kabo             |
| 5月30日(火) | COGES担当官会議<br>Tahoua→Niamey                                  | 中澤                  |
| 5月31日(水) | Niamey→Tahoua                                                | 原                   |

### (1) 今月の総括

今月、タウアにおいては、COGES 担当官会議、APP 会議などの定例月例会議の他に、Bouza における校長アトリエ、教育の質の向上キャンペーンにかかる COGES 及び COGES 連合主催の模擬試験（小学校 6 年生対象）のモニタリングが実施された。一方、ザンデールでは月例 COGES 担当官会議、州全域を対象とした選挙研修が 15 日間に渡って実施された。また、ニアメでは当初 24 日から 3 日間予定されていた PDDE 合同評価会議が、会計検査の遅れから 6 月 14 日～16 日に延期となった。今月も多く活動が実施されたが、中でもザンデールの選挙研修は、プロジェクトの介入を極力抑えた、完全な NGO による業務委託契約での実施であり、汎用性の高い「みんなの学校」モデル全国普及に向けた第一歩となった。

### (2) タウア COGES 担当官会議

今月の会議では、現在中央で行われている PDDE の中間評価のためのテーマ別の討議の結論のうち、COGES に関するものがプロジェクトコンサルタントから紹介された後、COGES 担当官から、現在 COGES 連合により組織的に行われている質の改善キャンペーンでの模擬テストの実施状態などについての報告があった。次に、COGES 連合を通じた各 COGES のモニタリングについての議論を行った。特に、6 月は学期末で、各 COGES が実施している学校活動計画の自己評価の結果の取りまとめを行う時期となり、この自己評価の推進と結果の収集を、COGES 連合を通し、どのように行うかを話し合った。結論としては、プロジェクトが推奨している COGES 連合の定期的な全体会合を通して、上記活動を推進することとなった。

### (3) COGES 連合を通じた教育の質改善のイニシアチブ

先月に引き続き、COGES 連合のイニシアチブによる質の向上キャンペーンが実施されている。このキャンペーンの具体的な目標は、昨年度の 6 年生の卒業試験合格率、7 州中 6 位を今年度は 3 位以内に引き上げることである。この目標達成のため、各 COGES は、補習授業や夜間授業、保護者への啓発活動などを学校活動計画の枠組みで実施している。また COGES 連合も、このキャンペーンのための活動計画を作成し、各 COGES の活動を支援するために、模擬試験を組織的に行うための準備している。当プロジェクトでは、COGES 連合が作成した質の改善キャンペーンのための活動計画の枠組みで、支援要請を受けた試験の練習問題および回答集について、合計 2,000 冊を、6 年生が在籍する COGES 連合へ配布した。尚、国家卒業試験の実施は 6 月 28、29 日を予定されている。

### (4) 7COGES 連合に対する収入創出活動

プロジェクト支援による 7COGES 連合の収入創出活動が開始されてから 2 ヶ月が経つ。氷・清涼飲料販売を実施している 6 連合のうち、活動休止中の 1 連合を除いた 5 連合における今月の収支残高は平均 42,289Fcfa となった。先月の平均収支残高 26,980Fcfa と比較すると、状況が改善されつつあるように見えるが、実際は目標の収支残高の 5 分の一にも満たない COGES 連合が大半を占めており、目標額の月 100,000Fcfa 以上に達したのはコニ県サルナワ COGES 連合の 130,775Fcfa だけであった。

また、運営上様々な問題が発生したことで活動を一時休止したイレラ県バダギシリ COGES 連合は、依然として問題解決の糸口を見つけられず、現在も活動を停止したままである。

ビジネスのノウハウにかかる技術的な面だけでなく、COGES 連合メンバー間の結束力やモチベ



ーションの有無も活動に大きく影響しているようである。メンバーが本活動の意義を改めて理解するように努める一方で、実験的に実施している本活動が果たして今後、外部の介入なしに持続発展性のある活動となり得るか、また汎用性のあるものかどうかを見極める必要がある。

#### (5) 校長現状調査アトリエ

今回のアトリエは、学校運営、COGES、さらに学校における学習の質にも決定的な役割を演じる校長の問題を検討し、その現場レベルでの解決策を探るために開催した。アトリエは、主にグループごとの議論を中心に行い、それらの議論を総合する形で進められた。議論では、校長として、その職務実施において多くの困難があることが指摘されたが、特に、校長自身が、学校運営に関する能力及び校内の教員への指導のための能力の不足を感じていることを、もっとも大きな問題と認識していることがわかった。問題分析の結果、校長自身が導きだした解決策は、不足している能力を補う研修であった。

プロジェクトとしては、COGESにおける校長の役割の大きさや、現状での彼らの能力不足に関する問題を認識しており、校長研修の必要性は将来的なCOGESの発展のためにも、教員の質の問題の解決にも、不可欠であると判断している。ニジュールにおける校長養成研修は存在せず、現職研修としてアフリカ開発銀行が2002年～2004年にかけて、学校の運営の事務能力に関する研修を実施したのみである。しかし、研修内容の不備、継続性の欠如などの問題があり、大きなインパクトを与えたとは言いがたい。現状を分析し、最適な校長研修の内容と方法を検討し、実施することが、急務である。

一方、PDDE 合同評価のテーマ別会合の教員養成、現職教員研修において、議論の結果、提案として、校長の学校運営のみならず、教員指導の能力強化がもっとも大きな項目として採用された。また、プロジェクトと研修局長との会談では、今後の校長研修実施に向け、校長研修を今後活動計画に含めること、その方法論としては、遠隔教育が検討されていることがわかった。

プロジェクトとしては、セネガルで実施されたような対面研修だけではなく、まとまった内容のモジュールを自己で勉強できる遠隔教育(通信教育)的な研修が効率的であり、さらに教員指導と教員の自主学習を組み合わせた新しい形の研修がもっともニジュールの現状に適していると判断する。また、継続性を考慮すると、自主研修の形にした校長研修の導入が適している。今後、第2フェーズのデザインの際に、校長研修の導入を考慮していく。(詳細は別添参照)

#### (6) APP 会議、APP クラブ

去年10月にAPPクラブ設置研修を行った68パイロット校の活動が、6ヶ月目に入った。学校によってクラブ活動に濃淡があることが判明してきたため、機能している学校に対し、クラブが機能するための要素を抽出するための調査を行った。(詳細は別添参照)

その結果、機能しているAPPクラブの特徴は、①学校(APPクラブ)からコミュニティーへの密な情報伝達、②コミュニティーと教員の友好的関係、③地域住民と児童主体の活動、④クラブ運営費の自主捻出、であった。逆に機能していないAPPクラブは、上記4点とも欠如していた。その一方で、いくつかの学校では、クラブとコミュニティーの関係が密接ではないものの、教員主導で活動が活発に行われているケースが見られた。しかしその場合でも、活動の持続性においては疑問が残る。

APPクラブの効果として、①児童の積極性の向上、②出席率の向上、③地域住民の参画による学校と地域住民間の関係改善、④学校とコミュニティーの情報伝達の改善などが、教員や住民から聞かれた。このような効果がAPPにあるとすれば、それは同時に、COGES活動の促進や強化の効果につながり、COGES活動の永続化や充実化のための1活動として機能していく可能性がある。

定例 APP 会議では、活動報告のほかに、①住民参画を促す APP クラブのアプローチ、②APP クラブ活動の COGES 連合との連帯の可能性、③APP 作品による収入創出活動、が議題となった。指導主事の報告から判断すると、ブザ県に比べ、コニ県は地域住民の参画にばらつきがあるものの、全般的に見て順調に実施されていると判断できた。(APP 会議詳細は、別添資料参照)

#### (7) コミュニティー幼稚園

近々今学期の終わりを迎える（現時点では、5月末日から6月初旬から3園とも夏休みの予定）コミュニティ幼稚園に対し、現況見分および来年度以降の方針（継続／変革／廃園等）に関する聞き取りを主な目的として、巡回視察を実施した。今月の新たな動きとしては、プロジェクトからの提案を受け、村の老婦人からなる幼稚園支援グループ（association de grand-mère - 祖母の会）がひとつの対象村にて結成されたことが挙げられる。まだスタート段階であり、その効用についての是非を判断できる段階ではないが、グループメンバーの意欲的な様子を見る限りでは、今後の発展性に期待が持てる。来学期の方針に関する聞き取りでは、3村ともに幼稚園の存在を好意的に受け止めており、保育者給与形態および運営資金の問題さえ解決できれば、継続への意思は COGES メンバー、保護者、住民ともに強いことが伺えた。しかし逆に言えば、運営資金（保育者報酬、水確保の費用等）の問題を解決しない限り、当該3村での持続性、並びに他地域への普及可能性も安定的とはいえない。これを受け、現在どの村においても、来年度以降の保育料および運営費回収システムの再検討を進めており、共同農場や食料（ミレット）による支払い、収穫期一括払い等がその案として挙げられている。

今年度2月から開始したコミュニティ幼稚園であるが、この4ヶ月間、プロジェクト側・運営者側・住民側共に、まさに手探りの中での実施であったにもかかわらず、各村とも保護者の評判は比較的芳しく、園児出席率は常に良好な状態を保ち得た。この理由のひとつには、小学校との併設形態による効果が考えられる。登下校を姉兄と共に出来る（保護者が送り迎えをする必要がない）のに加え、身内がすぐ傍にいるという安心感が、園児の登園・出席を確実化していると思われる。かつ、小学校校長・教員による日常的な支援・モニタリングが可能という効用もあり、その点では幼稚園の継続可能性を高められると思われる。その一方で、小学校の状況に左右され易く（小学校教員のストライキに伴い幼稚園も休園になるなど）、かつ、住民意識の上でもコミュニティ幼稚園が公的教育機関と同様の位置づけとなり、住民の「所有者意識」確立や「開かれた」幼稚園づくりの足枷となる可能性、および保育内容の学習偏重傾向を促す等、幼稚園自体の柔軟性に影響する可能性も考えられよう。

#### (8) ザンデールのパイロット活動

ザンデール州にて5月3日から17日までの15日間、保護者代表、COGES 委員選出のための民主選挙実施にかかる研修が実施された。この研修はコミュニオン単位で開催され、昨年度のパイロット60校を除いた全小学校にあたる1,544校の校長が研修に参加した。この研修後、各小学校で、研修を受けた校長が民主選挙を実施するための準備を行い、6月14日までに、すべての学校で民主的な COGES が誕生することになる。なお、今回の研修は、今後のみんなの学校モデルの汎用性を高めるために、プロジェクトスタッフの直接の介入なしに、全面的に NGO 委託で実施した。実施形式は、NGO が COGES 監督官、COGES 担当官の研修実施を支援に回り、研修の準備、実施は、ニジュール側が行なう形で実施した。研修は、予想以上の効率性を持って行われた。ザンデールでは、当初から、COGES 監督官、担当官の士気が高く、コミュニティ自体の意識も高い印象を受ける。今後プロジェクトが目指す、COGES 普及モデルの完成度を高める最適な

地域と判断される。

### (9) 中央、他ドナーの動向

今月 24～26 日に、基礎教育・識字省、PTF 合同 PDDE 中間評価が行われる予定であったが、会計監査の遅れにより、直前に、来月 14～16 日に延期された。しかし、今月は、月末の評価会合を目指し、非常に多くの会合がこの評価の準備のために開催された。評価は、財務などの監査結果のほかに、教育の質、アクセスなどの改善をさらに詳細に分類したテーマごとの評価からなっている。このテーマごとの評価結果は、先月ニジュール 5 州で行われた PTF と基礎教育・識字省関係者による現地調査の結果をテーマ別に問題点を抽出し、解決策を提案としてまとめる形をとる。それを更に、PTF の全体会合で議論した結果を、最終的に PDDE の中間評価としてまとめる。(総合的な評価結果の報告は、来月別途行うこととする)

### (10) プロジェクト運営管理

#### ①プロジェクト運転手の新規雇用

先月末の現地業務費によるプロジェクト新車両の購入に伴い、タウア州労働局を通じて運転手の新規採用の公募をしたところ、約 40 人の応募書類の提出があった。書類審査、面接及び実地試験の結果、一人を選抜し、5 月 1 日より 1 ヶ月間の試験雇用契約を結んだ。

#### ②短距離無線の配置

中澤専門家、齋藤専門家の赴任に伴い、新たに短距離無線が 2 台貸与された。これで当プロジェクトでは、事務所に設置されている長距離無線 1 台、各自専門家に貸与されている計 4 台を管理することとなる。

### (10) 課題

中央、他ドナーの動向で述べたように、今月は、月を通し、PDDE の中間合同評価のための準備会合が、様々なテーマ別に行われた。COGES に関する部分においては、タウアでの現地調査での報告が最大限に反映されており、今後タウアモデルの普及へ大きな前進と捉えることができる。しかしながら、COGES には、学校運営の改善だけではなく、女子の就学改善、契約教員の質の改善、教科書管理や学校保健の普及などの分野でもその貢献が求められている。実際に、プロジェクト実施を通し、教育分野の大きな課題である教育のアクセス、質の改善は、コミュニティーとの関係、つまり COGES を通して改善策を見つけない限り、PDDE の期間内で大きな成果を得ることは困難であることが判明してきた。しかし、PDDE の中で、COGES に多くの役割を課している大きな理由は、地方分権化の流れを受けて、あるいは、中央行政の非効率な運営の反動で、多くの役割を地方、あるいはコミュニティーへの責任を課ざるを得ないためであり、計画として PDDE は、COGES を通した統合的な教育改善戦略を包含していない。この統合的な戦略を提案できるのは、広い範囲で、COGES による教育改善活動を支援し、その経験を有している本プロジェクトのみであり、今後、PDDE の前進に向け、COGES の統合的な活動に関する提言を行っていかねばならない責任があると言える。しかしながら、現在の状況は、今年になって、教育アドバイザーが PTF 会議に出席するようになってきているが、各会議において、プロジェクトの経験に基づいた建設的な提案を行うまでには至っていない。これは、教育アドバイザーの能力不足とそれ以上に、プロジェクトの経験の共有のための、成果の客観的な判断材料となる定量的な評価や、あるいは、様々な分野の中で COGES の役割を理論的に位置づけ、それを戦略として発信していくキャパシティがプロジェクトに欠如しているからである。

COGES には様々な分野での貢献が可能であり、それはまた、プロジェクトの可能性でもあり、PDDE の



可能性でもある。したかつて、第2フェーズの策定に向け、他のJICAの教育案件との関連性を考えながら、ニジェールの全体計画の中でプロジェクトが最大限の貢献を出来るようどのように位置付けるかが、プロジェクトデザインの際に重要な視点となる、またプロジェクトの活動の計画作成の際には、PDDEの進展を考慮し、年2回行われる合同評価や3年ごとに行われるフェーズごとの評価のタイミングに合わせ、プロジェクトからの統合的なインプットが出来る活動スケジュールを作成すべきである。

## 5. 6月の予定

| 予定                       | 期間        |
|--------------------------|-----------|
| ➤ 学校プロジェクト会議             | 6月下旬      |
| ➤ COGES 担当者会議（タウア）       | 6月下旬      |
| ➤ APP 会議                 | 6月下旬      |
| ➤ COGES 担当官会議(ザンデール)     | 6月15日     |
| ➤ PDDE 合同評価会議            | 6月14日～16日 |
| ➤ JICA 域内教育ワークショップ(セネガル) | 6月2日、3日   |
| ➤ 尾上専門家健康管理休暇終了          | 6月2日      |

- 別添資料
- 1 校長現状調査アトリエ
  - 2 APP 巡回視察報告書
  - 3 APP 会議議事録

# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2006年6月)

作成日：2006年7月1日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                                                                   | 担当、出張者                    |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| 6月1日(木)  | Niamey→Dakar                                                                                         | 中澤                        |
| 6月2日(金)  | JICA 域内教育ワークショップ (セネガル)<br>質の向上キャンペーンにかかる模擬試験モニタリング (Garma)<br>(尾上専門家一時休暇修了) Tahoua→Niamey           | 中澤<br>Gambobo<br>原        |
| 6月3日(土)  | Niamey→Tahoua                                                                                        | 尾上                        |
| 6月4日(日)  | ▼                                                                                                    |                           |
| 6月5日(月)  | UNICEF 就学前教育及び協力隊学校保健見学<br>質の向上キャンペーンにかかる模擬試験モニタリング (Tama)<br>Dakar→Niamey                           | 影山<br>Kabo, Osseini<br>中澤 |
| 6月6日(火)  | 質の向上キャンペーンにかかる模擬試験モニタリング (Tchinta)<br>Niamey→Tahoua                                                  | Gambobo, Ousseini<br>中澤   |
| 6月7日(水)  | COGES 連合年間総括会議 (Malbaza)                                                                             | Gambobo                   |
| 6月8日(木)  | 質の向上キャンペーンにかかる模擬試験モニタリング<br>Dosso→Tahoua<br>Niamey→Tahoua                                            | 尾上<br>影山<br>原             |
| 6月9日(金)  | APP モニタリング (Bouza)<br>Tahoua→Tahoua                                                                  | 齋藤<br>原、尾上                |
| 6月10日(土) | Niamey→Tahoua                                                                                        | 尾上                        |
| 6月11日(日) |                                                                                                      |                           |
| 6月12日(月) | COGES 連合年間総括会議 (Allela)                                                                              | Kabo                      |
| 6月13日(火) | COGES 連合年間総括会議 (Kaou)<br>質の向上キャンペーンにかかる模擬試験モニタリング (Illela) 及び<br>APP にかかるアンケート用紙配布の巡回 (Bouza, Konni) | Osseini<br>齋藤             |
| 6月14日(水) | PDDE 合同評価会議(ニアメ 原出席) Tahoua→Zinder                                                                   | Ibo, Hamza                |
| 6月15日(木) | COGES 連合年間総括会議 (Doguerewa)<br>ザンデール COGES 担当官会議                                                      | 尾上<br>Ibo, Hamza          |
| 6月16日(金) | COGES 連合年間総括会議 (Tama)<br>▼ COGES 担当官臨時会議                                                             | Gambobo<br>尾上, Kabo,      |
| 6月17日(土) | COGES 連合年間総括会議 (Bazaga)<br>Zinder→Niamey<br>Zinder→Tahoua                                            | 尾上<br>Ibo<br>Hamza        |
| 6月18日(日) |                                                                                                      |                           |
| 6月19日(月) |                                                                                                      |                           |
| 6月20日(火) | COGES 連合総会 (Tebaram)<br>就学前教育 COGES アトリエ<br>無償小学校建設予備調査                                              | 尾上                        |
| 6月21日(水) | 技プロ、無償連携についての打合せ                                                                                     | 原                         |
| 6月22日(木) | Niamey→Tahoua                                                                                        | 原                         |
| 6月23日(金) | APP モニタリング及びミッションにかかる打ち合わせ (Konni)<br>ミッションにかかる打ち合わせ (Illela)                                        | 齋藤<br>影山                  |
| 6月24日(土) |                                                                                                      |                           |
| 6月25日(日) |                                                                                                      |                           |
| 6月26日(月) | Niamey→Tahoua<br>COGES 担当官会議                                                                         | Ibo<br>全員                 |
| 6月27日(火) | ▼                                                                                                    |                           |
| 6月28日(水) | Tahoua→Niamey                                                                                        | 原                         |
| 6月29日(木) |                                                                                                      |                           |
| 6月30日(金) |                                                                                                      |                           |

## (1) 今月の総括

今月タウアでは、教育の質キャンペーンの目標である小学校卒業試験を月末に控え、COGES 連合主催による模擬試験が多く開催された他、COGES 連合の年間総括会議、APP クラブ活動が行われ、プロジェクトでは、それらの活動のモニタリングを行った。また、月例 COGES 担当官会議のほか、COGES 連合機能化のための臨時会議も開催された。ザンデールの月例 COGES 担当官会議では、先月行った COGES 民主選挙研修後の選挙実施状況が主な議題となったが、1500 校中、すでに 9 割で民主選挙が行われたことが判明した。ニアメでは、PDDE の中間評価のための合同レビューが開催されたほか、就学前教育 COGES アトリエをフィールド調整員と協力して開催した他、ドッソ学校保健協力隊グループ、また、無償小学校建設計画の調査団との連携についての会議が持たれた。その他、セネガルで開催された JICA 域内教育ワークショップに中澤専門家が参加した。

## (2) タウア COGES 連合機能強化

### ① COGES 担当官会議

今月は、16 日に臨時会議、26 日に通常の月例会議、と二回の COGES 担当官会議を開催した。臨時会議ではワークショップ形式で COGES 連合の機能強化に向けた取り組みとして連合事務局の運営体制と活動状況に関する実態調査を実施するための研修を COGES 担当官に対して行なった。質問項目は、連合メンバーにおける連合の意義役割の認識度から事務局メンバーの資質・適性、会計管理や情報伝達システムなどの運営体制、活動の計画実施モニタリング体制など、多岐にわたり、そのまま COGES 担当官が COGES 連合の活動をモニタリングする際の確認事項にもなりうるものである。これまでのモニタリングの結果や上述の調査結果を踏まえて COGES 連合の機能強化のための条件や教訓を抽出し、現在作成中の COGES 連合のマニュアルに反映する予定である。

また、26 日に開催した月例 COGES 担当官会議では、それぞれの COGES 担当官から 6 月の活動報告が行なわれた。質の向上キャンペーンの活動報告（卒業候補生に対する模擬試験の実施）、COGES の学校活動計画年間総括表の回収状況報告、COGES 連合の年間活動総括会議の実施状況報告、そして上述の聞き取り調査の状況報告、が行なわれた。COGES の学校活動計画総括表の回収状況は活動計画を提出した 1264 校中 26 日現在で 928 校分が回収された。残りの総括表回収については 7 月以降の学校休暇時期の前までにすべてを回収することが確認された。質の向上キャンペーン、COGES 連合の年間活動総括会議、の実施状況については後述する。

今回の会議は全国一斉に行なわれる卒業試験の直前であり、COGES 担当官も準備等で多忙である為、時間を短縮し約 4 時間の会議となった。

### ② COGES 連合年間総括会議

6 月は各 COGES 連合による一年間の活動総括にかかる総会が 9 つの連合で実施された。それぞれこれまでの活動の総括と会計報告、また来年度に向けた取り組みなどについて話し合われた。

どの連合も質の向上キャンペーンにかかる補習授業の実施や模擬試験の企画組織に予想を超えた結果を残し、各 COGES の代表である総会参加者も改めて COGES 連合の意義や重要性、そしてそのインパクトの大きさを実感した様子であった。しかしながら、ほぼ全ての連合で活動維持のための資金繰りに苦勞しており、プロジェクトはじめ外部からの支援を求める発言が少なからずあった。現時点での情報では 7 月に 2 連合で総会が予定されているもののそのほかの連



合での総会開催は未確認のままである。COGES 担当官からの報告によると、総会の実施については消極的なところが多く、その理由として、事務局委員の総会開催の意義についての意識が低いこと（プロジェクト側からの開催の確認を行なうまでは開催の意図がはじめから無かった）、総会実施にかかる資金が捻出できないこと、COGES 連合初年度で年間活動計画の策定が不十分であったこと、時期的に卒業試験やその後の休暇時期に重なっているため時間が確保できない、などが挙げられる。しかしながら、一年を締めくくる総括の会議は連合にとって不可欠であるとの認識から COGES 担当官から各連合事務局に対して極力総会を開催する方向で検討するよう要請した。地域社会の教育開発において COGES 連合が果たす意義役割及びそのインパクトは非常に大きいものがあるといえるが、現時点では連合の組織としての機能が未熟であるところがほとんどで、早急に概念の再整備を含めた、機能する運営体制のモデルを構築することが必要である。この認識に立ち、現在、これまでのタウア州での経験から教訓を引き出し COGES 連合の概念とその運営体制や活動事例を明記したマニュアルを作成中である。マニュアルは 7 月初旬には完成させ、タウア州の既存の連合の機能化への参考資料とするほか、同月中旬以降に予定しているザンデル州での COGES 連合設置研修のマニュアルとして配布予定である。

### (3) COGES 連合を通じた教育の質の改善イニシアチブ

COGES 連合が中心となり展開している教育の質向上キャンペーンでは、6 月末に全国一斉に行なわれる卒業試験の合格率の向上を目指して、5 月と 6 月にかけてその模擬試験を COGES 連合の主導により実施した。模擬試験はタウア州の 8 県 1 市の計 33 コミューンで実施され、結果の報告がなされていないチンタ県を除いた、タウア州の 7 県 1 市の計 30 のコミュニティで以下のとおりの結果報告がなされた。一般的に受験者は毎年卒業試験を準備を行わないで受験することが多く、このように事前に模擬試験を受験することで、受験方法や問題の内容について事前にその感触を得られることで、本試験でのパフォーマンスが向上することが期待される。今回は受験資格者のうち約 86%の児童が模擬試験を受験したことになる。以下の表中の合格率については、低い数値が出ているが模擬試験ということで試験内容も本試験よりは若干難しく設定し、採点も厳しく行っているためである。

| 受験資格者数 | 受験者数  | 合格者   | 合格率    |
|--------|-------|-------|--------|
| 8,732  | 7,576 | 1,875 | 24.74% |

また 6 月 28、29 日両日には全国一斉の本試験が実施されたが、試験の一週間前になり基礎教育・識字省から地方事務所に試験準備のための十分な予算が確保されないとの連絡があり、現場の視学官事務所は直前まで試験会場までの受験生の運送にかかる車輛の手配及びガソリン代等の調達に支障が生じる場所が出た。今回に限らず、毎年受験生を運送する車輛が調達できなかったり、雨で道路が遮断されたり、といった事情で毎年受験機会を失っている児童が少なからずいるということであるが、残念ながら今回の質の向上キャンペーンで当初行った活動計画の協議においてこの対策が抜けていたことが悔やまれるところである。しかしながら今回の問題によって COGES 連合や関係者が事前に協議し、共同で準備を行なうことの重要性を認識するきっかけとなった。

### (4) 7COGES 連合による収入創出活動

COGES 連合による収入創出活動について、氷・清涼飲料販売を行なっている 6 連合のうち活動

休止状態のバダギシリ、6月の収支報告が未着のタウアコミュニケーション II をのぞいた4連合の売上総額の平均は6月21日現在、79,218Fefaであった。各連合ともほぼ先月の水準と同じか若干の伸びを示しているものの、収益が大きく改善しているところはサルナワ以外には無い。アバラックでは市場の開拓の為に近隣のマルシェの日に移動販売を行なうなど各連合とも収益向上のための戦略を向上する努力はしているものの、まだまだ生産管理や販売在庫管理など基本的な運営管理が徹底していないなど一定の収益を安定して確保できる体制までには程遠い状況であるといわざるを得ない。連合内での情報共有やモニタリングの不足なども課題として挙げられる。また、活動休止状態であったバダギシリではようやく総会の承認のもとで生産販売担当者が指名され、活動を再開した。一方で玉ねぎの投機取引を計画しているガルマについては現在玉ねぎの値段が買付時の2倍に達しており、運営委員会によると保存している玉ねぎの半分を近いうちに売りに出す予定である。玉ねぎの保存状況も概ね良好であり、今後は残った半分を更なる値上がりにあわせて売りに出す予定である。例年、8、9月には少なくとも約3、4倍の値段に上昇するとの事である。

#### (5) APP 巡回

昨年11月よりタウア州ブザ及びコニの2県計68校で実施している「APPクラブ」が、3ヶ月間の夏季休暇に伴い今年23日をもって終了した。今年度から本格的に開始した、COGESを通じた地域住民と行うAPPによって、APP活動材料が提供され、学校活動が活発になり、教員と地域住民の関係が改善しているとの報告を受けた。また、児童もAPPを楽しんでおり、学校に通学する意欲につながっている。

一方、今年度の活動作品に関しては、展示・発表会の機会を持たず、十分な評価が実施できなかった学校があったことから、今後は活動の永続化の上でも、評価に関する改善が課題となるであろう。

現在、これらの効果の実証と今年度のAPPクラブ評価を兼ね、68校の全校長及び、ブザ、サルナワの100名の児童と100名の地域住民（各県50名）を対象に、アンケート調査を実施している。この結果を参考に、来年度に向けたAPPクラブの方向性を決定する予定である。今月のAPP会議は、6月28、29日に行われる小学校6年生の中学進級試験のため、7月上旬に延期開催することとした。

#### (6) コミュニティー幼稚園

今年度2月にCOGES活動のひとつとして開始されたコミュニティー幼稚園が、先月末から今月はじめにかけて3村ともに今期の活動を終了し、夏季休暇を迎えた。ひとつの村では休園に際して住民集会を開催し、今年度のコミュニティー幼稚園活動状況を振り返り、園児保護者や保育者からの高い評価をもって、来年度以降はさらに村落内住民全員で幼稚園を支えていこうとの意思を固めたようである。新学期開園は三村共に10月の予定。

#### (7) 就学前教育 COGES アトリエ

今月20～22日の3日間（COGES関連内容は内1日半）、ニジュール全土の幼稚園視学官事務所所長および一部地域の指導主事を対象としたCOGESに関するアトリエが開催された。今回のアトリエは、就学前教育部門へも将来的にCOGESを導入することを視野に入れ、就学前教育地方指導者レベルでのCOGESに関する理解を深めようとの意図による。当プロジェクトのスタッフが、タウア州初等教育部門におけるCOGES導入経験を含めた、COGESの意義、

設立工程及びその機能、学校活動計画、住民啓発等に関する説明を行い、それを基にして、今後の就学前教育部門における導入戦略が参加者内で議論された。

#### (8) 識字クラス“セカンド・チャンス”

タウア州内 2 村において、COGES 活動のひとつとして実施されている住民運営の「2nd Chance クラス」が、今月中旬に学期終了を迎えた（来学期開校は、初等学校と同様 10 月の予定）。夏季休暇突入直前に、2 村中 1 村において、クラスの状況見分のための小テストを実施した。クラス開始時の状況が不明な為、児童の達成具合、理解向上具合等の判断は出来ないが、児童のほとんどが全くの未就学児であったことに鑑みると、多くの児童がこの半年間の授業を通して、筆記や算数の能力を確実に取得していることが伺えた。その一方で、クラス内での児童の理解度に大きなばらつきが出てきていることも今回明らかになった。これは、クラス内児童の年齢が一律でない（8～11 歳）「2nd Chance クラス」の特徴が少なからず影響していると考えられる。1 年目にこれほどの学習進度に差が出てきているのに加えて、通常学級よりも多年齢、多彩な児童の集まりである 2nd Chance クラスにおいては、今後もこの進度のばらつきは拡大していく可能性が大いにあろう。このようばらつきのある学級をどのように指導していくかは非常に難しいところであり、担当教員への教育的な側面でのフォローアップの必要性が今後問題となってくる可能性は高いであろう。

#### (9) 教員養成校の学生による Abalak 県 COGES 活動見学

6 月 2、3 日及び 10 日の 3 日間、タウア市の教員養成校の学生 70 人が 3 グループに別れて、Abalak 県 Kehehe 小学校の COGES を訪問した。見学に先立ち、参加する学生に対して、出発前日に当プロジェクトで備上しているローカル NGO スタッフより、当プロジェクト及び COGES についてのプレゼンテーションを実施し、学生は基礎知識を得た上で、当日、COGES の活動及び学校活動計画で作られたバンコの教室などを見学した。これらの学生は、教員養成校卒業後には契約教員として各小学校で勤務することになるが、COGES の役割の一部に契約教員の管理が規定されていることから、事前にこうして COGES の活動及び COGES と契約教員との関係を理解することで、将来、彼らが勤務する各小学校にて、双方の協力による学校環境改善が円滑に進むことが期待される。

#### (10) ザンデールにおける活動

5 月上旬に実施した COGES 設置にかかる選挙研修後それぞれの学校で民主的なプロセスによる COGES の設置が行われた。6 月 15 日に開催されたザンデール州 COGES 担当官会議における報告では、現在までに COGES 設置にかかる議事録を提出してきた学校（つまり民主的選挙により COGES を設置した学校）は 1,313 校（研修受講学校数 1,486 校中）にのぼり、予想以上に効率的、効果的な研修となったことが伺える。COGES 担当官からのモニタリング報告では若干の学校で前年度に非民主的に設置された COGES とそれを支持する村長が民主的選挙による COGES メンバーの改選を拒否するところがあったが、視学官事務所長や COGES 担当官が介入、説得し最終的にはほとんどの学校で問題は収束し、無事に選挙が行なわれたとのことである。7 月中旬からはこれらの COGES の代表 2 名を集めて学校活動計画研修及び COGES 連合設置研修をザンデール市及びその他都市部を中心とした計 10 コミュニティにて行なう予定である。



#### (11) 援助協調、ドナー動向

2006年6月14日から16日にかけてニジェール政府とPTF（技術・財政パートナー）によって行われた教育分野の合同レビューが開催された。この合同レビューは、PDDE（教育開発10カ年計画）の進捗状況を評価するために、過去2回開催されているが、今回のレビューは、PDDE開始後3年を経て、中間評価の位置づけを持たせることとなり、現地調査も含む、大掛かりな評価となった。詳細は別送の報告書を参照。

#### (12) JICA 域内教育ワークショップ(セネガル)

今月2日、3日に、中西部アフリカ地域支援事務所の主催で、セネガルにて第3回JICAアフリカ域内教育ワークショップが開催された。本会合には中西部アフリカ諸国だけでなく、東南部アフリカで活動する教育分野の専門家や企画調査員、教育セクター担当のJICA事務所所員が参加した。議題はJICAのアフリカ地域における教育協力の方向性やプログラムアプローチなどの実務的なものだけでなく、地方分権や学校運営等、個別のプロジェクトにかかる事例発表や、厳しい財政事情を反映した状況下で効率的・効果的な事業を実施するための案件形成のノウハウについての発表など、多岐にわたる内容であった。議論もテーマごとに非常に活発に交わされた。詳細は別添報告書を参照。

#### (13) みんなの学校プロジェクトと無償小学校建設との連携

今月23日より、無償小学校建設計画予備調査団が訪二した。この調査団の目的のひとつに、小学校建設計画と技プロとの連携の模索があり、事務所と調査団の打ち合わせに、プロジェクトから原専門家が出席した。同専門家は、プロジェクト側からの見解をパワーポイントにより説明し、その後討議を行った。具体的な連携の形として、小学校建設計画の対象地域であるザンデルとマラディにおいて、ソフコンの内容にどのような統一性をもたせるか、小学校建設のハードとソフトそしてプロジェクトとの連携をどのように行うかという2点を中心に議論が行われた。ソフコンの方向性としては、プロジェクトのミニマムパッケージに、維持管理技術研修とトイレの使い方研修を付け加えたものを、マラディにおいて行い、プロジェクトですでにミニマムパッケージを実施しているザンデルにおいては、それ以外の研修のみ行うことが大枠で合意された。小学校建設計画のハード、ソフト及びプロジェクトとの連携については、プロジェクト側と小学校建設計画の現地責任者との定期的な会合を行うことの必要性が強調された。

#### (14) プロジェクト運営管理

##### ① 本部調査団の日程及び調査目的の変更

予定された7月18日～8月4日のプロジェクト終了時評価調査団の訪問について、調査の目的及び日程が変更された。調査団の都合により、運営指導調査に切り替え、7月18日～7月31日の13日間、プロジェクト・サイトを訪問することとなった。今回はフェーズ2の方向性についてプロジェクトとの協議が中心となる。

##### ② プロジェクト運転手の正規雇用

5月1日より1ヶ月間の試験雇用契約を結んだ運転手に対して、プロジェクト終了予定の2006年12月までの7ヶ月間、当プロジェクトの正規スタッフとして契約を結んだ。

### (15) 課題

プロジェクト全体の課題としては、現在、プロジェクトが COGES 政策実施の中心的存在になってきているにも関わらず、政策実施を推進する絶好の機会である今回のレビューで、その経験や情報の提供が少なかったことが挙げられる。実質的に、プロジェクトのミニマムパッケージ等が COGES 政策に反映される方向性にはあるが、公的な場で、関係者の共通認識を得るのに絶好であるこのような機会に、PDDE の全体的な進展や各関係者の立場などを考慮に入れた提案を適宜行えなかったことは残念である。この理由は、プロジェクトの経験や蓄積を、COGES 政策の全体的な動きから分析することを怠っていたことと、分析を裏付けるような指標を取ることを行っていなかったことが挙げられる。今後、第2フェーズのデザインを考える際にも、プロジェクトの内容を始め、その実施体制にも、組織的なプロジェクトから国家政策に対する貢献を考慮していかなければならない。

### 5. 7月の予定

| 予定                   | 期間        |
|----------------------|-----------|
| ➤ APP 会議             | 7月7日及び下旬  |
| ➤ COGES 担当者会議（ザンデール） | 7月下旬      |
| ➤ COGES 担当官会議（タウア）   | 7月下旬      |
| ➤ 本部運営指導調査団プロジェクト訪問  | 7月18日－30日 |

別添資料1：第3回アフリカ域内教育ワークショップ出張報告書

# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2006 年 7 月)

作成日：2007 年 8 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                                                                           | 担当、出張者                               |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 7月1日(土)  |                                                                                                              |                                      |
| 7月2日(日)  |                                                                                                              |                                      |
| 7月3日(月)  |                                                                                                              |                                      |
| 7月4日(火)  |                                                                                                              |                                      |
| 7月5日(水)  | Niamey→Tahoua                                                                                                | 原                                    |
| 7月6日(木)  |                                                                                                              |                                      |
| 7月7日(金)  | APP月例会議 Tahoua→Niamey                                                                                        | 原、齋藤、カボ                              |
| 7月8日(土)  |                                                                                                              |                                      |
| 7月9日(日)  |                                                                                                              |                                      |
| 7月10日(月) | 終了時評価にかかる訪問学校選定打合わせ(教育主事) Konni                                                                              | 齋藤、カボ                                |
| 7月11日(火) | 終了時評価にかかる訪問学校選定打合わせ Illela                                                                                   | 影山、カボ                                |
| 7月12日(水) | APPクラブ今年度終了にかかる活動報告(Bouza) Tahaoua→Zinder                                                                    | 尾上、イボ 齋藤                             |
| 7月13日(木) | 終了時評価にかかる訪問学校 COGES との打ち合わせ Konni<br>ザンデール州 COGES 担当官向け COGES 連合研修講師研修                                       | 齋藤、<br>尾上、イボ                         |
| 7月14日(金) | 終了時評価最終打合せ(コニ)<br><br>Niamey→Konni<br>Zinder→Konni<br>Tahoua→Konni                                           | 原、尾上、中澤、齋藤、影山<br>原<br>尾上<br>中澤、齋藤、影山 |
| 7月15日(土) | COGES 学校活動計画研修 (Zinder Com1, Goure Com)<br><br>Konni→Niamey<br>Konni→Tahoua                                  | 原<br>尾上、中澤、齋藤、影山                     |
| 7月16日(日) | COGES 連合設置研修 (Zinder Com1, Goure Com)                                                                        |                                      |
| 7月17日(月) | 横関専門員到着 Tahoua→Niamey                                                                                        | 中澤                                   |
| 7月18日(火) | 終了時評価調査団現地調査 石原 T 長、岩崎職員、増田専門員到着<br>終了時評価にかかる訪問学校 COGES との打ち合わせ<br>COGES 学校活動計画研修 (Zinder Com4, Magaria Com) | 齋藤、影山、ウセイニ                           |
| 7月19日(水) | 午前 基礎教育・識字省、事務所<br>午後 コニへ、プロジェクトからのプレゼン<br>COGES 連合設置研修 (Zinder Com4, Magaria Com)                           | 調査団、原、中澤、尾上、齋藤、影山                    |
| 7月20日(木) | 午前、COGES 連合視察、州基礎教育・識字事務所長、COGES 監督官面談<br>COGES 学校活動計画研修 (Zinder Com3,5, Mirriah Com)                        | 調査団、原、中澤、尾上、齋藤、影山                    |
| 7月21日(金) | 午前 APP クラブ、コミュニティー幼稚園、学校プロジェクト視察：視察<br>COGES 連合設置研修 (Zinder Com2, Matameye Com)                              | 調査団、原、中澤、尾上、齋藤、影山                    |
| 7月22日(土) | 午前、ザンデールへ移動、午後、州基礎教育・識字事務所長、COGES 監督官面談、学校活動研修視察<br><br>Konni→Niamey<br>Konni→Tahoua                         | 調査団同行、尾上、齋藤、影山<br>原<br>中澤            |
| 7月23日(日) | 研修視察、学校訪問等                                                                                                   |                                      |
| 7月24日(月) | ニアメに移動 Tahoua→Niamey<br>Zinder→Tahoua                                                                        | 中澤<br>齋藤、影山                          |
| 7月25日(火) | 団内会議<br>COGES 学校活動計画研修 (Tanout Com)                                                                          |                                      |
| 7月26日(水) | 基礎教育・識字省との協議<br>COGES 連合設置研修 (Tanout Com)                                                                    |                                      |
| 7月27日(木) | 基礎教育・識字省との協議                                                                                                 |                                      |
| 7月28日(金) | 合同調整委員会、ミニッツ署名 調査団離二                                                                                         |                                      |



|          |               |       |
|----------|---------------|-------|
| 7月29日(土) | Niamey→Tahoua | 尾上、中澤 |
| 7月30日(日) |               |       |
| 7月31日(月) | Niamey→Tahoua | 原     |

### (1) 今月の総括

今月タウアでは、COGES 連合による各 COGES の学校活動計画の最終自主評価表の回収、総計、学校プロジェクトの総括、APP 活動のアンケート調査集計、分析などが行なわれたが、主な活動は、プロジェクト終了時評価受入れ準備とその受入れであった。終了時評価は無事終了し、基礎教育・識字省側に合同調整委員会において、その結果を発表し、討議の上、ミニッツが署名された。ザンデルールにおいては、10 コミューン、375 校に対する学校活動、COGES 連合設置研修が行われた。

### (2) プロジェクト終了時評価 (別添参照)

7月18日から28日までの11日間、プロジェクト終了時評価が行われた。評価は、現地調査、関係者からの聞き取り、基礎教育・識字省との会議からなり、調査後、最終的な評価結果がまとめられ、その内容につき、基礎教育・識字省側と協議した後、合同調整委員会の席で、基礎教育・識字省次官と調査団団長が協議議事録に署名した。

### (3) タウア COGES 連合機能強化

COGES 連合の機能強化にかかるガイドライン(研修マニュアル)が完成した。タウア州での一年目の経験をもとに、COGES 連合の意義や役割と運営を機能化するために不可欠と思われる要素をタウア州の事例を紹介しながらまとめた。このガイドラインの内容はザンデルール州の10 コミューンで7月中旬から下旬にかけて行なわれた COGES 連合設置研修に反映され、タウア州の既存の COGES 連合についてもその内容の浸透を図っていく。

### (3) COGES 担当官会議

今月は、終了時評価が月末までであったため、担当官会議は、8月に延期された。

### (4) COGES 連合を通じた教育の質の改善イニシアチブ

このイニシアチブにより、COGES 連合は、組織的模擬試験の実施などで、大きな可能性を見せた。しかし、統一試験の結果は、8州中、7位と振るわなかった。これは、直前の模擬試験などの措置が付け焼刃に過ぎず、試験の結果に結びつかなかったことを意味しており、今後、10月からの COGES 連合の活動計画では、より早期に本質的な改善活動を行っていく必要があることを示唆している。

### (5) APP クラブ

今月の活動は、7月7日(金)に行った APP 月例会議(全国統一修了試験のため先月の会議を同日に延期した)及び、終了時評価調査団受け入れであった。APP クラブ月例会議は、通常通り、2 県各 2 名計 4 名の教育主事と共に行われた。会議内容は、主に学期末に実施した APP クラブ評価のアンケート結果の確認及び分析であった。アンケートの結果、児童、教員、コミュニティー、3 者共に、APP クラブによって、確実に児童が技術を身につけていること、児童が喜んで学校に行くようになったなど、肯定的な回答が寄せられており、来年度もこの活動を続ける意思を確認できた。また、その他のデータからは APP クラブを導入する前と後で、出席率が平均 8% 上昇した事実から、APP クラブの導入は学校出席率貢献の可能性が高いことも判明した。これら

のアンケート結果を基に、各教育主事は APP クラブ活動報告書作成、提出予定である。

7月18日（火）より開始された終了時評価団に対する APP クラブ活動発表は、上記のアンケート調査内容を基に行った。21日（金）の APP クラブ校訪問（2校）では、雨季の多忙な農作業にも関わらず、COGES メンバーを含めた多くの地域住民、教員、児童が集まり、平常行っている APP クラブの様子を紹介した。

#### **(6) コミュニティー幼稚園**

今月のコミュニティ幼稚園関連の活動としては、プロジェクト終了時評価調査団受け入れ準備、およびその受け入れであった。19日には、調査団に対して「みんなの学校プロジェクトにおけるコミュニティ幼稚園」に関するプレゼンテーションを実施した。その後21日には、イレラ県 Dabnou のコミュニティ幼稚園が調査団の訪問を受けた。夏季休暇中の訪問であったにもかかわらず、プロジェクト側からの依頼を受けて、ほぼ園児全員が集合し、保育者と園児による園内活動の見学が可能となった。園内活動の見学後、村長、イレラ県視学官事務所所長、幼稚園視学官事務所所長および COGES 担当官立会いの下、COGES 代表および秘書、保護者会会長、保育者、幼稚園支援女性グループとの質疑応答を行った。COGES メンバーとの事前打ち合わせが十分出来なかったため、万端整った受け入れ体制とは言い難く、また、特別な調査団の訪問に、園児・保育者共に緊張が見られ、通常の園内雰囲気とは幾分異なったことは否めない。しかし、忙しい農耕期にも関わらず、多くの園児と保護者が集まってきたことが、コミュニティ幼稚園への住民の理解と期待を表しているともいえよう。

#### **(7) 識字クラス“セカンド・チャンス”**

今月の“セカンド・チャンス”クラス関連の活動は、終了時評価調査団の受け入れ準備とその受け入れであった。19日には、評価団に対し、「みんなの学校プロジェクトにおける識字クラス“セカンド・チャンス”」の概要および活動状況に関するプレゼンテーションを実施した。その後の21日に、“セカンド・チャンス”クラス活動視察のために、イレラ県 Moujia 村訪問が調査団により実施された。現在は夏季休暇中であるため、今回の訪問のために特別クラスの実施をプロジェクトから依頼したのであるが、そのような事前の訪問告知に応じて、当日は、クラス児童、COGES メンバー、教員、保護者等、多くの住民が学校に会い、調査団を出迎えた。農耕期である現在は村落住民にとって非常に重要かつ多忙な時期であるのだが、それにも関わらず、COGES メンバーの呼びかけに対して協力を惜しまず、調査団のために時間を割いてくれる住民の様子から、住民の COGES 活動に対する理解に加え、両者の良好な関係が伺えた。訪問時には、COGES 秘書である学校長からの活動報告の後、COGES メンバー、住民に対する質疑応答および当該クラスの活動見学を行った。

#### **(8) ザンデールにおける活動**

ザンデール州では、5月の研修後、民主的選挙を経て COGES が設置されているが、そのうち10コミュニティの372校に対して、学校活動計画研修及び COGES 連合設置研修を実施した。学校活動計画研修については、ザンデール州の6名の COGES 担当官及び COGES 監督官は昨年度実施したパイロット60校に対する研修で、講師としての経験をすでに有していたが、今回は新たに COGES 連合設置研修にかかる講師養成研修を7月13日に行なった。COGES 連合研修は他の COGES 関連研修同様、シュミレーションを多く用いて、具体的に COGES 連合が遭遇する問題点などを予め議論のポイントとして想定するなど、より実践的な内容にまとめた。実際の研修では、雨

季の農繁期にもかかわらず、ほとんどの対象校の COGES 代表が参加した。ザンデール州は文化的に寸劇等の芸能が盛んなところと言われており、研修のシュミレーションも要点を説明するだけで問題の本質を理解して即興で寸劇を演じるなど、非常に効果的な研修となった。研修後は、9月までに10 コミュニティにおいて民主的選挙によって事務局委員が選ばれて COGES 連合が設置される予定である

**(9) 援助協調、ドナー動向**

7月～8月は、多くのドナー関係者が休暇を取るため、援助協調の動きは少なかったが、6月に行われた PDDE 合同レビューのエドメモワールの最終承認が行われた。この文章の COGES の項では、COGES に関する経験の共有と戦略文書を作成するためのワーキンググループの設置が提案されている。

**(10) プロジェクト運営管理**

**① 第1四半期現地活動費報告**

今月7日、2006年度第1四半期分のプロジェクト現地活動費の会計報告書類を事務所に提出した。当期の概算額は下記のとおり。

- 1、概算受入額 132,698,000Fcfa
- 2、支出額 52,693,688Fcfa
- 3、差引残額 80,004,312Fcfa

**② プロジェクト車輛新規購入**

携行機材費にて新規車輛を1台購入した。4月より原専門家がニアメでの教育アドバイザー兼任となり、タウアーニアメ間の移動用車輛が必要となったため、長距離移動専用として使用する。今回の購入で、プロジェクト車輛は計4台となった。

**(11) 課題**

プロジェクト終了時評価の提案として、プロジェクトに対しては、特に、ミニマムパッケージ普及に向けて、プロジェクトの経験の文書化と普及化に向けての基礎教育・識字省への働きかけが強調されたが、これは、月報の課題でもたびたび取り上げてきた問題で、プロジェクトの問題意識と一致している。文書化については、すでにプロジェクト内でスケジュール化していたので、問題はない。しかし、基礎教育・識字省側への働きかけに関して、今後、基礎教育・識字省内部の人事異動が行われる可能性も高く、現在までの経緯から見て、基礎教育・識字省側が迅速に対応するかは、疑問の残るところである。8月末までの、戦略文書策定スケジュールの作成に対しては、その原案はすでに出来ているが、それが、基礎教育・識字省側から発出されるためには、粘り強いフォローが必要となる。

**(12) 8月の予定**

| 予定                    | 期間        |
|-----------------------|-----------|
| ➤ COGES 担当者会議 (タウア)   | 8月1日      |
| ➤ COGES 担当官会議 (ザンデール) | 8月下旬      |
| ➤ プロジェクト休暇            | 8月7日～18日  |
| ➤ 原専門家休暇              | 8月4日～9月1日 |



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2006 年 8 月)

作成日：2006 年 9 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                             | 担当、出張者   |
|----------|--------------------------------|----------|
| 8月1日(火)  | COGES 担当官月例会議                  | 全員       |
| 8月2日(水)  | Tahoua→Niamey                  | 原        |
| 8月3日(木)  |                                |          |
| 8月4日(金)  | 原専門家一時休暇開始                     |          |
| 8月5日(土)  |                                |          |
| 8月6日(日)  | Tahoua→Niamey                  | 中澤、齋藤、影山 |
| 8月7日(月)  | プロジェクト事務所夏休み                   |          |
| 8月8日(火)  | Niamey→Tahoua                  | 中澤、齋藤、影山 |
| 8月9日(水)  |                                |          |
| 8月10日(木) |                                |          |
| 8月11日(金) |                                |          |
| 8月12日(土) |                                |          |
| 8月13日(日) |                                |          |
| 8月14日(月) |                                |          |
| 8月15日(火) |                                |          |
| 8月16日(水) | Tahoua→Niamey                  | 齋藤       |
| 8月17日(木) |                                |          |
| 8月18日(金) | ONEN 主催 APP アトリエでのプレゼンテーション    | 齋藤       |
| 8月19日(土) | Niamey→Tahoua                  | 齋藤       |
| 8月20日(日) |                                |          |
| 8月21日(月) | スタッフ会議                         |          |
| 8月22日(火) |                                |          |
| 8月23日(水) |                                |          |
| 8月24日(木) |                                |          |
| 8月25日(金) |                                |          |
| 8月26日(土) |                                |          |
| 8月27日(日) | Tahoua→Zinder<br>Niamey→Zinder | 尾上<br>イボ |
| 8月28日(月) | ザンデール COGES 担当官会議              | 尾上、イボ    |
| 8月29日(火) | Zinder→Tahoua                  | 尾上、イボ    |
| 8月30日(水) | スタッフ会議                         |          |
| 8月31日(木) |                                |          |

#### (1) 今月の総括

今月は7月末の終了時評価の結果を踏まえて、COGES モデルの外部評価やモデル承認のための国内ワークショップの実施計画が策定されるなど、早速中央レベルで評価調査団の提言を反映した、全国普及に向けた動きが始まった。ザンデール州では7月の研修を経て10 コミュンでの COGES 連合設置が順調に行われた。ニジェールでは8月は夏季休暇の時期にあたり、学校関係、官公庁、援助機関も一斉に休暇に入るため、当プロジェクトも5日から19日までの2週間をスタッフの休暇にあてて、活動を休止した。8月後半は、主に9月初旬に予定されている COGES 連合大会の準備を行なった。

#### (2) COGES 担当官会議

8月1日にタウア州 COGES 担当官会議を開催し、COGES 担当官の7月の活動報告のほか、プロジェクトより終了時評価及び合同調整委員会の結果報告、APP 年間総括報告、COGES 連合のマニ

ュアル完成にかかる説明などが議題であった。活動報告では、6月末の卒業試験の結果が視学官事務所ごとに発表され、残念ながら質の向上キャンペーンの実施にもかかわらず、タウア州の合格率は38.53%で、予想を下回る結果となった。また、COGES 連合については、7月上旬に完成したマニュアルの内容について各 COGES 担当官に対して説明をおこなった。9月7,8日にはタウアの COGES 連合の代表を集めた会議を開催し、マニュアルに沿った形で連合の機能強化に向けた研修を行なうことが決められた。

### (3) 「APP クラブ」活動発表

8月18日(金)、NGO「ONEN」からの依頼を受け、「APP クラブ」の活動発表をニアメにて行った。目的は、当 NGO が Aid et Action 及び *Enfant de monde* (スイス) からの資金援助を受け、ニアメ市内の5地区5校にて試験的に実施している、「2nd Chance 学校」プロジェクトのカリキュラム内容に APP クラブを導入する可能性を探るためである。発表対象者は、5校の教員(5名)、指導主事(2名)、ONEN 当プロジェクトスタッフ(5名)の計12名であった。

はじめに、APP クラブの効果及びいくつかの活動事例をパワーポイント及びビデオにて紹介し、その後質疑応答内にて補足説明を行った。

①児童、教員、地域住民への啓発活動、②自由な活動選出、③各クラブでの責任者選出の3段階の設置過程の重要性と地域住民を巻き込んだAPPの実施による活動の永続性を説明したところ、「教科としてのAPP」に重点を置き、教員主導で行うAPPが慣例として捕らえていた参加者からは、地域住民を巻き込んだ新しい視点でのAPPクラブのアプローチに驚きと期待の声が多くあげられた。

現在、彼らが実施している「2nd Chance 学校」は、COGES のような組織が存在しない。しかしながら、地域住民を巻き込んだ「APP クラブ」を実施するためには、COGES に類似した組織を作る事が不可欠であるとし、第一段階として、児童の保護者を集め、同様の組織を設置することを決定した。今回のプレゼンテーションを期に、10月上旬の新学期に向け同 NGO によって、「2nd Chance 学校」におけるAPPクラブが試験的に実施される事になる。

### (4) ザンデルにおける活動

ザンデルでは8月28日にCOGES 担当官会議が開催された。7月に11 コミューンを対象に行なわれた学校活動計画及びCOGES 連合設置研修のモニタリングが行なわれ、8月中に10のCOGES 連合が設置された。なおTanhia コミューンはCOGES 数が4のみであるため、TANOUT コミューンと合同して連合を設置することになった。したがって、研修を受けた11のコミュニティのすべてでCOGES 連合が設置されたことになる。また、9月にはザンデル州の残りの17 コミューンを対象に実施する方向で準備を進めることが決められた。

### (5) 中央、援助協調、ドナー動向

7月末に行なわれたプロジェクトの終了時評価の結果調査団から、プロジェクトの成果(プロジェクトによって確立されたモデル)に対する外部評価の実施とそのモデルを正式に国家政策として反映させ、全国普及への具体的戦略を策定し、政策文書化するための国家ワークショップを開催することが提言として基礎教育省に対して示された。同省はこの提言を取り入れ、早速今年度中の活動計画としてまとめる作業に入った。今年度中に実施する為の活動資金は同省で確保することは難しい為、ドナーに対して資金援助を要請するものと思われるが、本プロジ

ェクトとしては、プロジェクト成果のスケールアップのための絶好の機会であると判断し、これを積極的に支援する方向で検討を進めている。

## (6) プロジェクト運営管理

### ① NGO 業務委託契約

7月に実施されたザンデル州での10連合に対する学校活動計画・COGES 連合設置研修にかかるNGOへの業務委託契約について最終精算額が確定し、最終支払いが完了した。精算額は11,794,000Fcfaで、第1回概算払い分を差し引いた1,685,704Fcfaを支払った。

### ② プロジェクト事務所夏季休暇

今月5日から19日までの2週間、プロジェクトスタッフの夏季休暇とし、その間活動を休止した。

### ③ デスクトップ・コンピュータ及び衛星回線インターネット設置

当プロジェクトの学校活動計画にかかるデータや統計情報処理等の情報集積のために現在使用しているコンピュータが頻繁に故障することから、携行機材費にてデスクトップを購入することとし、現在、業者を選定中である。

また、当プロジェクト事務所では電話回線によるインターネットを使用しているが、通年アクセスポイントに接続しにくく、また使用中に回線が切断される等、業務に支障をきたすことが以前から問題であった。しかし近日、衛星回線によるインターネット設置を取り扱う業者がタウアでも業務を開始したことから、携行機材費にて、同インターネット設置にかかる機材の購入を検討している。ちなみに、電話回線でのインターネットはデータ送受信に時間がかかることから費用がかさむが、衛星回線を使用する場合は、月定額の支払いで回線速度も速くなるため、効率的かつ経済的であると思料される。

## (7) 課題

まず、基礎教育・識字省による外部評価と国内ワークショップの実施計画について、プロジェクトからの資金援助を行なう方向で検討中であるが、現在のところそのための追加予算の確保が確実ではない状況であり、当初予定していた活動の縮小の可能性も検討せねばならず厳しい予算の執行管理が強いられることになる。より一層の経費節減と効率化を図りつつ、追加予算確保に向けた努力を続けていきたい。

また、9月7、8日のタウア州のCOGES 連合大会は、機能するCOGES 連合のモデルの確立に向けた重要な会議となるため、入念にその準備を行ない大会に備えたい。

## (8) 9月の予定

| 予定                                        | 期間        |
|-------------------------------------------|-----------|
| ➤ COGES 担当官会議 (タウア)                       | 9月6日      |
| ➤ COGES 連合大会(タウア)                         | 9月7、8日    |
| ➤ ザンデル州学校活動計画・COGES 連合設置研修<br>(17 コミュニオン) | 9月12日-22日 |



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2006 年 9 月)

作成日：2006 年 10 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                   | 担当、出張者                  |
|----------|------------------------------------------------------|-------------------------|
| 9月1日(金)  | 原専門家一時休暇終了                                           |                         |
| 9月2日(土)  |                                                      |                         |
| 9月3日(日)  |                                                      |                         |
| 9月4日(月)  |                                                      |                         |
| 9月5日(火)  | スタッフ会議<br>Niamey→Tahoua                              | 全員<br>原                 |
| 9月6日(水)  | タウア州 COGES 担当官月例会議                                   | 全員                      |
| 9月7日(木)  | タウア州 COGES 連合大会                                      | 全員                      |
| 9月8日(金)  | Tahoua→Niamey                                        | 原                       |
| 9月9日(土)  | 外部コンサルタント募集のための官報での告知(締め切り9月22日)<br>Tahoua→Zinder    | Ibo                     |
| 9月10日(日) |                                                      |                         |
| 9月11日(月) | ザンデル州学校活動計画、COGES 連合設置研修(17 コミューン)                   |                         |
| 9月12日(火) |                                                      |                         |
| 9月13日(水) |                                                      |                         |
| 9月14日(木) |                                                      |                         |
| 9月15日(金) |                                                      |                         |
| 9月16日(土) |                                                      |                         |
| 9月17日(日) |                                                      |                         |
| 9月18日(月) |                                                      |                         |
| 9月19日(火) | Naimey→Tahoua                                        | 原                       |
| 9月20日(水) |                                                      |                         |
| 9月21日(木) | Tahoua→Niamey                                        | 原                       |
| 9月22日(金) |                                                      |                         |
| 9月23日(土) | ラマダン開始                                               |                         |
| 9月24日(日) |                                                      |                         |
| 9月25日(月) |                                                      |                         |
| 9月26日(火) | 理事訪問にかかる打合せ(Konni)                                   | 尾上、Gambobo              |
| 9月27日(水) | 国家教育評議会<br>COGES 連合事務局会議 (Bangui)                    | 原<br>影山、Kabo            |
| 9月28日(木) | 国家教育評議会<br>COGES 連合総会(Badaguichiri)                  | 原<br>齋藤、影山、Kabo、Gambobo |
| 9月29日(金) | COGES 連合事務局会議(Tsernaoua)<br>COGES 連合事務局会議 (Bagaroua) | 齋藤、影山、Kabo<br>Gambobo   |
| 9月30日(土) | 理事訪問にかかる打合せ (Malbaza)<br>COGES 連合事務局会議(Tajae)        | 尾上<br>Gambobo           |

#### (1) 今月の総括

今月は、タウア州では、COGES 連合大会、COGES 担当官会議が行われた。COGES 連合大会は、現在までの COGES 連合の様々な問題を共有し、その解決策を話し合い、今後の方針を決め、具体的な活動スケジュールを決定することが第1の開催目的であったが、この目標はほぼ達成した。また、この会合において、APP、コミュニティー幼稚園、セカンド・チャンスクラスなどの意義、効果、設立プロセスなどについて会合参加者に説明した。この情報は、COGES 連合から各 COGES へ伝達され、各 COGES の要望が高く、条件を満たせば、COGES 連合へ

ースで各活動を支援することを、プロジェクトでは検討する。ザンデール州では、17のコミュニティにおいて、学校活動計画と COGES 連合設置研修が行われた。これで、ザンデール州のほぼ半数のコミュニティにおいて、COGES 連合が結成されることとなる。また、COGES 政策支援においては、COGES 外部評価の実施を支援することとし、評価実施コンサルタントの募集、選考を基礎教育・識字省とともに行った。選考が終われば、外部評価は10月から2ヶ月間行われる。

## (2) タウア州 COGES 担当官会議

今月の COGES 担当官会議は9月6日に開催され、翌日、翌々日に開催される COGES 連合大会で予定されている連合の機能化に向けた研修の準備に多くの時間が充てられた。研修は昨年度の活動経験を踏まえて作成された COGES 連合マニュアルに沿って、連合事務局がその運営改善に取り組むための方向付けを行なうことを意図しており、その準備を COGES 担当官とともに行った。内容としては、連合が抱える問題点を再整理して寸劇にまとめ、また、現実的で実現可能な活動計画の策定方法を導入するための説明と内容の確認を行なった。午後からは、視学官事務所長が会議に合流して、プロジェクトの終了時評価の結果の報告をおこない、プロジェクト及び COGES 政策の今後の方向性について説明し、視学官事務所のより一層の関与と協力を要請した。

## (3) タウア州 COGES 連合大会

今回は、新学期を前にタウア州における2日間の COGES 連合大会を開催した。討議内容としては、1) これまでの活動を通じた COGES 連合の問題点の整理、解決策の模索、2) 試験合格率向上キャンペーンの結果分析と今後の方向性、3) 7 COGES 連合による収入創出活動の評価、4) COGES による教育開発活動の紹介 (APP、コミュニティー幼稚園、セカンドチャンススクール) であった。非常に重要な議題が多く、大会準備のために、多くの時間を費やし、新しい議論手法も導入した。大会の成果を図るには時期尚早だが、収穫の多い会合であった。

## (4) COGES 連合巡回モニタリング

上述の COGES 連合大会後の連合の取り組み状況についてモニタリングする為に、9月中旬より COGES 担当官及びプロジェクトスタッフが各連合の事務局会合及び連合総会の巡回を開始した。この時期に行なわれる会合と総会は上述の連合大会の内容を連合の各メンバーへ報告し、情報を共有する機会であるとともに、今年度の連合の活動計画や事務局の機能化を話し合う機会でもある。COGES 担当官からの報告によると会合の開催状況は予定よりも若干遅れ気味になっており、その理由はいくつか考えられるが、今年は、新学期の前後がラマダンにあたっていること、昨年よりも収穫期が遅れていること、それに伴って教員の職務開始時期も遅れている、と言った理由が考えられる。しかしながら、時期は遅れるものの、ほとんどの連合が事務局会合と総会の開催準備計画を進めていることが確認できた。これまでの巡回から、事務局の体制に機能障害が生じているところでは、事務局委員の改選を行なった連合や、限られた資源で効率的で現実的な事務局体制作りを目指して改革を進める連合などが既にみられた。

## (5) APP

「COGES 連合大会」2日目の9月8日(金)、タウア州39COGES 連合代表(各2名)計78名に対し、APP クラブプレゼンテーションを行った。目的は、COGES 連合を通じた、COGES への効率

的な情報伝達である。今後、COGES 連合から伝えられた情報によって、APP クラブを学校活動計画に組み込んだ COGES に対しては、APP クラブマニュアルを配布予定である。

また、現在までの APP クラブを「より汎用性のある APP クラブモデル」として確立するには、モニタリングを昨年までの教育主事主導から、COGES 連合主体に移行していく必要がある。したがって、今年度は、APP クラブ対象校 68 校（ブザ県ブザ地区 40 校及びコニ県サルナワ地区 28 校）のうち、APP クラブを継続する意思のある COGES を引き続き APP クラブパイロット校とした上で、当 2 連合をパイロット連合とし、「COGES 連合を通じた APP クラブモニタリングシステム」を構築していく。

#### (6) コミュニティー幼稚園及びセカンド・チャンス

昨年度、5 つの村落（COGES）にて実施されてきたコミュニティ幼稚園およびセカンド・チャンスクラスであるが、今年度は、より広い範囲の COGES に「持続可能性を重視した設立／運営モデル」を提案し、その有効性（発展可能性・汎用性）を探っていく予定である。

その第一歩として、今月 7・8 日に実施された COGES 連合大会にて、COGES 連合からの代表参加者に対し、COGES 学校活動としてのコミュニティ幼稚園およびセカンド・チャンスクラス推進のための情報提供を行った。村落の教育開発に繋がる両活動の概要および利点を説明し、各 COGES 連合の総会を通して、COGES ローカルにこれらの情報が行き渡ることを目指すものである。今後は、COGES 連合総会へ随時参加し、設立手順等の追加情報を提供するとともに、各 COGES の当該活動に対する需要の動向を考慮しつつ、個別の啓発・促進活動、および各活動の始動へ向けた支援を進めていくこととする。

#### (7) ザンデール州での活動

9 月 11 日から 22 日にかけて、ザンデール州の 17 コミューン（計 525 校）を対象に学校活動計画及び COGES 連合設置研修を ONEN への業務委託により実施した。前回 7 月に実施した研修同様 COGES 担当官が研修講師を務め、ONEN 所属の講師も補助として参加した。研修は毎日 3 地区毎に分かれて、1 日目が学校活動計画、2 日目に COGES 連合設置研修を実施し、特に大きな障害も無く、予定通りに研修日程を消化した。Mirriah 県など、事前の研修への召集連絡が不十分だったところがあり、約 20 校の欠席があったが、全体的に対象校の出席率は 96.19% と農繁期には高い出席率であったといえる。また、前回同様、参加者のモチベーションや取り組み意欲は高く、研修内容が効果的であると同時に、まだ研修を実施していないコミューンに所属する学校、COGES 関係者から研修の実施に対する問い合わせがあるなど、この種の研修に対する地域のニーズが非常に高いことを示唆している。研修後は COGES 担当官が巡回して連合の設置状況や活動計画の策定をモニタリング支援していく。

#### (8) COGES 政策

7 月に行われた終了時評価の提言を受け、プロジェクトでは、COGES 政策の推進のため、COGES 活動の外部評価、政策提言のためのワーキンググループ、政策の認証のためのアトリエを支援することとしたが、外部評価については、コンサルタントの雇用のための募集が官報に 9 月初旬に告知され、基礎教育・識字省に審査の結果、9 月中にコンサルタントが雇用された。調査は、10 月から 2 ヶ月間行われる。

#### (9) 中央、援助協調、ドナー動向



9月上旬に基礎教育・識字省は、PDDEの第4年(2006.10~2007.9)のアクションプランのドラフトを作成し、PTFに対し、そのドラフトを配布した。この計画の内容は、6月に開催された合同レビュー、それに先立つ現地調査、ワーキンググループの結果を反映され、特に、COGESに関しては、プロジェクトの経験が活かされた内容となっている。COGES部分に関しては、別添を参照してほしいが、現在までのみんなの学校プロジェクトが提案してきたことが、すべて取り入れられたものとなっている。

今年6月のPDDEコモンバスケットの会計監査に関連して発覚した公的資金不正、横領問題は、政府の行政関係の捜査が終了し、現在は検察が民間の基礎教育・識字省調達機材等の業者の不正に関する調査を引き続き行っている。現在までの逮捕者の中には、前基礎教育・識字省次官、財務局長なども含まれている。捜査は最終段階となり、近日中にその全貌が明らかにされる予定。

#### (10) 国家教育評議会

この会議は、PDDEの最高決定会議と位置づけられており、関係各大臣、基礎教育・識字省関係者、保護者会代表、市民代表、NGO代表、PTF代表などが参加して行われる。今年は、9月27日、28日に開催され、去年のPDDEの実施状況、各州の就学状況、卒業試験の結果等の報告の後、上述した2006/2007年のPDDEのアクションプランが発表された。特に、プロジェクトにとって重要な点は、このアクションプランがこの会議で、正式に承認されたことである。予算化については、先日の閣議で、基礎教育・識字省はCOGESをその予算確保の優先事項とすることを正式に公表しており、これで、みんなの学校プロジェクトモデルの全国普及に一歩近づいたと言える。もちろん、基礎教育・識字省の予算、ドナーの出資しているコモンファンドの部分も多く、今年の実施に至るかは難しい問題も多いので予断を許さないが、少なくともCOGESが国家レベルでその認知度を上げていることだけは確かである。

#### (11) プロジェクト運営管理

##### ① プロジェクト事務所の就業時間変更

ニジェール政府は、官公庁の業務効率化のため、通常の午前、午後の就業体制を改め、2年間試験的に、昼休みなしで、午後早めに終業する勤務体制とすることを9月15日の閣議決定にて発表した。この発表を受け、プロジェクトでは月曜日から木曜日までは8時~13時半、14時~16時、金曜日は8時~13時半までを就業時間として暫定的に設定した。

##### ② ザンデール州学校活動計画及びCOGES連合設置研修にかかるONENとの業務委託契約

今月1日、ザンデール州17コミューンを対象とした学校活動計画研修、COGES連合設置研修の実施および月例COGES担当官会議実施にかかるONENとの業務実施契約が締結された。今回の契約見積金額は21,169,390Fcfaで、契約直後にその80%を概算払いとして支払い、契約終了後に残金を実費精算にして支払うこととする。今回の契約が施行されることで、全55コミューン中、28コミューンが研修を受講したことになる。

##### ③ 事務所人員配置変更

今月27日より、事務所内の配置換えを行い、プロジェクトリーダーおよび政策アドバイザーの下、COGES連合支援班、コミュニティ活動支援班、総務班の3班体制となった。また、COGES事務所には今まで当プロジェクトのスタッフ2名を配置しCOGES監督官の業務を支援していたが、COGES政策を支援している他ドナーとCOGES事務所の関係を考慮した上で、

COGES 監督官はどの援助機関に対しても独立性を保つことが適切と判断し、今回の配置換えに伴い秘書 1 名のみを COGES 事務所へ配置することとした。

#### ④ みんなの学校プロジェクト延長

2006 年 7 月に実施された終了時評価調査団が訪ニした際、当プロジェクトの活動を 2007 年 7 月末まで延長することが提案され、JICA 本部を中心に関係機関との協議が行われていたが、今月中旬に延長に向けた手続きが開始されたとの通知を受けた。従って、2007 年 1 月から 7 月末までの 7 ヶ月間、プロジェクトが延長されることとなる。

#### ⑤ 現地活動費追加予算申請

終了時評価調査団の提言を受け、基礎教育・識字省が COGES 政策における外部評価、全国レベルでのワークショップ開催等の実施方針を打ち出した。当プロジェクトもこれらの活動が COGES 政策を推進していく上で非常に重要な活動とみなし、積極的に支援を行っていく方針である。しかしながら、今年度予算策定時にはこれらの活動支援を想定していなかったため、予算獲得のために、現地活動費 3,590 千円の追加申請を本部に対して行った。

#### ⑥ マルチメディア教材作成

JICA 社会開発部 JICA-NET 主管のマルチメディア教材作成について、当プロジェクトの選挙研修及び学校活動計画研修にかかるビデオが同研修副教材として作成されることになった。使用言語はフランス語及びハウサ語であるが、内容はどの国でも使用できる汎用性のあるものである。制作会社は 11 月 3 日にニジェール入りし、帰国する 14 日までの 11 日間ですべての撮影を撮り終えることとなる。効率的に撮影を行うために、ロケーション、キャスティング等、現在から入念な準備を進めている。

#### ⑦ 理事訪問及び終了時評価コンサルタントにかかる準備

10 月 10 日から 13 日までの 4 日間、JICA 上田理事がニジェールを訪問することが決まり、プロジェクト現地視察のためにタウア州を訪問する他、世銀との連携強化をはかるための会談が予定されている。また、終了時評価にかかる追加調査としてコンサルタント 1 名が 10 月 17 日より 31 日までの約 2 週間、ニジェールに滞在する予定である。7 月に実施された終了時評価調査で確認された当プロジェクトの実績の再確認、及び終了時評価が実施された 7 月以降、当プロジェクトのモデルによる全国展開に向けて、基礎教育・識字省や他ドナー間でどのような進展が見られたかについての聞き取り調査を実施する予定である。

### (12) 課題

プロジェクトが現在抱えている課題は、プロジェクト成果の拡大と、成果の政策への反映、プロジェクト機能の効率化である。プロジェクトは、課題である COGES 連合の機能化を達成するために、9 月上旬に、COGES 連合大会を開催し、各 COGES 連合がそれぞれの会合を開催できるよう指導し、現在、プロジェクトスタッフは、そのモニタリングを行っている。しかし、この課題は、早急に解決できるような方策はなく、COGES 連合、COGES 担当官、プロジェクトスタッフの地道に努力が必要であり、延長フェーズの終わりまでに、ある程度の方向性を見つけることを目標とする。プロジェクトでは、この課題に対処するために、プロジェクトの機構改革を行い、COGES 連合の機能化を対象とするチームと、COGES 連合による教育改革のチームを強化しているが、今後、さらなる投入が必要である。一方、プロジェクト成果の政策への反映については、具体的にはミニマムパッケージの普及化は、様々な政治的要素も絡み、単純にその実現を構図として示すことは困難であるが、現在進めている外部評価への支援などの政策決定プロセスへの支援などを粘り強く続けいくことが肝要である。

(13) 10月の予定

| 予定                      | 期間         |
|-------------------------|------------|
| ➤ 中西部アフリカ地域支援事務所所員との打合せ | 10月4日      |
| ➤ 上田理事ニジェール訪問           | 10月10-13日  |
| ➤ タウア州 COGES 担当官月例会議    | 10月9日      |
| ➤ 終了時評価調査団現地調査(コンサルタント) | 10月17日-31日 |
| ➤ ザンデール州 COGES 担当官月例会議  | 10月下旬      |

別添、PDDE 第4年目行動計画 (COGES 部分)



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2006 年 10 月)

作成日：2006 年 11 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時        | 活動                                                                                               | 担当、出張者                                         |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 10月1日(日)  |                                                                                                  |                                                |
| 10月2日(月)  |                                                                                                  |                                                |
| 10月3日(火)  | 外部評価コンサルタント選考(ニアメ)                                                                               | 原、IBO、COGES 推進局長                               |
| 10月4日(水)  | 中西部地域支援事務所森下所員との打ち合わせ(ニアメ)<br>Tahoua→Niamey                                                      | 原、尾上<br>尾上、中澤、影山                               |
| 10月5日(木)  | 影山休暇開始(20日まで)                                                                                    |                                                |
| 10月6日(金)  | COGES 連合総会モニタリング(Tesrnaoua)<br>Niamey→Tahoua                                                     | 齋藤、Kabo, Gambobo, Ousseini<br>尾上、中澤            |
| 10月7日(土)  |                                                                                                  |                                                |
| 10月8日(日)  |                                                                                                  |                                                |
| 10月9日(月)  | タウア州 COGES 担当官月例会議<br>COGES 外部評価準備会合(ニアメ)<br>Tahoua→Niamey                                       | 尾上、齋藤<br>UNICEF、CONCERN、原、<br>ABOUDOU<br>中澤    |
| 10月10日(火) | COGES 連合総会モニタリング(Sabon Guida)<br>上田理事ニジェール訪問                                                     | 尾上、Gambobo                                     |
| 10月11日(水) | 午前中、外務省、基礎教育・識字省訪問、午後、コニへ<br>Niamey→Konni<br>Tahoua→Konni                                        | 理事、笹館所長、原、<br>原、中澤<br>尾上、齋藤                    |
| 10月12日(木) | コニ県にて COGES, COGES 連合活動視察<br>COGES 連合総会モニタリング(Malbaza)                                           | 理事、笹館所長、原、尾上、中<br>澤、齋藤、スタッフ全員<br>Kabo, Gambobo |
| 10月13日(金) | ドゥン学校保健を視察後、ニアメへ<br>夕刻、隊員と懇談後、ニアメ発<br>COGES 連合総会モニタリング(Bagaroua)<br>Konni→Niamey<br>Konni→Tahoua | 理事、笹館所長、原<br>Gambobo<br>原<br>尾上、中澤、齋藤          |
| 10月14日(土) | COGES 連合総会モニタリング(Akoubounou, Tahoua ComI)                                                        | 尾上、中澤、齋藤、Hamza                                 |
| 10月15日(日) | COGES 連合総会モニタリング(Keita)                                                                          | Yac                                            |
| 10月16日(月) | コミュニティー幼稚園開園にかかる打合せ<br>外部評価準備会合(ニアメ)                                                             | 齋藤、Kabo<br>UNICEF、CONCERN、原、<br>ABOUDO、IBO     |
| 10月17日(火) | 終了時評価追加調査(コンサルタント1名)                                                                             |                                                |
| 10月18日(水) | 原専門家とのインタビュー、ニアメ→タウア<br>COGES 連合総会(Bouza)及び学校プロジェクトモニタリング<br>APP クラブ開始にかかる打合せ(Bouza)             | 尾上、Gambobo, Ousseini<br>齋藤、Kabo                |
| 10月19日(木) | 視学官、DREBA、COGES 担当官、専門家インタビュー                                                                    |                                                |
| 10月20日(金) | 学校視察、COGES へのインタビュー<br>外部評価準備会合(ニアメ)<br>影山休暇終                                                    | UNICEF、CONCERN、原、<br>ABOUDO、IBO                |
| 10月21日(土) | タウア→ニアメ<br>マルチメディア教材作成準備にかかる打合せ(Tahoua 県)                                                        | 齋藤                                             |
| 10月22日(日) | ラマダン明け休日                                                                                         |                                                |
| 10月23日(月) | COGES 連合総会モニタリング(Bazaga)<br>COGES 外部評価(タウア 27日まで)                                                | 尾上                                             |
| 10月24日(火) | 原専門家インタビュー<br>マルチメディア教材作成準備にかかる打合せ(Tahoua 県)                                                     | 齋藤                                             |
| 10月25日(水) | 基礎教育・識字省次官等インタビュー、世銀                                                                             |                                                |

|           |                                                                                                     |                                         |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
|           | COGES 連合総会モニタリング (Garahanga)                                                                        | 尾上                                      |
| 10月26日(木) | UNICEF, CONCERN<br>COGES 連合総会モニタリング (Abalak, Bouza, Karofane, Galma, Badaguichiri)<br>Tahoua→Zinder | 尾上、齋藤、影山、Kabo, Gambono, Ousseini<br>Ibo |
| 10月27日(金) | COGES 担当官月例会議 (ザンデール)<br>COGES 連合総会 (Tajae)                                                         | Ibo<br>Gambobo, Yac                     |
| 10月28日(土) | COGES 連合総会 (Illela, Keita, Deoule)<br>マルチメディア教材作成準備にかかる打合せ<br>Zinder→Tahoua                         | 尾上、齋藤、影山、Kabo, Yac<br>齋藤、影山<br>Ibo      |
| 10月29日(日) | マルチメディア教材作成準備にかかる打合せ                                                                                | 齋藤、影山                                   |
| 10月30日(月) | COGES 連合総会 (Allela, Tahoua ComII)                                                                   | 尾上、影山、Kabo, Ousseini                    |
| 10月31日(火) | COGES 連合総会 (Tebaram)<br>Niamey→Tahoua                                                               | Ousseini<br>原                           |

### (1) 今月の総括

今月は、定例のタウアとザンデールの COGES 担当官会議の他、中西部アフリカ地域支援事務所の森下所員の会談し、上田理事のプロジェクト訪問、終了時追加調査が行われた。また、COGES 連合の機能化を目指し、先月の COGES 連合大会で決定した、各 COGES 連合の総会が行われ、プロジェクトスタッフによるモニタリングを行った。また、APP クラブについては、COGES 連合を通じた運営モニタリングシステムの確立を目指し、すでに APP クラブが設立されている 2 コミュニティにおいて活動を行った。コミュニティ幼稚園、セカンドチャンスクラスについては、すでに、設立条件等の情報は、各 COGES に対し、COGES 連合を通し伝達してあり、各 COGES 連合からの要望の取りまとめを行っている。

### (2) JICA 上田理事プロジェクト訪問

新しく人間開発部の担当となった上田理事がニジェールを訪問され、みんなの学校プロジェクトを視察された。プロジェクトサイトにおいては、COGES の会合、COGES 連合の会合、学校活動計画で実施された活動、APP クラブの活動などを視察された他、ニアメにおいては、基礎教育・識字省大臣と会談された。(詳しくは別添 2 参照)

### (3) タウア州 COGES 担当官会議

今月の COGES 担当官会議は 9 日に行なわれた。会議の内容は、1) COGES 担当官による COGES 連合モニタリング報告、2) 新しいレポートシステムとレポート様式についての説明、3) COGES 連合に関するアンケート結果の報告、4) 今後の活動計画、などであった。COGES 連合の動きについて、先月月報にも報告したとおり、今年は、一般的に収穫時期が遅れておりそれにともない児童及び教員の着任が遅れていること、学校開始時期がラマダンに重なっていること、バスケットファンドにかかる不正事件の影響で同ファンドから支出が計画されていた契約教員の給与支払いや学校備品の供給が遅れていること、などの理由で学校の開始が遅れており、COGES 連合の会合自体も 9 月中の実施はメンバーが集まりにくい状況であった。10 月 9 日までに事務局会合を開催したところは 18 連合、連合総会を開催した連合は 2 連合であり、来月の COGES 担当官会議の開催が予定されている 11 月上旬までにはすべての連合が総会を開催し、運営計画を策定すべく各連合に対して周知することとした。その他、COGES 連合を含めた COGES のモニタリング支援体制を強化するために、情報伝達のシステムを整備、明確化して、各種レポートのひな型について説明、配布した。

#### (4) COGES 連合巡回モニタリング

今月は COGES 連合の事務局会合及び連合総会の開催に伴い、COGES 担当官とともにプロジェクトスタッフもその巡回に多くの時間を費やした。10 月末時点で事務局会合を開催した連合は 23、連合総会を開催した連合は 20 であった。9 月の COGES 連合大会時に話し合われたとおり、事務局委員が会合に参加しなかったり、やる気がなかったり、といった問題を抱えている連合では、事務局委員の改選を含め、機能改善に向けた取り組みを行なう連合が多く見られた。また、連合代表をはじめ事務局委員を務めている教員が人事異動により、他のコミュニンに移るケースも見られた。したがって新たに事務局委員を改選するにあたっては、教員がポストを独占しないように、特に連合代表のポストは教員以外のコミュニンメンバーから選出するように配慮している。連合の運営費不足の問題については、昨年度は計画性に問題があったため、今年度から運営及び活動に計画性を持たせ、1 年間の会議の開催数、時期など実現可能な計画を予め策定しその予算を計上した上で、各 COGES が連合に支払う分担金などを COGES の学校活動計画の中に予め組み込むという方法を取り入れた。今回の巡回モニタリングを通じて、コミュニン市長をはじめコミュニン行政関係者が COGES 連合に強い関心を示すケースが少なからずあることが分かった。独自のローカル予算を持っているコミュニン行政との連携を強化することで連合の運営活動費の財源確保のオプションになるだけでなく、将来的な地方分権化の枠組み構築の可能性を示していると言える。連合総会の開催は 11 月中旬まで計画されており、今後も COGES 担当官だけでなく、プロジェクトスタッフも極力、総会をモニタリングしていく計画である。

#### (5) APP(生産実習活動)クラブ、コミュニン幼稚園及びセカンド・チャンス

現在、各 COGES 連合にて COGES 連合事務局会合及び連合総会が実施されており、その連合総会内では、事務局から COGES ローカルに対して、当該 3 活動に関する情報提供も行うこととなっている。それを受け、タウア州 39 連合の中で今後積極的な活動が見込まれるいくつかの COGES 連合を対象に、連合総会への参加を通じた、APP クラブ、コミュニン幼稚園、セカンド・チャンスクラス活動の積極的な推進活動を実施した。現在まで、計 5 つの COGES 連合に参加し、当該 3 活動に関する適切な情報伝達が行われているかを確認した上で、設立手順や追加情報等の補足説明を行った。(イレラ県バダギシリ連合、コニ県サルナワ連合、アバラック県アクブヌ連合、ブザ県ブザ連合、コニ県アレラ連合)。今後も引き続き連合総会内での情報提供活動を行うと共に、当該活動に興味を示す COGES ローカルおよび連合の動向に注視していく予定である。

また、APP クラブについては、すでにクラブが設立されている 2 コミュン(ブザ県ブザ連合、コニ県サルナワ連合)において、COGES 連合を通じた運営モニタリングシステムの確立を目指した働きかけを行った。一方のコミュニン幼稚園、セカンドチャンスクラスについては、昨年設置された 5 つの COGES ローカルと、運営及び内容に関する見直し及び今後の方向性についての話し合いをもった。

#### (6) ザンデール州での活動

9 月に実施された、17 コミュン、528 校を対象にした学校活動計画及び COGES 連合設置研修の結果、17 コミュン全てにおいて第 1 回目の総会が行なわれ、民主選挙による事務局委員選出によって COGES 連合が設置された。これでザンデール州の 55 コミュン中 27 コミュンで COGES 連合が設置されたことになる。また、先行して設置された 10 連合については、COGES 担当官のモニタリング報告によると設置後の活動も順調に進み、10 連合の全てが年間



会議開催計画（第 1 活動計画）を総会で承認し、視学官事務所に提出済みである。各連合とも総会は年間 3~4 回、事務局会合は年間 8~12 回の開催計画が立てられている。また、27 日の COGES 担当官会議では、11 月以降に予定されている残り 27 コミュニンのうち 17 コミュニンでの学校活動計画及び COGES 連合設置研修の実施計画が協議された。

#### (7) COGES 外部評価支援

プロジェクトが支援し、基礎教育・識字省が行う COGES 外部評価の内容につき、UNICEF、CONCERN を含めた会議を、JICA 事務所の会議室において、3 回行った。会議において、コンサルタントの TOR と成果について議論し、合意にいたったので、プロジェクトは、コンサルタントとの契約を交わした。コンサルタントは、来月から 2 ヶ月の期限で、調査を行い、その結果を COGES 政策承認アトリエで発表する。

#### (8) 中央、援助協調、ドナー動向

月初めに、PTF 会議が開催され、その中で、基礎教育・識字省不正問題、PDDE 第 4 年次アクションプランの内容について話合われた。不正問題に関しては、別添の通りまとめた。PDDE の第 4 年次アクションプランに関しては、今後、テーマごとに別々の話し合いを行うこととなったが、その後、基礎教育・識字省からの通知はなく、会議は行われていない。

#### (9) 中西部地域支援事務所森下所員との打ち合わせ

今回の打合せは、みんなの学校プロジェクトの類似案件がセネガルにおいて立ち上がることを受けて、その案件立案にプロジェクトの経験を活かすための情報提供を目的として行われた。セネガルとニジェールの地方分権化の構図は異なり、また、学校運営委員会等の構成が違うため、その違いを越えてどのように、プロジェクトが得た経験をセネガルに適応させるかが議論の焦点となった。特に、セネガルの場合、ボトムアップ型の教育計画策定への道筋をつけるための地方教育行政改善計画（開発調査）がすでに行われており、その計画との関係付けなどからの学校運営委員会強化という発想があり、学校運営委員会機能化の視点が抜けていることが、話し合いの中で浮かびあがってきた。その結果、やはり、学校運営委員会の機能化には、組織の透明性や村民全体の住民参加への仕組みが必要不可欠であるという結論が導き出され、学校運営委員会設立過程の問題点など、詳細な部分まで詰めることが出来た。プロジェクトとしては、セネガル案件への協力を行うこととし、具体的には 12 月下旬に、セネガル、ブルキナ、マリなどの教育分野地方分権化の関係者をニジェールに招いた「仏語圏アフリカ地域学校運営改善セミナー」を開催することとした。

#### (9) プロジェクト運営管理

##### ① 終了時評価にかかる追加調査

10 月 17 日より 31 日までの 2 週間、今年 7 月下旬に実施された終了時評価にかかる追加調査がコンサルタント 1 名により実施された。タウアでの現地調査はほぼ終了していたことから、ニアメにおける基礎教育識字省や COGES 政策を支援する援助パートナーの動向が調査の中心となった。

##### ② 第 2 四半期現地業務費会計報告

今月 5 日、2006 年度第 2 四半期分のプロジェクト現地活動費の会計報告書類を事務所に提出

した。当期の概算額は下記のとおり。

- 1、概算受入額 0Fcfa
- 2、支出額 62,733,939Fcfa
- 3、差引残額 17,270,373Fcfa

なお、第2四半期分の現地業務費が6月に送金されたことから、今期の受入額はゼロとなっている。

### ③ 第3四半期現地業務費前途資金受入

今月10日、第3四半期現地業務費の送金がなされた。受入金額は24,219,243Fcfaである。

また、先般、当プロジェクトの携行機材費残額、1,440,137円を現地業務費に振り返るための変更手続き依頼がニジュール事務所より本部に公電で発出されたことから、近日に送金される見通しである。

### ④ 現地活動費追加申請

7月に実施された終了時評価調査団による提言を受けて、基礎教育・識字省がCOGES政策にかかる外部評価調査、全国レベルでのアトリエ開催、COGES政策戦略書策定にかかる文書化を実施する方針を打ち出した。この決定に伴い、当プロジェクトでも上記の活動を積極的に支援すること、また2006年度予算計画策定時には想定していなかったザンデル州全校での学校活動計画、COGES連合設置研修実施について予算不足が生じることから、必要となる経費を追加することで本部との合意を得、9月より2,701千円の追加申請をしていた。JICAニジュール事務所との協議を経て、今月末に承認を得たことから、近日中に送金される見通しである。

### ⑤ 外部評価調査にかかるコンサルタントとの業務委託契約

今月5日、COGES政策推進にかかる外部評価調査のためのコンサルタント契約が締結された。本調査は、本年7月訪二したJICA終了時評価調査団の提言を受けて基礎教育・識字省(MEB/A)により実施決定がなされたが、MEB/Aが本調査にかかる費用を捻出するのが困難であったため、当プロジェクトにより財政的支援を決定した。なお、コンサルタントによるこの調査結果は報告書として提出されるだけでなく、年明けに開催予定の全国レベルアトリエにて関係者に発表することも予定されている。

### ⑥ 事務所業務時間(ラマダン明け以降の時間帯について)

ラマダン明けに伴い、当プロジェクト事務所の業務時間が以下のように変更となった。

月～木：8：00－12：00、13：30－16：30

金：8：00－13：00、14：30－16：30

なお、上記業務時間は、金曜日以外はJICA事務所と同様に設定している。

## (10) 課題

今月から、学校が始まり、本格的に、COGES連合の機能化、APPクラブ、セカンドチャンススクール、コミュニティ幼稚園設立への活動が始まった。ニジュールの学期は、もともと短く、しかも教員の配置手続きの遅れ、教員による給料遅配に対するスト、文房具などの配布の遅れ等で、更に短くなり、学校がある期間に集中的に活動を行わなければならないことが多い。しかし、様々な訪問もこの時期に重なり、プロジェクトは、その訪問のため、多くの労力が時間を費やすことになる。訪問や視察にはそれぞれの意義や目的があり、非常にプロジェクトにとって価値があるが、やはり、ある程度の調整をしない限り、スタッフへの負担は非常に大きなものとなってきて、プロジェクト本来の活動の遅れや支障をきたすことがあることは否めない。今後は、本部とも連絡を密にし、視察等の調整を行う必要がある。

(11) 11月の予定

| 予定                       | 期間              |
|--------------------------|-----------------|
| ➤ マルチメディア教材作成ミッション       | 11月3-14日        |
| ➤ タウア州 COGES 担当官月例会議     | 11月13日          |
| ➤ ザンデール学校活動計画、COGES 連合研修 | 11月中旬から約2週間（予定） |
| ➤ 中澤専門家一時休暇              | 11月3-28日        |

別添1. 基礎教育・識字省バスケットファンド資金不正使用問題の教育開発への影響、及び世銀の立場

別添2. 上田理事出張報告書（一部）

別添3. 終了時評価報告書ドラフトの一部（世銀同行）



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2006 年 11 月)

作成日：2006 年 12 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時        | 活動                                                                                                    | 担当、出張者                                |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 11月1日(水)  | 撮影隊受け入れに掛かる準備 (Toudouni, Touba Baggawa)<br>外部評価コンサルタント現地調査 (コニ県、イレラ県)<br>Thaoua→Niamey                | 影山<br>Gambobo<br>原、尾上                 |
| 11月2日(木)  | 撮影隊受け入れに掛かる準備 (Kaoura Goga)<br>外部評価コンサルタント現地調査 (タウア県)<br>COGES 連合総会モナリク (Konni)                       | 斉藤<br>Gambobo<br>Yac                  |
| 11月3日(金)  | マルチメディア撮影隊にアメ到着(打ち合わせ)<br>COGES 連合総会モナリク (Takanamat)<br>COGES ローカル住民集会モナリク (Kossa I)<br>Thaoua→Niamey | 原<br>Yac<br>影山、Kabo<br>中澤             |
| 11月4日(土)  | 撮影隊タウアへ<br>撮影隊受け入れに掛かる準備 (Foukoye Gabass)<br>中澤休暇開始 (28日まで)<br>Niamey→Tahoua                          | 影山<br>尾上                              |
| 11月5日(日)  | 撮影(Toudouni)<br>COGES 連合総会モナリク (Madaoua/Tamaya)                                                       | 影山<br>Gambobo, Kabo/Yac               |
| 11月6日(月)  | RD/MM 打合せ(基礎教育・識字省)<br>撮影(Touba Baggawa)<br>COGES 連合総会モナリク (Bambaye)                                  | 原<br>影山<br>Yac                        |
| 11月7日(火)  | RD/MM 打合せ(基礎教育・識字省)<br>撮影(Kaoura Goga)<br>COGES 連合総会モナリク (Kao, Azeye, Bangui)<br>Niamey→Tahoua        | 原<br>影山<br>尾上, Gambobo, Ousseini<br>原 |
| 11月8日(水)  | 撮影(Foukoye Gabass)<br>COGES 連合総会モナリク (Tillia, Ourno, Garahanga)                                       | 影山<br>Ousseini, Yac                   |
| 11月9日(木)  | COGES 連合総会モナリク (Tassara, Illela, Karofane)                                                            | Gambobo, Kabo, Yac, Zakaria<br>影山     |
| 11月10日(金) | COGES 連合総会モナリク (Tabotaki, Azarori, B.Katami)<br>Tahoua→Zinder                                         | Yac, Zakaria, Ousseini<br>影山<br>Ibo   |
| 11月11日(土) | COGES 連合総会モナリク (Tchinta, Allakaye, Tama)                                                              | 尾上, Yac, Gambobo<br>影山                |
| 11月12日(日) |                                                                                                       | 影山                                    |
| 11月13日(月) | タウア COGES 担当官会議<br>ザンデール州 COGES 連合。学校活動研修 (28日まで)                                                     | スタッフ全員                                |
| 11月14日(火) | Tahoua→Niamey<br>UNICEF 担当者プロジェクト訪問に掛かる準備 (タウア県)                                                      | 原<br>影山、Gambobo                       |
| 11月15日(水) | UNICEF 担当者プロジェクト訪問(イレラ県内 3校視察)                                                                        | 影山、Kabo                               |
| 11月16日(木) | UNICEF 担当者プロジェクト訪問(タウア県内 2校視察)                                                                        | 影山、Gambobo                            |
| 11月17日(金) | プロジェクト延長フェーズ R/D M/M 署名                                                                               | 原、笹館所長                                |
| 11月18日(土) |                                                                                                       |                                       |
| 11月19日(日) |                                                                                                       |                                       |
| 11月20日(月) |                                                                                                       |                                       |
| 11月21日(火) | Zinder→Tahoua<br>Niamey→Tahoua                                                                        | Ibo<br>原                              |
| 11月22日(水) | スタッフミーティング<br>Tahoua→Niamey                                                                           | 原                                     |
| 11月23日(木) |                                                                                                       |                                       |
| 11月24日(金) | COGES ローカル住民集会モナリク (Toullou, イレラ県)                                                                    | 影山                                    |

|           |                                                                                                        |                            |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 11月25日(土) | COGES 連合/AGR モニタリング (Bouza)                                                                            | 尾上                         |
| 11月26日(日) | COGES 連合モニタリング (Tabalak)                                                                               | Yac                        |
| 11月27日(月) | COGES 連合/AGR モニタリング (Tsernaoua)                                                                        | Ganbobo                    |
| 11月28日(火) |                                                                                                        |                            |
| 11月29日(水) | JOCV 調整員・隊員プロジェクト訪問(プレゼンテーション)<br>COGES 連合総会モニタリング (Tillia)<br>Niamey→Tahoua                           | 原、尾上、斉藤<br>Ganbobo<br>原、中澤 |
| 11月30日(木) | JOCV 調整員・隊員プロジェクト訪問(タウア市・コミニ県学校視察)<br>COGES 連合総会モニタリング (Tassara)<br>COGES 連合/AGR モニタリング (Badaguichiri) | 斉藤、Hamza<br>Ganbobo<br>Yac |

### (1) 今月の総括

今月は、定例の COGES 担当官会議 (タウア、ザンデール)、COGES 連合モニタリングの他に、タウアでは、プロジェクトの視覚教材作成のためのマルチメディアチームによる撮影、ザンデールでは、17 コミュニンの学校に対する COGES 連合、学校活動計画研修が行われた。また、ニアメでは、プロジェクト延長フェーズの R/D と M/M 署名のための準備が行われ、署名に至った。

### (2) タウア州 COGES 担当官会議

タウア州の COGES 担当官会議は、13 日に行なわれ、COGES 連合総会の巡回モニタリングの結果について、COGES 担当官及びプロジェクトチームの双方から報告がなされた。その後モニタリング結果の分析、課題の抽出・整理、及び今後の活動計画について話し合われた (モニタリングの結果については後述)。その他、APP クラブ及びコミュニティ幼稚園等 COGES 関連活動における、マニュアル作成を含む進捗報告が行なわれた。今後の活動予定として、1) 各 COGES における COGES の活動計画の策定と連合による同計画の回収、分析、2) 各 COGES の活動計画を反映させた COGES 連合による第 2 活動計画 (課題活動計画) の策定、などが確認された。来月の会議は 12 月 8 日に開催予定で、その前日に 7 連合で実施している収入創出活動の撤退についての協議が行なわれる予定。

また、今年度からマダウア及びチンタの COGES 担当官が退職となり、後任が既に任命されているマダウアについては、今回の会議にも新旧 2 名の COGES 担当官が参加し、交代の報告と挨拶が行なわれた。チンタについては後任が任命され次第、引継期間を経て正式に交代する予定である。これで昨年度から今年度にかけて 9 名の COGES 担当官のうち 5 名が交代することになった。現在のところ、交代によるプロジェクト活動への支障は特に無いが、これまで COGES に関する活動経験やノウハウを備えた COGES 担当官が退職し、関係性を絶つのは残念である。今後も何かしらの形で彼らが貢献できる枠組みを検討する必要がある。

### (3) COGES 連合総会巡回モニタリング

11 月 11 日までに 39 の COGES 連合のうち 37 連合で第 1 回連合総会が開催され、全体の総会出席率は 72%にのぼり、開催率、出席率ともに良好であったといえる。連合の年間会議開催計画及び年間運営予算計画をまとめた第 1 計画を策定した連合は 11 月末時点で 31 連合であった。これまでの連合の巡回モニタリングの結果を総括すると、良かった点として、1) 9 月 7、8 日にタウア州で行なった COGES 連合大会での議題は概ね問題なく各 COGES メンバーに連絡が行き届き、主要議題として話し合った連合の機能化改善について、昨年機能していなかった事務局では、会合に参加しない委員の改選などの改善案が議論され採用されるなど、多くの連合で改善への試みが実施されていること、2) 連合の年間計画策定能力が身についたことで活動や予算

運営の計画性が向上したこと、2) コミューン長を始め、コミュニティ行政の連合に対する関心が高く、連合総会にも参加して連合の活動に対し積極的に協力の意向を示していること、などが挙げられる。また、課題、問題点としては、1) 連合の中には地理的制約により参加者の移動が容易でない地域があり、その対策を講じる必要があること、2) 新任校長に対して COGES に関する研修が行なわれていない、あるいは 2005 年 4 月に全ての小学校に COGES が設置されたときの研修の質が良くなかったため、活動が停滞しているところがあること、3) 上述のとおり活動と予算運営の計画性は向上したものの、独自の予算確保（自己資金）については今のところ会議等の最低限の運営費用を確保することで精一杯である連合が多いこと、などが分かった。今後は、連合の課題活動実施に対する支援について具体化するとともに連合財源の多様化（コミュニティ行政ほか地元パートナー団体との連携の強化、収入創出活動、信用組合の活用など）に向けた戦略づくりを行なう。

#### **(4) APP(生産実習活動)クラブ、コミュニティ幼稚園及びセカンド・チャンス**

先月に引き続き、今月前半も各地で開催されている COGES 連合総会の巡回モニタリングを実施し、上記 3 活動に掛かる情報提供を行った。また、現在、学校活動計画作成過程にある COGES ローカルの需要動向に注視しつつ、当該活動に対する需要が見込める COGES への個別対応（住民集会における情報提供、および計画立案に対する助言等）を実施している。今後は、挙がってきた各 COGES の学校活動計画の中で、当該活動を計画しているものに対し、妥当性・継続可能性の点から検討した上で、活動実現へ向けた支援を行っていく予定である。

個別の活動としては、まず APP クラブにおいて、昨年度作成された「APP クラブ」マニュアルの改訂版が完成し、現在、活動事例集等のより実用的な資料作成に取り組んでいる。コミュニティ幼稚園及びセカンドチャンスクラスにおいては、各関係者と調整を行いながら、来年度初め実施予定の研修へ向けた準備を進めている。

その他、コミュニティ幼稚園関連において、今月 15・16 日にかけて、UNICEF 就学前教育担当者がプロジェクトを訪問し、昨年度コミュニティ幼稚園を実施したイレラ県内 2 COGES を含む計 5 校（イレラ県内 3 箇所、タウア県内 2 箇所）における COGES 活動を視察した。

#### **(5) ザンデル州での活動**

11 月 13 日から 28 日まで、ザンデル州の 17 コミューン（437 学校）を対象に学校活動計画及び COGES 連合設置研修がローカル NGO である ONEN へ業務委託契約にて行なわれた。今回の研修は地域的に過疎地域が多く含まれるが、全体的な研修の出席率は非常に高い結果であった。また、先行して研修が行なわれた地域では既に COGES 連合が活動を始めている。しかしながら、COGES 担当官は、研修講師としての活動が中心となっているため、COGES 及び COGES 連合のモニタリングに充てる時間が十分確保出来ていないのが現状である。ザンデル州での研修は、この後 1 月に予定している残りの 10 コミューン対象が最後であり、COGES 担当官らによる本格的なモニタリングはこの後から行なわれることになる。

#### **(6) マルチメディア教材制作**

今月 3 日、当プロジェクトの視覚教材（概要編、選挙編、学校活動計画編ビデオ）制作のための撮影チームがニジュール入りし、同月 14 日までの 10 日間、タウア州内 4 村落（Toudouni、ToubaBagawa、Kaoura Alassane、Founkoye Gabass）および首都ニアメにて、各村落住民の全面的な協力の下、各種撮影および関係者へのインタビューを行った。今回撮影した映像およびイン



タビユーを用いて、COGES に掛かる研修（選挙研修、学校活動計画研修）時のビデオ副教材が作成されることとなり、今後ニジェール国内のみならず、周辺諸国においての活用が期待される。

#### (7) 国際学校管理セミナー

12 月下旬開催予定されているセネガル地域事務所との連携による、国際学校管理セミナーの準備を進めた。地域事務所と協議の上、セミナー開催の旨をニジェール側に報告し、ニジェール側からは、共催という形でセミナーを行うこととなった。内容等の詰めは、11 月末までに行う予定。

#### (8) 中央、援助協調、ドナー動向

今月は、PTF 会合が予定されていたが、基礎教育・識字省バスケットファンド不正使用事件後の、融資再開の交渉が手間取り、PTF 会合は開かれなかった。

#### (9) COGES 外部評価

プロジェクトが COGES の政策推進支援に一環として、財政的な支援を行っている COGES 外部評価は、コンサルタントによる現地調査が終了し、報告書のドラフトが提出された。このドラフトについては、基礎教育・識字省の COGES 推進室、及び本プロジェクトがまず、内容を検討し、不明な点等をコンサルタントに指摘した。今後、この指摘を受けて、コンサルタントが第 2 ドラフトを作成し、COGES 関連ドナーに提示する予定となっている。

#### (10) JOCV 調整員・隊員によるプロジェクト視察

今月 29・30 日に、協力隊調整員およびタウア州内に赴任した隊員 3 名によるプロジェクト視察が行われた。初日は、プロジェクト概要および APP クラブに関するプレゼンテーションを実施し、翌日、タウア市内 2 校、サルナワ 1 校（APP クラブ実施校）にて COGES 活動の現場視察を行った。上記隊員中 2 名はプロジェクトが関与する COGES との関わりで活動を進めていくことを目指しており、今回の訪問は、協力隊と当プロジェクト間の協力体制確立へ向けた第一歩として行なわれたものである（隊員グループ派遣との協力体制に関しては、下記「課題」および添付資料を参照のこと）。

#### (11) プロジェクト運営管理

##### ① プロジェクト延長手続促進

プロジェクトの延長が決定され、専門家任期延長のための A1 フォームの取り付け、新フェーズのための R/D、M/M の締結準備のための活動を行い、A1 フォームは、11 月初旬にニジェール外務所から担当日本大使館へ発出され、R/D と M/M は 11 月 17 日に締結された。

##### ② プロジェクト予算関係

延長フェーズ期間中の予算計画を策定し、本部に対して申請を行った。計画額（現地活動費）は次のとおり。

－2007 年 1～3 月分：47,860,800Fcfa（予算獲得済み分）＋28,955,427Fcfa（不足分申請額）＝76,816,227Fcfa

－2007 年 4～7 月：72,289,280Fcfa(申請額)

### ③ ONEN 業務委託契約

上記（５）に記載のとおり、ザンデール州の 17 コミューンを対象にした学校活動計画及び COGES 連合設置研修の実施のため、ローカル NGO である ONEN と業務委託契約を 11 月 1 日に締結した。契約見積額は、19,495,300Fcfa で契約締結直後に 80%を概算払いし、業務完了後精算を行ない、残額を追給する。

## （12） 課題

### ① 情報管理、発信

現在、プロジェクトの作成した文章、書類等は多岐にわたっているが、その情報の管理が不効率であり、プロジェクトの拡大に伴い、プロジェクト内での情報の共有の必要性も高まっている。今後、プロジェクトの情報をスタッフが瞬時に共有し、プロジェクトから外部に向けてより多くの情報発信を目指すとするれば、まず、プロジェクト内の情報管理システムを構築する必要がある。以下対策例である。

#### ○情報の集中管理

情報の一元管理する。：会議議事録、月報、ニュースレター、連絡事項、モニタリング結果、会議資料（ニアメ、タウア、ザンデールからのアクセスも考慮）

#### ○情報の共有化

情報の共有化のため、インターネット常時接続の導入、各コンピューターのネットワーク接続を行う。インターネット会議の可能性も検討。

#### ○情報の発信

- HP の多言語化。仏語、英語への翻訳
- プロジェクト研究学術論文の作成、発表
- プロジェクト事務所（タウア、ザンデール）及びニアメ事務所のプロジェクト情報センターの開設

### ② 協力隊グループ派遣との協力体制〈別添参照〉

タウア地域には、プロジェクトが活性化した COGES を中心に活動の展開を目標とした隊の派遣が現在 2 名行われ、今後、さらに 6 名の隊員の派遣が予定されている。今後、プロジェクトとしては、これら隊員へのプロジェクト情報の提供のパッケージ化と将来的には隊員からの現場の情報の提供をシステム化し、今後の共同の活動を模索していく必要がある。

### ③ プロジェクト経験の文章化

終了時評価で提言されたプロジェクト経験の文章化については、今月撮影が行われたプロジェクトマニュアルの視聴覚教材を皮切りに、順次行っていく予定であるが、第 2 弾として、COGES 連合の経験の文章化（仏語、日本語）を、コンサルタントを雇用して行っていく。雇用時期は、4 月から 1 ヶ月を予定する。コンサルタントの TOR については、

○EPT の COGES 連合の活動のまとめ（アプローチ、投入、成果、問題点、可能性）

○地方分権化政策から見た COGES 連合とコミューン政府との連携の可能性

地方分権化政策におけるコミューンの権限（特に教育分野）

現在の政策進展状況と現状

COGES 連合とコミューン政府との連携例（現地調査）

○コミュニケーション政府と COGES 連合の今後のあり方の提言

(13) 12月の予定

| 予定                   | 期間         |
|----------------------|------------|
| 7COGES 連合会合          | 12月7日      |
| タウア州 COGES 担当官会議     | 12月8日      |
| ザンデール州 COGES 担当官会議   | 12月下旬      |
| 国際学校管理セミナー（ニアメ、タウア）  | 12月18日～22日 |
| APP セミナー（官公庁対象／ニアメ）  | 12月27日     |
| APP 報告会（JICA 対象／ニアメ） | 12月27日     |
| 斉藤短期専門家帰国            | 12月30日     |



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2006 年 12 月)

作成日：2007 年 1 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時        | 活動                                                                          | 担当、出張者                      |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 12月1日(金)  | APP アトリエ準備にかかる出張 (Bouza)<br>Thaoua→Niamey                                   | 齋藤<br>原                     |
| 12月2日(土)  | ↓<br>COGES 連合総会モエタリング (Akoubounou)                                          | Gambobo                     |
| 12月3日(日)  | COGES 連合総会モエタリング (Tamaya)                                                   | 尾上、中澤                       |
| 12月4日(月)  | COGES 連合総会モエタリング (Bazaga)<br>Niamey→Tahoua                                  | Ousseini<br>齋藤              |
| 12月5日(火)  | COGES 連合総会モエタリング (Tebaram)                                                  | Yac                         |
| 12月6日(水)  | COGES 連合総会モエタリング (Tajae)<br>Niamey→Tahoua                                   | Yac<br>齋藤、Ibo               |
| 12月7日(木)  | 7 COGES 連合収入創出活動にかかる会議                                                      | 尾上、Gambobo、Ousseini         |
| 12月8日(金)  | COGES 連合総会モエタリング (Bagaroua)<br>COGES 担当官月例会議<br>仏語圏アフリカ学校運営管理セミナー準備 (Konni) | Yac<br>全員<br>中澤             |
| 12月9日(土)  | 仏語圏アフリカ学校運営管理セミナー準備 (Kaoura AL)<br>Tahoua→Niamey                            | 尾上、Gambobo<br>Ibo           |
| 12月10日(日) |                                                                             |                             |
| 12月11日(月) | COGES 連合総会モエタリング (Allela)<br>COGES 連合総会モエタリング (Bambaye)<br>Tahoua→Niamey    | Gambobo<br>尾上<br>中澤         |
| 12月12日(火) | Niamey→Tahoua                                                               | 原、中澤                        |
| 12月13日(水) | セミナー訪問校打ち合わせ (Konni)                                                        | 尾上                          |
| 12月14日(木) | COGES 連合総会モエタリング (Tabotaki)<br>Tahoua→Niamey                                | 尾上<br>原、中澤                  |
| 12月15日(金) | セミナー訪問校打ち合わせ (Kaoura AL)                                                    | 尾上                          |
| 12月16日(土) | セミナー受け入れ準備 (Konni)                                                          | 影山                          |
| 12月17日(日) |                                                                             |                             |
| 12月18日(月) | Tahoua→Niamey<br>仏語圏アフリカ学校運営管理セミナー<br>(中西部アフリカ地域支援主催) 於：ニアメ                 | 尾上、Hamza                    |
| 12月19日(火) | 午前：各国プレゼン<br>午後：コニ移動<br>Tahoua→Konni                                        | 原、尾上、中澤<br>齋藤、影山、Gambobo    |
| 12月20日(水) | 午前：学校視察 (4校)<br>午後：プロジェクト説明、討議                                              | 全員                          |
| 12月21日(木) | 午前：ニアメ移動<br>午後：討議<br>Konni→Tahoua                                           | 原、尾上、中澤、影山<br>齋藤、影山、Gambobo |
| 12月22日(金) | 午前：コミュニティーと学校のパートナーシップ 閉会                                                   |                             |
| 12月23日(土) | Niamey→Tahoua                                                               | 尾上、中澤、影山                    |
| 12月24日(日) | Tahoua→Niamey                                                               | 齋藤                          |
| 12月25日(月) |                                                                             |                             |
| 12月26日(火) | Niamey→Tahoua                                                               | 尾上、中澤、影山                    |
| 12月27日(水) | APP アトリエ 齋藤専門家帰国報告会                                                         | 全員                          |
| 12月28日(木) |                                                                             |                             |
| 12月29日(金) | 齋藤専門家帰国                                                                     |                             |
| 12月30日(土) | Niamey→Tahoua                                                               | 尾上、中澤、影山                    |
| 12月31日(日) | タバスキ                                                                        |                             |

## 2006 年の総括

2006 年は、今年はみんなの学校プロジェクトにとっては、大きな飛躍の年となった。プロジェクトの年間の活動を主に、COGES 連合の機能化、ザンデル州への普及、学校活動計画支援、COGES 政策確立支援の 4 点から、総括する。

### タウア、COGES 連合機能化

タウアにおいては、その有効性がほぼ証明されている COGES の従来の所謂、学校運営住民参加のためのミニмумパッケージ（民主選挙研修、学校活動計画研修、地方行政官によるモニタリング）に、COGES 連合研修を加えた、新しい学校運営住民参加体制確立のためのミニмумパッケージの完成に向けた試行を行った。この試行は、県レベルで COGES 担当官と COGES 連合によるモニタリング体制の確立と、COGES 連合を中心とした COGES を通した住民をより教育開発への参加を目指すものであり、さらに、その住民参加と国家教育開発、地方分権化との調和、融合を図るという意味合いがあった。この成功の成否は、COGES 連合の機能化にかかっていた。COGES 連合の機能化とは、一言で言えば、各 COGES とその代表機関である COGES 連合を有機的に結びつけ、相互補完的な関係性を強化していくことである。具体的には、COGES 連合事務局と各 COGES を通した住民の関係性の強化することである。各 COGES と住民の関係と、COGES 事務局と住民の関係は、直接民主制と間接民主制との関係に例えることができる。つまり、COGES 事務局委員は住民の直接選挙で選ばれ、その運営すべてが住民総会によって決定されていくといういわば、直接民主制ともいえる運営プロセスの透明性により住民参加に成功した。しかし、COGES 事務局委員は、各 COGES の代表によって選ばれるため、間接民主制における日本の政府と国民の関係性にも例えられる関係となり、その関係性は希薄となる。したがって、COGES 連合事務局と住民の関係性を強化するためには、いかに、事務局の運営に住民の意思を反映させ、その運営状況を住民に知らしめるかが、その透明性確保には不可欠な条件となる。この条件を満たすためには、COGES 連合事務局自体の機能化を進めるとともに、COGES 連合と各 COGES の代表を通した住民との情報の流通ができるシステム構築が必要となった。プロジェクトとしては、この 2 つの目標を達成するために、COGES 連合事務局に対しては、その目的や意義、機能などの啓発を図り、情報の流通については、COGES 連合会合の定期的な開催を保証するシステムを導入した。これらの方策は、ある程度の成果を上げつつある。しかし、先に上げた例をとれば、国民がその政府を支持するかどうかは、その政府が国民に利益を尊重し、納得できる有効な政策を実施できるかどうかにかかっている。同様に、COGES 連合の場合も、住民が COGES 事務局を積極的に支援するかどうかは、事務局の活動の有効性にかかっており、今後のプロジェクトの目標は、COGES 連合の事務局の活動内容の指導が中心となる。

### ザンデル州への普及（汎用モデルの試行）

ザンデル州での拡大したミニмумパッケージの導入は、ザンデル 54 コミュニティ中、44 コミュニティで終わり、残りは、2007 年 1 月に終了する予定となっている。ザンデル州でのミニмумパッケージ導入の意義は、国家レベルへのモデルの汎用性を高めるために、モデル導入とモニタリングのための COGES 監督官、担当官の能力強化、研修実施支援等を現地 NGO に実施を委託したことにある。実施に関しては、タウアで試行したモデルを導入したこともあり、選挙実施状況などは、タウアのそれを上回る効率性を上げている。学校活動研修及び COGES 連合研修についても、研修の実施、その後の活動状況を見ると、NGO 委託によるモデル導入の可能性は非常に高まっているとえる。しかし、COGES 連合については、その成否は、タウアのモデルの完成度に

かかっている。

### 学校活動計画支援

学校活動計画支援については、現在、APP 活動、コミュニティー幼稚園、セカンドチャンススクール支援を行っている。この 3 活動のうち、コミュニティー幼稚園、セカンドチャンススクールについては、開始から現在までの実施期間が短く、現在まだ、COGES による汎用モデルの開発を施行しているところである。APP については、3 年間の実績を踏まえ、年末に APP セミナーを基礎教育・識字省関係者の参加を得て実施し、その成果のとりまとめを行った。成果としては、APP が盛んにならなかった原因を分析し、機能する COGES を通じよりコミュニティーを巻き込む形でその内容と継続性の可能性を示し、具体的に生徒の学習態度、教師の教授のモチベーションを上げることに成功したことである。この新しい APP の方法論は、APP クラブの実施にプロジェクトの成果である機能する COGES を利用することにより、機能する COGES があれば、どこにでも普及できる可能性を示した上、APP クラブ実施の過程で住民と学校の心理的距離を縮めることで住民参加を推進し、COGES 機能を強化するという相互補助的な効果をだせる画期的なものである。しかし、APP には、COGES のような強い政策的な潮流がなく、現在プロジェクトが試行している APP クラブを政策レベルへ反映し、国家モデルとすることには、非常に困難である。その意味では、今後は、APP クラブを学校活動計画の重要な一活動と位置づけ、COGES 政策の中で、全国普及を目指す方向性を模索する。

### COGES 政策確立支援

中央レベルでの活動については、今年 4 月から本格的に行うようになった。COGES 政策確立支援での主な活動は、まず、PDDE2007 年度 COGES 活動部分作成支援、PDDE の共同レビューへ準備会合、現地調査、本会議への参加、プロジェクト終了時評価結果の教育関係者への流布、COGES 外部評価支援、学校管理委員会地域会議等であった。これらの活動の成果としては、プロジェクトのミニマムパッケージは基礎教育・識字省とドナー関係者の共通認識となりつつあり、COGES 政策実施の予算が付けば、このパッケージが普及されることはほぼ確実となったことである。しかしながら、肝心の予算は、基礎教育・識字省コモンファンド不正使用事件の余波を受け、現在まで、確定されていないため、その確定が大幅に遅れている。ミニマムパッケージの普及は、基礎教育・識字省が主導で行うべきであるが、財源については、柔軟な考え方をもち、コモンバスケットからの支出が困難な場合は、本プロジェクトがその第 2 フェーズの中で、ミニマムパッケージの普及の技術的な支援だけではなく、財政的にも、主要な役割を演じることも、オプションとして考慮すべきと思料する。

### プロジェクト活動

#### 会議:

タウア、ザンデール COGES 担当官会議開催支援 (各 12 回)、タウア 39COGES 連合大会開催支援 (4 回)、COGES 連合総会開催支援 (各 COGES 連合平均 3 回)、APP 担当官会議開催支援 (10 回)、7 COGES 連合 AGR 会議開催支援 (3 回)、

#### 研修:

COGES 連合研修、学校活動研修 (ザンデール、44 連合、1300 校)、APP クラブ設置研修 (68 校)、コミュニティー幼稚園教諭養成研修 (3 園)、セカンドチャンススクール (2 校)



#### 調査団受入等：

サヘルオアシスプロジェクト視察団（3日間）、Smasse ケニアプロジェクト視察団（3日間）、PDDE 合同評価現地調査団（1週間）、UNICEF 調査団（3日間）、プロジェクト終了時及び追加評価団（25日間）、上田理事（4日間）、森下職員（セネガル案件打合せ1日間）、人間の安全保障ビデオ（10日間）、マルチメディアプロジェクトビデオ（12日間）計68日間

セミナー：

学校管理委員会地域セミナー（5日間）、APPセミナー（1日間）

#### （1） 今月の総括

今月は、定例の COGES 担当官会議、COGES 連合モニタリングの他に、ニアメ、コニで仏語圏アフリカ学校管理委員会セミナーと APP セミナーを開催した。仏語圏アフリカ学校管理委員会セミナーにはニジェールの他、マリ、ブルキナファソ、セネガルの教育省からの参加者のほかに、中西部アフリカ地域支援事務所員、企画調査員、専門家が参加した。本セミナーにおいては、討議、視察からなる予定を無事終了し、多くの成果を残すことができた。APP セミナーは、齋藤専門家帰国に伴う報告会という意味合いもあり、基礎教育・識字省に対するものと、隊員を対象としたものを開催した。

#### （2）タウア州 COGES 担当官会議

今月の COGES 担当官会議は 12 月 8 日に行なわれた。COGES 担当官によるモニタリング報告では COGES 連合による COGES の学校活動計画の回収状況、第二活動計画（課題活動計画）の策定状況、COGES による分担金の回収状況などが確認された。その他、COGES 連合による第 2 活動計画策定における留意点や今年度の活動支援についてプロジェクトから説明を行ない、次回の会議までのモニタリングポイントの確認を行なった。今年度は昨年度のように質の向上キャンペーン（最終試験合格率アップ）のように全連合に共通した課題に対する活動支援ではなく、それぞれの連合で各 COGES に裨益する、あるいはコミュニケーション全体の教育課題に対する取り組みに対する支援を一定の条件（連合機能強化に向けた積極的な取り組みなど）をもとに個々に対応して行なう方向で検討、協議された。

#### （3）COGES 連合総会巡回モニタリング

上述の COGES 担当官による報告の結果、12 月 8 日時点での状況は以下のとおり。

- 1) COGES 学校活動計画：対象校のうち約半数の COGES の学校活動計画が連合レベルで回収済み
- 2) 連合第 1 活動計画：全 39 連合が策定済み
- 3) 連合第 2 活動計画：15 連合（うち 10 連合が総会にて承認済み）

これまでの月報においてすでに報告したとおり、今年は学校の開始時期が遅れたため、学校活動計画の策定も若干遅れ気味である。したがって、学校活動計画をベースに策定される COGES 連合の第 2 計画も、12 月 8 日時点で 10 連合のみが策定と総会での承認ともに完了している状況である。その後のモニタリングによって、COGES の学校活動計画の策定・回収及び連合の第 2 活動計画の策定は順調に進んでいる様子である。昨年度に比べると今年度は多くの COGES 連合でそれぞれが抱える問題、課題に応じた活動計画を策定し始めている。また、事務局委員の改選など機能強化に取り組む連合も先月に引き続き見られた。詳細状況の確認は次回の COGES 担当官会議（2007 年 1 月中旬）の際に行なわれ、その時点において、大半の連合が学校活動計画と連合の第 2 活動計画の策定回収を完了する予定である。

#### (4) 7COGES 連合収入創出活動にかかる会議

12月7日に収入創出活動支援を行なっている7連合の代表を集めて、収入創出活動の総括会議を行なった。氷及び清涼飲料販売を実施している6COGES連合については、収益率が当初計画を大きく下回る結果となり、各連合レベルでの改善努力にもかかわらず、今後の改善の見込みが低いとの判断から、同活動を停止することで各連合代表、タウア州基礎教育識字局長、プロジェクトとの間で合意がなされた。なお、玉ねぎの投機取引で大きな収益を上げているガルマCOGES連合については、活動を継続することとなった。今後、収入創出活動については個々の連合に対して活動支援を行なうのではなく、中央で一元化した収入創出活動に切り替えていく方向で検討している。

#### (5) APP(生産実習活動)クラブ及びAPPセミナー

今月27日、基礎教育・識字省およびニジェール国内APP関係者を対象とした「APPクラブセミナー」を開催した。今回のセミナーは、3年に渡り、APPの発展に尽力してきた齋藤専門家の任期終了に伴う活動報告会として、プロジェクト概要およびプロジェクトが推進する「APPクラブ」の現在までの軌跡と成果を発表し、その経験を関係者間で共有することを目的とするものであった。「機能するCOGES」によって住民参画を促し、その住民参画によって実現可能性・持続発展性を高めた「新しい形のAPP」に対し、あくまでも学校の教科として固定したAPP観を抱いていた参加者からは、その斬新な発想と今後の可能性に対し、高い評価と関心を示す声が大いに聞かれた。特に、住民参画・住民参加によりAPPの旧来の問題を解決したという点で、APPクラブがこの教科の目指すべき方向性を示唆するものであることが認められたといえよう。

さらに上記セミナーに併せ、JICAニジェール事務所および協力隊員向けのセミナーも同日に開催された。ここでは、前述の内容に加え、APPに関わる教育分野の隊員のみならず、保健、農業、村落開発など様々な職種の隊員を前に、APPクラブと隊員活動との関わりに関する将来的な可能性にも触れるものであった。地域住民を巻き込んだAPPクラブは、児童への教育的な意味合いもさることながら、地域住民の生活と深く結びつくという意味でも意義深いものである。そのため、様々な職種の隊員による介入が、個々のクラブの発展のみならず、コミュニティー開発へ向けたひとつの糸口としても寄与する余地は大いにあろう。

今年度のAPPクラブの状況に関しては、今月初めから現在、各COGESの学校活動計画に関する情報がプロジェクトに随時集まってきている。この学校活動計画状況をみると、昨年までのAPPクラブ対象地域であるブザ県ブザ地区およびコニ県サルナワ地区の各校のみならず、他の県や地区からも、APPを学校活動計画に盛り込んでいる状況が伺われ、今後の広がりが大いに期待される。その一方、各校の学校活動計画を照査すると、パイロット地域としてAPPクラブを導入した2地域(ブザ、サルナワ)以外では、非常に凝り固まったAPP像に基づいてクラブ選択を行なったと予想される計画内容であった。これは、地域住民との協働によるAPPの実施がもたらす可能性に対する認知が依然として低いことを示しているといえよう。そのような状況から、APPに関心を示す全てのCOGESに対して「改訂版APPマニュアル」や「事例集」を配布し、APPクラブの可能性への理解を促すことが必須といえる。特にパイロット各校の経験を大いに盛り込み、初めてAPPクラブに取り組む学校であっても、即時にスタートが切れるような具体的でかつ分かり易い「事例集」は、プロジェクトが推進するAPPクラブ普及に不可欠なものといえる。今後は、APP活動を計画している全てのCOGESに対し、上記のマニュアルおよび事例集の配布を行ないながら、APP活動を新規に希望するCOGESを中心に、個別にクラブ設立および実施

へ向けた支援を随時提供していく予定である。また、昨年度のパイロット校である二地区に関しては、COGES 連合を通じたモニタリング体制の確立へ向けて、自主モニタリング実施状況に注視していくこととなる。

#### (6) コミュニティー幼稚園及びセカンド・チャンス

上記 APP クラブにて述べたように、今月初めから現在、各 COGES の学校活動計画に関する情報がプロジェクトに随時集まってきている。しかしながら現在のところ、当該二活動の実施を計画する COGES は必ずしも多くない。これは“当該活動に住民の関心や需要がない”というよりもむしろ、当該活動自体が COGES 活動として目新しいものであるということと (COGES 側に実施ノウハウがない)、これらの活動が各 COGES にとって過度な負担であるとの印象を与えていることが原因と思われる。つまり、これらの活動に関心をもっていたとしても、住民への負担の大きさと実施に掛かる複雑さが予測されることから、なかなか実施に踏み切れないでいる COGES が多いということである。昨年度から、なるべく地域住民の負担を抑え、持続可能性を重視する運営方法の模索に努めてきたが、その戦略に関する情報提供が各 COGES に対し不十分であり、通常 COGES が足踏みする箇所への対応策を事前に提示出来なかったことがこの状況へと結びついていたと思われる。

今後の動きとしては、当該活動への住民需要の動向と今後の発展可能性を考慮しながら、現在実施を希望している COGES の活動を通して、より簡易で持続可能な運営方法を模索し、COGES の学校活動として実現可能性の高いモデルを確立していくことが必要であろう。また、今後これらの活動を広めていくためには、実際に当該活動を実施している COGES の経験や戦略を他の COGES と共有できるよう、様々な場を通して情報提供・宣伝活動を実施していくことも求められるといえる。

コミュニティー幼稚園保育者および、セカンド・チャンスクラス教員に対する今年度の研修は、各 COGES の開園・開講準備状況に鑑みながら、来月下旬より随時実施していく予定である。

#### (7) ザンデール州での活動

ザンデール州では 11 月の研修の結果、17 コミュニオン中、16 コミュニオンで COGES 連合が設置された。残りの 1 コミュニオンは 1 月 8 日に総会を開催予定であり、その際に連合の設置が予定されている。なお、12 月中旬に基礎教育識字省から今年度の人事異動の発表 (一部) があり、ザンデール州基礎教育識字局長の移動が発表された。新局長は先に行なわれた仏語圏アフリカ学校運営管理セミナーにも出席し、非常に積極的であることから、今回の人事異動がザンデール州でのプロジェクト活動の実施についてマイナス要因よりもプラス要因の方が大きいと考える。

#### (8) 仏語圏アフリカ学校運営管理セミナー

プロジェクトは、セネガル中西部アフリカとニジェール基礎教育・識字省との共催で、「仏語圏アフリカ学校運営管理セミナー」を 12 月 19 日より 22 日までの日程で開催した。セミナーには、ニジェールのほか、ブルキナファソ、マリ、セネガルの教育省および、JICA 関係者、NGO、計 33 名が参加した。日程は、セミナー開催初日である 19 日に、ニアメで、各国からの地方分権化及び学校運営委員会の状況の報告の後、コニへ移動した。翌日、みんなの学校プロジェクト対象校の視察 (計 4 校) 後、プロジェクトの説明を行い、21 日にはニアメに戻り テーマごとのグループディスカッションを行い、その議論の結果を、22 日の公開セミナーで発表した。



最後に、その発表をベースとし、「学校とコミュニティのパートナーシップ」をテーマとした議論を行った。議論の結論としては、各国の地方分権化の違いを越えた、学校運営委員会機能化の共通点が抽出された。

セミナーは、最終日の公開議論が、急に決定された PTF の新しい議長国を決める会合と重なり、他ドナーの出席が見られなかったことが残念であったが、1) 他国の地方分権化、学校管理委員会の現状と相違点を各国が認識できたこと、2) 学校運営委員会の機能化の要素として、みんなの学校モデル（ミニマムパッケージ）が必要であると結論付けられたこと、3) 地域内での情報交換、情報共有のセミナーの重要性が認識されたという意味で非常に意義のあるセミナーであったと結論付けることができる。

今後、みんなの学校広域プログラム群構想の進展と合わせ、同地域、同分野に共通の問題意識を持つ、IIEP、Plan international、COMFEMEM（フランス語圏諸国教育会議）との連携を視野に入れ、政策決定者レベルの拡大セミナーの開催を模索すべきであろう。政策決定者レベルセミナーに現場の経験からのフィードバックを含ませることにより、セミナーの成果はより具体的に政策レベルに反映され、その効果は飛躍的に上がると思料される。

#### **(9) 中央、援助協調、ドナー動向**

COGES 政策への予算計上が期待される 2007 年度の PDDE 活動計画予算を含む基礎教育・識字省予算は、最終的な国会での承認を待っている状態である。この待機が長引いている理由は、活動計画への予算配分に国家予算以外のドナーからの財政援助等が含まれており、その部分の予算の確定が出来ないためである。コモンバスケットを含む財政援助は、基礎教育・識字省のコモンバスケット不正使用事件の余波で、その新しい管理体制の構築への交渉が、基礎教育・識字省とドナーの間で、続いており、新しいモダリティの確立が待たれている。

PTF においては、現在まで議長国であったフランスの任期満了に伴い、新しい議長国の選出を行っている。

世銀関係では、2007 年度の財政支援の検討を行うミッションが 1 月初旬に予定されている。

#### **(10) COGES 外部評価**

10 月から 2 ヶ月にかけて行われた外部評価の第 1 ドラフトは 12 月に提出されたが、第 1 ドラフトを検討した、UNICEF、CONCERN、みんなの学校プロジェクトから、多くの疑問が提出され、その報告書のフォームから改善することとなり、その改善のための時間的余裕を見て、COGES 政策承認アトリエは、1 月の下旬に開催を予定する。

#### **(11) プロジェクト運営管理**

##### **① 在外事業強化費追加申請**

当プロジェクトの終了予定が当初の 2006 年 12 月末から 2007 年 7 月末に延長決定となったことを受け、本年度第 4 四半期の活動にかかる予算（在外事業強化費）を本部へ申請した。その結果、本部より、経常経費、COGES 政策策定支援、COGES 連合支援、ザンデール州研修費等として、計 20,680 千円の予算が認められた。

##### **② タウア事務所年末年始休み**

年末年始にかかる祝日のため、タウア事務所を 12 月 26 日より 1 月 2 日まで休暇とすることにした。

## (12) 課題

今回のセミナーの開催に向け、プロジェクトとしては、全力で開催準備を行い、セミナー自体は、大きな成果を上げたと評価できるが、やはり、最大の効果を上げるためには、より綿密な事前の準備が必要であることを再認識した。会議の効率を上げるための、事前アンケートとその取りまとめ、議事内容に事前の打合せと、視察内容の調整等がより十分に行われていれば、このセミナーだけで、現在まで、書かれている西アフリカの地方分権化についてのいかなる報告書を超える内容の報告が出来たと思われる。セミナーの有効性は今回で証明されたので、次回は、地域レベルで1年間程度の準備期間とそのためのマンパワーを是非、用意していくべきであろう。

## (13) 1月の予定

| 予定                                 | 期間           |
|------------------------------------|--------------|
| ザンデール州 COGES 担当官会議                 | 1月4日         |
| 齋藤専門家、帰国報告会（於：JICA 本部）             | 1月5日         |
| セネガル調査団員プロジェクト視察                   | 1月4日～8日      |
| 原専門家パリ出張                           | 1月9日～12日     |
| 個別専門家研修員、近藤氏ニジェール赴任                | 1月9日         |
| 新人職員研修、宇井職員、当プロジェクト研修開始            | 1月15日（約2ヶ月間） |
| タウア州 COGES 担当官会議                   | 1月15日        |
| タウア州 COGES 連合大会                    | 1月16日        |
| プロジェクト合同調整委員会                      | 1月22日        |
| ザンデール州学校活動計画及び COGES 連合設置研修(10 連合) | 1月30日        |
| 尾上専門家休暇一時帰国                        | 1月23日～2月22日  |

別添：COGES 連合モニタリング集計表

# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2007 年 1 月)

作成日：2007 年 2 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                                                                                         | 担当、出張者                                               |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1月1日(月)  | 休み                                                                                                                         |                                                      |
| 1月2日(火)  | 休み                                                                                                                         |                                                      |
| 1月3日(水)  | 年始 <span style="float:right">Niamey→Zinder</span>                                                                          | Ibo                                                  |
| 1月4日(木)  | COGES 担当官会議 (ザンデール)                                                                                                        | Ibo                                                  |
| 1月5日(金)  | 馬野調査員団員ニアメ着<br>齋藤専門家帰国報告会 (JICA 本部)<br>COGES 連合モニタリング (Garhanga)<br>COGES 連合モニタリング (Bangui)                                | 原<br>齋藤<br>尾上、Yac<br>Gambobo                         |
| 1月6日(土)  | 同団員コニ視察<br>Konni 年頭スタッフ会議 (午後)<br>プロジェクト説明 <span style="float:right">Niamey→Konni<br/>Zinder→Konni<br/>Tahoua⇄Konni</span> | 原<br>全員<br>原、尾上、IBO<br>原、馬野<br>Ibo<br>スタッフ全員 (尾上を除く) |
| 1月7日(日)  | ニアメに移動 <span style="float:right">Konni→Niamey<br/>Konni→Tahoua</span>                                                      | 原、馬野<br>尾上、Ibo                                       |
| 1月8日(月)  | ニジェール事務所への調査報告<br>コミュニティ幼稚園モニタリング (イレラ県) <span style="float:right">Tahoua→Niamey</span>                                    | 笹館所長、原、馬野<br>影山<br>中澤                                |
| 1月9日(火)  | 近藤研修員ニジェール赴任<br>原専門家パリ出張                                                                                                   |                                                      |
| 1月10日(水) | COGES 連合総会モタリク (Galma) <span style="float:right">Tahoua→Niamey</span>                                                      | Ousseini<br>Ibo                                      |
| 1月11日(木) | <span style="float:right">Niamey→Tahoua</span>                                                                             | 中澤、近藤                                                |
| 1月12日(金) | コミュニティ幼稚園研修にかかる打ち合わせ (Dabnou)<br>COGES 連合総会モタリク (Tabalak)<br>原専門家ニジェール帰国                                                   | 影山<br>Ousseini                                       |
| 1月13日(土) | コミュニティ幼稚園研修にかかる打ち合わせ (Dabnou)                                                                                              | 影山                                                   |
| 1月14日(日) |                                                                                                                            |                                                      |
| 1月15日(月) | 宇井職員 OJT 開始<br>コミュニティ幼稚園研修 (Dabnou) <span style="float:right">Niamey→Tahoua</span>                                         | 影山、Kabo<br>原、Ibo                                     |
| 1月16日(火) | COGES 担当官会議 (タウア)                                                                                                          | 全員                                                   |
| 1月17日(水) | COGES 連合大会                                                                                                                 | 全員                                                   |
| 1月18日(木) | <span style="float:right">Tahoua→Niamey</span>                                                                             | 原、Ibo                                                |
| 1月19日(金) |                                                                                                                            |                                                      |
| 1月20日(土) | COGES 連合総会モタリク (Tchinta)                                                                                                   | Yac                                                  |
| 1月21日(日) | <span style="float:right">Tahoua→Niamey</span>                                                                             | 尾上、中澤、Gambobo                                        |
| 1月22日(月) |                                                                                                                            |                                                      |
| 1月23日(火) | 合同調整委員会<br>COGES 連合総会モタリク (Azeye) / コミュニティ幼稚園開設にかかる打合せ (Tagalatt)                                                          | 原、尾上、中澤、Ibo、Gambobo<br>影山、Kabo、Ousseini              |
| 1月24日(水) | 尾上専門家休暇 (2月23日まで)<br>セカンド・チャンスクラスモニタリング (Kossa I/Moujia) <span style="float:right">Niamey→Tahoua<br/>Niamey→Zinder</span>  | 影山、Kabo<br>中澤、Gambobo<br>Ibo                         |
| 1月25日(木) | コミュニティ幼稚園分野における連携のための UNICEF との協議                                                                                          | 原、影山、Kabo                                            |



|          |                                                                                                                 |                                            |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
|          | COGES 連合総会モニタリング (Abalak)<br>COGES 連合総会モニタリング (Illela)<br>COGES 担当官研修準備会合<br><br>Tahoua→Niamey<br>Tahoua→Zinder | Ousseini<br>Yac<br>Ibo<br>影山、Kabo<br>近藤、宇井 |
| 1月26日(金) | Niamey→Tahoua<br>ザンデール COGES 連合、学校活動研修 (~2月7日まで)                                                                | 影山、Kabo                                    |
| 1月27日(土) | COGES 連合モニタリング (Akoubounou)                                                                                     | Ousseini                                   |
| 1月28日(日) | Zinder→Tahoua<br>Zinder→Niamey                                                                                  | 近藤、宇井<br>Ibo                               |
| 1月29日(月) |                                                                                                                 |                                            |
| 1月30日(火) | AGR 打合せ (Galma) 及び UNESCO コンサルタント訪問にかかる準備 (Konni)                                                               | Gambobo、Yac                                |
| 1月31日(水) | UNESCO 西アフリカ地域事務所コンサルタント、プロジェクト<br>イト視察<br><br>Niamey→Tahoua                                                    | Gambobo<br>原                               |

### (1) 今月の総括

今月は、タウア、ザンデールの COGES 担当官会議の他に、タウアでは、COGES 連合大会（アトリエ：地方分権化組織と COGES 連合の協働にむけて）を開催した。ニアメで、コミュニティー幼稚園分野での共同活動を協議するために UNICEF と会談の他、合同調整委員会を開催した。ザンデールでの学校活動計画、COGES 連合設立研修が1月末に始まった。この研修により、ザンデールのすべての学校において、機能する COGES と COGES 連合が設立されることとなる。また、セネガルの教育環境改善プロジェクト（みんなの学校プログラム）の事前調査に先立ち、将来的に上記プロジェクトの専門家となることが予定されている馬野氏の他、UNESCO 西アフリカ地域事務所コンサルタントがプロジェクトを視察した。

### (2) 合同調整委員会開催(会議議事録は、別添3参照)

今回の合同調整委員会は、過去6カ月の活動報告のほかに、特に、ミニマムパッケージにおける教育改善への貢献、そして、COGES 連合機能化への取り組みを紹介した。現在、基礎教育・識字省内部で、COGES 普及に関する議論が行われている時期でもあり、基礎教育・識字省次官からは、「プロジェクト内部での NGO の役割」、「COGES 設立における民主選挙の意義と効果」についての質問があった。この質問への回答に関し、次官からは、回答の内容を文章化してほしい旨の要望があり、委員会会議後、すぐに説明文を作成し、次官に提出した。就学率などのタウア全体への影響についての説明は、ミニマムパッケージ普及に向け、参加者に非常に強いインパクトを与えた。

### (3) タウア州 COGES 担当官会議

今月の COGES 担当官会議は1月16日に開催された。主な議題は、翌日の COGES 連合大会（コミュニケーション、COGES 連合、教育行政との連携についてのアトリエ）についての情報提供、月例活動報告（主に COGES 連合の活動モニタリング）及び課題と問題点についての確認、討議を行なった。COGES 担当官の報告によると、今年度の COGES 学校活動計画の回収については、合計1307校中980校が策定し、連合を通して、視学官事務所に回収されている。未回収の学校活動計画に関して、COGES 連合を通じた回収が遅れている理由は様々考えられるが、まず学校の開始時期が遅れて学校活動計画の策定自体が遅れていること、新設された学校の校長が COGES の研修を受けておらず COGES が存在しない学校があること、校長を含め教員が学校に着任していない学

校が存在すること（あるいは着任していても学校に出勤していない）、COGES 連合の情報連絡体制が整っていないこと、などが挙げられる。これらの問題に対して、新任校長への研修や COGES に関する再研修については既に連合の活動計画の中に組み入れている連合もあり、プロジェクトとしても研修マニュアルの複製やその他の教材、また必要に応じ、講師の派遣など支援していくとともに、連合の連絡体制不備による回収の遅れについては、引き続き改善する努力を促していく。

さらに今年度の連合の活動計画（課題活動）である第 2 活動計画については、39 連合中 34 連合が策定と連合内の承認を終え、提出された。内容を大きく分類すると、COGES に対する COGES の活動の再啓発活動、模擬試験の実施、就学促進啓発活動、CAPED 支援、などが計画されている。プロジェクトではこれらの活動計画のうち、連合の活動として妥当性の高いものについて、これまでの各連合の活動実績（会議の開催や参加度、機能化への取り組み）などを考慮したうえで、技術・資機材等の側面支援を行なう計画である。

#### (4) タウア州 COGES 連合大会

COGES 連合機能化のための支援活動の一環として、1 月 17 日にタウア州のプロジェクト対象地域の COGES 連合メンバーとコミュニン長、及び各県の視学官及び COGES 担当官を集めて、3 者（コミュニン、COGES 連合、地方教育行政）間の連携を考えるアトリエを開催した。アトリエでは、教育の地方分権化政策の一環である COGES とプロジェクトの活動紹介に関するプレゼンテーション、並びにニジュールの地方分権化政策（コミュニン行政）についてのプレゼンテーションを行なった後、視学官を含め地域社会で教育開発を推進するアクターとして、どのような連携が可能であるのかを実際の現場での経験を踏まえて討議を行なった。事例の発表では既に多くのコミュニンで COGES 連合の活動に対してコミュニン長が支援を行なっていることが紹介され、それらの事例をもとに今後どのような連携のあり方が望ましいのか、討議と提言を行なった結果、以下の決議事項が全体で承認された。

- 1) コミュニン評議会、COGES 連合、地方教育行政の 3 者による正式な協議の枠組みを創設し、教育の問題に対する取り組みを協議する。今年度から年 3 回の協議を始める。
- 2) コミュニンの代表（教育分野担当評議委員）を COGES 連合事務局に送る。
- 3) コミュニンの「コミュニン開発計画」の中に COGES 連合の活動計画を取り入れる。
- 4) コミュニン開発計画策定過程への COGES 連合代表の参加。

（その他、詳細は別添 4 報告書参照）

これまでのモニタリングを通して言えることは、現場レベルにおいてこの 3 者の連携に対する期待は大きく、実際に今回のアトリエではほぼ全てのコミュニン、COGES 連合代表、視学官が出席し、積極的な発言が多く見られたことから、このテーマに対する関心とニーズの高さを示しているといえる。今後この連携が進展すれば、COGES 連合の機能化に向け大きな支援体制がローカルレベルで構築されるだけでなく、コミュニンレベルでの教育開発計画の策定と実施を促進する枠組みが形成されることにもなり、COGES 連合は学校レベル、コミュニティーレベルでの教育に対するニーズを汲み上げる組織として、そして具体的な活動の実施主体としての役割など、重要なアクターとしてその存在意義が高まる可能性がある。しかしながら一方で、コミュニン行政自体も誕生して間もない地方自治体であることから、今後は国の地方分権化政策の進展を注視しながら、過剰な期待に基づく連携ではなく、現実的で実施可能な連携の形を模索していくことから始めていく必要がある。

#### (5) タウア州 COGES 連合総会巡回モニタリング

今月は、連合大会や合同調整委員会など大きなイベントが続いたため、その準備等でプロジェクトスタッフによる総会等へのモニタリング巡回は限りがあり、COGES 担当官を中心とするモニタリングとなったが、主に連合の第2活動計画の承認を議題とした総会には極力スタッフも参加して指導助言を行なった。各連合の確認項目の進捗は、上記 COGES 担当官会議の項、及び別添5一覧表のとおり。

#### (6) APP(生産実習活動)クラブ、コミュニティー幼稚園及びセカンド・チャンス

APP クラブにおいては、昨年度のパイロット校以外にもそのアプローチを広める為、現在 APP 活動を学校活動計画内に挙げている COGES に対し、APP クラブマニュアルの配布を行なっている。現時点での集計結果によると、タウア県内8校、マダウア県内38校、チンタ県内9校、コニ県内56校(内26校は昨年度パイロット校)、ブザ県26校(昨年度パイロット校)にて APP 活動が計画されている。今後は、APP クラブマニュアルを配布した学校における活動状況に関する情報収集に努めると共に、昨年度のパイロット地域であるブザ県ブザ地区およびコニ県サルナワ地区にて、COGES 連合を通じた自主モニタリング体制の確立へ向けた活動を実施していく予定である。つまり、各校 APP クラブ活動の機能状況に注視すると共に、モニタリング用紙を含めた自主モニタリング体制の実現可能性、実用性、有効性を見極め、必要に応じた改良を図っていく。

コミュニティー幼稚園は今年度新たに1COGES が加わり、イレラ県内計4村落にての実施が現在までに確定した。それを受け、今月15日に、住民から選出された保育者、各 COGES の代表及びコミュニティー幼稚園担当者、さらに COGES 連合(Badaguichiri、Illéla)代表、イレラ県 COGES 担当官を集め、コミュニティー幼稚園アトリエ研修を開催した。研修は EPT スタッフとタウア幼稚園視学官事務所・指導主事が担当し、コミュニティー幼稚園の理念や目的の説明、プログラム・園内活動説明、活動実践(指導主事によるデモンストレーション)に取り組んだ。現状としては、2村落では、既に11月より今年度の活動が開始されており、新規を含めた2村落においても、今月末には活動が開始された。また、上記4COGES の他にも、実施希望を表明しているところもあり、今後、COGES による学校活動計画として確定した時点で、再度、研修を実施する予定である。

その他、UNICEF との間で、コミュニティー幼稚園における協力関係を結ぶこととなり、今月25日には、UNICEF 就学前教育担当者との協力体制の枠組みに関する会合をもった。UNICEF との連帯は、UNICEF、EPT 両者がそれぞれの得意領域で介入し、互いに補完しあいながら、コミュニティー幼稚園のより機能的なモデル化を目指すというものである。今回の話し合いでは、基本的にこちらの意向・提案がほぼ通り、コミュニティー幼稚園のサイトの選出、設立過程、および COGES による運営面を EPT が担当し、保育者の研修、園内物資の支援、幼稚園視学官事務所によるモニタリング支援の面を UNICEF が持つという大枠が決まった。この決定事項を文書化し、2月末には正式な合意が UNICEF、JICA 間で結ばれる予定である。(別添1.2参照)

セカンド・チャンスクラスに関しては、今年度新たに実施を計画している COGES はなく、当面は、昨年度実施したイレラ県の2COGES のみとなる見込みである。しかし、現在のところ当該クラスの運営上の問題や、さらには COGES 自体の機能上の問題により、両 COGES ともに幾分足踏み状態にある。そのため今後は、逐次に渡るモニタリングや情報収集を通して各 COGES および活動の状況把握に努め、適宜、問題解決へ向けた支援を行なっていく予定である。



## (7) ザンデール州での活動

11月上旬より実施していた17コミュニティ対象の学校活動計画・COGES 連合設置研修について、研修終了後はモニタリングが実施されていたが、1月8日をもって今回の研修対象全てのコミュニティにおいて第1回 COGES 連合総会が開催されたことが確認された。従って、研修を終えた45コミュニティ全てにおいて COGES 連合が設置されたことになる。今月下旬より開始した10コミュニティ対象の研修を終え、COGES 連合の設置が確認されれば、ザンデール州全域で機能する COGES 及び COGES 連合が活動することになる。

また、既に設置された27連合の活動状況については、1月上旬現在、事務局内会合実施数平均2.7回、連合総会開催数平均1.2回、各 COGES の学校活動計画回収率約57%であることが判明した。1番古い COGES 連合でも設置されて約半年しか経過していない状況において、日本人専門家の介入等なく自発的な活動を展開していることから、期待以上の成果を示していると言えるであろう。

しかしながら、各 COGES の学校活動計画表収集率が低い COGES 連合も若干あることから、機能化に向けた問題分析とその戦略を立てる必要がある。残り10コミュニティの研修実施とともに、引き続き ONEN の業務委託によるモニタリングを継続し、動向を注視していく。

## (8) 中央、援助協調、ドナー動向

1月の中旬より、世銀のプロジェクトの PADEB のミッションが来二して、世銀のプロジェクトである2007年度の活動及び PADEB の第1フェーズ(2003~2007)の評価及び、今後の第2フェーズの活動について基礎教育・識字省と会議を行っている。それにともない、COGES に関して、その評価や今後のアプローチについての議論が行われ、COGES 推進局長も、世銀との会議を行っている。この会議で浮き彫りにされたのは、COGES 政策推進(ミニマムパッケージの全国普及)に関し、基礎教育・識字省内部での抵抗勢力がまだ存在していることである。基礎教育・識字省内部の調整がつかない限り、COGES 政策の進展は望めず、今後は、COGES 政策のビジョンを共有するためのアトリエの開催に向け、努力を行っていく必要がある。なお、COGES 推進室の管轄部署である基礎教育総局の局長が定年退職することとなった。

## (9) COGES 外部評価

外部評価は、コンサルタントの評価報告書の内容について、COGES 推進室、みんなの学校プロジェクト、UNICEF、CONCERN からコメント修正という作業を3回行っているが、各者の満足のいく評価報告書にならず、報告書の関係者への配布、アトリエの開催の時期が遅れている。今後、この報告書の完成へ向けて、集中して作業を行う。

## (10) プロジェクト運営管理

### ① プロジェクト予算関係

今月7日、JICA ニジェール事務所に対して2006年度第3四半期(2006年10月~12月)にかかる当プロジェクト在外事業強化費会計報告を行った。報告内容は以下の通りである。

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 前期繰越分：   | 17,270,373 Fcfa |
| 今期概算受入額： | 46,413,233 Fcfa |
| 今期支出額：   | 54,752,999 Fcfa |

また、1月4日、第4四半期在外事業強化費の前途資金として74,876,087Fcfaが送金さ

れた。

## ② ONEN 業務委託契約

上記(7)の通り、ザンデール州において2006年11月より実施していた17コミュニティ対象の学校活動計画・COGES 連合設置研修およびモニタリングが1月中旬に業務完了したことから、1月15日に精算を行った。最終精算額は19,317,691Fcfで、第1回概算払い分を差し引いた3,721,451Fcfを1月15日に支払った。

また、19日には、最後の10コミュニティ対象の同研修及びモニタリングについての業務委託契約が締結された。契約期間は2007年1月19日から3月20日の約2ヶ月間である。今回の契約見積金額は16,304,640Fcfで、契約直後に約80%を概算払いとして支払い、残額は業務完了後に実費精算をして支払うこととする。

## ③ 新人事体制

JICA 技術協力専門家養成個人研修の一環として、今年9日より近藤氏がニジュールに赴任した。本研修は11ヵ月に及び、当プロジェクトの活動を通して、みんなの学校アプローチを通じた教育開発支援のあり方を学ぶとともに、JICA 技術協力プロジェクトにおけるマネジメントについても業務調整の仕事を一部担当して習得する。

また JICA 新人職員としてニジュール事務所に於いて OJT を受けている宇井職員が、OJT の一環として今年15日より当プロジェクトでの業務を開始した。主な業務内容はプロジェクト内部でのデータ整備、当プロジェクトホームページ更新、COGES 連合、各 COGES 活動支援を予定している。

## (11) 課題

プロジェクトやミニマムパッケージの普及をとりまく環境は改善されている。プロジェクト成果に関する情報は、仏語圏アフリカ学校運営管理セミナー、COGES 連合大会、合同調整委員会などに関する情報の提供(TV, ラジオ、新聞報道、PTF への会議報告書の送付)などにより流されており、プロジェクトやミニマムパッケージに対する評価は高まっている。また、外部評価のドラフトを見ても、ミニマムパッケージと相反するアプローチを採用しているドナーもなく、PTF の鍵を握る世銀においても、去年の PDDE 合同レビューの現地調査などを通し、その有効性に対する認識を持っていることは確認できている。しかしながら、外堀はほぼ埋まっているにもかかわらず、ミニマムパッケージの普及がいつになるかの予測は難しい。その理由は、基礎教育・識字省コモンバスケット資金不正使用事件の余波による予算策定、実施プロセスの遅れだけではなく、地方分権化政策実施が、基礎教育・識字省内部の主導権争いや各ドナーが持つ独自の利害に関係していることに由来する。基礎教育・識字省内部では、汚職一新のために外部から抜擢された信任の大臣の下で、今後の人事をめぐり、水面下での主導権争いが行われている。この争いの余波は、政策の実施面においても、その政策の良し悪しではなく、誰が主導しているかによってその動きに反対する動きが、様々な場面で、実施プロセスを遅らせる要因になっている。また、各ドナーの利害に関し、特に世銀は、地方分権化推進という組織の方針があり、ニジュールの財政支援などに関しても、その支援の何%かを地方レベルに直接供与することなどのコンディショナリティーを付与している場合があり、COGES 政策の進展とは関係なく、物品、補助金などの COGES への直接供与などが行われる可能性が高い。

地方分権化の中で考えた場合、ミニマムパッケージの普及は、教科の指導法などの普及とは違う様々な障害があることを前提として、今後の方向性を決定していく必要がある。その方向性決定の際に、このような政策の進展に障害が多い分野で、一プロジェクトが、ここまで政策

全体に影響を及ぼすことができるようになった要因を検証することが、逆の意味で、今後のさらなる成功を導きだす必要条件になると思料する。最大の成功要因は、間違いなく住民の残した圧倒的な成果である。この成果をプロジェクトが広い範囲に広げ、その成果をドナー、中央の基礎教育・識字省関係者に効果的に宣伝を行ったことも大きな要因であったと考えられる。この面では、COGES 政策の一元的な実施を推進しながらも、実施が遅れていくことも考慮に入れ、プロジェクト自体の対象地域の拡大やプロジェクトと同じアプローチをとり、考え方も近く、COGES 政策推進予算を持つ、UNICEF や CONCERN との協力を通して、ミニマムパッケージの効果の拡大を図ることもオプションとして、考えていく必要があると思われる。

(12) 2月の予定

| 予定                        | 期間    |
|---------------------------|-------|
| ゼンデール州学校活動計画、COGES 連合研修終了 | 2月7日  |
| タウア州 COGES 担当官会議          | 2月14日 |
| ゼンデール州 COGES 担当官会議        | 2月中旬  |
| COGES 政策確定アトリエ            | 2月下旬  |

別添資料：

- 1) UNICEF との会議議事録 (1月9日)
- 2) UNICEF との会議議事録 (1月25日)
- 3) 合同調整委員会議事録 (1月22日)
- 4) タウア COGES 連合大会報告書 (1月17日)
- 5) COGES 連合総括表



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2007年2月)

作成日：2007年3月1日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                                                                                                             | 担当、出張者                         |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 2月1日(木)  | ザンデル COGES 連合、学校活動研修 (~7日まで)<br>UNESCO 西アフリカ地域事務所コンサルタントプロジェクト視察<br>(Konni, Tahoua, Com)<br>コミュニティ幼稚園設立にかかる住民集会モニタリング (Keita)<br>Tahoua→Niamey | Ibo<br>原<br>Gambobo<br>影山<br>原 |
| 2月2日(金)  | CPCOGES との会談<br>APP 活動モニタリング 及び COGES 連合との打ち合わせ (Tsernaoua)                                                                                    | 原、Ibo<br>影山                    |
| 2月3日(土)  |                                                                                                                                                |                                |
| 2月4日(日)  |                                                                                                                                                |                                |
| 2月5日(月)  | 世銀との会談 (ニアメ)<br>杉山企画調査員、水口企画調査員、中野 IEC 専門家<br>EPT 関係省庁表敬及びプロジェクトサイト視察                                                                          | 原<br>宇井、近藤、Yacouba、            |
| 2月6日(火)  | UNICEF との会談 (ニアメ)<br>COGES 連合総会モニタリング (Galma)<br>APP 活動モニタリング (Tsernaoua)                                                                      | 原<br>中澤、宇井、Gambobo<br>影山       |
| 2月7日(水)  | COGES 連合総会モニタリング (Konni)<br>APP にかかる COGES 連合との打ち合わせ (Bouza)<br>COGES 政策にかかる世銀との打ち合わせ<br>コミュニティ幼稚園にかかる UNICEF との打ち合わせ                          | 中澤、宇井、Gambobo<br>影山<br>原<br>原  |
| 2月8日(木)  | C.P.COGES との会談                                                                                                                                 | 原、Ibo                          |
| 2月9日(金)  |                                                                                                                                                |                                |
| 2月10日(土) | APP 活動モニタリング (Bouza)                                                                                                                           | 影山                             |
| 2月11日(日) | APP 活動モニタリング (Bouza)<br>COGES 連合総会モニタリング (Tamaya)                                                                                              | 影山<br>Ousseini                 |
| 2月12日(月) | Concern との会談 (Niamey)<br>COGES 連合総会モニタリング (Akoubounou)                                                                                         | 原<br>Ousseini                  |
| 2月13日(火) | Niamey→Tahoua                                                                                                                                  | Ibo、Kabo                       |
| 2月14日(水) | COGES 担当官会議 (Tahoua)                                                                                                                           | 全員                             |
| 2月15日(木) | ▼                                                                                                                                              | 全員                             |
| 2月16日(金) | コミュニティ幼稚園活動モニタリング (Illela)<br>COGES 連合総会モニタリング (Tsernaoua)                                                                                     | 影山<br>Kabo、Yacouba             |
| 2月17日(土) |                                                                                                                                                |                                |
| 2月18日(日) | Tahoua→Zinder                                                                                                                                  | Ibo                            |
| 2月19日(月) | セカンドチャンスクラス活動モニタリング (Kossa, Moujia)                                                                                                            | Kabo                           |
| 2月20日(火) | COGES 担当官会議 (Zinder)                                                                                                                           | Ibo                            |
| 2月21日(水) | Tahoua →Niamey                                                                                                                                 | 影山、Ibo                         |
| 2月22日(木) | 就学前教育にかかるパートナー会議<br>UNICEF との会議                                                                                                                | 原、影山<br>原、影山                   |
| 2月23日(金) | UNICEF との会議<br>コミュニティ幼稚園にかかる住民集会モニタリング (Djinguiniss)<br>尾上専門家帰任                                                                                | 原<br>Kabo、宇井                   |
| 2月24日(土) | Niamey→Tahoua                                                                                                                                  | 尾上、影山                          |
| 2月25日(日) |                                                                                                                                                |                                |
| 2月26日(月) | COGES 連合総会モニタリング (Bazaga)<br>スタッフミーティング                                                                                                        | Yakouba<br>全員                  |
| 2月27日(火) | Niamey→Tahoua                                                                                                                                  | 原、Ibo                          |
| 2月28日(水) | COGES 連合総会モニタリング (Tillia)                                                                                                                      | Ousseini、Yacouba               |

### (1) 今月の総括

今月は、月例の COGES 担当官会議(タウア、ザンデール)が開催された他、タウアでは、集中的に、COGES 連合大会へのモニタリングが行われた。ザンデールでは、学校活動計画と COGES 連合結成のための最後の研修が終了し、ザンデールのすべての県で、COGES 連合が結成されることとなった。今後は、この COGES 連合の機能化と COGES 連合を通じた各 COGES の活性化が行われる。ニアメでは、UNICEF とのコミュニティー幼稚園の普及モデル確立を目的とした連携についての話し合いが行われ、世銀とはミニマムパッケージの普及に関し、教育 10 ヶ年計画のうち、2007 年度 COGES 関連箇所へのファイナンスのための打合せを行った。この打合せの後、世銀は、ミニマムパッケージ導入のための基礎教育・識字省から PADEB に対する要請書に署名した。今後、プロジェクトは、PADEB の資金で実施されるミニマムパッケージの全国普及に向けた活動への側面支援も行っていく。

### (2) タウア州 COGES 担当官会議

今月の COGES 担当官会議は 14 日に開催された。COGES 担当官によるモニタリング報告では、COGES 連合の学校活動計画回収状況、COGES 連合の第二活動計画の策定状況、連合の活動予算にかかる各 COGES の分担金回収状況等が確認され、十分に機能していない COGES 連合の問題点について議論がなされた。尚、連合の第二活動計画が 39 連合すべて提出されたことも合わせて確認された。

また、先月の担当官会議の際に、校長の異動等により学校活動計画が依然として策定されていない COGES が多く存在する状況が報告されたが、ほぼ全ての連合の第二活動計画において、COGES メンバーや校長に対する研修を計画していることから、プロジェクトより各連合に対して研修未受講の校長を対象に交通費及びマニュアル配布の支援を決定した。各連合で実施される研修は、連合のメンバーが講師となり、COGES 担当官は研修をモニタリングし、必要に応じて助言を行うことになる。今後、プロジェクト等の介入がなくとも COGES 連合がより自発的に、また継続的に実施でき、かつ汎用性の高い研修制度の構築を念頭に置く必要がある。

また COGES 担当官 9 名のうち、昨年の人事異動で 5 名が新担当官に替わったことを受け、14 日の午後及び 15 日に、これら新 COGES 担当官を対象に、他 4 名の COGES 担当官が講師となって、選挙研修・学校活動計画研修・財務研修・COGES 連合設置研修を実施した。先般、社会開発部 JICA-Net で作成された当プロジェクトのマルチメディア教材を使用し、座学を一通り終えた後にシュミレーションを実施した。しかし担当官の中でも理解度にばらつきがあることから、上述した各 COGES 連合主催の学校活動計画研修の際、新 COGES 担当官とともに当プロジェクトスタッフが同行し、能力強化を図っていく予定である。

### (3) タウア州 COGES 連合総会巡回モニタリング

上述の COGES 担当官会議において報告された COGES 連合モニタリングの内容は以下の通りである。

- ① 学校活動計画：対象校 1,316 校中約 85%にあたる 1,126 校の COGES 学校活動計画が連合レベルで回収済み
- ② 連合第二活動計画：全 39 連合策定・総会にて承認済み

また、今月開催された 11COGES 連合総会のモニタリングについては、1 月に実施された COGES 連合大会での、コミュニケーション長と COGES 連合の活動連携が提唱されたことを受け、多くの連合総

会でコミュニケーション長が出席し、連合が直面する問題や活動にかかる議論を参加者と交わしていた。中には、コミュニケーション長が自ら会議の議事進行を行ったり、COGES 連合の拠点となる事務所を提供する等の連携も見られる。また、COGES 連合の中には、小学校 6 年生を持つ親の経済的負担軽減のために、卒業試験受験料を免除するようコミュニケーション長に働きかけるといった動きもあり、連合とコミュニケーションが一体となった、住民主体の教育開発改善のための活動が徐々に活発化している。

その一方で、機能化まで至っていない COGES 連合も散見されることから、今後はこれらの連合を中心にフォローを行っていく必要がある。

#### (4) APP(生産実習活動)クラブ、コミュニティー幼稚園及びセカンド・チャンス

##### APP(生産実習活動)クラブ

今月のAPPクラブに関する動きとしては、まず、昨年度のパイロット地域であるブザ県ブザ地区とコニ県サルナワ地区のCOGES連合事務局メンバーと、自主モニタリングシステムに関する会合を実施した。この会合では、COGES連合を通じた自主モニタリングシステム確立を目指し、モニタリングシステムおよびその中での連合の役割、モニタリングシートの説明等を行なった。ブザ地区においては、連合事務局メンバーがAPPクラブ活動の推進に非常に積極的な姿勢を示しており、自主的な啓発巡回等も実施している。よって、今後も連合との連絡を密にしながら、各COGESの情報を収集すると共に、自主モニタリングシステムを機能させるべく働きかけていく予定である。

今年度の各校におけるAPPクラブ活動実施状況に関しては、プロジェクトスタッフによる各COGESの巡回モニタリングやCOGES連合総会(サルナワ地区)を通して、活動実施状況の聞き取りや情報収集を行なった。その結果、今年度の学期開始の遅れや契約教員のストライキ等が大きく影響し、APPクラブ活動の開始もかなり遅れていることが明らかとなった。特に、サルナワ地区においてはその傾向が強く、APP実施を計画している21校中わずか3校のみが現在までに活動を開始しているという状況である。ブザ地区に比べてサルナワ地区の遅延が目立つ理由としては、ブザ地区ではコミュニティーがAPP活動の主要なアクターとして介入している傾向が強いのに対し、サルナワ地区は教員主導、もしくは教員のみによるクラブの実施が主流である点が考えられる。つまり、APPクラブにおける“住民参加”の有無、もしくはその介入具合が、APP活動の発展性および持続性を左右するということが明白になったといえよう。

##### コミュニティー幼稚園

コミュニティー幼稚園研修を先月中旬に実施したが、その後、今年度新規に開始した1園を含め、イレラ県内4園すべてにおいて活動が開始されたことが確認された(内、2園は既に11月から開始済み)。また、新たにイレラ県内7COGES、ケイタ県1COGESよりコミュニティー幼稚園活動の実施希望が現在までに挙がってきている。今後は、実施を希望している村落における住民需要と当該活動に対する理解を充分見極めたうえで、コミュニティー幼稚園実施準備に対する技術的支援を行なっていく。さらに、来月には新規コミュニティー幼稚園に対する研修および全保育者に対するフォローアップの為の継続研修を実施する予定である。

先月に引き続き、今月もコミュニティー幼稚園におけるUNICEFとの協力体制確立へ向けた話し合いが行なわれた。今月2回実施された会議(7日、22日)の結果としては、正式な連携合意文書の取り交わしに向け、今後も定期的な会合を通して、内容詳細に関する話し合



いを継続していくと共に、正式な協力体制確立の準備として現場レベルでの協力を開始していくことで合意した（別添資料：UNICEF会議議事録（2月7日、22日）参照）。その他、22日には、UNICEFと基礎教育識字省就学前部門主催による就学前教育協議会が開催された。これは、就学前教育分野関係者（中央・地方行政官、国内・国外NGO、各種団体等）が一堂に会し、ニジェール国全体としての同分野発展へ向けた共通認識を深め、今後の相互協力関係の余地を模索することを目的として開かれたものである。現在まで、UNICEFを除いては比較的個々のアクターが独自かつ小規模に取り組んでいた分野であるだけに、国としてその状況を把握し、統合的な成果へと結びつけたいという意図もあろう。今後も定期的に同協議会は開催される予定である。（別添資料：協議会議事録）

### セカンド・チャンスクラス

セカンド・チャンスにおいては、今月の初めよりイレラ県内2クラスともに活動が開始された。今月に実施した巡回視察の結果から見ると、Moujiaにおいては、活動開始後は比較的順調にクラスが進められているものの、Kossa Iに関しては、運営上の問題も含め、まだまだ注視していく必要がある。今後は、プロジェクトスタッフによる定期的なモニタリングを通して、両クラスの活動状況を見極めつつ、今年度の活動に必要なマニュアル配布や研修の必要性および実施方法についての検討を進めていく予定である。

今月中旬より、イレラ県を拠点とした学校活動計画支援の為のモニタリング担当スタッフが増員された。その結果、イレラ県に集中しているコミュニティー幼稚園およびセカンドチャンスクラスに対してより頻繁なモニタリングと詳細な情報の収集が可能となる為、各COGESが直面する個別の問題解決に資するのみならず、両活動のより適切なモデル確立へ向けて貢献することが期待されよう。

#### (5) ザンデル州での活動

先月26日より実施されていた10コミュニオン対象の学校活動計画・COGES 連合設置研修が2月7日に終了し、これでザンデル州全校(1,662校)において学校活動計画が策定され、各コミュニオンでCOGES 連合が設置されることとなる。ちなみに今回研修対象のCOGES 連合の設置については、2月中旬から3月中旬にかけて実施が予定されている。

すでに設置されているCOGES 連合の活動について、第1回研修対象となった10連合においては、昨年9月以降、ほぼ毎月事務局会合を開催し、約74%のCOGES 学校活動計画を回収したことが報告されている。また、第2回目研修で設置された18連合は、事務局会合実施回数は設置後の11月から今年2月中旬までの約4ヶ月の間に平均3回開催され、学校活動計画回収率は78%となっている。中でも、先月の時点で回収率が非常に低かったMirria県において、全コミュニオンの学校活動計画回収率が50%以上に達したことから、COGES 連合が徐々に機能しつつある様子が伺える。第3回研修対象の17連合についても、すでに事務局会合を毎月開催、学校活動計画回収率は50%以上を超えていることが報告されている。

今後も引き続き現地NGOへの業務委託を通して、COGES 連合活動のモニタリングを中心に支援を実施していく。また、4月にはザンデル州55連合を対象としたCOGES 連合大会開催の実施が予定されている。

#### (6) 中央、援助協調、ドナー動向

## PADEB(世銀基礎教育支援プロジェクト) 別添参照

1月の世銀のPADEBの終了時評価ミッションで、2007年度PDDE実施計画に世銀がPADEBの枠組みでファイナンスすることが決まったことは、前回の月報で報告したが、その後、世銀、COGES推進室と頻りに協議を行い、要請書の内容の詰めと、その説明を側面支援として行った。要請書の内容は、タウア、ザンデルのミニマムパッケージの普及の経験を元にしたものであることから、世銀、COGES推進室とも、果たして、その計画が実施可能なものなのかを知りたいという理由で、プロジェクトにアドバイスを求めてきたことが、これら一連の協議の背景である。これらの協議の結果、世銀側は、計画内容に納得し、基礎教育・識字省のPADEBの要請書に署名を行った。これにより、世銀資金によるミニマムパッケージの全国普及が行われることが決定した。

### (7) COGES 外部評価

外部評価は、現在、コンサルタントによる報告書が、基礎教育・識字省内で検討されている。この検討後、各ドナーに配布され、ドナーからのコメントを反映された上で、アトリエで承認される。

### (8) プロジェクト運営管理

#### ① JICA 関係者プロジェクト訪問

今月5日、教育・農業分野担当としてニジェール JICA 事務所に先月赴任した杉山企画調査員、水口企画調査員（保健分野担当）、中野専門家（保健分野 IEC 短期専門家）及び Hassan（チュニジア人第3国専門家、一部参加）が当プロジェクト活動視察のためタウアを訪問し、タウア市内外の小学校を訪問、COGES のメンバーと会談後、学校活動計画によって実施された保健衛生啓発活動、藁葺き校舎等を視察した。

また20日、21日には、ニジェール人 JICA 本邦研修参加者で結成される同窓会のメンバーのうち、基礎教育・識字省関係者約12名が、JICA ニジェール事務所の支援により当プロジェクトを訪問、タウア市内近辺4校を訪問し、COGES メンバーとの会談を行った。また EPT スタッフによるプレゼンテーションの際は、参加者から数多くの質問が飛び、EPT の活動にかかる彼らの関心が高いことを覗かせた。

#### ② ONEN スタッフ増員

学校活動としてコミュニティー幼稚園を計画・実施する COGES が昨年度より増加したことを受け、学校活動計画支援／モニタリング担当として今月15日より ONEN のメンバーを1名増員した。

### (9) 課題

世銀のミニマムパッケージ普及のための資金提供（基礎教育・識字省から PADEB への資金要請に対する認可）が決まり、今後は、プロジェクトとして、ミニマムパッケージ普及への側面支援を行う必要性が高くなった。基礎教育・識字省が世銀に提出した要請書の内容は、ほぼ、プロジェクトが提示したミニマムパッケージ普及のためのロードマップを参考にしているため、大筋では問題はないが、資金が PADEB から基礎教育・識字省に流れ、そこから各 DREBA に降りてくると、プロジェクトの経験がそのまま活かさない部分もあり、その状況にいかに対応するかなど、COGES 推進室を支援する必要があると思われる。考えうる支援とは、まず、PADEB の資金の流れ、活動までのスケジュールを考慮しながら、各州の DREBA 事務所長と COGES

監督官への COGES 経験シェアリングセミナーの開催が考えられる。このセミナーでは、具体的には、タウアとザンデールの DREBA 事務所長が中心となり、実際にタウアとザンデールの COGES はどのように機能化されていったかといった全体的な説明と、DREBA 事務所長、COGES 監督官の役割、研修組織化の用意の手順、交通費の計算の仕方など具体的な仕事について説明を行い、あとは、個々の意見交換を行うといったものである。そのセミナーの後、各州で視学官を集めた情報共有の会が行われるように指導する。また、NGO の要員に関しては、各州への赴任の前に、集中的な研修が必要であれば、プロジェクトから技術的支援を行うことが考えられる。一方、プロジェクト第 2 フェーズの活動内容に関連して、PADEB 以後のモニタリング体制など、世銀も含め基礎教育・識字省との協議を持ち、具体的な戦略を詰めていく必要がある。また、現在実施中の COGES 連合の機能化を初めとしたプロジェクトのすべての活動は、今後、合理性と費用対効果を考えた全国普及モデルとしての視点で検証していく。

(10) 3月の予定

| 予定                        | 期間      |
|---------------------------|---------|
| タウア州 COGES 担当官会議          | 3月中旬    |
| ザンデール州 COGES 担当官会議        | 3月7日    |
| カレゴロ生活改善グループ派遣チームプロジェクト訪問 | 3月6, 7日 |
| コミュニティー幼稚園研修              | 3月中旬    |
|                           |         |
|                           |         |
|                           |         |

- 別添資料 1：会議議事録(UNICEF 2月7日)  
 2：会議議事録(UNICEF 2月22日)  
 3：会議議事録 (UNICEF 協議会 2月22日)  
 4：会議議事録 (世銀 2月6日)  
 5：会議議事録 (世銀 2月14日)  
 6：会議議事録 (次官 2月16日)



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2007 年 3 月)

作成日：2007 年 4 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                                                                                                                           | 担当、出張者                                                                          |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 3月1日(木)  | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Tassara)<br>Tahoua→Niamey                                                                                                              | Yac, Ousseini<br>原                                                              |
| 3月2日(金)  | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Déoulé)<br>コミュニティー幼稚園候補地モニタリング (Illela 県内)                                                                                             | Hamissou, 宇井<br>影山, Harouna                                                     |
| 3月3日(土)  |                                                                                                                                                              |                                                                                 |
| 3月4日(日)  | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Badaguichiri)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Madaoua)<br>コミュニティー幼稚園にかかる住民集会モニタリング (Illela 県内)                                                | 尾上, Ousseini<br>Hamissou, Zakaria, 近藤<br>影山, Harouna                            |
| 3月5日(月)  | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Arzarori)<br>コミュニティー幼稚園にかかる住民集会モニタリング (Illela 県内)<br>青年海外協力隊カレゴログループ派遣チームタウア視察 (~7日)<br>Tahoua→Madaoua                                 | Yacouba, Gambobo<br>影山, Harouna<br>Yacouba, Gambobo                             |
| 3月6日(火)  | ザンデール COGES 評価調査 (3月14日まで)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Bangui)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Kao)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Bazaga)<br>Tahoua→Zinder<br>Niamey→Zinder | 尾上, Ibo<br>Yacouba, Gambobo<br>Ousseini<br>Hamissou, Hamza, 宇井, 近藤<br>尾上<br>Ibo |
| 3月7日(水)  | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Sabon-Guida)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Garhanga, Tabotaki)<br>Madaoua→Tahoua                                                            | Yacouba, Gambobo<br>Ousseini, Hamissou, 近藤<br>Yacouba, Gambobo                  |
| 3月8日(木)  | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Abalak)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Dogeraoua)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Keita)<br>タウア市内校長研修に関するインタビュー<br>Niamey→Tahoua                    | Gambobo<br>Yacouba<br>Ousseini, Hamissou<br>原, 中澤, 近藤<br>原                      |
| 3月9日(金)  | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Tama)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Tsernaoua)<br>タウア市内小学校視察及びムジア小学校視察<br>APP 活動モニタリング (Bouza) (~10日)<br>Tahoua → Niamey                    | Yacouba<br>Ganussiou, Kabo<br>原, 中澤, 宇井, 近藤<br>影山<br>原, 宇井                      |
| 3月10日(土) | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Bagaroua)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Tchinta)                                                                                            | Ousseini, Hamissou<br>Yacouba                                                   |
| 3月11日(日) | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Allela)                                                                                                                                | Ousseini, Hamissou                                                              |
| 3月12日(月) | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Allakaye)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Bambye)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Manzou)<br>コミュニティー幼稚園活動モニタリング (Illela)<br>Tahoua→Madaoua           | Ousseini,<br>Hamissou, 近藤<br>Yacouba, Gambobo<br>影山, Kabo<br>Yacouba, Gambobo   |
| 3月13日(火) | COGES 連合総会モニタリング (Illela)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Ourno)<br>CAPED 校長研修視察 (Tébaram)                                                                          | Hamza, 影山, Kabo, Harouna<br>Yacouba, Gambobo<br>中澤, 近藤                          |
| 3月14日(水) | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Galma)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Tillia)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Tajae)<br>Madaoua→Tahoua<br>Zinder→Tahoua<br>Zinder→Niamey            | 中澤, Yacouba, Gambobo<br>Ousseini<br>Hamissou<br>Yacouba, Gambobo<br>尾上<br>Ibo   |

|          |                                                                                                                                                                |               |                                                |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|------------------------------------------------|
|          |                                                                                                                                                                | Tahoua→Niamey | 近藤                                             |
| 3月15日(木) | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Karofane)<br>コミュニティ幼稚園研修 (Tahoua)                                                                                                        |               | Ousseini<br>影山、Kabo、Harouna                    |
| 3月16日(金) | COGES 連合新任校長研修モニタリング (B/Katami)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Illela)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Takanamat)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Tahoua Commune)<br>Niamey→Tahoua |               | Hamissou<br>Ousseini<br>Gambobo, Yacouba<br>近藤 |
| 3月17日(土) | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Akoubounou)<br>COGES 連合新任校長研修モニタリング (Konni)                                                                                              |               |                                                |
| 3月18日(日) | COGES 連合新任校長研修モニタリング (Tébaram)                                                                                                                                 |               | Hamissou                                       |
| 3月19日(月) |                                                                                                                                                                | Niamey→Tahoua | 原                                              |
| 3月20日(火) | COGES 担当官会議 (Tahoua)                                                                                                                                           |               | 全員                                             |
| 3月21日(水) |                                                                                                                                                                | Tahoua→Niamey | 原                                              |
| 3月22日(木) | タウア州ドナー会合 (DREBA)<br>コミュニティ幼稚園活動モニタリング (Illéla)                                                                                                                |               | 尾上、Gambobo, Hamza<br>影山、Harouna                |
| 3月23日(金) | タウア州ドナー会合 (DREBA)<br>コミュニティ幼稚園活動モニタリング (Illéla)                                                                                                                |               | 尾上、Hamza<br>影山、Harouna                         |
| 3月24日(土) | セカンドチャンスクラス研修にかかる打ち合わせ (Moujia)                                                                                                                                |               |                                                |
| 3月25日(日) |                                                                                                                                                                |               |                                                |
| 3月26日(月) |                                                                                                                                                                | Tahoua→Niamey | 近藤                                             |
| 3月27日(火) | セカンドチャンスクラス研修 (Moujia)                                                                                                                                         |               | 影山、Kabo、Harouna                                |
| 3月28日(水) |                                                                                                                                                                |               |                                                |
| 3月29日(木) | タウア州 COGES テーマ会合<br>PTF 会議 (Niamey)                                                                                                                            |               | 尾上、Ousseini<br>原、近藤                            |
| 3月30日(金) | フェーズ2事前評価調査対処方針会議 (JICANet)                                                                                                                                    |               | 原、近藤                                           |
| 3月31日(土) | COGES 連合総会モニタリング (Konni)                                                                                                                                       |               | 尾上                                             |

## (1) 今月の総括

今月は、月例の COGES 担当官会議(タウア州、ザンデール州)が開催された他、タウア州では、学校活動計画の研修を未受講の約 500 名の新任校長への追加研修が行われた。研修の効果は高いと評価できるが、多くの新任校長が誕生するのは全国的な状況であり、より効率的で恒常的な追加研修システムを構築する必要がある。また、州国民教育省事務長のイニシアティブによるタウア州援助協調会議が行われ、その中で、分野毎の小委員会が定期的に行われることとなった。ザンデール州では、先月、すべての県で COGES 連合が結成され、拡大ミニマムパッケージ導入が終了した。そこで、ザンデール州における COGES 及び COGES 連合の活動評価を行うための調査を実施した。調査結果では、COGES 及び COGES 連合の高いパフォーマンスとポテンシャルティが示され、NGO 委託によるより全国普及に適したザンデールモデルの可能性が明らかとなった。中央では、PDDE 合同レビューの開催が 6 月末に決定し、今後その準備のためのテーマ別グループ会合、国民教育省・ドナー共同現地調査、各分野評価などが並行的に行われることとなった。

## (2) タウア州 COGES 担当官会議

今月の COGES 担当官会議は、3月20日に開催された。主な議題は、1) COGES 担当官によるモニタリング活動報告、2) COGES 連合による新任校長研修総括、3) COGES のレポートシステム構築についての討議、4) プロジェクトによるザンデール州での活動評価報

告、などであった。COGES 担当官の今月の主な活動は連合による新任校長に対する COGES 関連研修の支援とモニタリングに費やされ、20 日までに 35 の COGES 連合が研修を完了した。会議の場では研修の総括が行なわれ、今回の研修の問題点、そして今後の同活動のあり方について話し合われた（詳細は後述）。その他、COGES の学校活動計画は 90%が連合によって回収済みであることが確認された。COGES 担当官の報告によると、連合の機能化に関して、これまでに多くの連合がその機能化に向けた取り組みを行なっている。例えば、会合に出席しないなどやる気の無い事務局委員の交代、今回の新任校長研修や COGES 委員に対する啓発活動など全体的な意識の向上、コミュニケーション長との連携の強化など、これらの取り組みが徐々に功を奏してきており、全体的に改善の方向に向かっているという認識が共有された。

### (3) タウア州 COGES 連合活動モニタリング

今年の 2 月から 3 月にかけて、これまでに COGES 関連の研修を受講していない新任校長に対する研修を COGES 連合の活動計画の一環として実施した。これらの校長が研修を受けていないことで学校活動計画の策定が遅れるなど、連合の機能化においても阻害要因となっているとの認識のもと、連合のイニシアティブを前提にプロジェクトの支援によって 35 の連合が同研修を実施した。

プロジェクトからの支援内容は、マルチメディア教材として作成された研修ビデオ教材 CD-ROM を各連合に配布し、電気が無くテレビ等の機材が使えない地域の連合については、プロジェクトチームが機材とともに出張し、研修をサポートし、また参加者の旅費の補助として交通費分を支援した。COGES 担当官も講師あるいは講師補助として、参加した。合計で約 500 名の新任校長が研修を受けたことになるが、様々な課題も残った。それは、異動数の差はあるものの校長の人事異動は毎年行なわれるもので、今年行なった方法はプロジェクトの支援なしで継続することはほぼ不可能であること、また、連合によって講師となる連合スタッフの能力に差があり研修の質が一定に保てないこと、などであった。これらの問題点を踏まえて、将来的に持続可能な研修方法を担当官会議の際に話し合った結果、オプションとして、①毎年度始めに教育主事の管轄区で開催される校長会議の機会を利用して研修を行なうこと（講師は COGES 担当官）、②教員養成学校のカリキュラムあるいは特別授業として COGES 研修のコマを設ける、③CAPED の会合の機会を利用する（COGES 担当官、連合が支援）、④上記の機会に研修が受講できなかった校長については、数人程度の少数であれば連合の活動の範囲内で実施する、などの提言が出された。

### (4) APP(生産実習活動)クラブ

今月の APP クラブ関連活動としては、ブザ県ブザ地区における APP 活動巡回視察、およびコニ県サルナワ地区の連合総会モニタリングを通じた情報収集を行なった。これらの活動を通して明らかとなったのは、契約教員によるストライキが、先月に引き続き、今月の APP 活動にも悪影響を及ぼしていることであった。昨年度から活発な活動を展開し、今年度も始業と同時に APP クラブを開始していた学校ですら、契約教員のストライキによる休校（週 3～4 日間のストライキ、実質的に授業は週 1 日のみ）の為、活動を停止している。その一方で、コミュニティとの関係が深い農村部においては、契約教員のストライキによる休校自体が無く、そのお陰で APP 活動も行なわれているというケースが少なからずみられた。つまり、たとえ住民参加、住民イニシアティブを体現し、住民講師による APP クラブ活動ではあっても、他の授業が無い中で APP 活動のみが独立して実施されることは、ほとんどあり得ないと



いうことである。コミュニティとの関係性を強めることで、APP 活動実施の可能性を広げてきた「APP クラブ」であるが、それでもなお、学校や教員の事情にその活動、もしくは存在自体が大きく左右されるということは、現状においては否めない事実だといえよう。この状態を、APP クラブがまだそれ程成熟していない証拠とみるか、APP 活動の不可避な「性」とみるかは、それに対応する戦略も含めて十分検討する必要があるといえる。今年度は、収穫期のズレによる始業自体の遅れ、契約教員ストライキによる度重なる休校と、APP クラブにとっては難儀続きの一年である。しかし、常に不安定な要素を抱えるニジュールの学校において、このような状況は決して例外ではなく、これらの悪条件を生き抜く力が、APP クラブの存続の為には不可欠であろう。そして、生き残れる APP クラブへ向けた戦略作りもまた、APP クラブの汎用性と共に、今後の大きな課題のひとつであるといえる。

来月からは、契約教員ストライキも終わり、授業が通常通り実施される予定である。これによる APP クラブの順調な始動および再開が大いに期待される。しかしながら、教員ストライキによる頻繁な休校の影響で、コミュニティとの距離が開いてしまい、学校側が APP 活動開始へ向けた住民への呼びかけを躊躇する例も見られたことから、授業の再開がすぐさま自動的に APP 活動実施へ繋がるとは安易にいい難い。よって、今後も各校の APP 実施状況に関する情報収集に努める必要がある。

#### (5) コミュニティ幼稚園

今月前半は、新規にコミュニティ幼稚園実施を希望している COGES を訪問し、住民の理解度、モチベーションの高さ、実施可能性を見極めるとともに、設置プロセスを説明するための巡回を重点的に行なった。その結果、今月新たに 7 村落（8 COGES）がコミュニティ幼稚園活動を行なうことを決定し、それを受け、今月 15 日、新規にコミュニティ幼稚園を始める 7 村落（イレラ県内 6 箇所、ケイタ県内 1 箇所）の COGES メンバーおよび保育者を対象に、コミュニティ幼稚園活動開始へ向けた立ち上げ研修を実施した。今回も、導入部分にコミュニティ幼稚園に関する説明を盛り込み、保育内容の説明から実践を行なう 1 日の研修プログラムとした。また、より具体的・実践的な研修を目指し、遊具製作、その遊具を用いた活動デモンストレーション、公立幼稚園活動視察をプログラムに組み込んだ。そして、前回と同様に、COGES 活動・住民活動としてのコミュニティ幼稚園への理解、参加意識、責任感を高めるために、保育者のみならず COGES メンバーを含めた参加者全員が、保育研修を含む全研修内容に参加することとした。今回の研修を受けた新規 COGES が加わったことで、タウア州内に 12 のコミュニティ幼稚園が実施されることとなった。今後は、個別のモニタリングを通して、新規コミュニティ幼稚園の立ち上げ状況に注視していくとともに、今回の研修の有効性を測るために、研修内容の活動への反映状況をも見定めていくことになる（詳細は、別添「コミュニティ幼稚園研修実施報告書」参照のこと）。

既存のコミュニティ幼稚園に対しては、通常の活動実施状況に加え、運営の安定性、自主モニタリングの実践状況、活動への住民参加具合を中心に状況を見分しながら、より発展可能性のある「コミュニティ幼稚園モデル」確立へ向けた成功要素の見極めに努めていく。また上記活動に加え、さらなる新規コミュニティ幼稚園の設立可能性も探っていく予定である。

#### (6) セカンドチャンスクラス

先月より本格的に活動を再開した二つのセカンドチャンスクラスであるが、特にひとつの

クラスでは、非常に順調で活発なクラス活動が実施されている。また現在、当該クラス活動への「APPクラブ」導入を提案しており、それを受け、両村落共に住民集会での話し合いが計画されている。このAPPクラブ導入により、クラス活動の更なる活性化、児童の生活力向上、さらにはコミュニティー自体の発展へと結びつくことが望まれる。

さらに今月27日には、2年目を迎えたセカンドチャンスクラスのコミュニティー教員に対し、継続研修を実施した。今回の研修では、より実践的な知識を提供するために、二言語教育学校の校長を講師として迎え、講師による児童を交えた模範授業やコミュニティー教員による実践授業を含めた、現場での活動に直接的に寄与するような内容とした。「現役」校長による実践は、児童の扱いから授業の進め方まで参考になる部分が多く、コミュニティー教員にとっても大いなる刺激となったようである。また、セカンドチャンスクラス活動においては、クラス運営や指導方針等に関する支援や助言が可能なことから、住民の理解や支援はもちろんのこと、校長の関与が非常に重要といえる。よって、今回の研修では、COGES代表と共に、校長も研修に参加することとした。その結果、校長自身が当該活動における自身の役割を認識すると共に、研修自体の活性化にも繋がり、非常に良い効果をもたらしたといえる。今後は、今回の研修の成果を見極める為にも、継続的なモニタリングを実施し、クラスの実施状況および授業への反映状況を見ていくこととなる。さらに、今回の講師によるフォローアップモニタリングの実施も検討する予定である。

#### (7) ザンデール州での活動

3月6日から14日にかけてこれまでにONENへの業務委託によって実施してきたザンデール州での活動の成果及び進捗状況をモニタリング評価するために現地調査を行なった。調査は、プロジェクト専門家(尾上)とプロジェクトアドバイザーのイボ氏、ザンデール州COGES監督官の3名を中心として実施された。調査対象はザンデール各県の9COGES連合及び17COGESを選定した。調査の結果、タウアでの教訓と経験を活かしたより汎用性の高いモデルの確立に向けて順調に活動が進んでいることが確認された。調査結果概要については別添出張復命書参照。なお、3月7日のCOGES担当官会議の場で5月3日にザンデール州の連合大会を開催することが暫定的に決定した。

#### (8) 中央、援助協調、ドナー動向

6月末のPDDE合同レビュー開催が決定し、その準備が今後行われることになるが、今回のレビューは、PDDEの第1フェーズの最終年にあたり、フェーズ全体の評価も行われ、第2フェーズの方向性と予算のプライオリティーなどを決定する重要な会議となる。

#### (9) COGES 外部評価

COGES外部評価に調査報告書が出来上がり、コンサルタントから国民教育省に提出された。このドラフトの内容が、4月9日から3日間行われるCOGES政策承認アトリエで討議され、修正されたものが、正式なCOGES政策文書として承認される。

#### (10) プロジェクト運営管理

##### ① 携行機材費によるデスクトップ型コンピュータ購入

今月19日、JICA ニジュール事務所及び本部の承認を得て、在外事業強化費の一部、1,229,977Fcfを携行機材費に振り替え、デスクトップ型コンピュータを購入した。同コン

ピュータは、当プロジェクトの情報処理担当現地スタッフが学校活動計画にかかるプロジェクトのデータベース構築整備作業等を行うことを目的としている。尚、本コンピュータ及び無停電電源装置購入にかかる合計額は 1,189,177Fcfa である。

### ② ザンデール州での ONEN との業務委託契約終了

1月19日から3ヶ月間にわたり実施されていた、ザンデール州10コミュニティを対象とした学校活動計画・COGES 連合設置研修実施及び活動モニタリング体制支援にかかる ONEN との契約が3月20日に終了し、精算を行った。最終精算額は 13,271,412Fcfa であり、1月26日に第1回概算払いとして支払った 12,740,816Fcfa を差し引いた 530,596Fcfa を残額として支払った。

### ③ 外部評価調査にかかるコンサルタントとの業務委託契約終了

COGES 政策推進にかかる外部評価調査実施のため、昨年10月にコンサルタントと契約を交わしたが、今年23日、成果品となる報告書及びマニュアル(予算管理、人事管理、物品管理)を提出し、契約を終了した。尚、本調査結果は来月9日から行われる、COGES 政策にかかる全国アトリエにて発表される予定である。

### (11) 課題

PDDE の合同評価を前に、COGES 政策を巡る動きは加速度を増した感がある。まず、世銀の財政援助ミッションの中で、ティラベリ州、マラディ州における文房具費の COGES への直接供与が決定し、COGES による教員の精勤管理を行うことが義務付けられた。次に、アフリカ諸国教育分野運営改善プログラム(世銀主導、フランス、ノルウェー、アイルランド共同出資)による、COGES への補助金直接供与パイロットプロジェクトが今年新学期から始まる。これらの動きに伴い、世銀は、そのプロジェクト PADEB の資金で機能する COGES を全国に設置することを決定した。その機能する COGES の概要を決めるアトリエが4月初旬に開催される。これらの動きは、教育分野の地方分権化、特に財政面、人事管理面での分権化が進むことを意味しているが、果たして、その分権化の担い手である COGES が与えられる新しい役割を演じられかどうかは、五里霧中な状態であった。しかし、ここに来て、PADEB がみんなの学校モデルを全国普及する決定を行ったことにより、みんなの学校プロジェクトは、その第2フェーズにおいて、自らが開発したミニマムパッケージによって「機能」し始めた COGES が、与えられた様々な役割を旨くこなしていくために、新たな COGES や COGES 担当官への能力開発のための研修などを開発していく必要がでてきた。

### (12) 4月の予定

| 予定                 | 期間            |
|--------------------|---------------|
| タウア州 COGES 担当官会議   | 4月25日         |
| ザンデール州 COGES 担当官会議 | 4月中旬          |
| COGES 政策承認全国アトリエ   | 4月9日～11日      |
| 事前評価調査団            | 4月10日～20(27)日 |
| PDDE 合同レビュー現地調査    | 4月15日～30日     |
| PDDE テーマ別グループ会合    | 4月3日～         |



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2007 年 4 月)

作成日：2007 年 5 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                                                                                                                                                   | 担当、出張者                                                    |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 4月1日(日)  |                                                                                                                                                                                      |                                                           |
| 4月2日(月)  | コミュニティー幼稚園 EPT/ユニセフ合同ミッションにかかる準備<br>(Illela)<br>Tahoua→Niamey                                                                                                                        | 影山<br>中澤                                                  |
| 4月3日(火)  |                                                                                                                                                                                      |                                                           |
| 4月4日(水)  | コミュニティー幼稚園 EPT/ユニセフ合同ミッション(～6日)<br>DFIC(現職教員研修関係)訪問<br>COGES 連合総会モニタリング(Garhanga)<br>Niamey→Tahoua                                                                                   | 原、影山、Kabo<br>中澤、Ibo、近藤<br>原                               |
| 4月5日(木)  | 合同レビュー現地調査テーマ別(COGES)グループ会合<br>COGES 連合総会モニタリング(Galma)<br>Tahoua→Konni                                                                                                               | 中澤<br>Gambobo<br>原、影山                                     |
| 4月6日(金)  | 合同レビュー現地調査テーマ別(就学前教育)グループ会合<br>COGES 連合総会モニタリング(Bouza)<br>COGES 連合総会モニタリング(Dogeraoua)<br>Konni→Niamey                                                                                | 原、近藤<br>Ousseini、影山<br>Yac<br>原                           |
| 4月7日(土)  | Niamey→Tahoua                                                                                                                                                                        | 近藤                                                        |
| 4月8日(日)  | Tahoua→Niamey                                                                                                                                                                        | 尾上                                                        |
| 4月9日(月)  | <b>COGES 政策承認アトリエ(～11日)</b>                                                                                                                                                          | 原、尾上、中澤、Ibo                                               |
| 4月10日(火) | <b>プロジェクト第2フェーズ事前評価調査団来ニ(～20日)</b><br>COGES 住民集会モニタリング(Kossa)                                                                                                                        | 原、尾上、中澤<br>Kabo                                           |
| 4月11日(水) | <b>事前評価調査団国民教育省表敬及び世銀協議</b><br>COGES 連合総会モニタリング(Bagaroua)<br>COGES 連合総会モニタリング(Tajae)<br>Tahoua→Niamey                                                                                | 原、尾上、中澤<br>Ousseini<br>Yacouba<br>影山、Kabo                 |
| 4月12日(木) | <b>事前評価調査団国民教育省ミニッツ協議</b><br><b>EU及びベルギー技術協力援助協議</b><br><b>UNICEF 協議及び協力協定書署名</b><br>COGES 連合モニタリング(Galma)                                                                           | 原、尾上、中澤、Ibo<br>原、尾上、中澤、影山<br>原、影山、Kabo<br>Gambobo         |
| 4月13日(金) | <b>事前評価調査団 Concern、カナダ技術協力援助、仏大協議</b><br>COGES 連合総会モニタリング(Tsernaoua、Badaguichiri)<br>タウア市内学校インタビュー及びアンケート<br>コミュニティー識字教室視察(Guidan Roundji)<br>Niamey→Tahoua<br>Niamey→Guidan Roundji | 原、尾上、中澤<br>Ousseini、Gambobo<br>Yac<br>影山<br>中澤、Kabo<br>影山 |
| 4月14日(土) | <b>事前調査団ミニッツ打合せ(国民教育省会議室)</b><br>Guidan Roundji→Tahoua                                                                                                                               | 影山                                                        |
| 4月15日(日) | <b>事前調査団団内打合せ(JICA事務所)</b><br>Tahoua→Dosso                                                                                                                                           | 中澤                                                        |
| 4月16日(月) | <b>事前調査団ミニッツ打合せ</b><br><b>PDDE 合同レビュー現地調査(～30日)</b>                                                                                                                                  | 中澤、Aboudou                                                |
| 4月17日(火) | <b>事前調査団ミニッツ署名</b><br><b>事前評価調査団学校視察にかかる準備打ち合わせ/コミュニティー幼稚園活動モニタリング(illéla)</b><br>事前評価調査団タウア州視察(Konni,Tahoua)(～19)<br>Niamey→Konni                                                   | 影山<br>尾上、Ibo<br>尾上、Ibo                                    |
| 4月18日(水) | <b>事前評価調査団 COGES 連合協議、学校視察(Malbaza、Illela)</b><br>// タウア州 DOREN 表敬                                                                                                                   | 尾上、Ibo、影山                                                 |

|          |                                                                                   |                                     |                 |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------|
|          |                                                                                   | Konni→Tahoua                        | 尾上、Ibo          |
| 4月19日(木) | 事前評価団にアメに移動                                                                       | Tahoua→Niamey                       | 近藤              |
| 4月20日(金) | 事前評価団カレゴロ視察(学校保健活動等)<br>事前評価調査団帰国(石原団長、岩崎団員)<br>國枝調査団員ザンデル州視察(~24日)               | Tahoua→Zinder                       | 尾上、Ibo          |
| 4月21日(土) | COGES 連合総会モニタリング(Konni)                                                           | Dosso→Tahoua                        | Yac<br>中澤       |
| 4月22日(日) |                                                                                   |                                     |                 |
| 4月23日(月) | コミュニティー幼稚園活動モニタリング(Keita)<br>小野寺ジュニア専門員(保健)によるプロジェクト訪問(~25日)<br>ザンデル州 COGES 担当官会議 |                                     | 影山<br>尾上、Ibo、國枝 |
| 4月24日(火) | スタッフ会議(Konni) 國枝団員参加                                                              | Niamey→Konni<br>Zinder→Konni→Tahoua | 原<br>尾上、Ibo     |
| 4月25日(水) | タウア州 COGES 担当官会議(國枝団員参加)                                                          | Konni→Niamey                        | 全員<br>原         |
| 4月26日(木) | 國枝団員にアメに移動                                                                        |                                     |                 |
| 4月27日(金) | 國枝団員カレゴロ視察<br>マルチメディア教材上映会(Touba Baggawa)<br>國枝団員帰国                               |                                     | 原<br>影山         |
| 4月28日(土) |                                                                                   | Niamey→Tahoua                       | 近藤              |
| 4月29日(日) | マルチメディア教材上映会(Founkoye Gabass)                                                     |                                     | 影山              |
| 4月30日(月) |                                                                                   |                                     |                 |

## (1) 今月の総括

今月は、定例の COGES 担当官会議のほか、タウア州では、先月に引き続き COGES 連合総会のモニタリングが行われ、ザンデル州では、5月初旬に予定されている COGES 連合大会(ワークショップ)の準備が行われた。さらに、プロジェクト第2フェーズ事前調査団が来ニし、国民教育省やドナーとの一連の会議を行い、UNICEF とは、コミュニティー幼稚園分野での連携についての合意を、国民教育省とは第2フェーズの概要について17日、ミニッツを交わした。その他、中央では、COGES 政策承認アトリエが3日間に亘り開催され、COGES 政策についての統一的な戦略が決定された。また、PDDE の合同レビューに向けたテーマ別グループ会合と現地調査が4月15日から2週間行われた。

4月は、上記のようにさまざまな活動が行われたが、COGES 政策の今後の方向性を決定付ける重要な動きがあった。COGES 政策アトリエでは、ミニマムパッケージが COGES 政策実施戦略として正式に採用され、PADEB はこのミニマムパッケージの全国普及への資金の提供を決定し、実際に全国普及への活動が開始された。このような時期に事前調査団の調査が重なったことは、プロジェクトの今後の活動の予測性を高める意味で好都合であったと思われる。

## (2) プロジェクト第2フェーズ事前評価調査団

4月10日より10日間に亘り、プロジェクトの第2フェーズのプロジェクトデザインを行うために事前調査が行われた。今回の調査では、世銀の資金によるミニマムパッケージの全国普及におけるプロジェクトの役割、そして、全国普及後の COGES 政策の行方やモニタリングなどのリカレントコストの負担などが重点的に協議された。詳細な調査結果については、別添1「プロジェクト第2フェーズ事前評価調査団報告書」を参照。

### (3) タウア州 COGES 担当官会議

タウア州の COGES 担当官会議は、25 日に行なわれた。議題は、第 2 フェーズ事前評価の結果報告、COGES 承認全国アトリエの結果報告、担当官活動報告、連合による模擬試験の実施、連合機能化評価調査の実施について、であった。担当官からの報告によると、会議の開催状況、学校活動計画の回収状況、分担金の回収状況ともに着実に進歩していることが確認された。しかしながら、分担金の回収が十分ではない連合も多く存在している。また、多くの連合が 4 月から 6 月にかけて模擬試験の実施計画を立てており、既に幾つかの連合では第 1 回の模擬試験を 4 月末に実施している。プロジェクトでは、連合からの申請に基づき、連合の活動状況や機能度を条件として、試験用紙のコピーなど最小限の支援を行なう予定である。

### (4) タウア州 COGES 連合活動モニタリング

現在、プロジェクトの COGES 連合チームでは、今年度から導入した COGES 連合機能化に向けた取り組みの成果を評価するために、約 10～15 の COGES 連合を対象にして調査を行なっている。これは通常の COGES 担当官によるモニタリング報告のみでは、把握し切れなかった機能化に不可欠なポイント（例えば、総会や事務局会合への参加度や議事内容、会計管理状況など）についてより詳細な情報を収集し、タウアの COGES 連合の機能化の進捗及び傾向を分析し、次年度にむけた更なるモデルの強化に資することを目的としている。

### (5) APP(生産実習活動)クラブ

今月に入り、契約教員によるストライキがある程度収まりを見せ、多くの学校で通常の学校活動が再開されるようになった。それにあわせ、APP クラブもようやく学校活動計画に従った活動が進みつつあるようである。今月実施したブザ連合モニタリングでは、ブザ地区で APP 活動を計画しているほとんどの学校で活動が既に開始されており、契約教員のストライキの為に活動を休止していた学校も、ストライキ終了後直ぐに再開しているとの報告が上がってきた。その一方で、今年度ブザ地区・サルナワ地区で試行を試みた「モニタリングシートを用いた自主モニタリングシステム」は、今年度の試行ではその有効性の検証や可否の判断もおぼつかない状態であるといわざるを得ない。ともかくも、今年度の APP 活動の実施自体が不安定な状態にあり、定期的な活動すらなされないという状態では、自主モニタリングシステムの実施可能性すら判断する段階に至っていない。APP クラブ活動実施自体が不定期であったのに加え、モニタリングシートの実施・回収をある程度各 COGES や COGES 連合の自主性に任せた為、その回収状況（回収量、回収時期等）は芳しいものではない。さらに、一部回収されたシート内の記入内容も不十分であったり、稚拙なものであったり、全く情報収集の主旨を理解していなかったりと、現場でのモニタリングに代わる情報源としての役割を担い得る域にはまだ程遠いといえる。自主モニタリングの主旨から、その方法、シートの記入からその意味づけに至るまで、来年度へ向け、COGES 連合や COGES に対して理解を促すよう再度説明をしていくのはもちろんであるが、それと同時に、モニタリングシート内容の簡素化を含めた、モニタリングシートおよびシステム推進へ向けた戦略の検討をすることが必須であろう。

一方、APP クラブは、カレゴロ生活改善協力隊グループ派遣の対象地域でも、去年から導入され始めた。カレゴロの APP クラブは、巡回モニタリングの頻度等も多きこともあり、比較的順調に機能している。APP クラブのほか、カレゴロでは、ドゥソ学校保健のパッケージ



も導入されており、APP クラブの新しい可能性が、カレゴロで試されていく可能性もあるので、注視、支援を行っていく必要がある。別添6「カレゴロ視察報告」参照

#### (6) コミュニティー幼稚園

今月4、5日の2日間、UNICEF と EPT プロジェクトとの共同ミッションが実施され、UNICEF 就学前教育担当者と EPT プロジェクトリーダーを中心とした視察団にて、計6箇村、7 COGES による7つのコミュニティ幼稚園を訪問した（別添2：「共同ミッション報告書」）。そして13日には、第2フェーズ事前評価調査団とともに UNICEF を訪問し、就学前教育—コミュニティ幼稚園における UNICEF と EPT プロジェクトとの連携、およびそれを定める協定書に関する協議を実施した。この協議を経たことにより、今月中旬、JICA 側事前評価調査団代表と UNICEF 側ニジェール事務所代表との署名をもって、両者での正式な協定書の取り交わしがなされた。これにより、UNICEF と EPT プロジェクトとのコミュニティ幼稚園に関わる連携確立が正式に進められることとなる。ただし、今回の協定書は連携の大枠を定めたものにすぎない。よって、今後もこの連携の具体的な内容に関して、UNICEF との協議を重ねていくこととなる。その一方で現場レベルにおいては、既に協定書を反映した連携が進められつつあり、来月にもプロジェクト対象の COGES 運営コミュニティ幼稚園における全保育者を対象に、UNICEF 出資・幼稚園視学官事務所主催の保育者研修が実施される予定である。

先月中旬の研修実施後、新規コミュニティ幼稚園全てに対するモニタリングを行ったところ、全ての幼稚園で既にクラス活動が開始されたことが確認された。これで、今月末までに、COGES のイニシアティブにより実施されるコミュニティ幼稚園はタウア州内で13箇所、対象児童数は計810名（女子383名 男子427名）に上る。

#### (7) セカンド・チャンス

今月のセカンドチャンスクラスは、運営上の状況見分に加えて、先月末に実施したコミュニティ教員に対する研修がどの程度各クラスの授業に反映されているか、その後の活動状況視察の為、プロジェクトスタッフによる個別モニタリングを実施した。その結果、クラス教員や学校長からの聞き取りを通して、いずれのクラスでも研修内容を踏まえた上で、改善に向けた取り組みが行なわれていることが確認された。さらにひとつのクラスでは、通常小学校の児童と共に、共同で APP クラブ活動を実施する試みも開始されている。

#### (8) ザンデール州での活動

ザンデール州では、23日に COGES 担当官会議が行なわれた。今回の会議には、フェーズ2事前評価調査団の國枝団員（JICA 人間開発部特別嘱託）及びプロジェクトからイボ氏と尾上専門家が参加した。議題は、フェーズ2事前評価の結果報告、COGES 承認全国アトリエの結果報告、COGES 担当官月例活動報告、5月開催予定のザンデール連合大会準備、などであった。COGES 担当官の活動報告の結果、学校活動計画は1,662校中1,431校分が COGES 連合を通して回収された（回収率86.10%）。また、連合総会及び事務局会合も順調に開催されており、第2活動計画についてもほとんどの連合が策定、承認済みであった。しかしながら、調査団の視察で訪問した連合では、連合の活動計画の内容に、本来 COGES の活動として行なうべき類の活動（例えば、夜間学習用のランプや燃料の購入など）が計画されているなど、活動の妥当性に対する理解が不十分であるケースが見られた。したがって、これらの点も含

め、COGES 担当官の総合的なモニタリング能力の強化が、これからのザンデールの重点課題と言える。

5月3日に開催予定の連合大会については、今年1月にタウアで開催したCOGES 連合、コミュニケーション、及び地方行政との連携についてのフォーラムの形式を踏襲し、実施することとした。ザンデールでは3者の連携のほか、10月の新学期に合わせて女子の就学を増加させるためのキャンペーンの採択も計画されている。

#### (9) 中央、援助協調、ドナー動向

今月から、6月末のPDDE 合同レビューに向けて、様々な活動が行われている。それらの活動は、2006年のPDDEの活動計画の評価を行うためのテーマ別会議(女子就学、地方分権化、教員研修、教員雇用、就学前教育など)及び、現地調査(4チーム、8州、2週間)他、教育革新活動評価、会計監査などである。これらのそれぞれの活動の結果を統合する形で、PDDEの合同レビューが行われる。当プロジェクトからも現地調査に一部参加した。別添3:「PDDE 合同レビュー現地調査報告書」参照

#### (10) COGES 承認全国アトリエ

4月9日から3日間、国民教育省の主催で機能するCOGESの全国普及を前にアプローチの統一基準を承認するためのアトリエが行なわれた。本アトリエはプロジェクトの終了時評価の提言を踏まえて、教育省が策定した全国普及に向けた活動計画の一環として実施された。本アトリエに先立ち、各ドナーの支援によって各地で用いられているCOGESのアプローチの分析、評価が外部コンサルタントによって実施され、そのコンサルタントによる報告書に基づいて協議を行なった。コンサルタントによる調査結果発表のあと、アトリエは、①COGESの基本戦略アプローチに関する事項、②財務人事管理マニュアルの内容検討、③学校インフラ及び備品管理マニュアルの内容検討、の3つのテーマに分かれてグループディスカッションを行ない、最終日にそれぞれのグループの結果を発表した。第1グループのCOGESの基本戦略アプローチについては、教育省関係者及びドナー間においてもEPTのアプローチの優位性が認められ、合意が得られた。その他諸管理マニュアルについては、内容が専門的過ぎるため、非識字者が多数を占めるCOGES委員の能力に応じて単純化・簡略化すべきとの意見が出、合意を得た。アトリエの結果は公式に教育省の戦略文書に反映させることになり、改めて全国普及に向けたEPTアプローチの採用が公式化されることになる。

#### (11) プロジェクト運営管理

##### ① 2006年度第4四半期及び2006年度会計報告

4月4日、JICA ニジェール事務所に対して2006年度第4四半期会計報告及び2006年度にかかる会計報告を行った。詳細は以下のとおりである。

##### 【在外事業強化費】

今期受入額：73,646,110Fcfa  
今期支出額：82,576,717Fcfa  
差引残額：0Fcfa

##### 【携行機材費】

今期受入額：1,229,977Fcfa  
今期支出額：1,230,107Fcfa

差引残額： -130Fcfa  
 (上記マイナス分は小職の負担とする)

尚、第4四半期の受入額は74,876,087FCFAであったが、2007年3月7日付公電 NI/HM-048「ニジェール住民参画型学校運営改善計画にかかる在外事業強化費の一部携行機材費への振替について」、2007年3月8日付公電 HM/NI-028「ニジェール住民参画型学校運営改善計画にかかる在外事業強化費の一部携行機材費への振替の承認について」、ならびに2007年3月13日付ニジェール事務所による事務連絡「在外事業強化費の減額ならびに携行機材費の増額について」に基づき、1,229,977FCFAを携行機材費に振替、同金額を差し引いた額、73,646,110Fが実際の受入額であった。

また、2006年度在外事業強化費執行率は100%であった。会計報告の詳細は以下の通りである。

(通貨単位：Fcfa)

|       | 受入額         | 支出額         | 残額         |
|-------|-------------|-------------|------------|
| 第1四半期 | 132,698,000 | 52,693,688  | 80,004,312 |
| 第2四半期 | 0           | 62,733,939  | 17,270,373 |
| 第3四半期 | 46,413,233  | 54,752,999  | 8,930,607  |
| 第4四半期 | 73,646,110  | 82,576,717  | 0          |
|       | 252,757,343 | 252,757,343 | 0          |

② 平成19年度第1四半期在外事業強化費にかかる前途資金入金

平成19年度在外事業強化費にかかる実施計画額は、第1四半期、第2四半期分（フェーズ1終了予定の7月末まで）で合計72,289,280Fcfaを申請し、本部の承認を得た。うち、第1四半期分については、4月5日に10,000,000Fcfa、4月12日に53,560,710Fcfaが入金された。

(12) 課題

今月の、COGES政策アトリエや事前調査における様々な会合を通し、COGES政策あるいは、教育分野においてみんなの学校プロジェクトの占めている位置が明確になってきた。プロジェクト開始当初、本拠がタウアにあることもあり、中央ではあまり認知されたプロジェクトではなかった。しかし、対象地域の急激な拡大や、その拡大した地域での大きな成果、そして、教育関係者や世銀担当者への地道な宣伝・啓発活動が実を結び、現在では、COGES政策関係者の間では中心的なプロジェクトと認知されており、そして、そのアプローチの効率性については、議論の余地がないほど明確に理解されている。

一方、世銀よりミニマムパッケージの全国普及への資金提供が行われ、COGES政策アトリエでも戦略でミニマムパッケージが採用されたことは、プロジェクトの活動やアプローチが認められたという意味では喜ばしいことではあるが、背景には、世銀などの思惑（政策）もあることに留意しなければならない。世銀の政策やそれを認めざるを得ない政府にCOGESの舵取りを任せておくことは、土台部分の堅牢さの検証もなく、急激に上位部分の建設を行うといった危うさを伴っている。

恐れなければならないのは、プロジェクトが全国規模になり、その活動が地方分権化や教育政策に直接影響を与えるようになったことで、プロジェクトの進展の原動力になったコン



セプトを忘れてしまうことである。プロジェクトの成功の理由は、COGES の主体を住民に据えたことであり、彼らの力が最大限に発揮できる場と組織を用意したことであり、COGES を政策的なレベルの絵に描いたもちから「主体性を持った自主的な組織」に作り変えたことにある。それが、COGES の土台となっている。地方分権化の中の「COGES」や、全国規模でのミニマムパッケージの普及や、PDM で中での COGES に関する議論は、生きている住民組織である COGES を構図化し、矮小化する危険性を含んでいる。

現在、みんなの学校プロジェクトが実施、成功した住民組織としての COGES は、その規模や、その成立過程の短さでは、いままでにない住民参加の成功例といえる。今後、ニジュールでは、新しい住民参加と地方分権化を結びつける、世界でも稀な成功例が現出するかもしれない。しかし、稀な例ということは、逆に先例がないことを意味する。今後のプロジェクトの方向性を、ニジュールとは違った背景をもつ先例の決まった型にはめようとするのは、プロジェクトを失敗に導くか、効果を大幅に減少させてしまう可能性が高い。

プロジェクトが目指す COGES は、主体的に住民のニーズを反映した COGES が行う教育開発であり、決して、地方分権化の役割だけを忠実に果たす COGES ではない。プロジェクトがそのことを声だかに主張しないのは、現状で COGES を巡る様々な論議をその実践において、圧倒できるまで COGES が成熟していないからであり、決してその主張を変えた訳ではない。プロジェクトは、そのことを忘れずに、個々の COGES の成熟を図っていく必要がある。

### (13) 5月の予定

| 予定                 | 期間        |
|--------------------|-----------|
| タウア州 COGES 担当官会議   | 5月24日     |
| ザンデール州 COGES 担当官会議 | 5月下旬      |
| ザンデール州 COGES 連合大会  | 5月3日      |
| 原専門家休暇             | 5月8日～15日  |
| 中澤専門家休暇            | 5月11日～29日 |
| 伊藤スタッフニジュール赴任      | 5月7日      |

# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2007 年 5 月)

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

作成日：2007 年 6 月 1 日

| 日時       | 活動                                                               | 担当、出張者                         |
|----------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 5月1日(火)  | Tahoua→Zinder                                                    | 尾上、Hamza                       |
| 5月2日(水)  | COGES 連合総会モニタリング (Tahoua)                                        | Hamissou                       |
| 5月3日(木)  | ザンデール州 COGES 連合フォーラム                                             | 尾上、Ibo、Hamza                   |
| 5月4日(金)  | APP クラブ活動モニタリング (Bouza)<br>Zinder→Tahoua                         | 影山、近藤<br>尾上、Hamza              |
| 5月5日(土)  | COGES 連合モニタリング (Akoubounou)                                      | Ousseini                       |
| 5月6日(日)  | Tahoua→Niamey                                                    | 中澤                             |
| 5月7日(月)  | 伊藤研修員ニジェール赴任<br>COGES 連合総会モニタリング (Galma) (~8日)                   | 中澤<br>Gambobo、Hamissou、Yacouba |
| 5月8日(火)  | タウア COGES グループ会合<br>コミュニティー幼稚園活動モニタリング (Illela)<br>原専門家休暇 (~15日) | 尾上、Ousseini<br>影山              |
| 5月9日(水)  | コミュニティー幼稚園活動モニタリング (Keita)<br>Niamey→Tahoua                      | 影山<br>伊藤、Kabo、Hamza            |
| 5月10日(木) | COGES 連合モニタリング (Galma、Malbaza)                                   | Yacouba                        |
| 5月11日(金) | COGES 連合総会モニタリング (Takanamatt)<br>中澤専門家休暇 (~29日)                  | Ousseini                       |
| 5月12日(土) | COGES 連合総会モニタリング (Akoubounou)                                    | Ousseini                       |
| 5月13日(日) |                                                                  |                                |
| 5月14日(月) | 学校プロジェクトモニタリング (Kaola Allasane)                                  | Ousseini                       |
| 5月15日(火) | COGES 連合総会モニタリング (Keita)<br>原専門家休暇より帰任                           | Yacouba                        |
| 5月16日(水) | COGES 連合総会モニタリング (Tahoua Commune 1)                              | 尾上、Yacouba                     |
| 5月17日(木) | COGES 連合総会モニタリング (Illela、Konni、Galma)<br>Niamey→Tahoua           | 尾上、Yacouba、Gambobo、Yac<br>原    |
| 5月18日(金) | スタッフミーティング<br>Tahoua→Niamey                                      | 全員<br>原                        |
| 5月19日(土) | 幼稚園 COGES パイロット校評価調査同行 (Tahoua 市)                                | 尾上                             |
| 5月20日(日) |                                                                  |                                |
| 5月21日(月) | COGES 連合調査 (Badaguichiri)                                        |                                |
| 5月22日(火) | COGES (Tchinta)                                                  | Ousseini                       |
| 5月23日(水) | UNICEF 教育担当者との会談<br>Niamey→Tahoua                                | 原<br>Ibo                       |
| 5月24日(木) | タウア州 COGES 担当官会議<br>プロジェクト第二フェーズ RD 署名<br>Tahoua→Niamey          | 全員<br>所長、原、杉山<br>Ibo           |
| 5月25日(金) | ベルギー教育専門家との会談<br>COGES 連合模擬試験モニタリング (Tahoua Commune II)          | 原<br>尾上、伊藤                     |
| 5月26日(土) | コミュニティー幼稚園経験シェアリングセミナー (~27日)<br>Niamey→Tahoua                   | 影山、Kabo、伊藤、近藤<br>原             |
| 5月27日(日) | Tahoua→Niamey                                                    | 原、尾上                           |
| 5月28日(月) |                                                                  |                                |
| 5月29日(火) | 中澤専門家休暇より帰任<br>マリ教育省地方分権化促進室アドバイザーとの会談                           | 原、尾上                           |
| 5月30日(水) | PDDE テーマ会合 (就学前教育)<br>Niamey→Tahoua                              | 原<br>中澤、尾上                     |
| 5月31日(木) | COGES 住民集会モニタリング (Guidan Fako)                                   | 伊藤                             |

### (1) 今月の総括

今月は、タウア州では各 COGES 連合の総会のモニタリングを行い、今年度の連合の活動の評価を行い、その結果が COGES 担当官会議にて共有された。また、コミュニティー幼稚園教諭のための研修が、UNICEF の技術・財政支援を受け、行われ後、プロジェクト主催の経験シェアリングセミナーが開催され、共有できる成果・解決すべき問題点が話し合われた。ザンデル州では、COGES 連合フォーラムが開催された。このフォーラムは、全 COGES 連合事務局委員のほか、州・県の教育省関係者及び市長などが参加して行われ、今後の COGES 連合の地方分権化の中での役割や、任務などについて協議され、認識が共有された。また、月末には、マリ教育省の地方分権支援局所属のコンサルタントのニジュール及びみんなの学校プロジェクトの調査の便宜を図った。

また、4月のプロジェクト第2フェーズの事前調査から引き続き行われていた協議が終了し、5月24日に国民教育省と JICA の間で RD が取り交わされ、正式に2007年8月1日から3年間の第2フェーズ開始が決定した。

### (2) タウア州 COGES 担当官会議

今月の COGES 担当官会議は24日に開催された。議題は、担当官の月例活動報告と、COGES 連合の機能化度評価についてのディスカッション、などであった。連合の機能度の評価のディスカッションでは、今学校年度から導入した COGES 連合の機能化への取り組みを振り返りその成果について議論をした。議論に入る前に、プロジェクトが実施した14連合の聞き取り調査の結果を10の項目ごとに発表した後、担当官の意見、感想を出し合い、総括評価を行なった。全体的に、昨年度に比べて COGES 連合の会合開催数や参加者の参加率、活動の実施数など向上するなど、多くの改善点が確認され（内容については後述）、今年度の改善に向けた取り組みが功を奏していることが担当官の間でも確認された。また、昨年度多くの COGES 連合が怠っていた年度総括総会など、今年度残りの時期で実施すること、など今後の課題に対する改善を引き続き行なうことも確認された。現在、ほとんどの COGES 連合が模擬試験を独自の活動計画に則って実施しており、これらの活動が終了次第、年間総括の会議が6月にかけて行なわれる予定である。

### (3) タウア州 COGES 連合活動モニタリング

今月は COGES 連合の機能度を確認、今年度の取り組みの効果を評価するための聞き取り調査を14の COGES 連合に対して行なった。調査項目は10項目に及び内容はそれぞれ、連合運営活動の計画性、会合の開催及び参加状況、COGES のモニタリング状況、教育課題に対する活動状況、財務管理、事務局委員の能力、パートナーとの連携、情報伝達システム、文書管理、克服すべき課題、であった。本調査及び担当官が毎月モニタリングしているチェックポイントを纏め、さらに上述の担当官会議でその内容について担当官と議論した結果、以下のような結論が導かれた。

- ① 昨年度に比して多くの COGES 連合において、総会や事務局会合開催数及び参加者の出席率が向上し、今年度から導入された新しい活動計画方式が非常に効果的であったことが実証された。5月24日時点での一連合あたり平均総会開催数は2.65、平均事務局会合開催数は6.27であった。
- ② COGES のモニタリングに関して、各 COGES の学校活動計画回収率は92%（1,321校中1,220校）であった。また、今年度は全ての連合がゾーン（地区割り）制を採用し、ゾーンにお



けるモニタリングと連合の会合、総会の場での集会型モニタリングを併用するなど、それぞれの連合が地域の特性に即したシステムを導入するなどの工夫がみられた。

- ③ 教育課題に対する活動について（連合第 2 活動計画）、一連合平均 3.92 活動が計画され平均 2.74 活動が実施済みである（実施率は 69.93%）。なお、4 月から 6 月にかけて多くの連合が模擬試験を計画しており、最終的な実施率は、更に上昇する。
  - ④ コミュニンとの連携については、聞き取り調査を実施した 14 連合のうち半数以上がコミュニケーションからの支援（資金援助、物資支援、など）を受けており、資金や物資支援以外でもコミュニケーションの代表が連合の会合や活動に参加するなど活発な連携事例が見られた。しかしながらコミュニケーション行政と視学官事務所との 3 者の定期的な協議を実施している事例はこれまでのところまだ無く、協議を主導するアクターの欠如が原因と思われる。  
昨年度機能していなかった連合が、事務局委員の改選によって、一転して非常に活発化するケースが見られた。
6. 財務管理については、透明性の確保の点で工夫が足りない連合が多く見られた。また、連合の財源については、昨年度に比べて分担金回収額の増加等多くの改善点があったものの、全体的に財源不足は否めない。

以上は現時点における暫定的な結論であるが、連合の活動は 6 月まで行なわれ、ほとんどの連合が 6 月に年間活動総括の総会を予定しているため、最終的な連合の機能活動評価はそれ以降に纏める予定である。

また、今月は多くの連合が卒業試験の模擬試験を実施し、連合の機能化に向けた取り組みの成果が高い連合から優勢順位をつけて、プロジェクトから試験用紙のコピー、ノートなどの支援を行なった。

#### (4) APP(生産実習活動)クラブ、コミュニティー幼稚園及びセカンド・チャンス

##### ① APP(生産実習活動)クラブ

今月の初め、ブザ県ブザ地区にて、今年度の活動状況に関する情報が未入手であった学校を中心に個別の活動モニタリングを実施した。その結果、今月まで活動状況の報告がなかった COGES においては、やはり今年度の活動実施に問題を抱えているケースがほとんどであった。比較的村落特有の問題を抱えている COGES もあるものの、基本的に各 COGES が APP 活動開始および実施の障壁として挙げている問題は、APP クラブ活動に特化した問題というよりは、COGES 活動・運営の全般にわたる財源システムや活動の計画性にまつわる問題が主であった。それに加えて、契約教員ストライキによる休校が今年度の活動実施に多大なる負の影響をもたらしたことは明らかである。ただ、多発かつ長期化した契約教員によるストライキの影響下においても、最終的に、ブザ県ブザ地区においては、APP クラブ活動を学校活動計画内で計画した 33 COGES 中、25 COGES が今月時点で活動実施中であり、5 COGES が今年度は未実施、3 COGES は情報なしという状況であった。

今年度は、完全に APP 活動の計画および実施を各 COGES の自主性に完全に任せ、昨年度までのような個別モニタリングはほぼ皆無という条件下であったが、その中でもこれだけの COGES が曲がりなりにも活動を継続しているという状況は、幾分なりとも注目に値するといえよう。そのような自主的に積極的な活動を実施している COGES のほとんどが語るのが、「APP クラブ活動の習慣化」である。つまり、昨年度の経験を経て、教員、児童、住民の三者が共に、APP クラブ活動を学校活動の中で当然行うもののひとつとして認識し、完全に学

校生活もしくは日常生活のリズムの中に組み込まれ、習慣化しているために、実施に際する困難や障害・抵抗がないという点である。APP クラブ活動の効果を一旦理解し、学校および住民全体がその活動実施を学校生活や日常生活の中に統合し、習慣化したならば、その継続は決して難しいものではなかろう。しかしその一方で、その習慣化までの道のりは、決して容易いものではない。いかに APP クラブに汎用性を持たせるか、どこに拡大発展の可能性を見出すかという点は、常に当該活動の大きな問題である。今年度は、昨年度対象地区に対してはそれぞれのイニシアティブに任せ、それ以外の地域に対しては、マニュアルの配布という手段での APP クラブの発展拡大を図ったが、マニュアル配布のみでの各 COGES による自主的な APP クラブ立ち上げは、やはりそれ程の効果は期待できない。それに対して、APP クラブ発展のためには習慣化までの道のりに対する個別の対応がより有効、もしくは必須であるとするならば、今後、協力隊員との連携等も含めた新たな戦略を検討する必要がある。

## ② コミュニティー幼稚園

今月 26・27 日、現在コミュニティー幼稚園を実施している 13 COGES の代表者 2 名ずつおよび保育者、4 COGES 連合からそれぞれ 1 名が一同にタウンに会し、それぞれの当該活動に関する経験知を共有し、来年度につなげるための「コミュニティー幼稚園経験シェアリングセミナー」を開催した。関係地域の COGES 担当官も含め、合計参加者は 50 名に上り、活発な議論が繰り広げられた。このセミナーの目的は、

ア. 今年度コミュニティー幼稚園活動の教訓及び経験共有

イ. コミュニティー幼稚園に共通する問題の認識と現場に即した解決策の模索

ウ. 来年度へ向けた戦略およびスケジュールの提示

であった。その目的を踏まえ、当セミナーのプログラム構成を、

- ① 各 COGES から今年度活動概要の発表、
- ② 当該活動評価アンケートの結果発表、
- ③ 優良事例紹介、
- ④ コミュニティー幼稚園機能化へ向けたディスカッション、
- ⑤ 来年度へ向けた戦略と活動スケジュールの提案、

とした。概ねコミュニティー幼稚園にかかる最大の問題は財源であるため、今回のセミナーは、プロジェクトから最終的に、「(幼稚園に通っている子どもの保護者のみならず) コミュニティー全体から穀物による収穫期(活動開始前)の一括払い」という財源システム方式を提案し、それに対して既存のコミュニティー幼稚園が来年度の戦略として前向きに受け入れることを狙ったものである。また、来年度までのスケジュールを具体的に示すことで、来学期の自主的で順調な活動開始と継続に至ることを意図している。さらにこの中心的課題に加え、各 COGES が抱えやすい問題への解決策および機能化のための改善すべき点として、村落資源(人的・物的)の有効活用、計画性の向上を議題としてセミナーを進めた。事前準備の甲斐もあり、議論の逸脱や空中分解もそれ程なく、プロジェクト側の意図にほぼ沿う形でセミナーを終えることが出来たといえる。今後は、今回の提案をセミナー内での議論で終わらせることなく、確実に来年度へと繋がるよう、セミナー参加者による住民への報告会(住民集会)のモニタリングを適宜実施し、この戦略の浸透を強化していくこととする。

今月はこの活動に加え、このセミナー開催に合わせて、13 COGES を対象に、コミュニティー幼

稚園活動の評価アンケートを実施した。このアンケートでは、コミュニティー幼稚園活動計画および実施状況、成果、運営面での問題点と解決策、クラス活動面での問題点・解決策、来年度への展望をトピックとしており、これらの質問への回答を通して（このための住民集会実施）、各 COGES が村落住民と当該活動および成果に関する情報共有および問題解決への模索、来年への展望を見出すことを意図して実施したものであり、その結果は、上記セミナーにおいても共有し、問題解決への糸口とした。

その他、来年度以降の実施 COGES 拡大へ向け、関係 COGES 担当官を集め、コミュニティー幼稚園立ち上げの条件説明やその戦略、各 COGES へのアプローチ方法、等の説明会合を実施した。今後は、可能性のある COGES に対する個別訪問、説明・啓発活動を進めていく予定である。

#### (5) ザンデル州「COGES 連合、コミューン行政、地方教育行政の連携を考えるフォーラム」

ザンデル州では、5月3日に COGES 連合、コミューン行政、地方教育行政の連携についてのフォーラムが行なわれた。これは、今年1月にタウアで開催されたフォーラムと同様の主旨で、ザンデル州内の COGES 連合の代表（各2名づつ）、コミューン長、視学官及び COGES 担当官が一同に会し、3者の連携について議論することを目的として開催された。まず、教育の地方分権化政策（COGES）とその現状についての紹介のあと、プロジェクトの活動紹介、そしてコミューンを含むニジュールの地方分権化政策とその現状についての紹介をそれぞれの関係者から行なった。特に今回は、政策で定められているコミューン行政の教育分野における権限内容（学校のインフラ整備、備品の管理）など、コミューン長でさえも理解が行き届いていないなど、今回のプレゼンテーション及び討論を通じて、関係者の理解が深まる機会となった。また連携にかかる討議でも非常に積極的で前向きな発言を行なう参加者が多く見られ、関係者の参加率もほぼ100%に達するなど関心の高さを反映して、盛会裏に終了した。討議の結果採択された決議事項は、以下のとおり。

- ① 教育に関する問題を協議するために、コミューン評議会、COGES 連合、教育地方行政、及び学校のパートナーを集めた協議会を設置する。
- ② コミューン開発計画（PDC）の策定委員会に COGES 連合の代表が参加する。
- ③ COGES 連合は、2007年10月の新学期に新入生の入学率、特に女子の入学率を向上させるために、COGES を通じた身近な啓発活動の計画を策定する。

今回のフォーラムの特徴は、上記③のとおり、参加者が新入生の就学促進のための啓発活動に共同で取り組むことを表明したことである。タウア州では最初に設置した7連合が就学促進の啓発活動を実施し、入学登録率が2倍に増加するという結果をだしており、今回ザンデル州の全 COGES 連合が取り組み、同様の成果をもたらすことが出来れば、同州の就学率向上に大きく貢献できるだけでなく、COGES とそのネットワークが非常に効果的な教育開発の推進主体であるということを広く関係者に認識してもらおう機会となりうるという意味で今後の進捗状況を注視する必要がある。

#### (6) 中央、援助協調、ドナー動向

現在、6月下旬に予定されている合同レビューに向けて、PTF、教育省との合同レビューの準備としてテーマ別会合が行われている。プロジェクトあるいは JICA として、現在は、COGES と就学前教育と教員養成のテーマ別会合に出席している。その内、今回は、就学前教育の会合についてまとめる。（別添1参照）



(7) その他(PADEBの資金による機能するCOGESの全国普及)

現在まで、国民教育省が機能するCOGES全国普及実施を行うNGOの選定を行っていたが、5月30日に、プロジェクトと共に機能するCOGESのモデル化を行ってきたONENの落札が決まった。これで、第2フェーズで想定していたPADEBの資金による機能するCOGESの全国普及支援の活動がスムーズに行われることになる。ただ、COGES担当官のモニタリング用のバイクの購入に関しては、入札手続き等が始まっていない。

(8) プロジェクト運営管理

① 伊藤スタッフ、プロジェクト業務開始

当プロジェクト現地研修員伊藤さやか氏が、今月10日に着任した。同氏は昨年8月から本年2月までJICAニジュール事務所にインターンとして勤務し、その際に当プロジェクトの活動に何度か関わった経緯がある。

② JICA本部人間開発部プロジェクト担当者の交代

当プロジェクトの本部担当者であった岩崎職員が人事異動のため人間開発部より総務部付となった。後任の担当者は國枝特別囑託となる。

(9) 課題

PADEB資金による機能するCOGESの全国普及のための実施NGOの入札をONENが落札したことにより、6月よりプロジェクトが開発したミニマムパッケージの全国普及のための実際の活動が開始されることになる。プロジェクトとしては、この全国普及の支援を行っていくが、これによりミニマムパッケージの普遍性が問われることになる。さらに、プロジェクト関係者が実施者に関与しない形で、いかに、各研修の実施や質の確保を間接支援していくか非常に難しい問題が山積している。対象校は7500校、対象研修者は22500人、保護者会選挙や、学校活動計画のための住民総会に参加する人数は、数百万人となる。これらの数字は、もはや、一プロジェクトの想像力を超えるものである。しかし、もし、研修が成功すれば、その成果は、教育分野の枠を超え、ニジュール社会全体に大きな影響を与えていくと思われる。今後は、研修講師の質の確保や、研修に直接関わるアクターに関する、研修実施に関わる情報の提供(研修)など、今後の全国普及のための一つ一つの活動に対する活動を検証し、その活動がスムーズにいくような支援活動を柔軟に行っていくことが必要になる。

(10) 6月の予定

| 予定               | 期間      |
|------------------|---------|
| DREN対象COGES導入研修  | 6月5, 6日 |
| タウア州COGES担当官会議   | 6月21日   |
| ザンデール州COGES担当官会議 |         |
| PDDE合同レビュー       | 6月20日～  |

# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」 (プロジェクト活動月報 2007 年 6 月)

作成日：2007 年 7 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                                                                                                        | 担当、出張者                                             |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 6月1日(金)  |                                                                                                                                           |                                                    |
| 6月2日(土)  | COGES 連合モニタリング (Tchinta)                                                                                                                  | Yacouba                                            |
| 6月3日(日)  | Tahoua→Niamey                                                                                                                             | 尾上、中澤                                              |
| 6月4日(月)  | COGES 連合総会モニタリング<br>PDDE グループ会合 (就学前教育)                                                                                                   | Gambobo、Hamissou、Yacouba<br>原                      |
| 6月5日(火)  | DREN 対象 COGES 導入研修 (~6日)<br>PDDE グループ会合 (就学前教育)                                                                                           | 原、尾上、中澤、Ibo、近藤<br>原                                |
| 6月6日(水)  | COGES 連合総会モニタリング (Malbaza)<br>Tahoua→Niamey                                                                                               | Gambobo<br>影山                                      |
| 6月7日(木)  | PDDE グループ会合 (教員養成・現職教員研修)                                                                                                                 | 原、中澤、近藤                                            |
| 6月8日(金)  | 影山スタッフ離任<br>Niamey→Tahoua                                                                                                                 | 中澤、近藤                                              |
| 6月9日(土)  | Niamey→Tahoua                                                                                                                             | 尾上                                                 |
| 6月10日(日) |                                                                                                                                           |                                                    |
| 6月11日(月) | サヘル協力会議<br>COGES 連合総会モニタリング (Allela)<br>Niamey→Zinder                                                                                     | 原<br>Gambobo<br>Ibo                                |
| 6月12日(火) |                                                                                                                                           |                                                    |
| 6月13日(水) | PTF 会合<br>COGES 連合総会モニタリング (Dogaraoua)                                                                                                    | 原<br>Ousseini                                      |
| 6月14日(木) | スタッフミーティング<br>Zinder→Konni<br>Niamey→Konni<br>Tahoua→Konni                                                                                | 全員<br>Ibo<br>原<br>尾上、中澤                            |
| 6月15日(金) | COGES 連合総会モニタリング (Takanamatt)<br>COGES 総会モニタリング (Illela) JEC 関係<br>Konni→Niamey<br>Konni→Tahoua                                           | Ousseini<br>近藤<br>原、Ibo<br>尾上、中澤                   |
| 6月16日(土) |                                                                                                                                           |                                                    |
| 6月17日(日) | 機能する COGES 全国普及 (ニアメ COGES 担当官会議、研修、2日間)<br>Tahoua→Maradi                                                                                 | IBO、原<br>尾上                                        |
| 6月18日(月) | 機能する COGES 全国普及 (マラディ州 COGES 担当官会議、研修、2日間)<br>COGES 連合総会モニタリング (Bouza)<br>COGES 連合総会モニタリング (Bazaga)                                       | 尾上、ザンデール PF、Ali<br>Ousseini<br>Gambobo             |
| 6月19日(火) | DREN 主催コミュニティー幼稚園視察                                                                                                                       | Kabo、近藤                                            |
| 6月20日(水) | 機能する COGES 全国普及 (アガディス州 COGES 担当官会議、研修、2日間)<br>PDDE 合同レビュー (~22日)<br>COGES 連合総会モニタリング (Garahanga)<br>DREN 主催コミュニティー幼稚園視察<br>Maradi→Tahoua | Zakaria,Atikinou<br>原<br>Ousseini<br>Harouna<br>尾上 |
| 6月21日(木) | 機能する COGES 全国普及 (ティラベリ州 COGES 担当官会議、研修、2日間)                                                                                               | IBO                                                |
| 6月22日(金) | JEC 設置 COGES 総会モニタリング (Guidan Daouda)                                                                                                     | Kabo、近藤                                            |
| 6月23日(土) | 機能する COGES 全国普及 (ドッソ州 COGES 担当官会議、研修、2日間)<br>COGES 連合総会モニタリング (Tajae)                                                                     | IBO<br>Ousseini                                    |

|          |                                                |             |
|----------|------------------------------------------------|-------------|
| 6月24日(日) | COGES 総会モニタリング (Guidan Karou)<br>Niamey→Tahoua | 近藤<br>原     |
| 6月25日(月) | スタッフミーティング<br>Tahoua→Niamey                    | 原、中澤、伊藤     |
| 6月26日(火) | JICA ニジェール事務所主催経理研修                            | 中澤          |
| 6月27日(水) | 小学校卒業試験開始式<br>Niamey→Tahoua                    | 尾上<br>中澤、伊藤 |
| 6月28日(木) |                                                |             |
| 6月29日(金) | 原専門家休暇(～7月17日)                                 |             |
| 6月30日(土) | COGES 連合総会モニタリング (Konni)                       | Ousseini    |

### (1) 今月の総括

今月は、タウア州では、COGES 連合のモニタリングが行われたほか、DREN を中心としたコミュニティ幼稚園のモニタリングが行われた。そのコミュニティ幼稚園では、来学期に向けた需要調査を行った。ザンデル州でも、COGES 担当官会議、COGES 連合へのモニタリングが同様に行われている。機能する COGES の全国普及については、業務委託 NGO の選出が終わり、ONEN が最終的に契約を落札した。これにより実質的な全国普及の活動が開始された。プロジェクトは、この全国普及の支援として、8 州の DREN を集めた、「機能する COGES 全国普及のためのアトリエ」を開催した他、各州で行われた、研修計画作成のための COGES 担当官会議と COGES 担当官を対象とした「保護者及び COGES 委員選出のための選挙研修」のための講師研修に、この研修に経験の深いプロジェクトスタッフやタウア州及びザンデル州の COGES 監督官、担当官を応援人員として派遣した。また、PDDE の合同レビューが行われ、同計画第一フェーズの評価と第二フェーズの枠組みが議論された。

### (2) タウア州 COGES 担当官会議

今月のタウア州 COGES 担当官会議は、月末に小学校の卒業試験が実施され、その前後は COGES 担当官も業務に動員されるため、6 月中の開催は取りやめ、7 月 4 日に実施することとなった。

### (3) タウア州 COGES 連合活動モニタリング

今月の COGES 連合の活動としては、模擬試験の実施及び年間総括総会であった。模擬試験の実施については 6 月中旬にかけて行なわれた。模擬試験は各 COGES のニーズも高く、ほとんどの連合で活動計画に入っており、財源が限られている中、それぞれコミュニケーションや視学官事務所そして地域住民と協力しながら、実施にこぎつけていた。プロジェクトでは、会議の開催状況や分担金の徴収状況など連合の機能度評価の結果、合計 11 連合に対する文房具等の支援を行なった。また、6 月は 13 連合で年間総括総会が開催され、多くの連合が年間の活動のまとめを行なった。その内容で共通することは、昨年度に比べて多くの活動が行なわれ、連合自体が活発化したということである。課題としては、分担金の回収が不十分であったなど、財源確保の問題や各学校レベルでの教員及び住民に対する更なる啓発活動などが挙げられていた。年間総括会議の開催時期について、6 月の学期末までに開催されることが望ましいが、模擬試験及び本試験などの活動が 6 月までかかることや雨期の農作業が始まる時期で特に住民代表の集まりが悪くなるなど、会議開催に支障をきたす連合が見られた。

### (4) APP(生産実習活動)クラブ

今年度は契約教員ストライキの多発により、APP クラブの活動実施は非常に不定期なもの



となり、特にサルナワ地区においては惨憺たる結果に終わった。自主モニタリングシステムも含めて今後どのように APP 活動を発展させていくのか、新年度を迎えるにあたり今一度検討したい。

また、プロジェクト第 1 フェーズ中に各小学校で生まれた様々な APP 活動をまとめるべく、APP 優良事例集第 1 版の仕上げ作業を行う予定である。

#### (5) コミュニティー幼稚園

今月は、先月末に行った「コミュニティ幼稚園経験シェアリングセミナー」の報告会及び新規のコミュニティ幼稚園設置にかかる住民総会のモニタリングを中心に活動を進めた。経験シェアリングセミナーにおいて最も重点をおいた、学校活動計画の一本化（年度途中に開始したコミュニティ幼稚園は小学校とは別に活動計画を策定した）及び新財源システム方式（コミュニティ全体から穀物による収穫期（活動開始前）の一括払い）はセミナーに参加した全ての COGES で受け入れられ、2007-2008 年の新年度から採用される見込みである。今年度と同じ方法で分担金を集めた COGES は順調であったため、他の COGES における資金難解消が期待される。

新規コミュニティ幼稚園の創設については、コミュニティ幼稚園の主旨・条件をよく理解し、更にその住民に意欲のある COGES が設立に向け準備を開始している。現段階ではイレラ県において 6 幼稚園が設立される予定である。今後は、新学年度開始（10 月初旬）にむけ、設立準備にかかる幼稚園運営管理（自主モニタリングを含む）研修、保育者の導入研修などを準備していく。

また、6 月 18 日～21 日にかけて、国民教育省州事務局により COGES 設立のコミュニティ幼稚園にかかる評価ミッションが行われた。6 月末ともなると隣接の小学校に合わせ、既に夏期休暇に入っているところもあったが、実際に訪問できたところについては、COGES 代表・小学校長・保育士からヒアリングを行った。資金不足等 COGES の機能に関する問題もあげられたが、コミュニティ幼稚園設置によるアウトプット（地域で子供を育てるといふ考えや幼稚園に通う子供にみられる成長）は概ねどの幼稚園も良好であり、コミュニティ幼稚園の有効性が認められた。また、この機会に、幼稚園視学官事務所から Djinguiniss コミュニティー幼稚園に対し、ユニセフ支援による物品供与（机・イス・児童用ミニ黒板・おもちゃ教材等）があった。ユニセフと EPT プロジェクトの連携により、保育者研修と同時に物品供与も行われる予定であるが、供与対象となる幼稚園（COGES）のクライテリアについては、‘ばら撒き’にならない様改めて協議を行っていく必要がある。

#### (6) 校長研修

現在ニジュールの学校教員は、入学希望者・学校数の増加に伴い雇用された契約教員が多数を占めており、その質の改善が喫緊となっている。プロジェクトでは、学校運営（人事管理）及び教育の質（教員の授業方法指導）において重要な役割を担う校長を対象とした研修を検討しており、第 2 フェーズに向け、資料・情報収集を開始した。同研修はモジュールを使用した研修とし、基本的には各校長がモジュールに沿って自習、コミュニケーションレベルの校長会で意見交換し、その結果を各校に持ち帰り校長から他の教員に対し校内研修することを想定している。今月は情報収集として、教員レベル調査（アンケート及び調査者による授業観察）及び校長実務調査（インタビュー）を行った。

## (7) 機能する COGES 全国普及に向けた活動

- これまで、プロジェクトがタウア州、ザンデール州で協働してきた ONEN が、今回の機能する COGES 全国普及の入札を落札し、実際の全国普及のための活動が始まった。プロジェクトとしては、まず、DREN を対象とした「機能する COGES の全国普及のためのアトリエ」（詳細は別添参照 1）を開催し、実際の普及のための準備や、実施における技術的な問題、その他の情報を提供した。この会議は非常に重要なものであり、今後も全国普及の節目、節目において、合同調整委員会など機会を利用し、開催していく必要があると思われる。また、この会議を終えた後、すぐに、各州で、研修計画作成に必要な情報が集められ、研修計画が作成された。さらに、各 COGES 担当官を集めた最初の月例会議が開催され、研修計画の細部が詰められた後、COGES 担当官を講師として養成するための研修が ONEN の要員を中心に行われた。これらの月例会議、研修を支援するために、プロジェクトは、プロジェクトの要員や、経験豊富なタウア州、ザンデール州の COGES 監督官及び担当官を派遣した。（詳細は別添 2 を参照）
- 今回の全国普及において、就学前教育施設も対象とすることが正式に決定された。これは、昨年、正式に教育省から法令として、幼稚園に対して COGES を施設することが発布され、JICA 加藤フィールド調整員（就学前教育担当）による全国 8 幼稚園に機能する COGES 設置を計画、実施後の国民教育省による評価結果が上々であったことなどが、この国民教育省の決定を促した背景である。プロジェクトとしては、幼稚園施設が多く、当初の研修予算の中で、就学前教育施設をカバー仕切れないニアメやドッソ州の DREN を財政的に支援し、ニジェールにおけるすべての基礎教育施設に対する機能する COGES 設置を支援する。

## (8) 中央、援助協調、ドナー動向

6 月 20 日から 3 日間、ニジェール教育関係者、ドナー関係者約 150 名を集めた PDDE 合同レビューが開催された。このレビューの目的は、PDDE の第 1 フェーズ（2003 年-2007 年）の活動実績を評価し、第 2 フェーズ（2008 年~2010 年）の大筋の方針を決定することであった。（詳細は別添参照）

## (9) プロジェクト運営管理

### ① 在外事業強化費第 2 四半期分送金

今月 29 日、今年度在外事業強化費第 2 四半期分として 8,728,570Fcf かが本部より送金された。フェーズ 1 における在外事業強化費としては本送金が最後であり、7 月末のプロジェクト終了時には 3 年 7 ヶ月にわたる在外事業強化費の報告を行う予定である。

### ② 影山スタッフ離任

昨年 1 月から当プロジェクトの現地スタッフとして活動していた影山スタッフが今月 8 日日本に帰国した。影山スタッフはコミュニティー幼稚園、APP、セカンドチャンスを担当したが、特にコミュニティー幼稚園では UNICEF との連携促進、タウア州での COGES コミュニティー幼稚園設立等に尽力してきた。現在は近藤研修員が業務を暫定的に引き継ぐこととする。

### ③ 会計担当者経理研修

今月 26 日、技術協力プロジェクト臨時会計役及びフィールド調整員を対象に、ニジェー

ル事務所主催による会計研修が実施され、当プロジェクトからは臨時会計担当役の中澤専門家が出席した。会計報告にかかる一連の流れ、様式の統一化等について、事務所経理担当者より説明がなされた。

(10) 課題

今月は、プロジェクトが推し進めてきた様々な目標達成に向けた大きな進展があったことは、上述してきた。この進展により、このプロジェクトは、学校運営改善プロジェクト群の推進役としての地位を確立しただけではなく、セクターアプローチの中でのプロジェクトがどのように演じていけばいいのかのといった現在技術プロジェクトが直面している問題への解答を提示できるプロジェクトとなった。第2フェーズにおいては、さらに重要な役割を様々な面で演じていくと思われる。

しかし、第2フェーズの2007年度分現地活動費は1000万円ほど、カットされ、予定されていた重要な活動を取りやめたり、縮小せざるを得なくなったりした。プロジェクトは、小規模なパイロット活動を行う時期は終わり、全国規模の活動を支援する立場にあり、予算縮減をスタッフの努力で補うことができるレベルではなくなってきている。今後このような状況が続くと、事前評価で、ニジェール側と合意した機能するCOGESの全国普及における資金分担の約束をも守れない状態になりかねない。本部として、是非、JICAの基本的戦略である選択と集中ということを考慮した上で、善処をお願いしたい。

(11) 7月の予定

| 予定                 | 期間    |
|--------------------|-------|
| タウア州 COGES 担当官会議   | 7月4日  |
| ザンデール州 COGES 担当官会議 | 7月6日  |
| 第1フェーズ終了           | 7月31日 |
|                    |       |

別添1：機能するCOGESの全国展開にかかる準備会合報告

別添2：尾上専門家出張復命書

別添3：教育開発10ヵ年計画(PDDE)合同レビュー報告書(プロジェクト関連部分中心)

別添4：会議議事録(国民教育省アラブ教育局)

別添5：会議議事録(COGES推進室)

別添6：教育開発10ヵ年計画第1フェーズ実施報告書(抜粋要約)



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」 (プロジェクト活動月報 2007 年 7 月)

作成日：2007 年 8 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                                                                                                                  | 担当、出張者                                         |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 7月1日(日)  |                                                                                                                                                     |                                                |
| 7月2日(月)  | タウア州教育セクター別校長会視察                                                                                                                                    | 中澤、近藤                                          |
| 7月3日(火)  | Niamey→Tahoua                                                                                                                                       | Ibo                                            |
| 7月4日(水)  | タウア州 COGES 担当官会議                                                                                                                                    | 全員                                             |
| 7月5日(木)  | COGES 連合活動モニタリング (Badaguichiri)<br>Tahoua→Zinder                                                                                                    | Ousseini<br>Ibo                                |
| 7月6日(金)  | ザンデール州 COGES 担当官会議<br>COGES 総会モニタリング (Toullou quartier) JEC 関係                                                                                      | Ibo<br>近藤                                      |
| 7月7日(土)  |                                                                                                                                                     |                                                |
| 7月8日(日)  |                                                                                                                                                     |                                                |
| 7月9日(月)  | COGES 連合活動モニタリング (Galma)<br>Zinder→Niamey<br>Tahoua→Niamey                                                                                          | Gambobo<br>Ibo<br>中澤、伊藤                        |
| 7月10日(火) | タウア州幼稚園 COGES 設置研修<br>COGES 連合活動モニタリング (Galma)                                                                                                      | 尾上, Hamissou, Yacouba, 近藤<br>Gambobo           |
| 7月11日(水) |                                                                                                                                                     |                                                |
| 7月12日(木) |                                                                                                                                                     |                                                |
| 7月13日(金) | COGES 総会モニタリング (Amadouk) JEC 関係<br>Niamey→Tahoua                                                                                                    | Kabo、近藤<br>中澤、伊藤                               |
| 7月14日(土) | COGES 総会モニタリング (Kowette) JEC 関係                                                                                                                     | 近藤                                             |
| 7月15日(日) |                                                                                                                                                     |                                                |
| 7月16日(月) | 学校プロジェクトモニタリング (Moujia, Kaora Alassan)                                                                                                              | Ousseini                                       |
| 7月17日(火) | 原専門家休暇より戻り<br>COGES 連合総会モニタリング (Illela)                                                                                                             | Gambobo, Kabo, 近藤                              |
| 7月18日(水) | 学校プロジェクトモニタリング (Agueye, Touba bagawa)<br>見返り資金協議 (COGES 推進室)                                                                                        | Ousseini<br>原                                  |
| 7月19日(木) | Tahoua→Niamey                                                                                                                                       | 中澤                                             |
| 7月20日(金) | COGES 連合活動モニタリング (Galma)<br>学校プロジェクトモニタリング (Tabotaki, Grado Sud)<br>COGES 総会モニタリング (Founkoye gabass) JEC 関係<br>コーラン学校視察 (Bagga)<br>安全対策協議会 (Niamey) | Gambobo<br>Ousseini<br>Kabo, 伊藤、近藤<br>伊藤<br>中澤 |
| 7月21日(土) | 協力隊員へのプロジェクトプレゼンテーション                                                                                                                               | 中澤                                             |
| 7月22日(日) | Niamey→Zinder<br>Niamey→Tahoua                                                                                                                      | Ibo<br>中澤                                      |
| 7月23日(月) | ザンデール州 COGES 担当官会議<br>見返り資金会合 (Niamey、基礎教育局長)<br>世銀との会談 (Niamey)                                                                                    | Ibo<br>原<br>原                                  |
| 7月24日(火) | Niamey→Tahoua<br>Zinder→Tahoua                                                                                                                      | 原<br>Ibo                                       |
| 7月25日(水) | タウア州 COGES 担当官会議                                                                                                                                    | 全員                                             |
| 7月26日(木) | Tahoua→Niamey                                                                                                                                       | 原、Ibo                                          |
| 7月27日(金) | 世銀コンサルタントの会談 (補助金)                                                                                                                                  | 原                                              |
| 7月28日(土) |                                                                                                                                                     |                                                |
| 7月29日(日) | Tahoua→Niamey                                                                                                                                       | 近藤                                             |
| 7月30日(月) |                                                                                                                                                     |                                                |
| 7月31日(火) | 第1フェーズ終了                                                                                                                                            |                                                |

## (1) 今月の総括

今月は、プロジェクト第1フェーズ最終の、そして第2フェーズ開始の直前の月に当たるため、取りまとめ活動と第2フェーズ準備の活動が行われたが、基本的に両フェーズに断続はなく、通常の活動も行われた。タウア州、ザンデール州の両州で、COGES 担当官月例会議が月末開催され、COGES 連合のモニタリングの結果が報告された。これらのモニタリングの結果を反映した「COGES 連合マニュアル」の改訂が行われ、完成した。このマニュアルは、COGES 連合全国普及に向けた重要なツールとなる。また、プロジェクトでは、第2フェーズの活動のひとつとなるモジュール中心型の校長自主研修に向けたモジュール作成の準備を行っている。ニアメでは、PADEB 以降の全国普及を果たした COGES のモニタリング費用等の資金として、我が国食糧援助 (KR) 等の見返り資金使用のための根回しを行った。

7月31日までに、会計処理等の事務処理を済ませ、みんなの学校プロジェクト第1フェーズは、すべての目標を達成し、終了した。

## (2) タウア州及びザンデール州 COGES 担当官会議、COGES 連合機能化

タウア州の COGES 担当官会議は先月末最終試験のため延期になっていた6月の担当官会議を7月4日に、7月の担当官会議を25日にそれぞれ開催した。4日、25日の会議とも、各担当官の活動報告が行われ、各 COGES の年間活動総括表の回収状況、COGES 連合の年間活動総括会議の開催状況などの確認を行なった。25日の会議では、州教育局長も終日参加し、COGES 連合の機能化を中心にこれまでの活動の総括を行なった。また、参加者全員で第1フェーズでの活動の成功を称えるとともに、第2フェーズ開始にあたって、プロジェクトのプレゼンスが低くなるため COGES 監督官や担当官のみならず州教育局長、視学官、教育主事も含め全ての教育行政関係者がより一層主体的に COGES の推進及びモニタリング活動に従事し、教員に対しても COGES の活動が国家政策として義務であるということを徹底させていくことの重要性が確認された。

ザンデールにおいても今年度最後の COGES 担当官会議が開催され、タウア州同様、連合の活動状況の確認が行われた。COGES 連合の機能度にかかる両州の今年度末の結果は以下のとおり。

| 項目                  | タウア州            | ザンデール州          |
|---------------------|-----------------|-----------------|
| 対象 COGES 連合数        | 39              | 55              |
| 対象学校数               | 1,324 校         | 1,666 校         |
| COGES 学校活動計画回収率     | 91.50% (1217 校) | 97.29% (1620 校) |
| COGES 年間活動総括表回収率    | 84.20% (1119 校) | 88.30% (1471 校) |
| 1 連合あたり平均年間総会開催数    | 3.00            | 2.95            |
| 1 連合あたり平均年間事務局会合開催数 | 6.26            | 7.15            |
| 連合年間活動総括総会を開催した連合数  | 21              | 53              |

COGES 連合の機能化に関しては、今年度一年間の活動を通して、改善された点として、連合機能化の鍵となる総会及び事務局会合の開催数が、昨年度に比べ格段に増加し、メンバー間の情報共有が促進されたほか、学校活動計画や活動総括表の回収についても今年度は連合自身によって回収が行なわれ高い回収率が得られた。COGES のモニタリングについては総会の場で各 COGES 代表が進捗を報告し、経験を共有するといった、集会型のモニタリングやゾーンごとに責任者を決めてモニタリングを実施するなど様々な工夫を行なう連合多く見られた。その他、コミュニケーションとの連携が進み、連合機能が強化された他、昨年度機能しなかった事務局委員の改選によって機能するようになったことなど、様々な改善点が確認された。一方で、問題点、課題

も残り、例えばタウア州では年度終わりの連合の年間総括総会を現時点で開催していない連合が18連合残っていること、活動計画の内容が非現実的であったところが見られ、財源不足に陥る連合があったこと、財務管理のノウハウが不十分であること、などの問題点が挙げられる。タウア州の場合、第1フェーズでのプロジェクト活動の経緯から、ザンデール州に比べてプロジェクトのプレゼンスが高く、その分行政（特に視学官、教育主事など）の関与が相対的に低いことが指摘されており、フェーズ2からは、プロジェクトの直接的な介入を減らしていく方向で、行政を中心とした活動及びモニタリングに移行し、ザンデールと同様の実施体制に移行していく。現在、国民教育省が作成しているPDDEの来年度活動計画によると、COGES連合のモデル評価と承認、全国普及への活動が予定されており、プロジェクトの活動計画どおりに中央での活動が計画されていることは、非常に好ましいことであり、モデル承認に向けて更なる精緻化をすすめていく。

この他、COGES連合関連の活動として、これまでの活動モニタリング、4～5月に実施した連合の機能化調査、年間活動総括会議の内容などから、今年一年の活動を通して得られた教訓を引き出し、それらをまとめて昨年度作成したCOGES連合マニュアルを大幅に補強、改訂しそのドラフトが完成した。特に旧マニュアルで抽象的だった項目内容をより具体的に整理し、連合が実施すべき様々な活動の中でも重要度、優先度を示しながら説明を加えた。改訂の主なポイントは、連合の基本的概念の再整理、活動の種類と枠組み、プロセスの説明、COGESのモニタリングシステム及びモニタリングポイントなどである。本ドラフトはカウンターパートをはじめとする関係者に回覧共有してフィードバックを得た後に最終版を確定する。

### (3) コミュニティー幼稚園

先月に新規設立が決定したイレラ県の6幼稚園に加え、今月は、同県に2幼稚園が、そして、タウアコムーニに、2幼稚園が新たに設立されることが決定し、これで、タウア州のプロジェクト対象コミュニティ幼稚園は26園となった。来学期のこれらの園の生徒は、2000人に及ぶと予想され、ニジェールの就学前総就者の8%、特に農村における就学者3313名の6割を占めることになる。

さらに、UNICEFが既に介入するチンタ県の3COGESの住民がコミュニティ幼稚園創設に向け意欲を示し、話し合いを進めている。当地域ではUNICEFの他、世界食糧計画も給食プログラムを展開しており、住民は様々な支援を享受している。住民に対しては、援助による幼稚園ではなく、住民が運営のすべてを行うという、コミュニティ幼稚園の主旨・条件をしっかりと理解させることが必要となる。

APP（生産実習活動）については、APP優良事例集第1版が完成した。今後、APPを学校活動に導入する意欲を示しているCOGESへ配布していく。また、校長研修や小学校で活動する協力隊員及びそのカウンターパートを対象とした研修の際の参考資料として利用することになる。

### (4) 校長研修

先月に行った教員レベル調査及び校長職務内容調査の結果を踏まえ、教育指導主事・教員養成校講師・高い評価を受けている校長など関係者へのインタビューを行い、さらにモジュールの内容について更に検討を重ねた。

#### 教員レベル調査

当初から予想されていた通り、教員のモラル及びフランス語能力の低さがみられた一方、授



業準備はある程度行われていること（90%）がわかった。しかし、その準備方法や授業での教授法が適切とはいえない教員も多く（全体の4～3分の1）、授業の質にはまだまだ改善の余地があるといえる。教員が児童に教えるのを苦手とする科目については、フランス語・理数科目の他、APPも挙げられた。プロジェクトのAPPマニュアル及び優良事例集の配布も念頭に置き、研修に反映させていく。

#### 校長職務内容調査

規模も所在地（都市・村落部）も異なる小学校の校長の職務を一纏めにはできないが、1クラスしかない小学校（1学年）の校長、2～6クラス（全学年が揃っていない）の小学校の校長、7クラス以上の大規模の校長の3種類に大きく分類し、同調査を行った。調査の対象とした校長はCOGES担当官及び教育指導主事から高い評価を受けている校長であり、どの校長もそれぞれモチベーションが高かった。契約教員のストライキにより授業時間が少ない中で、ほとんどの校長が授業のない水・土曜の午後などに補修（特に修了試験を控える6年生対象）を行っている上、他の教員の指導（授業視察及び授業準備ノートの確認）も行っていた。時間を有効に利用し、校長としての適切な任務を果たすため、3種類の校長のそれぞれのモデルをモジュールの中で提示する。

校長研修のモジュールは、教員養成校で研修を受けられなかった教員向けの職業倫理及び公式文書作成等の基本的な事項から、より多くの小学校修了者輩出を目指す実践的な試験対策、そしてプロジェクトが第1フェーズを通して関わってきたCOGESによる学校運営までを網羅する、包括的なものにする予定である。

#### (5) COGES 機能化モデル全国普及

COGES 機能化モデル普及は、現在のところ、順調に進展している。ドッソ州を除き、他の州では、選挙研修が無事終了した。この普及は全国規模となるため、研修の実施、その内容についてプロジェクトは、懸念を持っていたが、研修計画、実施についてのDRENに対しての情報伝達のためのアトリエの効果が上がり、実施体制が十分に整えられたため、大きな問題はなかった。研修の質についても、COGES 推進室、ONEN のモニタリングから、一定のレベルに達していることが報告されている。これらの成果に対し、各DRENからCOGRS 推進室に感謝が伝えられている。それは、現在まで、ニジュールにおいて、すべての学校をカバーする研修、しかも質の高い研修が行われたことは一度もなく、その困難な研修を実施したCOGES 推進室への賛辞の意味合いでの感謝であった。また、すべての研修が行われた訳ではないので判断するのは早計とは思われるが、プロジェクトが開発したモデルの普遍性は非常に高いことが証明されつつある。

#### (6) 2008 年度 COGES 活動計画（別添参照）

現在COGES 推進室がPDDE のCOGES 関連部分の活動計画を作成中である。この計画書の中に、プロジェクトが予定している活動、特に、COGES 連合モデルの確定と普及のための活動が予定通り記されることになった。この計画書が公認されれば、プロジェクトの活動が国家計画として承認されることとなる。

#### (7) 見返り資金

2007年2月に世銀の「基礎教育支援プロジェクト（PADEB）によるCOGES 設置、活性化モデ

ルの全国普及費用の支出（366,421,500FCFA（8,800万円相当））が、国民教育省と世銀間で合意され、2007年度のCOGES全国設置の立ち上げ研修費用及びリカレントコストについては、世銀によって支援されることとなった。しかし、世銀の支援が終了する2008年2月以降については、ニジェールの政府予算事情が極めて厳しい状況にあること、また、コモンバスケットの活用は2006年4月の資金の不正利用発覚以来、再開のめどが立っていないことが原因で、一次、資金の確保が暗礁に乗り上げた。そのため、資金獲得を目指し、我が国のKR援助等の見返り資金使用の検討を始めた。ニジェールJICA事務所の特に杉山企画調査員の協力のもと、プロジェクト近藤研修員が原案を書き、外務省等の意向を確認した上で、現在は、ニジェール国の財務省、国民教育省の根回しをしている。この資金が確保されれば、プロジェクト第2フェーズ中のまだ、未成熟であるCOGESの運営費がある一定期間確保され、地方分権化政策の進展を促進することができる。

#### (8) 幼稚園 COGES 設置研修

タウア州の幼稚園49園及びザンデール州の56幼稚園に対するCOGES設置研修がそれぞれ7月10日、7月16日に行なわれた。これは、現在実施中の全国の小学校へのCOGES設置に合わせて国民教育省が急遽幼稚園へのCOGES設置を決定し、今回の全国展開の対象外となっているタウア、ザンデール両州の幼稚園に対するCOGES設置研修を同省がプロジェクトに対して要請したことを受けて、プロジェクトで実施を決定した。タウア州については、研修当日、雨の影響等もあり、欠席者が10数名ほど出たが、研修内容は参加者に非常に好評で参加者の理解度も非常に高かった。幼稚園へのCOGES設置については、既に全国で8園のパイロット幼稚園が良好な成果を収めており、今後、幼稚園への機能するCOGESの導入が就学前教育の現状を改善し、更にコミュニティー保育園との経験の共有が進むことが期待される。

#### (9) プロジェクト運営管理

##### ① フェーズ1にかかるプロジェクト活動終了

7月31日、3年7ヶ月にわたるプロジェクトフェーズ1が終了を迎えたことから、7月27日をもってプロジェクト業務を終了し、ONENスタッフ及び事務所スタッフとの雇用契約すべてが終了した。尚、フェーズ2は8月1日開始予定である。

##### ② 在外事業強化費にかかる会計報告

上記同様、プロジェクトフェーズ1終了にあたり、7月31日、第2四半期在外事業強化費会計報告（7月分のみ）を行うとともに、プロジェクトフェーズ1にかかる会計報告もあわせて行った。詳細は以下のとおりである。

##### 【平成19年度第2四半期分】

前期繰越分：14,884,361Fcf

概算受入額：8,728,570Fcf

支出額：23,612,931Fcf **(数字が変更になる可能性あり)**

差引残額：0 **(数字が変更になる可能性あり)**

##### 【プロジェクト在外事業強化費合計支出】

概算受入額：693,288,775Fcf

支出額：693,288,775Fcf **(数字が変更になる可能性あり)**

差引残額：0

### ③ フェーズ2にかかる事務所体制

8月1日から開始となるフェーズ2では、プロジェクトの活動が全国対象となることから、プロジェクト事務所をニアメとタウアの両方に設置することとし、現在ニアメ事務所の立ち上げ準備を行っている。専門家の配置はニアメ3名、タウア1名の専門家を予定している。

#### (10) 課題（別添参照）

2006年度 COGES 活動計画の中で述べたように、世銀が推進する補助金の COGES 直接供与が実施されることがほぼ確定的となった。この計画は、対象地域の1000校を様々な基準で選出し、その半数のみに補助金を支出し、その効果を、評価し、今後の補助金政策の動向に影響を与えるとても重要な計画である。当初は、全国で1000校選ぶ予定であったが、大臣がタウア州、ザンデール州以外は、COGES が機能していないことを理由に、急遽対象地域を、ザンデール、タウア州に変更したという経緯がある。この対象州の変更は、プロジェクトに大きな課題をもたらした。プロジェクトは、現在まで、COGES の機能化を目標として COGES メンバーやコミュニティーの能力開発や組織の活性化のための活動を展開し、その機能化に成功してきたが、地方分権化による権限の委譲に対応する能力強化は、行なってこなかった。それは、権限の委譲スケジュールが政策レベルで確定されておらず、またその決定もシステムティックに行われているものではなかったからである。しかし、今回のように、現在までのプロジェクトの成果が認められて、急遽、タウア、ザンデールの両州において権限委譲のテストが行われることになり、そして、補助金による成果が上がらなければ、現在まで積み重ねられてきた COGES 機能化の実績を疑われかねない状況となる。プロジェクトとしては、国民教育省、世銀と協力して、この計画が成功するような最大限の努力をしていくが、その協力のための活動は、現在のプロジェクトの削減された予算の中で行っていくことは困難である。

今回のことに限らず、みんなの学校プロジェクト第二フェーズにおいては、プロジェクトが小さな領域のパイロットプロジェクトから、その活動が直接国家政策に影響するプロジェクトに成長したこと、プロジェクトが状況の変化に柔軟に対応しなければ、政策それ自体が成功しなくなるなど認識する必要があると思われる。

#### 8月の予定

|              |                   |
|--------------|-------------------|
| ➤ 8月1日       | 第2フェーズ開始          |
| ➤ 8月上旬       | プロジェクトニアメ事務所開設、引越 |
| ➤ 8月19日～9月7日 | 尾上専門家休暇一時帰国       |
|              |                   |



# 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」

## (プロジェクト活動月報 2007 年 8 月)

作成日：2008 年 9 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       | 活動                                                              | 担当、出張者                    |
|----------|-----------------------------------------------------------------|---------------------------|
| 8月1日(水)  | みんなの学校プロジェクト第2フェーズ開始                                            |                           |
| 8月2日(木)  |                                                                 |                           |
| 8月3日(金)  | タウアより荷物の運搬<br><br>Tahoua→Niamey                                 | 尾上、中澤                     |
| 8月4日(土)  |                                                                 |                           |
| 8月5日(日)  |                                                                 |                           |
| 8月6日(月)  | スタッフミーティング<br>中澤専門家セネガル出張(パスポート更新 10日まで)                        | 全員                        |
| 8月7日(火)  |                                                                 |                           |
| 8月8日(水)  | 世銀会談(COGES対象補助金)<br>大臣との会談(見返り資金)                               |                           |
| 8月9日(木)  |                                                                 |                           |
| 8月10日(金) | コミュニティー幼稚園新規設立AG(Founkoye Gabass)                               | 伊藤                        |
| 8月11日(土) |                                                                 |                           |
| 8月12日(日) |                                                                 | Niamey→Tahoua<br>尾上       |
| 8月13日(月) | スタッフミーティング                                                      | 全員                        |
| 8月14日(火) | 伊藤スタッフ休暇(29日まで)<br><br>Tahoua→Niamey                            | 尾上、伊藤                     |
| 8月15日(水) |                                                                 |                           |
| 8月16日(木) | マリ新案権立ち上げテレビ会議<br>事務所開きセレモニー                                    | 原、尾上、中澤、近藤<br>全員、JICA事務所他 |
| 8月17日(金) | 世銀との会談(補助金)<br>日本国象牙大使館ニジェール担当官へのブリーフィング<br>JICAニジェール事務所西本新所長赴任 | 原、イボ<br>原                 |
| 8月18日(土) |                                                                 |                           |
| 8月19日(日) | 尾上専門家休暇(9月7日まで)                                                 |                           |
| 8月20日(月) | スタッフミーティング                                                      |                           |
| 8月21日(火) |                                                                 |                           |
| 8月22日(火) |                                                                 |                           |
| 8月23日(木) |                                                                 |                           |
| 8月24日(金) | COGESイニシアチブによる校長能力強化DFIC協議<br>笹舘JICAニジェール事務所所長離任                | 原、中澤、イボ、近藤                |
| 8月25日(土) | イボ政策アドバイザー休暇(9月2日まで)                                            |                           |
| 8月26日(日) |                                                                 |                           |
| 8月27日(月) |                                                                 |                           |
| 8月28日(火) |                                                                 |                           |
| 8月29日(水) |                                                                 |                           |
| 8月30日(木) | 国民教育省、財務省予算編成会議<br>西本新所長プロジェクト事務所訪問、プロジェクトの説明                   | 原<br>原                    |
| 8月31日(金) | 就学前教育課長、タウア就学前教育視学官との会談                                         | 原、伊藤                      |

#### (1) 今月の総括

みんなの学校プロジェクトプロジェクト第2フェーズが開始された。開始月に当たる8月は、プロジェクト立ち上げのための人員雇用、契約NGOの募集、事務所整備などの事務処理の業務が中心になったが、9月に予定される重要な会議、アトリエのための準備も進めた。機能するCOGES全国普及の活動については、保護者会、COGES委員の民主的な選出のための校長研修が、

ドゥッ州で8月16日に終了し、これですべての州で研修が終了したことになる。最終的な研修結果報告、選挙の実施結果はまだ報告されていないが、現在までの視察、伝聞の印象では、全体的には成功したと判断できる。この研修の最終的な評価は、9月の州教育事務所長会議でなされる。

## (2) COGES 連合機能化

今月は、学校関係が夏休み期間にあたるため、タウア、ザンデール両州の COGES 担当官会議の8月の実施は繰り延べて9月初旬に実施することとなった。本期間中、プロジェクトスタッフは、COGES 連合の新マニュアルを再度内容の確認、見直し作業を継続し、最終版を完成させた。本マニュアルは、前回のマニュアルでカバーされていなかった連合の機能化において重要なポイントを纏めているため、今後連合自身が機能向上させる上で参照するだけでなく、COGES 担当官にとっても、モニタリングの参考資料として活用することも意図されている。

## (3) コミュニティー幼稚園

13の既存コミュニティ幼稚園に加え、14の幼稚園（イレラ県8園、タウアコミュン3園、チンタ県3園）が新規に設立されることになり、10月以降、タウア州にて、計27の幼稚園が開始することになった。プロジェクトとしては、9月以降、それらの COGES に対し、園の開始に向けての準備（穀物による分担金支払い、保育者選出、園児・クラス数の変化、等）を促していくことになる。さらに、10月中旬に、14の新規コミュニティ幼稚園の COGES メンバー及び保育者を対象にした幼稚園立ち上げ研修をプロジェクト側から支援することになっており、今後、視学官事務所との調整、講師を勤めることになる COGES 担当官との打ち合わせを進めていく。

## (4) COGES 機能化モデル全国普及

8月16日にタウア州、ザンデール州を除く全国での保護者会、COGES 委員の民主的な選出プロセス研修が終了した。この研修の結果報告はまだ出来ないが、研修が全国の規模でつつがなく行われた意義は非常に大きい。このような研修が現在まで行われたことはなく、この研修を組織化できたことは、国民教育省にとっても大きな経験になったと思われる。

また、9月中旬には、全国の COGES 担当官を対象にした学校活動計画研修の講師研修が予定されており、今回は財務研修をより簡略化した形で同研修に取り込んで実施すべく準備を進めている。これまでプロジェクトで実施してきた学校活動計画研修では財務研修は含まれておらず、限られた対象校のみにおいて教育省のモジュールを用いて実施していた。しかしながら既存の教育省の財務研修モジュールでは、研修に丸一日かかることと研修の内容が COGES 委員の能力と比して非常に高度で複雑な内容となっていることから、今回内容を大幅に簡略化し、COGES 委員にも容易に理解し実施できる必要最小限の内容で効果的な研修となるように効率化を進めている。

## (5) 見返り資金

現在、見返り資金の申請プロセスは、国民教育省と財務省の交渉が終わり、国民教育省で最終的な要請書を作成中である。この要請書の作成が終了すれば、外務省に発出され、外務省から、象牙日本大使館に発出される予定である。

#### (6) 補助金供与パイロット計画(別添1参照)

国民教育省主管、世銀支援する COGES に対して直接補助金を供与し、その効果を評価することを目的とした計画がこの 9 月に行われることは、先月の月報でも報告した。この計画に対する技術協力の要請がプロジェクトに対し、非公式になされ、現在、具体的な協力を行っている。補助金が効果的に使われるか否かは、COGES の能力、成熟度だけではなく、そのほかに、さまざまな要素があると思われる。プロジェクトとしては、この計画への協力を通し、将来的な COGES の権限の委譲に備えた活動を準備し、全国レベルで実施できるように、準備していく必要がある。

#### (7) コーラン学校実態調査(別添2)参照

コーラン学校は全国に 50 万校あるといわれ、生徒数は小学校の生徒数を凌駕するといわれている。しかしながら、実態はあきらかではなく、その実態の一端を知るために、簡単なコーラン学校の調査を行った。サンプル数も少ないため、一般化することが出来ないことは言うまでもない。しかし、この調査結果は多くの示唆に富むものと言える。

#### (8) マリ案件準備、勉強会

本年 10 月に実施が予定されている、マリの学校運営委員会支援プロジェクトの第 1 次事前評価調査の準備として、8 月 16 日に本部人間開発部基礎教育チームと中西部アフリカ支援事務所、及びニジェールの関係者の間でテレビ会議にて案件の勉強会を行なった。内容は、マリ教育分野の基礎統計、ドナー活動状況、及び地方分権化政策の概要、についてそれぞれ担当者が発表を行なったあと質疑応答及び追加情報の交換共有を行なった。今後は、9 月末の対処方針会議に向けて調査項目やロジの体制などを整え、早めの準備を行なっていく必要がある。

#### (9) プロジェクト運営管理

プロジェクト運営管理

##### ① フェーズ 2 開始にかかるニアメ事務所開設及び人員配置

8 月 1 日より当プロジェクトフェーズ 2 が開始された。今フェーズでは、タウア州、ザンデール州の学校現場だけでなく、政策レベルでの活動も合わせて実施されることからニアメ事務所を新規開設し、タウア事務所との 2 事務所体制を取ることにした。それに伴い、日本人関係者の人員配置は、ニアメに原チーフアドバイザー、尾上専門家、中澤専門家、近藤研修員、タウア事務所は 9 月末赴任予定の学校活動計画専門家、伊藤スタッフとすることとした。

##### ② フェーズ 2 開始にかかる第 2 四半期在外事業強化費および携行機材費送金

8 月 2 日、フェーズ 2 開始にかかる第 2 四半期分在外事業強化費が以下の通り、ニジェール事務所より送金された。

ニアメ口座：33,782,410Fcfa

タウア口座：6,400,000Fcfa

合計：40,182,410Fcfa

なお、フェーズ 2 では 10 月より臨時会計役 2 名体制とし、予算管理はタウア口座とニアメ口座の別に分けて実施される。

また、携行機材費は 42,800,000Fcfa を確保しており、プロジェクト車両、プリンター等を購入する予定である。



### ③ タウア州、ザンデル州 NGO 業務委託契約にかかる入札告示

フェーズ 1 実施期間中、ザンデル州での機能する COGES 活動支援をローカル NGO との業務委託契約で実施してきたが、ローカル NGO を通して活動を実施することの効率性、優位性が実証されてきた。ついてはフェーズ 2 においても、ローカル NGO と業務委託契約締結し、機能する COGES 活動支援をタウア州、ザンデル州にて実施することとし、8 月 14 日、ローカル NGO を対象に、本業務にかかる一般競争入札告知を全国紙にて行った。その結果、8 月末時点で 2 つの NGO から入札意思表示があったため、今後これら 2NGO を対象に選定が行われる。

### (10) 課題

以下は、タウア州のイレラ県に派遣され、COGES を中心として、改良かまどの普及を図っている隊員の報告書からの抜粋である。

『評判にあるように確かに COGES は、これまでの COGES が存在していなかったゼロの状態に比べれば、学校建設をしたり設備や教材を整えたり、と無から有への飛躍的な成功を遂げたといっている。しかし、まだまだ駆け出しの状態であり、COGES が順調に回り続ける状態にはないと思われる。これは、各小学校の機能だけに留まらず、COGES をモニタリングする側でも同じことが言えると思う。なぜならば、COGES をモニタリングする側の人である視学官事務所の COGES 担当官や指導員 (Conseillers)、小学校校長からはよく、「EPT は交通費を少ししかくれない」「モニタリングのために俺たちは自腹を切っている」「仕事が多くて大変だ」「まったく、日本人は仕事ばかりしていて疲れるよ」という言葉をよく耳にする。彼らは、自主的に自分の国の将来の発展を考えて働いているという感じはあまり受けない。むしろ、EPT に動かされているという印象を受ける。』

正直に言って、この隊員が見聞きした現場の人たちの言葉は、プロジェクトにとって必ずしも否定的には聞こえない。たとえば、モニタリングに自腹を切っているという、COGES 担当官の言葉は、ニジェールの地方行政官の実態を知っている人には信じられない事実と写るに違いない。そんなことはあり得ないと言下に否定されるような気がする。EPT に動かされていると感じながらも、いままで、どのドナーもその能力を信じられなかったニジェールの地方行政官がこれだけの仕事を成し遂げたことは驚異に値する。また、研修を参加費だけを目当てに参加していた教員や校長が、交通費の少なさに文句を言いながら、受けた研修の成果を実施したということの事実の方が重い。事実の受け止め方はともあれ、この現場の生の声は、多くの教訓を含んでいる。たとえば、COGES 担当官の意識の問題である。タウア州における COGES 機能化の活動は、その活動がパイロット的であるという意味で、プロジェクト主導で行われてきた。勿論、すべての会議、セミナー、アトリエには、州教育事務所長、視学官、COGES 監督官、COGES 担当官が参加し、イニシアチブを取るように計らってきたが、同じ機能化をプロジェクトの存在をほぼ消して、パッケージ化の導入という形で NGO の要員にほぼ任せたザンデルにおける、COGES 担当官のパフォーマンス、COGES の活動実績が、タウアを追い越そうとしている。この現象はなにが意味するのか。尾上専門家が、ニュースレター等で分析しているように、様々な要因が考えられるが、その要因のひとつにこの隊員の報告書にある地方行政官の「EPT に動かされている」という言葉に象徴されるようなタウア州の COGES 関係者のプロジェクトに対する依存心が

あることは否定できない。この傾向は、コミュニティーレベルではなく、地方行政官に強い。今回、意識的にタウア州からのプロジェクトの存在を「うすく」したのは、このような背景があるからである。今後、ニジェールのすべての州が同じ条件におかれ、COGES 政策を実施することになり、COGES の活動は、国の活動、自分たちが行わなければならない活動だということをタウアの地方行政官が体感できるとき、彼らの意識は変わっていくと思われる。

また、同隊員は、COGES の未成熟さを挙げている。COGES が未成熟であることは、プロジェクトも十分認識しているし、例外的に機能していない COGES があることも知っている。COGES の未成熟さや機能していないという問題は、COGES に行った研修の質や、行われた選挙の実態、COGES の機能化以前の村自身の深刻な問題がることなどが深く関連している場合が多い。プロジェクトが創造した COGES 機能モデルは、大多数の村の COGES の機能化を目指したものであり、対象校が少なく、すべての COGES にプロジェクトの目が直接届く場合とは違い、プロジェクトが問題別の個別対応することはできない。むしろ、対応すべきなのは、COGES 連合や COGES 担当官であり、プロジェクトが現在支援しているのは、連合や担当官が COGES の成熟化や問題解決の役割を演じるため意識変革や能力強化の活動である。

プロジェクトが発展し対象がマクロレベルにと感じられる現在、プロジェクト関係者にとって、特に必要なことは、今回の隊員の報告のようなミクロの情報に注視し、その情報から問題点を抽出し、解決策を模索することである。特に、プロジェクトの基本、そして原動力はコミュニティーにあり、コミュニティーレベルの問題からは、視線をはずしてはならない。

この隊員の報告書の他に、杉山企画調査員より、プロジェクトアプローチの分析が中間報告書でなされているので、そのコメントを別添として記す。(別添 3)

#### 9月の予定

|             |                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------|
| ➤ 9月4～7日    | COGES イニシアチブによる校長能力強化のためのアトリエ                               |
| ➤ 9月11日、13日 | タウア及びザンデル COGES 担当官会議                                       |
| ➤ 9月18～19日  | 学校活動計画再研修 (COGES 担当官 41 名、COGES 監督官 6 名)                    |
| ➤ 9月20日     | 選挙研修結果総括、学校活動計画研修実施計画作成アトリエ(州国民教育省事務所長 8 名、COGES 監督官 8 名対象) |
| ➤ 9月20日     | 合同調整委員会                                                     |

## 「ニジェール国住民参画型学校運営改善計画」 (プロジェクト活動月報 2007 年 9 月)

作成日：2007 年 10 月 1 日

### 今月の活動、人の動き、イベント

| 日時       |                                                                  |                                        |
|----------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 9月1日(土)  |                                                                  |                                        |
| 9月2日(日)  |                                                                  |                                        |
| 9月3日(月)  |                                                                  |                                        |
| 9月4日(火)  | 校長能力改善のためのアトリエ(7日金まで)                                            | 原、中澤、近藤、IBO                            |
| 9月5日(水)  |                                                                  | 原、中澤、近藤、IBO                            |
| 9月6日(木)  |                                                                  | 原、中澤、近藤、IBO                            |
| 9月7日(金)  | 尾上専門家帰任                                                          | 原、中澤、近藤、IBO                            |
| 9月8日(土)  |                                                                  |                                        |
| 9月9日(日)  | Niamey→Tahoua                                                    | IBO                                    |
| 9月10日(月) | COGES 担当官会議(Tahoua)<br>学校保健会議<br>UNICEF との会議<br>▼ONCERN、ベルギーとの会議 | IBO、伊藤、Gambobo<br>原、中澤<br>原、中澤<br>原、中澤 |
| 9月11日(火) | 財務研修、学校活動計画マニュアルの改訂最終作業<br>Tahoua→Niamey                         | 尾上、Hamza<br>伊藤、IBO                     |
| 9月12日(水) | スタッフ会議                                                           | 全員                                     |
| 9月13日(木) |                                                                  |                                        |
| 9月14日(金) | COGES 推進室長との打合せ(OR 研修、DREN 会議、合同調整委員会)                           | 原、尾上、中沢、IBO                            |
| 9月15日(土) |                                                                  |                                        |
| 9月16日(日) |                                                                  |                                        |
| 9月17日(月) |                                                                  |                                        |
| 9月18日(火) | COGES 担当官会議(ザンデール)                                               | 原、尾上、IBO                               |
| 9月19日(水) | 学校活動計画講師養成研修(全国 COGES 担当官対象、ニアメ)                                 | 原、尾上、中澤、伊藤、IBO、<br>Hamza               |
| 9月20日(木) |                                                                  | 原、尾上、中澤、伊藤、IBO、<br>Hamza               |
| 9月21日(金) | COGES 経験シェアリングセミナー(全国州国民教育事務所長対象)<br>合同調整委員会                     |                                        |
| 9月22日(土) |                                                                  |                                        |
| 9月23日(日) |                                                                  |                                        |
| 9月24日(月) | Niamey→Tahoua                                                    | 伊藤                                     |
| 9月25日(火) | 国家教育評議会(26日まで)<br>タウア就学前視学官との会談                                  | 原<br>原                                 |
| 9月26日(水) |                                                                  |                                        |
| 9月27日(木) |                                                                  |                                        |
| 9月28日(金) | 影山専門家赴任 JICA 事務所挨拶                                               |                                        |
| 9月29日(土) |                                                                  |                                        |
| 9月30日(日) |                                                                  |                                        |

### (1) 今月の総括

今月の活動は、機能する COGES 全国普及の支援が中心となった。まず、全国の COGES 担当官と NGO の啓蒙員を対象とした学校活動計画講師研修を実施した。この研修に向け、学校活動研修マニュアルを改訂し、財務研修マニュアルを作成した。実際の研修においては、タウア、ザンデールの COGES 担当官が講師を勤め、その講師としての能力を見せた。



またこの研修の一部時間を使い、選挙研修の結果と総括、問題点などについての議論を行い、その結果を、翌日に開催された州教育局長を対象とした経験者シェアリングセミナーにおいて発表した。この経験シェアリングセミナーにおいては、各州教育事務所長からの研修結果についてのコメントと、今後の研修に向けての問題点解決のための具体的な方策が述べられた。この二つの研修、及び会議は、全国規模の研修の内容を把握し、その改善と成功への道筋を示し、実施者のエンゲージメントを直接引き出したという意味では画期的な会議となった。この会議には、ドナー関係者も興味を示し、世銀、CONCERN、ベルギーからの参加があった。また、第1回目の合同調整委員会においては、プロジェクト活動や、その委員会の構成などについての説明と討議がなされた。また、コミュニティー幼稚園については、連携のための協議をUNICEFと行った。PDDEの第2フェーズに関しては、PTFと国民教育省との会議は延期されたが、PDDEの最高決定機関と位置づけられる国家教育評議会において、PDDEの第2フェーズの活動計画が承認された。

## (2) 合同調整委員会

プロジェクトフェーズ2の第1回合同調整委員会が9月21日に開催された。フェーズ2からは、全国8州の州国民教育局長(DREN)も委員会のメンバーとして参加した。州国民教育局長はR/D締結時に参加していなかったため、今回プロジェクトのフレームワークやMENがPDDEの活動の一環としているCOGESの全国展開との関連性などについての説明を行なった。質疑では、PDMの指標等の問題点を指摘する参加者もあったが、フェーズ2が始まったばかりでもあり、現時点で変更は時期尚早であるとの判断から今後活動を行っていく上で変更修正の必要があれば、合同調整委員会の場で協議、合意した上で決定することが確認された。

## (3) COGES 担当官会議(タウア、ザンデール)

タウアのCOGES担当官会議は9月10日に開催された。議事内容は、通常の活動報告に加えて、新学期に向けてのCOGES活動(学校活動計画の策定など)の準備事項の確認、プロジェクトフェーズ2の概要説明及び機能するCOGESの全国展開に係る活動報告、視学官事務所レベルでのCOGES関連のデータベース構築試行、コミュニティー幼稚園にかかる連絡、などであった。

一方で、ザンデールのCOGES担当官会議については、後述のニアメでのCOGES担当官を対象にした講師研修に合わせて、その前日である9月18日にプロジェクト事務所にて行なった。議事内容は、COGES担当官の活動報告のほか、プロジェクト第2フェーズの概要説明、COGES連合とコミュニーの連携による新学期女子就学促進キャンペーンの活動進捗確認であった。女子就学促進キャンペーンでは、各COGES連合ともそれぞれ独自の戦略アプローチで活動計画を策定していることが確認された。その内容は、住民に影響のある伝統的首長、宗教指導者、女性を巻き込んだ啓発活動、人が集まるマルシェやお祈りの日を利用した定期的な啓発活動、寸劇やビデオの上映、などである。

**(4) 学校活動計画講師養成研修(全国 COGES 担当官対象、ニアメ)(別添 1 参照)**

9月19、20日の2日間に渡って、機能するCOGESの全国展開にかかる活動の第2弾である学校活動計画研修、及び財務研修のための講師養成研修を全国のCOGES担当官に対して行なった。学校活動計画研修についてはタウア及びザンデールのCOGES担当官がそれぞれ一名ずつ講師として務め、彼らに加えて両州の現場経験豊富なCOGES担当官が適宜情報を捕捉しながら進め、多くの参加者にとって他州の同僚が講師を務めることで参加者のモチベーションを高める効果があった。この他、財務研修については、今回の全国展開に合わせて従来のモジュールをより現場のCOGES委員のレベルに応じた内容に簡略化して研修を行った。(詳細は別添報告書参照)

**(5) COGES 経験シェアリングセミナー(全国州教育事務所長対象)(別添 1 参照)**

上記COGES担当官講師養成研修に引き続いて21日に全国の州国民教育局長、COGES監督官、そして各州に配置されているONENアニメーターが一同に会して先に実施された選挙研修の結果報告及び今後予定されている学校活動計画研修の実実施計画策定準備にかかる協議を行なった。7、8月に6州で実施された選挙研修の結果について、6州全体で、研修を受講した対象小学校の校長の数は、下表のとおり、6,818名中6,278名(92.08%)で、COGES委員選出にかかる議事録の提出があった学校は校長が研修を受講した6,278校中4,094校(65.21%)であった(詳細は別添報告書参照)。各州とも数々の困難や問題に直面しながらも、州国民教育局長のイニテアティブのもと、COGES監督官、担当官、ONENアニメーターなど地方行政の関係者が一丸となって研修の実施に向けて努力した結果であり、全国の全ての小学校の校長に対する研修の実施という過去に比類のない大規模な事業を行政のイニテアティブで遂行できたことは、大いに評価できると言える。今後、更に学校活動計画研修の実施が控えており、各州ともその準備と実施に今回の経験を活かしながら取り組んでいくことが参加者全員で確認された。(会議の詳細は、別添報告書参照)。

**(6) コミュニティー幼稚園 (別添 2 参照)**

10月からの本格的な活動開始を前に、UNICEF、国民教育省就学前教育課との事前会議を行った。会議では、タウアにおけるコミュニティー幼稚園の設置状況と今後の活動の予定を報告した。特にUNICEFとは、今後の連携の方向性と具体的な共同の活動となるコミュニティー幼稚園教諭の研修について話し合った。今後、UNICEF、プロジェクトのコミュニティー幼稚園担当者の着任を待って、新たな会議を開催する。

現場では、本年度、タウア州(タウアコミューン、イレラ県、ケイタ県、チンタ県)の計27の既存・新規コミュニティー幼稚園が新学期を迎えようとしている。農繁期、新学期開始の延期(公式には10月15日予定)、さらに、断食月も重なり、住民の学校活動開始準備が遅れることが大いに考えられる状況である。財源不足が問題となった前年度の経験を受け、今年度は、ほぼすべてのCOGESが新財源システムの導入(コミュニティー全体から穀物による収穫期(活動開始前)の一括払い)を決定していることから、収穫期直前の今、住民への穀物による一括払いのリマインドが大変重要となっている。プロジェクトでは、

現在、校長を通じて、新学期前から、園開始に向けての準備（穀物支払いのリマインド、園児の登録、保育者の選出、等）を進めるよう促しており、9月月末から10月第1週目にかけて、学校活動計画（コミュニティー幼稚園の活動を含む）策定の住民の合意をえるために住民集会を開催予定の COGES が多数出てきている。また、新規コミュニティー幼稚園設置予定の COGES についても、保育者の選出、園児の登録、等を開始しており、COGES による住民への啓発活動の成果、コミュニティー幼稚園への住民の強い期待が伺える。

#### (7) APP クラブ

タウア州に位置するタウアコミュニオン、イレラ県、コニ県の隊員が COGES への APP クラブ導入に向けて活動を展開している。各隊員が各々の活動地域で、10 の COGES を選出し、その代表メンバーを対象にした APP クラブ研修の実施を 11 月下旬より予定している。プロジェクトからは、当研修への講師の派遣、APP クラブ優良事例集の配布、また、導入方法やプログラムの立て方など、技術的な面においても支援をしていく予定である。

#### (8) 校長能力改善セミナー

9月4日から7日までの4日間、ニアメのプロジェクト事務所において、地方分権にかかる校長能力強化アトリエを実施した。本アトリエには国民教育省教員研修局局长、職員、また現場経験の長い元視学官事務所長や現職の小学校校長、ベルギー技術公社の教育アドバイザーも参加した。

地方分権化政策の進展に伴い、各学校・COGES への権限移譲が進む中、学校運営の中心である COGES、とりわけ校長の役割が非常に重要であることは以前から認識されているが、ニジュールには校長のみを対象とした継続的な研修制度は存在せず、校長の能力強化につながるはずの現職教員研修制度（CAPED）も全国的に機能していないことから、教員の質改善は PDDE の中で最優先課題の一つとなっている。

このような状況を踏まえ、本アトリエでは学校運営及び教育の質改善にかかる校長の能力強化を念頭に置き、現職教員研修制度の現状と問題点、学校改革が進む中での従来とは異なった、校長に求められる能力及び校内・コミュニティーにおけるその役割等について議論した。また、議論は、今後必要とされる新しい形の現職教員研修制度やその内容にも及び、非常に内容の濃いアトリエとなった。本アトリエにはタウア市内の現職校長も参加しており、政策決定者である国民教育省やドナー関係者が教育現場で起きている問題・実態を知る絶好の機会でもあったことから、様々な質疑応答が繰り広げられた。詳細については来月の月報にて報告する。

今後、教員研修局が中心となって、現職教員研修を改善するための委員会を発足する予定である。この委員会は、現場の意見を反映させ、現実に則した制度を策定していくとの見地から、国民教育省関係者だけでなく、現職教員やドナー関係者も含まれている。教員研修局より当プロジェクトにもメンバーとして参加してほしいとの要請が出ており、当プロジェクトでも機能する COGES 政策を支援する上で、校長の能力強化は必要不可欠であるとの見地から、当委員会の会合に積極的に参加していく予定である。



(9) 見返り資金

ニジェールから我が国への見返り資金の使用申請書は、国民教育省から外務省に発出され、ニジェール外務省から、象牙大使館に発出された。

(10) 補助金供与パイロット計画

前月の月報で詳細に紹介した補助金供与パイロットは、世銀内部の予算支出の遅れにより、3週間延期された。プロジェクトでは、学校活動研修の空き時間を計画担当者に提供し、同計画担当者は、タウア、ザンデールの COGES 担当官への説明を行うことが出来た。

(11) プロジェクト運営管理

(ア) 近藤研修員帰国

JICA 個別専門家養成研修生として、1月より当プロジェクトに赴任していた近藤研修員が9月9日、日本に帰国した。この9ヶ月間、近藤研修員は業務調整、コミュニティ幼稚園、APP、校長研修等を担当し、プロジェクトの活動に大きく貢献していただいた。

(イ) 影山専門家の着任

9月28日に影山専門家が着任した。同専門家は、タウアをベースとし、COGES イニシアティブを支援する活動を担当する。

(ウ) NGO 業務委託

タウア・ザンデール州での機能する COGES ローカル・COGES 連合活動支援にかかる業務委託契約について、先月末までに2件の NGO から入札意思表示があったが、選考の結果、当プロジェクトと今まで活動を進めてきた ONEN が選定された。

今回の契約期間は2007年9月から2008年3月末を予定しており、毎月実施される COGES 担当官月例会議開催支援及び COGES 連合大会開催支援（各州1回開催、10月頃を予定）を委託することとなる。

(12) 国民教育評議会別添（別添3参照）

(13) 課題

6月以降、機能する COGES の全国普及が始まり、その結果が懸念されたが、この月報でも報告しているように、選挙研修の結果が COGES 担当官対象の研修と、各州の教育局長を対象とする経験シェアリングセミナーにおいて報告され、検証された。報告によれば、問題は多くあったが、全国レベルで展開されたニジェール国がイニシアティブで始めて取った研修が実施されたと総括できる。特に重要なのは、今回の会議で、研修の結果が総括され、その結果に対して、研修を受けなかった校長に対する再研修の実施と、新たな学校活動研修を実施する関係者、特に、州教育局長のエンゲージメントが表明されたことにある。このエンゲージメントにより、研修の実施やその質が確保され、機能する COGES の全国普及の成功の可能性が高まったと判断できる。COGES 政策の支援を主な目的とする

プロジェクト第2フェーズの中でも、今月行われた2活動は、その意義、そして費用対効果からみても重要な活動となった。会議の運営も良好であったが、運営は、基本的にCOGES推進室が行っており、COGES政策実施への技術支援の成果も確実に成果をあげていると考えられる。今後重要になってくることは、さらに、COGES政策実施のニジェール政府のオーナーシップを醸成していくことにある。オーナーシップの醸成に大切なことは、自国の資金で、自分たちが実施するという事実であり、今回の機能するCOGESの全国普及は、世銀から資金が出ているものの、現場での管理は国民教育省が行っており、このことが、今回の各局長の研修成功への強いエンゲージメントの表明の原因の一つになっていると考えられる。今後のCOGES政策の実施は、見返り資金などの自国資金を中心に行われていくと予想され、プロジェクトとしては、教育省のイニシアティブを支援する形で、しかも、学校レベルの効果を常にモニタリングしながら、政策実施への貢献を行っていくことが必要となる。

#### 10月の予定

|                |                            |
|----------------|----------------------------|
| ➤ 10月1日~10月12日 | 原専門調査家、尾上専門家 マリ教育案件第1次事前評価 |
| ➤ 10月17日       | コミュニティー幼稚園立ち上げ研修           |
| ➤ 10月29日~11月2日 | コミュニティー幼稚園新規保育者研修          |
| ➤ 10月末         | COGES 連合大会（タウア州、ザンデール州）    |

以上